

10. 工学部

- I 工学部の教育目的と特徴・・・・・・・・・・10-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・10-13
 - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・10-13
 - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・10-60
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・10-80

I 工学部の教育目的と特徴

1 教育目的

① 理念と目標

本学部の理念・目標（資料工1、2）

資料工1：工学部の理念

本学部は、恵まれた自然環境の中で個性を生かし、基礎的学力の素養のもとに工学の幅広い専門的知識を有する創造性豊かな人材を養成します。

また、工学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を育成します。

（出典：信州大学工学部ホームページ「理念・目標」）

資料工2：工学部の目標

本学部は、基礎学力の向上を重視しつつ専門知識並びに学際分野の修得を基盤にし、創造力の育成と課題探求能力を開発する教育を行うとともに、情報技術に関する基礎知識とその応用能力を育成します。また、地球環境保全などに対する技術者倫理をそなえ国際的視野に立ってさまざまな分野で貢献できるための行動力や自立心を有する人材を育成します。

（出典：信州大学工学部ホームページ「理念・目標」）

② 3つの方針（DP、CP、AP）

大学と学部で、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、以下「DP」）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー「CP」）、入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー「AP」）を定めている。（資料工3～8）

②-1 DP

資料工3：信州大学学位授与の方針（DP）

信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性的な人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育（教養教育、基礎教育）、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。

豊かな人間性

- ・みずからを他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- ・理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

人類知の継承

- ・人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】
- ・世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- ・科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

社会人としての基礎力

- ・日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
 - ・対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
- ・多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】
- ・みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】

科学的・学問的思考

- ・自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
- ・専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】
- ・専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】

環境マインド

- ・信州の自然・文化的環境への興味と関心のみずから深めることができる【地域環境に関する理解】

- ・自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
 - ・地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】
- (出典：信州大学ホームページ「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」)

資料工4 信州大学工学部のDP

工学部の理念と目標及び各学科の目的に則り、以下及び各学科のディプロマポリシーに掲げる知識と能力を十分に培った学生に「学士(工学)」の学位を授与する。

- 幅広い見識と健全な倫理観を持ち、工学的な立場から社会の発展のために貢献する精神と行動力を有する 【工学的人間力】【技術者行動マインド】
- 科学に関する基礎および専門的な基礎知識をもち、これらの基礎概念と一般的法則を本質的に理解するとともに、基礎科学および専門基礎に関する問題を解答する能力がある 【科学的基礎学力】【専門基礎知識】
- 基礎学力および専門基礎知識に基づいて自主的に学習できる能力および応用能力がある 【自主学習能力】【応用能力】
- 基礎理論に基づいて工学的な観点から問題点や課題を発見することができ、筋道を立てて解決できる 【工学的課題発見能力】【工学的問題解決能力】
- 技術者として自らの思考・判断を説明するためのプレゼンテーション能力を有し、専門基礎知識に基づいた発展的な議論を展開できる 【技術者プレゼンテーション能力】【技術者コミュニケーション能力】
- 自然環境に配慮した環境マインドを習得し、環境調和社会を目指した工学的な取り組みを継続的に行うことができる 【工学的環境マインド】【工学的環境実践力】
- ゼミナールや総合演習および卒業研究を通して信頼される技術者としての精神と倫理感を身につけている 【技術者マインド】【倫理マインド】

(出典：信州大学ホームページ「工学部 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」)

②-2 CP

資料工5 信州大学教育課程編成・実施の方針(CP)

・学士課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学は、学部及び学科又は課程の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学は、教育課程の編成に当たっては、学部の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮します。

・学士課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学「学位授与の方針」に定めた、卒業時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮します。
2. 信州大学は、学生個人々の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、予習・復習等、授業時間外のさまざまな機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複次的・複層的な積み上げによる成績評価を行います。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」)

資料工6 信州大学工学部のCP

カリキュラムは、共通教育と専門教育に分類でき、教養教育は教養科目、基礎科目から構成されます。専門教育は、学部共通科目、専門科目により構成されています。それぞれについては以下の通りです。

1. 共通教育では、教養科目と基礎科目を通して幅広い人文・社会科学の教養ならびに国

際的なコミュニケーション能力と数学や物理などどの学科でも必要な理系基礎力を身につけ、大学生として最低限必要とする基礎教育を行ないます。

2. 専門科目は、学部共通科目と学科専門科目からなります。学部共通科目では、数学等の工学基礎科目の他に、環境マインドや生産工学など全学科に共通して必要となる教育を行ないます。専門教育では、それぞれの専門分野に特化した教育を行い、自信を持って仕事の出来る能力を養います。

3. 最終年次は、それぞれの分野の専門知識をさらに深め、先端的な研究ならびに境界領域の研究に触れつつ、研究の方法を学ぶとともに、自由な発想と柔軟な創造力を養う教育を行ないます。また、自分の研究を他者に対して筋道を付けて分かり易く説明するプレゼンテーション能力を養います。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」)

②-3 AP

資料工7 信州大学 AP

(1) 求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学は、真理への探究心とチャレンジ精神を培い、高度な専門知識と深い思索力を基にして、課題を探求し解決する能力を備えた人材を育成します。

また、豊かな人間性と広い視野をもち、身につけた知識や技術を人類文化と社会の持続的発展に役立て、世界の平和と自然環境の保全のために活かすことのできる、意欲あふれる若者を育てます。

信州大学は、このような教育の理念・目標を実現するために、以下のような資質を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- 人間と自然を愛し、人との出会いを通じて学び合おうとする人
- 知的好奇心が旺盛で、課題に向かって主体的に行動できる人
- 多様性を理解し受け入れ、独自性を大切にできる人
- 社会・環境・国際問題に関心をもち、世界に貢献したいと考える人

(2) 入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各学部の特性に応じた適切な方法で多様な入試を実施し、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜します。

(出典：信州大学ホームページ「アドミッション・ポリシー」)

資料工8 工学部の AP

○求める学生像

向上心があり、自ら考え行動することができる人

数学、物理学、化学、語学などの基礎を身につけている人

科学や技術に関わるさまざまな現象に興味があり、それらの原理や応用について関心を持っている人

高度な科学や技術の発展に興味をもち、それを学びたいと考えている人

実験や実習、講義、さらには研究に積極的に参加して行動できる人

将来、工学に関わる技術者、研究者として社会をリードするとともに、その技術と知識をもって社会に貢献する意欲を持つ人

科学技術・工学の発展が社会にもたらす影響について十分に考え、社会および自然環境に配慮した「人にやさしいものづくり」を目指す人

大学入学までに履修すべき教科・科目

各高等学校が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、大学入学後の勉学に支障をき

たさない程度に履修していることが望まれます。特に、工学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学、理科、英語に関しては、下記の科目の内容を理解していることが望まれます。

数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B

理科：物理基礎、物理、化学基礎、化学

英語：英語Ⅰ、英語Ⅱ、オーラルコミュニケーション、リーディング、ライティング

※上記科目を履修していない場合には、入学時までに科目の内容を理解していることが望まれます

(出典：信州大学ホームページ「工学部アドミッション・ポリシー」)

学科ごとの DP、CP (資料工 9)

資料工 9 科別の DP と CP

例：電気電子工学科の DP

- ・数学・物理学の基礎知識に加え、電気電子工学に関する一般的な基礎知識を修得・活用することができる 【電気電子工学基礎学力】
- ・エネルギー分野に関する専門基礎知識を修得し、多面的な視点から知識を活用することができる 【エネルギー分野基礎学力】
- ・エレクトロニクス分野に関する専門基礎知識を修得し、多面的な視点から知識を活用することができる 【エレクトロニクス分野基礎学力】
- ・情報通信分野に関する専門基礎知識を修得し、多面的な視点から知識を活用することができる 【情報通信分野基礎学力】
- ・電気電子工学に関する実験・演習を遂行し、様々な物理現象を解析できる 【電気電子実験・解析基礎力】
- ・専門基礎知識を活用し、電気電子工学に関する研究を遂行できる 【研究開発基礎力】

例：電気電子工学科の CP

電気電子工学科では、学部の理念・目標のもと、エネルギー関連の学問を中心的に扱う電気工学から、電子工学を支える材料やデバイス、そして、情報通信まで幅広い分野で活躍できる研究者・技術者としての基礎力を養成するため、電気電子工学の基礎から応用まで系統的に修得できる教育課程を編成します。

(出典：信州大学ホームページ「工学部 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)」)

2 組織の特徴や特色

(1) 全学教育機構と学部

松本キャンパスの全学教育機構(以下「機構」)で共通教育科目を実施している。(資料工10)

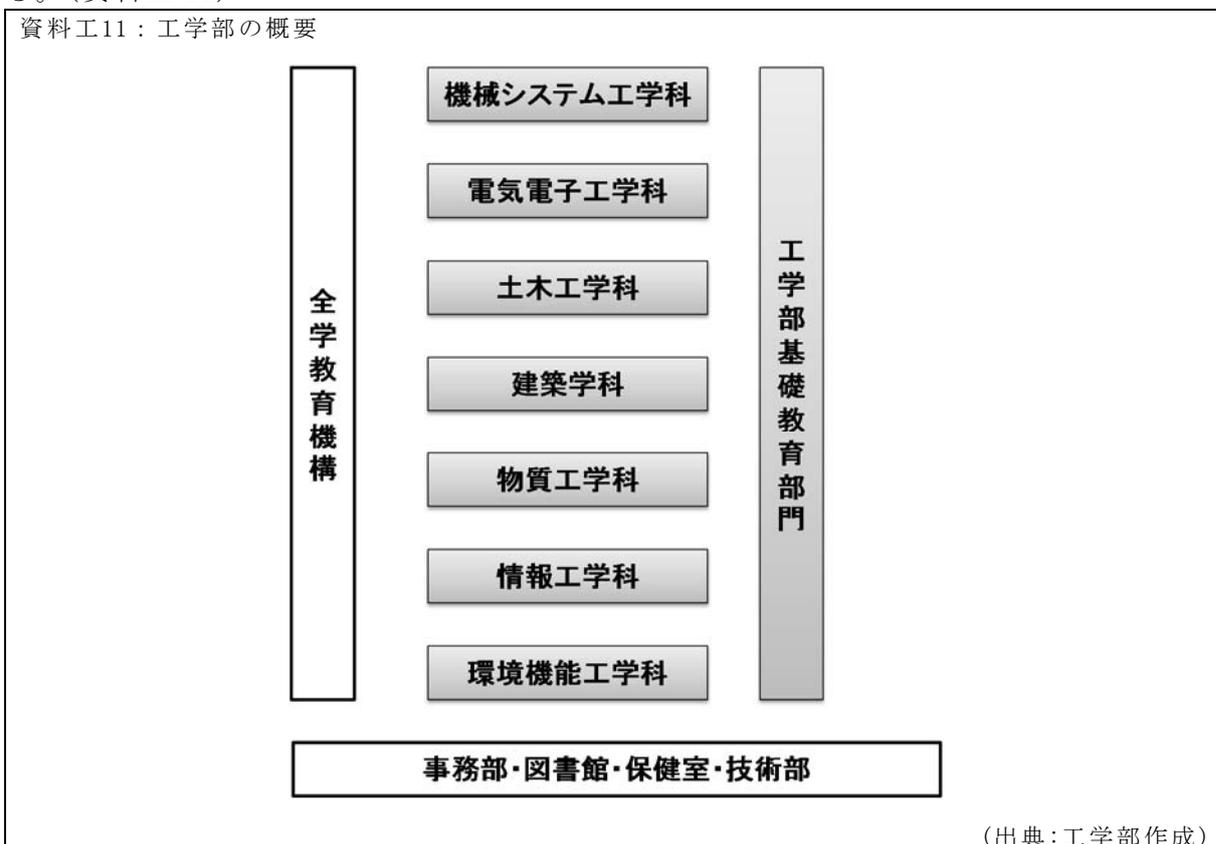
資料工10 キャンパス配置図



(2) 学部の特徴

昭和 24 年に長野工業専門学校を前身として発足し、現在は工学分野を網羅する学部である。(資料工 11)

資料工11：工学部の概要



(3) カリキュラムの特色

共通教育科目と専門科目で教育課程を編成している。(資料工12)

資料工12：信州大学学則

(教育課程の編成方針)

第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目の区分)

第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。

(出典:信州大学規程集)

共通教育科目を担う組織として機構が存在する。(資料工13、14)

資料工13：全学教育機構の概要**全学教育機構とは**

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

1年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。

全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。

(出典:信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」)

資料工14：信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学（以下「本学」という。）が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生（以下単に「学生」という。）の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局（以下「関係部局」という。）と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(出典：信州大学規程集)

① 共通教育

共通教育科目は、健全な社会人、高度専門職業人としての基礎を築くために、様々な学問領域に関する授業が開講されている。(資料工15、16)

資料工15 共通教育の概要

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅

広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立つて自ら課題を探求し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動していくことができる能力を育成する。



(出典：冊子「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」)

資料工16：共通教育科目区分一覧

教養科目：学部・学科(課程)を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育(学部一貫教育)の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新入生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

(出典：経営企画課作成)

② 専門教育

専門教育は1年次から始まり、年を追って専門性が強まる。また実験、実習を重視した構成になっており、4年次には卒業研究を行う。(資料工17)

資料工17 機械システム工学科の学修心得

1 目 的
 機械システム工学科は、時代に応じた機械系分野の専門基礎能力、科学的思考力を身につけた創造性と発展性及び環境マインドと環境調和型の機械デザインの修得を目指すとともに、これらに必要となる基礎的学力はもとより、広い見識と健全な倫理観を涵養

し、工学及び科学技携わるための確かな力量、総合的に豊かな人間性を備えた機械系技術者・研究者を養成することを目的とする。

2 履修上の指導事項

①進級及び卒業の要件

3年次から4年次に進級する際に学修の進度がチェックされる。修得単位が定められた単位数に達していない場合は進級できない。進級・卒業要件及び各年次で修得しなければならない科目及び単位数は、「履修要件表」、「専門科目一覧表」で確認すること。

②学修上の注意

■自己学習の責任

単位の修得には授業に出席するだけでは不十分で、授業時間の倍は自己学習が必要である。例えば、90分授業の科目の場合、毎週180分自己学習しなければならない。宿題や試験問題もこの前提に立って出題される。

■留年について

先に述べたように4年次に進級するためには一定の単位を修得していなければならない。1単位でも不足すると自動的に留年になる。留年は就職の際極めて不利になる。予定通り4年次に進級できなくなる最大の理由は、1年次に修得すべき単位を取り残して2年次に進級することである。1年次に修得を必要とする単位数については、必ず1年次に修得するよう努力すること。

■成績の評価と通知

成績は、小テスト・期末テスト・レポート等の結果により秀・優・良・可・不可で評価される。成績表は次学期の約1ヶ月前頃に発表されるので、Web等で各自確認すること。なお、各学期ごとに父母または保証人へも送付される。

また、試験中の不正行為については学則に基づいて重い処分が行われる。無期停学処分等になるだけでなく、当該科目以外の全試験科目の成績も認定されないため、卒業は短くても半年、通常は1年遅れることになる。

3 取得可能な資格・取得を目指せる資格

■教員免許の取得について

本学科の卒業に必要な履修単位に加え、別に定める所定の単位を修得することにより、高等学校教諭一種免許状（工業）を取得する資格が得られる。教員免許状を取得するためには、各時期に開かれる「教職ガイダンス」に出席し、4年次に教職免許状の交付を申請する必要がある。

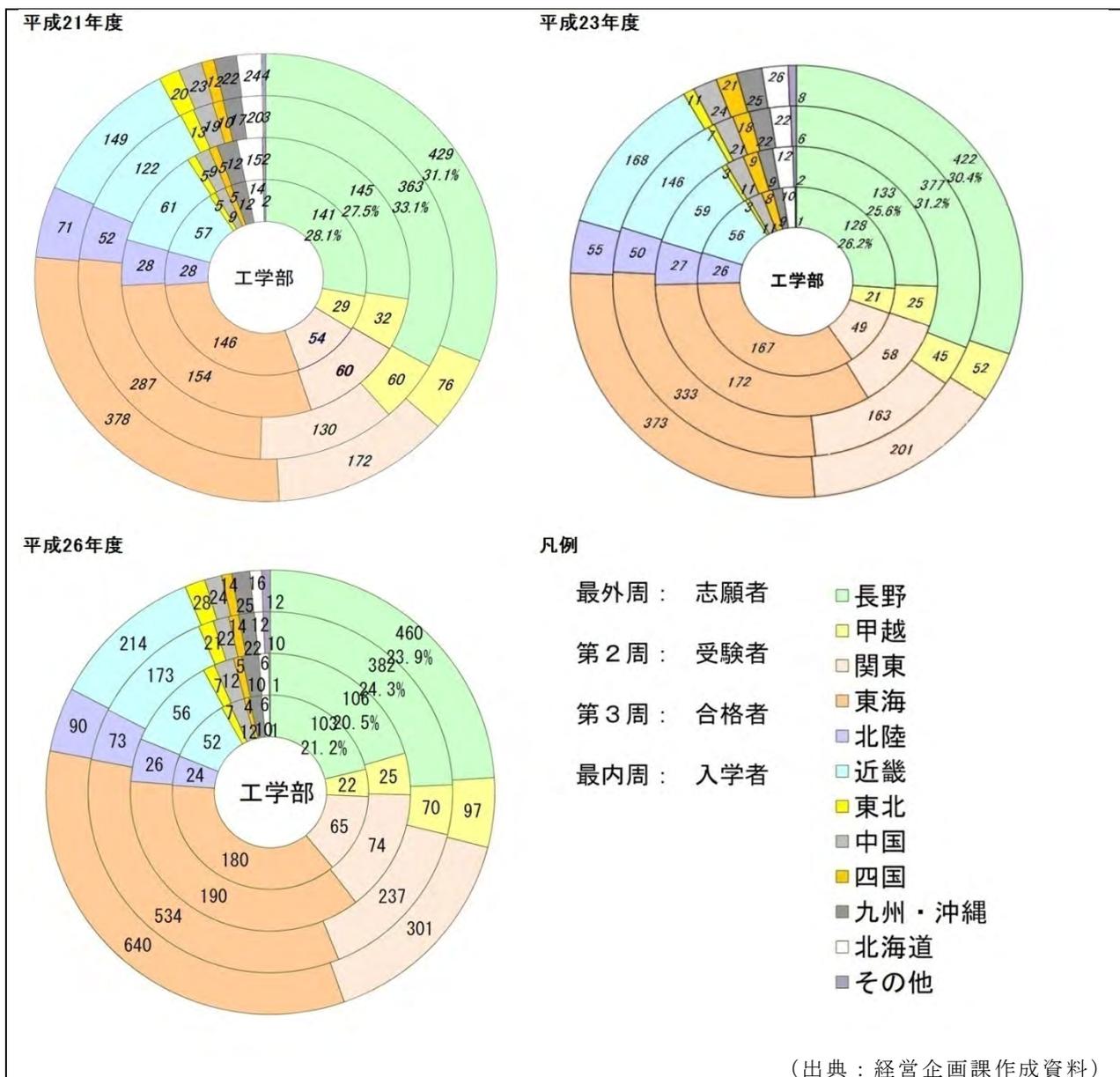
詳細は、「教職課程履修の手引き」を参照すること。

（出典：工学部「学生便覧」より抜粋）

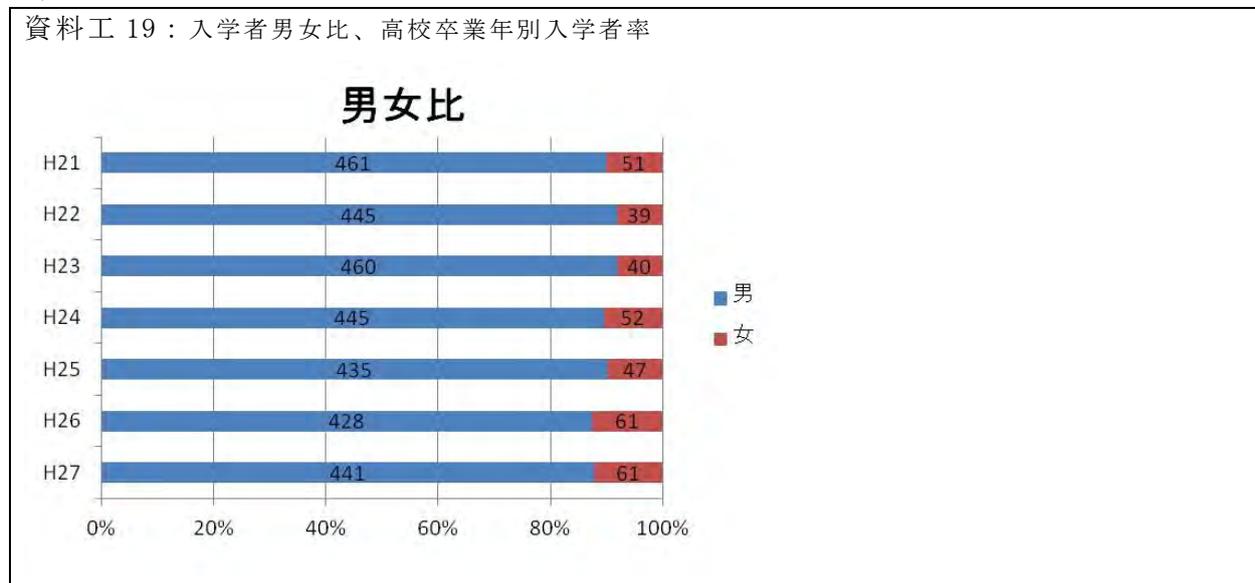
3 入学者の状況

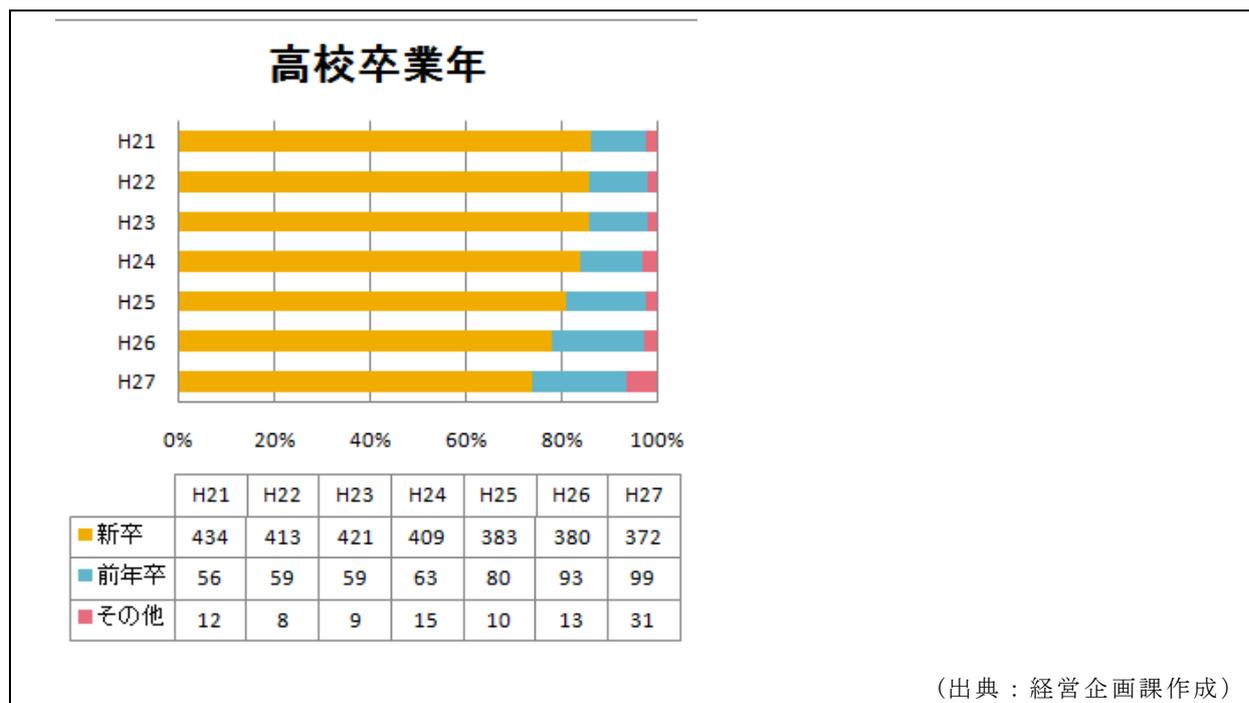
志願者は長野県が約25%で最も多く、大都市圏を始め全国各地から来る。東海地区は約35%と多く、平成25年度から名古屋試験会場（前期日程）を新設し体制を整えた。（資料工18）

資料工18：平成21, 23, 26年度出身別入試状況



入学者の男女比、高校卒業年別入学者率は、大幅な変動がなく推移している。(資料工19)





○入試の状況

一般選抜（前期、後期）、特別選抜（推薦Ⅰ・推薦Ⅱ・留学生・社会人・帰国子女・中国引揚者等子女）、高等専門学校等からの3年生への編入学を行っている。（資料工20）

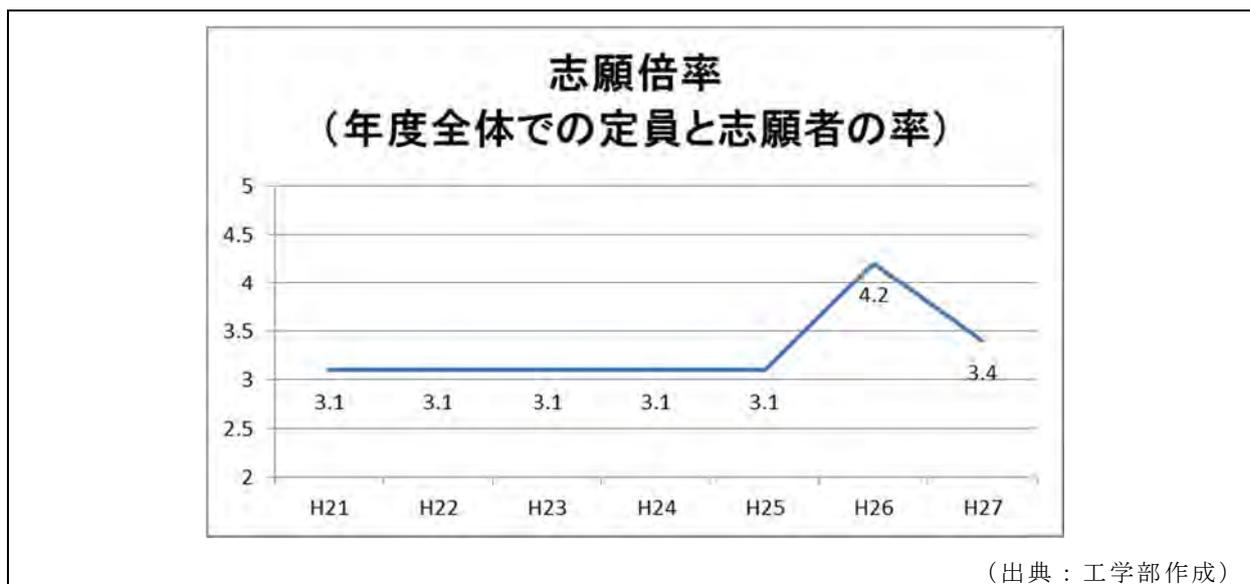
資料工20 平成27年度入試の入学定員及び募集人員

課程等	入学定員	募集人員							
		一般選抜		推薦入試		社会人	帰国子女	引揚者等子女	私費外国人留学生
		前期日程	後期日程	Ⅰ (センター一課さず)	Ⅱ (センター一課す)				
機械システム工学科	80	55	0	15	10	-	-	-	-
電気電子工学科	95	65	0	15	15	-	-	-	-
土木工学科	45	32	0	5	8	-	-	-	-
建築学科	50	38	11	0	1	-	-	-	-
物質工学科	60	38	0	10	12	-	-	-	-
情報工学科	90	30	20	10	30	-	-	-	-
環境機能工学科	50	30	10	9	1	-	-	-	-
計	470	288	41	64	77	-	-	-	-

(出典：信州大学平成27年度入学者選抜要項)

志願倍率は安定して3倍をキープし、平成26年度入試は、過去5年間で最高（4.2倍）となった。（資料工21）

資料工21：志願倍率の推移



「想定する関係者とその期待」

- 学生・保護者：創造的な仕事をするために必要な幅広い見識と高度な専門知識、技能を養成し、卒業時に就職先情報提供を受けること。
- 就職先企業：専門基礎知識を備え、発想が豊かでコミュニケーション能力を備えた人材の輩出を受けること。
- 地域社会：地元に着した人材養成。
- 国際社会：留学生を受け入れ、技術者として国際社会に寄与できる人材を育成すること。
- 受験生：多様な入試機会、教育や進路の情報提供を受けること。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1) 基本的組織の編成

① 学術研究院と学部

流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。(資料工 22)

資料工 22：学術研究院と学部との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

② 学生、教員配置、及び教育支援の体制

②-1 専門教育

工学部の学生定員、専任教員の配置(資料工 23)

資料工23 学科構成と学生定員・現員、専任教員数(平成27年11月現在)

学科名	入学定員	現員	設置基準による必要教員数	専任教員数
機械システム工学科	80	359	9	17
電気電子工学科	95	432	9	22
土木工学科	45	212	8	12
建築学科	50	256	8	12
物質工学科	60	276	8	14
情報工学科	90	393	9	21
環境機能工学科	50	232	8	13
工学基礎教育部門	—	—	—	7

(出典：工学部作成)

各学科現員数(資料工24)

資料工24 平成27年5月時点での学生の定員及び現員

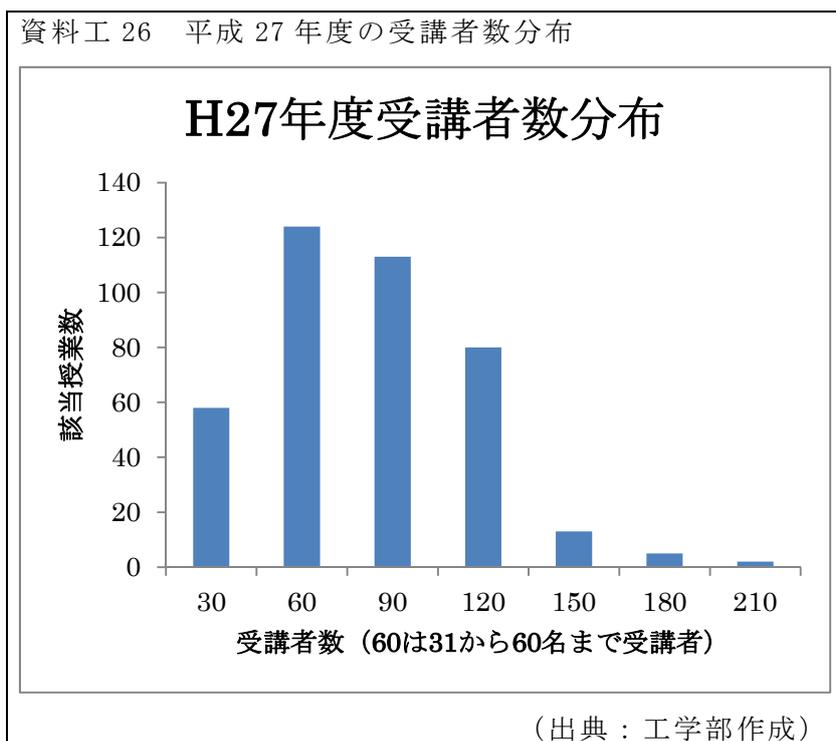
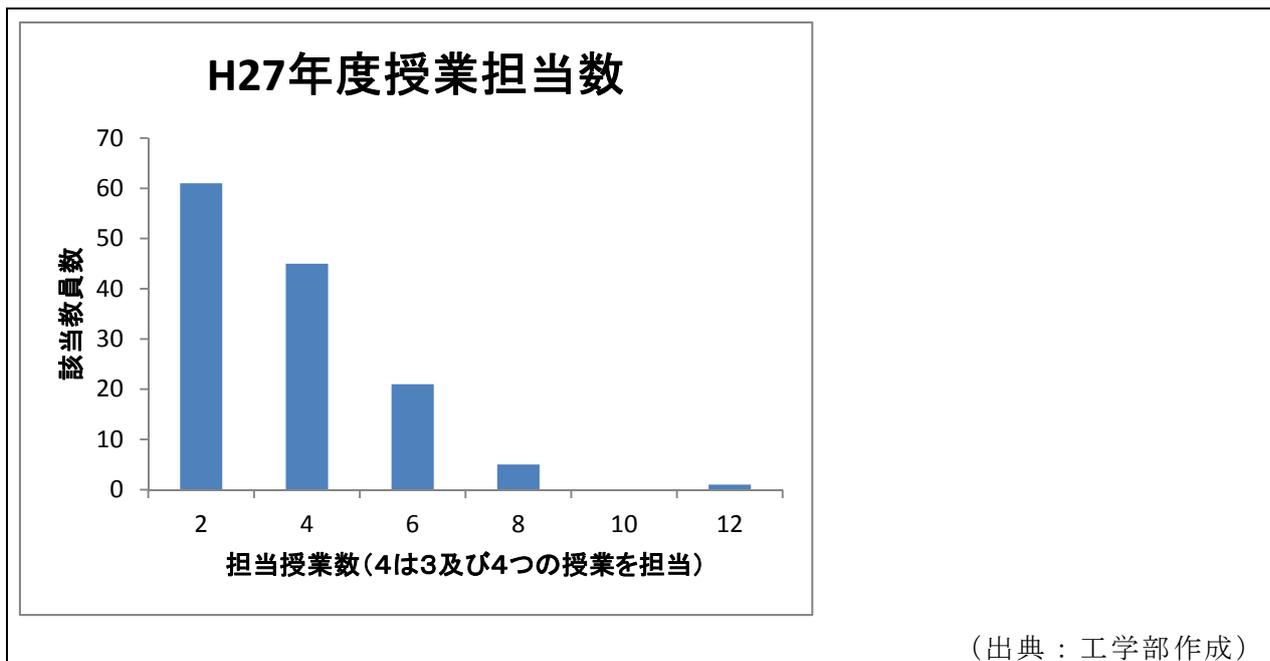
		(平成27年5月1日現在)												
学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	現 員								計	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
工 学 部	社会開発工学科(改組前)											1	1	
	機械システム工学科	80	3	326	87	(2)	83	(1)	96	(3)	105	(4)	371	(10)
	電気電子工学科	95	3	386	100	(3)	102		135	(5)	97	(1)	434	(9)
	土木工学科	45	2	184	47	(1)	46	(1)	68	(3)	60	(1)	221	(6)
	建築学科	50	2	204	52	(1)	54	(1)	65	(1)	57	(4)	228	(7)
	物質工学科	60	3	246	63	(1)	60		88	(2)	72	(2)	283	(5)
	情報工学科	90	5	370	98	(1)	96	(1)	108		95	(1)	397	(3)
	環境機能工学科	50	2	204	55	(1)	52		59	(3)	68	(2)	234	(6)
	計	470	20	1,920	502	(10)	493	(4)	619	(17)	555	(15)	2169	(46)

()内数字は外国人留学生で内数

(出典：工学部作成)

平成27年度の専門科目数は395で、教員は週当たり2回～6回の授業を行っており、受講者数の分布は以下のとおりである(資料工25、26)。

資料工25 平成27年度の授業の担当数



②－ 2 共通教育

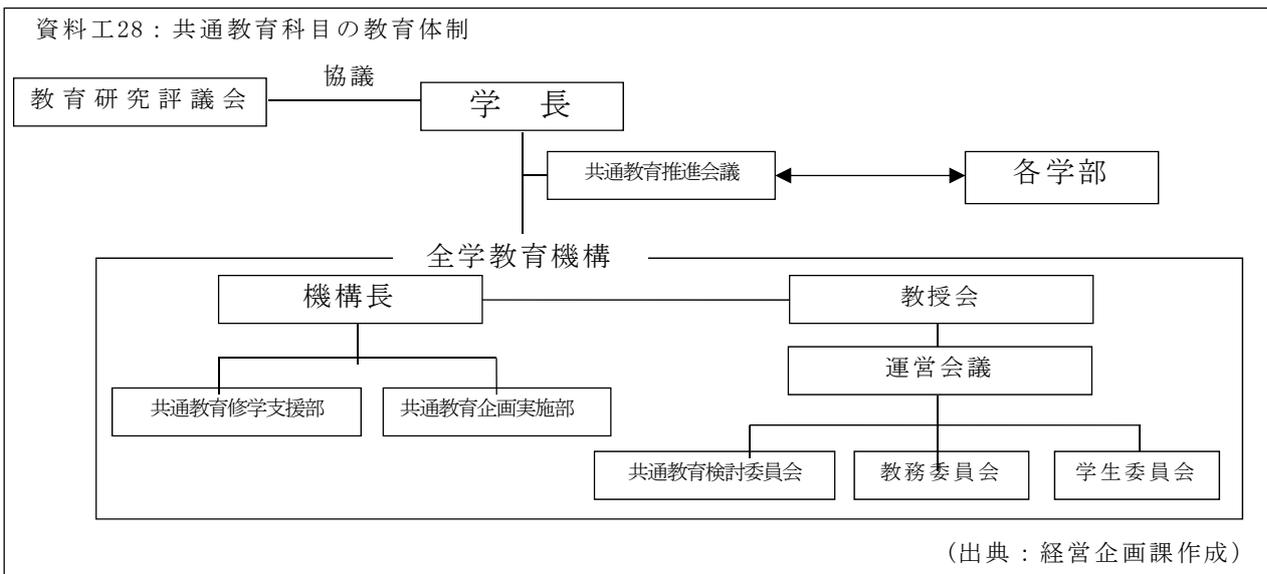
共通教育は、機構を中心に実施している。（資料工27、28）

資料工27：信州大学全学教育機構規程の一部

（目的）

第 2 条 機構は、信州大学（以下「本学」という。）が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。）及び教職関係 5 学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)
 第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。
 2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。
 (共通教育企画実施部)
 (出典：信州大学規程集)



②-3 教育支援の体制 (全学)

全学の教育支援体制のもと、工学部の体制を作っている。(資料工 29～32)

資料 29 国立大学法人信州大学業務執行組織規程
 (学務部の業務分掌)
 第25条 学務部の学務課においては、次の業務をつかさどる。
 (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
 (2) 庶務及び会計に関すること。
 (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
 (4) 学生関係職員のSD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
 (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。
 (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
 (7) 学位の授与に関すること。
 (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
 (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
 (10) 全学の学務情報システムに関すること。
 (11) 出前講座に関すること。
 (12) 諸会議(大学院委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
 (13) 信州大学学術研究院(以下「学術研究院」という。)の総合人間科学系に係る事務に関すること。
 (14) 全学教育機構、教育・学生支援機構、高等教育研究センター、e-Learningセンター、環境マインド推進センター(環境施設部の所掌に属するものを除く。)及び教員免許更新支援センター(教育学部の所掌に属するものを除く。)の業務執行及び運営に関すること。
 (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
 (1) 共通教育の授業支援に関すること。
 (2) 共通教育の教務に関すること。
 (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
 (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
 (5) 共通教育推進会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
 (6) 環境マインド教育支援に関すること。

3 (省略)

4 学務部の学生支援課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (2) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- (3) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。

5 学務部の入試課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
- (3) 学生募集に関すること。
- (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。

6 学務部の国際交流課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) グローバル教育推進センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
- (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。

(出典：信州大学規程集)

資料工 30 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

資料工 31 長野キャンパスにおける附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センター職員数

区分	附属図書館	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learning センター
長野キャンパス(工学)	7	1	3	-

平成 28 年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

資料工 32 長野キャンパスにおける学部・研究科の学務担当の職員数

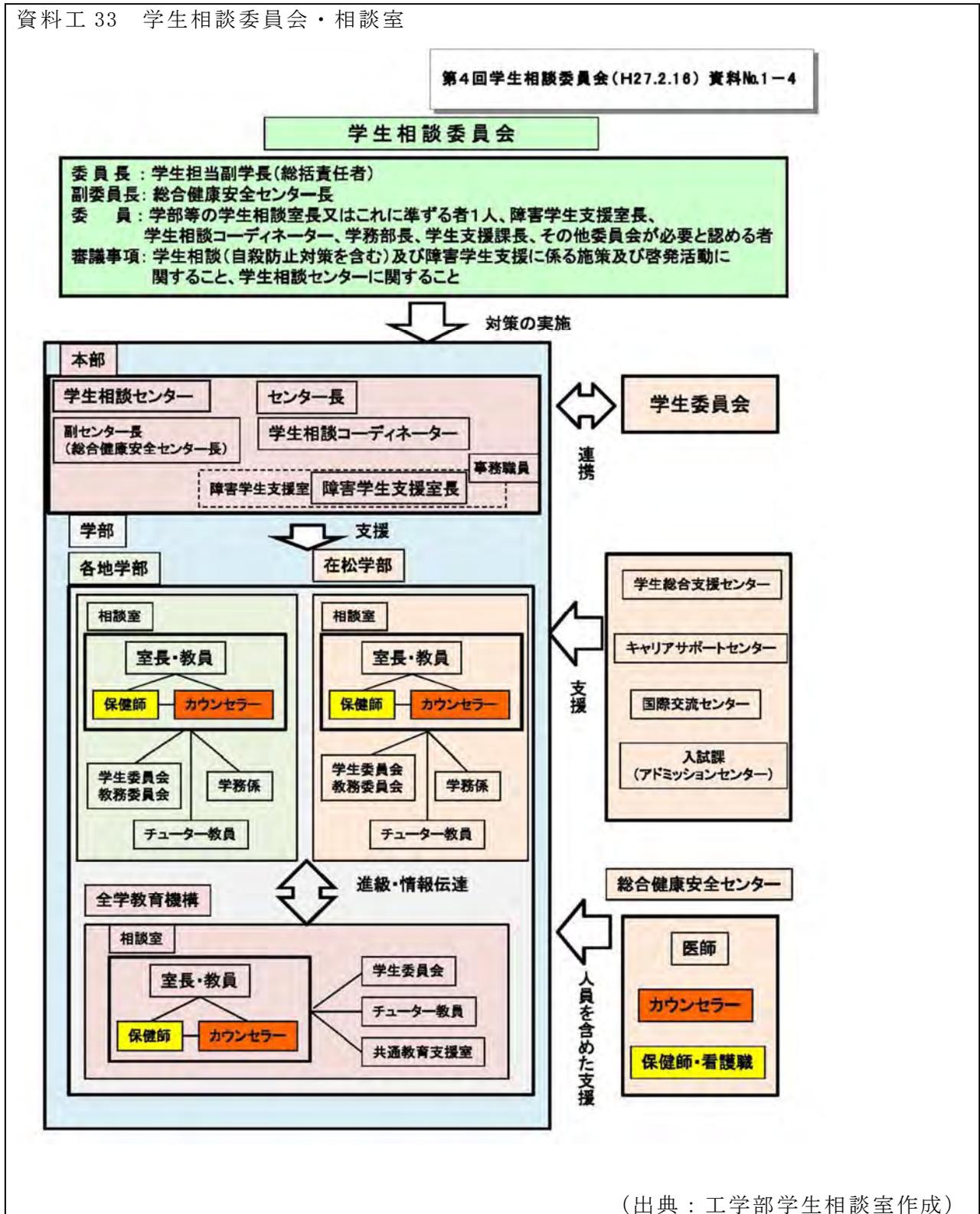
	工学部 理工学系研究科(長野キャンパス)
事務職員	8
事務補佐員	1
臨時用務員	
専門職員	
技能補佐員	
シニア雇用職員	1
コーディネータ	3
合計	13

(出典：工学部作成資料)

②-4 教育支援の体制（工学部）

学生相談委員会との連携のもと、学生相談室を設置し、学生指導体制を充実させている。
（資料工 33）

資料工 33 学生相談委員会・相談室



長期欠席者・同予備群のための学生指導マニュアル（資料工 34）を作成し、定期的な対応を行っている。クラス担任は学年単位で1、2名を配置し、4年次生は卒業研究の指導教員が学生数名ごとに配置されている。

資料工 34 物質工学科の学生指導マニュアル

<学生指導手順>

- 1) クラス担任や指導教員は、授業や研究室への出席状況が悪い学生に対して、適宜、面談を行う。学生の呼出しは、本人への電話、掲示板への掲示、友人への託け等で行うが、それでも連絡が取れない場合は、保護者へ連絡する。
- 2) 学生との面談は、可能な限り、複数教員で行う。
- 3) カウンセリングが必要と判断した場合は、工学部保健室（学生相談室）に連絡する。

(出典：工学部学務委員会)

より細かな対応を行うために学生数名に1名のチューター教員を割り当て、半年に一度の面談を行っている。(資料工 35)

資料工 35 情報工学科のチューター及び学生指導マニュアル

1～3年次の各学年において、教員一人あたり学生約4名のチューター割当を行い、各学期最低1回ずつの面談を実施する。面談は、原則として直接対面して行い、修学状況や学生生活上の悩み等がないか尋ねる。在松本の1年生については、学科の新入生ゼミナールの一環で1年生が長野（工学）キャンパスを訪れる際に面談を実施する。

チューターによる面談とは別に各学年正副担任による面談も継続的に行う。

(出典：工学部学務委員会)

以下の体制で1年次の修学指導を行っている。(資料工 36)

資料工 36 平成 27 年度 1 年次生クラス担任の配置状況

クラス担任（正：各学科等教員、副：全学教育機構教員）

学部・学科等		クラス担任数	
		正	副
工	機械システム工学科	1	2
	電気電子工学科	2	2
	土木工学科	1	1
	建築学科	2	1
	物質工学科	2	1
	情報工学科	2	2
	環境機能工学科	2	1

(出典：2015年共通教育履修案内をもとに経営企画課作成)

平成 21 年度からメンタルヘルスカウンセラーを専任で雇用し対応にあたっている。相談件数、相談者数は以下であり件数は増加している。(資料工 37)

平成 22 年度より相談申し込み WEB ページを立ち上げ(資料工 38)、相談しやすい環境づくりに努めている。

資料工 37 工学部カウンセリング相談者数

年度	総件数	相談者実数
H21	399	61
H22	299	46
H23	314	66
H24	539	94
H25	539	79

H26	531	101
H27	654	88

Web ベースでの申込者数

年度	総件数
H22	3
H23	11
H24	14
H25	18
H26	36
H27	30

11/20 予約開始

(出典：工学部作成)

資料工 38 カウンセリング申し込み WEB フォームでの記載

相談申し込みフォーム

この相談申し込みフォームでは信州大学工学部メンタルヘルスケアセンターでのカウンセリングの申し込みができます。申し込み可能な対象者は信州大学工学部の学部生・大学院生・教職員とその関係者（保護者・友人など）に限ります。

カウンセリングについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

この相談申し込みフォームにご登録いただく個人情報は、予約受付とカウンセリング・学生相談に必要な範囲でのみ使用し、それ以外の目的で使用することは一切ありません。

本学の個人情報の取扱い全般についてはこちらをご確認ください。

注意事項：

この相談申し込みフォームは相談申込専用となっております。メールでのカウンセリング、特定の個人への誹謗中傷、匿名によるお問い合わせ等には、回答いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

回答までに1週間程度お時間を頂くことがあります。お急ぎの方は、次の連絡先まで直接お問い合わせください。

【工学部保健室：026-269-5077】

予約申し込み可能日時：月～金曜日（祝日・年末年始、入構制限期間を除く）。午前9～12時・午後1時～5時。

予約日時が確定しましたら、メンタルヘルスケアセンターから折り返しご連絡を差し上げますので、しばらくお待ちください。

上記に同意いただいた場合は、「同意する」をクリックし、登録画面へお進みください。

(出典：工学部作成)

技術部の教育支援（資料工 39）

学科名	科目名	学生数	担当者数
機械システム工学科	機械システム工学加工実習	734	9
機械システム工学科	機械システム工学実験	360	4
機械システム工学科	機械システム工学設計製図	83	1
機械システム工学科	機械設計製図Ⅱ	180	2
機械システム工学科	機械設計製図Ⅲ	180	2
機械システム工学科	専門職大学院等教育推進プログラム	1	1
電気電子工学科	電気電子実験Ⅰ	600	6
電気電子工学科	電気電子実験Ⅱ	600	6
電気電子工学科	電気電子実験Ⅲ	600	6
物質工学科	物理化学実験(必修・後期)	120	2
土木工学科	空間情報実習	92	2
土木工学科	コンクリート構造実験	70	2
土木工学科	土質・水環境実験	70	2
建築学科	建築構造材料実験	75	2
環境機能工学科	環境機能工学実験Ⅰ	400	8
環境機能工学科	環境機能工学実験Ⅱ	55	1
環境機能工学科	環境機能工学実験Ⅲ	108	2
共通科目	物理学実験(A)(B)	680	5
共通科目	物理学実験(C)(D)	200	11

（出典：工学部作成）

平成 21 年度および 27 年度の TA、非常勤講師等の人数は（資料工 40）のとおりである。

H27 年度 非常勤等の人数				
	男	女	合計	うち外国人
ティーチング・アシスタント	126	9	135	2
リサーチ・アシスタント	8	6	14	5
特任教授	35	0	35	1
特任准教授	1	0	1	0
非常勤講師	38	1	39	1

H21 年度 非常勤等の人数				
	男	女	合計	うち外国人
ティーチング・アシスタント	204	18	222	15
リサーチ・アシスタント	2	1	3	1
特任教授	20	0	20	0

非常勤講師	56	4	60	2
-------	----	---	----	---

(出典：工学部作成)

TA は資料工 41, 42 の実施要項に従い業務を行っている。

<p>資料工 41 信州大学ティーチング・アシスタント実施要項 (抜粋)</p> <p>(目的)</p> <p>第 2 TA は、本学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、当該学生の処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。</p> <p>(身分)</p> <p>第 3 TA は、非常勤職員とする。</p> <p>(職務内容)</p> <p>第 4 TA は、学部学生、修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験、実習及び演習等の教育補助業務に従事する。</p> <p style="text-align: right;">(出典：信州大学ティーチング・アシスタント実施要項)</p>

資料工 42 各学部等における TA の業務内容														
部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
工学部	○	○	○		○	○	○		○		○		○	図書館における学習方法指導 (ラーニング・アドバイザー)
<p>授業時間内の業務内容</p> <p>A. 資料の配付、B. 機器の操作、C. 出欠の管理、D. 試験監督補助、E. 討論への参加、F. 学生の質問への対応、G. 実験・実習などの実演、H. 発声・会話の指導</p> <p>授業時間外の業務内容</p> <p>a. 資料のコピー、保存、b. 教室のメンテナンス(空調、照明、施錠等)、c. レポート課題の作成・採点補助、d. 教材の作成補助、e. 実験・実習の準備</p> <p style="text-align: right;">(出典：各学部等のデータを基もとに経営企画課にて作成)</p>														

③多様な教員の確保の状況とその効果

資料工 43 に示すように多様な教員の採用に努めている。

資料工 43 継承教員内での外国籍、女性、企業経験者の人数													
	教授				准教授・講師				助教・助手				
	数	外国籍	女性	企業経験者	数	外国籍	女性	企業経験者	数	外国籍	女性	企業経験者	
H21	54		1	11	58	6	4	10	24	1	1	4	
H27	52	2	2	14	65	3	4	9	28	2	3	4	

(出典：工学部作成)

男女共同参画宣言 (資料工 44) に基づいた、公募を行っている。(資料工 45)

<p>資料工 44 信州大学男女共同参画宣言</p> <p>平成 23 年 12 月 21 日</p> <p>国立大学法人信州大学</p> <p>学長 山沢 清人</p>

国立大学法人信州大学は、男女共同参画社会の実現に努め、これを自らの社会的責務とすることを宣言します。

国際人権規約 A 規約（経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約）第 3 条は、「この規約の締約国は、この規約に定めるすべての経済的、社会的及び文化的権利の享有について男女に同等の権利を確保することを約束する」と定めています。また、日本国憲法第 14 条（法の下での平等）を実現するために、男女共同参画社会基本法前文は、「少子高齢化の進展、国内経済活動の成熟化等我が国の社会経済情勢の急速な変化に対応していく上で、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現」が「二十一世紀のわが国社会を決定する最重要課題と位置付け」、諸施策を講ずることを義務づけています。他方、わが国では現在も、男性優位社会の弊は依然として強く存在し、いたる所で散見されます。「知の森」づくりをめざす学問の府であり自由平等な研究活動を目指す信州大学においても、この弊の存在は、ひとり例外ではありません。女性教職員は、職業生活においても、家庭生活（育児・介護生活を含む）においても、大きな負担を背負っています。そして、学生たちは、このような社会状況のなかで教育を受けています。

信州大学は、不合理な性差別の是正と男女共同参画の推進を社会的要請と受け止め、総合大学としての特性を生かし、積極的に取り組んでいきます。信州大学が男女共同参画を推進することが、男女ともに幸福をもたらすと同時に、多様性を尊重した持続可能な社会の創成に寄与すると確信するからです。教育の場では、性差別を克服する教育を充実させ、男女共同参画の精神の涵養を含む人間力を備えた優れた人材を育成し社会に送り出します。研究の場では、女性研究者が男性研究者とともに優れた研究環境を享受し卓抜した成果を挙げ、人類社会に貢献していきます。医療の場では、女性医師や女性コメディカルが男性と対等に医療活動を担い、生命と健康を尊重していきます。働く職場では、男女教職員が、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を等しく享受できる環境づくりを行うとともに、女性教職員の大学運営への参画を促進していきます。国際交流や地域社会等との連携の場では、多様な文化と価値観の存在を尊重し、男女平等の社会づくりに叡智を尽くし貢献していきます。

（出典：信州大学男女共同参画室ホームページ「宣言・行動計画」）

資料工 45 工学部公募要項における女性優先の記載例

信州大学は男女共同参画を推進しており、業績等（研究業績、教育業績、社会的貢献ほか）及び人物の評価において同等と認められた場合には女性を採用します。ただし、これは性別のみで優先的に採用することを認めるものではありません。

（出典：工学部物質工学科公募要項より抜粋）

留学生担当教員は女性限定で公募を行い採用した。（資料工 46）

資料工 46 公募要項の抜粋

工学部講師（女性）の公募

（採用予定日：平成 26 年 1 月 1 日 応募締切日：平成 25 年 10 月 31 日）

- 1 募集人員：講師（女性） 1 名
- 2 所 属：信州大学工学部
- 3 専門分野：分野は問わない。
- 4 業務内容：本学部の留学生に関する業務等
- 5 担当科目：専門分野に関連する科目（共通教育科目または工学部専門科目）
途中略

14 信州大学は、男女共同参画事業を推進しています。

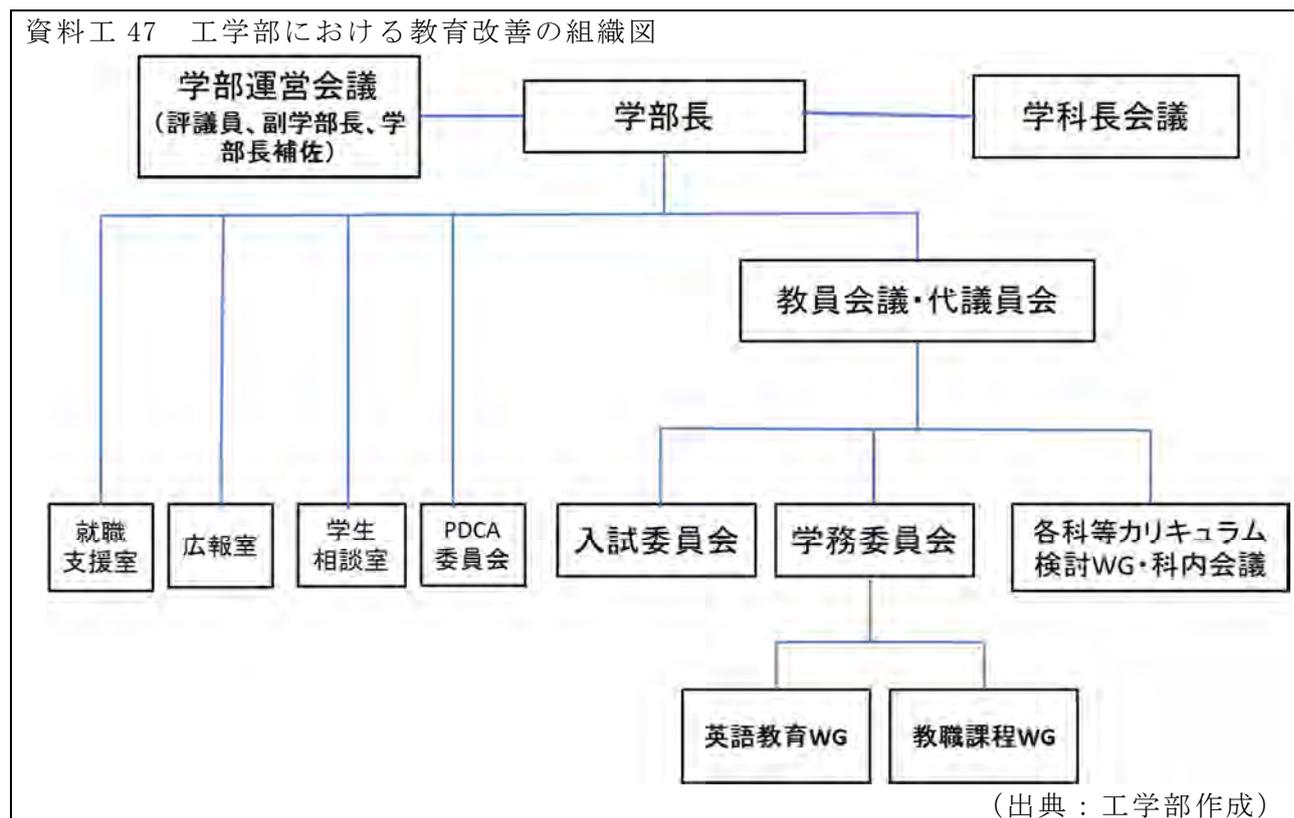
(出典：工学部教員公募より抜粋)

(2) 教育内容・方法の改善の体制

①改善組織の構成

教育内容・方法の改善に取り組む体制を構築している(資料工47)。カリキュラムは各科、学務委員会で検討し、教員会議で決定している。また各種アンケートを行い、PDCA委員会等のもとで見直しを継続的に行っている。

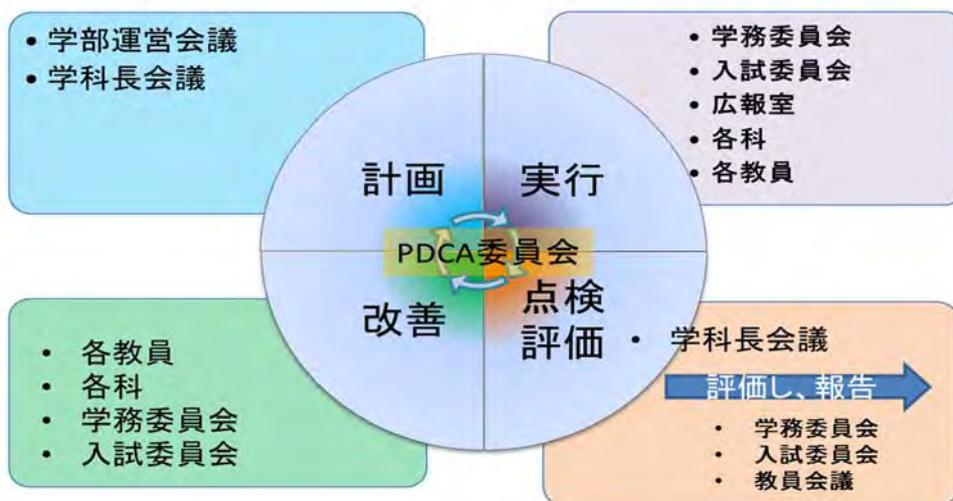
資料工 47 工学部における教育改善の組織図



②教育課程の編成プロセス

教育のPDCAサイクルを実践している。(資料工48)

資料工48 工学部のPDCAサイクル組織図



(出典：工学部作成)

③教育活動に係る改善の仕組・取組

(資料工 49) に示すような各種アンケートを実施し、その結果に基づき評価、改善を行っている。

資料工 49 工学部で行っているアンケートの一覧

アンケート等の整理					
名称	対象	時期	担当	内容・項目	過去の実施年
授業改善アンケート	在校生	半期に一度	学務係	個別の授業単位の評価	
ベストティーチャ投票	2, 3年生	半期に一度	学務係	各授業のお教員単位の評価	
卒業生アンケート	卒業、修了生	毎年 3月	学務係	DPや施設、環境	H24から
既卒生アンケート	卒業、修了してから数年後の学生	数年毎	学務係	DPや施設、環境	H18.24年度
卒業生懇談会	卒業生 数名	毎年 2月	学務係	教育全般	H24年度から実施
企業アンケート	就職企業	数年毎	就職支援室	学生がDPを満たしていると感じるか	H24
後援会アンケート	後援会総会出席者	毎年 8月	学務係	8月の後援会開催時	H26から
保護者アンケート	保護者	毎年 4月	学務係	ガイダンスの内容等	H27/4から
新入生アンケート	新入生	毎年 4月	学務係	ガイダンスの内容等	H27/4から
オープンキャンパスアンケート	OC参加者	毎年 6.10月	学務係	OCの内容	H22から

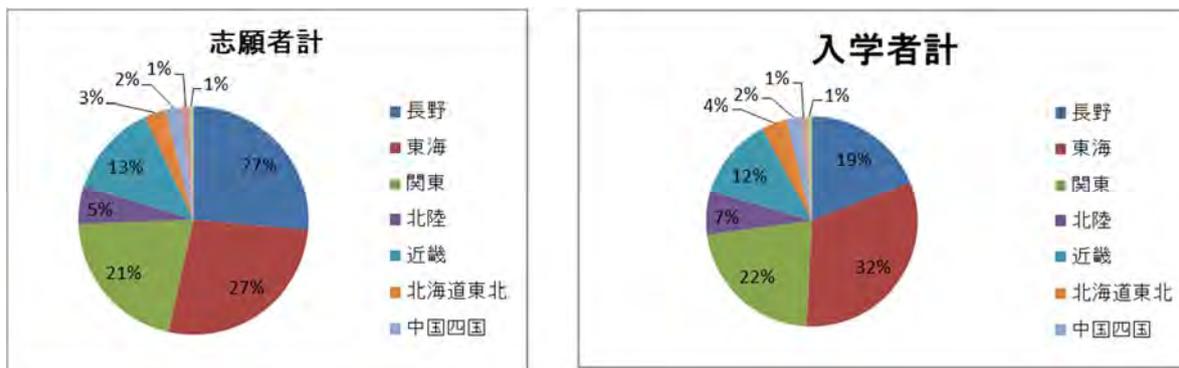
(出典：工学部作成)

(3) 入学者選抜方法の工夫とその効果

①名古屋入試

本学部では愛知、東海3県からの受験者が多い。(資料工 50) そこで平成25年度から学部前期試験を名古屋会場でも実施している。

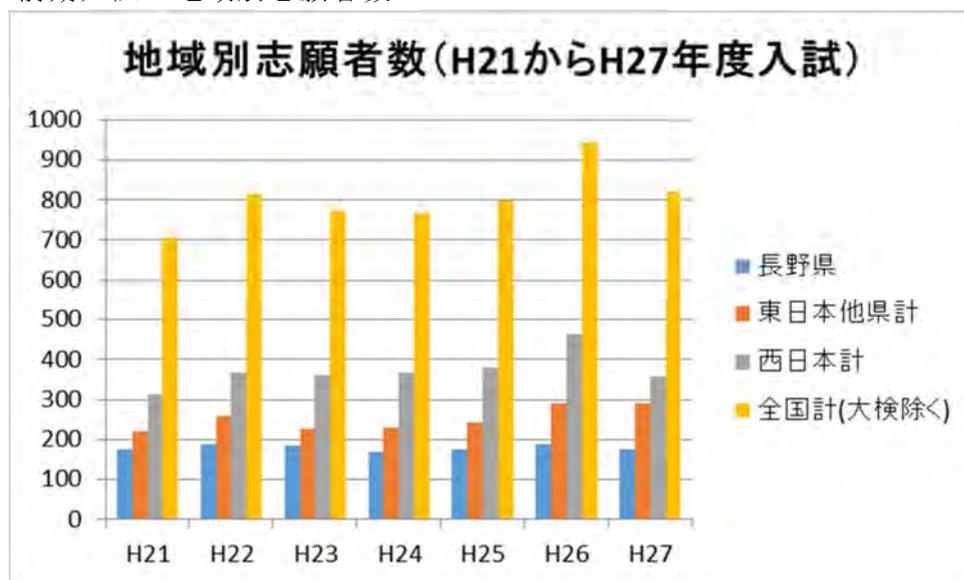
資料工 50 H27 年度 本学部の志願者及び入学者の地域分布



(出典：工学部作成)

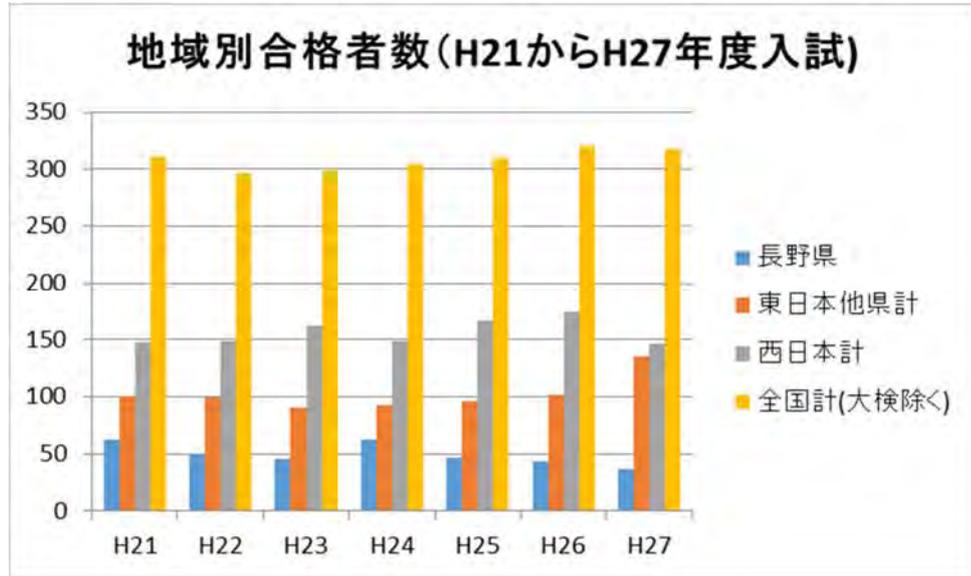
西日本からの志願者は概ね増加し、全体の志願者増に寄与している。(資料工 51) 合格者数に関しては東、西が同程度である。(資料工 52)

資料工 51 前期入試の地域別志願者数



(出典：工学部作成)

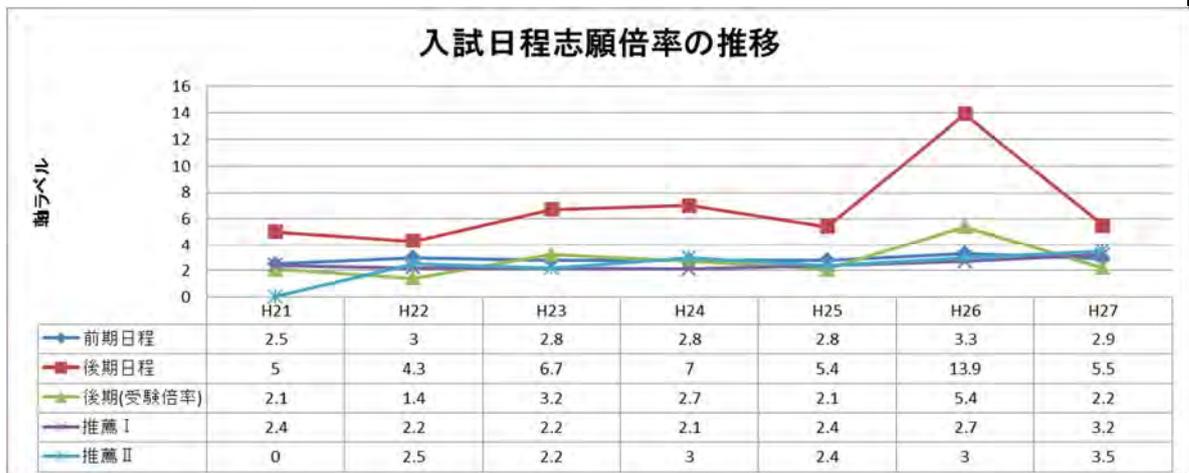
資料工 52 前期入試の地域別合格者数



(出典：工学部作成)

資料工 53 入試日程別志願倍率の推移

後期は前期との併願で欠席率が高いので受験倍率を示している



(出典：工学部作成)

②広報活動

平成 25 年度から工学部広報室を設置し広報活動を実施している。(資料工 54～57)

資料工 54 工学部広報室メンバーリスト

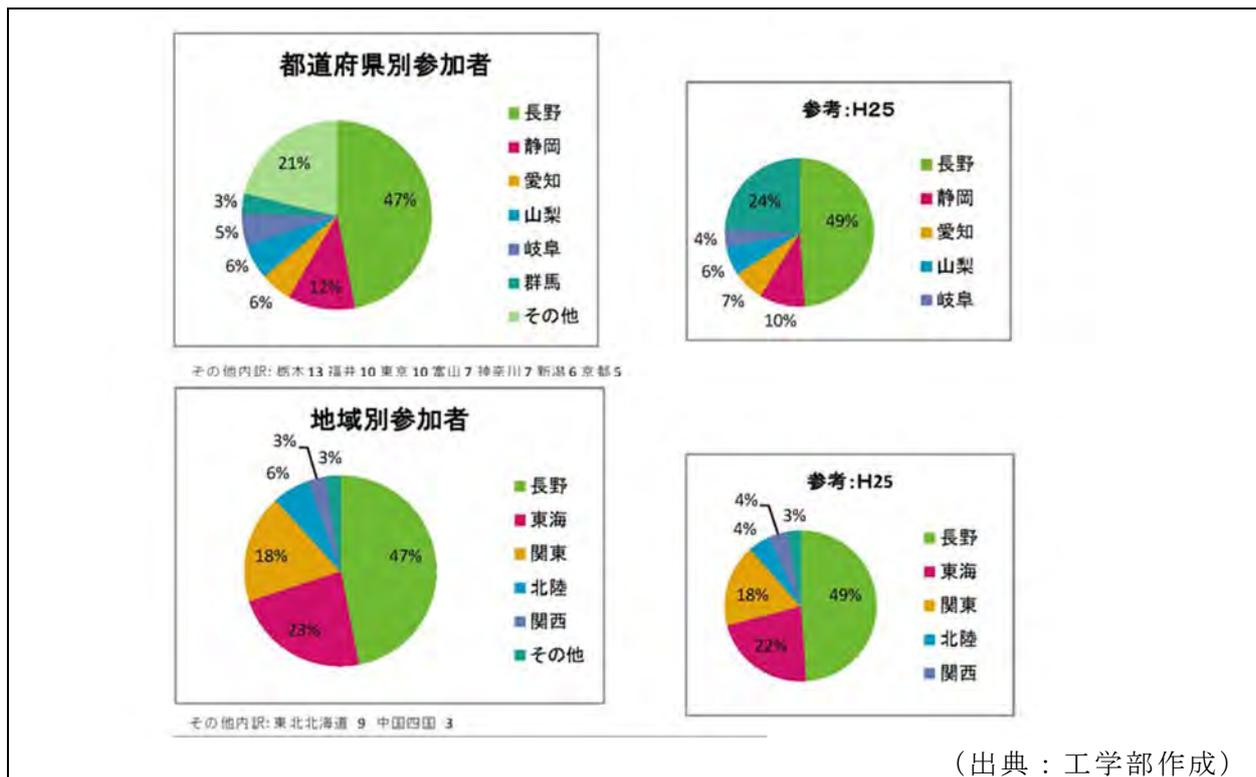
室長 学部長補佐
 副室長 3名
 副入試委員長 (広報担当)
 各科 1名
 留学生担当教員
 産学連携・広報担当教員
 技術部 2名
 事務部
 計 21名

(出典:工学部作成)

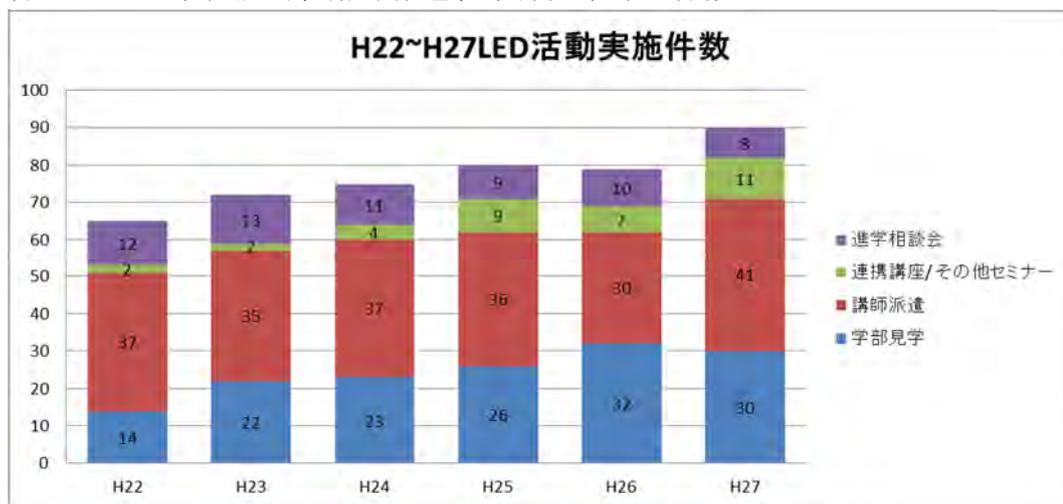
資料工 55 オープンキャンパス出席者数(父兄等も含む)

オープンキャンパス参加者

	アンケート回収数	参加者数
平成 22 年度	641	924
平成 23 年度	584	903
平成 24 年度	704	1,213
平成 25 年度第一回	359	1,300
平成 25 年度第二回	87	270
平成 26 年度第一回	642	1,337
平成 26 年度第二回	84	367
平成 27 年度第一回	819	1,600
平成 27 年度第二回	132	457



資料工 56 進学相談会、講師派遣、学部見学等の件数



LED は、Learn Engineer's Dreams : 技術者の夢を学ぼう! の略であり、工学部の高校への広報活動として行っているプロジェクトであり、内容は、高大連携事業、進路説明会、学部見学会、模擬講義等である。

平成 27 年度から県外高校への広報活動は拡大した。(資料工 57)

資料工 57 県外の高校への広報活動の件数

	H24	H25	H26	H27
愛知	19	20	13	18
岐阜	5	5	6	5
三重	6	6	4	5

静岡	10	4	13	10
群馬	0	5	0	4
千葉	0	0	6	0
埼玉	0	0	0	3
山梨	0	0	0	4
新潟	0	0	0	8
石川	0	0	0	4
富山	0	0	0	8
福井	0	0	0	3
徳島	0	0	0	1
高知	0	0	0	1
計	40	40	42	74

(出典：工学部作成)

これらの成果が志願者増につながっていると考える。

③女子学生への広報

平成 25 年度より広報委員会の中に女子学生への広報活動を行うワーキング・グループを設置し、活動を行っている。(資料工 58、59)

資料工 58 女子学生への広報活動を行う WG

メンバーは以下のような女性からなる

工学部学部長補佐 (教授)

准教授

学部、専攻の女子学生 10 名程度

(出典：工学部作成)

資料工 59 H25 年度 0C における女子のための集いの案内

本日の日程

Nazano Girls Seminar
2013.10.26 14:00-15:00
◎信州大学工学部講義棟 203 教室

1400 司会 カワモト ボーリン・ナオミよりご挨拶

1405 事例紹介
1.「リカジョ」の生活 井出恵実
2.「現役OLの生活」 武田佳代

1430 座談会
在学生と気軽に話しましょう!

1500 終了

井出恵実
工学部建築学科修士課程1年
現在はヒートアイランド現象の要因の一つである「土地緑地の減少」と気候変化について、リモートセンシング技術を用いた研究を行っている。

武田佳代
工学部図書館スタッフ
二児の母。図書館では親切な対応と優しい笑顔で工学部生を支える。

司会 カワモト ボーリン・ナオミ
情報工学科情報メディア学 准教授



Campus
Life
Guide

工学キャンパスをのびてみよう!

- ・ 本日の日程
- ・ 学生へのインタ

学生生活をもっと知る

信州大学工学部
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/engineering>

Facebook 信州大学工学部Official
<https://www.facebook.com/shinshueng>

工学部広報室
〒380-8553 長野市若里4-17-1
TEL 026-269-5539



(出典：工学部オープンキャンパスパンフレットより抜粋)

活動の結果、女子の志願者が概ね増えてきている。(資料工 60)

資料工 60 H22 から H28 までの志願者及び入学者中の女子率

志願者及び入学者中の女子の割合							
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
入学者中の女子率	8.6%	8.7%	11.7%	10.8%	14.3%	13.8%	12.6%
志願者中の女子率	9.9%	10.8%	11.8%	13.1%	11.6%	11.1%	14.4%
H22はH22/4/1入学の学生に関する値							

(出典：工学部作成)

資料工 61 平成 27 年 4 月現在の男女別在籍者数

	男性	女性	計	女性比率
1 年生	449	63	512	12.3%
2 年生	433	61	494	12.3%
3 年生	548	54	602	9.0%
4 年生	499	64	563	11.4%

在籍者数には留年生を含むために資料工 62 とは値が異なる。

(出典：工学部作成)

(4) 教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果

平成 13 年度よりベストティーチャー(BT)賞を設け(資料工 62)、表彰すると共に、BT による公開授業、FD セミナーを実施している。(資料工 63)

資料工 62 ベストティーチャー賞実施細目 (抜粋)

信州大学工学部 ベストティーチャー賞実施細目

1 アンケート実施時期

アンケート実施時期は 4 月上旬(当該年度の翌年度)に学生が多く集まる場(例えば就職説明会や卒業研究配属説明会等)において学科単位で行う。

なお、特に事情がある学科は、当該年度後期に実施することが出来る。(実施日時は各学科に一任)

2 アンケート対象学生

学部 3 年次在籍の学生(アンケートを実施する 4 月上旬時点では 4 年生になっている点に注意。

又、過年度生の取り扱いは各学科に一任する。)

3 受賞の対象教員

受賞の対象となる資格者は、本学部専任の教授、准教授、講師、助教(以下「教員」という。)とし、過去の受賞者も含める。

4 投票方法・投票の管理

(1) 無記名投票とする。(無記名投票なので投票に用いるアンケートシートの管理には注意すること)

(2) 投票終了後その場で開票・集計を行い、次に定める投票率・得票率の基準を満たす場合には、各学科選出の BT 賞候補者の氏名をその場で公表する。(学部共通科目担当教員候補者名は、この場では決定・公表できないことに注意)

1) 投票率の基準

①【各学科教員の選出】

投票数が各学科 3 年次在籍者数の 50%を超えない場合は投票を無効とし、当該学科の当該年度の受賞候補者選出は見送る。

②【学部共通科目担当教員の選出】

各学科投票数の総計が工学部3年次在籍者数の50%に満たない場合は投票を無効とし、当該年度の受賞候補者選出は見送る。

2) 得票率の基準

①【各学科教員の選出】

各学科3年次在籍者数の20%以上の得票率（以下「学科選出基準」という）を満たした教員の中で最高得票者を受賞候補者とする。受賞候補者が複数の場合は、その全員を受賞候補者とする。1回目の選出で最高得票者の得票率が学科選出基準を満たさない場合は、得票数が1位と2位（同順位の者が複数いる場合はそのすべてを含める）の者に「該当者なし」を加えて決選投票を行い、学科選出基準を満たした教員の中で最高得票者を受賞候補者とする。受賞候補者が複数の場合は、その全員を受賞候補者とする。決選投票の結果、学科選出基準を満たした教員がいない場合は、当該学科の当該年度の受賞候補者の選出は見送る。

②【学部共通科目担当教員の選出】

当該教員ごとの担当科目受講者数（過年度生を除くアンケート対象学生とし、重複受講者は1名と数える。又、この算出作業は学務係で処理し、学部共通科目担当教員が確認する。）が、工学部3年次在籍者数の10%以上（以下「共通選出基準」という）を満たした教員の中で最高得票率の者を受賞候補者とする。ここでいう得票率とは、当該教員の得票数を、当該教員の担当科目受講者数で割ったものとする。受賞候補者が複数の場合は、その全員を受賞候補者とする。共通選出基準を満たした教員がいない場合は、当該年度の受賞候補者の選出は見送る。

（以下省略）

（出典：工学部作成）

資料工 63 ベストティーチャー賞投票用紙

**平成26年度ベスト・ティーチャー
アンケート用紙**

※あなたが在籍している学科の教員（A群）・工学部共通科目を担当している教員（B群）について、ベスト・ティーチャー賞制度の趣旨・目的に最もふさわしいと思う教員をそれぞれ1名選んで下記に記入してください。また、その理由を自由に書いてください。
なお、教員名・該当者なし欄ともに未記入の場合は、該当者なしとみなします。

	A 群	B 群
	所属学科の専門科目担当教員	工学部の共通科目担当教員
教員名 （本制度の趣旨・目的に最もふさわしい教員名を記入してください。）		
理由 （選んだ理由について自由に記入してください。）
該当者なし （該当教員がいない場合は、右欄に「該当者なし」と明記してください。）		

（出典：工学部作成）

資料工 64 ベストティーチャーによる FD セミナー、公開授業の開催概要等資料

【FDセミナー】

- 日 時……授業期間の教員会議終了後（前後期どちらかで1回）
- 場 所……総合研究棟 1 F 大会議室
- 進 行……学務委員長
- 講 師……ベストティーチャー賞受賞教員
- 内 容……講師による発表 10 分 + 質問 5 分
（パワポ等資料を用い、授業の進め方や工夫している点など概要説明する）
- 参加者……教職員

【授業公開】

- 日時等……原則、上記 FD セミナー実施学期の授業任意の 5 回分を授業公開とする。
セミナー実施日の学期に授業がない場合は、この限りではない。
公開授業科目と公開期日については、学務係から当該教員に照会のうえ決定する。
- 参加者……教員のみ

（出典：工学部作成）

平成 23 年度以降は FD セミナーを教員会議の前後に行い高い出席率を確保している。また、工学部及び高等教育センター教員によるセミナーも毎年実施している。（資料工 65）

資料工 65 工学部及び高等教育センター教員によるセミナー

H27年度工学部FD実施状況一覧

実施日	テーマ	講師名	対象範囲	備考
2015/4/2	新任教員FD研修	高等教育研究センター	教職員	SUNS受信
2015/4/27	大学生調査JCSS2012報告FD	高等教育研究センター	教職員	SUNS受信
2015/6/16	eALPS研修 映像活用e-learningコンテンツ	高等教育研究センター 等	教職員	SUNS受信
2015/6/22	ベストティーチャーによるFDセミナー及び授業公開（セミナー前後5回）	豊田政史、大野博道、高木直樹	教職員	
2015/7/25	ベストティーチャーによる授業公開（セミナー前後5回）	中山昇	教職員	セミナーの代わりにオープンキャンパスミニ授業（模擬講義）実施
2015/8/27～28	FDカンファレンス	高等教育研究センター	教職員	冠着荘
2015/9/4	科学研究費に関するFD 「科研費採択のための講習会及び研究倫理に関する説明会」	研究支援課長	教職員	
2015/10/19	ベストティーチャーによるFDセミナー及び授業公開（セミナー前後5回）	水野勉、小林一樹、内田博久、鉆尾昭一郎	教職員	
2015/11/10	反転授業FD	向後千春（早稲田大学）、高等教育研究センター	教職員	SUNS受信
2016/2/15	高大接続の実現に向けた入試改革FD	雨森聡（アドミッションセンター）	教職員	
2016/2/29	eALPS研修 小テストの作成	矢部正之（高等教育研究センター）	教職員	SUNS受信

平成 22 年度～27 年度の F D 等開催実績

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
開催数	3	5	11	11	13	11

（出典：工学部作成）

工学部技術部は活動内容を成果発表会で発表し、研鑽に努めている。(資料工 66)

資料工 66 平成 27 年 3 月の成果発表会の内容			
系	氏名 及び 発表 順	時 間	発 表 題 目
計測調査 系	A 氏	10:10~	3 年生実験講義用治具の作成
	B 氏	10:20~	植物片混入土の密度試験を経験して
	C 氏	10:30~	コンクリートの破壊模様確認実験
	D 氏	10:40~	作業環境測定士登録講習に参加して
	E 氏	10:50~	野辺山高原とハウレンソウ収穫機
休 憩		11:00~	
設計製作 系	F 氏	11:10~	個人目標 2014
	G 氏	11:20~	親子体験教室での光学プリズム製作体験について
	H 氏	11:30~	個人目標の達成状況
	I 氏	11:40~	Excel の VBA を利用して作業の効率化を図る
	J 氏	11:50~	切削油剤の使用と保守管理
昼 食		12:00~	
情報処理 系	K 氏	13:30~	情報処理技術者試験について
	L 氏	13:40~	若里キャンパス IP アドレス調査
	M 氏	13:50~	LAN ケーブルの交換
	N 氏	14:00~	信州大学工学部 ISO14001 内部向けホームページの見直し
休 憩		14:10~	
機器分析 系	O 氏	14:20~	10 分でわかる単結晶 X 線構造解析 (SC-XRD)
	P 氏	14:30~	環境報告書 2014 作成 WG の取り組み
	Q 氏	14:40~	工学部における結晶方位解析の分析実績と測定事例の紹介
	R 氏	14:50~	走査透過電子顕微鏡 (STEM) における技術資料作成の試み
	S 氏	15:00~	集束イオンビーム加工観察装置による TEM 観察のための薄膜試料の作成

(出典：工学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

教育課程を遂行するための十分な教員数が確保 (前掲資料工 23、p 14) されており、各教員は概ね週当たり 2~6 つの授業を担当しており、科目数も 395 と充足した数を提供 (前掲資料工 26、p 15) している。

学生指導マニュアル (前掲資料工 34、p 19)、チューター面談 (前掲資料工 35、p 19) の実施、メンタルヘルスの専用相談室 (前掲資料工 37、p 19) を設けるなどの対応がなされている。

外国籍や企業経験者など多様な教員の採用に努めて (前掲資料工 43、p 22)、男女共同参画の宣言により女性教員採用に関して数値目標を設定 (前掲資料工 44、p 22) している。

名古屋入試の導入、オープンキャンパスや高校への出前授業、進学相談会、講師派遣、学部見学の受け入れなどの幅広い広報活動 (前掲資料工 55~57、p 28~29) の結果、平成 26 年志願者は増加している。

ベストティーチャーによる授業公開や FD セミナーの継続的な実施 (前掲資料工 64~65、

p 33) など、教員の教育力向上や職員の専門性の向上に積極的である。
教育の PDCA サイクルを実施する体制（前掲資料工 48、p 25）整備を行った。
以上より、学生・保護者・受験生から期待される水準を上回る、と判断する。

観点 教育内容・方法

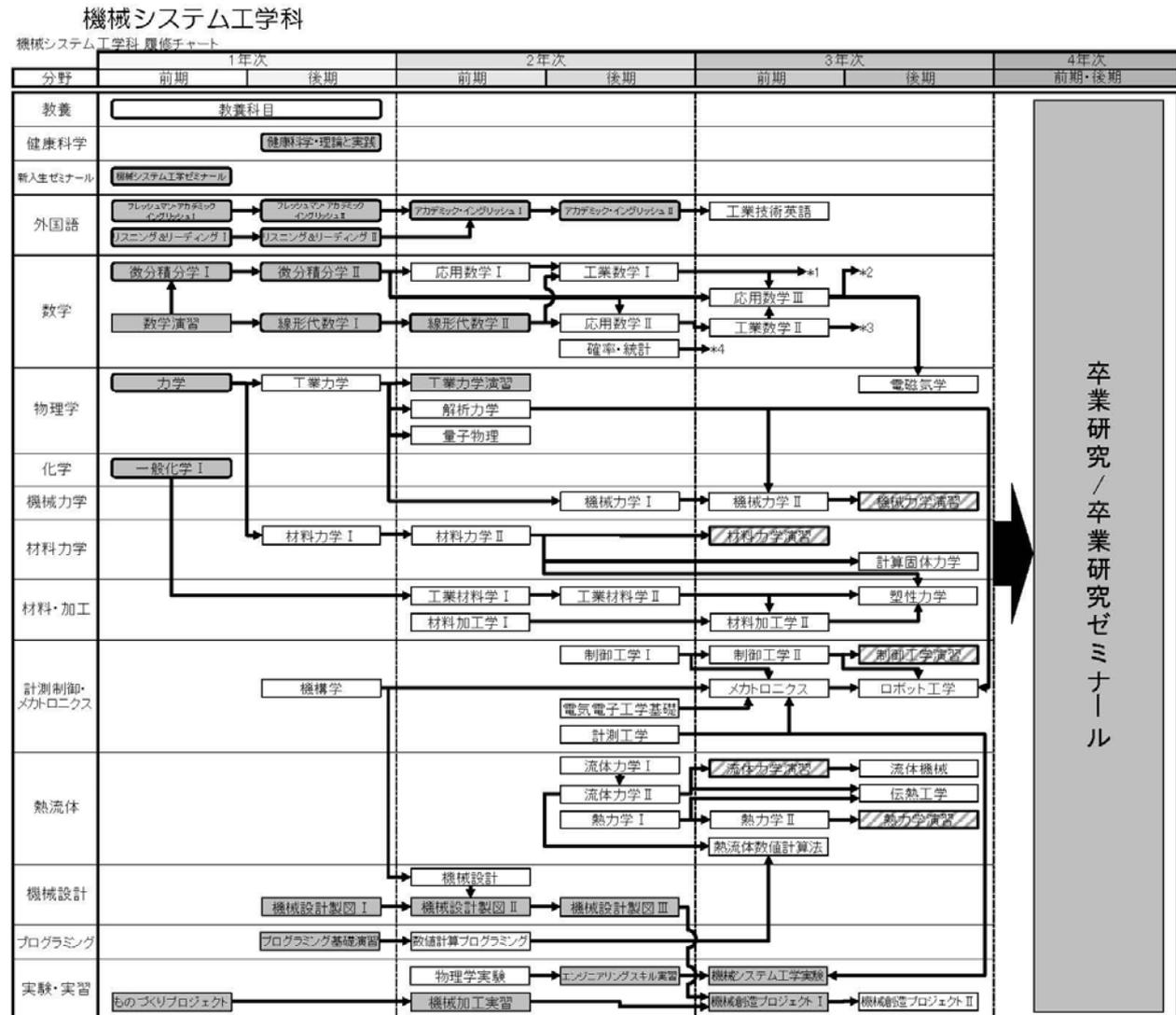
(観点に係る状況)

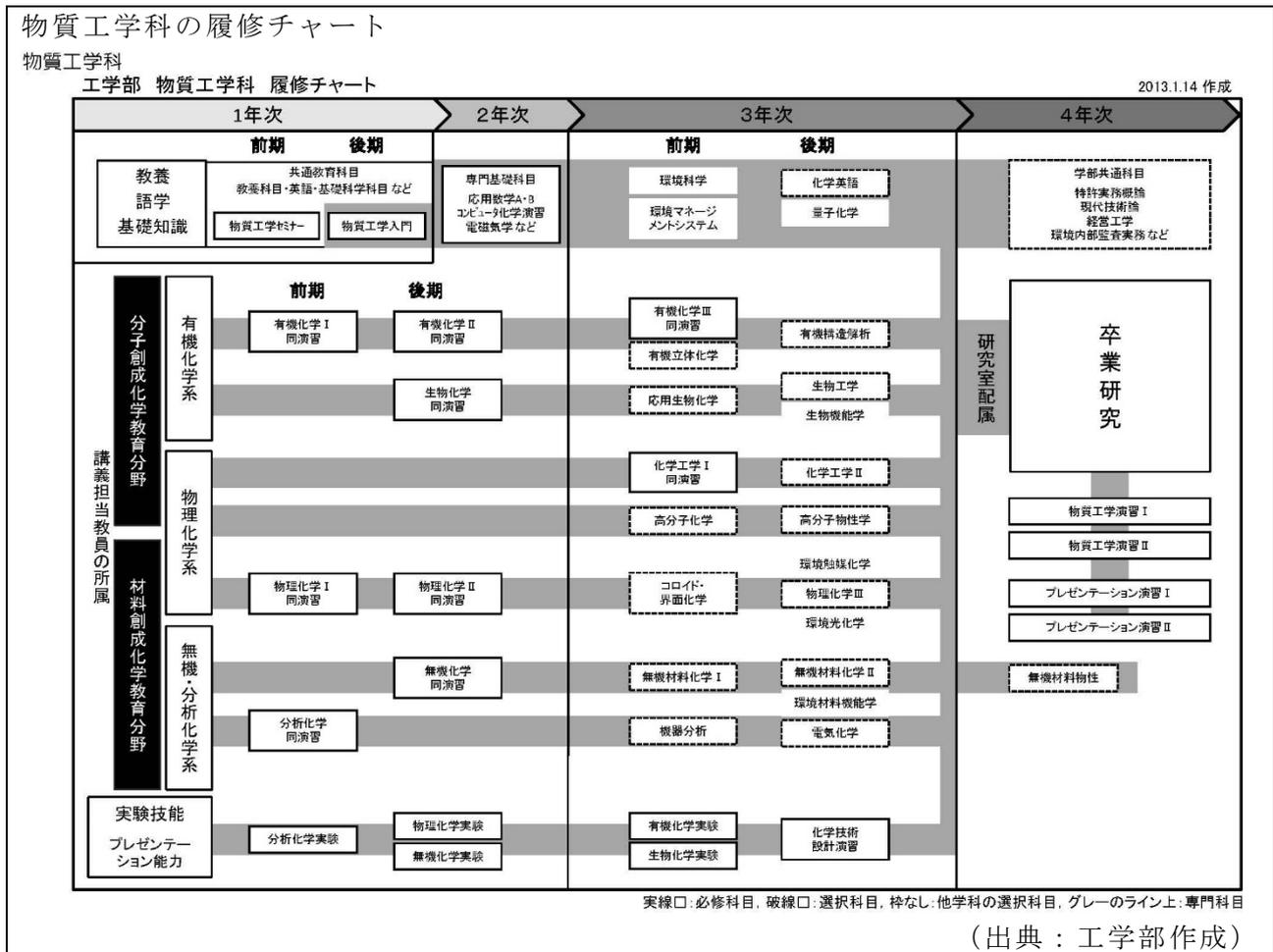
(1) 体系的な教育課程の編成状況

① AP、CP、DP の明文化、公表

AP、CP、DP は明文化され、公表されている。(前掲資料工 3～9、p 2～5) 平成 26 年度より履修チャート(資料工 67)に基づいてカリキュラム設計を行ってきた。

資料工 67 各学科の履修チャート

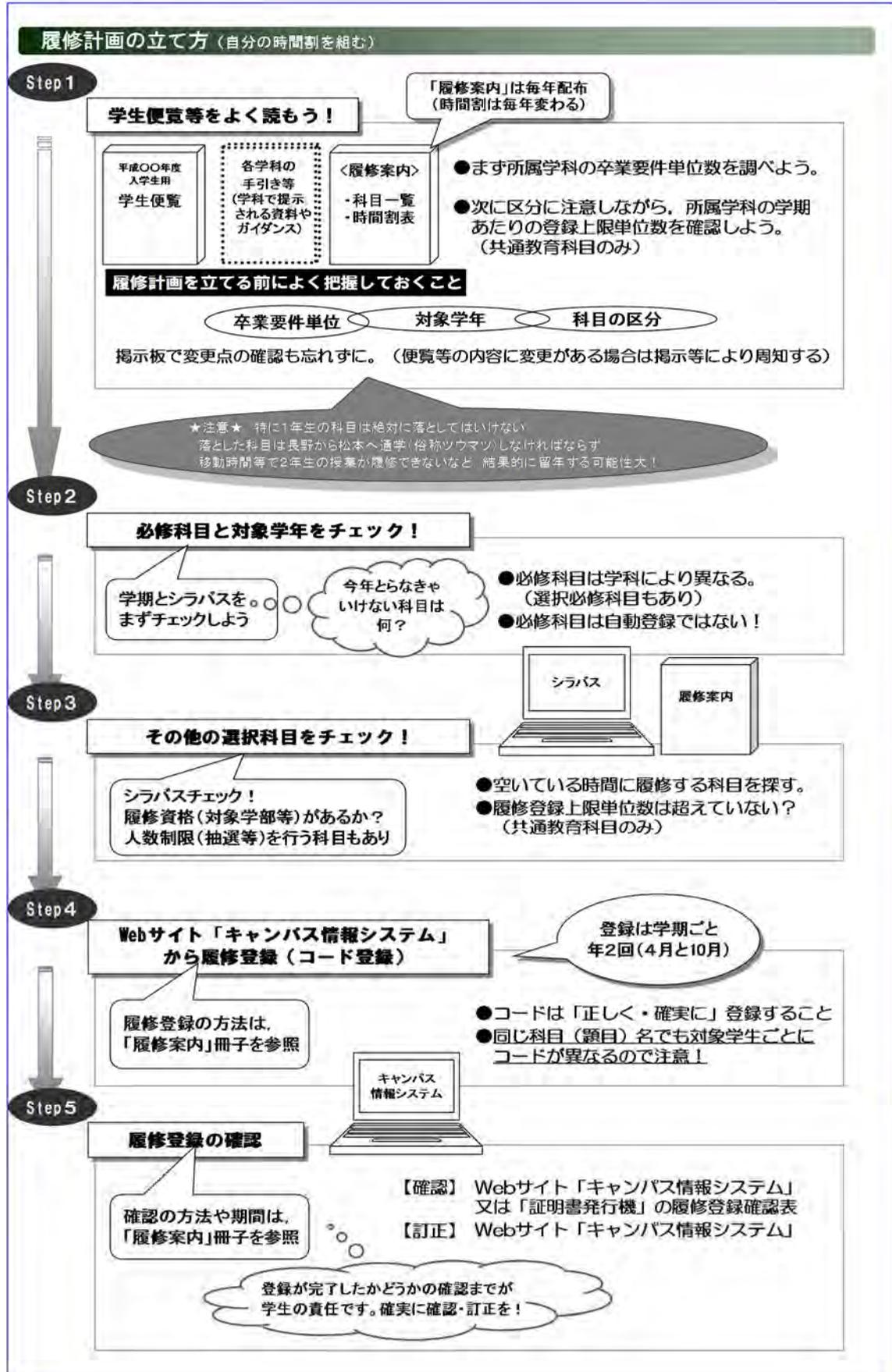




②学生便覧・シラバスの工夫

各学科のポリシー（前掲資料工9、p5）に基づいた履修に関しては学生便覧に「学修心得」や「履修計画の立て方」（資料工68）を掲載し、各学年の初めにガイダンスを行っている。

資料工 68 履修計画の立て方



(出典：工学部学生便覧より抜粋)

シラバス作成のガイドラインを作成し、シラバス記載の標準化を行い、教育力の向上に努めている（資料工 69）。

資料工 69 シラバス作成ガイドライン(抜粋)

(1) 授業のねらい

授業で得られる「学位授与の方針」要素／◎：全学共通

- ・ 科学に関する基礎および専門的な基礎知識をもち、これらの基礎概念と一般的法則を本質的に理解するとともに、基礎科学および専門基礎に関する問題を解答する能力がある
- ・ 基礎理論に基づいて工学的な観点から問題点や課題を発見することができ、筋道を立てて解決できる
- ・ ◎科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

【授業の達成目標】

- ・ 微分方程式およびラプラス変換を理解し、それらを用いて問題を解く能力を身につける。
- ・ 微分方程式の解法や、ラプラス変換の応用を理解することを通して、論理的に問題を解決する能力を身につける。
- ・ 微分方程式や、ラプラス変換が研究されてきた理由や背景について正しく理解する。

【授業のねらい】

この科目では、主として微分方程式について学ぶ。微分方程式は、物理や化学などの現象や法則を数学的に表すものとして多く使われるため、これを学ぶことは必要不可欠である。本講義では、基本的な微分方程式を解くための方法を学び、また演習問題を解くことにより計算技術を身につける。

(2) 授業の概要

この授業の前半では、求積法を用いた微分方程式の解法と、2階線形微分方程式の解法を学んでいく。授業の後半ではラプラス変換を学び、ラプラス変換を用いた微分方程式の解法を学ぶ。また演習の時間では直前の授業で学んだ解法に関する問題を解くことにより、計算能力を身に付けていく。

(3) 授業計画

- | | |
|---------------|--|
| 第 1 回 (4/10) | 微分方程式の基礎 |
| 第 2 回 (4/17) | 求積法を用いた微分方程式の解法その 1. 変数分離形. |
| 第 3 回 (4/24) | 求積法を用いた微分方程式の解法その 2. 同次形. |
| 第 4 回 (5/1) | 求積法を用いた微分方程式の解法その 3. 1階線形微分方程式. <注意: 5月8日は月曜日の時間割> |
| 第 5 回 (5/15) | 求積法を用いた微分方程式の解法その 4. 全微分方程式. |
| 第 6 回 (5/22) | 2階同次線形微分方程式とその解. |
| 第 7 回 (5/29) | 定数係数 2階同次線形微分方程式の解法. |
| 第 8 回 (6/5) | 定数係数 2階非同次線形微分方程式の解法. |
| 第 9 回 (6/12) | ラプラス変換の基礎. |
| 第 10 回 (6/19) | ラプラス変換の基本法則その 1. 線形法則、相似法則、移動法則. |
| 第 11 回 (6/26) | ラプラス変換の基本法則その 2. 微分法則、積分法則、合成法則. |
| 第 12 回 (7/3) | ラプラス逆変換. |

第 13 回 (7/10) ラプラス変換を用いた微分方程式の解法その 1. 初期値問題、境界値問題

第 14 回 (7/17) ラプラス変換を用いた微分方程式の解法その 2. 2 階線形微分方程式、連立微分方程式

第 15 回 (7/24) ラプラス変換を用いた偏微分方程式の解法.

第 16 回 期末試験

(4)成績評価の方法

出席要件(講義の 2/3 以上)を満たしたものに対し期末試験を行い、科目の基本的内容を理解したと認められる者(試験において 60 点以上の成績)について単位を認定する。ただし、欠席回数が 2 回以下のものには講義・演習それぞれ 5 点加点する。

(出典:工学部シラバス web 版)

②シラバスにおける DP の明確化

各授業と DP の関係を平成 26 年度から明示している。(資料工 70、71)

資料工 70 シラバスにおける DP の明確化

(1) 授業のねらい

【授業で得られる『学位授与の方針』の項目】(学部のみ)

大学の『学位授与の方針』または学部・学科等の『学位授与の方針』から少なくとも一つを選択してください。

大学・学部・学科の DP がシステム上表示されますので、添付のカリキュラムマップの各科目の○を付している項目のうち、重要度の高い項目を選択してください。

【授業の達成目標】(学部のみ)

上記の学位授与方針に対応した内容をお書きください。

【授業のねらい】

受講生に何を獲得させることを目標にしているのか、授業の到達目標をお書きください。

- ・ 授業の大きな目標と、学生が何を身に付けるのか、を書き分けてください。
- ・ 「教員が何を教えるのか」ではなく、「学生が何を学ばなければならないのか」の観点でお書きください。

(出典:学務係作成シラバス作成マニュアルより抜粋)

資料工 71 DP を明記したシラバスの例

登録コード	T2318						
授業科目	自動制御 II			担当教員	田代 晋久		
英文授業名	Automatic Control 2			副担当			
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4時限	対象学生	電気電子工学科3年生
講義室	工学部102基教室	授業形態	講義	備考			
<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学に関する基礎および専門的な基礎知識をもち、これらの基礎概念と一般的法則を本質的に理解するとともに、基礎科学および専門基礎に関する問題を解答する能力がある ・エネルギー分野に関する専門基礎知識を修得し、多面的な視点から知識を活用することができる ・◎科学論分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】 ・◎多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】 ・◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】 <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習問題による予習を通じ現代制御理論に関する基礎知識を習得し、問題解答能力を養える習慣を身につける。 ・現代制御理論の習得を通じ、エネルギー分野に関する専門分野への応用が行えることを目標とする。 ・古典制御理論との対比により、現代制御理論の歴史やその応用について幅広く理解する。 ・予習・講義を通じ古典制御理論における重要なポイントを押さえ、小テスト・試験を通じそれを分析・活用できることを目標とする。 ・現代制御理論を通じ、定量的考察の重要性を身につける。 <p>【授業のねらい】</p> <p>本講義では、状態方程式表現に基づく現代制御理論の基本的な考え方や手法を理解する。これにより、現代制御理論は古典制御では扱えないようなシステムに対する制御系の解析と設計の方法を修得することを目的とする。</p> <p>(2)授業の概要</p> <p>現代制御では行列計算を多用するため、難しいと感じるかもしれない。定理の証明よりも、演習問題を通じて定理をどのように活用するかを理解することに重点をおいた講義を行う。</p> <p>(3)授業計画</p> <p>第1回 現代制御の概要 第2回 システムの状態方程式 第3回 システムの応答と安定性 第4回 座標変換 第5回 可制御性 第6回 可観測性 第7回 中間まとめ 第8回 可制御標準系 第9回 極配置法 第10回 最適レギュレータ 第11回 折り返し法 第12回 最適制御系の安定性 第13回 サーボ系 第14回 状態観測器 第15回 フォローアップ 第16回 期末試験</p> <p>(4)成績評価の方法</p> <p>毎回行う小テストの提出をもって出席とする。予習・授業態度 (10%)、小テスト (80%)、期末試験 (30%) により評価する。</p> <p>(5)履修上の注意</p> <p>予習を必ず行うこと。</p> <p>(6)質問、相談への対応</p> <p>電気電子工学科西棟 3F305 教員室を訪ねること。</p> <p>(7)その他</p> <p>講義に参加するだけなら、何を勉強すれば良いかが分かる程度である。予習復習により、積極的に問題を解くことで自らの理解を深めること。</p>							
<p>【教科書】</p> <p>演習で学ぶ現代制御理論、森 泰親、森北出版、2500円</p> <p>【参考書】</p> <p>自動制御、松村文夫、朝倉書店、3605円 はじめての現代制御理論、佐藤和也ほか、講談社、2600円 その他 現代制御に関する書籍</p>							

(出典：工学部シラバス)

学科毎に「学修心得」「履修要件」を明示すると共に、履修科目の履修順序を示す「履修チャート」（前掲資料工 67、p 36）を示す事で、的確な履修の周知を図っている。

③ 共通教育の実施

③-1 新入生ゼミナール等

大学での学びを理解するため、学科で1クラス20人程度により必修2単位として開講している。（資料工72）

資料工72 新入生ゼミナールの概要及び新入生ハンドブック

共通教育の目標の「⑥ 大学教育における基礎的な能力の育成」の内の「大学教育を受けるための基礎能力の育成」を目的とします。

受験勉強中心の高等学校までの勉学から、自ら学ぶ態度を培い、学問の面白さ、自身の専門への動機付けにより、大学での学びへと橋渡しをするためのゼミナールを前期、又は前期及び後期（学部・学科（課程・系）によって指定）に開講します。

基礎的な情報通信技術、情報の集め方の確認や、授業の受け方、大学の諸施設の使い方などの基本から始まり、口頭・文書によるコミュニケーションの基礎を含む大学での学びへの導入教育など、大学における学習の一般的スタイルの獲得を目指します。また、共通教育を中心に自らの学習の目標とそのため計画の立案を行います（ポートフォリオ作成）。

教員と学生の人格的な交流を活かしつつ、基本的には、大学に入ったばかりのみなさんが、大学生として主体的に勉学に取り組む姿勢をつくる場として開設されます。

レポート作成、発表を通じて日本語の作文力や話し方について訓練し、専門教育の内容や施設に直接触れることを通じて、大学生としてのみなさんの意識形成を図ります。

このゼミナールは学部・学科（課程・系）の方針に従い、学部・学科（課程・系）の教員によって実施されます。

なお、参考資料として、入学時に配付する「新入生ハンドブック」があります。

（出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課作成）



信州大学

新入生ハンドブック 2015



信州大学 全学教育機構

新生ハンドブック-目次 前書き i 序章 信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 1 第1章 何のために学ぶのか - 10年後の世界を想像しよう- 7 1.1. 卒業後の世界を知ろう 7 1.2. 情報伝達技術の革新とその影響 14 1.2.1. コミュニケーション（情報伝達）技術の進化 14 1.2.2. 技術革新の光と影 17 1.3. 急速に変化する社会で活躍するために： 知の訓練場「大学」 22 1.3.1. 自分で問題を発見する 22 1.3.2. 森の中に木を見る 23 1.3.3. 真の知識を身につける 24 1.3.4. 目標がすべて 26 第2章 大学での学習スキル 31 2.1. 大学の授業とは 31 2.2. 学ぶ意義は自分で考えなければならない 33 2.3. 授業は学びの一部でしかない：自主学習が大事 34 2.4. 自主学習の例 35 2.4.1. 内容を理解するために、話してみよう 36 2.4.2. 専門のある何でも屋に 37 2.5. 学習観を再考しましょう 39 2.6. 能動的な学びを 41 第3章 探す・集める・探す 47 3.1. 調べるとは 48 3.2. 資料を探す 51 3.2.1. 辞典を使う 51 3.2.2. 検索術語 53 3.2.3. 図書館で探す 56 3.2.4. インターネット検索を使う 61 3.3. 問いを作り上げる 64 第4章 レポートの書き方 69 4.1. レポートとは？ 69 4.2. レポートの構想とメモ 70 4.3. 問題の見つけ方 72 4.3.1. 文献はうたがってかかる 72 4.3.2. 常識はうたがってかかる 73 4.3.3. 自分でデータを集めてみる 73 4.4. レポートの構成と文章 74 4.4.1. ねらいを短い文章に 74 4.4.2. ミニ目次のすすめ 74 4.4.3. 分かりやすい構成を 77 4.4.4. 文体はどうするか 77 4.4.5. 受け身の表現は避ける 77 4.5. レポートの落とし穴 78 4.5.1. 一次資料って何だろう 78 4.5.2. 意見の流用 79 4.5.3. 専門用語の罠 79 4.6. 形をととのえる 80 4.6.1. まずは表紙から 80 4.6.2. 一般的なかたち 81 4.6.3. 見やすい体裁に 81 4.6.4. 引用と脚注 82 4.6.5. 推敲はかならず 83 4.7. レポートから論文へ 83 4.8. 口頭発表にむけて 84 4.8.1. 発表原稿の棒読みはなぜわかりにくい 84 4.8.2. 口頭発表のメリットを最大限生かすには 85 4.8.3. 質疑への対応 86 第5章 学生生活を設計しよう 勉強も遊びも 93	
II	III

5.1. 信州大学学生相談センターおよび
全学教育機構相談室について 93

5.2. 学習の科学 94

5.2.1. 時間の前借りはしない 95

5.2.2. とにかく始めたほうがよい 95

5.2.3. 休まないと能率が落ちる 96

5.2.4. すぐ復習しないと忘れる 96

5.2.5. 暗記物は就寝前が良い? 96

5.2.6. 五感を使う 98

5.3. タスクを管理する 98

5.3.1. 忘れ防止対策 99

5.3.2. 未完了の対策を大別する 99

5.3.3. 自分の処理時間を把握する 100

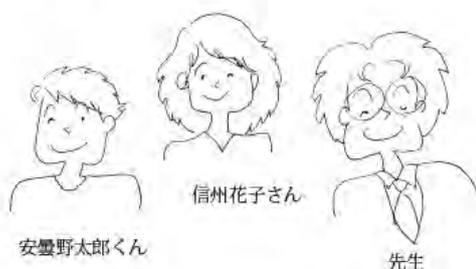
5.3.4. 学生の自由時間はたっぷりある? 101

5.3.5. 課題の作業時間を見積もる 102

5.3.6. 手帳かスマートフォンか 103



登場人物



iv

(出典：「信州大学新入生ハンドブック2015」)

③ー 2 教養ゼミ・大学生基礎力ゼミ

学部混合で行われる1クラス20名程度のゼミナールが開講されている。(資料工73)

資料工73 教養ゼミナール及び大学生基礎力ゼミ

【教養ゼミナール】

本学は種々の専門性を持つ8学部からなる総合大学であり、1年次に全学部生が松本キャンパスで学びます。ゼミナールは学部混合で行われますので、多様な物の見方を知る機会を得ることができます。また、個々の教員の専門が活かされています。また原則として25名を超えた場合の受講制限は、数の多い学部生から行うなど同一学部生に偏らないような処置をしています。教養ゼミナールでは、多くの事例的な研究を行い、学生が自分の知識や人生を社会との関係の中で位置付ける機会を提供します。討論やプレゼンテーション等も積極的に取り入れながら、物事の多面的な理解と深い洞察力を養います。

【大学生基礎力ゼミ】

「大学生基礎力ゼミ」について

信州大学で、一人前の大学生として有意義な学生生活を送りたい方のために、「大学生基礎力ゼミ」(社会科学群)を7コマ開講します。興味のある方は是非受講してください(詳しくはシラバスで確認してください)。

一人前の大学生のあるべき考え方を教えてもらった。

レポートの書き方の基本が分かった!

この授業のおかげで、グループの話し合いなどで意見が出せるようになり、楽しかったです。

大学に入学して、今までとの違いや、これからどのように勉強していったらよいか分からない状態だったが、毎週の授業の中で少しずつ形作ることができた。

ふりかえりレポートを毎週書くことで、自分についてよく知ることができ、本当に良い生活が送れた。

昨年受講した学生の声

平成27年度開講数

	前期	後期
教養ゼミナール	53	36
大学生基礎力ゼミ	11	0

(出典：「2015共通教育履修案内」)

③-3 教育方法・学習支援

上記のほか、履修登録上限単位、習熟度別クラス編成、リメディアル教育、各種英語資格試験による単位認定、放送大学との単位互換、県内他大学との単位互換を行っている。(資料工74)

資料工74 共通教育科目における教育方法や学習支援

【履修登録上限単位】

共通教育科目では、1学期に履修登録できる単位の上限が学部ごとに定められています。

※ 履修登録単位数の上限には教職に関する科目は含みません。

※ その他、学部・学科(系)によって、上限に含まない科目もありますので、詳細は各学部学生便覧で確認してください。

大学での勉学は授業での学習に加えて、出席する授業の予習、復習を含む十分な自主的学習時間の確保が前提となっています。こうした趣旨から、履修登録単位数の上限制度が設けられています。なお履修登録単位数の上限を超えて履修することはできません。

また、前期の成績が優秀な学生で学部長の許可がある場合には、後期に個々の学生ごとに履修登録単位数の上限を設定することが認められます。

【習熟度別クラス】

英語 英語のクラスは、すべて学部別であり、また習熟度別クラス編成になっています。(上級)(中級)(初級)の3レベルです。習熟度別クラスが編成され、授業がはじまる前までに掲示されます。指定されたクラス以外のクラスを履修することは原則としてできません。

微分積分学 I、力学、生物科学 I 基礎科学科目の履修方法は学部・学科(課程・系)により異なりますので、各学部・学科(課程・系)の履修指導に従ってください。学部・学科(課程・系)でクラスが指定されますので、指定のクラスで受講してください。

なお、力学及び生物学 A については、高校における履修状況等を考慮し、一部の学生についてクラスの指定があります。対象学生となる学生が学部・学科(系)から掲示等で指定されます。

【リメディアル教育】

大学での学習にスムーズに取り組んで行けるように、基礎を学ぶための授業です。積極的に活用しましょう。

各科目のリメディアル教育授業については、以下の通り実施します。掲示により受講を指定された学生は、以下を確認の上、授業に臨んでください。対象学生は、授業開始日までに、全学教育機構公用掲示板にて周知します。なお、指定を受けない場合でも、受講人数に余裕がある場合は、授業担当教員に申し出て、受講することができます。

「基礎化学」

担当教員：勝木 明夫 全学教育機構

授業内容：高校の化学 I を中心に化学 II まで

実施期間：前期 水曜日の 5 時限 平成 27 年 4 月 15 日～7 月 1 日（ただし、4 月 29 日、5 月 6 日を除く）

講義室：共 28 番教室

その他：学部からの指定事項等の詳細は、4 月に公用掲示板で確認してください。

【各種英語資格試験による単位認定について】

TOEIC、TOEFL 等で一定の点数を得た者及び実用英語技能検定（英検）等の特定の級に合格した者にだけ適用されます。

【放送大学との単位互換】

本学に在籍する学生が放送大学との単位互換（本学の授業の代わりに放送大学の授業を受講して単位を修得すれば、本学で修得すべき単位とみなす制度）を希望する場合は、「特別聴講学生」として受講することができます。ただし、受講の対象は教育学部、医学部、工学部、農学部及び繊維学部の学生に限ります。

【県内他大学との単位互換】

信州大学は、長野県内の他大学（長野県看護大学、佐久大学、清泉女学院大学、諏訪東京理科大学、長野大学、松本歯科大学、松本大学）と単位互換協定を結んでいます。

信州大学の学生は、この協定により長野県内他大学が開講する授業を受講することができ、その受講により取得した単位は、信州大学の単位として認定されます。単位互換の授業は、みなさんが他大学に通学して授業を受けるタイプと、遠隔講義システム（SUNS）を利用して信州大学の教室で他大学の授業を受けるタイプの 2 種類があります。

長野県内他大学の単位互換の対象授業は、学期の始めに各大学が募集します。

また、長野県内の高等教育機関で組織する「高等教育コンソーシアム信州」のホームページでも、単位互換に関することが掲載されています。

なお、全学教育機構では、平成 27 年度開設する教養科目、外国語科目及び基礎科学科目の授業のうち、授業担当教員が開放することを認めた「授業科目」について、県内の他大学の学生の受け入れを実施します。

【遠隔講義システム（SUNS）による受講】平成 22 年度からは、長野県内他大学の授業を遠隔講義システム（SUNS）を通じて信州大学で受講することができるようになりました。（他大学の特別聴講学生として受け入れられます。）この遠隔講義システムを利用した授業を受講すれば、他大学に通学しなくても信州大学の教室で、他大学の授業を受講できます。遠隔講義システム（SUNS）を利用した他大学の開講科目は、共通教育科目のうち「教養科目」として認定され、卒業に必要な単位に算入されます。

（出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成）

(2) ニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

① 卒業生アンケート、既卒生アンケート

教育課程等について卒業生（卒業が決定している 4 年次生）及び既卒生（卒業後数年した者）にアンケート調査（資料工 75）を行っている。

資料工 75 卒業生アンケート、既卒生アンケート

○卒業生アンケート対象：4年次生（卒業が決定している者）

○既卒生アンケート対象：卒業後数年経過した者

○評価方法：「そう思う」、「どちらかというと思う」、「どちらともいえない」、「どちらかというと思わない」、「そう思わない」の5段階評価

○アンケート項目

① 共通教育の教育課程についてのアンケート項目

1. 共通教育を受けたことによって、自分の世界が広がった
2. 基礎科学科目（数学、物理、化学、生物、地学）で得た知識は、専門課程の学習を始めるにあたって十分なものだった
3. 共通教育で学んだことによって、学部を越えた友人ができた
4. 高年次で受講できる教養科目があったらよいと思う
5. 高年次で受講できる語学科目があったらよいと思う

② 専門教育の教育課程に関するアンケート項目

1. ◎基礎学力の向上を重視した教育が行われていた
2. ◎専門知識並びに学際分野についての教育が行われていた
3. ○創造力の育成と課題探求能力を開発する教育が行われていた
4. 情報技術に関する基礎知識とその応用能力が育成される教育が行われていた
5. 自らの思考、判断を説明するとともに発展的議論を展開できるプレゼンテーション能力を育成する教育が行われていた
6. ◎地球環境保全などに対する技術者倫理をそなえ国際的視野にたった様々な分野で貢献出来る行動力や自立心を育成する教育が行われていた
7. ◎学部の課程は総合的にみて満足のものであった
8. ◎新しい分野の勉強ができる授業が多い
9. ○資格取得に役立つ授業が多い
10. ○選択できる授業が豊富に用意されていた
11. ○社会に出て役立つ授業が多い
12. ○視野を広げるのに役立つ授業科目が多い
13. ○各授業の人数は授業内容に対して適切であった
14. 成績評価の方法はおおむね適切であった
15. 必修・選択の区分は適切であった
16. 専門科目の履修順序（学年）は適切であった
17. ◎講義科目は充実していた
18. ○演習科目は充実していた
19. ○実験・実習・製図科目は充実していた

③ 専門教育の教員・授業についてのアンケート項目

1. ○学生の参加を積極的に促がす授業が多かった
2. △授業以外でもコミュニケーションのとれる教員がいる
3. △わかりやすい授業が多かった
4. 理解度など、学生の反応をみながら進められる授業が多かった
5. ○学習意欲や興味が増すように工夫されていた授業が多かった
6. ◎授業内容の必要性や位置づけをはっきりと示してくれる授業が多かった
7. ◎重要なポイントをはっきりと示してくれる授業が多かった
8. ○学問分野の専門家として優れた先生がいる
9. 卒業研究指導は充実していた

④ 専門教育に対する教育・学習環境についてのアンケート項目

1. ◎教員は授業外での学習を十分に促していた
2. ◎学習に関する相談に、教員は十分に対応していた
3. ○学生が主体的に学べる授業が十分に用意されていた

4. 双方向性のある授業が十分に用意されていた
 5. ◎履修ガイダンスでは十分な情報が提供されていた
 6. ○学生による授業評価は授業の改善に十分結びついていた
 7. ○図書館では十分なサービスを提供していた
 8. ◎シラバスには、選択科目の選択及び自主学習の計画作りに必要な情報が十分に記載されていた
 9. ○ボランティア活動などに関する十分な情報提供があった
 10. ○学務係など、事務の窓口対応は十分であった
 11. ○オフィスアワーにおいて教員は十分対応していた
 12. ◎精神面におけるケア（メンタルヘルス等）は充実していた
 13. ○各種ハラスメントへの対応は十分であった
 14. 講義室、実験室等の施設・設備は充実していた
 15. 自主学習を行うための十分な施設があった
 16. ○図書館の蔵書は充実していた
 17. ○利用可能な情報ネットワークが整備されていた
- 注意) ◎は平成 25 年度の方が大きく改善されている項目、○は少し改善されている項目、△は少し評価が落ちている項目、他はほぼ同じ評価の項目である

【アンケート結果】

学部の課程は総合的にみて満足のいくものであった

平成 19 年度：そう思う 8%、どちらかというと思う 36% 計 44%

平成 25 年度：同上 17%、同上 45% 計 62%

講義科目は充実していた

平成 19 年度：同上 6%、同上 41% 計 47%

平成 25 年度：同上 15%、同上 44% 計 59%

この結果より総合的にみて教育を肯定的に評価する割合が向上している。

また、肯定的評価の割合は不変でも、より強い肯定を表す「そう思う」の割合は大幅に向上している項目には以下がある。

基礎学力の向上を重視した教育が行われていた：(既卒生回答)

平成 19 年度：そう思う 15%、どちらかというと思う 54% 計 69%

平成 25 年度：同上 28%、同上 39% 計 67%

専門知識並びに学際分野についての教育が行われていた：(卒業生回答)

平成 19 年度：同上 17%、同上 57% 計 74%

平成 25 年度：同上 29%、同上 43% 計 72%

演習科目は充実していた：

平成 19 年度：同上 9%、同上 34% 計 43%

平成 25 年度：同上 16%、同上 36% 計 52%

(出典：工学部作成)

(3) 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

① 1 年生全員への TOEIC-IP 試験受験の推奨

平成 25 年度からは 1 年生全員に TOEIC-IP 試験を年 2 回受験するように指導しており、ほぼ 100%受験している。

②高年次生への TOEIC 試験受験の推奨

高年次は TOEIC-IP 試験以外に TOEIC 公開試験の受験を推奨している。(資料工 76) 工学部英語教育 WG (資料工 77) を平成 25 年度から設置している。

資料工 76 工学部生協で受け付けた TOEIC 公開試験の受験者数及び大学院入試で TOEIC を課す通知

TOEIC 公開試験の受験者数

受験月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H22		60	10	2		14	3	25		17		中止	131
H23		35	4	3		29	3	13		19		21	127
H24		29	3	9		29	1	20	4	78		62	235
H25	0	23	6	6		49	1	34	2	114		85	320
H26	7	29	11	7		69	1	25	5	52		100	306
H27	5	73	22	10		29	4	29	7	52		127	358

TOEIC 公開試験は生協以外でも申し込めるが、本データは生協で受け付けたもののみである。

H27 年度理工学系研究科募集要項抜粋

電気電子工学専攻，物質工学専攻，環境機能工学専攻の志願者は，次の(ア)，(イ)いずれかの原本を提出してください。

原本は本学で写しをとった後，受験票送付用封筒に同封して返却します。

原本の写しや Web サイトをプリントアウトしたもの等の提出は，一切認めません。

提出しなかった場合は出願を認めません。

(ア) TOEIC 公開テストの Official Score Certificate (公式認定証)

(イ) TOEFL-iBT の Examinee Score Report (受験者用控えスコア票)

※スコアシートは平成 24 年 8 月 1 日以降の試験を受験したものに限りです。

※TOEIC-IP，TOEFL-ITP 等の団体特別受験制度によるスコアは認めません。

(出典：工学部作成)

資料工 77 工学部英語教育 WG

英語教育 WG のメンバーは以下の通りである

座長 工学部学部長補佐

メンバー 専任英語担当教員、学務委員長、国際交流委員会工学部委員

(出典：工学部作成)

③留学生担当教員の配置

平成 18 年度から留学生担当教員を配置し、20 年度から留学やインターンシップをサポートする職員を配置し、留学生を受け入れ、海外留学やインターンシップ派遣を積極的に勧めている。その結果留学生が徐々に増えてきている。(資料工 78) 平成 27 年度は 55 名の留学生を受け入れ、19 カ国で 27 大学と交流協定 (資料工 79) を結んで、国際交流を広く行っている。

また、英語に親しみ、諸外国への留学意欲を高める取り組みとして English Café を平成 25 年度より開催し、平成 27 年度は 49 回、561 人の参加者 (資料工 80) がある。これらにより、学生の派遣実績は増加している。(資料工 81)

資料工 78 留学生受け入れ実績

年度別留学生受け入れ実績					
H22	H23	H24	H25	H26	H27
44	46	50	46	54	55

(出典：工学部作成)

資料工 79 工学部の学部間及び大学間交流協定

国際交流（海外留学・外国人留学生）



国際交流センター専属のスタッフが常駐し、留学に関する相談を受付、長期・短期留学の紹介を行っています。また、毎週金曜日には学生が中心となって運営している ENGLISH CAFE を図書館で開催、英語オンリーのトークやプレゼンテーションを行い、語学力の向上と外国人留学生との異文化交流を行っています。



■ 外国人留学生数

中華人民共和国	25人
ベトナム社会主義共和国	15人
大韓民国	9人
マレーシア	7人
モンゴル国	5人
タイ王国	2人
バンラデシ人民共和国	2人
その他	8人
計	73人

※2015年4月現在

■ 海外の大学と提携

海外の大学多数と交流協定を締結し、留学を実現します。世界と直接ふれあい、視野を広げる貴重な体験ができます。優秀な留学生も多数入学し、国内においても異文化交流を実現します。

■ 海外の交流協定校（一例）

アメリカ	ロシア
エネ大学	極東連邦大学 など
オクサホマ州立大学	モンゴル
南テキソン大学	モンゴル科学技術大学
カナダ	中国
バンターバーアイランド大学 など	蘭州大学
オーストラリア	北京化工大学
カーティン大学	山東大学 など
フランス	韓国
ラ・ロッシェル大学	建國大学校
フランス国立繊維工業工業高等学院	漢陽大学校 など
ドイツ	タイ
ライプツィヒ大学	チェンマイ大学 など
マンハイム大学	インド
ベルギー	インド工科大学マドラス校
カトリック大学ルーヴェン	インドネシア
イタリア	アリタハラバン大学 など
ヴェネツィア カッポスカリ大学	台湾
ポーランド	輔仁大学
ピアリストク工科大学	ベトナム
ワルシャワ大学 など	ハノイ工科大学 など
オランダ	マレーシア
ソイト大学	マレーシアアブトラ大学 など

※2015年現在

(出典：工学部ガイドブック 2016 より)

資料工 80 English Café の案内

<https://www.facebook.com/pages/English-Cafe/256177621204537>

英語で話そう

毎週金曜 国内留学?

気軽に英会話

異文化交流 英語でプレゼン

ENGLISH CAFE

毎週金曜日12:00-14:00 @工学部図書館 1Fリフレッシュコーナー

飲食持込可

Friday 12:00-14:00 @Library

5月-6月のプレゼン予定

5/9 「英語学習に使える電子ブック・電子ジャーナルについて」
図書館 萩原 泰子さん

5/16 「海外における危機管理について」
長野県警察本部教養課次長 降旗大造さん

5/23 世界を知ろう「ミャンマー」 メイスーシンさん

6/6 世界を知ろう「モンゴル」 シャンハンメイラムバックさん

6/20 世界を知ろう「マレーシア」
イリヤスピニスマイルさん
ロジャーコオコユファンさん

入退室自由

English Cafeでは?
通常、いくつかのグループに分かれて
英語での会話を楽しめます。
週によっては、英語プレゼンテーションが
行われることもあります。
グループの中でプレゼンの話題を
ディスカッションすることも。

【問い合わせ】学務係グローバルデスク 担当：松澤 026-269-5586 matsuzawa_keiko@gm.shinshu-u.ac.jp

English Cafe 開催実績

	H25(12月から)	H26	H27
件数	12	49	49
参加者数	216	1,253	1308
工学部参加者	未集計	721	561

(出典：工学部作成)

資料工 81 留学派遣の実績

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
人数	0	4	4	11	30	36	33

数週間の短期留学も含む

(出典：工学部作成)

(4) 学生の主体的な学習を促すための取組

①授業等における取組み

主体的な学習を促すための種々の取組を行っている。(資料工 82)

資料工 82 各学科の特色ある試み

○電気電子工学科

【学生実験】

レポートの個別指導：実験の最終日に、全ての実験に関して、担当の教員よりそれぞれの

実験の詳細やレポートのまとめ方などについて説明するフォローアップの回を設けている（実験 I から III 全て）。（実験 I についてはその後、不可のレポートは再提出させる）

【自動制御 I、II】

近年の学習姿勢レベル改善のため、解答付きの練習問題 10 問程度を予習課題としてノートに写経させる。小テストの際、学生同士で確認をさせ、工夫している点をコメントさせることで、宿題の徹底化と、相互の学習意欲向上を促している。

【その他】

・プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上のために、大学祭で開催する電気電子工学科フォーラムで、4 年、大学院生に研究紹介をさせている。また 3 年生にはどのような研究室があり、どのような研究が行われているのかを知る良い機会として、フォーラムへ参加させている（専門セミナー講義 1 回分）。

・3 年生の講義で、少なくとも 1 回は会社や他大学といった外部の方の講演を入れ、基礎学問がどのように実際に応用されているのかや社会人として必要なスキルや求められることを学ぶ機会を設けている。

○情報工学科

【授業科目：デザインプロジェクト】

学生がグループ毎に主体的に課題設定を行う授業。いわゆるアクティブラーニングとして 10 年以上前から開講している。主な内容については、以下のとおりである。

●授業の概要

本授業では、情報工学分野における高度な製作実験・プログラム設計などを行う。実験課題はハードウェア分野、ソフトウェア分野、もしくはその両方にまたがる分野から設定もしくは選択することができる。単位を取得するためには、当初の計画立案とその遂行、中間および最終のレポートまたは発表などを通じた審査に合格する必要がある。

●授業計画

概ね以下の計画に沿って行う。

1. テーマの設定を行い、その作業日程・費用・成果などの見積もりを含む実験計画を立案する。
2. ミーティング計画の妥当性をレビューなどを通して行い、計画の承認を得る。
3. 実際の製作・プログラミングなど承認された計画を遂行する。遂行途中での計画変更などがあれば、再度、レビューなどを行い、変更の妥当性を検討する。審査のためのレポートおよび発表準備も同時に行う。
4. 成果の審査面接・発表会成果の審査を面接もしくは発表会を通して行い、プレゼンテーションおよび成果に対す議論を行う。
5. 最終レポート提出面接・発表会等での指摘を反映した最終的なレポートを作成する。

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 プロジェクト課題の説明

第 3 回 グループ作業（作業計画立案など）

第 4 回 グループ作業（作業計画のレビュー等）

第 5 回 グループ作業

第 6 回 グループ作業

第 7 回 グループ作業

第 8 回 中間発表会または中間報告書提出

第 9 回 グループ作業

第 10 回 グループ作業

第 11 回 グループ作業

第 12 回 グループ作業

第 13 回 グループ作業

第 14 回 成果報告会

第 15 回 最終報告書提出

○環境機能工学科

【1年生の研究室見学】

10人ほどのグループごとに全研究室を約10分ずつ見学する。4年生・院生が中心になって説明・質疑応答を行う。研究以外にも、授業や生活についてのアドバイスなども行っていた。その後、全体で教員が質疑応答を行う。

(効果)

(共通教育時にも専門教育に触れるため)特定の研究に興味をもつ学生が増えた。進級後に入りたい研究室があるということをよく耳にする。先輩から情報が得られることも重要。

【3年生後期からの研究室仮配属】

4年生への進級条件をほぼ満たしている学生に対して、成績順に希望の研究室に配属させる。4年生で研究室を変えることもできる。

(効果)

(研究だけでなく、その他の指導も行き届くため)教員や先輩との交流機会が増え、個人指導により専門教育が充実するようになった。授業の少ない3年生後期の時間を有効に使えるようになった。就職活動にも有利である

(出典：工学部作成)

②学習環境としての図書館の整備

平成 22 年度の耐震補強改修を機に、学習環境としての整備、運営を図っている。改修前(H21)と比較して入館者数(特別利用含む)は倍増している。(資料工 83) 特別利用は夜間無人開館制度(資料工 84)である。

資料工 83 図書館入館者数

入館者数							(名)
年度	平日	土曜	休日	特別利用	合計(特別利用除く)	合計(特別利用含む)	
H21	73,711	3,235	1,512	-	88,458	-	
H22	47,151	2,232	1,257	-	50,640	-	耐震改修工事実施
H23	132,871	5,317	2,112	24,401	140,300	164,701	特別利用制度開始(5/9~)
H24	137,555	5,564	1,660	31,202	144,779	175,981	
H25	144,764	6,348	2,067	35,468	153,112	188,580	
H26	126,892	6,121	2,343	35,244	135,356	170,600	
H27	117,216	5,002	1,910	34,547	124,128	158,675	

開館日数							(日)
年度	平日	土曜	休日	特別利用	合計(特別利用除く)		
H21	233	34	6	-	273		
H22	211	34	7	-	252		耐震改修工事実施
H23	237	35	6	308	278		特別利用制度開始(5/9~)
H24	237	35	3	338	275		
H25	236	33	5	336	274		
H26	236	35	6	325	277		
H27	234	36	6	348	276		

(出典：工学部作成)

資料工 84 図書館の夜間無人開放

夜間開館 (特別利用) の 利用申請方法

「工学部図書館特別利用申請書」を
提出し、講習会に参加してください

講習会受講後 →
特別利用が可能になります



★工学部図書館特別利用:

閉館後や休館のときでも、学習のために24時間
図書館を利用できます。(本の利用はできません)
講習会は定員20名で、1日2回/1カ月に4回の頻度で開催しています。
都合のいい日時を選んで受講してください。

**進学等で学籍番号が変わった方は
再度申請書の提出が必要です!!**

(出典：工学部作成)

自習室の利用状況 (資料工 85)

資料工 85 図書館自習室の利用状況

2階グループ学習室(平成23年度(耐震改修工事後)から設置)

- ・面積約50㎡。間を可動式パーテーションで区切り、2室として利用することが可能。
- ・ホワイトボード2台、プロジェクタ設備1基。
- ・利用は予約制(ただし、予約が入っていない時間帯は、自由に利用可)。

年度	第1		第2		第1+第2		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
H21	-	-	-	-	-	-	-	-
H22	-	-	-	-	-	-	-	-
H23	103	1,236	34	408	240	5,760	377	7,404
H24	132	1,584	39	468	326	7,824	497	9,876
H25	208	2,496	98	1,176	158	3,792	464	7,464
H26	91	1,092	35	420	300	7,200	426	8,712
H27	38	456	23	276	249	5,976	310	6,708

耐震改修工事実施
グループ学習室設置

(出典：工学部作成)

③ラーニングアドバイザー (以下 LA) 等による学習相談

平成 24 年度より大学院生による学習支援 (資料工 86) を実施している。ほぼ毎日 2 時間、相談を受け付けている。受け付けた相談内容及び回答は「LA 質問記録」に記録して、傾向把握に努めている。

毎月の時間割 (資料工 87) を掲示し、相談したい分野・内容の LA を選べるようになっている。学習支援にとどまらず、生活や就職活動・進路に関する悩み等も受け付け、必要に応じて図書館職員を通じて担当部署を紹介している。

資料工 86 工学部図書館 LA の活動実績

年度	相談者数	相談件数	実施期間
H24	24	21	6/5-1/27
H25	89	89	4/10-1/28
H26	92	92	4/9-1/27
H27	93	93	4/8-1/26

(出典：工学部作成)

資料工 87 LA の時間割 (例)

7 月						
日	月	火	水	木	金	土
		1 4～6 時 A 君	2 休講日	3 3～5 時 B 君	4 3～5 時 C 君	5
6	7 4～6 時 F 君	8 3～5 時 C 君	9 3～5 時 B 君	10 4～6 時 A 君	11 3～5 時 D 君	12
13	14 (数学) 3～5 時 数学教員	15 4～6 時 A 君	16 F 君	17 3～5 時 E 君	18 3～5 時 D 君	19
20	21 海の日	22 3～5 時 C 君	23 3～5 時 B 君	24 3～5 時 E 君	25 3～5 時 D 君	26 ※ 1～3 時 C 君
27	28 4～6 時 F 君	29 3～5 時 C 君	30 3～5 時 B 君	31 期末試験 開始		

(出典：工学部作成)

(5) 教育の質を保証するための工夫

①入学前教育 (資料工 88) を行っている。

資料工 88 入学前スクーリング

対象は職業高校からの推薦での合格者で入学手続きをしたもの

入学前スクーリング・スケジュール (H27.3)

日程 (3月)			講義室	講師	9:00-9:30	9:30-12:00	昼休	12:45-14:45	休憩	15:00-16:00	休憩	16:10-17:00	17:00-17:30
					30分	第1時限 150分 (小休10分)		45分		第2時限 120分 (小休10分)		15分	第3時限 60分
1日目	9日	月	講義棟 102番教室	松田	ガイダンス	数学1		数学1		数学1		数学テスト1	自習時間
2日目	10日	火	講義棟 102番教室	橋詰	自習時間/ 9:20-講師紹介	物理1		物理1		物理1		物理テスト1	自習時間
3日目	11日	水	学部共通棟 第1講義室	松田	自習時間	数学2		数学2		数学2		数学テスト2	自習時間
休み	12日	木											
4日目	13日	金	講義棟 102番教室	橋詰	自習時間	物理2		物理2		物理2		物理テスト2	自習時間
5日目	14日	土	講義棟 102番教室	松田	自習時間	数学3		数学3		数学3		数学テスト3	自習時間
休み	15日	日											
6日目	16日	月	講義棟 102番教室	橋詰	自習時間	物理3		物理3		物理3		物理テスト3	自習時間
7日目	17日	火	講義棟 102番教室	松田	自習時間	数学4		数学4		数学4		数学テスト4	自習時間
8日目	18日	水	講義棟 102番教室	橋詰	自習時間	物理4		物理4		物理4		物理テスト4	自習時間
9日目	19日	木	講義棟 102番教室	松田	自習時間	数学5		数学5		数学5		数学テスト5	自習時間
10日目	20日	金	講義棟 102番教室	橋詰	自習時間	物理5		物理5		物理5		物理テスト5	自習時間

(出典：工学部作成)

②工学基礎教育の充実を図るための工学基礎教育部門

数学系では、学生が専門科目を学ぶ際に必要な応用解析の基礎と問題解法の技法についての教科書「応用解析の基礎」(培風館)を共同執筆し(資料工 89)、平成 25 年発行した。

物理系では、学生が実験の結果とその原理を理解できるように独自テキストを作成し、グループ単位に質問しながら実験ノートをチェックすることで学生の理解度を把握し、補足説明を加えている。

資料工 89 応用解析の基礎の目次

- 1 微分方程式(微分方程式と解微分方程式の求積解法 ほか)
- 2 ラプラス変換(ラプラス変換の定義、ラプラス変換の基本法則 ほか)
- 3 フーリエ解析(フーリエ級数、フーリエ余弦級数とフーリエ正弦級数 ほか)
- 4 ベクトル解析(ベクトルとベクトル関数、曲線と曲面 ほか)
- 5 複素関数(複素数と複素平面、複素関数 ほか)

(出典：工学部作成)

③保護者ガイダンス

平成 24 年から入学式後に保護者ガイダンスを行っている。(資料工 90) 授業内容、学生指導の体制、各科の授業の特徴、学習、生活指導の状況などを説明している。アンケート結果(資料工 91)でもガイダンスや成績通知に関して高い評価を得ている。

資料工 90 平成 26 年度保護者ガイダンス資料の一部

卒業までの教育プログラム

入学 → 1年生 → 2年生 → 3年生 → 4年生 → 卒業

1年生: 共通教育科目 (教養、外国語、健康科学、新入生セミナー、基礎科学)

2年生: 専門科目 (専門基礎、専門(講義+演習+実験))

3年生: 研究室配属

4年生: 卒業研究

就職活動: 3年生から4年生にかけて実施

卒業までの教育プログラム: 入学、引越、進学、卒業、修士課程に進学

教職課程 (中学理科、高校理科・数学・情報・工業)

基礎から応用まで学べる幅広いカリキュラム

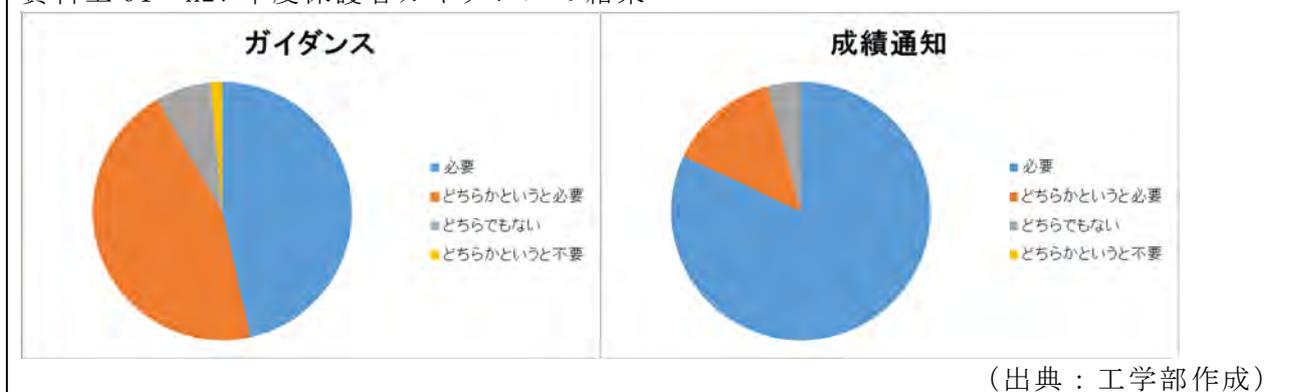
【例】環境機能工学科の場合

1年次(基礎科目)	2年次(基礎科目)	3年次(応用科目)	4年次(応用科目)
<ul style="list-style-type: none"> 環境学概論 環境化学概論 環境工学概論 環境システム概論 環境法概論 環境倫理概論 環境英語概論 環境情報概論 環境工学概論 環境システム概論 環境法概論 環境倫理概論 環境英語概論 環境情報概論 	<ul style="list-style-type: none"> 環境化学 環境工学 環境システム 環境法 環境倫理 環境英語 環境情報 	<ul style="list-style-type: none"> 環境化学工学 環境システム工学 環境法工学 環境倫理工学 環境英語工学 環境情報工学 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究 修士課程

1年次から3年次までに、環境科学系、機械工学系、応用化学系の基礎を習得し、4年次でエコテクノロジーの卒業研究を行います。
4年次で研究室に配属されると少人数教育により、コミュニケーション能力など、さらに**人間力が磨かれます。**

(出典：工学部作成)

資料工 91 H27 年度保護者ガイダンスの結果



④保証人への成績通知

平成 23 年度から保証人への成績通知を行っている。(資料工 92) 単位取得状況、卒業や 4 年生進級条件などを示し、学生の勉学状況の概要を把握してもらうことを目的としている。

資料工 92 保証人への成績通知

信州大学工学部 保証人への成績通知書の送付に関する実施要項

〔2010.11 学務委員会〕

【目的】

学部生のスポンサーでもある保証人（主に父母）へ、学生の成績を通知することにより、就学状況や進級・卒業見込みについて、大学・学生・保証人が相互に情報を共有し就学指導等に役立つとともに、保証人へ大学からの情報を発信することも目的とする。

【送付時期】 毎年度学期末成績確定後（翌学期の 4 月と 10 月）

【対象学生】 学部 1～3 年生（4 月時は学年更新後の新学年で表記）…1、500 名前後
留学生は相談員が毎学期成績チェックを行い個別指導しているため対象外とする。

【送付物】 長 3 封筒 80 円分で郵送（原則 A 4 判 3 枚まで）

- 学部通知文……学務係で作成・印刷
- 学科通知文……学科で原稿作成・学務係で印刷
- 成績通知書……学務係で出力

【個人情報提供の不同意者の取り扱い】

入学時等に提出する『学生に関するプライバシーポリシーに関する申出書』のうち、「父母又は保証人へ個人情報を提供しない」を申し出た学生の保証人へは送付しない。
 ※ただし、上記学生については、入学時の手続き書類の一部ということもあり、内容等を熟知できないまま申し出たことも考えられ、学科として不都合があれば、学生本人や保証人へご助言いただき、「保証人への成績等情報を提供することに同意する」手続きを学務窓口においてするよう指導する。（窓口で原本を修正してもらう。1年生の場合は応相談）
 また、学務係で行う今後の入学手続き者への通知において、「当該申し出をすることによって、保証人への成績通知がされなくなる」という注意文を付け加えることとする。
 （出典：工学部作成）

⑤後援会

毎年夏休み前に、後援会（保護者会）の総会を行っている。（資料工 93）

平成 26 年度のアンケートでは、入学時の保護者ガイダンスや学期末の成績通知に関して高い評価を得た。（資料工 94）

資料工 93 工学部後援会規約

第一章 総 則

第一条 本会は、信州大学工学部後援会と称し、事務所を信州大学工学部に置く。

第二条 本会は、信州大学工学部の学生生活の向上に関して後援することを目的とする。

第二章 事 業

第三条 本会は、第二条の目的を遂行するために、左の事業を行う。

- 一 卒業生の就職斡旋の援助
- 二 学生の保健、体育、厚生施設の援助
- 三 学生の課外活動の助成
- 四 講演会、講習会等の開催
- 五 その他必要ある事項

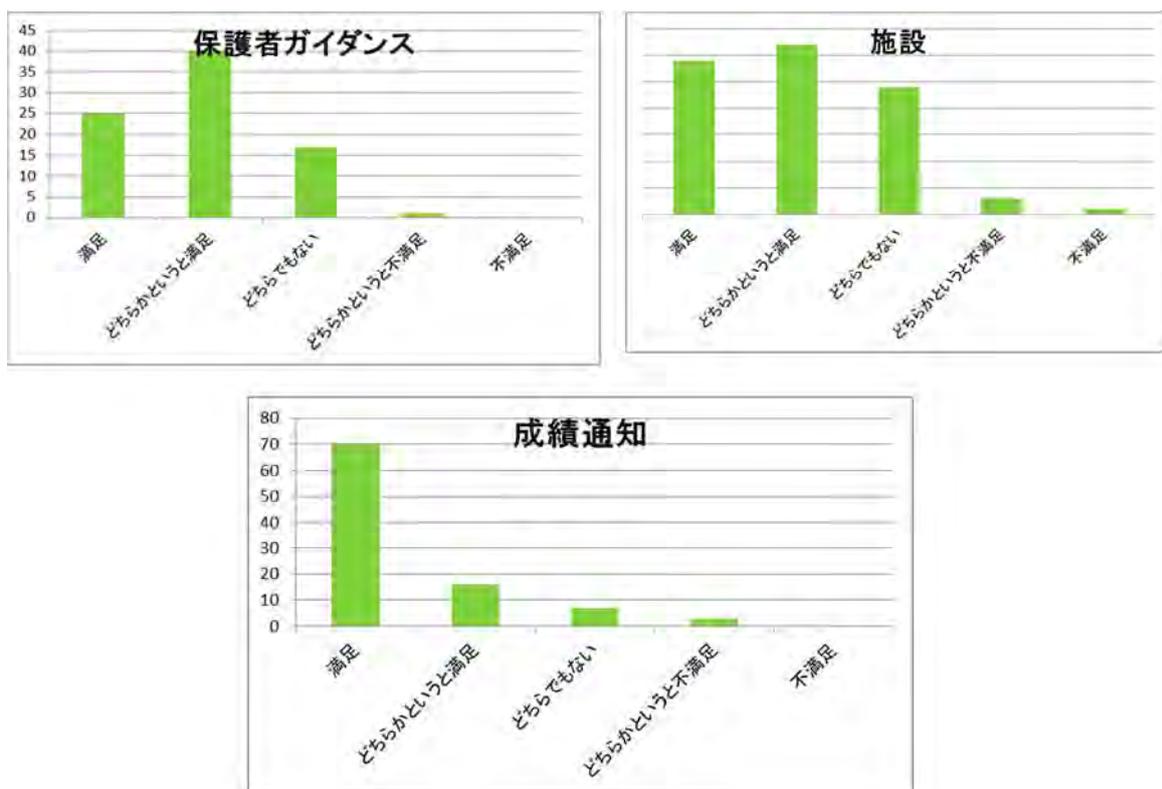
第三章 会 員

第四条 本会は、次の会員をもって組織する。

- 一 正会員 信州大学工学部在学生の保護者
- 二 賛助会員 本会の趣旨に賛同し、一時金五、〇〇〇円以上を寄附した者並びに
 理事会で推薦した者
- 三 特別会員 本会に功績があり、理事会で推薦した者

（出典：工学部後援会規約抜粋）

資料工 94 平成 26 年度後援会アンケート



(出典：工学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

学生の体系的な履修を促すために履修チャート（前掲資料工 67、p 36）を学生便覧等に記載している。授業科目と DP の関係をシラバス中に明記（前掲資料工 71、p 41）して公開している。

各学科独自の教育的試みを実施し、学生の自発的学習を促す仕組みを構築している。（前掲資料工 82、p 51）

卒業生アンケートを平成 24 年度から実施し（前掲資料工 75、p 47）、結果を教員会議で公開して、さらなる授業改善を図っている。

国際通用性のある教育については、語学力向上のために、平成 25 年度から 1 年生全員を対象とした TOEIC-IP 試験を実施し、高年次生には TOEIC 試験の受験を推奨している。（前掲資料工 76、p 49）また、English Cafe を実施（前掲資料工 80、p 51）するなど、英語に親しむ機会を増やし、留学生の受入及び派遣実績が向上している。（前掲資料工 78、81、p 50～51）

図書館の自習室の整備（前掲資料工 85、p 54）、夜間開放（前掲資料工 84、p 54）、LA の設置（前掲資料工 86～87、p 55）などを行った。平成 21 年度と 25 年度を比較すると、入館者はほぼ倍増（前掲資料工 83、p 53）しており、学生の学習環境として定着している。夜間開放利用者（前掲資料工 83、p 53）、LA の相談件数（前掲資料工 87、p 55）も大幅に増加している。

後援会総会（資料工 93）、入学時の保護者ガイダンス（資料工 90）、学期末の成績通知（資料工 92）等、教育改善に向けて活発な活動を行っている。後援会アンケート（資料工 94）によれば、保護者ガイダンス、成績通知についての満足度は極めて高い。

以上より、学生・保護者及び国際社会から期待される水準を上回る、と判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

① 履修状況

平成 21 年度から 27 年度までの本学部専門科目における単位修得状況は (資料工 95) の通りである。受講者数平均は約 70 名で、授業での合格率 (単位修得率) は平均約 80% である。

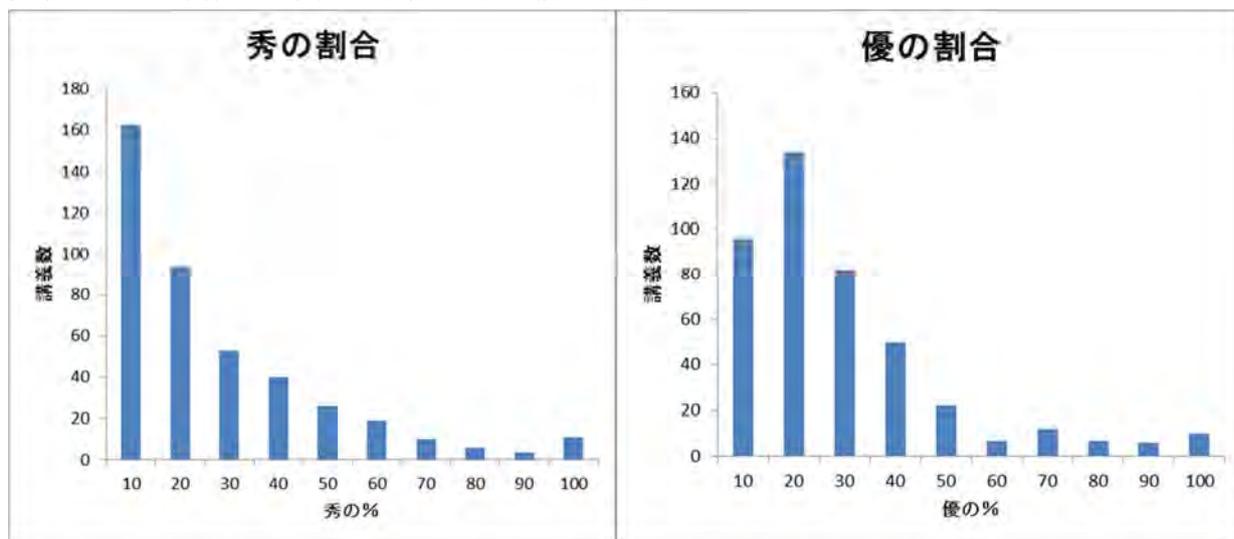
資料工 95 H21 から H27 までの単位取得状況

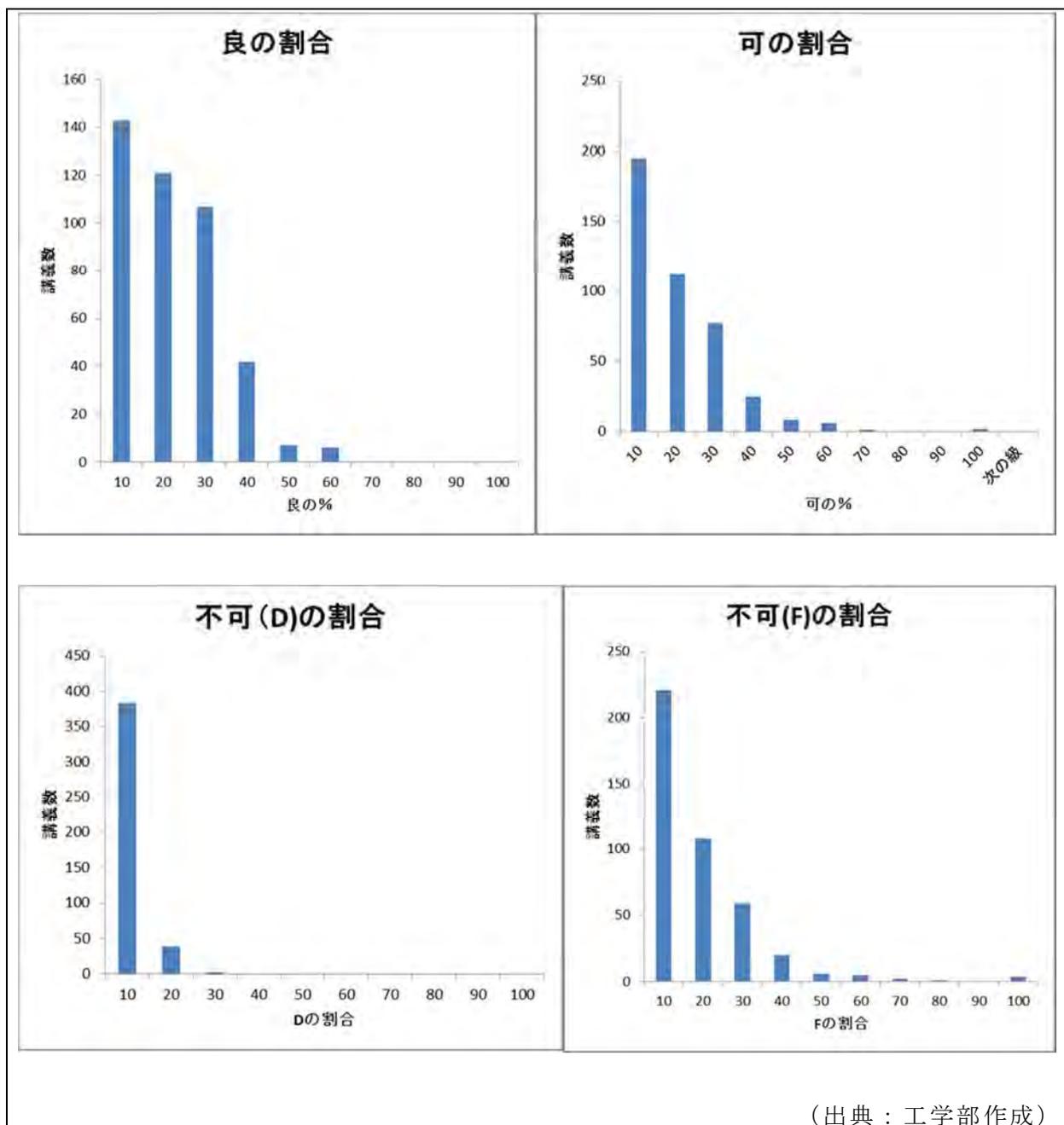
年度別単位取得状況 合格率は受講者のうち以上の成績を認定された学生の割合							
	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
授業数	456	426	410	413	415	410	426
受講者数平均	63	68	69	68	67	74	64
合格者数平均	50	53	55	54	53	53	52
合格率平均(%)	80.5	74.5	79.8	79.4	79.5	76.1	82.1

(出典：工学部作成)

平成 27 年度授業の成績評価の割合を示す。(資料工 96)

資料工 96 平成 27 年度の授業の各評価の割合

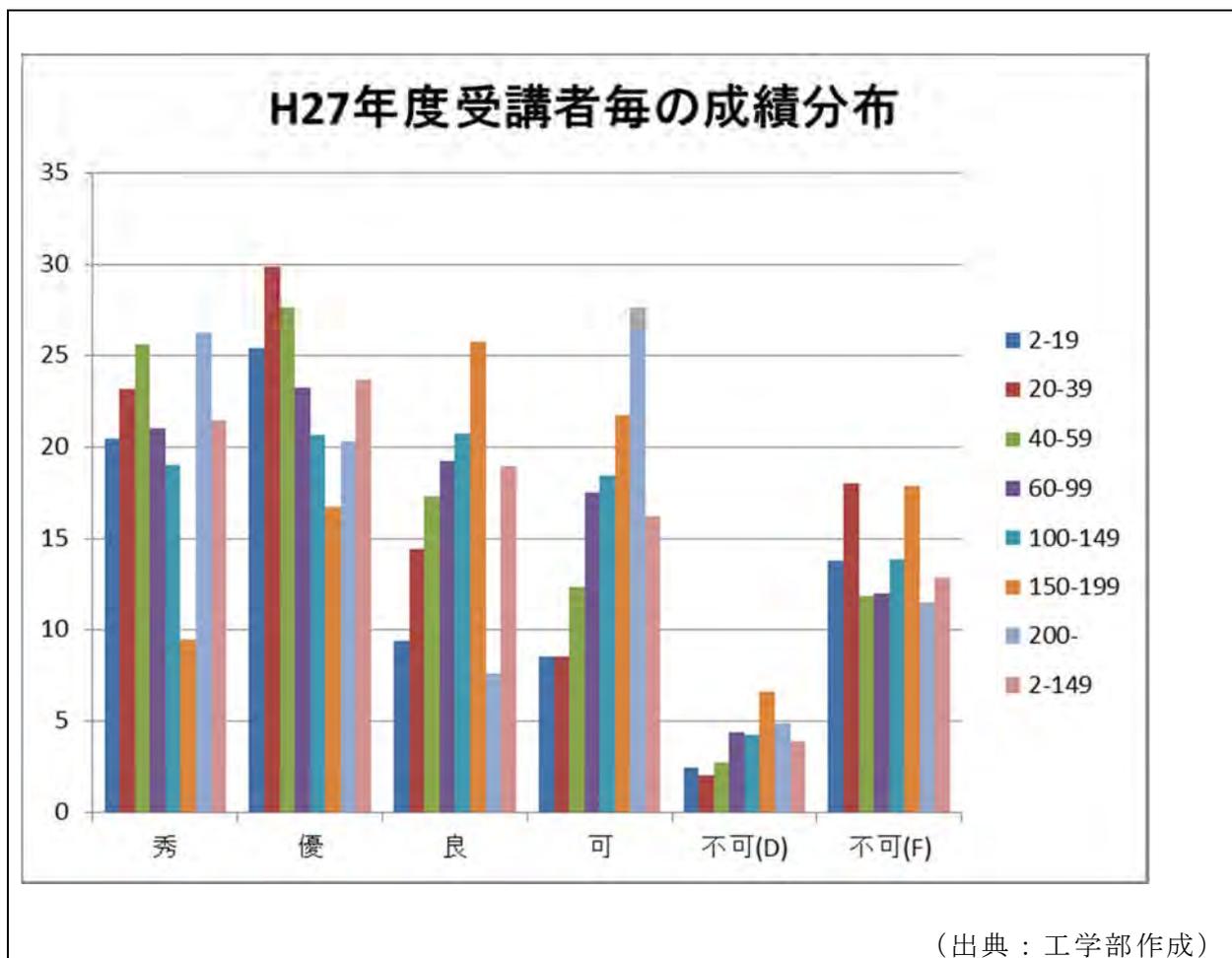




平成 27 年の受講者人数ごとの成績の分布を示す。(資料工 97) 極端な偏りはなく、妥当な評価が行われていると判断できる。

資料工 97 平成 27 年度前期・後期・通年の授業の成績分布単位：%

受講者数	授業数	秀	優	良	可	不可(D)	不可(F)
2-19	51	20.44	25.41	9.39	8.56	2.49	13.81
20-39	42	23.16	29.89	14.48	8.53	2.03	18.08
40-59	99	25.62	27.65	17.36	12.41	2.75	11.90
60-99	109	21.05	23.23	19.25	17.55	4.43	12.04
100-149	66	19.07	20.68	20.77	18.47	4.25	13.92
150-199	5	9.45	16.79	25.75	21.77	6.59	17.91
200-	2	26.23	20.34	7.60	27.70	4.90	11.52
2-149	407	21.47	23.71	18.94	16.25	3.90	12.88



② 進級（留年）状況

3年から4年への進級判定（卒業研究を課すかどうか）を行っている。例として電子電気工学科の進級条件を示す。（資料工 98）

資料工 98 電気電子工学科の進級条件

2年次への 進級要件	2年次への進級関門は設けていないが、1年次の修得単位が極端に少ない場合は、松本キャンパスに引き続き在留して1年次の授業科目を履修することを勧告
3年次への 進級要件	3年次への進級関門は設けていない。
4年次への 進級要件	1～3年次に修得を要する全単位のうち、以下の全ての条件を満たしていること。 ①「全必要単位（共通教育科目38単位＋専門科目76単位）－4単位」を修得 ②修得指定科目 「電気電子実験基礎」 「電気電子実験Ⅰ」 「電気電子実験Ⅱ」 「電気電子実験Ⅲ」 以上4科目すべて修得

(出典：工学部作成)

卒業研究を課されない学生(留年生)の割合を示す。（資料工 99）留年生に関しては指導

教員が全員を呼び出し、指導に努めている。

資料工 99 年度別の3年から4年への進級不可率

年度別進級不可率(4月進級者)							
	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
機械システム	23.6	26.4	16.7	21.4	18.2	25.3	10.4
電気電子	21.0	25.4	27.6	29.9	32.8	29.2	28.0
社会開発	23.4	22.5					
土木	33.9	34.2	43.5	43.5	38.1	43.8	29.2
建築	13.6	8.1	19.6	25.8	27.3	23.9	20.0
物質	14.5	21.1	16.3	23.7	23.0	41.0	26.7
情報	19.7	27.4	25.8	16.2	17.2	18.0	13.9
環境機能	26.2	27.5	25.7	17.6	16.9	22.4	9.7
工学部	21.4	25.1	24.9	25.0	24.7	28.5	19.6

※たとえば H27 年度は H27/4 に進級不可が確定した学生の割合 (%) である

すべての単位認定が完了する4月に進級が決定する。10月進級もあるので、それを含めると不可率はこれよりも小さくなる。

H21, H22 年度の土木、建築はコースとしての値である

(出典：工学部作成)

③ 休退学状況 (資料工 100)

資料工 100 平成 21 年度以降の休退学者数

【退学者数】	平成21年度 (2009)	平成22年度 (2010)	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	備考 (詳細)	
合計	28	32	48	32	43	22	22	-	
理由 (内訳)	進路変更	16	18	30	20	24	11	16	就職・他大学への入学・専門学校入学等
	一身上の都合	4	3	7	2	5	8	5	家庭の事情・病気(診断書のないもの)等
	経済的理由	3	2	4	1	6	1	0	本人または家庭の経済事情・それによる就職活動
	病気・事故	0	0	2	2	0	1	0	診断書のあるもの
	学業不振	3	8	5	6	8	1	1	単位不足
	在学期間満了	2	1	0	1	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	

【休学者数】	平成21年度 (2009)	平成22年度 (2010)	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	備考 (詳細)	
合計	16	24	38	36	51	43	55	-	
理由 (内訳)	経済的理由のため	7	15	15	25	35	28	33	家庭の経済事情・アルバイトに専念・兄弟姉妹の進学等
	疾病	9	6	20	8	11	13	18	抑うつ状態・適応障害・不安障害・自律神経失調症・統合失調症等
	留学のため	0	1	2	3	5	1	3	
	学部長等が同等以上の事情と特に認めた	0	2	0	0	0	1	1	
	その他	0	0	1	0	0	0	0	

(出典：工学部作成)

④ 卒業状況

平成 21 年度からの卒業率（93%から 97%）及び卒業に要した平均年数（4.2 年）を示す。
（資料工 101）

資料工 101 年度別卒業率及び卒業に要する年数

年度別卒業率(H22年度はH22/9及びH23/3卒業者)							
	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
機械システム	0.99	0.95	0.89	0.98	0.98	0.96	0.96
電気電子	0.97	0.96	0.95	0.89	0.93	0.98	1.00
社会開発	0.95	0.85					
土木			0.92	0.88	0.82	0.83	0.90
建築			0.94	0.96	0.92	0.97	0.98
物質	1.00	1.00	0.96	0.97	0.95	0.98	1.00
情報	0.97	0.94	0.96	0.94	0.94	1.00	0.97
環境機能	0.90	0.96	0.91	0.89	0.89	0.93	0.94
工学部	0.97	0.93	0.93	0.93	0.93	0.96	0.97

※卒業率は各年度に卒業研究を課された学生の中で、4年の就学年数を経た学生の数に対しての卒業した学生の数の割合。

社会開発工学科は H23 年度からは土木、建築の 2 学科に改組。

卒業に要する平均年数		
	該当期	平均年数
H27年度	H27/9.H28/3	4.19
H26年度	H26/9.H27/3	4.21
H25年度	H25/9.H26/3	4.21
H24年度	H24/9.H25/3	4.14
H23年度	H23/9.H24/3	4.17
H22年度	H22/9.H23/3	4.15
H21年度	H21/9.H22/3	4.13

平均年数の算出方法：各年度の卒業者の、在籍年数（休学期間含む）の和を卒業者数で割ったもの、但し編入生は含まれない

（出典：工学部作成）

⑤ GPA について

平成 26 年度入学生から GPA 制度を導入し（資料工 102）、先述の学生と教員との面談（前掲資料工 35～36、p20）でも、GPA 値の活用を始めている。

資料工 102 学生便覧における GPA 記述

GPA 制度について

信州大学では、学生が適切に履修計画をたて、自主的、意欲的に学習することを促すとともに、適切な修学指導に資することを目的として、平成26年度学部入学生から、「GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度」を導入する。

このGPAは、世界の大学で広く用いられている学生の成績評価方法である。会社に就職する、大学院に進学する、海外の大学に留学するような場合に応募先での採否の判断となるものである。

教員は、GPAを活用することにより成績不振学生を早期に見出し、適切な指導に繋げることができる。

■GPAについて

「GPA」とは、秀、優、良、可及び不可の5種の評語をもって表した成績の単位数に、それぞれの科目のGP（Grade Point）を掛けて合計したものを、履修登録を行った単位数の合計で割って計算した、GPの平均値（Average）である。評語と評点とGPの関係を以下に示す。

評語	評点	GP
秀（S）	90-100	4
優（A）	80-89	3.33
良（B）	70-79	2.67
可（C）	60-69	2
不可（D）	50-59	1
不可（F）	0-49	0

※各科目の単位修得には、「可」以上が必要である。

■GPAの計算式について

$$GPA = \frac{[\text{履修登録した科目の単位数} \times \text{当該科目のGP}] \text{の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数（不可（D・F）を含む、履修取消した授業は除く）合計}}$$

【GPAの計算例】

授業の成績	GPの計算
科目A（2単位）でB（良）を取った	2.67×2 = 5.34
科目B（4単位）でA（優）を取った	3.33×4 = 13.32
科目C（2単位）でD（不可）を取った	1.00×2 = 2.00
科目D（4単位）でS（秀）を取った	4.00×4 = 16.00
科目E（2単位）でF（不可）を取った	0 × 2 = 0

$$GPA = \frac{5.34 + 13.32 + 2.00 + 16.00 + 0}{2 + 4 + 2 + 4 + 2} = \frac{36.66}{14} = 2.62$$

※小数第3位を四捨五入した数値を小数第2位まで表示し、その値をGPA値とする。

- 履修登録した科目のうち、GPAの計算式に入らない科目がある。
 - 成績を「合格」・「不合格」で評価する科目
 - 他大学等で単位修得し、本学が「認定」とした科目
 - 学部で指定する科目（各学科の専門科目一覧表で確認すること）
 ※履修取消した授業科目は、GPA計算式からは除外される。
- 「不可（D・F）」の科目を再履修して合格（単位修得）した場合、再履修前の「不可（D・F）」の成績はGPAの計算式に入らない。
 - 同じ科目名の授業でなければ「再履修」にはならない。
 - 「不可（D・F）」と成績評価された科目を、再び履修登録して合格した場合は、「可」以上（GP=2~4）の成績がGPAの計算式に入り、「不可」（GP=0、1）の成績は合格した学期以降のGPA計算式から除外される。なお、再履修して再び「不可（D・F）」と成績評価された場合も、再履修後のGP値に置き換わる。
 - 授業は来年度も同じものが開講されるとは限らないため、再履修ができない場合もある。
「履修登録した科目は必ず合格する」という決意をもって履修すること。

■GPAの通知について

- 学期毎に、キャンパス情報システム（Web）から、成績評価と、科目ごとのGP値及び学期毎・在学中の通算のGPA値が確認できる。
- 学期毎及び在学中の通算GPA値を確認することで、学習成果の指標とすること。例えば、1年次前期のGPA値が2.0以下であった場合、1年次後期や2年次以降の学習に支障をきたす可能性が高いため、1年次前期の内容を復習すると同時に後期の勉強の準備をしっかりとすること。
- なお、GPA値は担任との面談でも利用される。

（出典：工学部学生便覧）

2 学生が受けた様々な賞の状況から判断される学習成果の状況
平成22年から平成27年までの学生の受賞を示す。（資料工103）

資料工 103 学生表彰 (抜粋)

学科名	賞のタイトル	主催者	受賞年月日
情報工学科	ACM-ICPC: ACM International Collegiate Programming Contest Asia Regional Contest 2010 in Tokyo, Honorable mention	ACM-ICPC東京大会実行委員会	2010年6月5日
電気電子工学科	優秀発表賞	電気学会基礎・材料共通部門大会	2010年9月13日
電気電子工学科	研究奨励賞	電気学会マグネティックス技術委員会	2010年9月21日
電気電子工学科	学生奨励賞	電子情報通信学会信越支部	2010年10月2日
サークル	第14回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム 第5回情報危機管理コンテスト優勝, 経済産業大臣賞	サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会	2010年12月13日
電気電子工学科	優秀論文賞	電子情報通信学会信越支部信州大学学生ランチ	2010年12月22日
機械システム工学科	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	日本機械学会	2011年3月5日
物質工学科	日本化学会東海支部長賞	日本化学会東海支部	2011年3月22日
電気電子工学科	YPC優秀賞	電気学会産業応用部門大会	2011年9月7日
機械システム工学科	計測自動制御学会中部支部シンポジウム2011「システム」受賞	計測自動制御学会中部支部 信州地区計測制御研究委員会	2011年9月30日
機械システム工学科	日本機械学会北陸信越支部学生賞	日本機械学会北陸信越支部	2012年3月9日
物質工学科	日本化学会東海支部長賞	日本化学会東海支部	2012年3月22日
電気電子工学科	第1回有機・無機エレクトロニクスシンポジウムポスターアワード	応用物理学会 北陸・信越支部	2012年6月29日
物質工学科	越境界ミニワークショップ学生賞	SCF-TT研究会	2012年9月9日
環境機能工学科	Award for Encouragement of Research in Materials Science Symposium D-10	国際材料研究会連合会	2012年9月28日
物質工学科	第21回ソノケミストリー討論会 奨励賞受賞	日本ソノケミストリー学会	2012年11月9日
電気電子工学科	国際会議CNME2012 Best Poster Award	第10回ナノ分子エレクトロニクスに関する国際会議(CNME2012)総務委員会	2012年12月14日
電気電子工学科	優秀論文賞	電子情報通信学会信越支部 信州大学学生ランチ	2012年12月19日
電気電子工学科	平成24年度応用物理学会学術講演会 北陸・信越支部発表奨励賞	応用物理学会 北陸・信越支部	2013年2月2日
機械システム工学科	日本機械学会北陸信越支部賞学生賞	日本機械学会北陸信越支部	2013年3月8日
物質工学科	日本化学会東海支部長賞	日本化学会東海支部	2013年3月22日
情報工学科	電子情報通信学会教育工学研究会研究奨励賞	電子情報通信学会	2013年3月29日
電気電子工学科	ICF 11 New Product & Novel Technology Award	11th International Conference on Ferrites (ICF 11)	2013年4月18日
物質工学科	平成25年度分離技術会年会学生賞受賞 -25.530	分離技術会	2013年5月25日
物質工学科	平成25年度分離技術会年会学生賞受賞	分離技術会	2013年5月25日
電気電子工学科	2013アカデミックプラザ賞	(一社)エレクトロニクス実装学会	2013年6月5日
情報工学科	情報処理学会インターネット通用技術研究会 第18回研究発表会 学生奨励賞	情報処理学会	2013年6月28日
電気電子工学科	優秀論文発表賞	(一社)電気学会	2013年9月12日
電気電子工学科	学生奨励賞	電子情報通信学会信越支部	2013年10月5日
物質工学科	材料技術研究協会討論会「ゴールドポスター」受賞	材料技術研究協会	2013年12月7日
環境機能工学科	International Symposium on EcoToxic Science 2013(ISETS'13) Outstanding Presentation Award受賞	名古屋大学エントピア科学研究所	2013年12月13日
電気電子工学科	IEICE信州大SB 優秀論文賞 DSC 0940 w	電子情報通信学会	2013年12月20日
物質工学科	日本化学会東海支部長賞	日本化学会東海支部	2014年3月21日
電気電子工学科	優秀論文発表賞	電気学会リニアドライブ技術委員会	2014年6月26日
電気電子工学科	2014 IEEE ICMM Student Poster Award	IEEE	2014年7月1日
電気電子工学科	ナノファイバー学会第5回年次大会 最優秀ポスター賞	指定非営利活動法人 ナノファイバー学会	2014年7月8日
電気電子工学科	ポスターアワード	応用物理学会北陸・信越支部	2014年7月12日
電気電子工学科	優秀論文発表賞(基礎・材料・共通部門表彰)	(一社)電気学会	2014年9月21日
物質工学科	ゴールドポスター賞を受賞	2014年材料技術研究協会討論会	2014年12月5日、6日
電気電子工学科	優秀論文発表賞	電気学会マグネティックス技術委員会	2014年8月21日
電気電子工学科	アカデミックプラザ五年連続継続賞	エレクトロニクス実装学会	2015年6月3日
情報工学科	HCGシンポジウム2015学生優秀インタラクティブ発表賞	電子情報通信学会	2015年12月17日
物質工学科	第18回化学工学会学生発表会優秀賞	化学工学会	2016年3月5日

(出典：工学部作成)

3 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果

① 在学生に対する授業改善アンケート

アンケートはWEBベースで実施し、各授業での周知、掲示によって回収率の向上に努めている。(資料工 104)

資料工 104 授業改善アンケートの通知用掲示

信州大学 工学部専門科目

平成27年度前期

授業改善アンケート

Enquete



入力期間

7.6 (月) ~ **8.3** (月)

入力方法

ACSUへログインし、「キャンパス情報システム」>>「授業改善アンケート」から回答して下さい。

<https://acsu.shinshu-u.ac.jp/ActiveCampus/index.html>



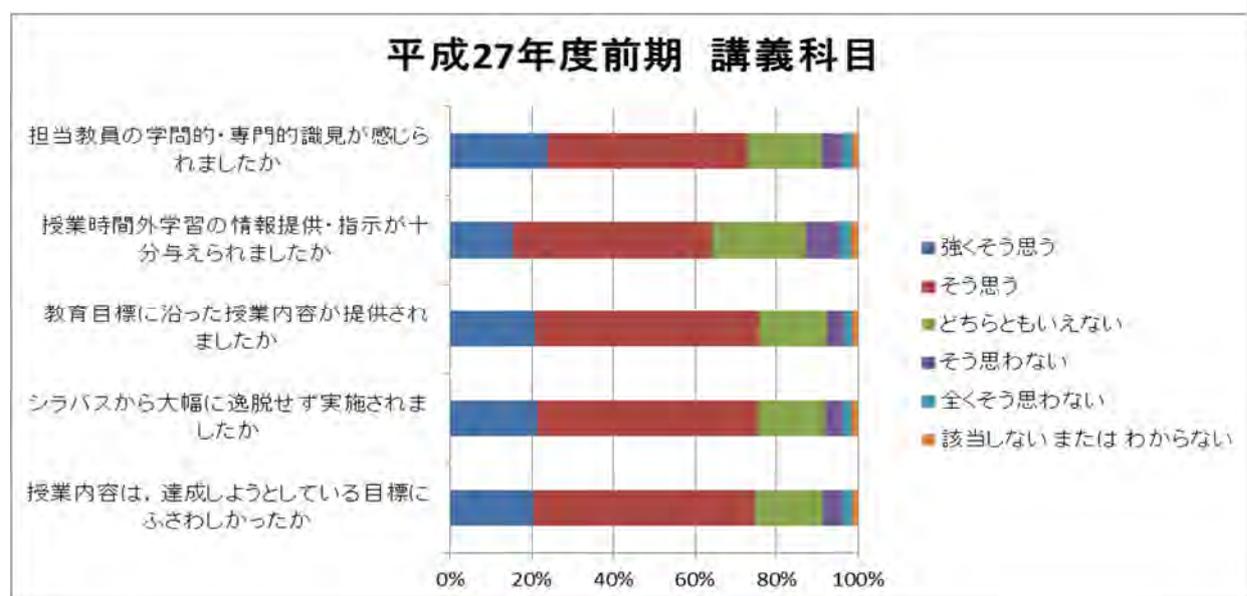
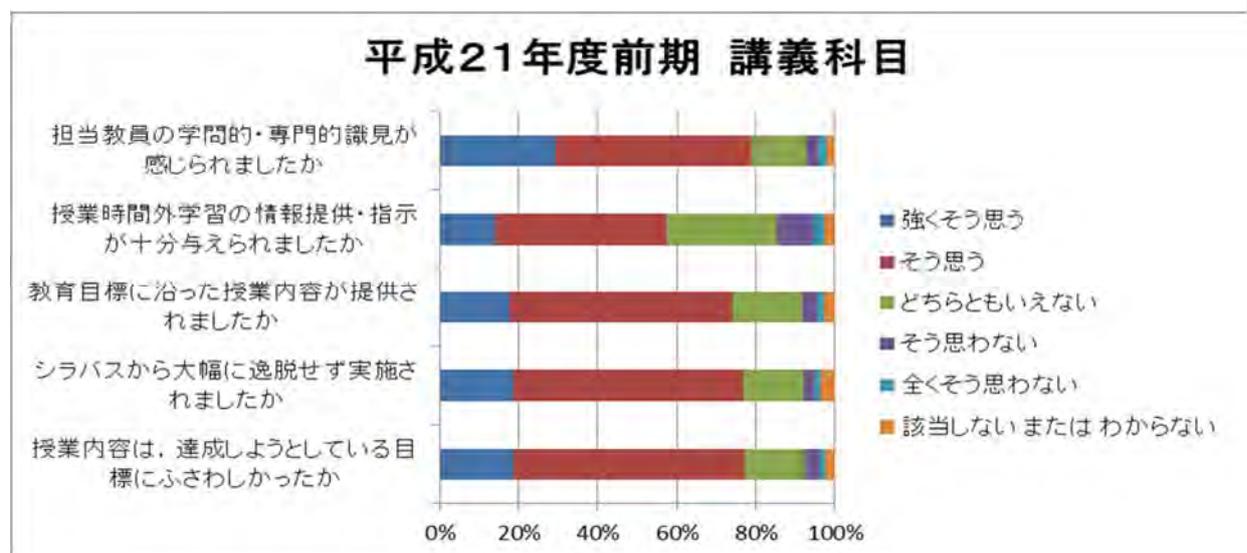


授業改善アンケートとは、授業についてみなさんからご意見をお聞きし、授業・教育改善をしていくためのものです。
 集計結果は回答した画面から見るができます。
このアンケートは匿名です。個人を特定できないよう設定されています。どの学生が回答したのかは、教員からはわかりませんので、安心して回答してください。

(出典：工学部作成)

平成 21 年度と 27 年度の集計の一部を示す。(資料工 105)

資料工 105 平成 21 年度前期と平成 27 年度前期 授業改善アンケート (講義分)



平成 21 年度は集計人数 402 名、27 年度は 623 名

(出典：工学部作成)

講義科目の評価値の平均値の比較を示す。(資料工 106)

資料工 106 授業評価値の平均点の比較

	H21年度前期	H27年度前期
担当教員の学問的・専門的識見が感じられましたか	2.05	2.18
授業時間外学習の情報提供・指示が十分与えられましたか	2.51	2.40
教育目標に沿った授業内容が提供されましたか	2.24	2.16
シラバスから大幅に逸脱せず実施されましたか	2.21	2.17
授業内容は、達成しようとしている目標にふさわしかったか	2.18	2.19

平均点は「強くそう思う」を 1 点から「該当しないまたはよくわからない」を 6 点としての平均値であるので、値の小さい方が評価が高い。

(出典：工学部作成)

両年度ともに高い評価を得ている。平成 27 年度では 21 年度に比べ評価値の平均点が向上している項目が多い。

② 卒業生アンケートの分析結果

卒業生（卒業が決定している 4 年次生）及び卒業後数年した既卒生に実施したアンケート調査（前掲資料工 75、p47）で平成 19 年度と 25 年度の結果を比較する。既卒、4 年を問わず、設問全てにおいて好意的意見（そう思う）が増加している。特に総合的判断の設問 6 で好意的回答は 46%から 62%に増加している。（資料工 107）

資料工 107 専門教育の教育課程に関するアンケート項目の評価結果の一部

		そう思う	どちらかというと思う	どちらともいえない	どちらかというと思わない	そう思わない	平均
1	H19・既卒	15.0%	54.0%	20.0%	8.0%	3.0%	2.30
	H19・4年	19.0%	48.0%	20.0%	10.0%	3.0%	2.30
	H25・既卒	28.0%	39.0%	19.0%	10.0%	4.0%	2.23
	H25・4年	25.0%	47.0%	17.0%	7.0%	4.0%	2.18
2	H19・既卒	17.0%	57.0%	17.0%	7.0%	2.0%	2.20
	H19・4年	19.0%	50.0%	19.0%	8.0%	4.0%	2.28
	H25・既卒	29.0%	43.0%	22.0%	5.0%	2.0%	2.11
	H25・4年	25.0%	50.0%	18.0%	4.0%	3.0%	2.10
6	H19・既卒	8.0%	36.0%	36.0%	13.0%	7.0%	2.75
	H19・4年	7.0%	39.0%	29.0%	17.0%	8.0%	2.80
	H25・既卒	17.0%	45.0%	25.0%	8.0%	5.0%	2.39
	H25・4年	18.0%	44.0%	24.0%	10.0%	5.0%	2.43
16	H19・既卒	6.0%	41.0%	36.0%	12.0%	5.0%	2.69
	H19・4年	6.0%	39.0%	29.0%	16.0%	10.0%	2.85
	H25・既卒	15.0%	44.0%	25.0%	13.0%	4.0%	2.50
	H25・4年	15.0%	46.0%	27.0%	7.0%	4.0%	2.36
17	H19・既卒	9.0%	34.0%	30.0%	22.0%	5.0%	2.80
	H19・4年	7.0%	35.0%	30.0%	19.0%	9.0%	2.88
	H25・既卒	16.0%	36.0%	28.0%	15.0%	5.0%	2.57
	H25・4年	15.0%	46.0%	24.0%	10.0%	5.0%	2.44

各項目の内容は以下の通り

- 1 基礎学力の向上を重視した教育が行われていた
- 2 専門知識並びに学際分野についての教育が行われていた
- 6 学部の課程は総合的にみて満足のものであった
- 16 講義科目は充実していた
- 17 演習科目は充実していた

平均は「そう思う」を 1 点、「どちらかというと思う」を 2 点等とした際の平均であり、低いほど評価が高い

（出典：工学部作成）

専門教育に関する全 18 アンケート項目の平均値を（資料工 108）に示す。既卒生、卒業生ともに評価値が向上している。

資料工 108 アンケートの平均値

対象	評価値の平均	回答数
H19・既卒	2.78	232

	H19・4年	2.85	270
	H25・既卒	2.68	263
	H25・4年	2.50	200

平均は「そう思う」を1点、「どちらかというと思う」を2点等とした際の平均であり、低いほど評価が高い

(出典：工学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

履修状況（前掲資料工 95、p 60）、成績分布（前掲資料工 97、p 61）、進級不可率（前掲資料工 99、p 63）、卒業までの平均年数（前掲資料工 101、p 64）などの数字はいずれも適切な値であると考えられる。

学生の受賞は主なもので40件以上（前掲資料工 103、p 66）に及んでおり、社会からの評価は高い。

また在学生に対するアンケート（前掲資料工 105～106、p 68）では平成21年度においても肯定的評価が多かったが、平成27年度は授業計画から逸脱しないでシラバスに沿って授業を行っているのかを評価する項目等において評価が向上した。このことは第2期中期計画を通じて進めてきた授業改革の意識が高まっていることを示していると考えられる。

また、専門教育教員・授業に関するアンケート（前掲資料工 107、p 69）、専門教育に関する教育・学習環境に関するアンケート（前掲資料工 108、p 69）においても、肯定的評価の向上が見受けられる。特に、専門教育について総合的評価をする項目（設問6）において、好意的評価は大幅な増加をしている。

以上より、学生及び保護者から期待される水準を上回る、と判断する。

観点 進路・就職の状況
(観点に係る状況)

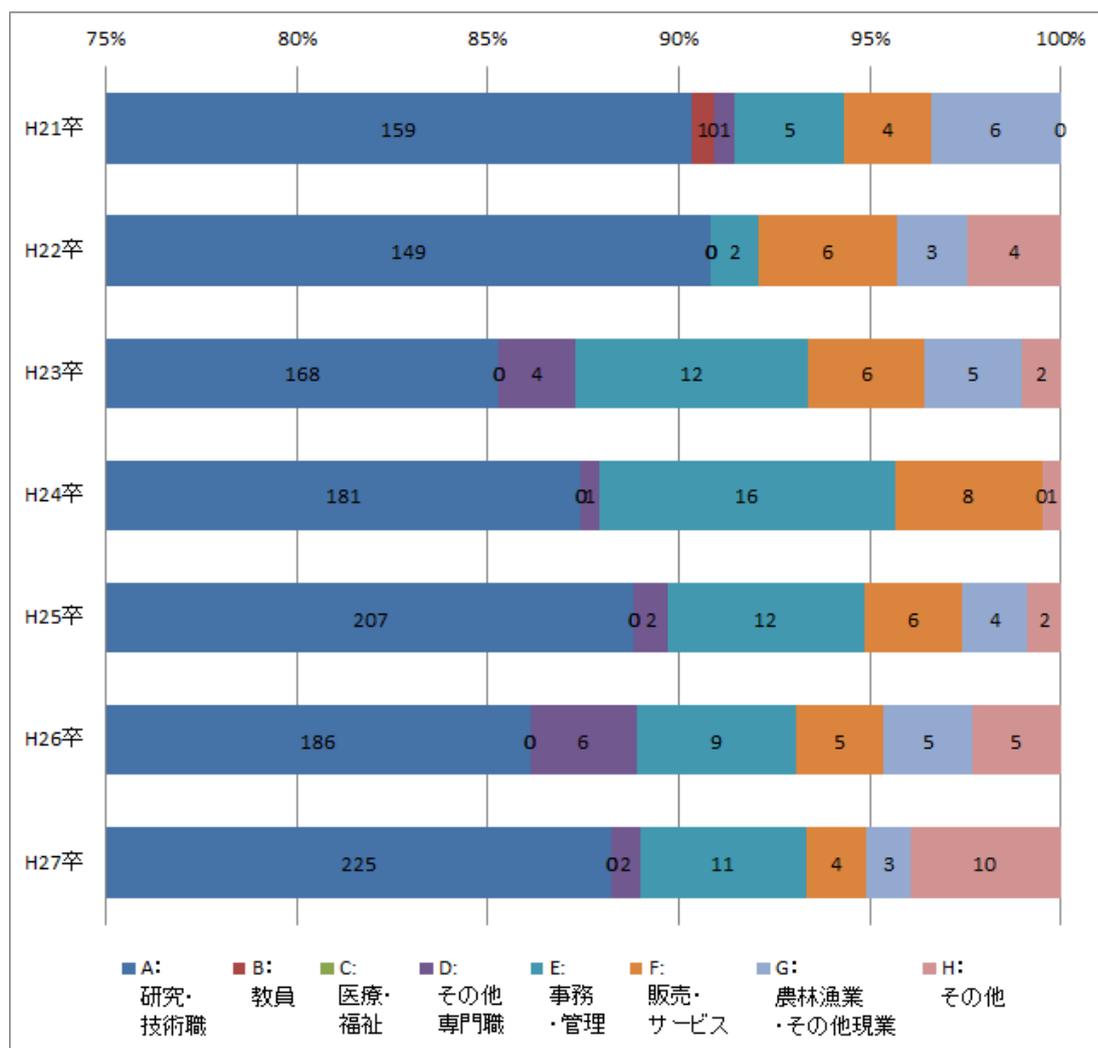
1 卒業後の進路

卒業後の進路状況を示す。①職業別、産業別就職の状況 (資料工 109)

資料工 109 職業別・産業別就業者数

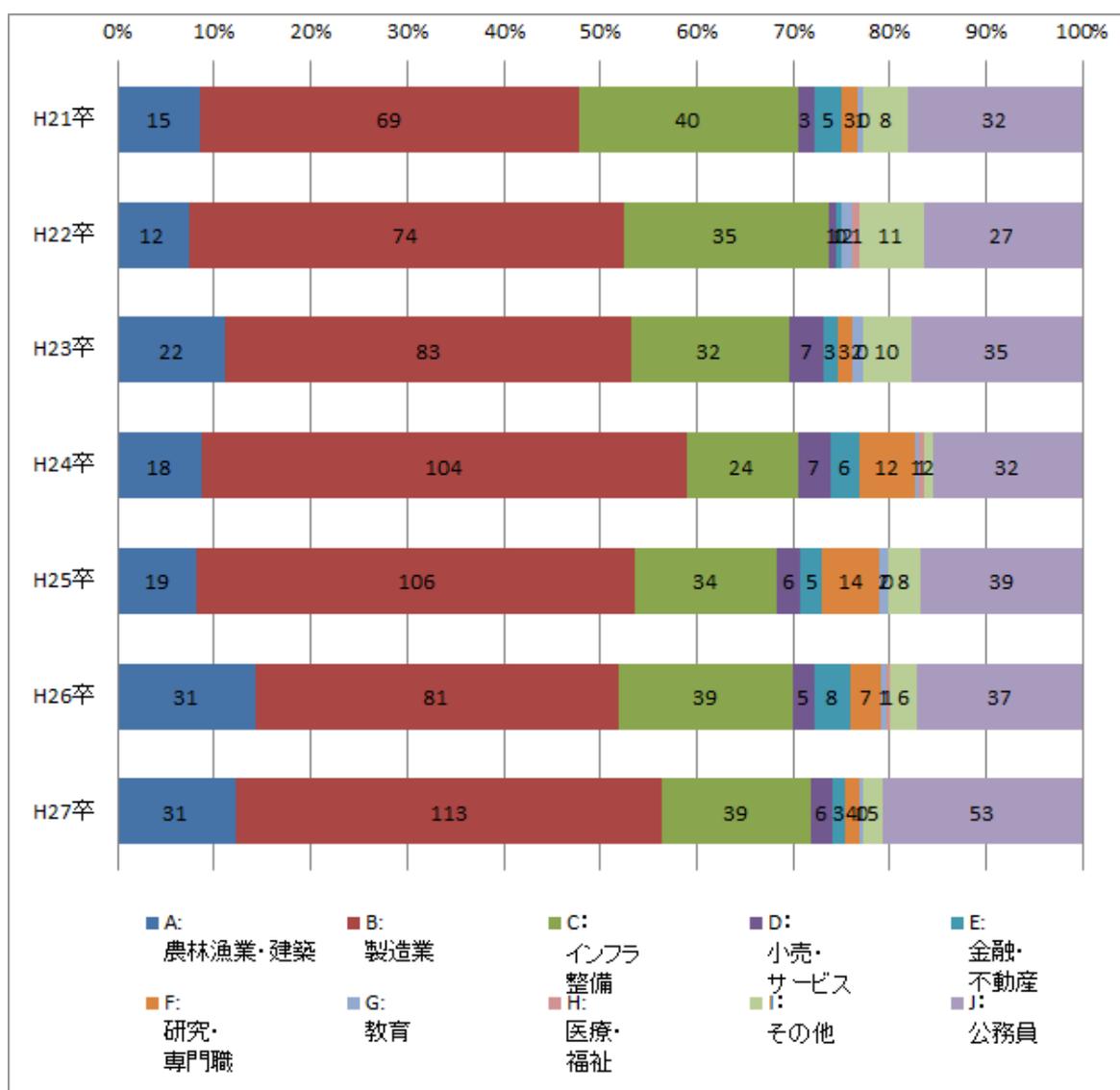
○職業別

	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービス	G: 農林漁 業・その 他現業	H: その他	合計
H21 卒	159	1	0	1	5	4	6	0	176
H22 卒	149	0	0	0	2	6	3	4	164
H23 卒	168	0	0	4	12	6	5	2	197
H24 卒	181	0	0	1	16	8	0	1	207
H25 卒	207	0	0	2	12	6	4	2	233
H26 卒	186	0	0	6	9	5	5	5	216
H27 卒	225	0	0	2	11	4	3	10	255



○産業別

	A: 農林漁業・建築	B: 製造業	C: インフラ整備	D: 小売・サービス	E: 金融・不動産	F: 研究・専門職	G: 教育	H: 医療・福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21卒	15	69	40	3	5	3	1	0	8	32	176
H22卒	12	74	35	1	1	0	2	1	11	27	164
H23卒	22	83	32	7	3	3	2	0	10	35	197
H24卒	18	104	24	7	6	12	1	1	2	32	207
H25卒	19	106	34	6	5	14	2	0	8	39	233
H26卒	31	81	39	5	8	7	1	1	6	37	216
H27卒	31	113	39	6	3	4	1	0	5	53	255



(出典：学校基本調査より経営企画課作成)

2 進路・就職状況、その他の状況

①就職支援

平成18年より就職支援室（資料工110）を設け就職支援を行った結果、求人数・就職率共に増加しており、就職率はほぼ100%になっている。独自の会社合同説明会を開催し、200社以上の会社が参加している（資料工111）。

資料工110 就職支援室内規（抜粋）

（目的）

第1条 信州大学工学部（信州大学大学院総合工学系研究科及び理工学系研究科の長野（工学）キャンパス関係の専攻を含む。以下「本学部」という。）に、本学部の就職支援を戦略的に企画し、学生のための就職支援業務の推進に必要な事項を迅速かつ円滑に処理するため、信州大学工学部就職支援室（以下「就職支援室」という。）を置く。

（業務）

第2条 就職支援室は、就職支援に係る次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 本学部の学生に係る就職指導に関すること。
- 二 求人企業等への対応に関すること。
- 三 本学部主催の合同企業説明会の実施に関すること。
- 四 就職支援に係る中期計画の企画立案及び評価等に関すること。
- 五 その他就職支援に関すること。

（組織）

第3条 就職支援室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。

- 一 評議員、副学部長又は学部長補佐のうちから、学部長が指名する者 1人
- 二 学科長から推薦され就職支援業務を専任で担当する特任教員 当該学科各1人
- 三 前号に規定する特任教員がない学科の就職支援業務を担当する学科教員 当該学科各1人
- 四 第2号に規定する特任教員がいる学科の連絡調整等の業務を担当する学科教員 当該学科各1人
- 五 就職支援担当事務部職員
- 六 その他次条に規定する室長が必要と認める者
 - 2 前項第1号から第4号までに規定する室員の任期は、1年とし、再任を妨げない。
 - 3 第1項第1号から第4号までに規定する室員に欠員を生じた場合の後任の室員の任期は、前任者の残任期間とする。

（室長及び副室長）

第4条 就職支援室に、室長及び副室長を置く。

- 2 室長は、前条第1項第1号に規定する室員をもって充てる。
- 3 副室長は、前条第1項第2号に規定する室員のうちから、室長が指名する。
- 4 室長は、就職支援室の業務を掌理する。
- 5 副室長は、室長を補佐し、室長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 室長は、国立大学法人信州大学就職委員会の工学部委員となるものとする。

（工学部作成）

資料工 111 求人数、就職率等

		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
就職率※		92.5	94.8	94.3	98.1	98.7	99.1	99.6
求人数		2,697	2,407	2,389	2,501	3,167	2,735	2,962
説明会 工学部 主催 会社 合同	開催日	H22/2/9- 12	H23/2/8- 11	H24/2/11- 14	H25/2/9- 11	H26/2/8- 10	H27/3/4- 6	H28/3/8- 10
	参加 企業数	208社	240社	243社	215社	212社	216社	220社
	参加 学生数	1,112名	1,048名	950名	1,092名	708名 (大雪の ため)	1,527名	1,190名

※就職率は、就職者数／就職希望者数で算出(%)。

(出典：工学部作成)

②就職状況

就職先企業所在地を示す(資料工 112)。長野県企業への就職者が多いが、他は東京、東海が多く、近年は東海が増えてきている。

資料工 112 年度別就職先企業の所在地分布

各年度別学部生就職先企業所在地							
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
長野	63	64	94	82	83	67	84
北海道・東北	4	2	0	1	1	1	0
北関東・山梨	2	7	2	6	4	3	6
東京	40	31	32	30	56	61	55
南関東	5	6	9	11	7	11	9
東海	37	29	41	49	47	45	61
北陸・新潟	7	13	6	10	8	12	11
京阪神	12	8	9	13	20	12	8
その他近畿	0	2	3	4	5	1	2
中国・四国	1	1	3	0	2	1	2
九州・沖縄	3	0	1	0	0	1	0
海外	0	1	0	1	0	0	0
その他	2	0	0	0	0	1	0

(出典：工学部作成)

③進学状況（資料工 113）

資料工 113 平成 21 年度卒業生の動向						
学科	総数		進学者 総数		就職者 総数	
			信大	他大学		
機械	80		50	45	5	27
電気電子	95	(8)	53 (2)	44 (2)	9	35 (4)
環境都市	37	(4)	11 (1)	8	3 (1)	26 (3)
建築	55	(16)	37 (6)	35 (5)	2 (1)	16 (9)
物質	65	(11)	47 (11)	39 (8)	8 (3)	16
情報	94	(10)	46 (2)	45 (2)	1	43 (8)
環境機能	43	(9)	28 (5)	25 (4)	3 (1)	13 (4)
合計	469	(58)	272 (27)	241 (21)	31 (6)	176 (28)

※（ ）は女性数（出典：工学部作成）

資料工 114 平成 27 年度卒業生の動向						
学科	総数		進学者 総数		就職者 総数	
			信大	他大学		
機械	96	(1)	43 (1)	39	4 (1)	50 (0)
電気電子	94	(3)	50 (1)	47 (1)	3	44 (2)
土木	56	(5)	14 (2)	13 (1)	1 (1)	39 (2)
建築	56	(15)	38 (8)	35 (8)	3	18 (7)
物質	71	(16)	45 (7)	42 (7)	3	23 (8)
情報	89	(12)	33 (1)	30	3 (1)	54 (11)
環境機能	64	(8)	38 (4)	33 (4)	5	26 (4)
合計	526	(60)	261 (24)	239 (21)	22 (3)	254 (34)

※（ ）は女性数（出典：工学部作成）

3 卒業・修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果

①企業アンケート

会社説明会の参加会社を対象に DP に対するアンケートを行い、すべての項目にわたって、高い評価が得られている。（資料工 115）

資料工 115 平成 24 年度企業アンケート報告書	
各社に採用して頂いた本学部卒業生、または採用の検討をして頂いた本学部卒業生は、工学部のディプロマポリシーに掲げる知識・能力を身に付けていると考えられるか、①そう思う ②どちらかというと思う ③どちらともいえない ④どちらかというと思わない ⑤そう思わないの中から当てはまるものを選んで頂いた	

(「そう思う」 1点～「そう思わない」 5点のため、数値は小さい方が高評価)

項番	アンケート項目	平均評価
1	幅広い見識と健全な倫理観を持ち、工学的な立場から社会の発展のために貢献する精神と行動力を有する	1.83
2	科学に関する基礎および専門的な基礎知識をもち、これらの基礎概念と一般的法則を本質的に理解するとともに、基礎科学および専門基礎に関する問題を解答する能力がある。	1.77
3	基礎学力および専門基礎知識に基づいて自主的に学習できる能力および応用能力がある。	1.79
4	基礎理論に基づいて工学的な観点から問題点や課題を発見することができ、筋道を立てて解決できる。	1.99
5	技術者として自らの思考・判断を説明するためのプレゼンテーション能力を有し、専門基礎知識に基づいた発展的な議論を展開できる。	2.22
6	自然環境に配慮した環境マインドを習得し、環境調和社会を目指した工学的な取り組みを継続的に行うことができる。	2.34
7	ゼミナールや総合演習および卒業研究を通して信頼される技術者としての精神と倫理感を身につけている	2.09
8	所属する各学科のディプロマポリシー（別表で提示）に掲げた知識・能力を身につけている。	1.98

(出典：工学部作成)

②卒業生懇談会

平成24年度から卒業生を招いて懇談会を行っており、高い評価を得ている。(資料工116)

資料工116 卒業生からの評価

「先生や学生同士の交流について」

大学の先生や当時のお友達との交流はありますか？

○大学の先生及び当時の友人らと交流はあります。仕事柄、情報収集にも、どちらにも役立っています。

○研究室が一緒だった同級生とは、現在でも交流が続いています。研究室の先生にも共同研究先の他学部へ訪問した際に、数度寄らせて頂きました。

「本学全般に関して」

本学で学んでよかったと思うことはなんですか？

○不自由を感じることなく学ぶことができる環境が整えられており、学んでよかったと思います。

○松本、長野と2つの都市で、多くの友人と学業、生活を共に過ごせたこと。化学分析機器を多数使用できた点が非常に良かったと思う。

社会人として、信大の良さはどのようなところだと思いますか？

○企業又は県をはじめとした支援機関と連携する組織があり、産業振興に貢献されていると思います。

○信大生は他人の意見を聞き入れ、行動する人材が多いと思います。高学歴の大学出身の方はプライドが高く、他人の意見に耳を貸さない人がいると感じています。

○卒業生が、全国各地に、多種多様の企業にいること。総合大学として、専門分野が異なる色々な学部があること。
 ○大学名で選ばれるレベルの大学ではないと思います。ただし、旧帝大学生にも負けずに社会で戦っていける潜在能力を持った学生も在籍していると思います。(信大に限られません)

(出典：工学部学務係作成報告書より)

③オープンキャンパス(OC)

平成25年度から年に2回(8月と11月)実施している。受験生に対して、進路・就職の状況について説明してアンケートでも高評価を得ている。(資料工117)

資料工117 オープンキャンパス

○イベント内容

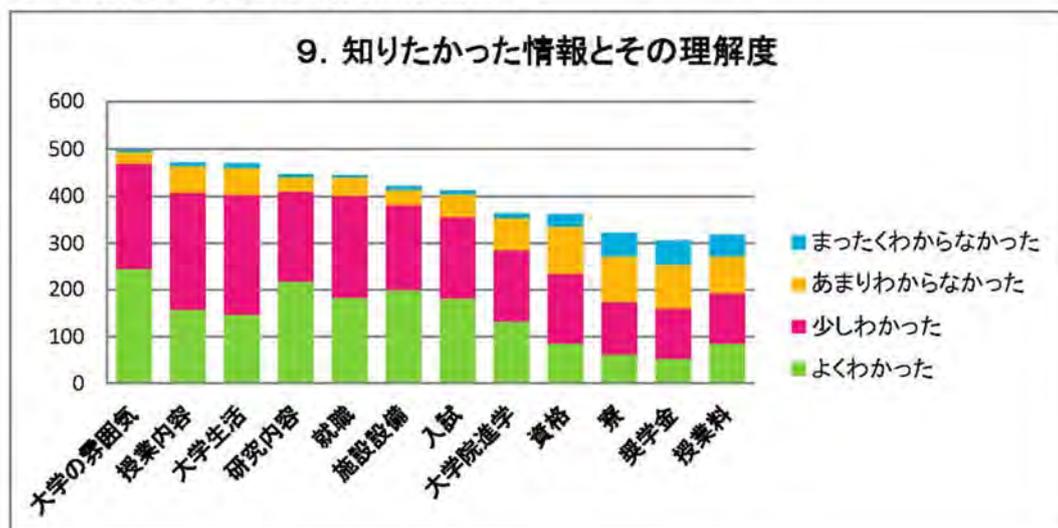
※ 各イベントにおいて、収容可能人数を越えた場合は参加できない場合があります。
 ※ 見学ツアーは、途中参加ができませんので、開始時間に各集合場所へお越しください。

↓ ●内数字は建物番号

場所	CONTENTS	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	
管理棟前	総合受付	8:30~16:30								
メイン会場A 28 国際科学 イノベーション センター 【1~2F】 ★アンケート 回収場所(1F) [3F]⇒	学科紹介(デモ展示)&就職 情報コーナー、資料配付 なんでも相談コーナー ～在学生に聞くキャンパスライフ～ シアター上映	8:30~16:30								
	保護者向けガイダンス (学生生活・就職など)	10:00~16:00								
	アクア・イノベーションセミナー Nagano Girls' Seminar <女子向け>	8:30~10:30			11:00~12:30			14:00~16:30		
								12:30~13:00		
					①10:30~11:00		②13:30~14:00			
メイン会場B 25 総合研究棟 【1F】 集合場所 ⇒ 【1F】	学部・入試ガイダンス 【改組の説明をします】	11:00~11:30								
	数学セミナー ～大学入学へ向けて～	11:30~12:00								
	技術部による 各回先着20名 実験機器見学 ★集合場所で 整理券配付	①の整理券配付★ 10:00~			②③の整理券配付★ 11:30~					
				①10:30~11:20		②13:10~14:00		③15:00~15:50		

○参加者アンケートの結果

9. 来場前に知りたかった情報(複数回答可)



(出典：工学部作成)

④後援会の総会

夏休み前に実施し、就学状況や進路、就職状況等を説明している。(資料工 118)

資料工 118 後援会の活動

後援会会則の一部

第3条 本会は、第2条の目的を遂行するために、次の事業を行う。

- (1) 工学部等学生の就職活動の援助
- (2) 工学部等学生の保健、体育、厚生施設の援助
- (3) 工学部等学生の課外活動の助成
- (4) 工学部等学生の研究活動の助成
- (5) 講演会、講習会等の開催
- (6) その他必要ある事項

後援会総会の式次第

- 1 日程説明 (久保田)
- 2 開会のことば (池田)
- 3 会長あいさつ (田島)
- 4 半田学部長あいさつ
- 5 丸山学務委員長 ~学生の様子
- 6 高木就職支援室長 ~就職の様子
- 7 役員を選出 (田島)
- 8 議事 (田島)

(出典：工学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

就職支援室を設け（前掲資料工 110、p 73）、専任教員による就職支援を行った結果、求人数は増え、就職率は平成 24 年度以降ほぼ 100%になっている。200 社を超える独自の会社合同説明会を開催している（前掲資料工 111、p 74）。

企業アンケートでは、すべての項目にわたってよい評価値を得ている。（前掲資料工 115、p 75）

卒業生を招いての懇談会において、卒業生から高評価が得られている。（前掲資料工 116、p 76）

また県内企業へ就職する人数も多く、地域社会からの期待に応えている。（前掲資料工 112、p 74）

以上より、学生や就職先企業、地域社会から期待される水準を上回る、と判断する。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

①体系的な教育課程の編成

平成 26 年度から授業科目間の相互関係を明記した履修チャート(前掲資料工 67、p 36)を学生便覧に記載し、カリキュラム体系についての学生の理解を促している。

平成 26 年度から各授業科目と DP の関係をシラバスに明記している。(前掲資料工 70～71、p 40～41)

②国際通用性の向上

国際通用性のある技術者養成に重要な語学力向上のために、H25 年度より 1 年生全員に TOEIC-IP 試験を年 2 回実施するとともに、殆どの専攻で大学院の受験条件に TOEIC 等の試験の受験を課している。(前掲資料工 76、p 49) また平成 25 年度から始まった English Cafe は活発に活動をしている。こうした様々な対策の成果で、留学生の派遣実績も第 I 期と比較して向上している。(前掲資料工 80～81、p 51)

③自主的な学習の支援

自主学習を支援するため平成 23 年度から図書館自習室の整備、夜間開放、また平成 24 年度からラーニングアドバイザーの設置を行った(前掲資料工 84、86、87、p 54～55) 結果、入館者は大きく増加(前掲資料工 83、p 53) し、学習環境として定着している。

夜間無人開館制度を平成 23 年度からほぼ毎日行い、延べ 3 万人強の利用者があり、(前掲資料工 85、p 54) ラーニングアドバイザーの相談件数も大幅に増加している。(前掲資料工 86、p 55)

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

①教育成果に対する既卒生及び卒業生アンケートの評価の向上(前掲資料工 75、p 47)

既卒生アンケートは社会人による評価として、卒業時アンケートは卒業時の評価として重要である。専門教育の教育課程(学部)に関する項目中、肯定的評価(そう思う、及びどちらかというと思う)の割合が平成 19 年より平成 25 年で増加している。(前掲資料工 107～108、p 69～70)

(前掲資料工 75、p 47) のとおり、総合的に学習の成果を肯定的に評価する卒業生及び既卒生が増加しており、教育成果の質が向上している。

②高い就職率

就職支援室(前掲資料工 110、p 73) のサポートにより、工学部主催の会社合同説明会には 200 社を超える企業が参加し(前掲資料工 111、p 74)、就職率は向上し、平成 24 年度以降はほぼ 100% 達成している。

11. 農学部

- I 農学部の教育目的と特徴・・・・・・・・・・ 11-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・ 11-18
 - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・ 11-18
 - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・ 11-75
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・ 11-93

I 農学部の教育目的と特徴

1 教育目的

農学部の教育理念・目標は以下のとおりであり、次の3つの方針を掲げている（資料農1～4）。

資料農1 農学部の教育理念・目標

（理念）

自然豊かな環境のもとで、豊かな人間性と幅広い教養を築き、生命・食料・環境に関する広い知識・技術を涵養して、専門的な知識や研究能力を養成します。さらに、地球的な広い視野と現実的な視点に立って問題をとらえ解決する能力を身につけた人材を育成します。

（目標）

- （1）持続的社会の創造に貢献する人間性豊かな人材の育成
- （2）生命科学分野の基礎能力と農学分野の応用能力を身につけた人材の養成
- （3）社会の一員としての問題意識の醸成と論理性、実践性、倫理性、創造性を備えた人材の育成
- （4）地域（ローカル）および国際（グローバル）社会で活躍できる人材の養成

（出典：信州大学農学部ホームページ「理念・メッセージ」）

資料農2 ディプロマ・ポリシー

（農学部）

信州大学農学部の理念と目標に則り、以下の知識と能力を充分培った学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

1. 豊かな人間性と幅広い教養を修得している
2. 農学に関する広い知識・技術を修得している
3. 専門的な知識や研究能力を修得している
4. 地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している

（生命機能科学コース）

1. 生命現象の基本的なしくみと多様性について理解している
2. 有機化学、生化学、分子生物学、微生物学などの基礎学力を修得している
3. 生命科学・食品科学分野の基礎知識と、生命現象やバイオテクノロジーに関する専門知識を修得し、それを応用する能力を有している
4. 生命工学・食品科学分野において、グローバルな視点から知的社会の発展に貢献できる能力を修得している

（動物資源生命科学コース）

1. 動物の生命現象ならびに動物関連産業に関わる基礎学力を有している
2. 動物の生殖制御技術や、動物由来の機能性食品、ならびに関連分野の倫理性に関わる専門的知識を身につけ、それを応用、実践できる行動力を有している
3. 動物の生命現象やその操作、ならびに動物資源や機能性食品の開発、生産についての課題を探求し、国際的視野で動物と人類の健康と福祉に貢献できる能力を身につけている
4. 動物資源生産と生命現象等に関わる課題について、革新的な発想力と幅広い視野に立脚した研究展開力を有している

（植物資源科学コース）

1. 植物資源およびその生産システムに関する基礎学力を有している
2. バイオテクノロジーなど先端的な生命科学の知識・技術を修得するとともに、その進展に対応できる応用力を身につけている
3. 関連産業や自治体の需要に対応できる知識と実践性および倫理性を身につけている
4. 国際的な場面で活躍できる国際的な感覚と基礎的な語学力を修得している

（森林・環境共生学コース）

1. 森林の保全・管理・利用、防災工学、農林生産基盤、山岳地域の環境要因と生態系サービス、農村・緑地計画に関する知識を修得している
2. 恵まれた信州の自然環境および地域社会でのフィールドワーク経験を活かし、専門職業人となるための応用力・行動力を身につけている

3. 農林業の持続的発展を実現するため、国際的な視野を持つとともに、直面する問題を的確に把握し、解決する能力を身につけている
4. 自然と共生する美しい循環型社会の創出に対し、科学的・倫理的に貢献できる知識と行動力を有している

(出典：信州大学農学部ホームページ「理念・メッセージ」)

資料農3 カリキュラム・ポリシー

(農学部)

学部理念・教育研究目標のもと、幅広い基礎知識を学び社会的要請に柔軟に対応でき、幅広い領域で応用力を発揮できるとともに学際的視野を広げられる専門知識を修得させるため、以下の特色ある教育課程を編成します。

(生命機能科学コース)

1. (導入段階) 幅広い視野を涵養させるため、生物学、一般化学、外国語科目等の基礎科目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や生命機能科学概論を履修し、本学科に必要な基礎学力を養う。
2. (基礎段階) 有機化学、生化学、分子生物学、微生物学などの分野についてバランスよく学ぶと共に、基礎的な実験実習を履修し、化学系と生物系の両方をより深く学ぶための専門的な知識を修得する。
3. (応用段階) 化学系と生物系の専門的な科目を学ぶとともに、専門的な実験・実習を履修し、研究遂行力を修得する。また、学際的視野を広げるため関連する学際融合科目および専門書や学術論文の読解力を涵養するための科学英語についても履修する。
4. (探究段階) 専門研究を必修科目とし、大学院への進学を視野に課題探究能力、研究課題を完結させる実践力を修得する。

(動物資源生命科学コース)

1. (導入段階) 幅広い視野を涵養させるため、生物学、一般化学、外国語科目等の基礎科目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や動物資源生命科学概論を履修し、本学科に必要な基礎学力を養う。
2. (基礎段階) 遺伝学、免疫科学、動物生理学など、動物の生命現象理解の基礎となる知識や飼料学や動物管理学など、動物資源生産に関する専門的な知識に加え、実験実習を通じて、動物の生命現象解明と生産に必要な技術を修得する。また、関連するコース共通科目を履修し、学際的視野を広げる。
3. (応用段階) 学際的融合科目の履修により幅広く、高度な専門的知識を修得するとともに、アニマルウェルフェア科学の履修によって、動物資源生命科学における倫理性を養う。また、科学英語やプレゼンテーション入門、国内外における動物生産現場での実践的実習を通じて、情報発信力や課題発見能力を養う。
4. (探究段階) 大学院進学の手台となるよう、自らの力で研究課題を探索し、その課題を卒業論文としてまとめることで、課題解決の論理力を修得する。さらに、社会の急激な変化と多様化、複雑化、高度化、グローバル化に対応できる高度専門職業人となるべく、専攻研究を通じて、探究課題の展開力を修得する。また、先鋭領域特別講義等を履修し、研究開発に関する幅広い視野を修養する。

(植物資源科学コース)

1. (導入段階) 幅広い視野を涵養させるため、生物学、一般化学、外国語科目等の基礎科目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や植物資源科学概論を履修し、本学科に必要な基礎学力を養う。
2. (基礎段階) 遺伝学、植物生理学など、植物資源科学の基礎となる知識や栽培学、土壌学、植物病理学など、植物資源生産に関する専門的な知識に加え、実験実習を通じて、植物の生命現象解明と生産に必要な技術を修得する。また、関連するコース共通科目を履修し、学際的視野を広げる。
3. (応用段階) 園芸学系科目などの具体的な植物資源生産に係る科目の履修によって、実践的な知識を修得するとともに、植物生命科学系科目などの履修により植物科学に関する高度な専門的知識を修得する。また、科学英語やプレゼンテーション入門、国内外における植物資源生産、試験研究の現場での実践的実習を通じて、情報発信力や課題発見能力を養う。
4. (探究段階) 大学院進学を視野に入れて、卒業論文をまとめることで、課題解決の論理力、展開力を修得する。また、先鋭領域特別講義等を履修し、研究開発に関する幅広い視野を修養する。

(森林・環境共生学コース)

1. (導入段階) 幅広い視野を涵養させるため、数学系、自然科学系科目、外国語科目等の基礎科

目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や森林・環境共生学概論を履修し、本コースに必要な基礎学力を養う。また、フィールドにおける基礎を学ぶための森林・環境共生学基礎演習を履修する。

2. (基礎段階) 測量学、環境統計学、土質および水理学などの基礎科目、森林科学、防災工学および農村・緑地計画等の専門基礎知識を修得するとともに、演習の履修により理論と実践の結合を行う。また、関連するコース共通科目を履修することで、広く農学に関する知識を身につける。
3. (応用段階) 森林科学、防災工学および農村・緑地計画等のより高度な専門科目を履修し、各専門分野における応用力、研究遂行能力を身につける。また、専攻演習、プレゼンテーション演習、科学英語の履修により、専門書や科学英語の読解力を身につける。学際融合科目を履修し、森林科学の知識と結合することにより、多様な一次産業によって成立する地域社会に貢献できる考えを涵養する。
4. (探究段階) 専攻研究への取り組みにより、専門知識の深化、コミュニケーション、プレゼンテーションの能力を大幅に向上する。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」)

資料農4 アドミッション・ポリシー

(農学部)

自然と人が共生する持続的社会の創造を目指す人を求めています。生命科学の視座を踏まえて、生物の機能と生命現象の解明、食と健康、持続可能な農林畜産業の発展、森林と田園環境の保全等に関わる課題探究に意欲的に取り組み、社会に貢献する熱意ある人を歓迎します。

※ 入学前に生物、化学及び数学ⅡBを十分に学習しておくことが望まれます。また、入学後の学修・研究の目標設定のため、理科及び地理歴史・公民について総合的に学習しておくことが望まれます。

(出典：信州大学農学部ホームページ「理念・メッセージ」)

2 組織の特徴や特色

本学は8学部で構成され、県内5キャンパスに分散している。農学部は伊那キャンパスにあり、初年次は松本キャンパスの全学教育機構(以下「機構」)で共通教育を受け、2年次以降に伊那キャンパスで教育を受ける(資料農5～7)。

農学部は、自然を生かしたフィールド教育が特徴である。

附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター(AFC)を設置し(資料農8)、4つの特色あるステーションに農場と演習林を配置し、実践的な教育・研究に活用している。

資料農5 キャンパス配置図



(出典:信州大学ホームページ「交通・キャンパス案内」)

資料農6 全学教育機構の概要

全学教育機構とは

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

1年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。

全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。

(出典:信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」)

資料農7 信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(出典:信州大学規程集)

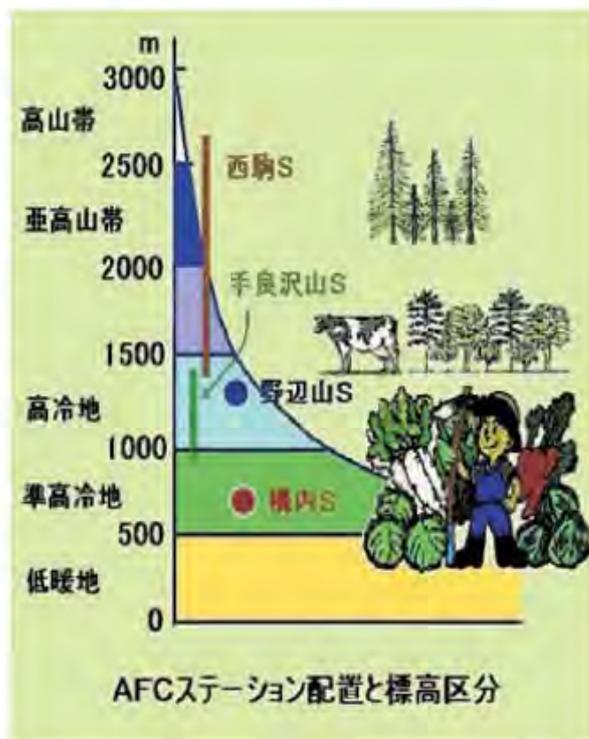
資料農8 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター(AFC)拠点

ステーションの紹介

AFCのステーションは、里地から山岳地まで多様な自然環境と生産環境の中に位置しており、フィールド科学を総合的に推進するために極めて適した教育研究の場を提供しています。



(出典:信州大学農学部ホームページ「附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター(AFC)」)

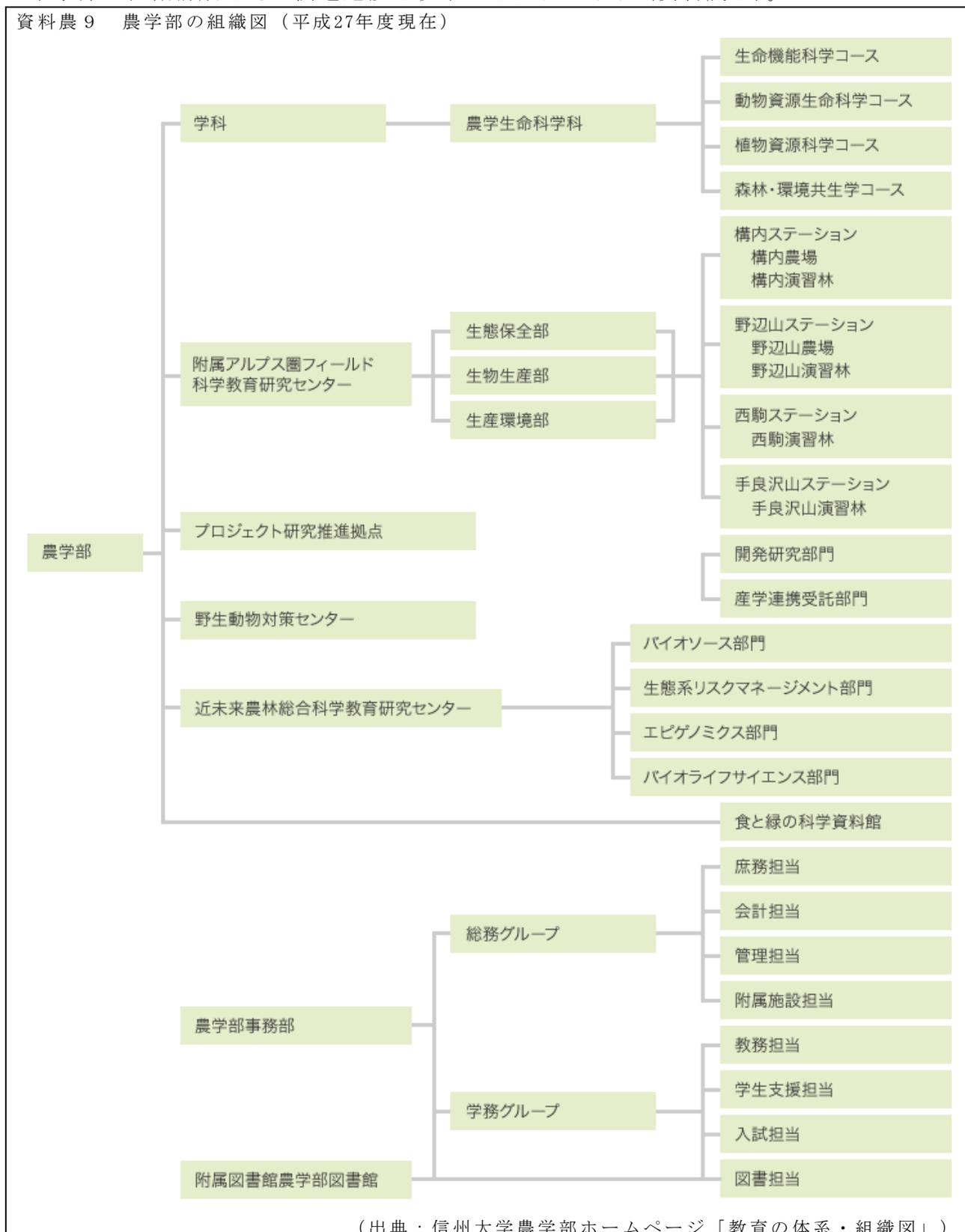


- 構内ステーション(40ha)**
農場(果樹・野菜・花卉・畜産・加工)と演習林(平地林・環境保全林)
- 西駒ステーション(252ha)**
中央アルプス高山帯を含む演習林(垂直分布、天然林、野生生物)
- 手良沢山ステーション(229ha)**
人工林(スギ・ヒノキ・カラマツ)、森林施業、治山治水
- 野辺山ステーション(29ha)**
高冷地農業(野菜、畜産・草地)と演習林(カンバ類、カラマツ、原野植生)

(出典：農学部デジタルパンフレット)

本学部の組織構成とその関連施設は以下のとおりである（資料農9）。

資料農9 農学部の組織図（平成27年度現在）



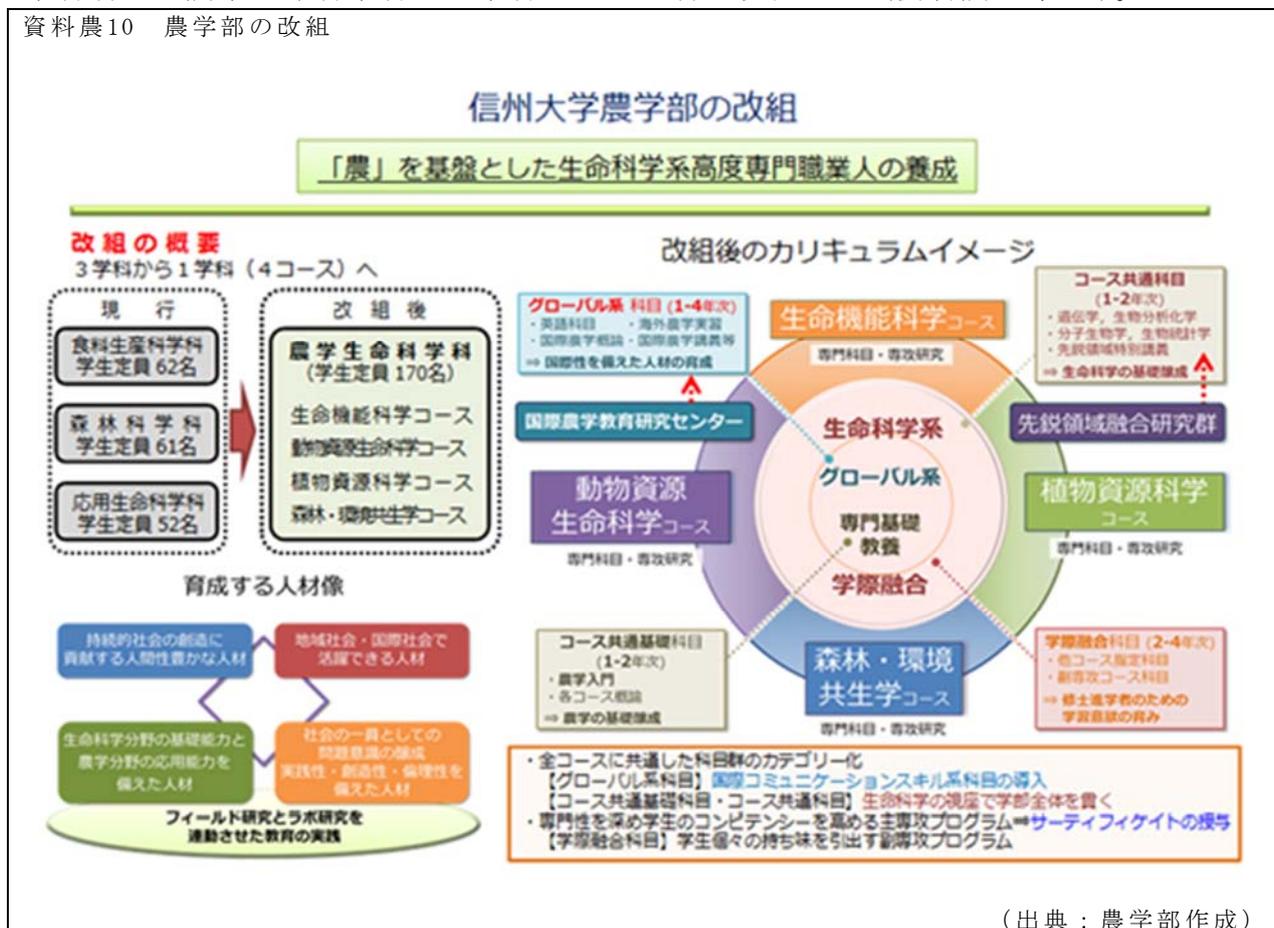
（出典：信州大学農学部ホームページ「教育の体系・組織図」）

3 カリキュラム概要・特色

○学部改組

ポストゲノム（未知の遺伝子の解析や、それらから生成されるタンパク質の研究等の総称）の時代にふさわしい農学系「理工系グローバル人材」を育成するため、平成27年度に3学科制から農学生命科学科の1学科4コース制に改組した（資料農10、11）。

資料農10 農学部の改組



(出典：農学部作成)

資料農11 改組後の各コースの特徴

● 生命機能科学コース

多様な生命活動を基盤とした新たな産業の創出に貢献

教育の特色 生命現象を化学と生物学の視点から科学し、バイオケミストリーとバイオテクノロジーの基盤から応用につながる教育・研究を行います。

コースの教育研究



▲左：野生のマツタケ
右：実験室的に作出されたマツタケの真球切鱗（上）と横断面（下）

▲実験の様子：植物細胞の一部を切り出している

● 植物資源科学コース

持続可能な食料生産システムの構築に貢献

教育の特色 環境に調和した持続的かつ高度な生産システムの実現に向け、農業生産の基盤となる植物資源を農学的・生命科学的視点で捉え、フィールドとラボの両面から教育・研究を行います。

コースの教育研究



▲野菜や果物に認められた力を最先端のテクノロジーで解明

▲最新の情報を加える DNA マーカー
本学で開発された赤果西リンゴ品種「ハニールージュ」

● 動物資源生命科学コース

人と動物が共生する心豊かな地域社会の構築に貢献

教育の特色 動物の複雑な生命現象・行動システムとして捉え、分子レベルから個体群レベルにわたる動物科学・生命科学および資源利用に関する教育・研究を行います。

コースの教育研究



▲幹細胞を用いて作出したネコノミ

▲ニワトリ胚鳥の卵細胞（赤色）と卵細胞（緑色）を示す免疫蛍光顕微鏡写真

▲ゾンダを用いたマウスへの強制給餌

● 森林・環境共生学コース

持続可能な美しい循環型社会の構築に貢献

教育の特色 山岳・森林域から里山・居住域に至る自然環境と人間との共生関係を科学的に俯瞰し、森林科学、防災工学および農村・緑地計画の基盤から応用につながる教育・研究を行います。

コースの教育研究



▲薪割の強さを考慮して木材の加工をする（木科工学実習）

▲環境と調和した快適な公衆を設計する（建築設計実習）

▲演習林で間伐の実習。倒す方向をよく考えて伐採する（森林生産実践実習）

（出典：信州大学農学部ホームページ「農学部改組のお知らせ（平成27年4月より）」）

○ 共通教育

本学は、共通教育科目と専門科目で教育課程を編成している（資料農12）。

資料農12 信州大学学則

（教育課程の編成方針）

第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。（授業科目の区分）

第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。（出典：信州大学規程集）

主に1年次が受講する共通教育科目は、学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、多様な学問領域に関する授業が開講されている（資料農13、14）。

資料農13 共通教育の概要

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。

特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立って自ら課題を探求し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動していくことができる能力を育成する。



資料農14 共通教育科目区分一覧

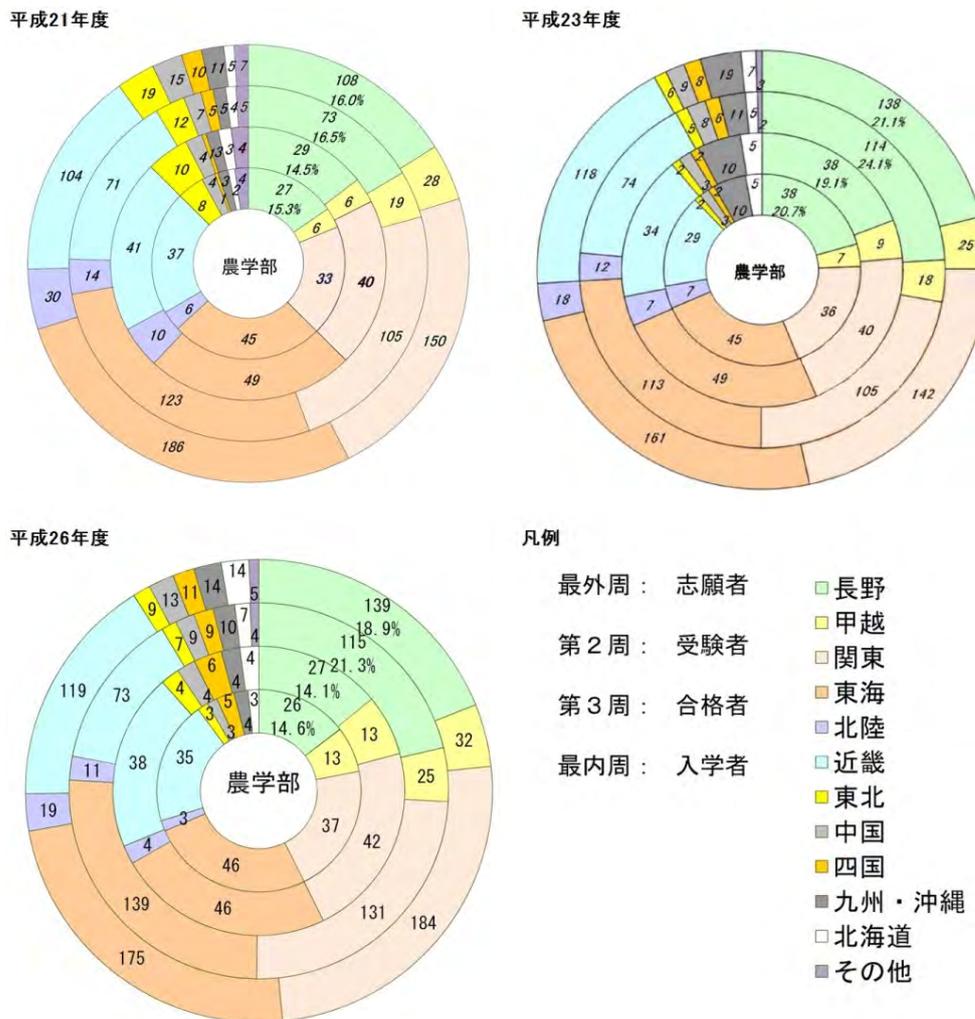
教養科目：学部・学科(課程)を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育(学部一貫教育)の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

(出典：経営企画課作成)

4 入学者及び入試の状況

本学部の出身地域別の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数は以下のとおりである(資料農15)。

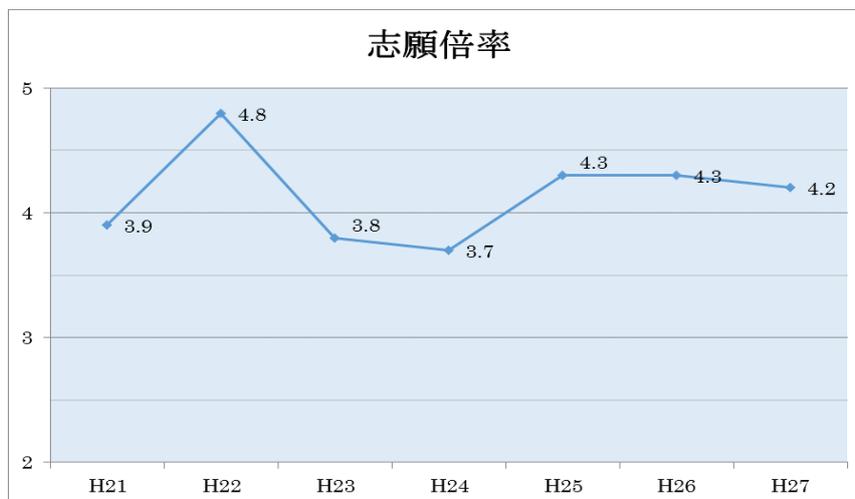
資料農15 農学部出身地域別の志願者数、受験者数、入学者数



(出典：経営企画課)

本学部の志願倍率、入学者に占める新卒者・既卒者の割合及び男女比の割合は以下のとおりである(資料農16~18)。

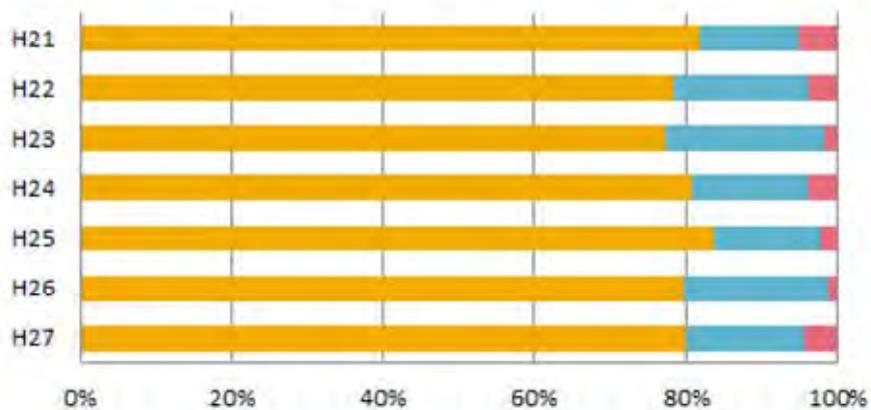
資料農16 志願倍率(一般入試)



(出典：経営企画課)

資料農17 農学部の入学者に占める新卒者・既卒者の割合

高校卒業年

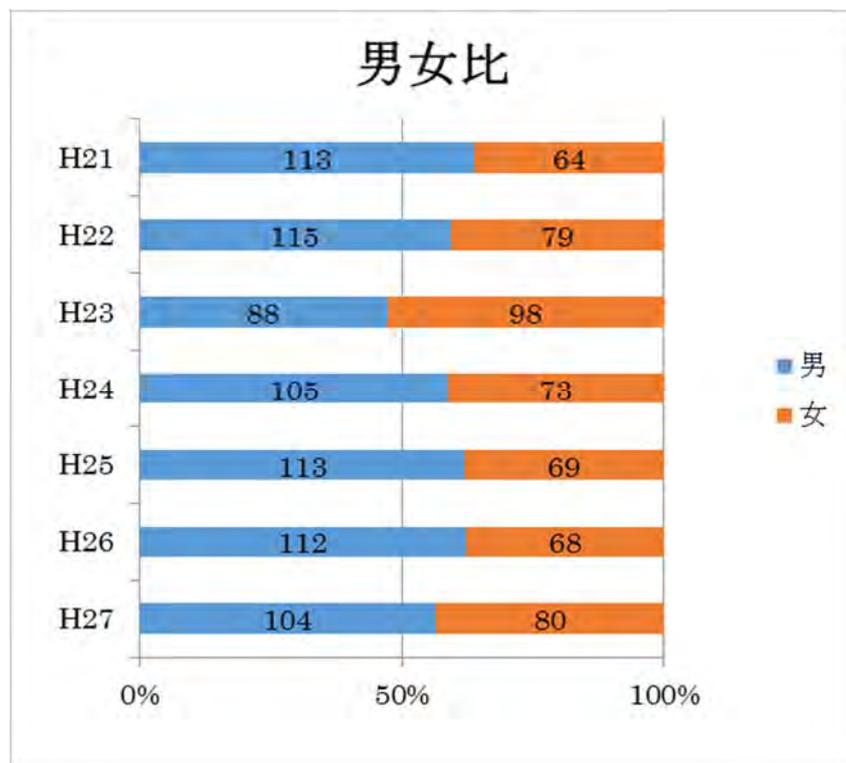


	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■新卒	144	148	142	143	150	142	147
■前年卒	23	34	39	27	25	34	29
■その他	9	7	3	7	4	2	8

(出典：経営企画課)

資料農18 農学部の入学者に占める男女比の割合

男女比



(出典：経営企画課)

本学部への入学状況及び平成27年度の入試科目は以下のとおりである（資料農19、20）。

資料農19 農学部への入学状況

年度	学科	入学定員	入学者数	充足率
平成 22 年度	食料生産科学科	62	68	109.7
	森林科学科	61	67	109.8
	応用生命科学科	52	59	113.5
	計	175	194	110.9
平成 23 年度	食料生産科学科	62	65	104.8
	森林科学科	61	65	106.6
	応用生命科学科	52	56	107.7
	計	175	186	106.3
平成 24 年度	食料生産科学科	62	62	100.0
	森林科学科	61	61	100.0
	応用生命科学科	52	55	105.8
	計	175	178	101.7
平成 25 年度	食料生産科学科	62	66	106.5
	森林科学科	61	63	103.3
	応用生命科学科	52	53	101.9
	計	175	182	104.0
平成 26 年度	食料生産科学科	62	66	106.5
	森林科学科	61	61	100.0
	応用生命科学科	52	53	101.9
	計	175	180	102.9
平成 27 年度	生命機能科学コース	170	51	108.2
	動物資源生命科学コース		44	
	植物資源科学コース		47	
	森林・環境共生学コース		42	
	計		184	

(出典：農学部作成)

資料農20 農学部の入試科目（一般入試）

（前期日程）

2 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

・生命機能科学コース ・動物資源生命科学コース ・植物資源科学コース

教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等
国語		「国語」（近代以降の文章）	左欄の科目
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
	②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」	左欄から2科目
		「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から1科目
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から2科目
		「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」	左欄から2科目
外国語		「英語」	左欄の科目

・森林・環境共生学コース

教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等
国語		「国語」（近代以降の文章）	左欄の科目
地理歴史		「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」	左欄から1科目
公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」	（2科目受験した場合は、第1解答科目を利用します。）
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
	②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」	左欄から2科目
		「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から1科目
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から2科目
		「◎理科総合A」, 「◎理科総合B」, 「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」, 「◎地学Ⅰ」	左欄から2科目
外国語		「英語」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」	左欄から1科目

3 個別学力検査教科・科目等

コース	受験教科・科目等
生命機能科学コース 動物資源生命科学コース 植物資源科学コース	理科（「化学基礎・化学」, 「生物基礎・生物」から一つ選択）
森林・環境共生学コース	小論文

*** 旧教育課程履修者に対する経過措置 ***

注1 化学基礎・化学は全範囲を出題範囲としますが、旧教育課程の科目（化学Ⅰ・化学Ⅱ）の選択分野「生活と物質」及び「生命と物質」に該当する問題を出題する場合は、いずれか一方を選択解答することとします。

注2 生物基礎・生物は全範囲を出題範囲としますが、旧教育課程の科目（生物Ⅰ・生物Ⅱ）の選択分野「生物の分類と進化」及び「生物の集団」に該当する問題を出題する場合は、いずれか一方を選択解答することとします。

(後期日程)

2 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

・生命機能科学コース

教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等		
国語		「国語」(近代以降の文章)	左欄の科目		
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目		
	②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目		
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」	左欄から2科目	(A)	(A)
		「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から1科目	※	又は
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から2科目	(B)	(B)
		「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」	左欄から2科目	(C)	又は
外国語		「英語」	左欄の科目		

・動物資源生命科学コース ・植物資源科学コース

教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等		
国語		「国語」(近代以降の文章)	左欄の科目		
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目		
	②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目		
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」	左欄から2科目	(A)	(A)
		「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から1科目	※	又は
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から2科目	(B)	(B)
		「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」	左欄から2科目	(C)	又は
外国語		「英語」	左欄の科目		

・森林・環境共生学コース

教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等		
国語		「国語」(近代以降の文章)	左欄の科目		
地理歴史		「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」	左欄から1科目		
公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理. 政治・経済」	(2科目受験した場合は、第1解答科目を利用します。)		
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目		
	②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目		
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」	左欄から2科目	(A)	(A)
		「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から1科目	※	又は
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から2科目	(B)	(B)
		「◎理科総合A」, 「◎理科総合B」, 「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」, 「◎地学Ⅰ」	左欄から2科目	(C)	又は
外国語		「英語」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」	左欄から1科目		

※ 「理科」の(A)パターンにおいては、同一名称を含む科目同士の選択は認めません。

注1 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる方は、職業教育を主とする学科、総合学科をもつ高等学校においてこれらの科目を履修した方(大学入学資格検定でこれらに相当する科目に合格している方を含みます。)及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。

注2 ◎印の科目は経過措置の科目で、旧教育課程履修者(9ページ「6 入学者選抜方法 (3) 旧教育課程履修者に対する経過措置」を参照)のみ選択解答することができます。

注3 「英語」はリスニングを課します。

3 個別学力検査教科・科目等

コース	受験教科・科目等
生命機能科学コース 動物資源生命科学コース 植物資源科学コース 森林・環境共生学コース	面接

(出典：「平成27年度入学者選抜要項」)

[想定する関係者とその期待]

① 在学生、受験生、保護者

農学、すなわち自然科学と社会科学の基礎から応用までの幅広い分野を含む総合科学を学び、卒業までに社会において活躍できる課題解決能力・実践力を身に付けること

② 製造業（農林業、食品業、製薬業等）、諸団体（国、県等）

農学に関する基礎知識を持ち、応用力・実践力を持つ人材の養成

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1 学術研究院、全学教育機構と学部

教員の流動性を確保し、これまで以上に柔軟な全学的な教育、研究マネジメントを可能とするための教員組織として、学術研究院を平成 26 年度に設置した。また、学士課程の共通教育科目を担当する教育組織として全学教育機構を設置している (資料農 21)。

資料農 21 学術研究院と学部、大学院との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター (拠点形成型の外部資金プロジェクト) において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究 (支援) センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典: 「大学概要2015」をもとに経営企画課作成)

2 共通教育

共通教育は、機構を中心に全学協力体制のもと実施している（資料農22～24）。

資料農22 信州大学全学教育機構規程（抜粋）

（目的）

第2条 機構は、信州大学（以下「本学」という。）が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

（全学協力体制等）

第3条 共通教育及びこれを履修する学生（以下単に「学生」という。）の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局（以下「関係部局」という。）と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

（共通教育企画実施部）

第10条 機構に、共通教育企画実施部を置く。

2 共通教育企画実施部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育に係る教育課程の企画及び立案に関すること。
- (2) 共通教育の授業担当者の選任に関すること。
- (3) 共通教育の授業の実施に関すること。
- (4) 専門科目と共通教育との実施上の調整に関すること。
- (5) 高年次共通教育及び日本語・日本事情に係る留学生教育の企画及び調整に関すること。

（共通教育修学支援部）

第11条 機構に、共通教育修学支援部を置き、学生の学習支援その他の修学支援に関する業務を行う。

2 共通教育修学支援部に、修学支援部門を置く。

3 共通教育修学支援部に責任者を置き、副機構長（修学支援担当）をもって充てる。

（クラス副担任）

第16条 修学支援部門に、各学部のクラス担任を補佐するため、クラス副担任を置く。

2 クラス副担任は、機構の専任教員が担当し、当該学部のクラス担任との密接な連携を図るものとする。

（教授会）

第17条 機構に、信州大学学則（平成16年信州大学学則第1号）第25条第2項の定めるところにより、信州大学全学教育機構教授会（以下「教授会」という。）を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

（運営会議）

第18条 機構に、機構の運営に関する具体的事項を審議するため、信州大学全学教育機構運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 基幹教育センター長及び言語教育センター長
- 四 共通教育企画実施部の各教育部門長及び修学支援部門長並びに教職教育部副責任者
- 五 その他機構長が必要と認める者

3 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

4 議長は、運営会議を主宰する。

5 学長は、必要又は機構長の要請に応じて、運営会議に出席し、審議に参加するとともに、共通教育及び機構の組織の運営に関する事項を、運営会議に提示し、審議を求めることができる。

6 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 共通教育の企画及び実施並びに修学支援に関する事項
- 二 機構の運営組織に関する事項

- 三 基幹教育センター及び言語教育センターの人事方針（採用人事方針を含む。）に関する事項
 四 教職教育部の業務に関する事項
 7 運営会議は、必要に応じて、その審議結果を教授会に報告するものとする。
 （学長及び共通教育推進会議）

第19条 共通教育の実施に係る最終責任は、学長が負う。

- 3 国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）は、必要に応じて、又は教授会の要請に応じて、機構の組織、運営に係る重要事項を審議する。
 4 学長及び共通教育推進会議は、共通教育に関する基本的事項について、教授会に提案することができる。この場合において、教授会は、これを尊重するものとする。

（出典：信州大学規程集）

資料農23 国立大学法人信州大学共通教育推進会議規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 この規程は、国立大学法人信州大学組織に関する規則（平成17年国立大学法人信州大学規則第5号）第16条の2第2項の規定に基づき国立大学法人信州大学（以下「本法人」という。）に設置する国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（職務）

第2条 共通教育推進会議は、本法人が設置する信州大学（以下「本学」という。）の次の各号に掲げる重要な事項について審議するほか、全学教育機構と各学部との連携協力及び連絡調整を円滑に行うことを職務とする。

- 一 共通教育の企画及び実施並びに修学支援の実施に関する事
- 二 共通教育カリキュラムの策定及び改定に関する事
- 三 共通教育の実施における全学的な支援に関する事
- 四 全学教育機構の運営に関する事
- 五 その他共通教育の実施に関する事

（組織）

第3条 共通教育推進会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 学長
- 二 教務担当の理事
- 三 全学教育機構長
- 四 高等教育研究センター長
- 五 学部長又は副学部長のうちのいずれか1名
- 六 その他学長が必要と認める者

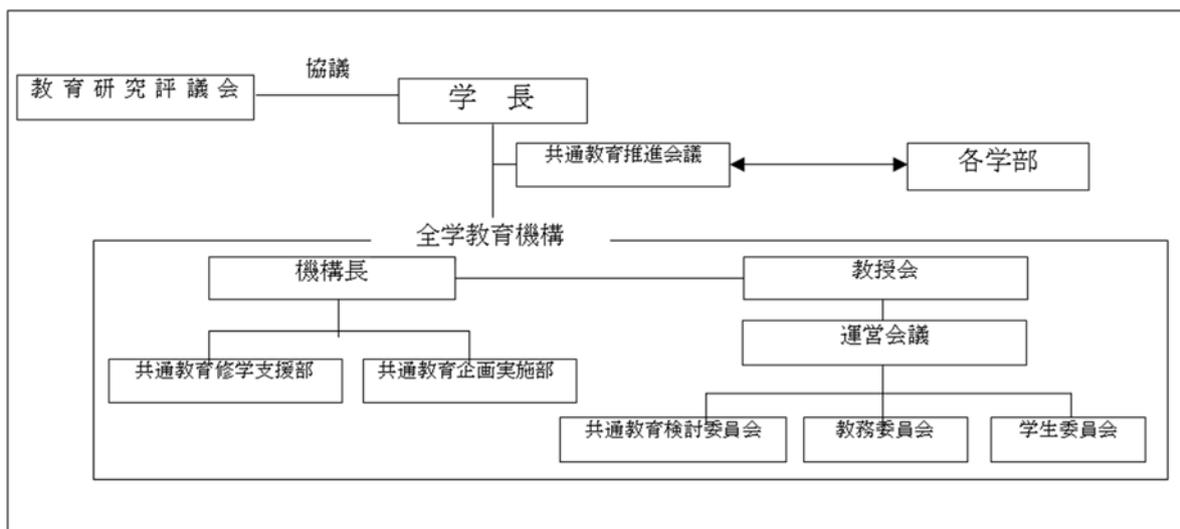
（議長）

第4条 共通教育推進会議に議長を置き、学長をもって充てる。

- 2 議長は、共通教育推進会議を主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、第3条第2号に規定する理事が、その職務を代行する。

（出典：信州大学規程集）

資料農24 共通教育実施体制



(出典：経営企画課で作成)

3 教育サポート体制の充実

本学部は、コースごとに担任を配置している。さらに、1年次生にはクラス副担任として機構の教員をコースごとに配置し、修学指導を行っている（資料農25）。

資料農25 平成27年度1年次生クラス副担任の配置状況

学部・学科等			クラス担任数	
			担任	副担任（1年次）
農学部	農学生命科学科	生命機能科学コース	コース教員 1	1
		動物資源生命科学コース	コース教員 1	1
		植物資源科学コース	コース教員 1	1
		森林・環境共生学コース	コース教員 1	1

(出典：農学部作成)

全学的な教育サポート体制として、学務課、学生支援課等を設置している。また、全学的な教育活動を展開するため、附属図書館、総合健康安全センター等に専門的知識技能を有する職員を配置している。さらに、本学部・研究科に教育活動を展開するために必要な職員をそれぞれ配置するとともに、大学院生をTAとして雇用し積極的に活用している（資料農26～31）。

資料農 26 国立大学法人信州大学業務執行組織規程（抜粋）

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
- (4) 学生関係職員の SD（スタッフ・デベロップメント）に係る企画・立案及びその実施に関すること。
- (5) 全学（本法人が設置する信州大学大学院（以下「大学院」という。）を除く。）の教務に関すること。
- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
- (7) 学位の授与に関すること。
- (8) 教育課程（大学院を除く。）に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (9) 他の大学等との単位の互換（大学院を除く。）に関すること。
- (10) 全学の学務情報システムに関すること。
- (11) 出前講座に関すること。
- (12) 諸会議（国立大学法人信州大学戦略企画会議規程（平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号）第 6 条に定める大学院戦略会議（以下「大学院戦略会議」という。）及び信州大学大学院教務委員会を除く。）の連絡調整に関すること。
- (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
- (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。

2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
- (2) 共通教育の教務に関すること。
- (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
- (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
- (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
- (6) 環境マインド教育支援に関すること。

3 省略

4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。

5 入試課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
- (3) 学生募集に関すること。
- (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。

6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。（研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。）
- (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。

（出典：信州大学規程集）

資料農 27 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

平成 28 年 1 月 18 日現在

	学務課	学生支援課		国際交流課
			うち キャリアサポートセンター	
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

(出典：経営企画課作成)

資料農 28 附属図書館、総合健康安全センター等職員数

平成 28 年 2 月 1 日現在

区分	附属図書館	総合健康安全 センター	総合情報 センター	e-Learning センター
伊那キャンパス	5	2	-	-

(出典：経営企画課作成)

資料農 29 学部・研究科の学務担当の職員数

平成 28 年 2 月 1 日現在

区 分	学務担当 職員数
農学部 農学研究科	14

(出典：経営企画課作成)

資料農 30 信州大学ティーチング・アシスタント実施要項 (抜粋)

(目的)

第 2 TA は、本学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、当該学生の処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。

(身分)

第 3 TA は、非常勤職員とする。

(職務内容)

第 4 TA は、学部学生、修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験、実習及び演習等の教育補助業務に従事する。

(出典：信州大学規程集)

資料農 31 TA の業務内容

部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
農学部		○			○	○	○		○				○	

授業時間内の業務内容

- A. 資料の配付 B. 機器の操作 C. 出欠の管理 D. 試験監督補助 E. 討論への参加
- F. 学生の質問への対応 G. 実験・実習などの実演 H. 発声・会話の指導

授業時間外の業務内容

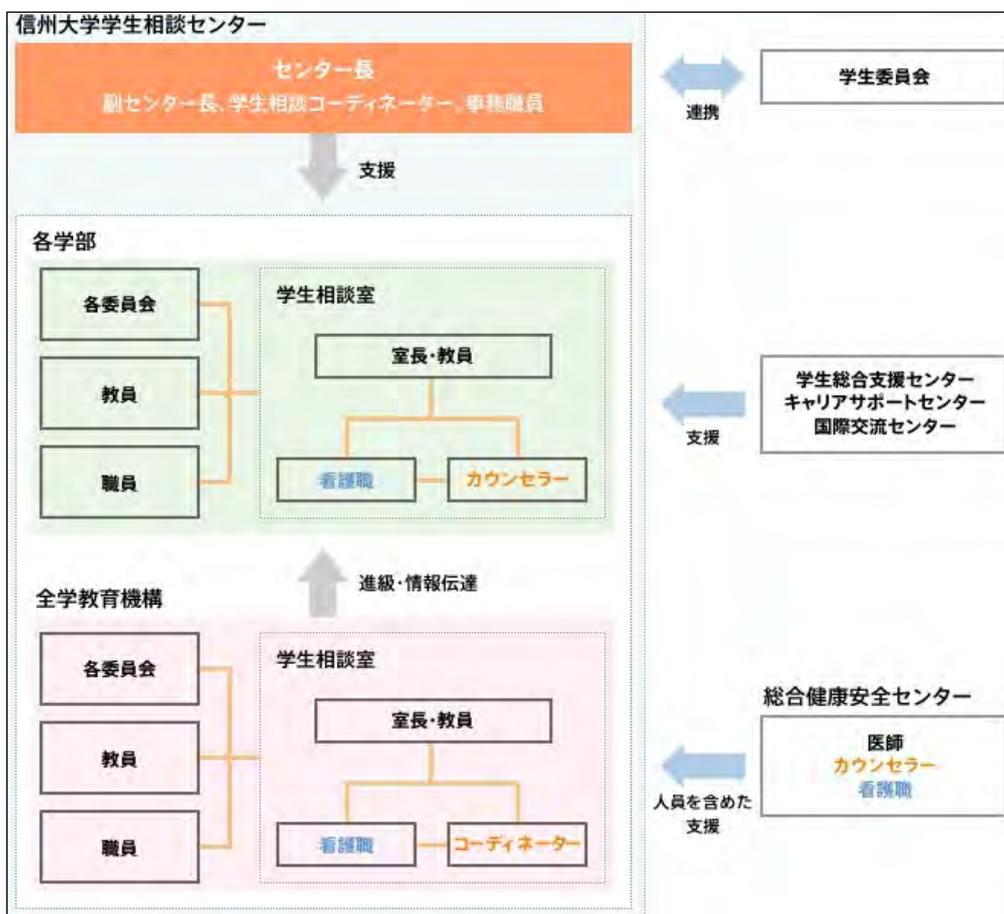
- a. 資料のコピー、保存 b. 教室のメンテナンス(空調、照明、施設等)
- c. レポート課題の作成・採点補助 d. 教材の作成補助 e. 実験・実習の準備

(出典：各学部等のデータを基に経営企画課にて作成)

4 学生相談体制の整備

平成 24 年度に学生相談センターが設置されるとともに、各学部等には学生相談室が置かれ、活用されている(資料農 32)。

資料農 32 学生相談センター及び学生相談室



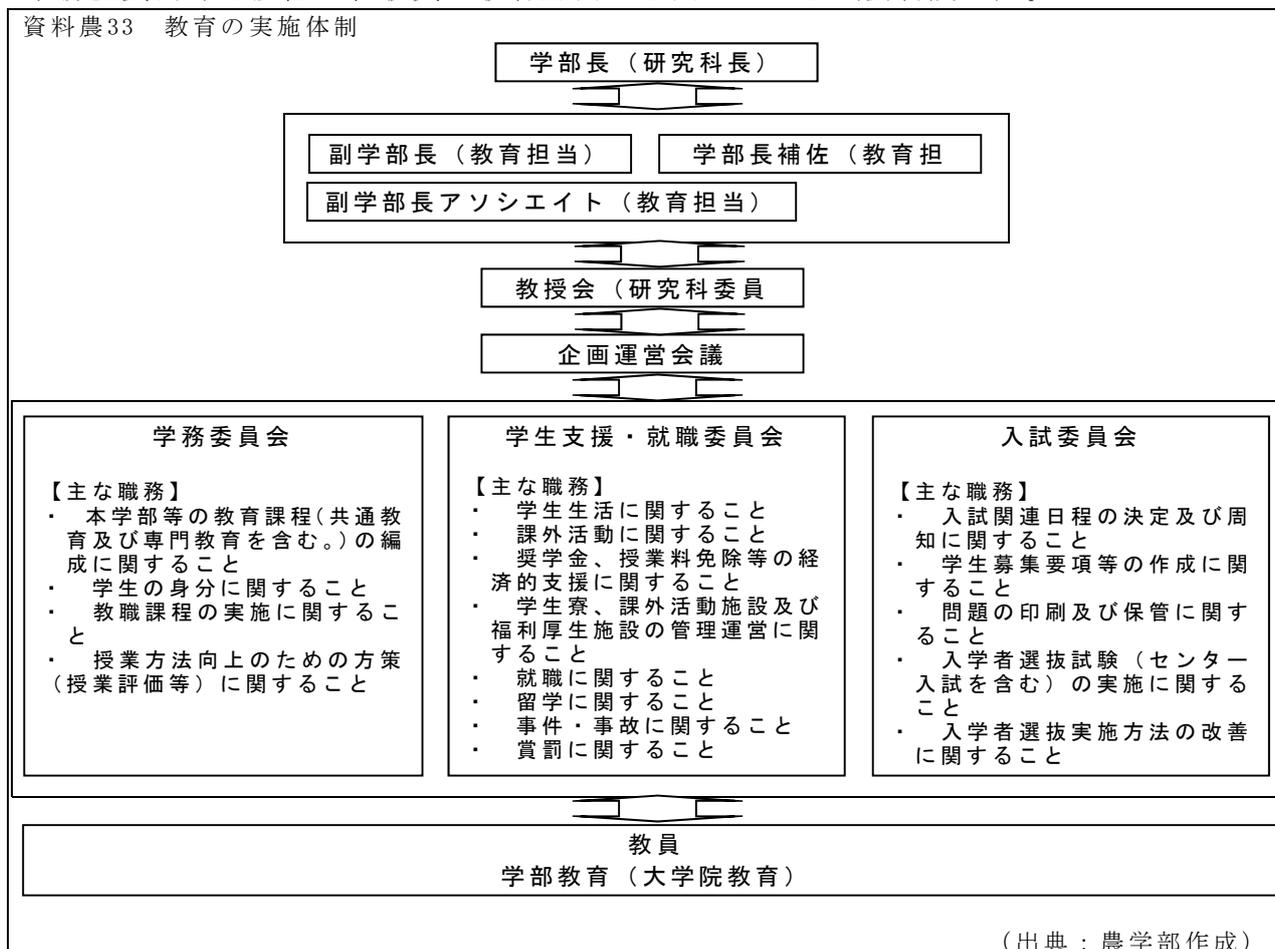


5 教育の実施体制及び教員の教育力向上

① 教育の実施体制

学務委員会等を設置し、教員の教育力向上を図っている（資料農33）。

資料農33 教育の実施体制



② 関係者のニーズの把握

学生、卒業生、雇用主、地域等の社会のニーズを各実施組織がアンケート、意見聴取等を実施し把握している（資料農 34）。

資料農34 関係者のニーズ把握

対象	実施方法	頻度	実施組織	目的・利用方法
新入生	入学時アンケート	1回／1年	アドミッションセンター	本学入試の現状を把握し、今後の入試改革に資する。
学生	Webによるアンケート	2回／1年	学務委員会	授業改善及び授業の工夫に繋げ教育の質の向上を図る。
卒業生	紙媒体によるアンケート	1回／1年	学務委員会	教育課程と教育内容をより良くし、教育の充実を図る。
雇用主・企業等	就職した企業等へのアンケート	1回／3年	学生支援・就職委員会	企業等が必要とする学生のニーズを把握する。
地域	自治体との連携協議会	1回／1年	農学部	地域社会が必要とする本学部のシーズを把握し、貢献に資する。

(出典：農学部作成)

③ 教育力向上のための取組

○FD講演会の開催

教員の教育力向上、メンタル面で不安を抱える学生や障害を持つ学生への適切な接し方、更には大学人としての倫理や研究を推進する上で必要とされる情報、知識など、テーマに幅を持たせ実施している（資料農35）。

資料農35 FD講演会の開催状況（教育関係）

実施年度	実施日	講師	FDテーマ	参加者数
平成22年度	10月14日(木)13:00~16:00	高橋知音(信州大学教育学部教授)	メンタルヘルス(含むハラスメント)について	13名
	6月14日(火)13:30~15:00	萩原素之(信州大学農学部教授)	学生の自主学習を促すためのIT活用	22名
	10月17日(月)13:30~15:00	松岡幸司(全学教育機構准教授)	FDとは? ~必要性と義務の間で考える~	25名
平成23年度	11月14日(月)13:30~15:00	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	「教育の質」をどのように測るのかー教員業績評価書 今年度の対策講座ー	38名
	2月13日(月)13:15~14:45	加藤弘三(高等教育研究センター教授) 加藤善子(高等教育研究センター准教授)	本学にとって意義のあるGPA制度をめざしましょう	30名
平成24年度	5月21日(月)13:00~14:30	小田 佳代子(学生相談コーディネーター)	学生とのかかわり〜ゲートキーパーとして〜	34名
	6月25日(月)13:30~14:30	Kathleen T. Brinko先生(米国ノースカロライナ州アパラチアン州立大学・FDセンター長)	学生との接しかた 学習における情緒と認知の側面から	25名
	6月27日(水)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	10月15日(月)13:00~14:30	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	信州大学の学生を知る	37名
	11月26日(月)13:00~15:00	高橋校長(松本予備校) 一之瀬副校長(松本予備校)	現代の学生気質及び外部から見た大学評価及び初年次教育から見た大学の取り組み及び入試状況	37名
	12月3日(月)13:00~14:30	片山綾乃(農学部カウンセラー)	チューター面談の振り返りと課題について	25名
	12月14日(金)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	教育におけるICT活用に関するFD講習会	12名
平成25年度	12月26日(火)9:00~10:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	1月8日(水)10:30~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	9名
	4月2日(火)9:00~10:15	片山綾乃(農学部カウンセラー)	メンタルに不安を抱えた学生に対してどう接するのか	18名
	5月20日(月)13:00~14:30	庄司和史(全学教育機構准教授)	聴覚障害情報と学生支援	49名
	6月21日(金)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	10名
	8月6日(火)13:00~14:30	加藤弘三(高等教育研究センター教授)	GPA制度導入に際してのポイントや課題	16名
	12月10日(火)15:00~16:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	12月14日(水)15:00~16:30	高野嘉寿彦(全学教育機構副機構長) 花崎一夫(全学教育機構教授) 小松孝子(学務部学務課共通教育支援室室長)	共通教育における平成27年度カリキュラムの方向性について	11名
	12月18日(水)16:00~17:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	9名
	12月25日(水)13:00~14:30	加藤弘三(高等教育研究センター教授)	大学の生産的な文化の育成について	12名
平成26年度	1月29日(水)16:00~18:00	加藤弘三(高等教育研究センター教授) 加藤善子(高等教育研究センター准教授)	シラバスガイドライン改訂に伴うFD	28名
	4月2日(火)10:40~12:00	庄司和史(全学教育機構准教授)	聴覚への障害学生学習支援及びノートテイクへの説明会について	50名
	6月9日(月)13:00~14:30	下平薫子(農学部カウンセラー)	気になる学生への接し方のPoint	25名
	6月23日(月)15:00~16:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	18名
	9月29日(月)13:00~14:40	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	大人数講義での効果的な授業の実施方法について	13名
	10月16日(木)13:00~14:30	谷塚 光典(e-Learningセンター) 長谷川 理(e-Learningセンター) 早水 美津子(e-Learningセンター) 内山 直美(e-Learningセンター)	教育におけるICT活用について	5名
平成27年度	1月13日(火)14:30~16:00	加藤弘三(高等教育研究センター教授)	シラバスガイドライン見直しに伴う留意点およびシラバスの書き方	17名
	12月9日(月)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	4月6日(月)14:00~15:30	庄司和史(全学教育機構准教授) 社 琴音(信州大学農学部森林科学科学生)	聴覚障害学生支援の説明会	32名
	6月8日(月)13:00~14:30	藤田智之(農学部改組VWG座長)	農学部及び農学研究科改組後のカリキュラム及び運営等について	45名
	6月26日(金)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	12名
	6月29日(月)13:00~14:30	下平薫子(農学部カウンセラー)	メンタル面に問題のある学生の対応について	27名
	9月28日(月)13:00~14:30	国際交流担当職員(予定)	留学生受け入れの対応について	22名
	10月5日(月)13:00~14:30	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	4学期制導入に伴う2コマ連続授業等における効果的な教育方法について	20名
11月30日(月)13:00~14:30	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	シラバスの書き方について	5名	
12月15日(火)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	12名	
3月18日(金)13:00~14:30	篠田 直子(障害学生支援室長)	信州大学における障害学生への支援体制について	26名	

(出典：農学部作成)

○シラバスの点検

シラバスガイドライン（資料農36）に則り、学務委員会を中心に毎年、全シラバスの点検を実施し、必要に応じて改善を図っている（資料農37）。

平成 26 年 11 月 10 日

信州大学シラバスガイドラインの見直しについて

(平成 26 年 11 月 10 日第 17 回教務委員会決定, 平成 26 年 11 月 19 日第 138 回教育研究評議会報告)

このガイドラインは、信州大学で開講されるすべての授業のシラバスが備えるべき必須条件である。ただし、下記に記載する事柄をシラバスにおいて具体的にどのように表記するかについては、各学部学科の専門教育課程及び共通教育課程（以下、各学部）によって異なってくるため、より具体的な「シラバス作成の手引き」のようなものは、必要に応じて各学部において作成するものとする。

大学並びに各学部・学科等の定める『学位授与の方針』は、それぞれの教育課程の卒業生が卒業時に確実に身に付けていることが求められる能力・知識のリストであり、個々の授業は、学生が、大学並びに各学部・学科の『学位授与の方針』の能力・知識を身に付けるために配置されている。したがって、個々の授業が『学位授与の方針』のどの部分をどういう形で担っているのかをシラバスで明らかにするものとする。

『学位授与の方針』で定める能力・知識は、授業等を通して、学生が自分の努力によって手に入れるべきものである。シラバスでは、課題や小試験の内容と回数等、当該授業が担う『学位授与の方針』に至るまでに学生がしなければならないことを、学生が明確に理解できるように記述するものとする。特に、事前・事後学習のしかたについては、「受講生には、1 単位当たり「45 時間から授業時間を引いた時間量（下記の例参照）」の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、授業目標到達に向けて学生が何をしなければならないかを明確にする。その上で、それらが成績評価においてどのように扱われるのか、配点等を明らかにするものとする。

以上の考え方に立ち、以下の 6 項目を信州大学の授業のシラバスの必須記述項目とする。なお、シラバス作成に先立つ授業設計に当たっては、当該授業のカリキュラムの中での位置づけ・他の授業との関連を意識するものとする。

①授業の基本的な情報

授業名、担当者氏名、教室、開講日時（何曜日何時限目）、単位数、教科書、参考書。その他、各学部の必要に応じて記載する。

②授業が担う大学並びに学部・学科等の『学位授与の方針』の項目と、授業の達成目標

授業の達成目標は、この授業が担う『学位授与の方針』の項目をこの授業の言葉で言い換えたものとし、(知識面、スキル面、態度面の組み合わせで、またはいずれかの面で)「〇〇ができるようになる」という形を標準とする。

③成績評価の方法

受講者が②の達成目標に到達するために通っていく過程（課題や小試験等）と、到達したことを示すエビデンス（最終レポートや期末試験等）のそれぞれの内容と配点を記述する。

平成 26 年 11 月 10 日

④成績評価の基準

この項では、「何ができていれば、授業の達成目標の水準から見て『卓越している』／『かなり上にある』／『やや上にある』／『その水準にある』』と言えるのかを記述する。

筆記試験の場合の例：

授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」

レポートの場合の例：

(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v) の 5 項目を満たしていれば「かなり上にある」。4 項目までできていれば「やや上にある」。3 項目までできていれば「水準にある」。

⑤事前・事後学習に関する情報

「受講生には、1 単位当たり『45 時間から授業時間を引いた時間量』の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、15 回の授業に対して受講生がしなければならない予習・復習も授業の一部であるものとして、その授業での事前・事後の自主学習に関する計画を記述する。

⑥授業計画

15 回の授業のおよその内容と順番、課される課題や小試験等のスケジュールを記述する。課題については、提出締切も示す。評価のための最終試験を行う場合は、15 回の授業とは別に行う。

⑦履修上の注意

当該の授業での教科書や参考書の利用方法、注意事項など

⑧オフィスアワー及び授業担当者の連絡先

農学部シラバス点検チェックリスト

シラバス点検を行った結果、下記のとおり修正がございました。つきましては平成 27 年 3 月 23 日（月）までに Web 上で修正をお願いいたします。

授業科目名： _____

【シラバス点検チェックシート】（該当すればチェックし、空欄に具体的内容を適宜記述してください。）

- 項目が記述されていません。 点検の結果、問題はありません。
- 「授業で得られる DP 要素」が 1 つまたは 2 つ選ばれていません。
- 「授業の達成目標」で「授業で得られる DP 要素」が授業内容に即していません。
（「何を教えるのか」ではなく、「学生が何をできるようになるのか」という観点で書いてください）
- 「授業のねらい」と農学部の目的、科目の目的の対応が明確ではありません。
- 「授業計画・到達基準」で定期試験を含まずに 15 回の授業時間が確保されていません。
- 「授業計画・到達基準」が大雑把すぎ、学生が明確に授業のイメージを持ってません。
- 「成績評価の基準」に評価の手段、基準が記載されていません。
（具体的な成績評価ポリシーが明確になっていません。）
 出席(出席点, 出席回数)に関する記載があります。
- 「事前・事後学修の内容」に時間外学修の学修内容に関する記載がありません。
- 「教科書」が記載されていません。授業の性質により教科書を使用しない場合は、その旨記述してください。
- 「参考書」が記載されていません。授業の性質により参考書を使用しない場合は、その旨記述してください。
- 実習等の授業において、実習費等必要な経費がある場合、その経費を記載してください。
- その他

点検部門：学務委員会 点検者： _____

（出典：農学部作成）

○学生による授業評価

回答内容の質を維持しつつ、学生の負担が過度にならないよう、1 年度当たり約半数の教員を対象に実施し、各教員は 2 ヶ年度に 1 回評価を受ける体制としている。ICTを活用し、本学部において独自に開発したソフト（後掲資料農72）により行っており、回答率は約 8 割を維持している。評価結果は各教員に通知されるとともに公表される（資料農38）。

資料農38 学生による授業評価

〔質問項目〕

授業改善のための学生アンケート質問項目(農学部)

以下の質問に対し、自由記述を除いて、「強くそう思う」、「そう思う」、「
いうとそう思う」、「どちらともいえない」、「どちらかというともう思わな
う思わない」、「全くそう思わない」の7段階で回答

分類	質問項目
あなたの取組姿勢	この授業に対するあなたの取組姿勢を教えてください
	①よく予習した
	②復習をこまめにした
	③授業中、担当教員の話す内容に集中した
教員の取組姿勢	④ほとんど休まず出席した
	この授業に対する担当教員の取組姿勢について教えてください
	⑤教員の情熱や熱意が感じられた
	⑥授業に対する準備が十分になされていた
	⑦授業での話し方は明瞭で聞き取りやすかった
	⑧分かりやすい説明をしていた
	⑨効果的に板書、視聴覚教材、配布資料が使われていた
⑩受講生の理解度を把握しながら授業が進行されていた	
授業内容	⑪遅刻や早めに授業を切り上げるような事はなかった(30分以上)
	この授業の内容について教えてください
	⑫授業内容やシラバスの説明が十分なされた
	⑬予習復習の情報提供・指示が十分与えられた
	⑭探求の仕方・姿勢、知識や技術などの獲得に効果的であった
	⑮担当教員の学問的・専門的識見が感じられた
⑯総合的に判断して、この授業に満足している	
自由記述	この授業について改善すべきと思うことがありましたら書いてください
	この授業について教員が良い工夫をしていると感じられることがありましたら書いてください

〔実施年度毎の回答率〕

実施年度	回答率	
	前期	後期
平成22年度	88.9%	81.1%
平成23年度	79.6%	79.3%
平成24年度	79.7%	81.1%
平成25年度	74.6%	80.2%
平成26年度	74.0%	73.5%
平成27年度	81.3%	77.3%

(出典：農学部作成)

○ベストティーチャー賞とピアレビュー

学生による授業評価結果を集計し、学科ごとに最も得点の高い教員にベストティーチャー賞を毎年度授け、更なる教育の質の向上を喚起している（資料農39）。

加えて、当該教員の通常講義においてピアレビューを実施し、ピアレビューシートによるアンケートを実施するとともに、その結果を当該教員へ還元することで、教員相互の教育力の向上を図っている（資料農40）。

資料農39 ベストティーチャー賞

農学部ベストティーチャー賞選考等に関する申合せ

1. 趣旨

農学部の教育方針に沿って、多くの学生の支持を受けると共に、講義法に優れ、学生の修学指導に情熱をもって当たっている教員を年度末に選び、この教員に「ベストティーチャー賞」を授与し、表彰する。本制度の運用により、教育における質向上へ、一層の貢献を図ることを目的とする。

2. 対象者は次に該当する者とする。ただし、過去3年間に受賞した者を除く。

- ・当該年度に在職している者。
- ・当該年度に講義（実験・実習、ゼミ、専攻研究等は除く）を行っている者（非常勤講師を除く）。
- ・講義を複数で担当した場合は、3分の2以上の回を担当したことがシラバスで確認できる者。（オムニバス形式の授業は授業改善アンケートの対象とはするが、ベストティーチャーの対象とはしない。）

3. 選考基準及び方法は次のとおりとする。

選考基準	選考方法	評価方法
授業改善アンケート結果	集計後、平均値の算出結果による。なお、学生回答数が一定以上 ^(注1) あった授業科目で、5.50以上を対象とする。	0～7点
シラバスがガイドラインに沿って作成されているか	学務委員会によるチェックを行う。	適・不適
毎回の講義における出欠状況の確認	候補教員による自己申告に基づく。 (学科学務委員による確認)	適・不適
欠席の多い学生に対する指導・対応の実態と方法	候補教員による自己申告に基づく。 (学科学務委員による確認)	適・不適

(注1)回収率 50%以上とする。この値はアンケート回答率の実情を見て、見直す。

(選考方法)

- ①上記選考基準により評価し、評価の高い者を各学科から1名程度推薦する。
- ②機能性食料開発学専攻及びアルプス圏フィールド科学教育研究センターの教員は、各々の学部教育担当学科に含め、推薦対象とする。
- ③学科からの推薦を受けた候補者を対象として、学務委員会にて候補者を決定し、企画運営会議へ報告する。
- ④選考基準に満たない等の場合には、候補者ならびに受賞者を選考しないこともある。

4. 表彰等について

ベストティーチャー賞に選ばれた教員に対しては、教授会へ報告しこれを称え、賞状を授与する。また、ベストティーチャーに選ばれた教員が担当する1授業を翌年度に公開し、ピアレビューを行う。

平成26年6月17日
第2回学務委員会決定

(出典：農学部作成)

資料農40 ピアレビュー

ピアレビューシート

■授業科目：木材理学 月 日（ ） 限

■担当教員：

○印をつけるか、あるいは具体的に記入してください。

1. この講義において、どのような点をよいと思ひ、自分の講義の参考になると思ひましたか

- ・講義の組み立て方、講義の工夫
- ・教材について
- ・教材の用い方
- ・学生の理解力、思考力、論理力をやしなわせる方法
- ・その他

()

2. この講義において、改善するための提案はありますか？

- ・講義の組み立て方、講義の工夫
- ・教材について
- ・教材の用い方
- ・学生の理解力、思考力、論理力をやしなわせる方法
- ・その他

()

3. この講義に対する感想・意見等

()

参加者氏名：

(出典：農学部作成)

○卒業生アンケート

平成24年度から、卒業生を対象とした「共通教育及び農学部の専門教育に関する調査」を実施している。調査結果は教育改善のための基礎的データとして活用している（資料農41）。

資料農41 卒業生アンケート

〔質問項目〕

共通教育及び農学部の専門教育に関する調査質問項目

【共通教育について】

質問	回答項目
1. 共通教育を受けることで自分の世界が広がった	① あてはまらない(強くそう思わない) ② どちらかというにあてはまらない(そう思わない) ③ どちらでもない ④ どちらかというにあてはまる(そう思う) ⑤ 非常にあてはまる(強くそう思う)
2. 共通教育を学んだことによって、学部を越えた友人ができた	
3. 基礎科学科目(数学、物理、化学、生物、地学)を履修した	
4. 基礎科学科目(数学、物理、化学、生物、地学)で得た知識は専門課程の学習を始めるにあたって役に立った	
5. 共通教育で教養科目が高年次に開講されたら、受講したかった	
6. 共通教育で語学科目が高年次に開講されたら、受講したかった	

【農学部の専門教育について】

質問	回答項目
7. 学部の過程は総合的に見て満足のいくものであった	① あてはまらない(強くそう思わない) ② どちらかというにあてはまらない(そう思わない) ③ どちらでもない ④ どちらかというにあてはまる(そう思う) ⑤ 非常にあてはまる(強くそう思う)
8. 専門的な知識が身につく授業が多かった	
9. 新しい分野の勉強ができる授業が多かった	
10. 資格取得に役立つ授業が多かった	
11. 選択できる授業が豊富に用意されていた	
12. 社会に出て役立つ授業が多かった	
13. 視野を広げるのに役立つ授業科目が多かった	
14. 各授業の人数は授業内容に対して適切であった	
15. 成績評価の方法はおおむね適切であった	
16. 学生の参加を積極的に促す授業が多かった	
17. わかりやすい授業が多かった	
18. 理解度など、学生の反応をみながら進められる授業が多かった	
19. 学習意欲や興味が増すように工夫されていた授業が多かった	
20. 授業内容の必要性や位置づけをはっきりと示してくれる授業が多かった	
21. 重要なポイントをはっきりと示してくれる授業が多かった	
22. 学問分野の専門家として優れた先生が多かった	

【農学部での教育・学習環境について】

質問	回答項目
23. 職員の窓口対応は十分に親切であった	① あてはまらない(強くそう思わない) ② どちらかというにあてはまらない(そう思わない) ③ どちらでもない ④ どちらかというにあてはまる(そう思う) ⑤ 非常にあてはまる(強くそう思う)
24. 就職・進学支援は十分におこなわれていた	
25. 図書館では十分なサービスを受けることができた	
26. 図書館の蔵書が充実していた	
27. インターンシップ制に積極的に取り組んだ	
28. 施設・設備は充実していた	
29. 情報ネットワークが整備されていた	
30. この学部への進学を後輩・知人に勧めたい	
31. 専攻研究を行って満足感、達成感があった	
32. 教員の卒業研究指導は満足のいくものであった	

質問	回答項目
授業時間以外での学習場所(複数回答可)	1. 自宅や寮の自室 2. 図書館 3. 生協の食堂 4. ラウンジ 5. 研究室 6. 空き教室やコンピューター室 7. キャンパス内のその他の場所 8. キャンパス外の場所(自宅や寮を除く)

質問	回答項目
一週間当たりの授業時間外学習時間	1. 0時間 2. 1時間未満 3. 1～2時間 4. 3～5時間 5. 6～10時間 6. 11～15時間 7. 16～20時間 8. 20時間以上
質問	回答項目
一か月あたりの平均既読冊数(マンガ雑誌を除く)	1. 0冊 2. 1冊 3. 2～4冊 4. 5～7冊 5. 8～10冊 6. 11冊以上
質問	回答項目
今後、専門教育において必要と思われる事項(複数回答可)	1. 専門教育にかかる講義科目の充実 2. 実験・実習の科目の充実 3. ゼミの充実 4. プレゼンテーション能力を身に付けさせる教育の充実 5. インターンシップ(学外実習)の充実 6. 専門資格の取得教育の充実 7. その他
質問	回答項目
教育研究活動以外で農学部に充実して欲しい事項(複数回答可)	1. 入学後におけるガイダンスの充実 2. 1年次の合宿研修等の充実 3. 精神面におけるアフターケア(メンタルヘルスの充実) 4. ハラスメントの防止 5. 課外活動に対する援助 6. オフィスアワーの充実 7. その他
質問	回答項目
農学部在学中に教育・研究活動以外で役立ったと思われる事項(複数回答可)	1. 友人関係 2. サークル活動 3. 地域社会での活動(ボランティア) 4. 外国人留学生との交流 5. その他
質問	回答項目
教育・カリキュラム等全般について	自由記述

[実施年度毎の回答率]

実施年度	回答率
平成24年度	39.4%
平成25年度	59.3%
平成26年度	54.9%
平成27年度	83.5%

(出典：農学部作成)

○ 共通教育の取組

機構では、教育の質の改善・向上を図るため、評価分析室機構分室会議を中心に授業改善アンケート等を実施している（資料農42、43）。

資料農42 学生による授業改善アンケート

2015年（平成27年）10月8日

平成27年度前期全学教育機構「学生による授業改善アンケート」の結果

評価分析室全学教育機構分室

全学教育機構では、平成27年度前期に中間アンケートを行い、学生の要望を確認し、後半の授業が行われた。本結果は、期末に実施されたものによる。

平成27年度前期期末「学生による授業改善アンケート」は、以下の2とおりの方法により実施された。

- a. 総合人間科学系所属の各教員が担当する授業について授業中に用紙に記入する。
- b. 全授業題目を対象としてウェブ上で記入する。

アンケートの質問項目は、用紙・ウェブともに以下のとおりである。

＜アンケート質問項目＞

1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識があった(5択)
2. あなたの、この授業への出席率は高かった(5択)
3. あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた(5択)
4. あなたは、この授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした(予習・復習等)(6択)
※4.の選択肢(週4時間以上、週3～4時間、週2～3時間、週1～2時間、週1時間未満、全くしない)
5. 教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた(5択)
6. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった(5択)
7. 教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた(5択)
8. 教員は、シラバスの各項目に沿って授業をした(5択)
9. 教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した(シラバスでの参考文献の提示等)(5択)
10. 教員は、学生の理解度(小テスト、リアクションペーパー、口頭など)を確認しながら進めた(5択)
11. この授業では、授業の大切なポイントが示され、授業の目標に到達することができた(5択)
12. この授業に満足している(5択)
13. この授業について、改善すべきと思う事、教員が工夫をしていると思う事、その他、意見、要望等がありましたら、書いてください(自由記述)

アンケートの結果は、部門長および評価分析室機構分室員が内容について検討・解析した。以下に回答について、科目群ごとにその結果を報告する。(用紙を使ったアンケートの結果についても、ウェブに取込して集計されている。)

1. 全体に関する結果

紙媒体によるアンケート実施クラス数を増やしたので、今年度(2015年度)前期の機構授業に対する授業改善期末アンケートの回答率は、2014年度前期の数字と対照させる(2014年、2015年の回答率の順序)と、講義全体：50%, 54%, 演習全体：41%, 49%, 外国語全体：46%, 79%, 実験・実習全体：56%, 76%へと、全ての科目群で増加した。期末アンケートの講義科目、演習科目、外国語科目の集計結果は、図1～3の通り。

図1【講義科目】

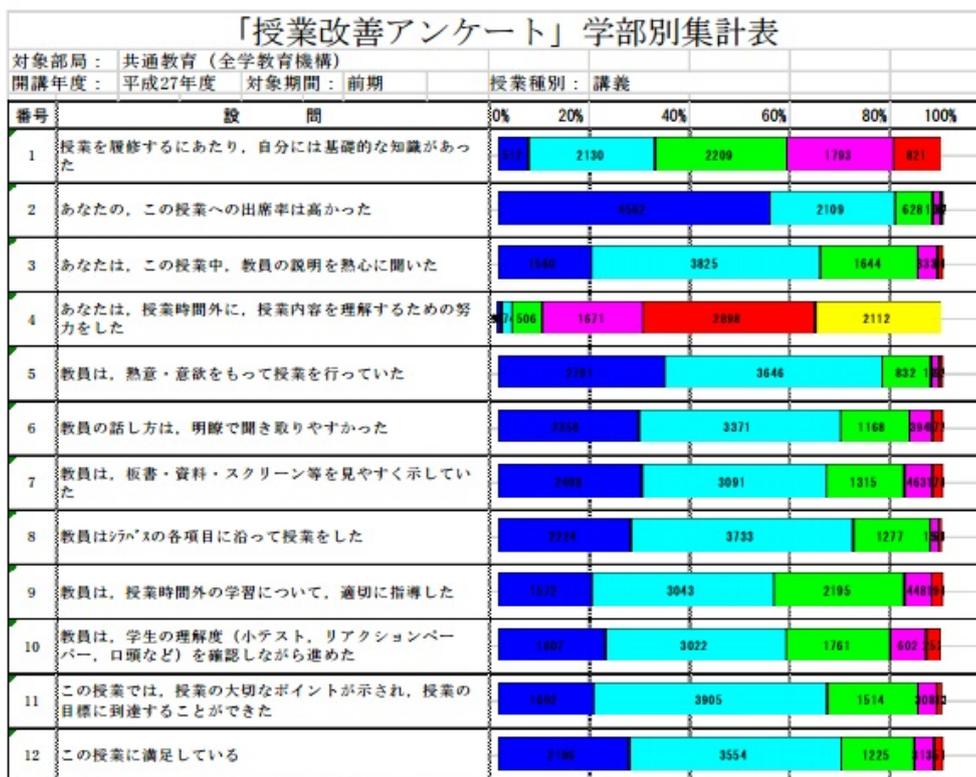
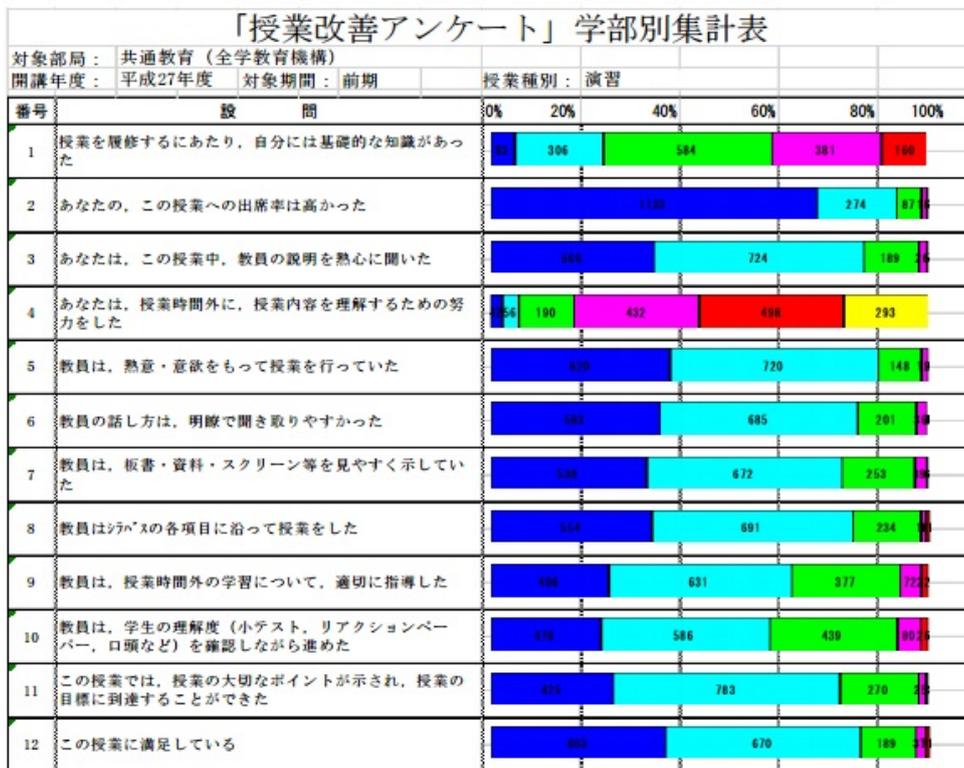


図2【演習科目】



(出典：平成27年度前期 共通教育「学生による授業改善アンケート」の結果)

資料農43 共通教育グッドプラクティス

全学教育機構では、企画実施する信州大学の共通教育の教育改善に資するため、すべての共通教育開講科目の中から、優れた実践を「共通教育グッドプラクティス」として毎年選定することとしています。これは、共通教育科目における、優れた取組を表彰し、内容およびその成果をあらゆる機会を捉えて全学に広め、もって共通教育さらに本学教育全体の改善への一助とするものです。

選定の流れ

1. テーマ決定

「効果ある授業方法」を中心として、当該年度の募集テーマを決定します。

2. 公募

テーマに沿って、共通教育で開講する全科目あるいは科目群（複数科目の連携の場合）を対象に、自薦・他薦を問わず募集します。

3. 応募授業のピアレビュー

応募された取組については、全学教育機構ホームページに掲載し、全学の教員に一定期間ピアレビューを推奨します。

4. 審査

全学教育機構教務委員会において行います。

5. 選定授業担当者による取組発表

取組発表会を実施し、選定授業担当者により、取組の概要と要点を発表していただきます。また、表彰式も行われます。

年度	テーマ
H22	信州大学のDPを実現するための共通教育における授業の実践的取組（1つの学位授与の方針（DP）を取り上げ、その実現に向けた、特に効果的な教育実践）
H23	人間力向上に向けた取組（コミュニケーション力・言語力・論理構成力の向上に向けた取組）
H24	男女共同参画の推進に向けての取組
H25	授業外学修時間を増やす取組
H26	地域課題実践授業の試み
H27	テーマ① 大学における教育内容・方法の改善等について テーマ② アクティブ・ラーニングについて

（出典：全学教育機構提供資料もとに経営企画課作成）

6 入学者選抜の工夫

森林科学科では、これまで書類選考、模擬講義（小テスト）、模擬演習（レポート作成）及び面接によるA0入試を実施してきたが、より柔軟性のある選抜方法への見直しを図り、平成27年度入試から、模擬講義による学力試験及び面接に変更した（資料農44）。

資料農44 A0入試内容の変更

農学部森林科学科において、次表のとおり選抜方法を変更した。

学部・学科等名		平成26年度
農学部	森林科学科	大学入試センター試験を免除します。 選抜は、第一次選抜と第二次選抜に分けて行います。第一次選抜の合格者に対して、面接を含む実地試験による第二次選抜の結果を総合して選考し、合格者を最終的に決定します。 (1) 第一次選抜：自己推薦書・志望理由書により行い、募集人員の3倍を超えない範囲で合格者を決定します。 (2) 第二次選抜：第一次選抜の合格者に対して行います。実地試験（a. 模擬講義を受講しての小テスト、b. 模擬演習・実習とレポート作成、c. 個別の面接）によって選考します。実地試験では、フィールドにおける視察力、講義の理解力、レポートの作成能力等を評価します。



学部・学科等名		平成27年度
農学部	森林科学科	大学入試センター試験を免除します。 選抜は、第一次選抜と第二次選抜に分けて行います。第一次選抜の合格者に対して、第二次選抜を行い、合格者を最終的に決定します。 (1) 第一次選抜： 実地試験（模擬講義を受講しての基礎的な学力試験と面接）により、募集人員の2倍程度の合格者を決定します。 (2) 第二次選抜：第一次選抜の合格者に対して行います。実地試験（ 模擬演習・実習によるレポート作成と面接 ）によって選考します。

(出典：「平成27年度入学者選抜要項」記者発表資料)

推薦入試において、募集人員の拡大、高等学校等の1校当たりの推薦枠の撤廃等を段階的に行っている（資料農45）。

資料農45 推薦入試の実施状況及び出願資格

年度	学科等	募集人員	計	備考
平成22年度	食料生産科学科	10	34	
	森林科学科	12		
	応用生命科学科	12		
平成23年度	食料生産科学科	10	34	
	森林科学科	12		
	応用生命科学科	12		
平成24年度	食料生産科学科	12	36	食料生産科学科において1校あたりの推薦枠を撤廃
	森林科学科	12		
	応用生命科学科	12		
平成25年度	食料生産科学科	12	36	
	森林科学科	12		
	応用生命科学科	12		
平成26年度	食料生産科学科	12	36	
	森林科学科	12		
	応用生命科学科	12		
平成27年度	生命機能科学コース	10	36	1校あたりの推薦枠をすべて撤廃
	動物資源生命科学コース	8		
	植物資源科学コース	10		
	森林・環境共生学コース	8		

(出典：「平成24年度、27年度入学者選抜要項」記者発表資料)

2. 出願資格及び推薦要件

次の各号に該当するほか、学力、人物が優れ、かつ、志望学科・コースに対して強い関心と学習意欲を持ち、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含みます。以下この学生募集要項において単に「高等学校」といいます。）の長（以下「学校長」といいます。）が責任を持って推薦できる方とします。

- (1) 高等学校を平成26年4月1日から平成28年3月31日までに卒業した方又は卒業見込みの方
- (2) 全体の評定平均値が4.0以上の方

（出典：平成28年度信州大学農学部推薦入試学生募集要項）

平成27年度入試から、一般入試後期日程の個別学力検査において試験科目を「面接」に統一した（前掲資料農20、p15、16）。

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

- ・ カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを明確化するとともに、共通教育科目・専門科目の設置において、入学から卒業に向けて、段階的に幅広い総合科学の知識と農学に関する基礎知識、応用力・実践力を身につける教育体制ができており（資料農3、4、10、11、13、14）、想定するすべての関係者の期待に込めている。
- ・ 学生相談室の充実（カウンセラーの常駐）を進めるとともに、正・副担任等教員による面談を適宜実施するなど、学習・教育環境を支える全学的なサポート体制ができており（資料農25、32、33）、在学生、保護者の期待に込めている。
- ・ 教育の実施にあたり各種アンケートの実施と分析を行い、教員の教育力向上や、教育内容・方法を改善するための体制が構築され、多面的な内容でのFD講演会の開催されており（資料農34、35）、想定するすべての関係者の期待に込めている。
- ・ 学生による授業改善アンケートによると、ICTの活用により高い回答率を維持し、教員へのフィードバック及びベストティーチャー受賞教員によるピアレビューを行うなど、授業内容及び方法における改善を実施する体制ができており（資料農38～40、42）、在学生、保護者の期待に込めている。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づく教育課程の編成

本学部は、学位授与の方針に基づいた教育課程を編成しており、シラバス等により学生に明示している(資料農46、47、前掲資料農36 [p28])。

資料農46 学位授与の方針マップ(専門教育)

「学位授与の方針」マップ

検索条件を指定して「検索」をクリックしてください。

開講部局	農学部
開講年度	2015 年度(西暦)
開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年
学位授与の方針の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 全学士課程共通

検索 ダウンロード シラバス検索へ

1~100件 (全159件中) 決

コード	授業名	植物学	動物学	農学	工学	理学	化学	生物	環境	情報	外国語	教養	総合	その他
A1101	環境生態学								○					
A1102	環境生態学													
A1104	環境生態学													
A1108	環境生態学													
A1110	植物学													

(出典：信州大学シラバス検索システム)

資料農47 シラバスの一例

登録コード	A3146	県内大学開放授業			市民開放授業		
授業科目	食品衛生学			担当教員	千 菊夫		
英文授業名	Food Hygiene				田淵 晃・田中 沙智		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・1時限	対象学生	2年
		授業形態		講義	備考	授業代表者内線電話:2501	
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる1学位授与の方針 要素/◎:全学共通 ・生命・食品科学分野において、化学的・生物学的視点から、社会的発展に貢献できる能力を修得している</p> <p>【授業の達成目標】 ・食品衛生が社会で果たす役割と食品衛生関連法規について説明できる。 ・食品の安全性を危うくする要因や食品に潜むリスクについて科学的に説明できる。 ・食品の安全性を確保し安全安心な食生活を保つための方策を説明できる。</p> <p>【授業のねらい】 健康な生活を送るための基本となる食品について、その安全性を主に衛生という観点からとらえ、より安全な充実した食生活を送るための基礎的な知識を習得します。</p> <p>(2)授業の概要 幅広い食品衛生学の中から、特にその考え方、対処法の基礎となる部分を重点的に取り上げ、将来、いろいろな形で直接あるいは間接に食品に関連することを考える立場になったときに、その実践の基礎となる事柄についてできるだけ具体例をもって解説します。</p> <p>なお、本授業は、3名の教員によるリレー式講義（全15回）と期末試験（第16回）で構成されています。</p> <p>(3)授業計画 1. 食生活と健康リスク（田中） 2. 食品衛生関連法規と社会変化（丁） 3. 食品と微生物：微生物の概要、分類、原核微生物（田淵） 4. 食品と微生物：真核微生物、ウイルス、朊毒（田淵） 5. 食中毒と感染症：食中毒の概要、分類、食発生状況（田中） 6. 食中毒と感染症：細菌性食中毒（田淵） 7. 食中毒と感染症：ウイルス性食中毒（田淵） 8. 食中毒と感染症：化学物質・自然毒による食中毒、アレルギー様食中毒（田中） 9. 有害物質による食品汚染：化学物質、重金属、カビ毒（田淵） 10. 有害物質による食品汚染：抗生物質と合成抗菌剤、ホルモン剤他（田中） 11. 食品添加物（千） 12. 食品と寄生虫（田中） 13. 食品と異物・害虫（千） 14. 食品衛生対策：食中毒の予防、調理場などの食品取扱い施設での衛生確保（千） 15. 食品衛生対策：食品の変質防止、異物混入対策、HACCPの導入（丁） 16. 期末試験（田中）</p>							

(出典：シラバス)

2 専門科目と共通教育科目

本学の授業は、学則により共通教育科目と専門科目に区分している（前掲資料農12、p10）。

1年次に共通教育と農学全般の基礎教育（専門教育の一部）を修得し、2年次以降は各コースの専門教育へと段階的に履修する構成になっている。

① 専門科目

平成27年4月の改組（前掲資料農10 [p9]、11 [p10]）により、分野横断型の履修指導体制を強化し、ローカル及びグローバルに活躍できる人材養成に対応している。

さらに、これまで上げてきた高度専門技術者の養成実績を損なうことなく、体系的な履修の強化を図るため、4つの専門教育コース（主専攻）を設けた。この改編により、これまで培ってきた本学部における農学教育を更に発展させつつ、一層充実した教育体系を構築することができるようになった（資料農48、49）。

資料農48 各コースの卒業までの履修科目

生命機能科学コース

4 年次	先設領域特別講義 専攻研究Ⅱ 専攻研究Ⅲ	Applied Life Science プレゼンテーション演習Ⅱ
	食品化学系実験 微生物学系実験 生体反応化学 天然物ケミカルバイオロジー 機能分析化学 栄養化学 食品衛生学 食品製造学 免疫科学 遺伝子工学	畜産資源科学 応用微生物学
	プレゼンテーション演習Ⅰ 専攻研究Ⅰ 他	科学英語Ⅰ、Ⅱ 海外農学実習
3 年次	信州農学概論 遺伝学 生物統計学 分子生物学 生物分析化学 酵素化学 代謝生化学	生物物理化学 有機化学Ⅱ 有機分析化学 食品化学 分子細胞生物学 微生物学 きのこ科学
	生物系基礎実験 統計情報処理演習 生化学・分子生物学系実験 ポランティアⅠ～Ⅳ (2～4年生対象) インターンシップⅠ～Ⅲ (2～4年生対象)	有機・分析化学系実験
	国際農学実習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象) 国際農学演習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象)	国際農学概論 アカデミック・イングリッシュⅠ、Ⅱ
2 年次	生命科学概論 農学入門 教養科目、健康科学科目、新入生ゼミナール 他	国際農学講義Ⅰ～Ⅴ (1～4年生対象) フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ 等
	生命科学概論A 一般化学Ⅰ 農学入門 生物学概論B 一般化学Ⅱ 生化学 有機化学Ⅰ	

動物資源生命科学コース

4 年次	先設領域特別講義 専攻研究Ⅱ 専攻研究Ⅲ	Animal Science プレゼンテーション演習Ⅱ
	家畜品種論 免疫科学 食品製造学	哺乳動物学 アニマルウェルフェア科学 統計演習
	動物資源生産学実験 専攻演習 プレゼンテーション演習Ⅰ 専攻研究Ⅰ 他	海外農学実習 科学英語Ⅰ、Ⅱ
3 年次	信州農学概論 動物解剖生理学 動物遺伝育種学 飼料学 畜産物利用学	生物統計学 動物生理学 動物衛生学 動物学 飼養衛生学 飼養微生物学
	動物資源化学実験 動物生産システム実習Ⅰ・Ⅱ 国内牧場実践実習	動物生命機能学実験 高冷地動物生産生態学演習 国内牧場実践実習
	ポランティアⅠ～Ⅳ (2～4年生対象) インターンシップⅠ～Ⅲ (2～4年生対象)	国際農学実習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象) 国際農学演習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象)
2 年次	農学入門 牧場体験ゼミ 生化学	動物資源生命科学概論 動物と私たちの暮らし 生物学、一般科学Ⅰ
	教養科目、健康科学科目、新入生ゼミナール 他	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ 等

植物資源科学コース

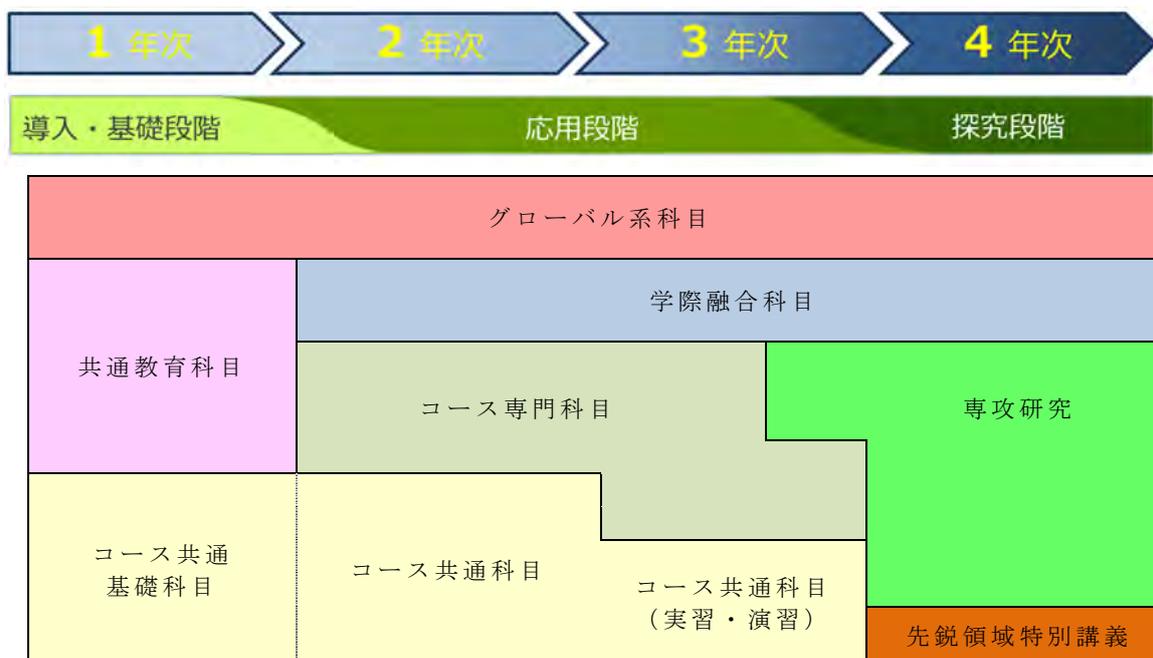
4 年次	先設領域特別講義 専攻研究Ⅱ 専攻研究Ⅲ	Plant Science プレゼンテーション演習Ⅱ
	蔬菜園芸学 果樹園芸学 花卉園芸学 青果品質保全学 植物病理学 農業経営学 農業経済学 植物バイオテクノロジー概論 植物環境気象学	
	植物資源科学実験Ⅱ 植物生産一貫実習Ⅱ 統計情報演習 キャリア農学演習 専攻演習 プレゼンテーション演習Ⅰ 専攻研究Ⅰ 他	海外農学実習 科学英語Ⅰ、Ⅱ
3 年次	信州農学概論 遺伝学 生物統計学	国際農学概論
	植物遺伝育種学 植物生理学 栽培学 植物遺伝資源学 高冷地生態生産管理学 植物栄養学 土壌学 応用昆虫学 植草学 農業会計学 作物学	アカデミック・イングリッシュⅠ、Ⅱ
	植物資源科学基礎実験 植物資源科学実験Ⅰ・Ⅱ 植物生産一貫実習Ⅰ・Ⅱ 高冷地植物生産生態学演習 ポランティアⅠ～Ⅳ (2～4年生対象) インターンシップⅠ～Ⅲ (2～4年生対象) 他	国際農学実習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象) 国際農学演習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象) 国際農学講義Ⅰ～Ⅴ (1～4年生対象)
2 年次	農学入門 食と植物の文化論 教養科目、健康科学科目、新入生ゼミナール 他	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ 等
	植物資源科学概論 生化学 生物学、一般化学Ⅰ	

森林・環境共生学コース

4 年次	先設領域特別講義 専攻研究Ⅱ 専攻研究Ⅲ	Forest Science プレゼンテーション演習Ⅱ 科学英語Ⅰ、Ⅱ 海外農学実習
	森林利用学 ティンバーエンジニアリング 農村整備学 流域保全計画学	森林育種学 造園学 緑地保全学
	環境統計学演習 森林計測・GIS演習 登山・砂防演習 森林利用デザイン演習 緑地設計演習	森林生態学演習 構造力学演習 土木材科学演習 農村整備演習 杉木産地合演習
3 年次	植物資源科学実験Ⅱ 植物生産一貫実習Ⅱ 統計情報演習 キャリア農学演習 専攻演習 プレゼンテーション演習Ⅰ 専攻研究Ⅰ 他	海外農学実習 科学英語Ⅰ、Ⅱ
	信州農学概論 野生資源植物学	国際農学概論
	別農学 森林生態学 木材組織学 山村計画学	森林経営・経済学 森林水文学 造園学
2 年次	野生植物生態基礎演習 別農学実習 木工工学演習	森林生産実践演習 木材科学演習 生産環境計画演習
	キャリアデザイン ポランティアⅠ～Ⅳ (2～4年生対象) インターンシップⅠ～Ⅲ (2～4年生対象)	国際農学実習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象) 国際農学演習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象) 国際農学講義Ⅰ～Ⅴ (1～4年生対象)
	農学入門 森林・環境共生学概論 土質および水理学	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ 等
1 年次	教養科目、健康科学科目、新入生ゼミナール、物理基礎演習	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ 等
	森林科学基礎演習	

(出典：信州大学農学部ホームページ「学科・コース案内」から抜粋)

資料農49 履修モデル



※ 副専攻修了要件

卒業の認定を受け、かつ副専攻プログラムに係る学際融合科目の単位を16単位以上修得しなければならない。

〔説明〕

○コース共通基礎科目、コース共通科目（1～2年次：基礎段階）

1年次は、各専門分野に必要な最低限の知識とスキルを修得するために、コース共通基礎科目として物理学、化学、生物学等の専門科目の基礎を学習する。また、「農学入門」及び各分野の概論科目を受講する。学生は所属コースの概論並びに他コースの概論科目を1科目履修することにより、特定分野を越えた、学際的・総合的マインドを醸成する。

2年次は、生命科学を基盤とした基礎知識や技術を理解するため、コース共通科目として、「遺伝学」、「分子生物学」、「生物分析化学」、「生物統計学」、「野生資源植物学」等を履修し、生命科学分野の基礎を学習する。また、「信州農学概論」では中山間地を含む地域の抱える課題を共有し、課題解決に向けた地域への関心を深める。さらに、フィールドを中心とした実習及び演習により、自然豊かな環境を利用した生物資源生産並びに利活用の体験を行う。

○コース専門科目（2～4年次：応用段階～探究段階）

2年次に進級した学生は、所属するコース（主専攻）の専門科目を履修する。ここでは、専門的な知見と技能を培うための各種講義、演習、実験、実習を受講する。実験、実習、演習科目等においては少人数・双方向性の高い授業展開を実施する。3年次後期より、所属するコースまたは副専攻コースの研究室に所属し、各自に与えられた研究テーマについて、修得した専門知識や方法・技術を用い、主体的に研究を実施して、学修の集大成として卒業論文をまとめる。一連の研究活動を通して、未知の問題を解決するための方法論も修得する。

○学際融合科目（2年次以降：応用段階～探究段階）

学生は、所属するコースの講義科目以外に、コースが指定した学際融合科目を履修し、専門分野以外の知識を修得する。学際融合科目を履修することで、個別の分野に捉われない幅広い履修が可能となり、生命科学を基盤とした学際的な知識や技能を修得し、専攻研究の分属の幅を広げ、大学院（修士課程）進学への意欲向上につながる。

○グローバル系科目

1年次に基礎英語（フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ等）、2年次に「アカデミック・イングリッシュⅠ、Ⅱ」及び「国際農学概論」、3年次に「科学英語Ⅰ、Ⅱ」を受講する。4年次の「専攻研究」においては、ゼミや研究発表会における英語でのプレゼンテーション等を導入している。さらに、国際化・グローバル化に対応するため、3年次以降も継続して専門英語の講読や英語での講義「Applied Life Science」、「Animal Science」、「Plant Science」、「Forest Science」、プ

プレゼンテーション能力の向上を目的とした「プレゼンテーション演習」を設定し、全コースを通じ一定水準以上の外国語運用能力を培う。

○先鋭領域特別講義

4年次に、先鋭領域融合研究群（山岳科学研究所、バイオメディカル研究所）の教員により、農学・生命科学分野の最新の研究についての理解を深め、大学院（修士課程）進学への意欲向上につなげる。

（出典：農学部作成）

② 共通教育科目

学士課程共通の学位授与の方針に基づき開講し、カリキュラム・マップ、シラバスにより授業で得られるこの方針の要素を学生に明示している（資料農50～52）。

資料農50 信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性的な人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育（教養教育、基礎教育）、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。

豊かな人間性

- ・ みずから他者や社会との関わりの中かで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- ・ 理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

人類知の継承

- ・ 人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】
- ・ 世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- ・ 科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

社会人としての基礎力

- ・ 日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
- ・ 対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
- ・ 多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】
- ・ みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】

科学的・学問的思考

- ・ 自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
- ・ 専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】
- ・ 専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】

環境マインド

- ・ 信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】
- ・ 自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
- ・ 地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】

（出典：信州大学ホームページ「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」）

資料農51 カリキュラム「学位授与の方針」マップ

「学位授与の方針」マップ

検索条件を指定して「検索」をクリックしてください。

開講部局	共通教育(全学教育機構)	
開講年度	2014	年度(西暦)
開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	
学位授与の方針の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 全学士課程共通	

201~300件 (全1260件中)

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マイ	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力
03000	脳の不思議を探る(認知神経科学入門)					○				○						
03004	臨床心理学	○														
03097	体と心のリハビリテーションを考えるゼミ	○	○													
03099	「考える」ゼミ							○		○						
03100	食と植物の文化論			○	○											
03101	動物と私たちの暮らし					○						○				
03102	応用生物学への招待					○										
03103	応用生物学への招待					○										
03197	土壌学ゼミ					○								○		
03198	自然誌・博物学ゼミ												○		○	
03199	植物生態学ゼミ	○												○		
03200	教養としての物理学					○										
03201	宇宙から原子への旅			○									○			
03203	物理学の世界【SUNS】			○		○										
03205	身近な化学					○							○			
03207	応用化学～千夜一夜～					○				○						
03212	物理への誘い					○				○						
03292	化学ゼミ					○		○								
03293	量子化学入門ゼミ										○	○				
03296	化学計算入門ゼミ										○					
03300	物質工学の世界は魅					○							○			

(出典：信州大学シラバス検索システム)

資料農52 共通教育シラバス

時間割コード	01088			担当教員	松岡 幸司			
授業科目	授業題目	グローバルに生きるゼミ			RUZICKA DAVID EDWARD			
	英文授業名	Global Awareness Seminar						
	単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生	全
	講義室	共通教育211演習室		授業形態	演習	備考		
精神と思想	<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通 ・◎みずから他者や社会との関わりをなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】</p> <p>【授業の達成目標】</p> <p>・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか、という問いに対して、自分の生き方としてとらえ、説明できるようになる。</p> <p>【授業のねらい】</p> <p>名前のおり「グローバルに生きる」ということを「自分の問題として考える」ゼミです。</p> <p>社会のグローバル化が当然のこととされ、グローバルな人材として社会で活躍することが求められる時代になっていますが、イメージが先行してあいまいな部分が多いように思えます。そのイメージだけで真実とした活動をしていても結果として「グローバル化」は成りませんし、「グローバルな人材」にもなりません。例えば、英語ができてグローバルな人材ではありませんし、逆に、英語がそれほどできなくてもグローバルな人材として活躍できます。</p> <p>そこでこのゼミでは：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか？ ・現実的な問題として、自分にとっては具体的にどのようなものなのか？ ・この二点について、「自分としての答え」を見つけ、自分の生き方を考え、これからの学生生活の目標や目的を明確にすることがこのゼミのねらいです。また、実際に海外に行く（留学、出張）ということとはどういうことなのか、ということを実践的に考えることを通して、異文化理解・受容を促進し、社会的な行動規範についても理解を深めます。 <p>最終的には、単なる情報ではなく、自分の生き方としてグローバル化というものをとらえ、説明できるようになってもらいます。</p> <p>(2)授業の概要</p> <p>「授業のねらい」に書いたような性格上、この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心になります。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求します。（その意味では、受け身的な態度では受講することはできません。）</p> <p>毎回の授業の大きな流れは、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。 2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。 3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。 4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらい、（コメントをつけて返却し、それを次の授業から話かしてもらい。） <p>(3)授業のキーワード</p>				<p>グローバル、異文化理解、自己認識</p> <p>(4)授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」 2-4. グローバルな人材とは？（自分の問題として考える） 5-6. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1) 7-8. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)（担当：Ruzicka） 9. グループ発表 10-15. 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。 <p>☆ 個人発表（試験期間終了直後に行います）</p> <p>(5)成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業終了後の提出物：30% ・グループ発表（相互評価+教員による評価）：30% ・個人発表（相互評価+教員による評価）：20% ・個人発表の報告書：20% <p>(6)履修上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる「受講」ではなく「積極的参加」が求められます。最初は難しいとは思いますが、自分で考え、ディスカッションをし、自分で、自分の答えを見つけることが求められます。 ・グローバルに生きたい、という意識の有無に関係なく、真剣に取り組む意志のある学生の参加は歓迎です。 ・毎回の授業は密度が高くなりますし、毎回の課題もありますので、「適当に済ます」ということでは参加できません。それでも、困難な点については、教員がサポートしますので、積極的に質問や相談をしてください。 <p>(7)質問、相談への対応</p> <p>オフィスアワーについては、初回の授業で伝えます。</p> <p>研究室は、共通教育南棟3階にありますので、質問や相談は、気軽に訪ねてください。ただし、事前にメール連絡をしておいた方が確実です。</p> <p>松岡：maulwurf@shinshu-u.ac.jp ルジチカ：davidr2@shinshu-u.ac.jp</p> <p>【教科書】 物に指定のものはありません。授業は主にプリントを用いて進めます。</p> <p>【参考書】 授業時にその都度紹介していきます。</p>			

(出典：シラバス)

3 教育課程の編成・実施上の工夫

① インターンシップ関係科目

開講状況は以下のとおりである（資料農53）。

資料農53 インターンシップ関係科目

区分	科目名	単位
専門科目	インターンシップⅠ	1
	インターンシップⅡ	1
	インターンシップⅢ	1
	キャリアデザイン	1

(出典：農学部作成)

② フィールド教育の充実

本学部では、自然豊かなフィールドを活用しての教育科目を設定し、中山間地域から山岳域に亘るフィールド科学者や高度専門技術者を養成するための実地教育を行っている（資料農54）。

資料農54 フィールド教育科目（計29科目）

講義名	開講形式
田園環境工学基礎演習	1日
群落解析学演習	集中
樹木医総合演習	集中
野生植物生態基礎演習	半日
森林環境学演習	1日
森林計測・GIS演習	半日
治山・砂防演習	1日
地域調査演習	1日
緑地環境計画学演習	集中
森林生産実践演習	1日
森林科学基礎演習	集中
山岳環境保全学演習	集中
アルプス登山学演習	集中
高冷地植物生産生態学演習	集中
高冷地動物生産生態学演習	集中
高冷地生物生産生態学演習	集中
高冷地応用フィールド演習	集中
森林利用デザイン演習	1日
木材科学演習	半日
農村整備演習	半日
田園環境計測演習	1日
生物生産一貫実習Ⅰ	半日
生物生産一貫実習Ⅱ	半日
生物生産一貫実習Ⅲ	半日
測量学実習	半日
農林フィールド実習	半日
山岳環境保全学実習	集中
持続的生物生産システム実習Ⅰ	半日
持続的生物生産システム実習Ⅱ	半日

(出典：農学部作成)

③ 教育関係共同利用拠点認定

AFCの野辺山農場と演習林は、それぞれ平成25年度、平成26年度に文部科学大臣から「教育関係共同利用拠点」として認定された（資料農55、56）。

資料農55 AFCの野辺山農場と演習林

教育関係共同利用拠点に認定

野辺山農場が平成25年度に「中部高冷地域における農業教育共同利用拠点」に認定されました。野辺山農場は、八ヶ岳山麓の標高1350mに位置し、日本でも有数の高原野菜地帯であり、首都圏から短時間で訪れることができる高冷地農業地帯です。約60名が宿泊可能な宿泊施設を有し、夏季に実施する4つの演習では、高冷地の自然環境と農業生産の現状を知り、「食-農-自然環境」の関係を理解し、農業生産技術を習得します。また、他大学が実施する実習や研究に対する支援、協力として圃場および教育・実験施設を提供します。



(出典：農学部デジタルパンフレット)

AFCの教育関係共同利用拠点認定によるフィールド教育の充実

【拠点名称】中部高冷地域における農業教育共同利用拠点—高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育—

野辺山農場は、日本でも有数の高原野菜地帯である八ヶ岳山麓の野辺山高原に位置しており、中部高冷地域農業のフィールド教育の共同利用拠点である。AFCが開講する演習に他大学の学生が参加する「共学」型プログラム、他大学の学生を主対象とする「既設」型プログラム、他大学の教員、学生の注文に応じる「注文」型プログラムの演習及びオープンフィールド演習を提供している。豊かで多様な自然環境・生産環境を利用した実践的な演習は、高い教育効果が期待される。



肉用牛



野辺山農場



キャベツの収穫実習

【拠点名称】南信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点

西駒、野辺山、手良沢山及び農学部構内の4ステーション（ST）から構成される演習林は、南信州を舞台に、「自然の成り立ち」から「山の生業」までを学ぶ共同利用拠点として、大学教育を通じ、林業の発展と環境保全の調和を目的とした循環型社会の構築を目指す。多様なフィールド科学の習得とともに、自然、山、環境の理解を深め、豊かな人間性を構築する総合的な教育効果が期待される。

特徴ある演習林

AFCは、日本の森林を特徴づける3タイプの演習林を有し、豊富な教育研究実績を持つ。



（出典：農学部作成）

資料農56 教育関係共同利用拠点のプログラムと利用実績

【拠点名称】

中部高冷地域における農業教育共同利用拠点-高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育-

○プログラム及び概要（平成26年度）

プログラム（課題）名	概要
1 高冷地植物生産生態学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する高冷地野菜、栽培作物の栽培管理、収穫、乳用牛管理、農産物加工（ソバ等）、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
2 高冷地動物生産生態学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する高冷地野菜の収穫、乳用牛、肉用牛管理、農産物加工（ソバ等）、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
3 高冷地生物生産生態学演習	信州大学農学部が他大学の学生を中心に（自学部学生も含む）に、開講する高冷地野菜、栽培作物の栽培管理、収穫、乳用牛管理、農産物加工（ソバ等）、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
4 高冷地応用フィールド演習	キャベツを教材として、圃場の準備、播種、定植から収穫、出荷までの一連の作業を通じて生産技術の習得を目的に、複数回の宿泊実習形式で行う。また、講義や近隣施設の見学を適時行いながら、連作障害への対応、6次産業化をめざした安定生産技術を習得し、高原野菜の生産や流通システムについて理解を深める。
5 就農基礎研修	東京農業大学が農業就労研修会を同大学の学生を対象に実施する。具体的には高冷地農業、高冷地野菜（キャベツ）栽培に関する座学、野辺山農

		場近隣の農家の圃場見学、キャベツの収穫、出荷体験、野菜集荷場の見学と一貫した課程を体験させる。
6	農業体験研修	東京農業大学が同大学の学生を対象に、キャベツ栽培に関する座学、キャベツの収穫、出荷体験、集荷場見学と一貫した生産、栽培管理に関する研修を実施する。
7	ピアメンターキャンプ	高等教育コンソーシアム信州が加盟大学を対象に3泊4日の合宿演習を開講。高冷地の農業、野菜生産管理、収穫野菜の調理実習を実施することで、看護学、人文学、理工学ほか非農学系20名の学生に信州の高冷地農業を体験、習得させる。
8	野生生物生態調査演習	麻布大学が生物生態学調査演習の一環として、野辺山農場、八ヶ岳山麓の野生生物（小動物）の生態、行動調査を目的に1泊～6泊の合宿演習を複数回実施する。
9	生態調査演習	麻布大学の生態学の調査演習の一環として、野辺山農場、および八ヶ岳山麓の野生生物（小動物）の生態、行動調査を目的に2泊～6泊の複数回の調査演習を実施する。
10	高齢者医療研究会	佐久大学の教員と首都圏の医療系教員、学生が野辺山農場に宿泊しながら、無医村地域における医療の役割、特に高齢者医療に関する調査、研究を進める。
11	農業体験研修	佐久大学看護学部の学生と教員が農業体験としてキャベツの収穫、自分で収穫した野菜の調理を通じ、農業と食料、生産から流通、加工を学習する。
12	高冷地農家実践演習	他大学の学生を対象に、高冷地農業、野辺山の農業、高冷地野菜に関する基礎的知見を習得後、周辺の農家における高冷地野菜等の実践的演習を行い、栽培から収穫、流通まで、実践技術を習得する。
13	地域調査実習	農学部の3年生を対象に地域での地域調査の方法、土地利用のとらえ方等の習得を目的に開講している。その一部を、野辺山農場を利用して高冷地農業における農村地域を対象に土地利用調査を実施し、その分析方法等を習得させる。
14	牧場体験ゼミ	農学部の1年生を対象に高冷地の農業、環境に関する理解を目標に2泊3日で実施する。農作業体験、家畜の飼育管理、生態と行動観察、食品加工などの実習の講演および近隣の農業関連施設の見学を通して「食」に関する理解を深めさせる。
15	卒業研究、修士等研究	農学部、他学部および他大学の学生、大学院生と指導教員が「オープンフィールド」を利用して、1年間を通じて長期間、複数回の調査、演習を進めることで卒業研究、修士論文研究の一部を進める。
16	高冷地農業研修	長野県内の農業者、関係者等が野辺山農場および周辺で展開する高冷地農業、特に高冷地野菜の栽培、管理から流通、販売を視察、見学する研修会により高冷地における6次産業化農業を学習する。

○利用実績

区 分	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	所 属 機関数	利用 人数	延べ 人数	所 属 機関数	利用 人数	延べ 人数	所 属 機関数	利用 人数	延べ 人数
学内（法人内）	8	286	675	9	135	714	6	456	1,140
国立大学	0	0	0	3	26	30	6	30	80
公立大学	1	10	32	1	3	9	1	6	14
私立大学	7	126	317	8	155	398	9	108	232
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間・独立行政法人等	4	55	5	2	9	9	4	75	124
外国の研究機関	1	1	19	2	4	8	3	16	90
（うち大学院生）	2	2	20	2	3	9	3	21	72
計	21	478	1,100	25	332	1,168	29	691	1,680

【拠点名称】

南信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点

○プログラム及び概要（平成26年度）

プログラム（課題）名		概要
1	山岳環境保全学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する西駒演習林内の野生生物（動物、植物）の調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
2	アルプス登山学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する西駒演習林内での登山技術、山岳気象、温暖化の影響等の調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
3	冬のフィールド管理学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する演習林内での冬山管理、冬山の生物の生態調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
4	生態学演習	連携協定を締結している慶應義塾大学学生が野辺山、講内、手良沢山演習林において、信州大学農学部の学生と共に、南信州の自然、山の生業に関する講義、間伐施業、森林調査、および木材加工作業を体験する。
5	森林生態学演習	京都大学徳地直子教授が手良沢山演習林において、同大学学生に対して里山人工林の管理に関する実習を行う。
6	植生ゼミ	筑波大学清野准教授が西駒演習林において、同大学学生に対して亜高山帯の自然の成り立ちに関する実習を行う。
7	森林風致計画学	長野県林業大学校の教員3名、学生20名が、講内演習林において森林風致計画学の一部を開講し、風致間伐予定地の調査を実施する。
8	新入生課外実習	信州大学経済学部の1年生を対象に、新入生ゼミナールI課外実習の一環として、講内演習林において二次林の自然観察と森林のバイオマス調査を実施する。経済学部の教員6名、1年生120名を複数班に分かれ、異なる観察、調査を通じて自然の成り立ちと森林における生業を習得する。
9	自然史実習	信州大学理学部が西駒演習林において植物、昆虫等の自然観察に関する実習を行う。
10	コロキウム	信州大学理学部が手良沢山演習林において、化学に関するゼミを行う。
11	松枯防除実践講座	日本緑化センターが林野庁、長野県、南箕輪村等の自治体、全国、長野県の各森林組合等の後援を受け、森林関連団体等に所属する森林（松）管理者を対象に、松枯防除技術の習得を目標に、講義と演習を行う。
12	卒業研究、修士等研究	農学部、他学部および他大学の学生、大学院生と指導教員が4ステーションのフィールドを「オープンフィールド」として利用し、長期間、複数回の調査、演習を進めることで卒業研究、修士論文研究の一部を進める。

○利用実績

区分	平成26年度			平成27年度		
	所属機関数	利用人数	延べ人数	所属機関数	利用人数	延べ人数
学内（法人内）	8	722	3,027	5	518	3,361
国立大学	6	21	79	13	89	239
公立大学	1	23	23	2	32	38
私立大学	2	17	58	3	32	52
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0
民間・独立行政法人等	5	289	585	5	123	303
外国の研究機関	0	0	0	0	0	0
（うち大学院生）	8	11	120	5	67	120
計	22	1,072	3,772	28	794	3,993

（出典：農学部作成）

なお、AFC 手良沢山ステーション及び西駒ステーション・桂小場試験地は、平成 28 年 2 月 26 日に（一社）緑の循環認証会議（SGEC）の認証規格による森林認証を取得した（資料農 57）。

資料農 57 森林管理認証の取得



認証番号 JAFTA-054
認証書付属書

認証森林の構成は、次のとおりである。

名称（所在市町村）	面積（ha）
手良沢山ステーション演習林	227.90
西駒ステーション演習林・桂小場試験地	251.84
合計	479.74

JAFTA 2016-D201 様式 41 認証書（2016年1月1日改定）

〔説明〕

森林認証は、森林が持続可能な方法で適切に管理されていることを第三者機関が評価・認証する制度であり、SGEC認証規格による本学部・研究科の森林認証取得は、宇都宮大学農学部附属演習林に次ぎ国立大学の中では2番目である。

（出典：農学部作成）

⑤ ICT活用教育

松本キャンパス以外の高年次学生による共通教育科目の受講を効果的かつ効率的にするため、ICTを活用した授業を実施している（資料農59、60）。

資料農59 平成27年度 信州ユビキタスネットシステム（SUNS）利用授業の開講状況

前 期		後 期	
授 業 名	担当教員	授 業 名	担当教員
ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司
キャリア形成論Ⅰ-本当の自分を理解するステップ-【SUNS】	小池 健一	キャリア形成論Ⅱ-自分の将来像を探るステップ-【SUNS】	小池 健一
物理学の世界【SUNS】	矢部 正之	新聞と私たちの社会【SUNS】(信濃毎日新聞社寄附講義)	分藤 大翼
検索の科学【SUNS】	鈴木 治郎	現代医療における物理学【SUNS】	矢部 正之
現代ドイツの言語と日常ゼミ【SUNS】	松岡 幸司	現代ドイツ事情ゼミ【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語初級(総合)Ⅰ【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語初級(総合)Ⅱ【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語中級(読解)Ⅰ【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語中級(読解)Ⅱ【SUNS】	松岡 幸司
線形代数学Ⅰ【SUNS】	高野 嘉寿彦	一般化学Ⅱ【SUNS】	村上 好成
一般化学Ⅰ【SUNS】	村上 好成		

(出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)

資料農60 平成27年度 共通教育『EA』科目(e-Learningのみで行う授業)の開講状況

前 期		後 期	
授 業 名	担当教員	授 業 名	担当教員
ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司
ジェンダー論【EA】	加藤 善子	ジェンダー論【EA】	加藤 善子
日本人のための英作文練習ゼミ【EA】	加藤 敏三	検索の科学【EA】	鈴木 治郎
ドイツ語初級(総合)Ⅰ【EA】	松岡 幸司	ドイツ語初級(総合)Ⅱ【EA】	松岡 幸司
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ【EA】	田口 茂樹	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ【EA】	有路 憲一
リスニング&リーディングⅠ【EA】	近藤 富英	リスニング&リーディングⅡ【EA】	近藤 富英
ドイツ語中級(読解)Ⅰ【EA】	松岡 幸司	ドイツ語中級(読解)Ⅱ【EA】	松岡 幸司
ロシア語中級Ⅰ【EA】	佐々木 寛	ロシア語中級Ⅱ【EA】	佐々木 寛
ハングル中級Ⅰ【EA】	延 鎮淑	ハングル中級Ⅱ【EA】	延 鎮淑
キャンパスライフと健康【EA】	川 茂幸		

(出典：2015共通教育履修案内を基に経営企画課にて作成)

⑥ 教育方法・学習支援

履修登録上限単位の設定、習熟度別クラス編成、リメディアル教育等を行っている（資料農61）。

資料農61 共通教育科目における教育方法や学習支援

【履修登録上限単位】

共通教育科目では、1学期に履修登録できる単位の上限が学部ごとに定められています。

※履修登録単位数の上限には教職に関する科目は含みません。

※その他、学部・学科（系）によって、上限に含まない科目もありますので、詳細は各学部学生便覧で確認してください。

大学での勉学は授業での学習に加えて、出席する授業の予習、復習を含む十分な自主的学習時間の確保が前提となっています。こうした趣旨から、履修登録単位数の上限制度が設けられています。なお履修登録単位数の上限を超えて履修することはできません。

また、前期の成績が優秀な学生で学部長の許可がある場合には、後期に個々の学生ごとに履修登録単位数の上限を設定することが認められます。

【習熟度別クラス】

英語 英語のクラスは、すべて学部別であり、また習熟度別クラス編成になっています。（上級）（中級）（初級）の3レベルです。習熟度別クラスが編成され、授業がはじまる前までに掲示されます。指定されたクラス以外のクラスを履修することは原則としてできません。

微分積分学Ⅰ、力学、生物科学Ⅰ 基礎科学科目の履修方法は学部・学科（課程・系）により異なりますので、各学部・学科（課程・系）の履修指導に従ってください。学部・学科（課程・系）でクラスが指定されますので、指定のクラスで受講してください。

なお、力学及び生物学Aについては、高校における履修状況等を考慮し、一部の学生についてクラスの指定があります。対象学生となる学生が学部・学科（系）から掲示等で指定されます。

【リメディアル教育】

大学での学習にスムーズに取り組んで行けるように、基礎を学ぶための授業です。積極的に活用しましょう。

各科目のリメディアル教育授業については、以下の通り実施します。掲示により受講を指定された学生は、以下を確認の上、授業に臨んでください。対象学生は、授業開始日までに、全学教育機構公用掲示板にて周知します。なお、指定を受けない場合でも、受講人数に余裕がある場合は、授業担当教員に申し出て、受講することができます。

「基礎化学」

担当教員：勝木 明夫 全学教育機構

授業内容：高校の化学Ⅰを中心に化学Ⅱまで

実施期間：前期 水曜日の5時限 平成27年4月15日～7月1日（ただし、4月29日、5月6日を除く）

講義室：共28番教室

その他：学部からの指定事項等の詳細は、4月に公用掲示板で確認してください。

【各種英語資格試験による単位認定について】

TOEIC、TOEFL等で一定の点数を得た者及び実用英語技能検定（英検）等の特定の級に合格した者にだけ適用されます。

【放送大学との単位互換】

本学に在籍する学生が放送大学との単位互換（本学の授業の代わりに放送大学の授業を受講して単位を修得すれば、本学で修得すべき単位とみなす制度）を希望する場合は、「特別聴講学生」として受講することができます。ただし、受講の対象は教育学部、医学部、工学部、農学部及び繊維学部の学生に限ります。

【県内他大学との単位互換】

信州大学は、長野県内の他大学（長野県看護大学、佐久大学、清泉女学院大学、諏訪東京理科大学、長野大学、松本歯科大学、松本大学）と単位互換協定を結んでいます。

信州大学の学生は、この協定により長野県内他大学が開講する授業を受講することができ、その受講により取得した単位は、信州大学の単位として認定されます。単位互換の授業は、みなさんが他大学に通学して授業を受けるタイプと、遠隔講義システム（SUNS）* を利用して信州大学の教室で他大学の授業を受けるタイプの2種類があります。

長野県内他大学の単位互換の対象授業は、学期の始めに各大学が募集します。

また、長野県内の高等教育機関で組織する「高等教育コンソーシアム信州」のホームページ（<http://www.c-snet.jp/>）でも、単位互換に関することが掲載されています。

なお、全学教育機構では、平成27年度開設する教養科目、外国語科目及び基礎科学科目の授業のうち、授業担当教員が開放することを認めた「授業科目」について、県内の他大学の学生の受け入れを実施します。

【遠隔講義システム（SUNS）*による受講】平成22年度からは、長野県内他大学の授業を遠隔講義システム（SUNS）*を通じて信州大学で受講できるようになりました。（他大学の特別聴講学生として受け入れられます。）この遠隔講義システムを利用した授業を受講すれば、他大学に通学しなくても信州大学の教室で、他大学の授業を受講できます。遠隔講義システム（SUNS）*を利用した他大学の開講科目は、共通教育科目のうち「教養科目」として認定され、卒業に必要な単位に算入されます。

（出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成）

4 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

① 国際交流協定の締結

本学における国外の大学との国際交流協定締結状況は以下のとおりである。なお、本学部では、平成22年度にチッタゴン大学（バングラデシュ）、平成26年度にマルファ村（ネパール）との学部間交流協定を締結している（資料農62）。

ポストゲノムの時代にふさわしい農学系「理工系グローバル人材」を育成するため、協定大学等の交流促進を図っており、平成26年度には、メイファーラン大学（タイ）との間で研究者交流を実施し、平成27年度には、これを基盤として学生の交流も実施した（資料農63）。

また、教育・研究の更なる国際化を推進するため、国際農学教育研究センター（資料農64）を平成26年6月に設置し、国際交流センターとの連携を強化した。

資料農 62 国際交流協定一覧（平成 28 年 3 月現在）（主な締結状況）

大学 間 交 流	アメリカ	ユタ大学、オクラホマ州立大学、南オレゴン大学、カリフォルニア州立大学チコ校
	メキシコ	CINVESTAV 大学院大学
	ブラジル	パラナ連邦工科大学
	オーストラリア	カーティン大学、オーストラリア南極研究所
	フィンランド	国立フィンランド測地研究所
	フランス	ラ・ロッシュェル大学、フランス国立繊維工芸工業高等学院、リール第一大学、フランス国立情報学自動制御研究所 (INRIA)
	ドイツ	ライプツィヒ大学、マンハイム大学
	ベルギー	カトリック大学ルーヴァン
	オランダ	ゾイド大学
	イタリア	ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学
	スペイン	アルカラ大学カルデナル・シスネロスカレッジ
	ポーランド	ピアリストク大学、ピアリストク工科大学、シレジア工科大学、ワルシャワ大学
	ロシア	ヴィートゥス・ベーリング名称カムチャツカ国立大学、極東連邦大学
	モロッコ	モハメド五世大学アグダル校
	モンゴル	モンゴル科学技術大学
	中国	同済大学、河北農業大学、蘭州大学、河北医科大学、蘇州大学、東華大学、中国地質大学、北京工業大学、太原理工大学、浙江理工大学、北京外国語大学、天津工業大学、北京化工大学、山東大学、西南大学、河南農業大学、重慶師範大学、對外經濟貿易大学
	台湾	輔仁大学
	韓国	江原大学校、尚志大学校、光云大学校、韓国カトリック大学校、崇實大学校、順天大学校、建国大学校、嶺南大学校、檀国大学校、漢陽大学校、忠南大学校、全南国立大学アランマクジアミドエネルギー研究所
	タイ	チェンマイ大学、カセサート大学、チュラロンコン大学、ナレースワン大学、サイアム大学
	インド	インド工科大学マドラス校
	ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ-工業技術大学、ハノイ工科大学、FPT 大学、ダラット大学
マレーシア	UPM (マレーシアプトラ大学)、マラヤ大学	
インドネシア	プリタハラパン大学、ウダヤナ大学、アンダラス大学、ボゴール農科大学	
ミャンマー	ヤンゴン工科大学	
学 部 間 交 流 ※ 農 学 部	中国	北京林業大学、中国農業大学、中国浙江省農業科学院
	韓国	ソウル大学校農業生命科学大学、世宗大学校生命科学大学
	モンゴル	モンゴル国立農業大学、モンゴル国立大学工・応用科学部
	タイ	コンケン大学農学部、メイファーラン大学農産学学部、スラナリ工科大学農業技術学部
	バングラデシュ	バングラデシュ農業大学、チッタゴン大学環境科学研究所
	ネパール	ネパール農業研究評議会、ネパール国ムスタン郡マルファ村
	【4 機関協力協定】	①長野県林務部－②オーストラリア連邦森林・自然災害・景観研究研修センター－農学部
【3 機関協力協定】	①中国・大連大学生命科学与技術学院－②中国・大連大学現代農業研究院－農学部	

(出典：経営企画課作成)

資料農63 学部間交流の状況

機関名称	国名	学生交流実績	研究者交流実績
バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	H27：受入4	H27：受入1
モンゴル国立農業大学	モンゴル	H25：受入1	
ネパール農業研究評議会	ネパール	H25：派遣10 H26：派遣10 H27：派遣5	H25：派遣2 H26：派遣2 H27：派遣2
ソウル大学校農業生命科学大学	韓国	H27：派遣1	H26：派遣5 H27：受入5、派遣2
メイファーラン大学農産学部	タイ	H26：派遣3 H27：受入6、派遣8	H26：受入5、派遣4 H27：受入2、派遣3
世宗大学校生命科学大学食品科学工学科	韓国	H27：受入1	H26：派遣5 H27：受入1
スラナリ工科大学農業技術学部	タイ	H27：受入4	H27：受入5
ネパール国ムスタン郡マルファ村	ネパール	H25：派遣10 H26：派遣10 H27：派遣5	H25：派遣2 H26：派遣2 H27：受入1、派遣2
ジャンビ大学畜産学部	インドネシア	H26：受入3 H27：受入4	H26：受入3 H27：受入6
カンボジア王立農業大学	カンボジア	H27：派遣3	H27：派遣4

(出典：農学部作成)

資料農64 信州大学農学部国際農学教育研究センターの内規等

〔信州大学農学部国際農学教育研究センター内規（抜粋）〕

（目的）

第1条 信州大学農学部（以下「本学部」という。）に本学部の国際農学教育研究及び国際交流を戦略的に計画し、これらに必要な事項を迅速かつ円滑に処理するため、国際農学教育研究センター（以下「センター」という。）を置く。

（職務）

第2条 センターは、国際農学教育研究及び国際交流の推進に係る次の業務を担当する。

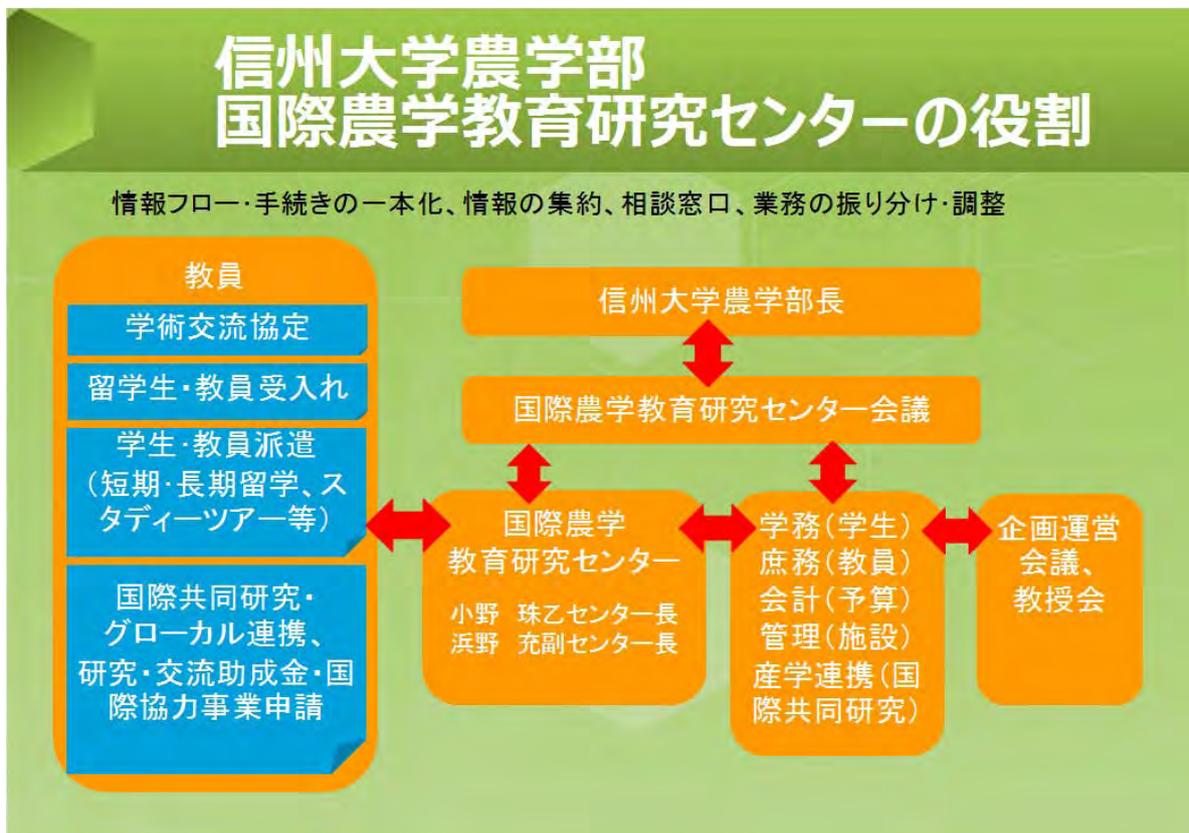
- 一 学術交流協定等の締結に関する事。
- 二 外部資金の獲得に関する事。
- 三 将来計画の策定及び点検に関する事。
- 四 情報の収集及び発信に関する事。
- 五 学生及び教職員に対する国際農学教育研究及び国際交流の啓発に関する事。
- 六 その他国際農学教育研究及び国際交流の推進に関し必要な事項。

（組織）

第3条 センターは、次の各号に掲げるセンター員をもって組織する。

- 一 教育担当の副学部長
- 二 農学部を担当する専任の教員
- 三 学部長が指名した者
- 四 国際交流担当の事務部職員

〔概要〕



(出典：農学部作成)

② TOEIC-IP受験の義務化

平成26年度から、1年次生に対しTOEIC-IPの受験を義務化し、学生が自ら英語能力を認識し向上を目指すための動機付けを促している（資料農65）。

資料農65 TOEIC-IP受験の義務化（受験案内（抜粋））

農学部 英語能力試験(TOEIC-IPテスト)の
 実施と受験料振込みのお願い【重要・全員対象】

ご入学おめでとうございます。

国際化が加速する現在、社会では英語力のある技術者のニーズが急速に高まっています。農学部では、新入生全員に1年次の必修科目「新入生ゼミナール」の一部として実用英語の国際的標準テストTOEIC (Test of English for International Communication) を受けてもらうことにより、英語力の把握、英語力の向上を図っています。TOEICは多くの企業で社員の英語力判定に利用され、採用時、配属、海外派遣等の参考資料に使う企業も増えています。TOEICがどのように企業に利用されているかについてやサンプル問題は同封のパンフレット (TOEIC PROGRAM BOOK) をご覧ください。

つぎましては、下記のとおり試験を実施しますので、3月31日（火）までに同封の郵便局払込取扱票にて受験料3,600円の振込をお願いいたします。（右記振込用紙をミシン目で切り離してお使いください。）

試験実施日	平成27年6月20日(土)
受験料	3,600 円
お振込期限	平成27年3月31日(火)

※試験の詳細については、入学後に掲示等であらためてお知らせします。
 ※農学部はTOEIC試験の運営を信州大学生生活協同組合に委託しております。

★TOEIC-IP テストとは

過去に実施されたTOEIC公開テストと同一の問題が出題される、いわゆる「過去問試験」ですので、書店等で販売されている過去問集の利用で試験対策が可能です。TOEIC公開テストと比較して、安価な金額で受験が可能のため、TOEIC公開テストの問題や時間配分等に慣れることができますので、無駄のないように試験対策をしてください。（試験時間は2時間で200問（内訳：リスニング（45分間・100問）とリーディング（75分間・100問））

○受験状況

実施年度	1 年 生	3 年 生
平成 24 年度	73	10
平成 25 年度	25	26
平成 26 年度	173	42
平成 27 年度	183	89

（出典：農学部作成）

③ 海外実習

国際感覚及び英語力を重要事項と捉え、JASSOを始めとする海外派遣プログラム、ネパール農業実習等、海外実習への参加を推奨している（資料農66、67）。

資料農66 海外実習への参加実績（海外派遣プログラム、ネパール農業実習等）

年度	プログラム名	人数
平成25年度	ネパール農業実習	10
	タイ・カセサート大学国際牧場実習	5
平成26年度	ネパール農業実習	10
	チュラロンコン大学春季プログラム	6
平成27年度	タイ・メーファーン大学夏季研修プログラム	7
	ドイツ・ロッテンブルク大学研修（海外の森林・林業とフォレスター研修プログラム）	3
	ネパール農業実習	4
	カンボジア農業・農村実習	3

（出典：農学部作成）

資料農67 ネパール農業実習の実施

日程：平成26年2月27日～3月11日

- 2月27日 名古屋→香港経由カトマンズ
- 2月28日 NARC表敬訪問 視察
- 3月 1日 カトマンズ市内見学
- 3月 2日 パトレケット村視察
- 3月 3日 マーケット調査
- 3月 4日 市場調査 カトマンズ→ボカラ
- 3月 5日 ボカラ→マルファ
マルファ農業試験場視察
- 3月 6日 マルファ村調査
- 3月 7日 マルファ村→トックチェ経由ボカラ
- 3月 8日 ボカラ市内散策 ボカラ→カトマンズ
- 3月 9日 大型スーパー市場調査
- 3月10日 カトマンズ→香港
- 3月11日 中部国際空港

（出典：信州大学ホームページ「ネパールの首都と山間地から見る農と食の問題」）

④ 国際的視野を広げるための講義科目

「国際農学講義 I」及び「海外農学実習」をそれぞれ開講し、国際性の向上を図っている（資料農68、69）。

資料農68 「国際農学講義 I」等の開講状況

授業名：国際農学講義 I 単位数：1 単位

開講年度	受講者数
平成25年度	0
平成26年度	20
平成27年度	16

授業名：海外農学実習 単位数：2 単位

開講年度	受講者数
平成26年度	15
平成27年度	14

（出典：農学部作成）

資料農69 シラバス (国際農学講義 I、海外農学実習)

開講年度	2015年度	登録コード	A4013				
授業名	国際農学講義 I						
	International Agricultural Cooperation						
担当教員	根本 和洋	副担当	濱野 充				
講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集不定	講義室	農学部B214	単位数	1
対象学生	2年生	授業形態	講義	備考	受講者数40名まで。		

注意)「曜日・時限」「講義室」等に変更される場合がありますので、「キャンパス情報システム」や「掲示」等で確認してください。

(1)授業のねらい	<p>授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している できる国際的な感覚と基礎的な語学力を修得している。 ・◎世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】 <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>【授業のねらい】</p> <p>農学部在学中に身につける専門性を将来国際協力や海外の現場において活かすためには、どのようなキャリアデザインの方法と可能性があるのか。本講義では、JICA（国際協力機構）の行っている事業や海外プロジェクトおよび青年海外協力隊の活動事例等について、実際に経験された方々から直接話しを聞く。また、参加型国際協力ワークショップを通じて途上国でおこっている農業問題の課題を解決するための解決策についてディスカッションすることによって、問題意識を高めるとともに、グローバルな人材となるためのステップとする。</p>
(2)授業の概要	<p>講義は2日間実施します。第1日目は、ガイダンス後、JICA駒ヶ根訓練所の職員による講義を中心におこないます。実際に海外の現場で農業関連の国際協力に携わった方の活動報告も予定しています。第2日目は、JICA駒ヶ根訓練所へ場所を移して行ないます。施設見学後、途上国でおこっている農業問題の課題を解決するテーマで参加型国際協力ワークショップを行ないます。ワークショップはグループに分かれて課題に取り組み、グループごとにプレゼンテーションを行なってもらいます。プレゼンテーションは、JICA駒ヶ根訓練所の職員、教員、受講学生によって審査・評価されます。</p>
(3)授業計画	<p>第1日午前： 講義の目的および概要 日本の国際協力と農業関連の国際協力活動</p> <p>午後： 青年海外協力隊活動と帰国OB/OGの活動報告 技術協力プロジェクト（JICA専門家の活動など）</p> <p>第2日午前： JICA駒ヶ根訓練所訪問 施設見学 参加型国際協力教育ワークショップの課題説明と準備</p> <p>午後： グループに分かれてワークショップ準備 グループごとにプレゼンテーション プレゼンテーションの評価と総合ディスカッション</p> <p>開講時期は8月上旬を予定しています。詳細は追ってアナウンスいたします。 第2日目のJICA駒ヶ根訓練所へは大学のバスで移動予定です。 昼食は訓練所内の食堂にてとります（有料）</p>
(4)自主学習の指針	<p>授業時間以外の自主学習は特に求められません。ただし、世界の農業や食文化、海外技術援助などに関する書籍が多数出版されていますので、それらを読んでおくことと授業の理解度が深まり、ワークショップへの準備になります。また、自身の国際協力への参加のイメージ構築に役立ちます。</p>
(5)成績評価の基準	<p>レポートに関しては、以下の基準を成績評価に用いる。</p> <p>(i)問題の設定が適切であり、(ii)その問題の背景を説明できており、(iii)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v)その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項</p>

	目までできていれば「水準にある」。
(6) 事前事後学習の内容	講義終了後に課すレポートの中で、講義内容に関連し事後学習を必要とする課題を入れるので、各自課題に取り組みレポートに反映させること。
(7) テストやレポートの予定	講義終了後にレポートを課します。テストは行いません。
(8) 成績評価の方法	ワークショップにおける取り組みおよびプレゼン内容と、講義後に提出されたレポートの内容によって評価します。 100点満点で100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可、59点以下を不可とします。
(9) 質問、相談への対応および連絡先	根本和洋 植物遺伝育種学研究室（応生・食料生産棟4F C413） e-mail: knemoto@shinshu-u.ac.jp 電話：0265-77-1619
(10) 履修上の注意	第2日目は、JICA駒ヶ根訓練所で行ないます。適した服装、態度で臨んで下さい。送迎バスに乗り遅れた場合は、必ず公共交通機関を利用すること。遅刻した場合や自家用車やバイクで来た場合は履修を許可しません。
【教科書】	なし。資料を配布する。
【参考書】	随時紹介する。
【添付ファイル】	なし

(出典：シラバス)

⑤ 外国人学生の受講受入れ

短期来校の外国人学生を特別聴講学生として受け入れ、外国人学生と触れ合う機会を提供するとともに、国際的視野を養う機会として活用している（資料農70）。

資料農70 短期来校の外国人学生の授業への参加状況

年度	受講科目	単位	受講者数
22	なし		0
23	なし		0
24	なし		0
25	なし		0
26	高冷地フィールド科学演習Ⅰ	2	1
	専攻演習	2	1
27	専攻演習Ⅱ	5	2
	家畜衛生学	2	1
	畜産製造学	2	1
	食料生産利用学動物実験Ⅱ	2	1
	食品製造学	2	1
	微生物学	2	1
	食品化学	2	1
	高冷地生物生産管理学	2	1
	牧場体験ゼミ	1	12
専攻演習	2	12	

(出典：農学部作成)

⑥ 国際シンポジウムの開催

国際シンポジウムを随時開催し国際性の向上を図っている（資料農71）。

資料農71 国際シンポジウムの実施状況

月日	会議名称等	関連団体名等	主担当学科等	備考 (参加人数等)
----	-------	--------	--------	---------------

(平成23年度)

9月20日	ネパール農業省との学術交流協定締結記念「中山間地域の再生・持続モデル構築のための実証的研究」プロジェクト国際セミナー	ネパール農業省	農学部	約80名参加
-------	--	---------	-----	--------

(平成24年度)

11月20日	信州大学農学部－浙江省農業科学院・国際交流協定締結第2回記念講演会	浙江省農業科学院	農学部	
2月27日	農学部近未来農林総合科学国際シンポジウム		近未来農林総合科学教育研究センター	

(平成26年度)

7月10日	メイファーラン大学農産学部長特別講演会		農学部	
1月22日	信州大学農学部－ソウル大学共同シンポジウム		ソウル大学・農学部	
1月23日	信州大学農学部－世宗大学記念シンポジウム		世宗大学・農学部	
3月11日	信州大学－ダラット大学間協定締結記念講演会		農学部	

(平成27年度)

8月20日	フロンティアバイオテクノロジー国際シンポジウム2015		農学部・バイオメデイカル研究所	約100名参加
10月9日	4カ国コンソーシアム国際シンポジウム	ジャンビ大学・バングラデシュ農業大学・スラナリ工科大学	農学部	

(参考)

平成24年度農学部近未来農林総合科学国際シンポジウム

**2013 International Symposium
on Frontier Agriscience and Technology**
- Insights into Biological Mechanisms, Resources and Availability -
Faculty of Agriculture, Shinshu University

Date: February 27, 2013
Venue: Faculty of Agriculture, Shinshu University

Program

PM1:00 Opening Remarks: Soichiro Nakamura, Professor, The University Vice President & Dean

Section 1

PM1:05 Introduction Masashi Saito, Assistant Professor (Ecosystem Risk Management)

PM1:15 "Sustainable management of forest and development of economic plant under forest and protection study"
- Ecological survey and utilization of Vaccinium species
He-xin Wang, Professor
Institute of Modern Agricultural Research, Dalian University, China

PM1:50 "National forest planning systems and unequal forestry profitability"
Keisuke Toyama, Assistant Professor
Chiba Forest, The University of Tokyo, Japan

PM2:25 Short Break

Section 2

PM2:35 Introduction Yutaka Uyeno, Assistant Professor (Bioresource)

PM2:45 "Total mixed ration containing food by products: Fermentation characteristics in silage and in rumen"
Chen Wang, Assistant Professor
Graduate School of Bioresources, Mie University, Japan

PM3:20 "Towards an integrated understanding of the microbial ecosystem in anaerobic wastewater treatment processes"
Takeshi Nakama, Research Scientist
Department of Civil and Environmental Engineering, University of Illinois, USA, and
Bioproduction Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Japan

PM3:55 Short Break

Section 3

PM4:05 Introduction Shunroku Suzuki, Assistant Professor (Epigenomics)

PM4:15 "Macropal as models for biomedical studies"
Marilyn R. Renfree, Professor
Department of Zoology, The University of Melbourne, Australia

PM4:50 "Roles of LTR retrotransposon-derived genes in mammalian evolution and diversification"
Fumitoshi Ishino, Professor
Department of Epigenetics, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, Japan

PM5:25-5:30 Closing Remarks Hiroshi Kagami, Professor

PM5:45-7:00 Banquet

Organizer: Hiroshi Kagami, Professor
Hosted by: Frontier Agriscience and Technology Center (FAST), Faculty of Agriculture, Shinshu University
Inquiry: Erika Usuki, General Affairs Section for Tenure Track Program TEL: +81-265-77-1329

※本シンポジウムは、(ア)ニューレックラボ、(イ)東信農研の支援のもと運営されています。

平成26年度農学部—ソウル大学共同シンポジウム

**Seoul National University
Shinshu University
2015 Joint Symposium**



■ Date : 13:30-16:30pm (Thu) Jan. 22, 2015
■ Venue : Bldg 203 / Rm 101, Seoul National University

13:30-13:40	General remark Prof. Yoonsoo Cho (Seoul National University) Prof. Sangyeon Kim (Seoul National University)
13:40-14:00	Prof. Chul-Hyeon Yoo (Seoul National University) Advanced respiratory vaccine adjuvants
14:00-14:20	Prof. Shunroku Suzuki (Shinshu University) Autoregulation at the top for the evolution of transposon genomic imprinting
14:20-14:40	Prof. Tae Suk Park (Seoul National University) Programmable genome editing and application in Chicken
14:40-15:00	Coffee Break
15:00-15:20	Prof. Seiki Tanaka (Shinshu University) Activation of <i>2,2pe-1</i> immunity by the extract of dietary feed
15:20-15:40	Prof. Yutaka Uyeno (Shinshu University) Microbiome - inherent resources for animal
15:40-16:00	Prof. Jeong Young Suk (Seoul National University) Protein-Protein interaction that involves coupled unfolding and binding
16:00-16:30	Closing

Department of Agricultural Biotechnology BK21+ / Institute of Animal Science and Technology

平成27年度フロンティアバイオテクノロジー国際シンポジウム

International Symposium on Frontier Biotechnology 2015 (2nd International Symposium, Institute for Biomedical Sciences)

Shinshu University (Faculty of Agriculture) has concluded Academic Agreements with Seoul National University (College of Agriculture and Life Sciences) and Sejong University (College of Life Sciences). Distinguished scientists from these Universities will talk on their latest research in biotechnology opening a vista for the near future.
This International Symposium is organized by International Center for Agricultural Education and Research (ICAER) and Institute for Biomedical Sciences (IBS), Interdisciplinary Center for Cutting Edge Research (ICCER).

August 20th (Thursday), 2015 13:00~17:00
Room 30, Faculty of Agriculture, Shinshu University & SUNS-relay to Main Conference Room, Asahi Hall 3F, Matsumoto Campus

13:00 Opening address: Dr. Naoto Saito (Director, IBS-ICCER)
 13:05 Dr. Hideofumi Makabe (Fac. Agr.)
 Synthesis of proanthocyanidins and their antioxidant activity
 13:30 Dr. Jeong-Yong Suh (Seoul National Univ., IBS-ICCER)
 Structural mechanism of auxin-response transcriptional regulation in plant
 13:55 Dr. Hiroshi Kagami (Fac. Agr., IBS-ICCER)
 Stem cell applications for poultry breeding
 14:20 Dr. Jae Yong Han (Seoul National Univ., IBS-ICCER)
 Avian genome editing and modulation using primordial germ cells
 14:45 Coffee break
 15:10 Dr. Keosaku Ohtsawa (Fac. Textile Sci. & Tech., IPES-ICCER)
 Novel silk proteins from aquatic insects and possible applications
 15:35 Dr. Heeul Kim (Seoul National Univ.)
 Evolutionary analysis for animal genome and development of genomic selection model
 16:00 Dr. Itao Tomioka (Fac. Agr., IBS-ICCER)
 Production of common marmoset (*Callithrix jacchus*) models for neurodegenerative disease using transgenic technology
 16:25 Dr. Soon-Mi Shim (Sejong Univ.)
 Characterization of transport mechanism of vitamin U (S-methyl-L-methionine) from cruciferous vegetables
 16:50 Closing address: Dr. Soschiro Nakamura (Vice President, Shinshu Univ.)
 17:15 Cultural/Academic exchange (Innosta on-campus Restaurant)

Host: International Center for Agricultural Education and Research (ICAER), Faculty of Agriculture, and Institute for Biomedical Sciences, Interdisciplinary Center for Cutting Edge Research (IBS-ICCER), Shinshu University
 More info: Email to: icam@shinshu-u.ac.jp
 HP: <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/institute/icam.php>



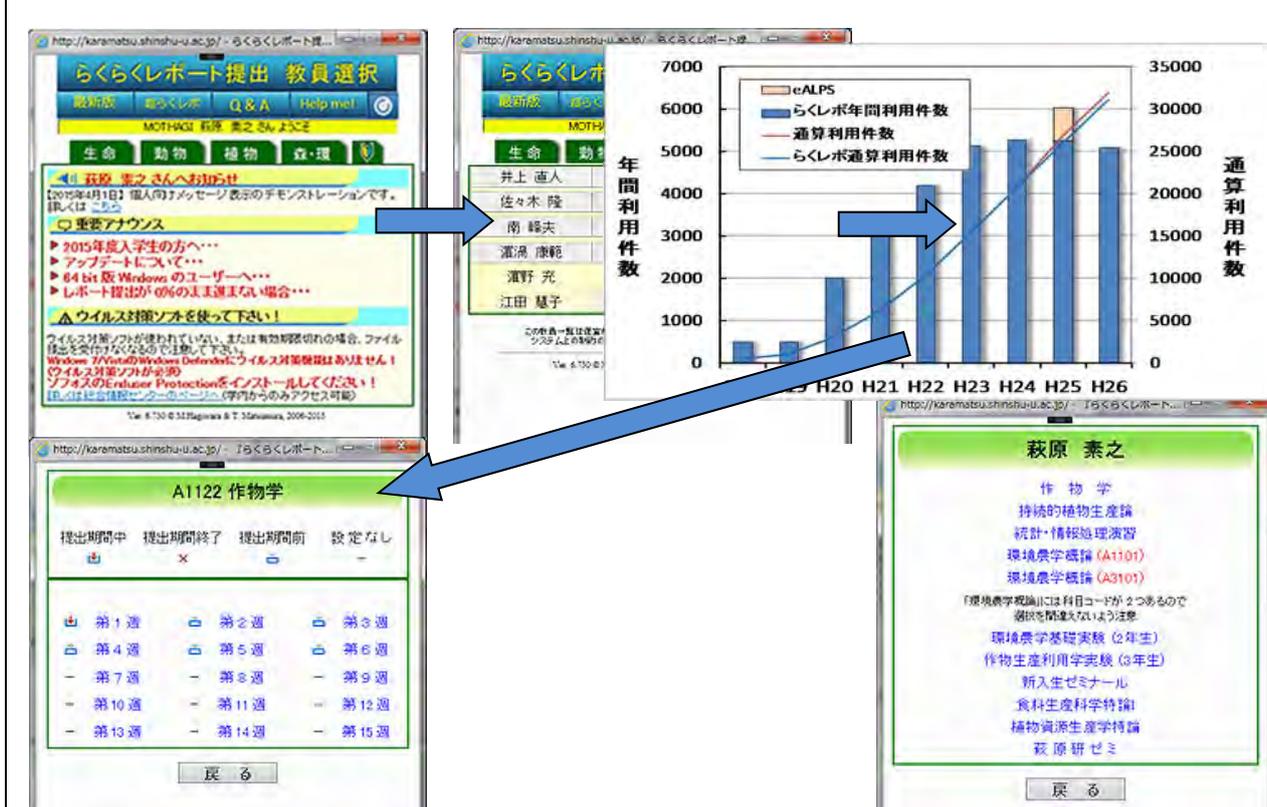
(出典：農学部作成)

5 学生の主体的な学習を促すための取組

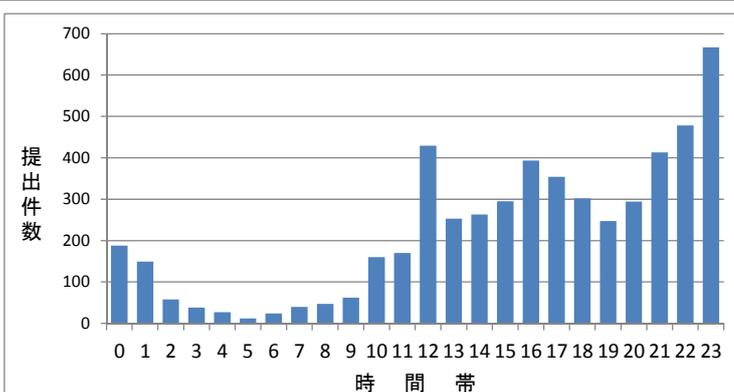
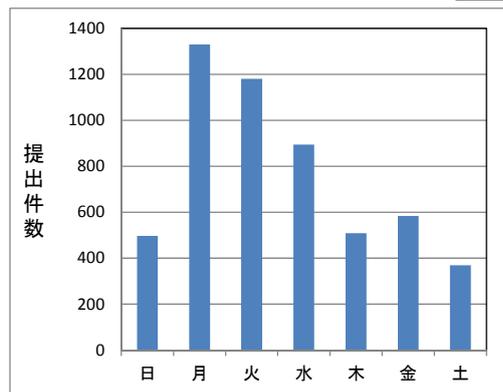
① ICTの活用

自主学習を促すツールとして、e-Learningの他、本学部において独自に開発したソフト「らくらくレポート」を活用し、授業外学習や自宅からのレポート提出を可能としている(資料農72)。

資料農72 ICTの活用 (らくらくレポート提出によるレポート提出)



平成 23 年度以降、年間のレポート提出件数は 5、000 件あまりで推移し、通算利用は平成 26 年度末で 3 万件を超えた。



レポートの提出が最も多いのは月曜日、これは週末に学生が自宅でレポートを完成させ、週明けに提出するケースが多いためと見られる。また、レポート提出が多い時間帯は午後 10~12 時で、学生が自宅でレポートを完成させ、提出していることが分かる。

(出典：農学部作成)

② 施設・設備の充実

農学部図書館では、毎年シラバス図書(教科書・参考書)の選定・購入を行い、閲覧室の整備を継続的に進めている。さらに、講義棟及び研究棟にラウンジ等を設置し、教員と学生及び学生間のコミュニケーションや学生の主体的な学習を促すための環境を整備して

いる（資料農73）。

資料農73 講義棟のラウンジ等

〔ラウンジ〕



〔コミュニティールーム〕



（出典：農学部作成）

③ 他大学との連携・単位互換

AFCにおいて、他大学との単位互換を旨とする全国公開実習を平成23年度から実施している。これにより、他大学の学生を毎年度10名以上受け入れるとともに、他大学への学生派遣を行っている（資料農74）。

資料農74 公開実習の状況（農学部／平成23年度以降）

単位互換先	年度		H23		H24		H25		H26		H27	
	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣
琉球大学	5	6	3	1	1	2			2		1	1
京都大学	3		2		2	1		1				
山形大学	1				2						1	1
島根大学			1									
鹿児島大学		7		3		1			7		2	8
高知大学		1	1		1						2	1
静岡大学			1					3			4	
筑波大学	1		1	2	2	1			4			6
新潟大学				2	5							
宮崎大学								1			1	
三重大学									3			
北海道大学									2		1	
佐久大学	2				2						1	
長野県看護大学	1		3		1							
清泉女学院大学	1		1					5				
長野大学	1										1	
計	15	14	13	8	16	5	10	18	14	17		

（出典：農学部作成）

④ ボランティア活動・地域活動の実施

学生の社会貢献意識を高めるためのキャリアデザイン教育の一環として、人的、物的サポートを行い、様々な地域活動の展開を図っている（資料農75）。

資料農75 地域活動の状況

○長野県知事とのタウンミーティング



(出典：信州大学ホームページ「農学部の学生地域活動グループが長野県知事とタウンミーティング」)

○震災復興支援と「福幸そば」の販売

**「大学の地域貢献度」2年連続全国総合1位
栄村震災復興支援隊
「農援隊」も一役**

日本経済新聞社「大学の地域貢献度に関する全国調査2013」で、信州大学は昨年に続き、総合1位の高い評価を頂きました。農学部でも積極的に地域貢献に取り組んでいます。学生・教職員で組織した震災復興ボランティア「農援隊」は、2011年3月の東日本大震災・長野県北部地震で被害を受けた長野県栄村を支援してきました。農援隊が種雑作業をお手伝いしたソバが、乾麺「福幸そば」やカップ麺として発売されています。このカップ麺が栄村から東日本大震災の被災地福島県へ贈られました。



(出典：農学部デジタルパンフレット)

○「農援隊」の学長賞受賞

震災復興支援ボランティア「農援隊」が学長賞を受賞

2012年04月13日

信州大学農学部栄村震災復興支援隊(略称:「農援隊」)が学生表彰として信州大学学長賞を受賞しました。授賞式は平成24年4月4日の平成24年度入学式に続いて行われました(写真右)。



授賞式の様子

「農援隊」は、平成23年3月12日に発生した長野県北部地震で被災した長野県栄村の復興支援のために、同年4月に農学部の有志の学生・教職員により立ち上げられたボランティア組織です。

農援隊はその後、約9ヶ月間にわたり、栄村の村内16地区に通算約30日間、学生だけでも、のべ153人が地元のボランティア組織と連携し、施設の清掃、田作り、苗箱の運搬、農業用水路の補修・清掃、キノコ栽培施設の片付け、復興イベントの運営などの支援活動を行いました。また、イネの作付けが不能になった被災水田へのソバの播種・収穫のお手伝いや、収穫したソバで製造したソバ乾麺「福幸ソバ」のパッケージデザインなど、栄村の復旧・復興支援に多面的に取り組んできました。

活動の一部には学外の方もボランティアとして参加いただきました。さらに、農学部後援会、国立大学協議会及び一般の方からのご支援・ご協力も頂いて復旧・復興支援活動を行うことができましたので、関係各位にこの場でお礼申し上げます。

なお、農援隊は、平成24年度も活動を続けることとしております。

(出典：信州大学農学部ホームページ「震災復興支援ボランティア「農援隊」が学長賞を受賞」)

⑤ 環境に関する取組

本学では全学で省エネ・省資源・資源リサイクル等を推進し、環境ISO14001を取得している。本学部では、学生が主体的に参加する組織を置き、学生個々のアイデアを取り入れた様々な環境イベントに取り組んでいる（資料農76）。

資料農76 農学部環境ISO学生委員会

自然豊かな信州こそ、環境教育にふさわしい

地球温暖化などの環境問題は、今すぐ行動しなければ取り返しがつかなくなることが確実な状況になってきました。環境問題の解決力が、今後の社会の継続・発展力なのです。信州大学では全学で省エネ・省資源、資源リサイクルなどを推進し、環境ISO14001を全学で認証取得しています。なお、農学部では2006年11月に環境ISO14001を認証取得し、積極的にエコキャンパス活動を進めています。



農学部環境ISO学生委員会は、キャンダルナイトやグリーンカーテン、紅葉ゴミ拾い、とうがらしDEウォームピズ、マイ箸づくりなど、学生のアイデア盛り沢山の魅力的な活動を実施しています。その他、信大 Earth Caféと題した、気軽に楽しんでもらえる環境イベントの企画運営も手掛けており、魅力ある大学づくりに貢献しています。また、大学だけにとどまらず、地域にも範囲を広げ活発に活動をしています。

（出典：農学部デジタルパンフレット）

⑥ 「大学は美味しい!!」フェアでの出展

本学部は平成20年度から開催されている「大学は美味しい!!」フェアに毎回参加し、学生が実習で育てた果実を使ったジャム、山ぶどうワイン等を出展している（資料農77）。

資料農77 「大学は美味しい!!」フェア

「大学は美味しい!!」フェアで生産品を自らPR・販売

「大学は美味しい!!」フェアは、全国各地の大学が開発・販売を手がける大学ブランド食品や、地元メーカーと協力して開発された食品を展示・販売するもので、2008年から東京の新宿高島屋で開催されており、毎回、大変な賑わいとなっています。信州大学農学部は初回から毎回参加し、学生が実習で心を込めて育てた果実を使ったジャムや果汁飲料、山ぶどうワインなどを出展・販売して、好評を得ています。



（出典：農学部デジタルパンフレット）

⑦ GPA制度の導入・学生修学相談への活用

平成26年度の入学生からGPA制度を導入し、学生自らが修学における客観的な位置を認識できるようにするとともに、希望学生や累積GPAが2.0以下の学生等を対象に「面談の記録」を利用した修学相談を行い、継続的な修学支援の体制を整備している（資料農78）。

資料農78 GPA制度の導入による学生面談の記録様式

2年次前期のGPAについて	2年次前期GPA：	累積GPA：
	学生の見解： アドバイス内容：	
3年次後期のGPAについて	3年次後期のGPA：	累積GPA：
	学生の見解： アドバイス内容：	
2年次後期のGPAについて	2年次後期のGPA：	累積GPA：
	学生の見解： アドバイス内容：	
4年次前期のGPAについて	4年前期のGPA：	累積GPA：
	学生の見解： アドバイス内容：	
3年次前期のGPAについて	3年次前期のGPA：	累積GPA：
	学生の見解： アドバイス内容：	

【2】出席状況について

※前の学期の自分の出席状況に関する総合的な見解を記載してください。また、特に自分で問題を感じているものがある場合には、その問題を簡単にまとめ、書き入れてください。

1 年次前期の 状況	
1 年次後期の 状況	
2 年次前期の 状況	
2 年次後期の 状況	
3 年次前期の 状況	
3 年次後期の 状況	
4 年次前期の 状況	

農学部 面談の記録 (学生用)

※本記録は卒業まで使用しますので、大切に保管してください。

学籍番号 _____ 名前 _____

1 年次前期 月 日 () 面談者 _____ 1 年次後期 月 日 () 面談者 _____
 2 年次前期 月 日 () 面談者 _____ 2 年次後期 月 日 () 面談者 _____
 3 年次前期 月 日 () 面談者 _____ 3 年次後期 月 日 () 面談者 _____
 4 年次前期 月 日 () 面談者 _____ 4 年次後期 月 日 () 面談者 _____

『面談の記録』は、学生と担任の教員が学期に一度面談する際に使うファイルです。学生は『学生用マニュアル』に従って面談に必要な準備を整えてください。教員は『教員用マニュアル』で使い方を見てください。
 ・面談の目的は、学生の修学状況を担任の教員と一緒に見て、考えるところにあります。叱責や懲罰の機会ではありません。

【1】GPA について

※前の学期までの GPA 値の推移についてあなたがどう思うか、特に『勉強意欲が保たれているか、または勉強のしかたに不安はないか、等』について、面談までに考えをあらかじめ『学生の見解』欄に記入してください。

	1 年次前期の GPA :	累積 GPA :
1 年次 前期の GPA に ついて	学生の見解 :	
	アドバイス内容 :	
	1 年次後期の GPA :	累積 GPA :
1 年次 後期の GPA に ついて	学生の見解 :	
	アドバイス内容 :	

(出典 : 農学部作成)

6 社会や地域への教育提供

本学部では一般者向けの教育プログラムを開設し、地域における生涯教育のレベル向上に寄与している(資料農79)。

資料農79 一般者向け教育プログラムの開設状況

開講年度	開講日	タイトル	担当教員
平成22年度	8月4日(水) ～ 8月5日(木)	第8回 信大夏の林業教室	植木 達人
	8月4日(水)	のぞいてみよう、ミクロの世界！アミノ酸をつくる微生物	池田 正人
平成23年度	8月27日(土)	知って食べればさらにおいしい！果実・野菜の食品化学	藤田 智之
	10月1日(土)	自分の細胞を見る、遺伝子を見る	平松 浩二
平成24年度	8月7日(火)	変貌する里山	中堀 謙二
	10月20日(土)	なぜ直売所が注目されているのかー実践者に学ぶ直売所の運営ー	加藤 光一
平成25年度	8月8日(木)	安全と安心のためのシステムー分析は何ができるか	後藤 哲久
	9月7日(土)	森林を活用した効果的な土砂災害抑制方法を考える	平松 晋也
平成26年度	8月2日(土)	DNAでトリのオスとメスを見比べよう	小野 珠乙
	3月15日(日)	アグリバイオの世界ー遺伝子・バイオリソース・生命機能の高度利用を考えるー	千 菊夫
平成27年度	9月26日(土)	体験しよう！ノーベル化学賞「クロスカップリング反応」の実験	真壁 秀文
	12月12日(土) ～ 12月13日(日)	冬の樹木観察入門	岡野 哲郎

(出典：農学部作成)

また、本学として一般者向けに実施している授業等のうち、本学部では特に市民開放授業に関して次のとおり実施している(資料農80)。

資料農80 市民開放授業の実績

(単位：件、人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
開放授業数	123	109	112	109	98	94
実施数	10	28	30	9	7	5
受講者数	11	31	33	13	7	4

〔説明〕

市民開放授業とは、正規の学生のために開講されている通常の授業を一般市民に開放するもの。

(出典：農学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- 1 学科 4 コース制への学部改組において、学際融合科目等のコース横断的科目、国際的視野での実践力を目指したグローバル系科目、最新の専門知識を提供する先鋭領域特別講義を設置し、さらに副専攻を取得できる制度を整備するなど、入学から卒業に向けて、段階的に幅広い総合科学の知識と農学に関する基礎知識、応用力・実践力を身に付ける教育を提供し（資料農48、49）、想定するすべての関係者の期待に込えている。
- 社会の更なるグローバル化への対応として、国際農学教育研究センターを中心に、国外の大学との交流協定を進め、学生の海外実習への参加等の交流の活発化を推進するとともに、TOEIC-IP受験の義務化、国際通用性のある教育及び高度な授業を提供し（資料農48、49、62～69）、想定するすべての関係者の期待に込えている。
- AFC は、教育関係共同利用拠点に認定され、学内外の教育面における交流の活発化を図るとともに、多様な自然環境条件を活かした多くの演習・実習を実施し、学生の応用力・実践力を向上させる教育を提供し（資料農 54～56）、想定するすべての関係者の期待に込えている。
- AFC 手良沢山ステーション及び西駒ステーション・桂小場試験地は、平成 28 年 2 月 26 日に SGEC の認証規格による森林認証を取得した（資料農 57）。これにより一層環境面に配慮した教育・研究フィールドの管理・運営体制が整い、想定するすべての関係者の期待に込えている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 卒業、休学、留年、退学の状況

本学部の標準修了年限内の卒業率は、平成22年度から27年度の期間において平均88.3%であった(資料農81)。

この値は、全国平均より高い値(別添資料1)である。

資料農81 農学部の卒業、進級、休学、留年、退学状況

	卒業生(4年)	卒業生(過年度生)	休学	退学	修業年限卒業率
平成22年度	164	10	9	6	86.3%
平成23年度	174	13	3	8	90.6%
平成24年度	161	9	5	8	86.6%
平成25年度	187	18	8	8	92.1%
平成26年度	173	13	9	9	88.3%
平成27年度	167	10	7	5	86.1%

(出典：農学部作成)

2 授業評価

① 授業評価アンケート

学生による授業評価(前掲資料農38、p31)の実施結果から、授業の満足度を総合的に問う項目において、85%以上の学生が「強くそう思う」から「どちらかというと思う」に回答している(資料農82)。

資料農82 学生による授業評価

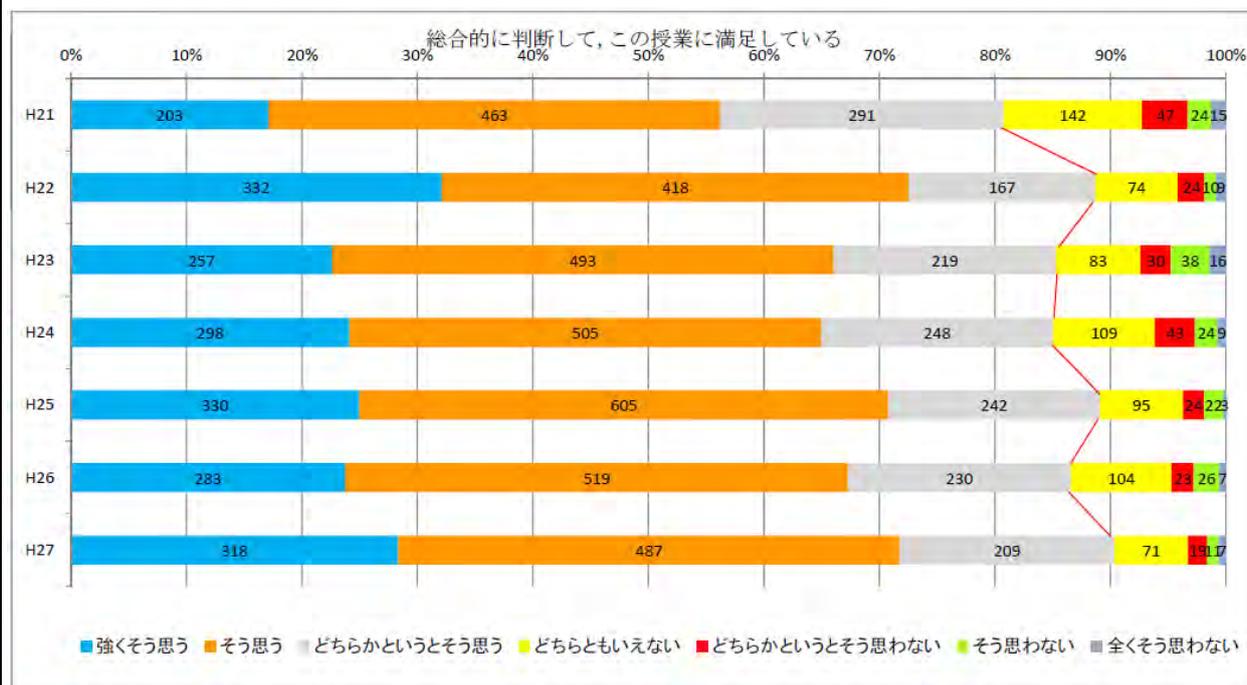
[平成26年度の実施結果 (アンケートの一例)]

平成26年度 授業改善のための学生アンケート(農学部)

分類	質問項目	強くそ う思う	そう思 う	どちら かとい うとそ う思う	どち らとも い えない	どちらか という と そう思 わない	そう思 わない	全くそ う思わ ない
あなたの 取組姿勢	この授業に対するあなたの取組姿勢を教えてください							
	①よく予習した	31 2.6%	162 13.6%	191 16.0%	310 26.0%	186 15.6%	203 17.0%	109 9.1%
	②復習をこまめにした	46 3.9%	189 15.9%	268 22.5%	313 26.3%	170 14.3%	149 12.5%	67 4.8%
	③授業中、担当教員の話す内容に集中した	208 17.4%	410 34.4%	370 31.0%	136 11.4%	43 3.6%	18 1.5%	7 0.6%
	④ほとんど休まず出席した	487 40.9%	352 29.5%	177 14.8%	94 7.9%	53 4.4%	25 2.1%	4 0.3%
教員の取 組姿勢	この授業に対する担当教員の取組姿勢について教えてください							
	⑤教員の情熱や熱意が感じられた	297 24.9%	528 44.3%	243 20.4%	83 7.0%	26 2.2%	13 1.1%	2 0.2%
	⑥授業に対する準備が十分になされていた	359 30.1%	532 44.6%	198 16.6%	60 5.0%	28 2.3%	13 1.1%	2 0.2%
	⑦授業での話し方は明瞭で聞き取りやすかった	293 24.6%	413 34.6%	244 20.5%	121 10.2%	68 5.7%	41 3.4%	12 1.0%
	⑧分かりやすい説明をしていた	270 22.7%	449 37.7%	273 22.9%	121 10.2%	40 3.4%	28 2.3%	11 0.9%
	⑨効果的に板書、視聴覚教材、配布資料が使われていた	302 25.3%	457 38.3%	227 19.0%	118 9.9%	57 4.8%	18 1.5%	13 1.1%
	⑩受講生の理解度を把握しながら授業が進行されていた	189 15.9%	353 29.6%	301 25.3%	218 18.3%	74 6.2%	43 3.6%	14 1.2%
⑪遅刻や早退に授業を切り上げるような事はなかった(30分以上)	497 41.7%	487 40.9%	126 10.6%	51 4.3%	12 1.0%	8 0.7%	11 0.9%	
授業内容	この授業の内容について教えてください							
	⑫授業内容やシラバスの説明が十分なされた	217 18.2%	528 44.3%	258 21.6%	151 12.7%	19 1.6%	16 1.3%	3 0.3%
	⑬予習復習の情報提供・指示が十分与えられた	158 13.3%	397 33.3%	287 24.1%	227 19.0%	67 5.6%	49 4.1%	7 0.6%
	⑭探求の仕方・姿勢、知識や技術などの獲得に効果的であった	213 17.9%	461 38.7%	302 25.3%	150 12.6%	38 3.2%	21 1.8%	7 0.6%
	⑮担当教員の学問的・専門的識見が感じられた	420 35.2%	487 40.9%	194 16.3%	65 5.5%	14 1.2%	8 0.7%	4 0.3%
	⑯総合的に判断して、この授業に満足している	283 23.7%	519 43.5%	230 19.3%	104 8.7%	23 1.9%	26 2.2%	7 0.6%
自由記述	この授業について改善すべきと思うことがありましたら書いてください	自由記述						
	この授業について教員が良い工夫をしていると感じられることがありましたら書いてください	自由記述						

〔年度別質問項目比較〕

質問項目「総合的に判断して、この授業に満足している」



(出典：農学部作成)

② 卒業生アンケート

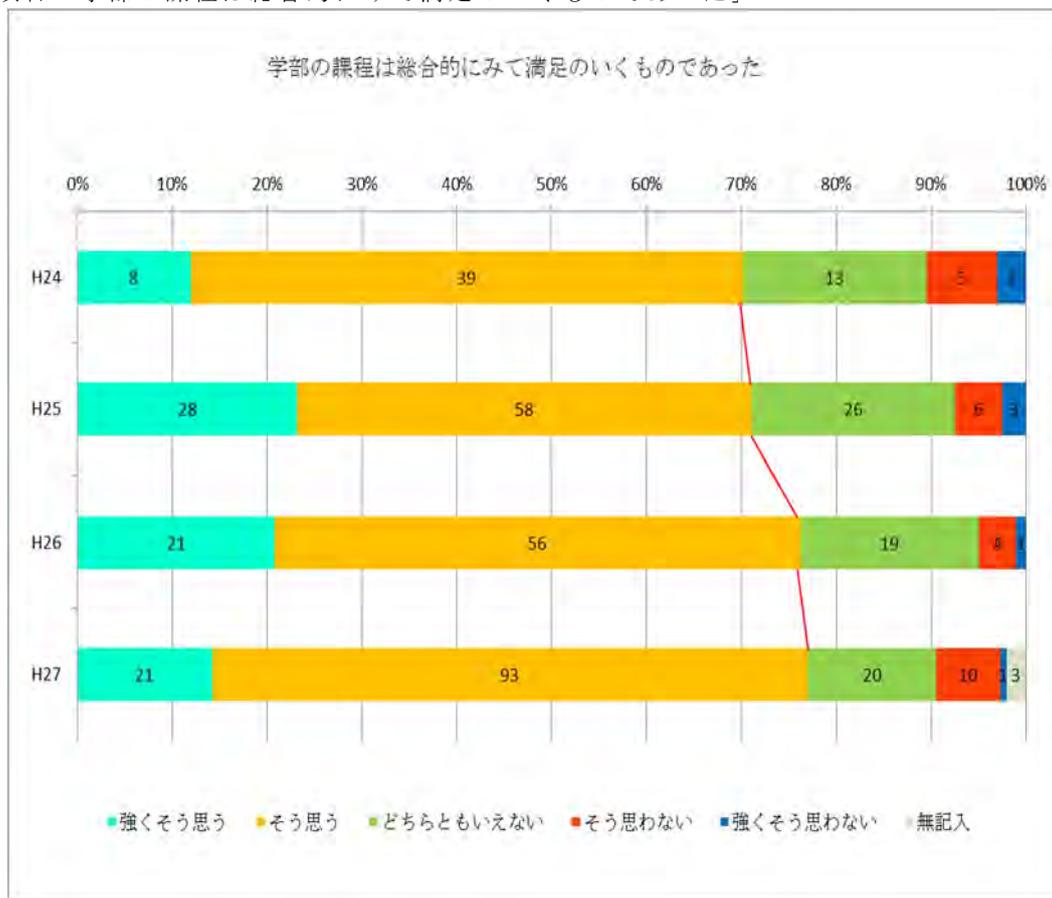
平成24年度から27年度に実施した卒業生アンケート（前掲資料農41、p34、35）の実施結果から、教育課程の総合的な満足度を問う項目において「強くそう思う」、「そう思う」と回答した学生の割合は、平成24年度の約70%から増加傾向にあり、平成27年度には約77%に達した。

また、専門的な知識が身に付く授業がなされているかを問う項目では高い評価を維持した（資料農83）。

資料農83 卒業生アンケート

〔年度別質問項目比較〕

質問項目「学部の課程は総合的にみて満足いくものであった」



質問項目「専門的な知識が身につく授業が多かった」



(出典：農学部作成)

3 資格取得状況及び学生の受賞状況

本学部における各種免許等の取得状況及び学生の主な受賞状況は以下のとおりである(資料農84、85)。

資料農84 各種免許・資格取得状況

農 学 部	免許・資格 年度	※教員免許 取得者数	食品衛生管理者 取得者数
	平成 21 年度	30	10
平成 22 年度	19	17	
平成 23 年度	45	14	
平成 24 年度	16	14	
平成 25 年度	10	14	
平成 26 年度	27	10	
平成 27 年度	25	3	

※ 教員免許の内訳は、高校理科、高校農業、中学理科である。

(出典：農学部作成)

資料農 85 学生の受賞状況 (農学部)

年度	賞の名称	受賞等の概要
H22	日本家禽学会 2010 年度秋季大会優秀発表賞	
	農業農村工学会関東支部奨励賞	地域住民による耕作放棄地解消の取組みー岐阜県恵那市中野方町の非農業者組織「援農笠置山」の事例ー
	日本造園学会支部大会優秀学生発表賞	野外キャンプを通じた子どもの自然への態度と生活行動の変化
	森林 GIS 学生フォーラム優秀賞	ラジコンヘリコプターを用いた信州大学農学部構内演習林の林分材積の推定
H24	2012 年日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞 (ポスター部門)	「子ども時代のあそび場と公園利用、及び居心地との関連性に関する研究」
	森林利用学会第 19 回学術研究発表会学生優秀論文発表賞	「作業道作設時における伐根処理時間の分析」
H25	日本動物細胞工学会 2013 年度大会 (JAACT2013) 優秀発表賞	T ホームページ-1 由来樹状細胞のハプテン抗原を標的としたアレルギー性評価法の確立
	日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞 (ポスター部門)	庭園における音楽の効果について
	第 21 回育種学会中部地区談話会	S3212 (<i>Capsicum frutescens</i>) と <i>C. annum</i> 品種との種間交雑による雑種作出
	日本家畜管理学会・応用動物行動学会合同春季研究発表会優秀発表賞	ソーシャルネットワーク分析を用いた牛群の親和関係の空間的及び行動的な解析
H26	COC 学術研究会シンポジウム優秀発表賞	Hsp70 発現量を指標としたアシル化フェルラ酸の神経細胞保護効果
	日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞 (ポスター部門)	長野市松代町の水路網における水生植物及び湿生植物群落の特性と立地環境条件との関係
	老化促進モデルマウス (SAM) 研究協議会若手研究奨励賞	老化促進マウス SAMP8 における転写因子 CREB を介した大豆ペプチドの神経栄養因子発現増強効果
H27	第 127 回日本森林学会学生ポスター賞	カラマツ天然更新林分の構造が搬出間伐に及ぼす影響

(出典：農学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- 標準修了年限内の卒業率は平均88.3%であり、国公立大学平均の85.0%（理・工・農学系82.6%）以上を維持しており（資料農81、別添資料1）、想定するすべての関係者の期待に込えている。
- 学生による授業評価において良好な結果であるとともに、卒業生アンケートにおける教育課程の総合的な満足度を問う項目においても良好な結果を得ており（資料農82、83）、在学生、受験生、保護者の期待に込えている。
- 基礎から応用・実践への段階的教育に関し、卒業生アンケートにおいて、専門的な知識が身に付く授業がなされているかを問う項目において高い評価を得ており（資料農83）、在学生、受験生、保護者の期待に込えている。
- 研究成果を学会等に発表し、毎年数名が学生発表賞等を受賞しており（資料農85）、想定するすべての関係者の期待に込えている。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 進路・就職状況

過去7年間における、全国の大学の農学部及び本学部の進路状況は以下のとおりである。卒業生全体に占める就職者及び進学者の割合において年変動が認められるものの、ほぼ9割を維持し、全国平均と同等あるいはそれ以上であった(資料農86、87)。

資料農86 進路状況一覧

卒業年度	区分	卒業者	進学者		就職者		外国人等の専修学校・進学者	者に一時に就いた	左記以外の者		亡不の詳者・死	
		A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)			人(D)	率(D/A)		
H21	全体	17,071	4,689	27.47%	9,827	79.37%	310	338	1,738	10.18%	169	
	国立	7,298	3,402	46.62%	3,273	84.01%	49	25	429	5.88%	120	
	大学	計	190	79	41.58%	93	83.78%	1	0	3	1.58%	14
		男	121	60	49.59%	51	83.61%	1	0	1	0.83%	8
	女	69	19	27.54%	42	84.00%	0	0	2	2.90%	6	
H22	全体	17,235	4,699	27.26%	9,808	78.24%	320	325	2,001	11.61%	82	
	国立	7,239	3,448	47.63%	3,124	82.41%	69	35	505	6.98%	58	
	本学	計	174	76	43.68%	82	83.67%	3	0	13	7.47%	0
		男	100	52	52.00%	39	81.25%	2	0	7	7.00%	0
女		74	24	32.43%	43	86.00%	1	0	6	8.11%	0	
H23	全体	17,388	4,339	24.95%	10,213	78.27%	296	383	2,102	12.09%	55	
	国立	7,355	3,242	44.08%	3,440	83.64%	70	25	560	7.61%	18	
	本学	計	185	81	43.78%	95	91.35%	0	0	9	4.86%	0
		男	113	48	42.48%	59	90.77%	0	0	6	5.31%	0
女		72	33	45.83%	36	92.31%	0	0	3	4.17%	0	
H24	全体	17,330	4,201	24.24%	10,523	80.15%	204	363	1,976	11.40%	63	
	国立	7,242	3,200	44.19%	3,356	83.03%	53	23	593	8.19%	17	
	本学	計	170	71	41.76%	86	86.87%	0	0	13	7.65%	0
		男	102	53	51.96%	44	89.80%	0	0	5	4.90%	0
女		68	18	26.47%	42	84.00%	0	0	8	11.76%	0	
H25	全体	17,326	4,112	23.73%	11,005	83.28%	232	253	1,672	9.65%	51	
	国立	7,232	3,162	43.72%	3,479	85.48%	49	27	495	6.84%	20	
	本学	計	205	65	31.71%	114	81.43%	4	0	22	10.73%	0
		男	123	44	35.77%	62	78.48%	0	0	17	13.82%	0
女		82	21	25.61%	52	85.25%	4	0	5	6.10%	0	
H26	全体	17,609	4,097	23.27%	11,626	86.04%	159	201	1,458	8.28%	68	
	国立	7,226	3,094	42.82%	3,626	87.75%	40	39	402	5.56%	25	
	本学	計	186	52	27.96%	112	83.58%	1	0	21	11.29%	0
		男	91	32	35.16%	46	77.97%	0	0	13	14.29%	0
女		95	20	21.05%	66	88.00%	1	0	8	8.42%	0	
H27	全体											
	国立											
	本学	計	177	59	33.33%	103	87.29%	1	0	14	7.91%	0
		男	102	31	30.39%	57	80.28%	0	0	14	13.73%	0
女		75	28	37.33%	46	97.87%	1	0	0	0.00%	0	

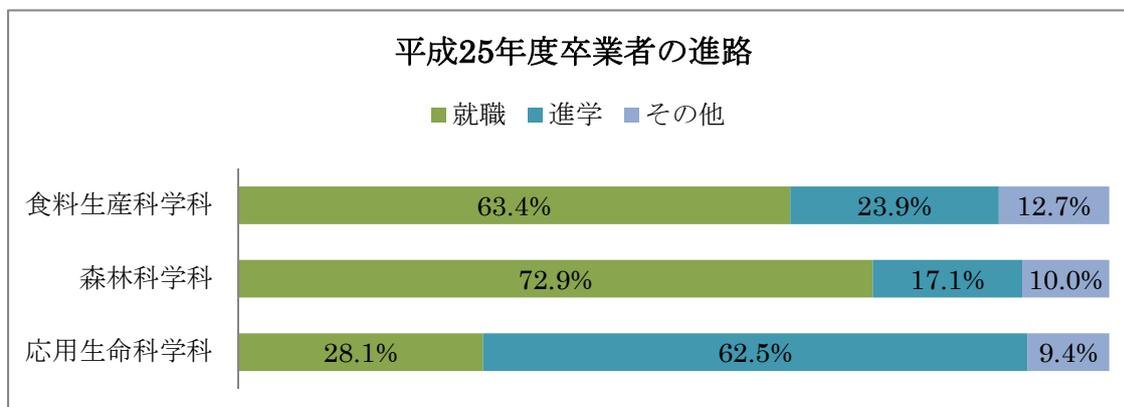
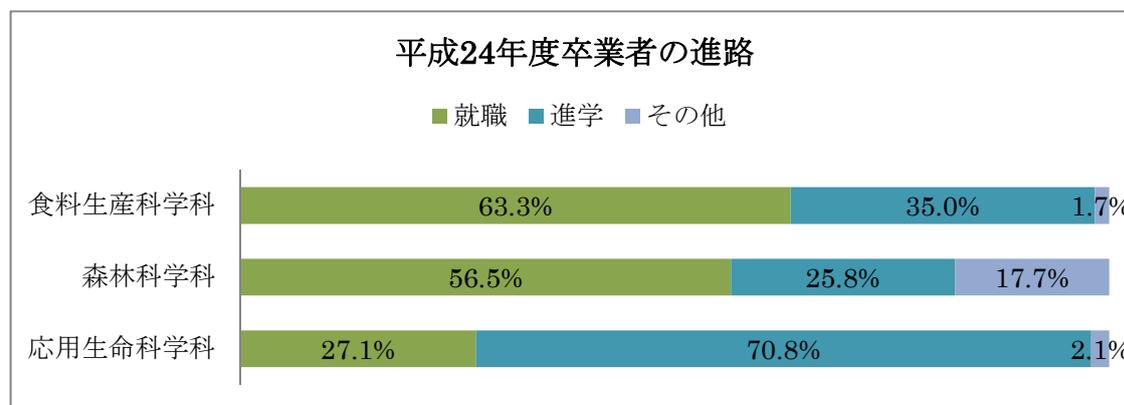
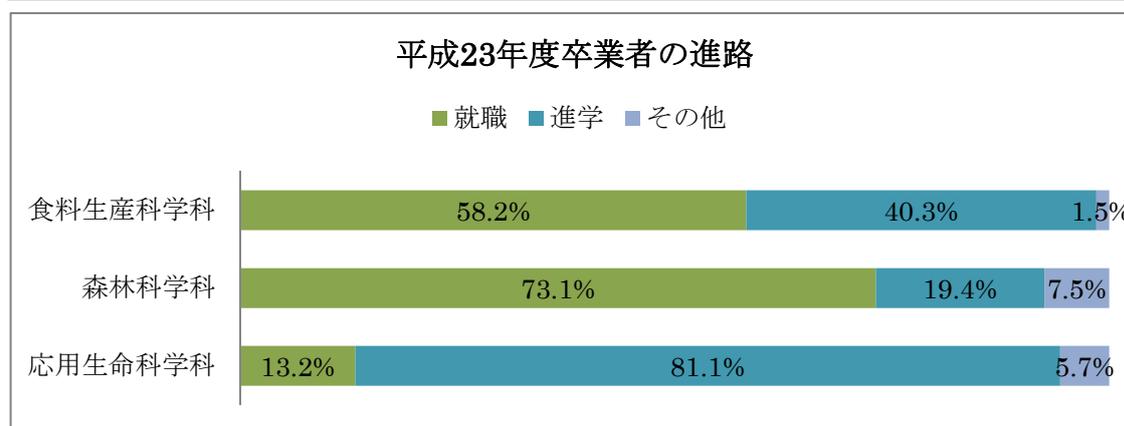
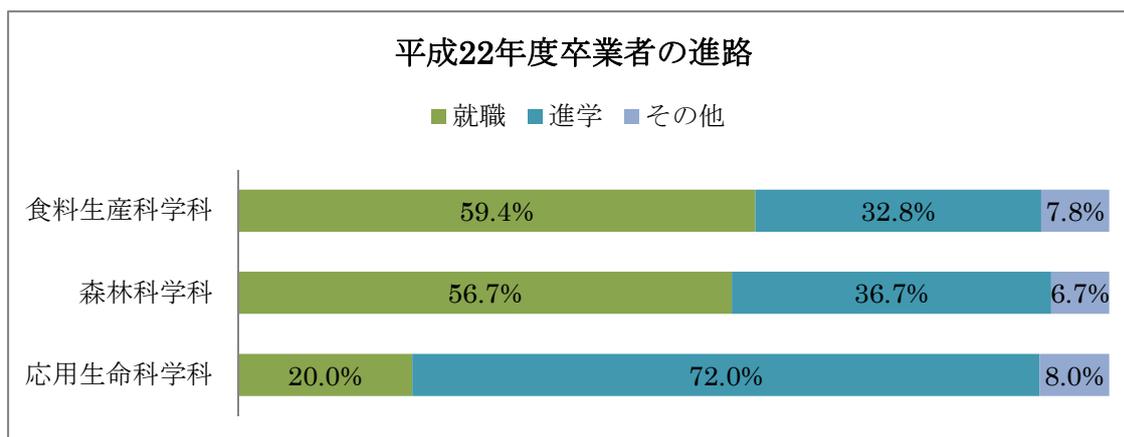
※ 「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学卒業後状況調査(関係学科別)より、区分「農学」を抜粋

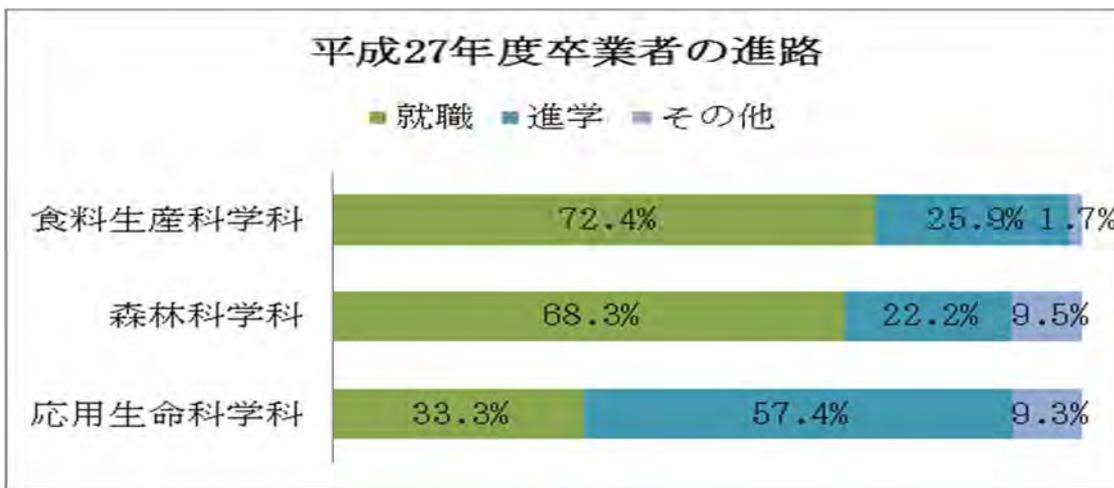
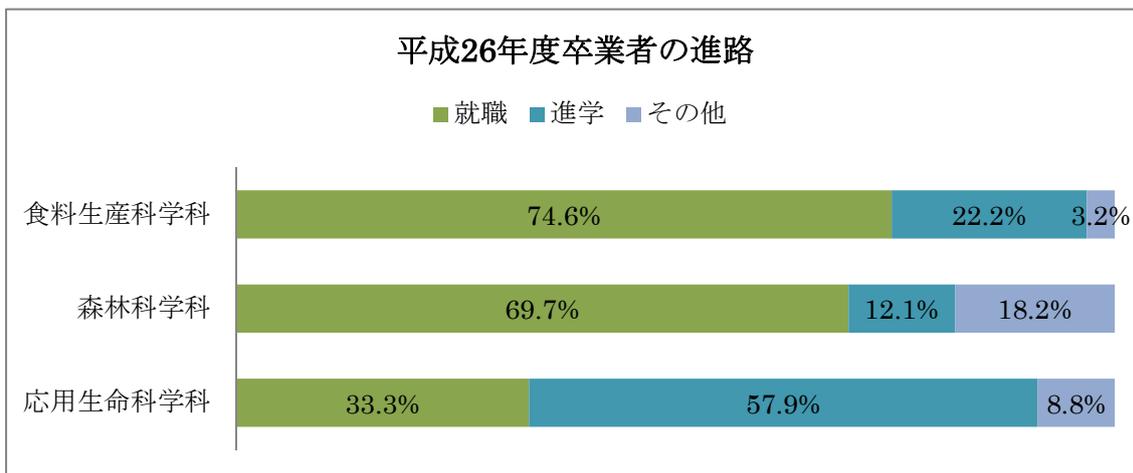
なお、平成27年度「全体」、「国立」については、平成28年6月末現在未公開

(出典：経営企画課)

卒業生の学科別の就職・進学・進学の割合は、以下のとおりである（資料農87）。

資料農87 卒業生の進路の状況（平成22年度～平成27年度）



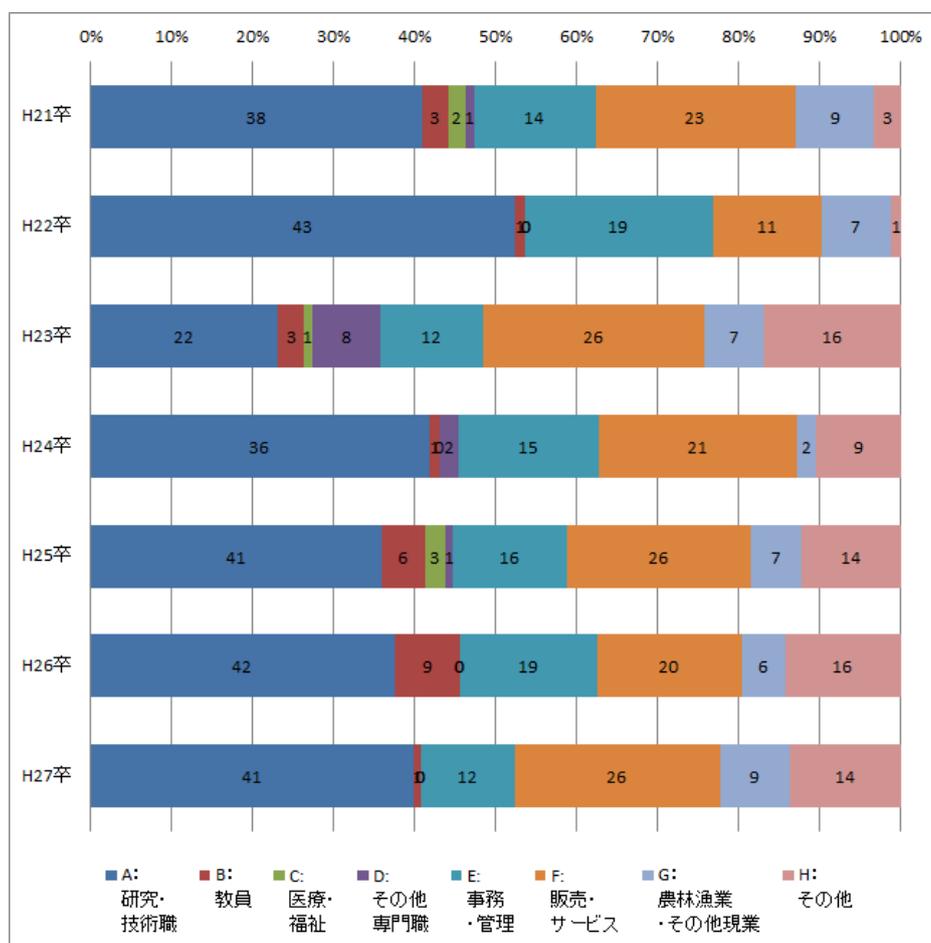


(出典：農学部作成)

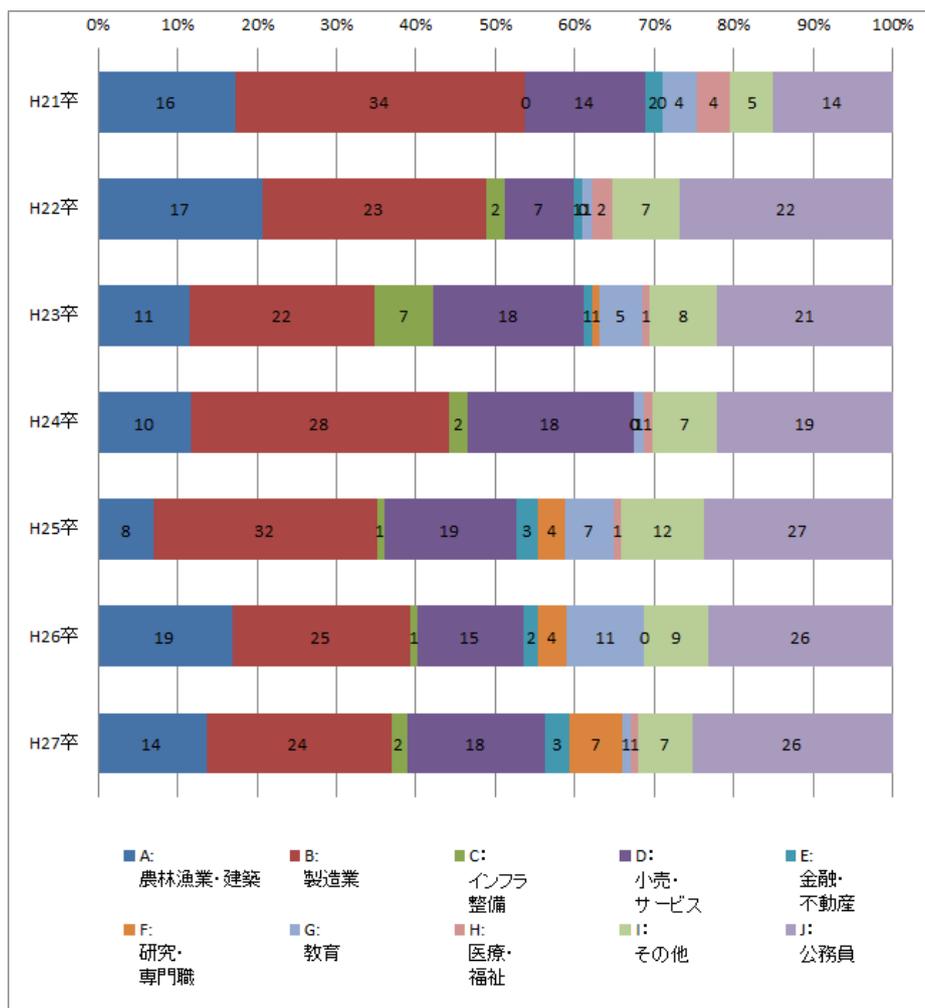
卒業生の職業・産業別就職状況は、次のとおりである（資料農88）。

資料農88 卒業生の産業別就職状況

職業別就職者数									
	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービ ス	G: 農林漁業 ・その他 現業	H: その他	合計
H21卒	38	3	2	1	14	23	9	3	93
H22卒	43	1	0	0	19	11	7	1	82
H23卒	22	3	1	8	12	26	7	16	95
H24卒	36	1	0	2	15	21	2	9	86
H25卒	41	6	3	1	16	26	7	14	114
H26卒	42	9	0	0	19	20	6	16	112
H27卒	41	1	0	0	12	26	9	14	103



産業別就職者数											
	A: 農林漁 業・建築	B: 製造業	C: インフラ 整備	D: 小売・ サービス	E: 金融・ 不動産	F: 研究・ 専門職	G: 教育	H: 医療・ 福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21卒	16	34	0	14	2	0	4	4	5	14	93
H22卒	17	23	2	7	1	0	1	2	7	22	82
H23卒	11	22	7	18	1	1	5	1	8	21	95
H24卒	10	28	2	18	0	0	1	1	7	19	86
H25卒	8	32	1	19	3	4	7	1	12	27	114
H26卒	19	25	1	15	2	4	11	0	9	26	112
H27卒	14	24	2	18	3	7	1	1	7	26	103



(出典：学校基本調査を基に経営企画課で作成)

2 就職支援の充実

インターンシップ関係科目（前掲資料農53、p47）に加え、本学部の学生向けに各種就職支援活動を行っている（資料農89、90）。

資料農89 就職支援活動の状況

【就職支援】

全学の就職支援組織であるキャリアサポートセンターや民間の就職支援企業の協力を得て、就職(進学)指導のための就職ガイダンスを実施しています。また、農学部独自の企業(官公庁)説明会や合同企業説明会、就職資料室での情報提供、個別相談(週2回)等で就職活動をサポートしています。このような実践的な指導に加えて、卒業後の職業観などの形成を図る「キャリアデザイン」(主に2年生対象の講義)や企業での就業体験実習を含む「インターンシップⅡ」(主に3年生対象の講義及び実習)などの教育プログラムを通じた多面的な指導で皆さんの自己実現とキャリア形成を支援しています。



キャリア情報の宝庫:就職資料室

年間スケジュール

平成27年度卒業・修了予定者(現3年生・大学院(修士)1年生)向けガイダンスの例

☆:農学部主催
◇:キャリアサポートセンター主催

日 程	内 容
平成26年5月	◇第1回就職ガイダンス 就職活動スタートアップ講座
7月	☆夏休み対策講座
8月	◇ビジネスマナー講座
10月	◇第2回就職ガイダンス 業界・職種研究
11月	◇第3回就職ガイダンス 【就活を成功させるために】エントリーシート対策講座 ☆服装身だしなみ講座 ◇メイク講座
12月	◇ビジネスマナー講座
平成27年2月	☆面接対策講座 ☆合同企業説明会の事前ガイダンス
3月	☆第1回合同企業説明会(3年生・大学院1年生対象)

(出典：大学案内2014-2015から引用)

資料農90 ガイダンス等の実施状況

【平成22年度】 回数 24回

開催日	事 項	参加者数
H22. 4. 15	自衛官募集説明会	7名
H22. 4. 15	長野県警察本部採用説明会	9名
H22. 4. 26	(株)ユニオン会社説明会	4名
H22. 4. 26	第1回農学部就職ガイダンス①	86名
H22. 4. 26	第1回農学部就職ガイダンス②	57名
H22. 5. 17	群馬県(総合土木職)採用説明会	5名
H22. 5. 21	兵庫県職員採用ガイダンス	5名
H22. 5. 3	長野県警察本部採用説明会	2名
H22. 6. 28	第2回農学部就職ガイダンス①	48名
H22. 6. 28	第2回農学部就職ガイダンス②	43名
H22. 7. 12	SEQ(自己診断)解説会	51名
H22. 10. 18	第3回農学部就職ガイダンス	44名
H22. 11. 15	長野県警業務説明会	2名
H22. 11. 15	家畜改良センター就職説明会	5名
H22. 11. 29	第4回農学部就職ガイダンス	42名
H22. 12. 6	第5回農学部就職ガイダンス(服装)	33名
H22. 12. 6	第5回農学部就職ガイダンス(メイクアップ)	22名
H22. 12. 6	長野県就農ガイダンス	3名
H22. 12. 8	山崎製パン企業ガイダンス	30名
H22. 12. 13	農学部合同企業説明会事前ガイダンス	41名
H22. 12. 13	やすま(株)研究開発センター	14名
H23. 1. 8	農学部合同企業説明会	102名
H23. 1. 17	農林水産省動物検疫所	6名
H23. 1. 19	小野薬品工業(株)製薬業界セミナー	10名

【平成23年度】 回数 36回

開催日	事項	参加者数
H23. 4. 11	長野県警察本部採用説明会	5名
H23. 4. 11	自衛官募集説明会	7名
H23. 4. 15	山梨県(総合土木職)採用説明会	3名
H23. 4. 15	天龍造園建設(株)企業説明会	4名
H23. 5. 9	第1回就職ガイダンス(キャリア)	99名
H23. 5. 19	静岡県(林業職)説明会	4名
H23. 5. 19	群馬県(総合土木職)説明会	5名
H23. 5. 19	西垣林業(株)企業説明会	5名
H23. 5. 16	㈱ユニオン企業説明会	4名
H23. 5. 25	兵庫県(林業職)説明会	7名
H23. 5. 30	第1回就職ガイダンス(農学部)	101名
H23. 6. 27	第2回就職ガイダンス(キャリア)	63名
H23. 7. 13	ビジネスマナー講座(キャリア)	34名
H23. 8. 4	ライフスクール(マイナビ)	17名
H23. 10. 3	第2回就職ガイダンス(農学部)	75名
H23. 10. 17	第3回就職ガイダンス(キャリア)	87名
H23. 10. 31	第3回就職ガイダンス(農学部)	47名
H23. 11. 7	筆記試験対策講座(キャリア)	57名
H23. 11. 14	第4回就職ガイダンス(農学部)	56名
H23. 11. 14	S E Q(自己診断)解説会	57名
H23. 11. 21	身だしなみ講座	26名
H23. 11. 21	メイク講座	21名
H23. 11. 28	第4回就職ガイダンス(キャリア)	85名
H23. 12. 5	マナー・面接対策講座(キャリア)	71名
H23. 12. 7	山崎製パン(株)企業説明会	28名
H23. 12. 9	山梨県(林業職)説明会	7名
H23. 12. 12	長野県警説明会	1名
H23. 12. 12	防衛省自衛隊説明会	3名
H23. 12. 12	山梨県(農業技術職)説明会	2名
H23. 12. 12	越井木材(株)企業説明会	6名
H23. 12. 12	就活「日経テレコン21」利用説明会	11名
H23. 12. 17	就活「横浜パシフィコ」バスツアー	40名
H23. 12. 19	第5回就職ガイダンス(農学部)	43名
H23. 12. 19	ライフスクール自己分析&面接対策講座(マイナビ)	22名
H24. 1. 7	<農学部主催>合同企業説明会	81名
H24. 1. 27	小野製薬工業(株)製薬業界セミナー	11名

【平成24年度】 回数 26回

開催日	事項	参加者数
H24. 4. 11	防衛省自衛隊説明会	6名
H24. 4. 11	長野県警説明会	4名
H24. 4. 23	静岡県(林業職)職員採用説明会	6名
H24. 5. 8	群馬県(土木職)職員採用説明会	1名
H24. 5. 26	第2回農学部合同企業説明会	13名
H24. 6. 4	第1回就職ガイダンス(農学部主催)	136名
H24. 7. 2	第2回就職ガイダンス(農学部主催)	61名
	2013年卒学生内定者報告会	
H24. 8. 6	夏季コミュニケーション集中講座	5名
H24. 10. 1	第3回就職ガイダンス(農学部主催)	116名
	理系学生のための自己分析講座	
H24. 10. 29	S P I筆記試験対策講座	79名
H24. 11. 5	第4回就職ガイダンス(農学部主催)	60名
	農学部出身者によるパネルディスカッション	
H24. 11. 12	外部講師によるS E Q解説会	41名
H24. 11. 21	就農支援ガイダンス	7名
H24. 11. 27	山梨県職員採用説明会(林業職)	18名
H24. 11. 28	服装・身だしなみ講座(生協・洋服の青山)	46名
H24. 12. 10	山梨県職員採用説明会(農業技術)	4名

H24.12.10	山梨県職員採用説明会(土木職)	2名
H24.12.10	自衛隊採用説明会	2名
H24.12.10	長野県警職員採用説明会	2名
H24.12.13	ブルボン個別説明会	28名
H24.12.17	第5回就職ガイダンス(農学部主催) 合同企業説明会事前ガイダンス	66名
H24.12.19	山崎製パン個別説明会	36名
H25.1.9	第6回就職ガイダンス(農学部主催) 合同企業説明会事前ガイダンス(2回目)	18名
H25.1.12	農学部合同企業説明会	134名
H25.1.15	農林水産省業務説明会	7名
H25.1.21	J Aしみず個別説明会	2名

【平成25年度】 回数 24回

開催日	事項	参加者数
H25.5.8	合同企業説明会事前説明会	2名
H25.5.11	第1回農学部主催合同企業説明会(4年・M2向け)	8名
H25.5.14	岐阜県職員(森林科学分野)採用試験説明会	4名
H25.5.27	兵庫県農政環境部就職ガイダンス	4名
H25.6.3	第1回農学部主催就職ガイダンス 「学部就職と大学院進学講座」 「大学院生の就職活動について」	156名
H25.6.10	海外農業研修説明会	1名
H25.7.8	第2回農学部主催就職ガイダンス 「就職内定者による報告会及びパネルディスカッション」	20名
H25.10.7	第3回農学部主催就職ガイダンス 「理系学生の就職環境と今後の就職スケジュールについて」 「理系学生に求められるもの」	108名
H25.10.30	就農ガイダンス・白鳥市長との懇談会	46名
H25.11.1	タキイ種苗株式会社ガイダンス	15名
H25.11.6	第4回農学部主催就職ガイダンス 「農学部出身者によるパネルディスカッション」	30名
H25.11.11	SEQ解説会	15名
H25.11.25	身だしなみ講座	29名
H25.12.2	京都府林業職説明会	3名
H25.12.9	京都府農業土木職説明会	3名
H25.12.18	合同企業説明会事前講習会	11名
H25.12.25	合同企業説明会事前講習会	14名
H25.12.26	就職活動支援バスツアー	13名
H26.1.8	合同企業説明会事前講習会	24名
H26.1.11	合同企業説明会	110名
H26.1.20	長野県警察就職説明会	1名
H26.1.20	山崎製パン(株)会社説明会	6名
H26.2.6	山梨県農業土木職説明会	2名
H26.2.21	Oh!庭 ya! 会社説明会	1名

【平成26年度】 回数 23回

開催日	事項	参加者数
H26.4.14	長野県警就職ガイダンス	2名
H26.4.14	自衛隊ガイダンス	2名
H26.4.30	三重県ガイダンス	2名
H26.5.12	埼玉県職員ガイダンス	2名
H26.5.14	群馬県職員ガイダンス	4名
H26.5.28	海外農業研修説明会	2名
H26.6.18	ユーストリー(株)説明会	7名
H26.7.14	農学部主催第1回就職ガイダンス	24名
H26.10.21	タキイ種苗業界セミナー	31名
H26.11.26	身だしなみ講座	17名
H26.12.3	山梨県林業職ガイダンス	5名
H26.12.10	ネクストエナジーアンドリソース(株) 業界セミナー及び会社説明会	7名

H26. 12. 10	就活ラボ	11名
H26. 12. 15	年末までの進路・就活準備と年始移行の動き方について (マイナビ)	92名
H26. 12. 17	合同企業説明会事前説明会(1回目)	6名
H26. 12. 22	山崎製パン企業ガイダンス	22名
H27. 1. 13	長野県警説明会	1名
H27. 1. 14	合同企業説明会事前説明会(2回目)	35名
H27. 1. 14	就活ラボ	16名
H27. 2. 3	農学部主催第2回就職ガイダンス	59名
H27. 2. 4	SEQ解説会	12名
H27. 3. 17	合同企業説明会事前説明会(3回目)	8名
H27. 3. 20	合同企業説明会	103名

【平成27年度】 回数 32回

開催日	事項	参加者数
H27. 4. 13	長野県警就職ガイダンス	3名
H27. 4. 13	自衛隊ガイダンス	12名
H27. 4. 20	面接対策講座 講師：ライト・ハウス・キーパーズ ：キャリアサポートセンターコーディネータ	40名
H27. 4. 27	静岡県ガイダンス	1名
H27. 5. 13	三重県ガイダンス	4名
H27. 5. 13	協和木材株式会社	4名
H27. 5. 13	群馬県森林組合連合会	4名
H27. 5. 13	群馬県職員ガイダンス	2名
H27. 5. 18	第1回就職ガイダンス 就職活動オリエンテーション 講師：(株)マイナビ	105名
H27. 5. 18	長野県警察科学捜査研究所	5名
H27. 6. 1	インターンシップ準備講座 講師：(株)マイナビ	86名
H27. 6. 22	ビジネスマナー基礎講座 講師：キャリアサポートセンターコーディネータ	32名
H27. 6. 29	進路・就職講座 理系の進路就職と自己分析について 講師：(株)マイナビ	37名
H27. 7. 13	就活講座夏 ver. これからの就活について、採用者の目線から考える 講師：ライト・ハウス・キーパーズ	5名
H27. 10. 5	理系の就活準備講座 講師：(株)リクルートキャリア	62名
H27. 10. 19	第2回就職ガイダンス 自己PRの作り方と業界研究の仕方 講師：(株)ディスコ	62名
H27. 11. 9	就活メイク講座 協力：ロードアンドスカイ(株)	9名
H27. 11. 16	業界・職種研究講座 参加企業 ・伊那食品工業(株) ・(株)フォレストコーポレーション ・ホクト(株) ・(株)マルイチ産商	35名
H27. 12. 7	第3回就職ガイダンス 準備に差がつく！エントリーシート対策講座 講師：(株)リクルートキャリア	65名
H27. 12. 9	山梨県ガイダンス	2名
H27. 12. 14	山崎製パン企業研究セミナー	15名
H27. 12. 16	合同企業説明会事前セミナー 「就活」から「就職活動」へ 講師：(株)カシヨキャリア開発センター	15名

H27. 12. 21	農学部の子生のための就活準備講座 講師：(株) マイナビ	21名
H27. 12. 22	長野県警就職ガイダンス	2名
H28. 1. 6	就活ラボ in 信州大学農学部 (株)カシヨキャリア開発センター 参加企業 ・長野県連合青果(株)、(株)トライネット	14名
H28. 1. 13	合同企業説明会事前セミナー 経済的視点からの就職活動 講師：(株)カシヨキャリア開発センター	12名
H28. 2. 12	就職活動準備直前総まとめ講座 講師：(株) マイナビ	66名
H28. 2. 15	筆記試験対策講座 講師：(株) ディスコ就職アドバイザー	63名
H28. 2. 16	静岡県庁採用試験説明会	5名
H28. 2. 18	採用選考総合対策講座～実践編～ ①履歴書・エントリーシート対策 講師：(株) リクルートキャリア ②面接対策 講師：(株) マイナビ	48名
H28. 3. 16	合同企業説明会事前セミナー 講師：(株) カシヨキャリア開発センター	6名
H28. 3. 24	農学部合同企業説明会	70名

(出典：農学部作成)

3 在学中の学業の成果に関する卒業・修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果

平成23年度に、本学部及び農学研究科出身の学生が就職した企業の中から615社に対しアンケートを実施した(回答152社)。また、平成26年度には555社に対しアンケートを実施した(回答143社)(資料農91)。

資料農91 企業へのアンケート結果（平成23年度、平成26年度実施）

〔平成23年度実施〕

設問	素養・能力	企業としての 重要度 卒業生の 達成度	高ポイント域			普通		低ポイント域			未記入	回答企業 数	平均(企業とし ての重要度) 平均(卒業生 の達成度)
			5ポイント	4ポイント	全体に占 める割合 (%)	3ポイント	全体に占 める割合 (%)	2ポイント	1ポイント	全体に占 める割合 (%)			
常識・教養・知識に 関する質問	A. 幅広い教養	重要度	25	67	66.2	47	33.8	0	0	0.0	10	139	3.84
		達成度	14	46	50.4	57	47.9	2	0	1.7	30	119	3.61
	B. IT・情報 知識	重要度	12	43	39.9	79	57.2	4	0	2.9	11	138	3.46
		達成度	3	37	33.9	75	63.6	3	0	2.5	30	118	3.34
	C. 農学基礎知識	重要度	22	50	52.6	38	27.7	15	12	19.7	13	137	3.40
		達成度	15	55	61.9	41	36.3	1	1	1.8	37	113	3.73
D. 貴社専門知識	重要度	54	51	76.1	28	20.3	4	1	3.6	12	138	4.11	
	達成度	16	47	52.5	51	42.5	5	1	5.0	29	120	3.60	
職務遂行能力に関 する質問	E. 問題発見能力	重要度	64	58	88.4	16	11.6	0	0	0.0	11	138	4.35
		達成度	16	54	58.8	48	40.3	1	0	0.8	30	119	3.71
	F. 責任感・倫理感	重要度	76	49	90.6	13	9.4	0	0	0.0	11	138	4.46
		達成度	33	57	75.6	29	24.4	0	0	0.0	30	119	4.03
	G. 適応力	重要度	56	53	79.6	27	19.7	1	0	0.7	12	137	4.20
		達成度	20	51	59.7	44	37.0	4	0	3.4	30	119	3.73
対人力に関する質 問	H. 人間関係能力	重要度	79	47	91.3	12	8.7	0	0	0.0	11	138	4.49
		達成度	27	57	70.6	33	27.7	2	0	1.7	30	119	3.92
	I. コミュニケーション能力	重要度	78	46	89.9	14	10.1	0	0	0.0	11	138	4.46
達成度		21	52	61.3	42	35.3	3	1	3.4	30	119	3.75	
国際性に関する質 問	J. 国際感覚	重要度	7	31	27.7	67	48.9	24	8	23.4	12	137	3.04
		達成度	2	18	18.0	76	68.5	14	1	13.5	38	111	3.05
	K. 英語力	重要度	4	20	17.5	67	48.9	28	18	33.6	12	137	2.74
		達成度	1	15	14.3	71	63.4	22	3	22.3	37	112	2.90

〔平成26年度実施〕

設問	素養・能力	企業としての 重要度 卒業生の 達成度	高ポイント域			普通		低ポイント域			未記入	回答 企業数	平均(企業とし ての重要度) 平均(卒業生 の達成度)
			5ポイント	4ポイント	全体に占 める割合 (%)	3ポイント	全体に占 める割合 (%)	2ポイント	1ポイント	全体に占 める割合 (%)			
常識・教養・知識に関 する質問	A. 幅広い教養	重要度	23	60	69.2	36	30.0	1	0	0.8	23	120	3.88
		達成度	11	47	59.8	37	38.1	2	0	2.1	46	97	3.69
	B. 農学基礎知識	重要度	19	29	40.3	35	29.4	18	17	29.4	24	119	3.10
		達成度	13	40	57.0	38	40.9	1	0	1.1	50	93	3.67
	C. 生命科学基礎知識	重要度	8	21	24.4	48	40.3	22	19	34.5	24	119	2.78
		達成度	10	25	39.3	47	52.8	6	0	6.7	54	89	3.40
D. IT・情報 知識やスキル	重要度	10	44	44.6	57	47.1	8	1	7.4	22	121	3.42	
	達成度	5	33	38.4	52	52.5	8	0	8.1	44	99	3.32	
E. 貴社専門知識	重要度	49	39	72.7	27	22.3	5	0	4.1	22	121	4.07	
	達成度	10	31	41.4	49	49.5	8	0	8.1	44	99	3.40	
職務遂行能力に関 する質問	F. 問題発見、課題解決能力	重要度	55	55	90.9	10	8.3	0	0	0.0	22	121	4.34
		達成度	16	44	60.6	35	35.4	3	0	3.0	44	99	3.71
	G. 主体性・実行力・倫理観	重要度	66	45	91.7	9	7.4	0	0	0.0	22	121	4.44
		達成度	13	51	64.6	31	31.3	3	0	3.0	44	99	3.72
	H. 柔軟性・適応力	重要度	54	53	88.4	12	9.9	1	0	0.8	22	121	4.30
		達成度	18	34	52.5	41	41.4	4	1	5.1	44	99	3.62
対人力に関する質 問	I. チームワーク人間関係能力	重要度	70	44	94.2	6	5.0	0	0	0.0	22	121	4.50
		達成度	26	38	65.3	28	28.6	4	1	5.1	45	98	3.83
	J. コミュニケーション能力	重要度	69	42	91.7	9	7.4	0	0	0.0	22	121	4.46
達成度		23	36	59.6	31	31.3	7	1	8.1	44	99	3.71	
国際性に関する質 問	K. 国際感覚	重要度	3	28	25.6	56	46.3	21	12	27.3	22	121	2.88
		達成度	2	9	11.8	66	71.0	11	4	16.1	50	93	2.90
	L. 外国語(英語)語学力	重要度	2	15	14.3	57	47.9	28	16	37.0	24	119	2.63
		達成度	1	10	12.5	54	61.4	18	4	25.0	55	88	2.81

(出典：農学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- 卒業者全体に占める就職者及び進学者の割合は、学部全体でほぼ9割を維持し、全国や国立大学平均と同等あるいはそれ以上であり（資料農86、87）、在学生、受験生、保護者の期待に応えている。
- 就職に関するガイダンスやセミナー等を毎年度23回以上開催し、積極的な就職支援活動を行っており（資料農90）、想定するすべての関係者の期待に応えている。
- 企業アンケートにおいて、企業としての重要度が高い項目については、本学部出身者の達成度も高い結果であることから、本学部を卒業した学生が企業のニーズに応え得る能力を修めていると判断され（資料農91）、想定するすべての関係者の期待に応えている。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

○学部改組による教育組織及びカリキュラムの再構築

平成26年度に全学における「学術研究院」への組織改編が実施され、教育、研究マネジメントの柔軟性が強化されることとも呼応し、本学部では平成27年度に3学科制から1学科4コース制への改組を実施した(資料農10、21)。

この改組において、従前の分野の枠に囚われないカリキュラムの根本的な組み直しを実施し、特に①農学の基礎としてのコース横断型科目の充実、②コース専門科目における再構築、③グローバル系科目の充実、④先鋭領域特別講義の設置を行った。さらに、副専攻を可能とする制度も整備した。このカリキュラム改変によって、より広い視野から農学を俯瞰でき、社会のグローバル化への対応が強化された(資料農11、48、49)。

○グローバル化への対応

改組に伴うグローバル化への対応に加え、平成24年度に開始したTOEIC-IP受験に関し、平成26年度から1年次生の受験を義務化した。この影響を受け3年次生の受験者数も増加した(資料農65)。

さらに、教育・研究の更なる国際化の推進を目的とした「国際農学教育研究センター」を平成26年度に設置し、学部間交流協定の推進、海外実習への学生派遣等の教育面における国際化を推進した(資料農62～64、66～69)。

○AFCの「教育関係共同利用拠点」認定

AFCの野辺山農場と演習林は、それぞれ平成25年度、平成26年度に文部科学大臣から「教育関係共同利用拠点」として認可を受け、各拠点にユニークな教育プログラムが設定された。これにより各拠点の利用実績は順調に増加している(資料農55、56)。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

○学生による授業評価

学生による授業評価の実施結果から、質問項目「総合的に判断して、この授業に満足している」において高い評価を持続し、平成21年度との比較では、平成22～27年度において「強くそう思う」、「そう思う」の比率が高まった(資料農82)。

12. 農学研究科

- I 農学研究科の教育目的と特徴・・・・・・・・12-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・12-10
 - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・12-10
 - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・12-45
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・12-58

I 農学研究科の教育目的と特徴

1 教育目的

① 理念、目標

農学研究科は、食料生産科学、森林科学、応用生命科学、機能性食料開発学の4つの専攻から構成されている。本研究科及び各専攻の理念は以下のとおりである（資料農院1）。

資料農院1 農学研究科及び各専攻の理念

○農学研究科
農学部理念・目標を礎に、21世紀に求められる、環境と調和した持続生産に基づく、より豊かな人間社会を作ること目的として、環境の保全と修復および生命科学や食料の生産などの分野における幅広い体系的な基礎学力、実践的技術力、そして研究開発能力を備えた高度専門技術者を養成する。

○各専攻
（食料生産科学専攻）
環境保全に立脚した持続的食料生産の発展を目指し、バイオサイエンスを農学に取り入れた革新的な食料生産技術体系を確立するための理論の構築と技術の発展に努め、かつこれに寄与する人材を養成する。
（森林科学専攻）
森林は、人類にとって母なる存在であり、21世紀に要求される持続生産可能な循環型社会の構築に重要な役割を担っている。広く森林バイオマス資源の生産とその有効利用を追求するとともに、森林ならびに地域の環境保全と修復を図り、より豊かな人間環境を目指して、総合的かつ高度の研究、教育を行う。
（応用生命科学専攻）
生命現象を化学的・生物学的視点からより高度な学問水準で研究・教育し、生命科学、環境科学、食品科学等の分野で高度な専門性と技術能力を発揮できる人材の養成を行い、研究・教育を通じて社会の発展に寄与する。
（機能性食料開発学専攻）
農学を基盤としつつ、医学、薬学等との広く学際領域を視野に入れた教育と研究を通じ、「食」に関する確かな総合科学的思考力や創造性を身につけた高度専門職業人や技術者、研究者の養成に貢献する。

（出典：信州大学農学部ホームページ「農学研究科（修士課程）」）

上記の理念のもとに次の目標を掲げている（資料農院2）。

資料農院2 農学研究科の目標

1. 自然環境と共生し得る農学の学際的先端領域を開拓する。
2. 実践的技術力および創造性豊かな研究開発能力を備えた人材を養成する。
3. 社会人および外国人留学生を積極的に受け入れ、高度の学術、技術を修得させ、国内外の社会の発展に寄与する。
4. 地域産業へ貢献する。

（出典：信州大学農学部ホームページ「農学研究科（修士課程）」）

② 3つの方針

本研究科及び各専攻のディプロマ・ポリシーは以下のとおりである（資料農院3）。

資料農院3 農学研究科及び各専攻のディプロマ・ポリシー

○農学系研究科
信州大学大学院農学研究科の課程を修了し、次に該当する者に学位を授与する。

1. より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術を修得している
2. 環境と調和した国際性と地域性に根差した持続的生産に関わる知識と技術を修得している
3. 環境の保全と修復および生命科学や食料の生産などの分野における幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力を修得している
4. 高い研究開発能力を修得している
5. 農学分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する

6. 農学分野での研究成果を発信できるグローバルな情報発信能力を有する

○各専攻

(食料生産科学専攻)

信州大学大学院農学研究科食料生産科学専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士（農学）の学位を授与する。

1. 食料生産に関する高度な科学性、実践性、独創性及び倫理性を備えた能力を修得している
2. 信州の豊かな自然環境を活かした持続的食料生産に関する幅広い知識を修得している
3. 農学・生命科学の進展や関連産業の需要に対応しうる高度な専門知識の修得とその応用力を修得している
4. 高度専門技術者あるいは研究者として食料生産、生命科学、環境保全分野の需要を多角的に捉え、その問題を解決できる実践力ならびに研究遂行能力を修得している

(森林科学専攻)

信州大学大学院農学研究科森林科学専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士（農学）の学位を授与する。

1. 食料生産に関する高度な科学性、実践性、独創性及び倫理性を備えた能力を修得している
2. 信州の豊かな自然環境を活かした持続的食料生産に関する幅広い知識を修得している
3. 農学・生命科学の進展や関連産業の需要に対応しうる高度な専門知識の修得とその応用力を修得している
4. 高度専門技術者あるいは研究者として食料生産、生命科学、環境保全分野の需要を多角的に捉え、その問題を解決できる実践力ならびに研究遂行能力を修得している

(応用生命科学専攻)

信州大学大学院農学研究科応用生命科学専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士（農学）の学位を授与する。

1. 自然の摂理と生物資源の多様性について説明できる
2. 生命科学、食品科学、環境科学等の分野に関する高度な専門知識とその応用力を修得している
3. 生命科学・食品科学分野において、化学的・生物学的視点から高度な専門性と独創性を発揮して、社会の知的発展に貢献できる能力を修得している

(機能性食料開発学専攻)

信州大学大学院農学研究科機能性食料開発学専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士（農学）の学位を授与する。

1. 「食」に関する的確な総合科学的思考力や創造性を持った能力を修得している
2. 食料とその機能性に関する専門的知識と技術、特に信州の地域特性と産業に関する知識を修得している
3. 機能性食料開発学に関連した学問分野における思考力と解析力を修得している
4. 機能性食料開発学に関連した学問分野における技術と研究遂行能力、特に国際的な学術研究を展開するための基礎的能力を修得している

(出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院農学研究科学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

本学大学院のカリキュラム・ポリシーは以下のとおりである（資料農院4）。

資料農院4 信州大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

○大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

○大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

（出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」）

本研究科及び各専攻のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである（資料農院5）。

資料農院5 農学研究科及び各専攻のアドミッション・ポリシー

○農学研究科

自然と人が共生する持続的社会の創造に貢献できる高度専門職業人を志す人を求めています。農学分野の幅広い基礎学力を有し、食料生産、持続的農林業、森林と田園環境の保全、生命現象、食と健康に関わる今日的課題の解決のために、食料生産科学、森林科学、応用生命科学および機能性食料開発の各専門分野で研究を進展させる意欲ある人を歓迎します。

○各専攻

（食料生産科学専攻）

食料生産科学専攻では、食料の安全性と品質の向上や持続性の高い食料生産の実現を指向し、動植物資源の開発、生産および利用に関わる分野で専門的職業人として活躍したい人を求めています。そのため、農学分野の基礎学力を有し、食料や環境に関わる課題の解決に取り組む意欲を持つ、知的好奇心と創造力に富む人を歓迎します。

（森林科学専攻）

森林科学専攻では、森林や田園の持続的利用や保全に関する高度専門職業人を志す人を求めています。そのため、森林環境科学や田園環境工学に関する幅広い知識を有し、専門分野における研究を進展させる意欲のある方を歓迎します。

（応用生命科学専攻）

応用生命科学専攻では、生命現象の解明とその応用技術の開発分野および食品科学の分野で幅広い教養と高い研究開発能力を備えた高度専門技術者を志す人を求めています。生命科学あるいは食品科学に関する一般的知識を有し、専門分野における研究を進展させる意欲のある方を歓迎します。

（機能性食料開発学専攻）

1. 「農」という食料生産の現場から「食品」という利用場面に至るまでの一連の流れを見渡す広い視野を持ち、かつ、食料に含まれる機能性成分への探求心が旺盛な人。
2. 地域の特産物の機能性解明に情熱があり、研究を通じて地域貢献したい人。
3. 農産物に含まれる食料成分の機能性解明や有効利用に関する研究を行いたい人。
4. 世界的な視野において機能性食品の開発や創製に関する研究を行い、国際社会へ貢献したい人。

ただし、上記1～4の意向にそった研究を遂行するために必要な基礎的学力および語学力を有する人。

（出典：信州大学農学部ホームページ「農学研究科（修士課程）」）

2 組織の特徴や特色

① 構成組織

本研究科の構成組織は以下のとおりである（資料農院6）。



② 各専攻における教育・研究の特徴

本研究科を構成する専攻では、以下の特徴ある教育・研究を行っている（資料農院7）。

資料農院7 各専攻における教育・研究の特徴

(食料生産科学専攻)
 環境に調和した持続的な農業と安全な農業生産をめざし、生態機能の解析と利用、農業経営や生産物の流通機構の改善、作物・果樹・蔬菜・花卉等の多様な有用植物を対象とした育種・繁殖、生産・利用・品質向上技術の開発、地域資源の有効活用等に関する課題について、フィールドワークとラボワークの両側面から教育・研究を行っている。

(森林科学専攻)
 物質資源や生物資源、環境資源としての森林の多様な機能を解明するとともに、山岳、山地・森林地帯、農山村を含む地域の環境や生産基盤の整備・保全、造成・利用や文化形成に至るまで、多元的、総合的な教育・研究を展開している。これらの教育・研究を通して高度専門職業人の育成を目指している。

(応用生命科学専攻)
 生命現象の分子レベルでの解明、生物機能の探索と利用、生物資源の開発や創製などの広い範囲にわたって、主として有機化学・生化学・分子生物学・育種学・遺伝学関連の手法を用いた研究を展開している。これらの研究を通して、生命科学および食品科学を発展させ、社会に貢献しようとしている。

(機能性食料開発学専攻)
 特定の疾病の予防や軽減に寄与する食料成分や、疾病の発症に関係する食料成分を解明し、そのような有効成分を多量に含む食品や有害成分を除去した食品を創製することを目的とした教育・研究を、産学連携のもとに、構成する4講座（機能性食料育種学講座、食料機能解析学講座、食料機能開発学講座、機能性食品創製学講座）体制で行っている。

(出典：農学部作成)

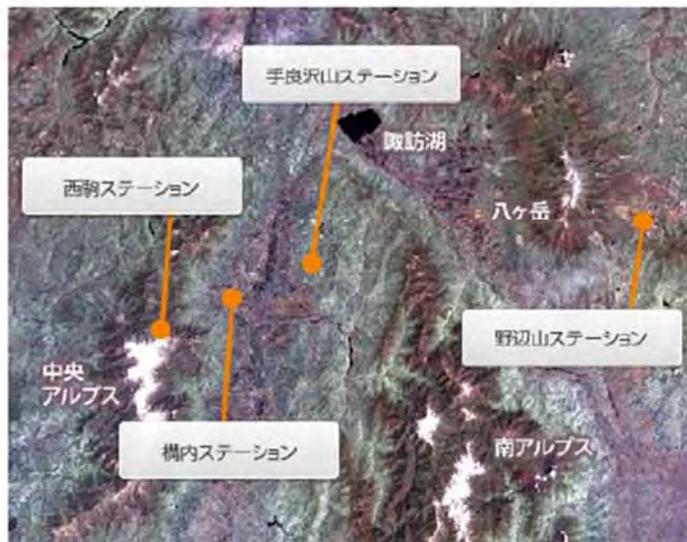
③ 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター (AFC)

本研究科の特徴の一つである自然を生かしたフィールド教育では、AFCにおいて、4つの特色あるステーションに農場と演習林を配置し、実践的な教育・研究に活用している（資料農院8）。

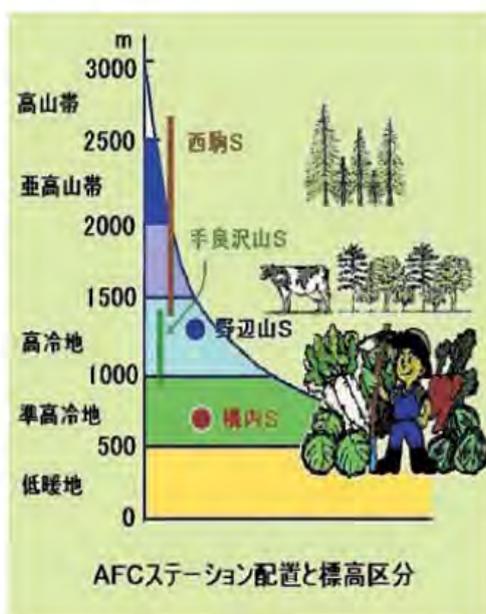
資料農院 8 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター (AFC)

ステーションの紹介

AFCのステーションは、里地から山岳地まで多様な自然環境と生産環境の中に位置しており、フィールド科学を総合的に推進するために極めて適した教育研究の場を提供しています。



(出典：信州大学農学部ホームページ「附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター(AFC)」)



- 構内ステーション(40ha)**
農場(果樹・野菜・花卉・畜産・加工)と演習林(平地林・環境保全林)
- 西駒ステーション(252ha)**
中央アルプス高山帯を含む演習林(垂直分布、天然林、野生生物)
- 手良沢山ステーション(229ha)**
人工林(スギヒノキ・カラマツ)、森林施業、治山治水
- 野辺山ステーション(29ha)**
高冷地農業(野菜、畜産・草地)と演習林(カンナ類、カラマツ、原野植生)

(出典：農学部作成デジタルパンフレット)

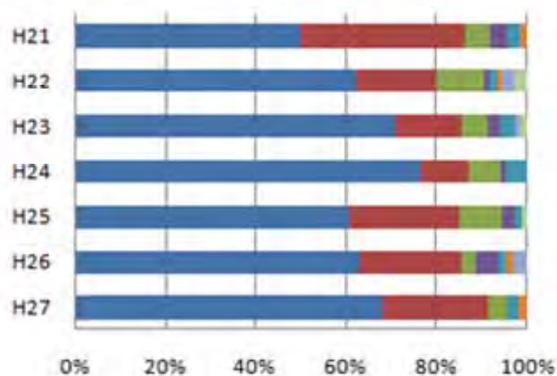
3 入学者の状況及び試験科目

① 入学者の状況

本研究科への入学者の年齢別内訳は以下のとおりである (資料農院 9)。

資料農院 9 農学研究科入学者の年齢別内訳

入学者の内訳(年齢別)

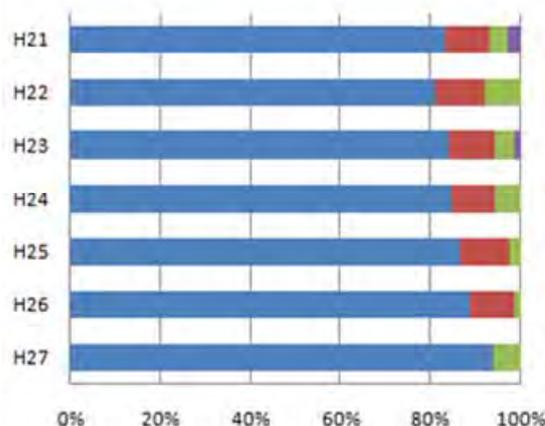


	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 22歳以下	36	46	49	65	45	39	32
■ 23歳	26	13	10	9	18	14	11
■ 24歳	4	8	4	6	7	2	2
■ 25歳	3	1	2	1	2	3	0
■ 26, 27歳	2	1	2	4	1	1	1
■ 28, 29歳	1	1	0	0	0	1	1
■ 30-39歳	0	2	1	0	0	2	0
■ 40-49歳	0	0	0	0	0	0	0
■ 50歳以上	0	2	1	0	1	0	0

(出典：経営企画課作成)

本研究科の入学者の出身学校種別の割合は以下のとおりである（資料農院10）。

資料農院10 本研究科入学者の出身学校別の割合

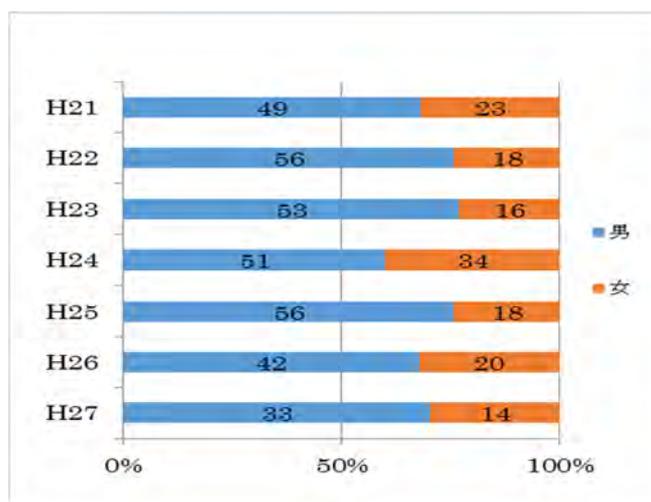


	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 本学	60	60	58	72	64	55	44
■ 他大学	7	8	7	8	8	6	0
■ 外国の学校	3	6	3	5	2	1	3
■ その他	2	0	1	0	0	0	0

(出典：経営企画課作成)

本研究科の入学者の男女比は以下のとおりである（資料農院11）。

資料農院11 農学研究科の入学者の男女比



(出典：経営企画課作成)

本研究科への入学状況は以下のとおりである（資料農院12）。

資料農院12 農学研究科への入学状況（入学定員・入学者数）

専攻	入学定員	入学者数					
		H22	H23	H24	H25	H26	H27
食料生産科学	20	19	18	25	16	16	15
森林科学	17	21	20	12	17	12	4
応用生命科学	16	18	24	31	24	27	14
機能性食料開発学	16	16	8	20	19	7	14
合計	69	74	70	88	76	62	47

（出典：農学部作成）

② 試験科目

本研究科の試験科目は以下のとおりである（資料農院13）。

資料農院13 農学研究科試験科目（一般入試）

5. 選抜方法

専門科目、英語及び面接（成績証明書、専攻研究の概要を含みます。）の結果を総合して判定します。
配点は次のとおりです。

教科等	専門科目	英語	面接
配点	100	100	100

※ 面接では、学習意欲、将来性、独創性などを総合的にみます。

(4) 試験科目

① 専門科目（志願票に記載するコードは、「12. 大学院農学研究科（修士課程）専攻別・分野別専門科目の概要・コード表」を参照してください。）

専攻	分野	専門科目	試験科目
食料生産科学	生産環境管理学	農業経営経済学 植物生産管理学	1 科目 (志望する分野の 専門科目)
	植物資源生産学	作物生態生理学 園芸資源学	
	動物資源生産学	家畜解剖生理学 家畜飼養管理学	
	食資源利用学	動物育種繁殖学	
森林科学	山地環境保全学	森林生態・造林学 森林機能・林地保全学※ 森林環境学	1 科目 (志望する分野の 専門科目)
	森林生産利用学	森林経営・計画学 森林政策学※ 木材理学	
	農山村環境学	農業工学 農山村計画学※ 流域保全学	
	緑地環境文化学	造園学 植物生態・地域保全学 保全生物学	
応用生命科学	生物制御化学	食品安全・評価学※ 生理活性化学※ 光制御化学	1 科目 (志望する分野の 専門科目)
	生物機能化学	細胞工学 分子生物学 食品微生物工学	
	生物資源開発学	動物生殖学 応用きのこ学 応用真菌学	
	生物資源化学	食品化学 食品生化学 食品分子工学	
機能性食料開発学	機能性食料育種学	機能性食料育種学	1 科目 (志望する分野の 専門科目)
	食料機能解析学	食料機能解析学	
	食料機能開発学	食料機能開発学	

※今回は募集しません。

② 英語 辞書の使用は認めません。

③ 面接 各専攻別に行います。

(出典：「平成27年度信州大学大学院農学研究科（修士課程）一般入試学生募集要項」)

[想定する関係者とその期待]

- ① 在学生、受験生、保護者、所属機関
 - ・ 幅広い体系的な基礎学力、実践的技術力、研究開発能力を備えた高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導
 - ・ 国内外の社会の発展に寄与するため、社会人及び外国人留学生を積極的に受け入れ、国際的視野と技術力を備えた高度専門技術者を養成すること
- ② 関係業界、諸団体（農林水産・食品産業、化学・医薬品産業、建設・情報通信産業等）幅広い体系的な基礎学力、実践的技術力、研究開発能力を備えた高度専門技術者になるための資質を備えた人材を育成し、輩出すること

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1 教員体制と教育体制

① 学術研究院と研究科

教員の流動性を確保し、これまで以上に柔軟な全学的な教育、研究マネジメントを可能とするための教員組織として「学術研究院」を平成 26 年度に設置した(資料農院 14)。

資料農院 14 学術研究院と学部、大学院との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要2015」をもとに経営企画課作成)

② 教員の配置状況

本研究科は、研究指導教員及び研究指導補助教員を次のとおり配置しており、多様な研究分野の教員が揃っている（資料農院15、16）。

資料農院 15 研究指導教員及び研究指導補助教員配置状況

専攻	農学研究科			大学院設置基準				
	研究指導教員	うち教授数	研究指導補助教員	計	研究指導教員基準	うち教授数	研究指導補助教員基準	基準数計
食料生産科学専攻	23	11		23	4	3	2	6
森林科学専攻	21	8		22	4	3	2	6
応用生命科学専攻	17	5		17	4	3	2	6
機能性食料開発学専攻	9	4		9	4	3	2	6

(出典：農学部作成)

資料農院16 専攻別教員研究分野

専攻	氏名	研究分野	研究テーマ
食料生産科学専攻	井上 直人	作物学(草地学、植物生態学、民族植物学、植物栄養学)	ソバ属作物に関する生態生理学的解析
	大井 美知男	蔬菜園芸学	野菜の基礎的遺伝解析と育種
	佐々木 隆	農業経済学	農業経営の形態と経営管理
	萩原 素之	作物学	低投入や不良環境下での作物の生育・収量の向上
	伴野 潔	園芸科学	果樹におけるマーカー選抜育種と栽培技術の確立
	齋藤 勝晴	植物栄養学、土壌学	土壌圏の生物間相互作用の構造とその生態機能
	渡邊 修	作物学(雑草学)、環境農学(含ランドスケープ科学)	雑草の生態解明と管理法の確立
	加藤 新平	植物病理学	植物の病害抵抗性機構の解明と病害抵抗性植物の分子育種
	北村 嘉邦	園芸科学	切り花の花持ちを制御する新規要因の探索
	谷 颯子	農業経済学	食生活からみた消費者行動の経済分析
	小野 珠乙	応用動物科学、基礎獣医学、基礎畜産学、畜産学、草地学	鳥類における実験動物育種および生殖細胞の導入とその発現
	鏡味 裕	動物幹細胞工学	鳥類生殖幹細胞の樹立および遺伝的分化制御
	神 勝紀	応用動物科学	バイオマスを利用した環境低付加畜産システムの開発
	平松 浩二	形態学、構造学(動物組織学、神経科学)	消化管における神経内分泌免疫系のクロストーク
	竹田 謙一	動物生産科学(家畜管理学、応用動物行動学)	アニマルウェルフェアに配慮した家畜・野生動物管理システムの開発
	渡邊 敬文	動物生体機構学	ニワトリにおける各種消化管ホルモンの受容体分布
春日 重光	栽培学、育種学	ソルガム属植物の育種・栽培とその利用に関する研究	
濱野 光市	動物生産科学	家畜の精子と受精に関する研究	
岡部 繭子	高冷地生物生産管理学、作物学、栽培学	高冷地における環境保全型農業に関する研究	
江田 慧子	昆虫生態学、環境評価、保全生態学	里山に生息する絶滅危惧シジミチョウ類の保全・保護に関する生態学的研究	
米倉 真一	動物生理学(神経科学、細胞生理学)	中枢・末梢組織におけるストレス応答機構の分子メカニズム	
上野 豊	動物生産科学、応用微生物学	動物消化管微生物群集の機能解明と動物生産への応用	

森林科学専攻	濱野 充	農村開発学研究	カンボジアの農村における加工産業振興
	植木 達人	森林科学	択伐・漸伐・皆伐各作業の歴史的発展過程の分析とその成立条件に関する研究
	岡野 哲郎	森林科学	落葉広葉樹天然林の長期動態
	武田 孝志	木質科学	実大材強度における寸法効果
	細尾 佳宏	木質科学、森林科学	樹木の成長や木質形成を制御する機構の解明
	小野 裕	治山工学(水土保全、森林水文)	山地森林地帯における水土保全
	城田 徹央	林学	森林管理が人工林の生態系機能に及ぼす影響
	三木 敦朗	森林政策学、森林経済学	林業の構造変化に関わる理論的・実証的研究
	大窪 久美子	環境農学(含ランドスケープ科学)	緑地環境における生物多様性および景観の保全と管理
	佐々木 邦博	環境農学(含ランドスケープ科学)	緑地の歴史性と保全活用計画
	平松 晋也	砂防学	降雨を誘因とした表層崩壊発生予測と土砂災害危険度評価システムの構築
	鈴木 純	灌漑工学、環境修復工学	草高と葉面積指数を指標とした群落熱収支のモデリング
	上原 三知	環境影響評価、環境デザイン、景観計画(近代造園学)、地域計画、エコロジカル・プランニング	都市と農村の環境保全・自然復元による持続的な環境計画
	内川 義行	農業土木学、農村計画学	棚田の整備・保全計画、農山村計画
	福山 泰治郎	自然災害科学、防災学、環境動態解析、水工学、森林科学	流域の土砂流出の現状把握と土砂流亡履歴の長期的評価
	荒瀬 輝夫	作物生産科学、生態・環境、生物多様性・分類	野生資源植物の分類地理・生態・評価
	小林 元	森林科学	森林の二酸化炭素吸収をはじめとする公益的機能評価に関する研究
	加藤 正人	森林科学	リモートセンシングおよびGISを使用した森林資源管理
	泉山 茂之	動物生態学	野生動物の生態と管理に関する研究
	安江 恒	森林科学	樹木の肥大成長に影響を及ぼす要因の解明
上村 佳奈	森林経理学	森林における大規模風害リスク評価および被害発生メカニズムの解明	
斎藤 仁志	森林科学	林内路網配置計画と林業機械・作業システムの効率化	
応用生命科学専攻	小嶋 政信	光生物化学	植物およびキノコの光応答メカニズムの解明と高度利用技術の開発
	中村 浩蔵	食品分子工学、食品機能化学	ソバを原料とした高血圧予防食品の開発と抗高血圧メカニズムの解明
	片山 茂	食品化学	食品由来の機能性成分の更なる高度利用のための分子設計
	一ノ瀬 仁美	応用生物化学、酵素化学、糖質科学	糖質資源を活用するための酵素の開発
	伊原 正喜	蛋白質工学、代謝工学	太陽光エネルギーの有効活用を目指した光合成システムの改変
	池田 正人	応用微生物学、代謝工学	ゲノム科学を応用した発酵生理学と微生物工学
	千 菊夫	応用生物化学、応用分子細胞生物学	担子菌キノコの分子育種、微生物殺虫剤の開発

	福田 正樹	遺伝育種科学	栽培食用きのこ開発のための遺伝・育種学的研究
	高木 優二	動物生殖学、家畜繁殖学	哺乳動物における生殖現象の解明と人為制御
	田淵 晃	植物微生物分子生物学	植物の二次代謝物質の生産制御
	山田 明義	真菌学、菌根学、菌類生態学	真菌類と植物根との共生体である菌根の生理・生態ならびに分類学
	竹野 誠記	応用微生物学、代謝工学	ゲノム科学を応用した発酵生理学と微生物工学
	藤井 博	生化学、分子生物学	生物の環境応答と適応におけるシグナル伝達機構の解析
	保坂 毅	応用微生物学	微生物における潜在能力の開発と有用物質生産への応用
	富岡 郁夫	生殖工学	革新的発生工学技術の開発
	鈴木 俊介	ゲノム生物学、分子生物学	エピゲノム解析による遺伝子発現制御機構の解明と応用
	田中 沙智	免疫学	農産物由来の免疫バランス制御因子の探索とその応用に関する研究
機能性食料開発学専攻	南 峰夫	遺伝育種科学	ソバの機能性成分に関する遺伝育種学的研究
	松島 憲一	育種学、園芸学、遺伝学	香辛料作物および園芸作物の遺伝解析および育種
	根本 和洋	植物遺伝育種学	低・未利用植物資源の遺伝的多様性解析および育種
	藤田 智之	食品化学、天然物有機化学	酵素阻害物質を中心とした機能性食品素材の探索と応用開発
	濱渦 康範	食品科学、園芸科学	果実・野菜の機能性成分の調査と利用性研究
	真壁 秀文	生物有機化学	顕著な生物活性を有する天然有機化合物の合成研究
	中村 宗一郎	食品化学	食品由来の種々の機能性成分の更なる高度利用のための分子設計
	下里 剛士	動物生命科学、分子生命工学	分子生命工学を基盤とする機能性素材のデザインと開発
	河原 岳志	動物生産科学	動物の株化細胞培養系を利用した食品の機能性探索

(出典：農学部作成)

③ 教育課程の運営体制

本研究科は、研究科長及び研究科に属する教授で構成する信州大学大学院農学研究科委員会において、教育活動に関する審議を行っている（資料農院17、18）。

資料農院 17 信州大学大学院農学研究科委員会規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 この規程は、信州大学大学院研究科委員会通則（平成16年信州大学通則第4号）第10条及び信州大学大学院農学研究科規程（平成16年信州大学規程第81号）第3条第2項の規定に基づき、信州大学大学院農学研究科委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

（組織）

第2条 委員会は、信州大学学術研究院農学系に属する教授で組織する。ただし、必要があるときは、信州大学大学院農学研究科（以下「研究科」という。）において主たる授業又は指導を担当するものとして配置された専任の教授、准教授、講師及び助教を加えることができる。この場合における当該研究科委員会を信州大学大学院農学研究科教員会議という。

（審議事項）

第3条 研究科委員会は、学長が次の各号に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

- 一 学生の入学及び課程の修了
- 二 学位の授与

2 研究科委員会は、前項に掲げるもののほか、次の各号に掲げる事項について、学長に意見を述べ

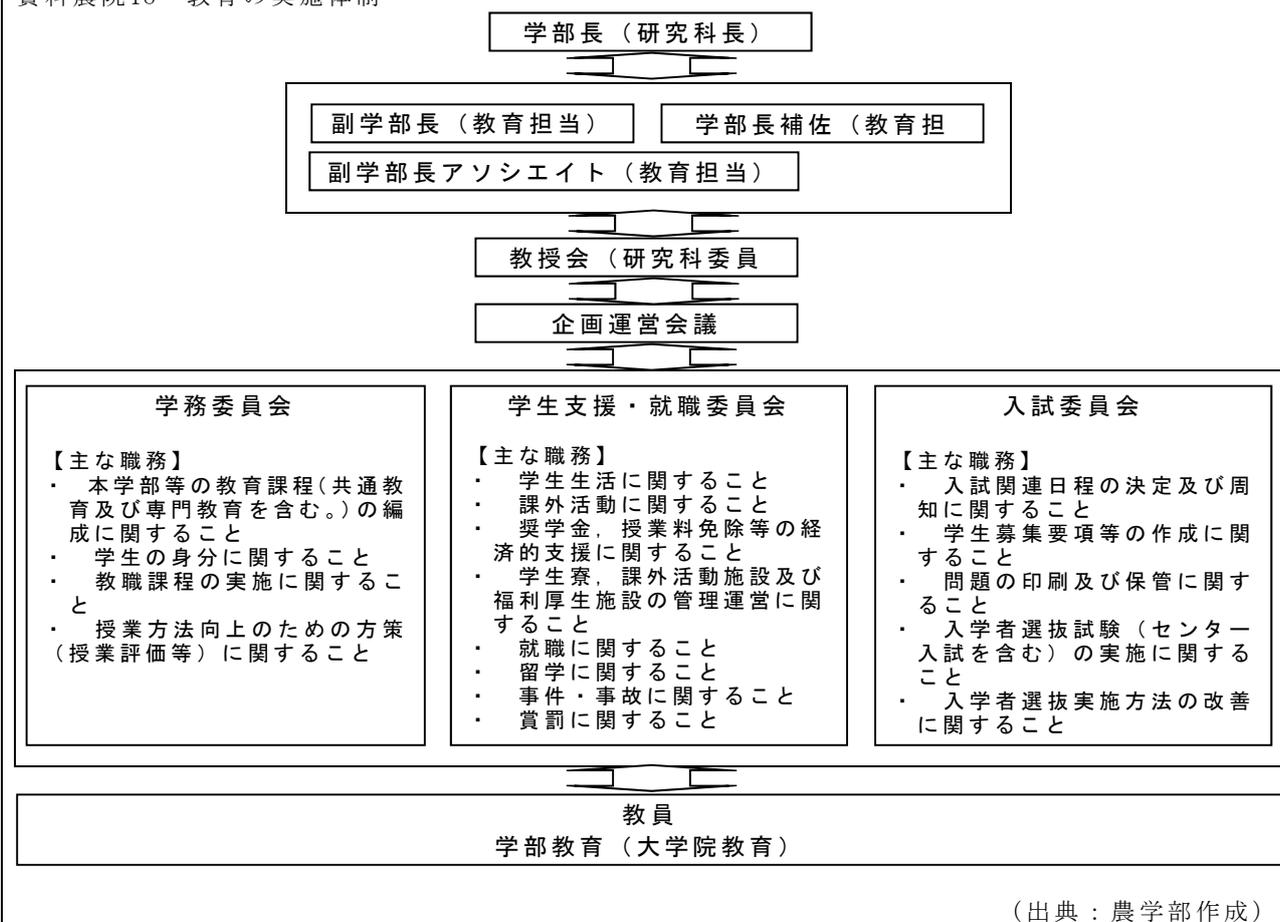
るものとする。

- 一 教育課程の編成に関する事項
- 二 研究科に所属する教員の選考及び業務内容等に関する事項
- 3 研究科委員会は、前2項に規定するもののほか、学長及び研究科長（以下この項において「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第3条の2 前条第2項第2号に規定する事項については、研究科委員会の意見を聴いた後、信州大学学術研究院会議で審議する。

（出典：信州大学規程集）

資料農院18 教育の実施体制



2 教育サポート体制

① 全学的な教育サポート体制

学務課、学生支援課等を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている（資料農院 19、20）。この他に、全学的な教育活動を展開するため、附属図書館、総合健康安全センター等に専門的知識技能を有する職員を配置している（資料農院 21）。さらに、本研究科に教育活動を展開するために必要な職員を配置している（資料農院 22）。

資料農院 19 国立大学法人信州大学業務執行組織規程（抜粋）

- 第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。
- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
 - (2) 庶務及び会計に関すること。
 - (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
 - (4) 学生関係職員の SD（スタッフ・デベロップメント）に係る企画・立案及びその実施に関すること。
 - (5) 全学（本法人が設置する信州大学大学院（以下「大学院」という。）を除く。）の教務に関すること。
 - (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
 - (7) 学位の授与に関すること。
 - (8) 教育課程（大学院を除く。）に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
 - (9) 他の大学等との単位の互換（大学院を除く。）に関すること。
 - (10) 全学の学務情報システムに関すること。
 - (11) 出前講座に関すること。
 - (12) 諸会議（国立大学法人信州大学戦略企画会議規程（平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号）第 6 条に定める大学院戦略会議（以下「大学院戦略会議」という。）及び信州大学大学院教務委員会を除く。）の連絡調整に関すること。
 - (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
 - (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
 - (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
 - (2) 共通教育の教務に関すること。
 - (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
 - (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
 - (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
 - (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 （省略）
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
 - (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
 - (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
 - (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
 - (3) 学生募集に関すること。
 - (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
 - (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。（研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。）
 - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
 - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。
- （出典：信州大学規程集）

資料農院 20 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

平成 28 年 1 月 18 日現在

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5

臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

(出典：経営企画課作成)

資料農院 21 附属図書館、総合健康安全センター等職員数

平成 28 年 2 月 1 日現在

区分	附属図書館	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learningセンター
伊那キャンパス	5	2	-	-

(出典：経営企画課作成)

資料農院 22 学部・研究科の学務担当の職員数

平成 28 年 2 月 1 日現在

区 分	学務担当窓口職員数
農学部 農学研究科	14

(出典：経営企画課作成)

② 長期にわたる教育課程の履修

就職している等の事情を有する学生に、標準修業年限を超えて計画的に履修できる制度を整えている。平成 24 年度からは交換留学する学生に計画的な履修を認めることとした(資料農院 23)。

資料農院 23 長期にわたる教育課程等の履修に関する規定

○信州大学大学院学則(抜粋)
(長期にわたる教育課程の履修)

第 38 条 本大学院は、各研究科の定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、第 16 条に定める在学期間を超えることはできない。(教育課程の計画的特例履修)

第 38 条の 2 各研究科(修士課程又は博士前期課程を置く研究科に限る。)は、本大学院と外国の大学院等との間において締結した交流協定(研究科間交流協定及びこれに準ずるものを含む。以下「交流協定」という。)に基づく留学により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを修士課程又は博士前期課程の学生(標準修業年限の最終年次の学生及び前条による長期にわたる教育課程の履修を認められている学生を除く。)が希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、3 年を超えることはできない。

○信州大学大学院農学研究科規程(抜粋)
(長期にわたる教育課程の履修)

第 12 条 大学院学則第 38 条に規定する学生が職業を有している等の事情による長期にわたる教育課程の履修については、研究科委員会において定める。

(出典：信州大学規程集)

③ 教育方法の特例

本研究科で必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間やその他特定の時間等に実施できるようにしている（資料農院 24）。

資料農院24 教育方法の特例に関する規定

○信州大学大学院学則（抜粋）
（教育方法の特例）

第 39 条 教育上特別の必要があると認められる場合には、当該研究科において定めるところにより、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

○信州大学大学院農学研究科規程（抜粋）
（教育方法の特例）

第 17 条の 2 研究科において必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間その他特定の時間又は時期に行うことができる。

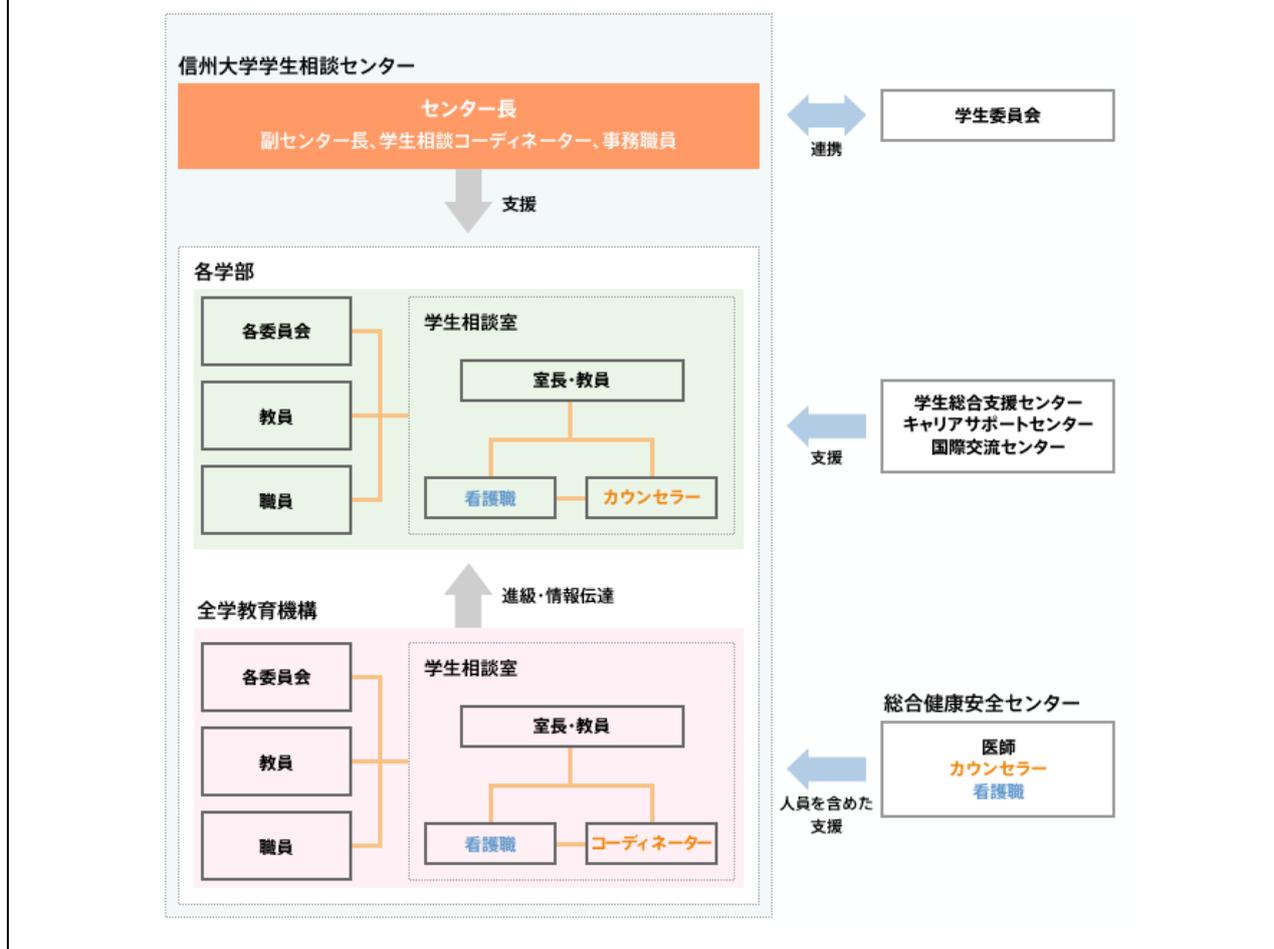
2 前項に規定するもののほか、教育方法の特例に関する事項は、別に定める。

（出典：信州大学規程集）

④ 学生相談体制の整備

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部・キャンパスに、あらゆる相談を受け付ける学生相談室が設置され、活用されている（資料農院 25）。

資料農院 25 学生相談センター及び学生相談室



専門窓口と連携し対応します。

相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



(出典：信州大学学生相談センターホームページ「センターについて」)

3 教育の実施体制及び教員の教育力向上

① 教育の実施体制

本研究科では、農学部と一体的に副学部長（教育担当）のもと、学務委員会、学生支援・就職委員会を設置し、教員の教育力向上を図っている（前掲資料農院18、p14）。

② 関係者のニーズ把握

本研究科では、学生、修了生、雇用主、地域等の社会のニーズを、基礎学部の各実施組織がアンケート、意見聴取等を実施し把握している（資料農院26）。

資料農院 26 関係者のニーズ把握

対象	実施方法	頻度	実施組織	目的・利用方法
修了生	紙媒体によるアンケート	1回/1年	学務委員会	教育課程と教育内容をより良くし、教育の充実を図る。
雇用主・企業等	就職した企業等へのアンケート	1回/3年	学生支援・就職委員会	企業等が必要とする学生のニーズを把握する。
地域	自治体との連携協議会	1回/1年	農学研究科	地域社会が必要とする本研究科のシーズを把握し、貢献に資する。

(出典：農学部作成)

③ FD講演会の開催

学務委員会を中心に定期的にFD講演会を開催し、教員の教育力向上、メンタル面で不安を抱える学生や障害を持つ学生への適切な接し方、更には大学人としての倫理や研究を推進する上で必要とされる情報、知識など、テーマに幅を持たせ実施している(資料農院27)。

資料農院27 FD講演会の開催状況

実施年度	実施日	講師	FDテーマ	参加者数
平成22年度	10月14日(木)13:00~16:00	高橋知宣(信州大学教育学部教授)	メンタルヘルス(含むハラスメント)について	13名
	6月14日(火)13:30~15:00	萩原素之(信州大学農学部教授)	学生の自主学習を促すためのIT活用	22名
	10月17日(月)13:30~15:00	松岡幸司(全学教育機構准教授)	FDとは? ~必要性と義務の間で考える~	25名
平成23年度	11月14日(月)13:30~15:00	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	「教育の質」をどのように測るのか-教員業績評価書 今年度の対策講座-	38名
	2月13日(月)13:15~14:45	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	本学にとって意義のあるGPA制度をめぐらしましょう	30名
	5月21日(月)13:00~14:30	小田 佳代子(学生相談コーディネーター)	学生とのかかわり~ゲートキーパーとして~	34名
平成24年度	6月25日(月)13:30~14:30	Kathleen T. Brinke先生(米国ノースカロライナ州アパラチアン州立大学・FDセンター長)	学生との接しかた 学習における情緒と認知の側面から	25名
	6月27日(水)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	10月15日(月)13:00~14:30	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	信州大学の学生を知る	37名
	11月26日(月)13:00~15:00	高橋校長(松本予備校) 一之瀬副校長(松本予備校)	現代の学生気質及び外部から見た大学評価及び初年次教育から見た大学の取り組み及び入試状況	37名
	12月3日(月)13:00~14:30	片山綾乃(農学部カウンセラー)	チューター面談の振り返りと課題について	25名
	12月14日(金)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	教育におけるICT活用に関するFD講習会	12名
平成25年度	12月26日(火)19:00~10:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	1月8日(水)10:30~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	9名
	4月2日(火)9:00~10:15	片山綾乃(農学部カウンセラー)	メンタルに不安を抱えた学生に対してどう接するのか	18名
	5月20日(月)13:00~14:30	庄司和史(全学教育機構准教授)	読書推進課と学生支援	49名
	8月21日(金)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	10名
	8月6日(火)13:00~14:30	加藤善子(高等教育研究センター教授)	GPA制度導入に際してのポイントや課題	16名
	12月10日(火)15:00~16:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	12月14日(水)15:00~16:30	高野嘉寿彦(全学教育機構副機構長) 花崎一夫(全学教育機構教授) 小松孝子(学務部学務課共通教育支援室主管)	共通教育における平成27年度カリキュラムの方向性について	11名
	12月18日(水)16:00~17:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	12月25日(水)13:00~14:30	加藤善子(高等教育研究センター教授)	大学の生産的な文化の育成について	12名
平成26年度	1月29日(水)16:00~18:00	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	シラバスガイドライン改訂に伴うFD	28名
	4月2日(火)10:40~12:00	庄司和史(全学教育機構准教授)	聴覚への障害学生学習支援及びノートテイクへの説明会について	50名
	6月9日(月)13:00~14:30	下平薫子(農学部カウンセラー)	気になる学生への接し方のPoint	25名
	6月23日(月)15:00~16:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	18名
	9月29日(月)13:00~14:40	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	大人教員としての効果的な授業の実施方法について	13名
	10月16日(木)13:00~14:30	谷塚 光典(e-Learningセンター) 長谷川 理(e-Learningセンター) 早水 美津子(e-Learningセンター) 内山 直美(e-Learningセンター)	教育におけるICT活用について	5名
平成27年度	1月13日(火)14:30~16:00	加藤善子(高等教育研究センター教授)	シラバスガイドライン見直しに伴う留意点およびシラバスの書き方	17名
	12月9日(月)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	4月6日(月)14:00~15:30	庄司和史(全学教育機構准教授)	聴覚障害学生支援の説明会	32名
	6月8日(月)13:00~14:30	辻 琴音(信州大学農学部森林科学科学生)	農学部及び農学研究科改組後のカリキュラム及び運営等について	45名
	6月26日(金)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	12名
	6月29日(月)13:00~14:30	下平薫子(農学部カウンセラー)	メンタル面に課題のある学生の対応について	27名
	9月28日(月)13:00~14:30	国際交流担当職員(予定)	留学生受け入れの対応について	22名
	10月5日(月)13:00~14:30	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	4学期制導入に伴う2コマ連続授業等における効果的な教育方法について	20名
	11月30日(月)13:00~14:30	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	シラバスの書き方について	5名
	12月15日(火)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	12名
3月18日(金)13:00~14:30	藤田 直子(障害学生支援室長)	信州大学における障害学生への支援体制について	26名	

(出典：農学部作成)

4 入学者選抜方法の工夫

平成23年度入試（平成22年度）において、以下の変更を行った（資料農28）。

資料農28 平成23年度入学者選抜の変更点

- ① 一般入試（第2次募集）において、食料生産科学専攻が専門科目、英語、面接の3科目から面接1科目に変更、機能性食料開発学専攻が専門科目、英語、面接の3科目から専門科目、面接の2科目に変更した。
- ② 外国人留学生入試において、食料生産科学専攻が専門科目、面接の2科目から面接1科目に変更した。
- ③ 全専攻で社会人入試を導入した。

（出典：農学部作成）

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

- ・ 「学術研究院」体制への移行に伴い、本研究科が実施する教育において、幅広い体系的な基礎学力、実践的技術力、研究開発能力を基盤とし、国際的視野を持つ専門技術者を養成する実施体制を整備し、在学生、受験生、保護者、関係業界等の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院 14～18）。
- ・ 修学はもとより、就職・留学に関するサポート体制及び学生相談室の機能強化（カウンセラーの常駐）等、学習・教育環境を支えるサポート体制を整備し、在学生、受験生、保護者等の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導という期待に応えている（資料農院 19、20、25）。
- ・ 教育の実施に当たりアンケートの実施と分析、多面的な内容でのFD講演会の開催等、教員の教育力向上、教育内容・方法を改善するための体制を構築し、在学生、受験生、保護者、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院 26、27）。
- ・ 「長期にわたる教育課程の履修に関する規定」及び「教育方法の特例に関する規定」による柔軟な履修環境を整備し、在学生、受験生、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待、また社会人を積極的に受け入れ国際的視野と技術力を備えた高度専門技術者を養成するという期待に応えている（資料農院23、24）。

(森林科学専攻)

				研究科DP										
				より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術を修得している	環境と調和した国際性と地域性に根差した持続的生産に関わる知識と技術を修得している	環境の保全と修復および生命科学や食料の生産などの分野における幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力を修得している	高い研究開発能力を修得している	農学分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する	農学分野での研究開発成果を発信力のあるグローバルな情報発信能力を有する	農学分野での研究開発成果を発信力のあるグローバルな情報発信能力を有する	より豊かな人間環境を創出するために、科学的・倫理的に貢献できる高度な能力を修得している	森林科学専攻DP 多様な要因によって形成されている森林や田園の環境に関する高度な知識を修得している	信州の自然環境に恵まれた特色を生かした、高度な専門職人となるための専門的学力とその応用力を修得している	森林と田園の持続的発展を実現するために、直面する課題に適切に、正しく向き合い、これを解決する高度な能力を修得している
科目・題目名	科目コード	修得時期												
森林科学専攻														
山	森林生態学特論	A0201	1年前期			○						○		
地	森林環境学特論	A0202	1年前期		○							○		
環	治山砂防学特論	A0205	1年前期	○			○							○
境	山地環境保全学特別演習Ⅰ	A0203	1年または2年通年		○								○	
保	山地環境保全学特別演習Ⅱ	A0207	1年または2年通年			○								○
全	山地環境保全学特別実験実習Ⅰ	A0218	1年または2年通年	○							○			
学	山地環境保全学特別実験実習Ⅱ	A0216	1年または2年通年				○			○				
森	森林管理政策学特論	A0229	1年前期	○	○		○			○				○
林	森林経営利用学特論	A0231	1年前期	○										○
生	木材理学特論	A0236	1年前期	○									○	
産	森林生産利用学特別演習Ⅰ	A0245	1年または2年通年			○					○			
利	森林生産利用学特別演習Ⅱ	A0241	1年または2年通年		○							○		
用	森林生産利用学特別実験実習Ⅰ	A0244	1年または2年通年	○						○				
学	森林生産利用学特別実験実習Ⅱ	A0246	1年または2年通年				○					○		
農	農村計画学特論	A0252	1年前期			○								○
山	地水環境学特論	A0253	1年前期		○						○			○
村	流域保全学特論	A0257	1年前期	○			○							○
環	農山村環境学特別演習Ⅰ	A0254	1年または2年通年			○								○
境	農山村環境学特別演習Ⅱ	A0256	1年または2年通年				○						○	
学	農山村環境学特別実験実習Ⅰ	A0261	1年または2年通年	○							○			
	農山村環境学特別実験実習Ⅱ	A0264	1年または2年通年			○		○						○
緑	緑地計画学特論	A0272	1年前期	○										○
地	緑地生態学特論	A0275	1年前期			○					○			
環	緑地環境文化学特別演習Ⅰ	A0273	1年または2年通年				○				○			
境	緑地環境文化学特別演習Ⅱ	A0271	1年または2年通年	○						○				
文	緑地環境文化学特別実験実習Ⅰ	A0283	1年または2年通年			○							○	
化	緑地環境文化学特別実験実習Ⅱ	A0281	1年または2年通年		○									○
専攻共通	特別インターンシップ	A0286	1年または2年通年	○						○				
	特別研究	A92**	2年通年						○	○				

(応用生命科学専攻)

				研究科DP									
				より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術を修得している	環境と調和した国際性に根差した持続的生産に関わる知識と技術を修得している	環境の保全と修復および生命科学や食料の生産などの分野における幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力を修得している	高い研究開発能力を修得している	農業分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する	農業分野での研究成果を発信できるグローバルな情報発信	農業分野での研究成果を発信できる	応用生命科学専攻DP		
											自然の摂理と生物資源の多様性について説明できる	生命科学、食品科学、環境科学等の分野に関する高度な専門知識とその応用力を修得している	生命科学・食品科学分野において、化学的・生物学的視点から高度な専門性と独創性を発揮して、社会的貢献に資することができる能力を修得している
科目・題目名	科目コード	修得時期											
応用生命科学専攻													
生物制御化学	食品安全・分析化学特論	A0301	1年前期	○		○	○						○
	生物有機化学特論	A0305	1年後期								○		
	生物制御化学特別演習Ⅰ	A0311	1年後期			○	○						○
	生物制御化学特別演習Ⅱ	A0312	2年通年									○	○
	生物制御化学特別実験実習	A0313	2年後期			○	○				○	○	○
生物機能化学	応用微生物学特論	A0324	1年前期								○	○	○
	分子生物・遺伝子工学特論	A0325	1年後期			○					○	○	○
	生物機能化学特別演習Ⅰ	A0331	1年後期								○	○	○
	生物機能化学特別演習Ⅱ	A0332	2年通年								○	○	○
	生物機能化学特別実験実習	A0333	2年後期			○					○	○	○
生物資源開発学	動物資源開発学特論	A0344	1年後期								○	○	○
	菌類資源開発学特論	A0346	1年前期			○					○	○	○
	生物資源開発学特別演習Ⅰ	A0351	1年後期								○	○	○
	生物資源開発学特別演習Ⅱ	A0352	2年通年								○	○	○
	生物資源開発学特別実験実習	A0353	2年後期		○	○	○				○	○	○
生物資源化学	食品生化学特論	A0361	1年後期			○	○				○	○	○
	食品化学特論	A0362	1年前期			○	○				○	○	○
	生物資源化学特別演習Ⅰ	A0371	1年後期			○	○				○	○	○
	生物資源化学特別演習Ⅱ	A0372	2年通年			○	○				○	○	○
	生物資源化学特別実験実習	A0373	2年後期			○	○				○	○	○
専攻共通	特別インターンシップ	A0391	1年通年			○	○				○	○	○
	応用生命科学特別演習	A0392	2年通年	○		○	○				○	○	○
	特別研究	A93**	2年通年				○			○	○	○	○

(機能性食料開発学専攻)

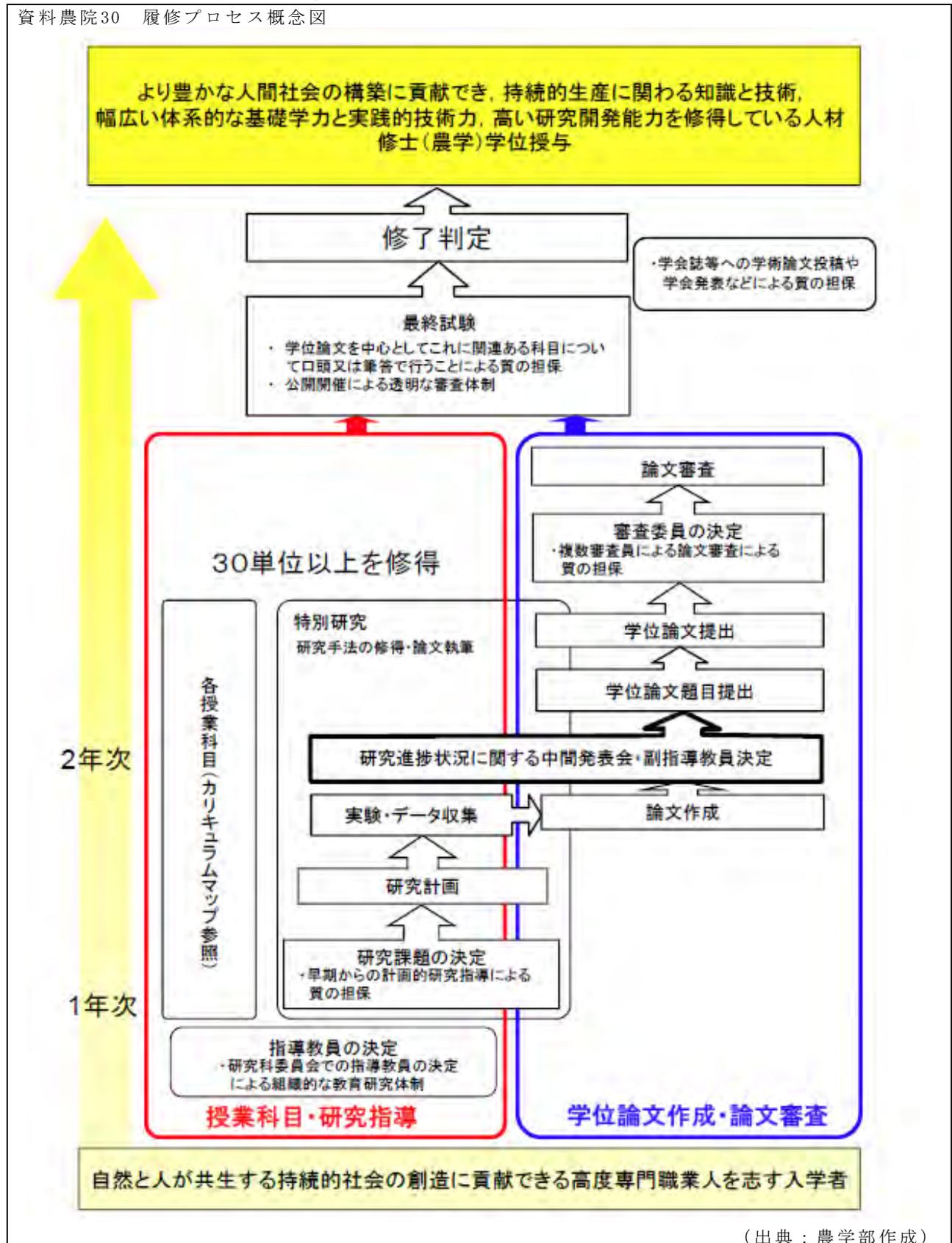
				研究科DP									
				より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術を修得している	環境と調和した国際性に根差した持続的生産に関わる知識と技術を修得している	環境の保全と修復および生命科学や食料の生産などの分野における幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力を修得している	高い研究開発能力を修得している	農業分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する	農業分野での研究成果を発信できる	農業分野での研究成果を発信できる	機能性食料開発学専攻DP		
											「食」に関する総合科学的思考力や創造性を持った能力を修得している	食料と人の健康に関する専門的知識と技術、特に信州の地域特性と産業に関する知識を修得している	機能性食料開発学に関連した学問分野における専門的知識と技術、特に国際的な学問研究を推進するための基礎的能力を修得している
科目・題目名	科目コード	修得時期											
機能性食料開発学専攻													
機能性食料	機能性食料育種学特論	A0401	1年通年		○						○	○	○
	機能性食料育種学特別演習Ⅰ	A0402	1年通年			○					○	○	○
	機能性食料育種学特別演習Ⅱ	A0404	2年通年								○	○	○
	機能性食料育種学特別実験実習	A0411	1年通年				○				○	○	○
食料機能	食料機能解析学特論	A0421	1年前期	○							○	○	○
	食料機能解析学特別演習Ⅰ	A0422	1年通年			○					○	○	○
	食料機能解析学特別演習Ⅱ	A0423	2年通年			○					○	○	○
	食料機能解析学特別実験実習	A0431	1年通年				○				○	○	○
食料機能開発学	食料機能開発学特論	A0442	1年後期	○		○					○	○	○
	食料機能開発学特別演習Ⅰ	A0441	1年通年			○					○	○	○
	食料機能開発学特別演習Ⅱ	A0444	2年通年			○					○	○	○
	食料機能開発学特別実験実習	A0451	1年通年				○				○	○	○
機能性食品製法	機能性食品創製学特論Ⅰ	A0461	1年通年	○		○					○	○	○
	機能性食品創製学特論Ⅱ	A0462	1年通年	○		○					○	○	○
	機能性食品創製学特論Ⅲ	A0463	1年通年	○		○					○	○	○
専攻共通	食料機能学特論	A0481	1年前期	○		○					○	○	○
	食料分析化学特論	A0482	2年前期		○						○	○	○
	生活習慣病学特論	A0483	1年通年	○		○					○	○	○
	特別インターンシップ	A0491	1年後期				○				○	○	○
	機能性食料開発学特別演習	A0492	1年通年		○						○	○	○
特別研究	A94**	2年通年				○			○	○	○	○	

(出典：信州大学農学部ホームページ〔各専攻のサイトから抜粋〕)

② 履修プロセス概念図

各専攻の履修プロセスは、以下のとおりである。研究進捗状況に関する中間発表会開催時に副指導教員を決定し、複数教員による進捗状況評価と今後の研究の進め方についての指導を実施している（資料農院30）。なお、本研究科における複数教員による指導体制は、平成27年度に整備された。

資料農院30 履修プロセス概念図



③ 修士論文評価基準

本研究科の修士論文評価基準は、次のとおりである（資料農院31）。
評価の過程に中間審査を設定していることが特徴として挙げられる。

資料農院31 修士論文評価基準

大学院農学研究科修士論文評価基準

（平成 24 年 9 月 10 日 研究科委員会承認）

以下の基準に拠り、論文審査および口頭試問等を経て、論文審査委員会の協議によって最終的な総合評価を決定する。

1.

(a) [関連資料・参考文献] 研究主題の探求に際して利用した関連資料・参考文献について、正確な読解、的確な把握、また妥当な解釈がなされているか。あるいは客観的に正当な批判や批評が提示されているか。

(b) [実験・調査] 研究主題の探求に際して実施した実験・調査は、適切な方法に基づいて行われているか。またその分析は正確で、解釈や結果が妥当であるか。

2. [論証方法・論旨とデータ（資料）の提示方法] 問題提起から結論にいたる論証方法と論旨は、明確かつ妥当であるか。また実験データ・調査資料の提示と展開の方法は適切であるか。

3. [独創性と意義] 論証の方法や結論と成果は、当該分野の専攻研究との関連あるいは研究史に照らして十分な独創性と意義を有するか。

4. [表現的的確性と表現力] 日本語もしくは使用外国語について、語句や文章表現は的確で、かつ表現力に優れているか。

5. [論文の体裁と完成度] 本文、章立て、注記、参考書目あるいは図表等、部分的かつ全体の構成において、論文としての体裁が整っており、その完成度は高いか。

6. [総合的評価] 総合的に評価して修士論文に値するか。

（但し書き）

1) 項目1の (a) と (b) の評価基準は、いずれか一方、もしくは両方を採択しうることを示す。

2) 参考図書・論文・史料・統計資料・辞書・地図・インターネット資料その他、参照する全ての資料・図版等については、「関連資料・参考文献」と表記した。

3) 実験、実地調査、聞き込み調査、情報・資料提供者（インフォーマント）との面談等、実施する全ての研究作業については、「実験・調査」と表記した。

4) 前項の「実験・調査」によって収集され、分析の対象となるもの全てについては、「実験データ・調査資料」と表記した。

（出典：農学部作成）

2 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

① 専攻横断型の授業科目

農学に関し広い視野を持つ高度技術者や研究者を養成するため、本研究科では、大学院共通教育科目として、「食と緑の科学特論」を開講し、方法論にとらわれず、また、海外事

情も含めた授業を開講し、グローバル化に対応する教科の一つとして位置付けている（資料農院32）。

資料農院 32 平成 27 年度大学院共通教育科目一覧

開講研究科	科目名	時期	単位	開講キャンパス	備考
農学研究科	食と緑の科学特論	前期	2	伊那キャンパス	

（出典：学務課大学院室作成）

② 教育関係共同利用拠点認定によるフィールド教育の充実

AFCの野辺山農場と演習林は、それぞれ平成25年度、平成26年度に文部科学大臣から「教育関係共同利用拠点」として認定された（資料農院33、34）。

資料農院33 AFCの野辺山農場と演習林

野辺山農場では、「中部高冷地域における農業教育共同利用拠点」として、高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育を進め、基礎力、応用力を養成する共学型、既設型、注文型のプログラムや、オープンフィールド教育を展開しながら複数の演習、実習、体験ゼミ等を実施している。

演習林では、「南信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点」として、西駒、野辺山、手良沢山、構内の4つのステーションにおいて、共学型、注文型の「自然の成り立ち」から「山の生業」までを学ぶ複数のプログラムを体験することで多様なフィールド科学を習得し、自然、山、環境の理解を深め、豊かな人間性を構築する総合的教育を提供している。

教育関係共同利用拠点に認定

野辺山農場が平成25年度に「中部高冷地域における農業教育共同利用拠点」に認定されました。野辺山農場は、八ヶ岳山麓の標高1350mに位置し、日本でも有数の高原野菜地帯であり、首都圏から短時間で訪れることができる高冷地農業地帯です。約60名が宿泊可能な宿泊施設を有し、夏季に実施する4つの演習では、高冷地の自然環境と農業生産の現状を知り、「食－農－自然環境」の関係を理解し、農業生産技術を習得します。また、他大学が実施する実習や研究に対する支援、協力として圃場および教育・実験施設を提供します。



（出典：農学部デジタルパンフレット）

AFCの教育関係共同利用拠点認定によるフィールド教育の充実

【拠点名称】中部高冷地域における農業教育共同利用拠点-高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育-

野辺山農場は、日本でも有数の高原野菜地帯である八ヶ岳山麓の野辺山高原に位置しており、中部高冷地域農業のフィールド教育の共同利用拠点である。AFCが開講する演習に他大学の学生が参加する「共学」型プログラム、他大学の学生を主対象とする「既設」型プログラム、他大学の教員、学生の注文に応じる「注文」型プログラムの演習及びオープンフィールド演習を提供している。豊かで多様な自然環境・生産環境を利用した実践的な演習は、高い教育効果が期待される。



肉用牛



野辺山農場



キャベツの収穫実習

【拠点名称】南信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点

西駒、野辺山、手良沢山及び農学部構内の4ステーション(ST)から構成される演習林は、南信州を舞台に、「自然の成り立ち」から「山の生業」までを学ぶ共同利用拠点として、大学教育を通じ、林業の発展と環境保全の調和を目的とした循環型社会の構築を目指す。多様なフィールド科学の習得とともに、自然、山、環境の理解を深め、豊かな人間性を構築する総合的な教育効果が期待される。

特徴ある演習林

AFCは、日本の森林を持徴づける3タイプの演習林を有し、豊富な教育研究実績を持つ。



(出典：農学部作成)

資料農院34 教育関係共同利用拠点のプログラムと利用実績

【拠点名称】

中部高冷地域における農業教育共同利用拠点-高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育-

○プログラム及び概要 (平成26年度)

プログラム(課題)名	概要
1 高冷地植物生産生態学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する高冷地野菜、栽培作物の栽培管理、収穫、乳用牛管理、農産物加工(ソバ等)、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
2 高冷地動物生産生態学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する高冷地野菜の収穫、乳用牛、肉用牛管理、農産物加工(ソバ等)、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
3 高冷地生物生産生態学演習	信州大学農学部が他大学の学生を中心に(自学部学生も含む)に、開講する高冷地野菜、栽培作物の栽培管理、収穫、乳用牛管理、農産物加工(ソバ等)、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
4 高冷地応用フィールド演習	キャベツを教材として、圃場の準備、播種、定植から収穫、出荷までの一連の作業を通じて生産技術の習得を目的に、複数回の宿泊実習形式で行う。また、講義や近隣施設の見学を適時行いながら、連作障害への対応、6次産業化をめざした安定生産技術を習得し、高原野菜の生産や流通システムについて理解を深める。

信州大学大学院農学研究科 分析項目 I

5	就農基礎研修	東京農業大学が農業就労研修会を同大学の学生を対象に実施する。具体的には高冷地農業、高冷地野菜（キャベツ）栽培に関する座学、野辺山農場近隣の農家の圃場見学、キャベツの収穫、出荷体験、野菜集荷場の見学と一貫した課程を体験させる。
6	農業体験研修	東京農業大学が同大学の学生を対象に、キャベツ栽培に関する座学、キャベツの収穫、出荷体験、集荷場見学と一貫した生産、栽培管理に関する研修を実施する。
7	ピアメンターキャンプ	高等教育コンソーシアム信州が加盟大学を対象に3泊4日の合宿演習を開講。高冷地の農業、野菜生産管理、収穫野菜の調理実習を実施することで、看護学、人文学、理工学ほか非農学系20名の学生に信州の高冷地農業を体験、習得させる。
8	野生生物生態調査演習	麻布大学が生物生態学調査演習の一環として、野辺山農場、八ヶ岳山麓の野生生物（小動物）の生態、行動調査を目的に1泊～6泊の合宿演習を複数回実施する。
9	生態調査演習	麻布大学の生態学の調査演習の一環として、野辺山農場、および八ヶ岳山麓の野生生物（小動物）の生態、行動調査を目的に2泊～6泊の複数回の調査演習を実施する。
10	高齢者医療研究会	佐久大学の教員と首都圏の医療系教員、学生が野辺山農場に宿泊しながら、無医村地域における医療の役割、特に高齢者医療に関する調査、研究を進める。
11	農業体験研修	佐久大学看護学部の学生と教員が農業体験としてキャベツの収穫、自分で収穫した野菜の調理を通じ、農業と食料、生産から流通、加工を学習する。
12	高冷地農家実践演習	他大学の学生を対象に、高冷地農業、野辺山の農業、高冷地野菜に関する基礎的知見を習得後、周辺の農家における高冷地野菜等の実践的演習を行い、栽培から収穫、流通まで、実践技術を習得する。
13	地域調査実習	農学部の3年生を対象に地域での地域調査の方法、土地利用のとりえ方等の習得を目的に開講している。その一部を、野辺山農場を利用して高冷地農業における農村地域を対象に土地利用調査を実施し、その分析方法等を習得させる。
14	牧場体験ゼミ	農学部の1年生を対象に高冷地の農業、環境に関する理解を目標に2泊3日で実施する。農作業体験、家畜の飼育管理、生態と行動観察、食品加工などの実習の講演および近隣の農業関連施設の見学を通して「食」に関する理解を深めさせる。
15	卒業研究、修士等研究	農学部、他学部および他大学の学生、大学院生と指導教員が「オープンフィールド」を利用して、1年間を通じて長期間、複数回の調査、演習を進めることで卒業研究、修士論文研究の一部を進める。
16	高冷地農業研修	長野県内の農業者、関係者等が野辺山農場および周辺で展開する高冷地農業、特に高冷地野菜の栽培、管理から流通、販売を視察、見学する研修会により高冷地における6次産業化農業を学習する。

○利用実績

区 分	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	所 属 機関数	利用 人数	延べ 人数	所 属 機関数	利用 人数	延べ 人数	所 属 機関数	利用 人数	延べ 人数
学内（法人内）	8	286	675	9	135	714	6	456	1,140
国立大学	0	0	0	3	26	30	6	30	80
公立大学	1	10	32	1	3	9	1	6	14
私立大学	7	126	317	8	155	398	9	108	232
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間・独立行政法人等	4	55	5	2	9	9	4	75	124
外国の研究機関	1	1	19	2	4	8	3	16	90
（うち大学院生）	2	2	20	2	3	9	3	21	72
計	21	478	1,100	25	332	1,168	29	691	1,680

【拠点名称】

南信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点

○プログラム及び概要（平成26年度）

プログラム（課題）名		概要
1	山岳環境保全学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する西駒演習林内の野生生物（動物、植物）の調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
2	アルプス登山学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する西駒演習林内での登山技術、山岳気象、温暖化の影響等の調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
3	冬のフィールド管理学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する演習林内での冬山管理、冬山の生物の生態調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
4	生態学演習	連携協定を締結している慶應義塾大学学生が野辺山、講内、手良沢山演習林において、信州大学農学部の学生と共に、南信州の自然、山の生業に関する講義、間伐施業、森林調査、および木材加工作業を体験する。
5	森林生態学演習	京都大学徳地直子教授が手良沢山演習林において、同大学学生に対して里山人工林の管理に関する実習を行う。
6	植生ゼミ	筑波大学清野准教授が西駒演習林において、同大学学生に対して亜高山帯の自然の成り立ちに関する実習を行う。
7	森林風致計画学	長野県林業大学校の教員3名、学生20名が、講内演習林において森林風致計画学の一部を開講し、風致間伐予定地の調査を実施する。
8	新入生課外実習	信州大学経済学部の1年生を対象に、新入生ゼミナールI課外実習の一環として、講内演習林において二次林の自然観察と森林のバイオマス調査を実施する。経済学部の教員6名、1年生120名を複数班に分かれ、異なる観察、調査を通じて自然の成り立ちと森林における生業を習得する。
9	自然史実習	信州大学理学部が西駒演習林において植物、昆虫等の自然観察に関する実習を行う。
10	コロキウム	信州大学理学部が手良沢山演習林において、化学に関するゼミを行う。
11	松枯防除実践講座	日本緑化センターが林野庁、長野県、南箕輪村等の自治体、全国、長野県の各森林組合等の後援を受け、森林関連団体等に所属する森林（松）管理者を対象に、松枯防除技術の習得を目標に、講義と演習を行う。
12	卒業研究、修士等研究	農学部、他学部および他大学の学生、大学院生と指導教員が4ステーションのフィールドを「オープンフィールド」として利用し、長期間、複数回の調査、演習を進めることで卒業研究、修士論文研究の一部を進める。

○利用実績

区分	平成26年度			平成27年度		
	所属機関数	利用人数	延べ人数	所属機関数	利用人数	延べ人数
学内（法人内）	8	722	3,027	5	518	3,361
国立大学	6	21	79	13	89	239
公立大学	1	23	23	2	32	38
私立大学	2	17	58	3	32	52
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0
民間・独立行政法人等	5	289	585	5	123	303
外国の研究機関	0	0	0	0	0	0
（うち大学院生）	8	11	120	5	67	120
計	22	1,072	3,772	28	794	3,993

（出典：農学部作成）

なお、AFC 手良沢山ステーション及び西駒ステーション・桂小場試験地は、平成 28 年 2 月 26 日に（一社）緑の循環認証会議（SGEC）の認証規格による森林認証を取得した（資料農院 35）。

資料農院 35 森林管理認証の取得



認証番号 JAFTA-054

認証書付属書

認証森林の構成は、次のとおりである。

名称（所在市町村）	面積（ha）
手良沢山ステーション演習林	227.90
西駒ステーション演習林・桂小場試験地	251.84
合計	479.74

JAFTA 2016-D201 様式 41 認証書 (2016年1月1日改定)

〔説明〕

森林認証は、森林が持続可能な方法で適切に管理されていることを第三者機関が評価・認証する制度であり、SGEC認証規格による本学部・研究科の森林認証取得は、宇都宮大学農学部附属演習林に次ぎ国立大学の中では2番目である。

（出典：農学部作成）

③ 安全への配慮

本研究科では、実験・実習の安全対策として毎年度4月に、留学生を含む2年次生、編入学生及び大学院の学生を対象とする安全講習会を、独自に作成している「安全の手引き」を用い実施している。これによりラボワーク、更にはフィールドワークにおける安全の確保を図っている（資料農院36）。

<h1 style="font-size: 2em; margin: 0;">安全の手引</h1>  <p style="font-weight: bold; margin: 10px 0;">信州大学農学部・農学研究科</p> <p style="font-size: 0.8em; margin: 0;">平成27年3月</p>	<p style="text-align: center; font-size: 0.8em;">信州大学農学部実験・実習安全の手引き目次</p> <p>I. 共通事項</p> <p>第1節 はじめに 1</p> <p>第2節 防災対策マニュアル 2</p> <p>第3節 学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究災害傷害保険付帯特約責任保険への加入 6</p> <p>第4節 交通事故の防止 8</p> <p>第5節 国立大学法人信州大学安全衛生基本方針 9</p> <p>II. 化学系実験を行うにあたって</p> <p>A. 化学物質</p> <p>第1節 はじめに 11</p> <p>第2節 危険な物質の取り扱い 12</p> <p>第3節 事故への対応(応急処置) 17</p> <p>第4節 化学物質の環境への影響 19</p> <p>第5節 有害物質を含有化学物質の廃棄 20</p> <p>B. 実験器具・装置</p> <p>第1節 高圧ガス 25</p> <p>第2節 オートクレーブ(滅菌用を含む) 28</p> <p>第3節 ガラス器具 30</p> <p>第4節 電気器具 34</p> <p>III. 動物実験を行うにあたって</p> <p>A. 動物の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン</p> <p>第1節 はじめに 39</p> <p>第2節 このガイドラインの目的 39</p> <p>第3節 研究従事者 39</p> <p>第4節 運用対象動物 40</p> <p>第5節 飼育設備等 40</p> <p>第6節 動物を用いた実験、実習への心構え 40</p> <p>第7節 動物実験を行う前の準備 42</p> <p>第8節 実験終了後の動物の取り扱い 43</p> <p>B-1. 犬・中霊類の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン</p> <p>第1節 はじめに 44</p> <p>第2節 実験時の取り扱い 44</p> <p>第3節 飼育管理 44</p> <p>第4節 安全性の確保 45</p> <p>第6節 実験従事者の安全確保のための注意事項 61</p> <p>VI. 放射性同位元素 (RI) を用いた実験を行うにあたって</p> <p>第1節 放射線の利用とその危険性 63</p> <p>第2節 放射線の定義 63</p> <p>第3節 放射線取扱いのための手続き 63</p> <p>VII. フィールドでの実験・実習を行うにあたって</p> <p>A. フィールド作業安全に関する共通事項</p> <p>第1節 フィールドでの実験・実習の注意 65</p> <p>第2節 農作業事故防止のポイント 72</p> <p>B. 農機フィールドにおける作業安全</p> <p>第1節 実験・実習を安全に行うために 73</p> <p>第2節 刈払機の安全な取扱いについて 73</p> <p>第3節 トラクタの安全な運転法について 76</p> <p>第4節 農機取付に伴う危険箇所の防止について 78</p> <p>第5節 農作業安全について 79</p> <p>C. 森林フィールドにおける作業安全</p> <p>第1節 野外での実習・実習・調査における一般的注意 81</p> <p>第2節 森林作業における作業安全 83</p> <p>第3節 伐木造材作業 85</p> <p>第4節 トラクタ農材作業 89</p> <p>第5節 集材機作業 91</p> <p>D. 土木材料実験室における作業安全</p> <p>第1節 実験室の管理 93</p> <p>第2節 室内の整備 94</p> <p>第3節 使用できる学生 94</p> <p>E. 木材加工における作業安全</p> <p>第1節 はじめに 94</p> <p>第2節 生じうる危険 95</p> <p>第3節 服装 95</p> <p>第4節 注意事項 95</p> <p>第5節 木工機械の分類 95</p> <p>F. 平良沢山と西駒及び野辺山ステーションの安全利用上の注意 97</p> <p>G. 野外調査の届け出 99</p>
<p>第5節 人獣共通感染症 45</p> <p>第6節 飼育状況の報告義務 46</p> <p>B-2. 実験用鳥類の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン</p> <p>第1節 一般原則 47</p> <p>第2節 実験時の取り扱い 47</p> <p>第3節 飼育管理 47</p> <p>第4節 安全性の確保 48</p> <p>第5節 人獣共通感染症 48</p> <p>第6節 飼育状況の報告義務 48</p> <p>B-3. 実験動物の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン</p> <p>第1節 はじめに 49</p> <p>第2節 実験時の取り扱い 49</p> <p>第3節 実験動物の管理 49</p> <p>第4節 安全性の確保 50</p> <p>第5節 人獣共通感染症 50</p> <p>B-4. 野生動物の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン</p> <p>第1節 一般原則 51</p> <p>第2節 野生動物の取り扱い 51</p> <p>第3節 野生動物の飼育管理 51</p> <p>第4節 研究従事者の安全性の確保 52</p> <p>第5節 野生動物の人獣共通感染症 52</p> <p>B-5. 家畜排泄物取扱いのガイドライン</p> <p>第1節 はじめに 53</p> <p>第2節 「家畜排泄物の管理の適正化および利用の促進に関する法律」とは 53</p> <p>第3節 家畜排泄物の取り扱い 53</p> <p>IV. 微生物実験を行うにあたって</p> <p>第1節 はじめに 55</p> <p>第2節 一般的注意 55</p> <p>第3節 培養する際の注意 56</p> <p>第4節 観察する際の注意 58</p> <p>V. 遺伝子組換え実験を行うにあたって</p> <p>第1節 はじめに 59</p> <p>第2節 遺伝子組換え生物および遺伝子組換え実験 59</p> <p>第3節 遺伝子組換え実験の分類 59</p> <p>第4節 拡散防止措置レベル 60</p> <p>第5節 遺伝子組換え実験の実施に必要な手続き 61</p>	<p>第6節 実験従事者の安全確保のための注意事項</p> <p>第6節 実験従事者の安全確保のための注意事項 61</p>

〔説明〕

学生は、この手引きによる安全講習会を受講し試験に合格することにより発行される修了証を交付されなければ、実験・実習等の授業を受講することはできない。

(出典：「安全の手引 農学部・農学研究科」)

④ 博士課程学位プログラム

本学では、通常の教育課程に加え、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、平成 26 年度から本研究科と総合工学系研究科（博士課程）を一貫して教育するプログラムを編成しており、同プログラムを実施するための履修コースを設けている（資料農院 37～39）。

資料農院 37 博士課程学位プログラム関連規定

○信州大学大学院学則（抜粋）
（博士課程学位プログラム）

第 27 条の 3 本大学院は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、修士課程と博士課程を一貫して教育するプログラム（以下「博士課程学位プログラム」という。）として、次の各号に掲げるプログラムを編成する。

- 一 ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラム
- 二 サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム

○信州大学大学院農学研究科規程（抜粋）
（博士課程学位プログラム）

第 2 条の 2 研究科の全ての専攻に、大学院学則第 27 条の 3 第 1 項第 2 号に定めるサステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラムを実施するために必要な履修コースを置く。

2 前項の履修コースに関し必要な事項は、別に定める。

別表（第 5 条関係）

サステイナブルフードコース		
分野	授業科目名	単位
コース共通	食料機能学総論	2
	食資源利用学総論	2
	フードビジネス総論	2
	食料生命科学総論	2

（出典：信州大学規程集）

資料農院 38 博士課程学位プログラム受講者数

プログラム名	H26 入学生	H27 入学生
サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム	2	1
サステイナブルフードコース		

（出典：経営企画課作成）

資料農院 39 博士課程学位プログラムで養成する人材像と習得知識・能力

養成する人材像

本学位プログラムでは、地域資源としての「エネルギー・水・食料」の自立（律）循環型コンパクトライフラインの実現を目指して、以下に示す人材を養成します。

新しい社会インフラを想像するという高い理念と信念を持った新規産業創成リーダー

- ・エネルギー、水、食料のコンパクトライフライン要素技術や運用技術によるビジネス創成
- ・要素技術の異分野応用による新規ビジネスへの展開（モバイル分野、メディカル分野など）

コンパクトライフライン社会インフラの構築を担う地域活性化リーダー

- ・コンパクトライフライン社会インフラの社会実装に貢献する地域リーダーや行政マン
- ・エネルギー、水、食料の地産地消ビジネスによる地域活性化

持続可能な社会インフラの構築を担う新興国グローバルリーダー

- ・アジア・アフリカ諸国をはじめとする新興国で新しい社会インフラ構築に貢献
- ・テクノクラートとして新しい社会インフラ政策の立案に貢献

習得知識・能力

新しい社会インフラを創造するという高い理念

- ・世界レベルの地球環境問題、エネルギー、水、食料の世界的な課題に対する深い理解
- ・サステイナビリティの概念の理解
- ・持続可能な社会経済活動を支える社会インフラのあるべき姿の深い理解と、新しい社会インフラの建設に貢献するという強い信念

基礎と応用を俯瞰する能力（十分な基礎学力と先端分野の深い専門性、応用展開力）

- ・深い専門性とそれを支える十分な基礎学力
- ・研究の成果を応用につなげることのできる応用展開力
- ・エネルギー・水・食料の地域循環ライフラインをグローバルな視点で見ることのできる能力
- ・コンパクトライフラインにおけるエネルギー、水、食料の相互関係の理解
- ・自立（律）循環型ライフラインを複雑系システムとして捉え、資源の有効活用、省エネ、節水といった観点でシステム全体を俯瞰して見ることのできる能力

新規産業を創生する能力

- ・コンパクトライフラインの要素技術やシステム運用などの高度な研究開発力
- ・新規ビジネスを展開するためのマーケティングを始めとする技術経営（MOT）能力
- ・産学官連携、異業種連携など異分野連携を推進するリーダーシップ能力

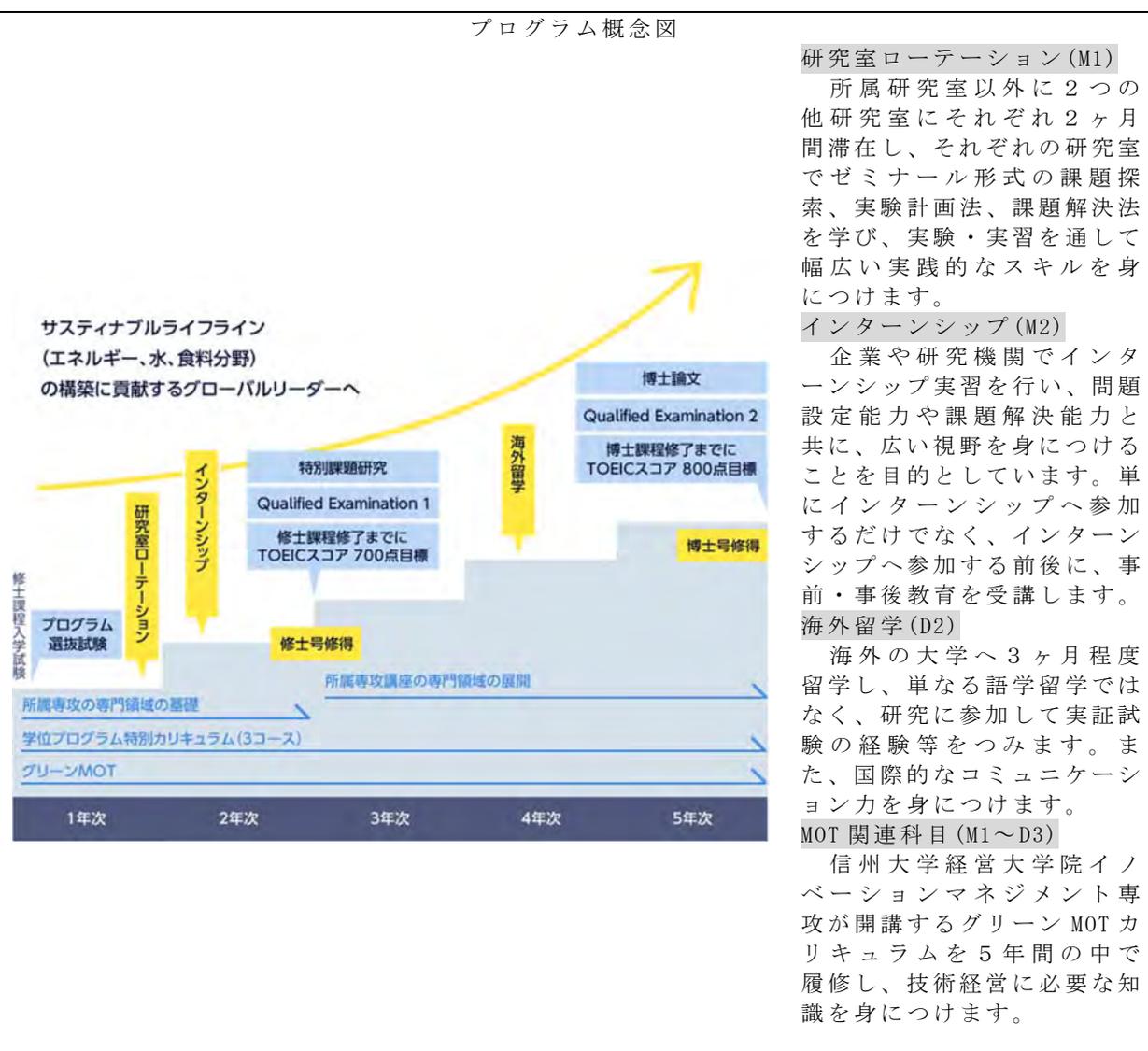
新しい社会インフラを社会実装する能力

- ・コンパクトライフラインを社会実装するための関連政策の理解、また、政策に反映できる能力
- ・コンパクトライフラインを実現することづくりやプロジェクトを推進できる能力
- ・地域に分散する資源（人、物、資金）を結び、地産地消ビジネスに展開できる能力

グローバル・リーダーとしての国際性

- ・その国の社会構造、民族性、文化や社会インフラの課題に対する深い理解
- ・国際ビジネスを展開するためのネットワーク力
- ・国際コミュニケーション力

プログラム概念図



(出典：信州大学ホームページ「サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム」)

⑤ インターンシップ関係科目

高度技術者や研究者の養成において、社会性の醸成は必要不可欠である。インターンシップ関係科目の開講状況は以下のとおりである（資料農院40）。

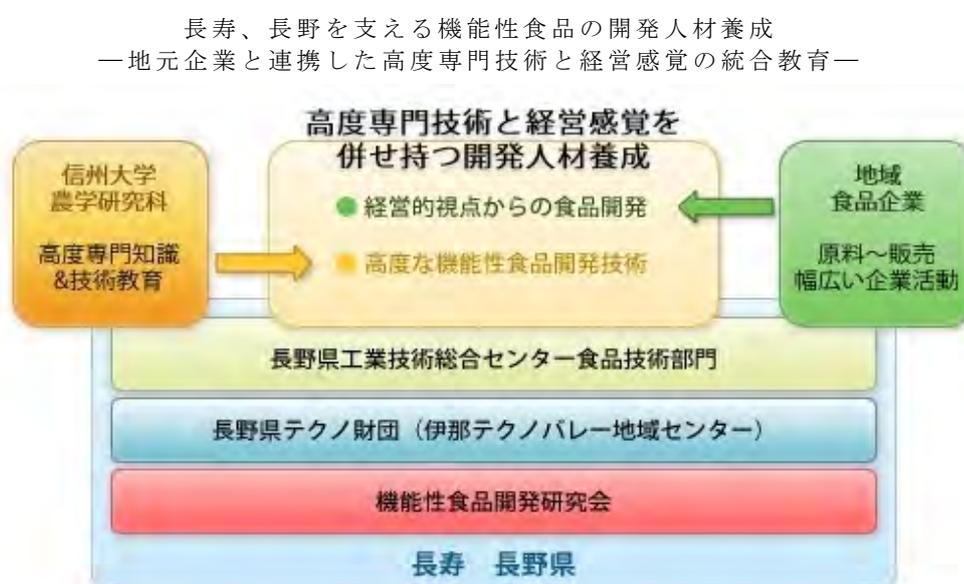
資料農院40 インターンシップ関係科目		
分野	科目名	単位
研究科共通科目	学外特別講義（長期）	2
	学外特別実習（長期）	2
専攻共通科目	特別インターンシップ（短期）	2

（出典：農学部作成）

⑥ 長寿長野を支える機能性食品の開発人材養成プログラム

平成18年度に文部科学省派遣型高度人材育成協同プランに採択された「長寿長野を支える機能性食品の開発人材育成—地元企業と連携した高度専門技術と経営感覚の総合教育—」は、平成22年度までの5年間に亘るプロジェクトとして採択されたものであるが、同期間終了後は、上記⑤のインターンシップ関係科目（資料農院40）として引き続き実施している（資料農院41）。

資料農院41 長寿長野を支える機能性食品の開発人材養成プログラム



（出典：信州大学農学部ホームページ「教育・研究プロジェクト」）

インターンシップ 受入企業・機関名	年度					
	H21	H22	H23	H24	H25	H26
伊那食品工業（株）		1		1		
養命酒製造（株）	1	1				
（株）サラダコスモ	1	1				
（株）井筒ワイン	1					
旭松食品（株）	1					
（社）長野県農村工業研究所	2	1				
（株）八幡屋磯五郎	1	1		1		
内堀醸造（株）	1	1	1			
（株）イナリサーチ	1					
日本原子力研究開発機構				1		
雪印種苗					1	
農林水産省動物検疫所					1	
上越市水族博物館					1	
長野県野菜花き試験場						1
（独）農業・食品産業技術総合研究 機構北海道農業研究センター						1
計	9	7	1	3	3	2

（出典：農学部作成）

⑦ 大学院人材育成センター

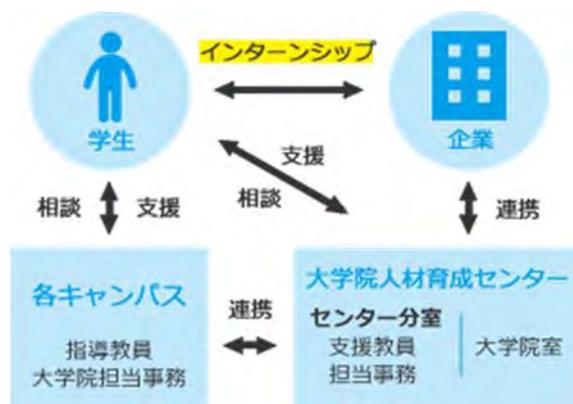
本学は、平成 26 年度から理工学系研究科、農学研究科、総合工学系研究科の学生のインターンシップを支援する大学院人材育成センターを設置し、キャリアパスインターンシッププログラムと高度人材育成インターンシッププログラムにより、学生の目的に応じた支援を行っている（資料農院 42、43）。

資料農院 42 大学院人材育成センターの概要

「大学院人材育成センター」では、大学院で学んだ研究成果を実用化につなげるべく、インターンシップを通じた人材育成をサポートしています。インターンシップを成功させるためには、事前教育や企業との綿密なコミュニケーションが欠かせません。当センターは、協力企業や各キャンパスの指導教員と連携し、学生との間に立って「調整役」をつとめていきます。また、「キャリアパスインターンシッププログラム」「高度人材育成インターンシッププログラム」の2通りを用意し、個々の目的に応じた機会創出をめざしています。

大学院人材育成センターのサポート体制

1. 博士課程学生及び修士課程学生のキャリアパス支援
 - 対象：博士課程 2 年次生、修士課程 1 年次生
 - 事前教育、マッチング会、企業へのインターンシップを通じたキャリアパス支援
 - 必要に応じて単位取得可能
2. 修士課程学生の長期インターンシップ支援（単位修得）
 - 対象：修士課程 1 年次生、一部修士課程 2 年次生（学位プログラムコース学生）
 - 学外特別講義（長期）2 単位（事前教育、事後教育、成果発表会）
 - 学外特別実習（長期）2 単位（企業実習 90 時間以上）
3. 学生のインターンシップに係る相談
 - 対象：修士課程学生、博士課程学生
 - 実習前講義の配信
 - 相談・届出窓口
 - 保険加入等の学生への指導 他
4. その他
 - インターンシップ先企業の開拓及びアフターケア
 - インターンシップを実施する学生の把握
 - 指導教員等の調整
 - 単位認定のための資料等提供



（出典：信州大学ホームページ「大学院人材育成センターとは」）

資料農院 43 大学院人材育成センターによるインターンシップ実施状況

研究科名	キャリアパスインターンシップ		高度人材育成インターンシップ	
	H26	H27	H26	H27
農学研究科	5	5	0	2

（出典：農学部作成）

3 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

① 国外の大学との国際交流協定

本学における国外の大学との国際交流協定締結状況は、以下のとおりである。なお、本研究科においても予めから海外の大学等との学部間交流協定を積極的に締結しており、近年では、平成 22 年度にチッタゴン大学（バングラデシュ）、平成 26 年度にマルファ村（ネパール）、平成 27 年度にモンゴル国立大学工・応用科学部（モンゴル）との交流協定を締結している（資料農院 44）。

ポストゲノム（未知の遺伝子の解析や、それらから生成されるタンパク質の研究等の総称）の時代にふさわしい農学系「理工系グローバル人材」を育成するため、協定大学等の交流促進を図っており、平成 26 年度には、メイファーラン大学（タイ）との間で研究者交流を実施し、平成 27 年度には、これを基盤として学生の交流を実施した（資料農院 45）。

信州大学大学院農学研究科 分析項目 I

また、教育・研究の更なる国際化を推進するため、国際農学教育研究センター（資料農院 46）を平成 26 年 6 月に設置し、国際交流センターとの連携を強化した。

これにより、メイファーラン大学（タイ）と本研究科では、学部間交流協定に基づくダブルディグリー協定を平成 28 年 2 月 29 日付けで締結し、同大学との交流をより強固な形にした。

資料農院 44 国際交流協定一覧（平成 28 年 3 月現在）

大 学 間 交 流	アメリカ校	ユタ大学、オクラホマ州立大学、南オレゴン大学、カリフォルニア州立大学チコ
	メキシコ	CINVESTAV 大学院大学
	ブラジル	パラナ連邦工科大学
	オーストラリア	カーティン大学、オーストラリア南極研究所
	フィンランド	国立フィンランド測地研究所
	フランス	ラ・ロッシュェル大学、フランス国立繊維工芸工業高等学院、リール第一大学、フランス国立情報学自動制御研究所 (INRIA)
	ドイツ	ライプツィヒ大学、マンハイム大学
	ベルギー	カトリック大学ルーヴァン
	オランダ	ゾイド大学
	イタリア	ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学
	スペイン	アルカラ大学カルデナル・シスネロスカレッジ
	ポーランド	ピアリストク大学、ピアリストク工科大学、シレジア工科大学、ワルシャワ大
	ロシア	ヴィートゥス・バーリング名称カムチャツカ国立大学、極東連邦大学
	モロッコ	モハメド五世大学アグダル校
	モンゴル	モンゴル科学技術大学
	中国	同済大学、河北農業大学、蘭州大学、河北医科大学、蘇州大学、東華大学、中国地質大 学、北京工業大学、太原理工大学、浙江理工大学、北京外国語大学、天津工業大学、北京化 工大学、山東大学、西南大学、河南農業大学、重慶師範大学、對外經濟貿易大学
	台湾	輔仁大学
	韓国	江原大学校、尚志大学校、光云大学校、韓国カトリック大学校、崇實大学校、順天大学 校、建国大学校、嶺南大学校、檀国大学校、漢陽大学校、忠南大学校、全南国立大学アラン マクジアミドエネルギー研究所
	タイ	チェンマイ大学、カセサート大学、チュラロンコン大学、ナレースワン大学、サイア ム大学
	インド	インド工科大学マドラス校
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ-工業技術大学、ハノイ工科大学、FPT 大学、ダラット大 学	
マレーシア	UPM (マレーシアプトラ大学)、マラヤ大学	
インドネシア	プリタハラパン大学、ウダヤナ大学、アンダラス大学、ボゴール農科大学	
ミャンマー	ヤンゴン工科大学	
学 部 間 交 流	中国	北京林業大学、中国農業大学、中国浙江省農業科学院
	韓国	ソウル大学校農業生命科学大学、世宗大学校生命科学大学
	モンゴル	モンゴル国立農業大学、モンゴル国立大学工・応用科学部
	タイ	コンケン大学農学部、メイファーラン大学農産業学部、スラナリ工科大学農業技術学 部
	バングラデシュ	バングラデシュ農業大学、チッタゴン大学環境科学研究所
	ネパール	ネパール農業研究評議会、ネパール国ムスタン郡マルファ村
	【4 機関協力協定】	①長野県林務部-②オーストラリア連邦森林・自然災害・景観研究研修 センター-農学部
※ 農 学 部	【3 機関協力協定】	①中国・大連大学生命科学与技術学院-②中国・大連大学現代農業研 究院-農学部

(出典：経営企画課作成)

資料農院45 学部間交流の状況

機関名称	国名	学生交流実績	研究者交流実績
バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	H27：受入4	H27：受入1
モンゴル国立農業大学	モンゴル	H25：受入1	
ネパール農業研究評議会	ネパール	H25：派遣10 H26：派遣10 H27：派遣5	H25：派遣2 H26：派遣2 H27：派遣2
ソウル大学校農業生命科学大学	韓国	H27：派遣1	H26：派遣5 H27：受入5、派遣2
メイファーラン大学農産業学部	タイ	H26：派遣3 H27：受入6、派遣8	H26：受入5、派遣4 H27：受入2、派遣3
世宗大学校生命科学大学食品科学工学科	韓国	H27：受入1	H26：派遣5 H27：受入1
スラナリ工科大学農業技術学部	タイ	H27：受入4	H27：受入5
ネパール国ムスタン郡マルファ村	ネパール	H25：派遣10 H26：派遣10 H27：派遣5	H25：派遣2 H26：派遣2 H27：受入1、派遣2
ジャンビ大学畜産学部	インドネシア	H26：受入3 H27：受入4	H26：受入3 H27：受入6
カンボジア王立農業大学	カンボジア	H27：派遣3	H27：派遣4

(出典：農学部作成)

資料農院46 信州大学農学部国際農学教育研究センターの内規等

〔信州大学農学部国際農学教育研究センター内規（抜粋）〕

(目的)

第1条 信州大学農学部（以下「本学部」という。）に本学部の国際農学教育研究及び国際交流を戦略的に計画し、これらに必要な事項を迅速かつ円滑に処理するため、国際農学教育研究センター（以下「センター」という。）を置く。

(職務)

第2条 センターは、国際農学教育研究及び国際交流の推進に係る次の業務を担当する。

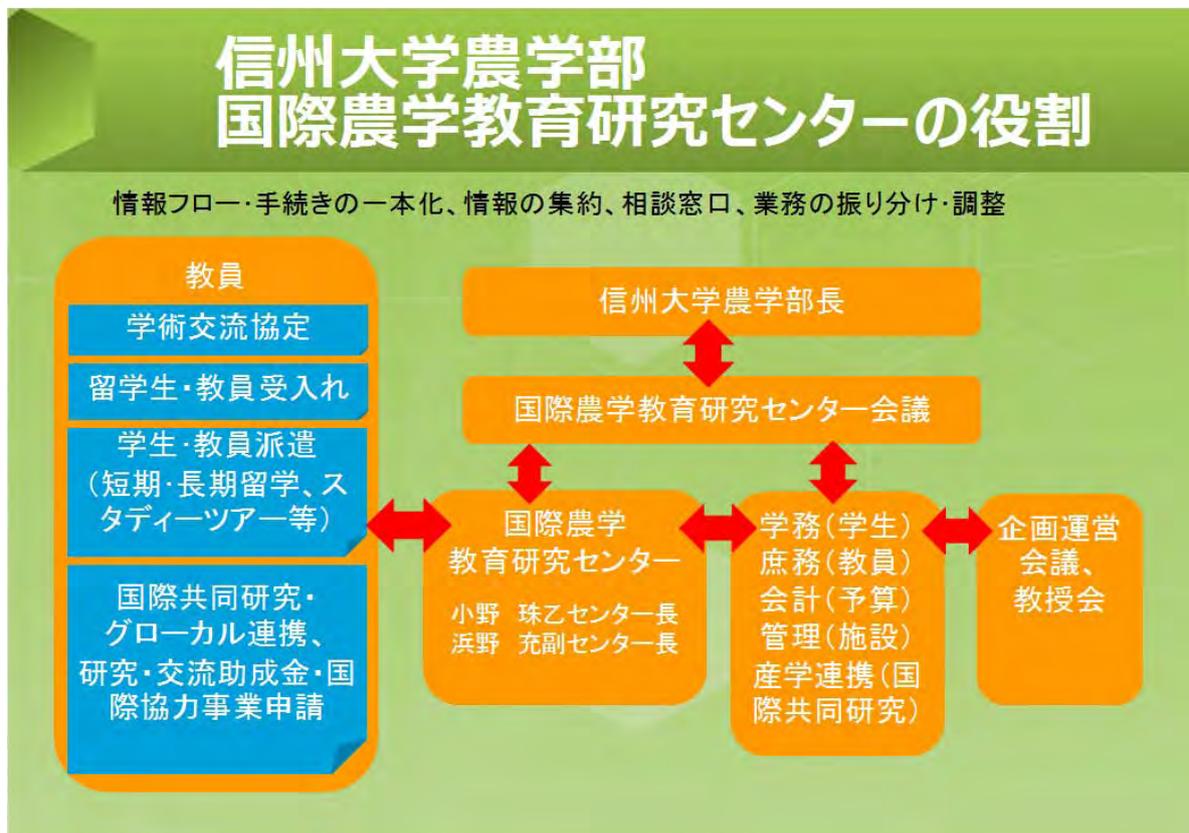
- 一 学術交流協定等の締結に関すること。
- 二 外部資金の獲得に関すること。
- 三 将来計画の策定及び点検に関すること。
- 四 情報の収集及び発信に関すること。
- 五 学生及び教職員に対する国際農学教育研究及び国際交流の啓発に関すること。
- 六 その他国際農学教育研究及び国際交流の推進に関し必要な事項。

(組織)

第3条 センターは、次の各号に掲げるセンター員をもって組織する。

- 一 教育担当の副学部長
- 二 農学部を担当する専任の教員
- 三 学部長が指名した者
- 四 国際交流担当の事務部職員

[概要]



(出典：農学部作成)

② 国際的視野での授業

国際的視野での授業科目として、以下の授業科目を開講している（資料農院47）。

学術交流協定に基づき、留学先で単位を修得した授業科目について、本研究科のいずれかの科目に適用し、10単位を超えない範囲で修了に必要な単位に算入できることとしている（資料農院48）。

資料農院47 国際的視野での開講科目

分野	授業科目名	単位
研究科共通科目	国際農学特論Ⅰ	2
	国際農学特論Ⅱ	2
	国際農学特論Ⅲ	2
	国際農学特論Ⅳ	2
	国際農学特論Ⅴ	2
	国際農学特別演習Ⅰ	2
	国際農学特別演習Ⅱ	2
	国際農学特別実習Ⅰ	2
	国際農学特別実習Ⅱ	2

（出典：農学部作成）

資料農院48 外国の大学院等の授業科目の履修

○信州大学大学院学則（抜粋）

（他の大学院等における授業科目の履修）

第35条 研究科（法曹法務研究科を除く。以下この条において同じ。）において教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生が当該大学院の授業科目を履修することを認めることができる。

2 前項の規定により他の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、10単位を超えない範囲で、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前項の規定は、研究科において教育上有益と認めるときは、第48条第1項に規定する休学により学生が外国の大学院（これに相当する教育研究機関を含む。以下「外国の大学院等」という。）において履修した授業科目について修得した単位について準用する。

4 第2項の規定は、研究科において教育上有益と認めるときは、学生が外国の大学院等が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合、学生が外国の大学院等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合及び国際連合大学の教育課程における授業科目を履修する場合の授業科目について修得した単位について準用する。

5 前3項及び第52条第2項の規定により本大学院において修得したものとみなす単位数は、合わせて10単位を超えないものとする。

6 第1項の規定により他の大学院において授業科目を履修した期間は、本大学院の在学期間に算入する。

7 他の大学院及び外国の大学院等における授業科目の履修に関し必要な事項は、各研究科において定める。

○信州大学大学院農学研究科規程（抜粋）

（他の大学院及び外国の大学院等の授業科目の履修）

第9条 学生が大学院学則第35条第1項の規定に基づき、他の大学院の授業科目の履修を希望するときは、指導教員を経て研究科長に願い出て、許可を受けるものとする。

2 前条及び前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、合わせて10単位を超えない範囲で、研究科において修得したものとして取り扱う。

3 前項の規定は、学生が大学院学則第35条第3項の規定に基づき、休学により外国の大学院（これに相当する教育研究機関を含む。以下「外国の大学院等」という。）において履修した授業科目について修得した単位について準用する。

（出典：信州大学規程集）

③ 国際シンポジウム

国際シンポジウムを随時開催し、国際性の向上を図っている（資料農院49）。

資料農院49 国際シンポジウムの実施状況

月日	会議名称等	関連団体名等	主担当学科等	備考 (参加人数等)
(平成23年度)				
9月20日	ネパール農業省との学術交流協定締結記念「中山間地域の再生・持続モデル構築のための実証的研究」プロジェクト国際セミナー	ネパール農業省	農学部	約80名参加
(平成24年度)				
11月20日	信州大学農学部－浙江省農業科学院・国際交流協定締結第2回記念講演会	浙江省農業科学院	農学部	
2月27日	農学部近未来農林総合科学国際シンポジウム		近未来農林総合科学教育研究センター	
(平成26年度)				
7月10日	メイファーラン大学農産業学部長特別講演会		農学部	
1月22日	信州大学農学部－ソウル大学共同シンポジウム		ソウル大学・農学部	
1月23日	信州大学農学部－世宗大学記念シンポジウム		世宗大学・農学部	
3月11日	信州大学－ダラット大学間協定締結記念講演会		農学部	
(平成27年度)				
8月20日	フロンティアバイオテクノロジー国際シンポジウム2015		農学部・バイオメディカル研究所	約100名参加
10月9日	4カ国コンソーシアム国際シンポジウム	ジャンビ大学・パングラデシュ農業大学・スラナリ工科大学	農学部	

(参考)

平成24年度農学部近未来農林総合科学国際シンポジウム

**2013 International Symposium
on Frontier Agriscience and Technology**
- Insights into Biological Mechanisms, Resources and Availability -
Faculty of Agriculture, Shinshu University

Date: February 27, 2013
Venue: Faculty of Agriculture, Shinshu University

Program

PM1:00 Opening Remarks Souchiro Nakamura, Professor, The University Vice President & Dean

Section 1

PM1:05 Introduction Masashi Saito, Assistant Professor (Ecosystem Risk Management)

PM1:15 "Sustainable management of forests and development of bioactive plant under forest and protection study"
- Ecological survey and utilization of *Vaccinium* species
He-an Wang, Professor
Institute of Modern Agricultural Research, Dalian University, China

PM1:50 "National forest planning system and unequal forestry profitability"
Keisuke Toyama, Assistant Professor
Chiba Forest, The University of Tokyo, Japan

PM2:25 Short Break

Section 2

PM2:35 Introduction Yutaka Uyeno, Assistant Professor (Bioresource)

PM2:45 "Total mixed ration containing food by-products: Fermentation characteristics in silage and in rumen"
Chao Wang, Assistant Professor
Graduate School of Bioresources, Mie University, Japan

PM3:30 "Towards an integrated understanding of the microbial ecosystem in anaerobic wastewater treatment processes"
Takashi Narahira, Research Scientist
Department of Civil and Environmental Engineering, University of Illinois, USA, and
Bioproduction Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Japan

PM3:55 Short Break

Section 3

PM4:05 Introduction Shunsuke Suzuki, Assistant Professor (Epigenetics)

PM4:15 "Mammals as models for biomedical studies"
Marilyn H. Ramirez, Professor
Department of Zoology, The University of Melbourne, Australia

PM4:50 "Roles of LTR retrotransposon-derived genes in mammalian evolution and diversification"
Fumiochi Ishino, Professor
Department of Epigenetics, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, Japan

PM5:25-5:30 Closing Remarks Hiroshi Kagami, Professor

PM5:45-7:00 Banquet

Organizer: Hiroshi Kagami, Professor
Hosted by: Frontier Agriscience and Technology Center (FATC), Faculty of Agriculture, Shinshu University
Inquiry: Drika Usahi, General Affairs Section for Tenure Track Program TEL: +81-265-77-1329

●本シンポジウムは、「アミノ酸工学」推進事業の支援のもと開催されています。

平成26年度農学部—ソウル大学共同シンポジウム

**Seoul National University
Shinshu University
2015 Joint Symposium**



■ Date : 13:30~16:30pm (Thu) Jan. 22, 2015
■ Venue : Bldg 203 / Rm 101, Seoul National University

13:30-13:40	Opening remark Prof. Tamaso Osa (Shinshu University) Prof. Sangryeol Ryu (Seoul National University)
13:40-14:00	Prof. Cheol-Heui Yoon (Seoul National University) <i>Advanced respiratory vaccine adjuvants</i>
14:00-14:20	Prof. Shunsuke Suzuki (Shinshu University) <i>Retrotransposons: as the key for the evolution of mammalian genomic imprinting</i>
14:20-14:40	Prof. Tae Sub Park (Seoul National University) <i>Programmable genomic editing and application in Chicken</i>
14:40-15:00	Coffee Break
15:00-15:20	Prof. Sachi Tanaka (Shinshu University) <i>Activation of Type-1 immunity by the extract of dietary food</i>
15:20-15:40	Prof. Yutaka Uyeno (Shinshu University) <i>Microbiome : inherent resources for animals</i>
15:40-16:00	Prof. Jeong Yong Suh (Seoul National University) <i>Protein-Protein interaction that involves coupled unfolding and binding</i>
16:00-16:30	Closing

Department of Agricultural Biotechnology BK21+ / Institute of Animal Science and Technology

平成27年度フロンティアバイオテクノロジー国際シンポジウム

International Symposium on Frontier Biotechnology 2015 (2nd International Symposium, Institute for Biomedical Sciences)

Shinshu University (Faculty of Agriculture) has concluded Academic Agreements with Seoul National University (College of Agriculture and Life Sciences) and Sejong University (College of Life Sciences). Distinguished scientists from these Universities will talk on his/her front-line modern biotechnology opening a vista for the near future. This International Symposium is organized by International Center for Agricultural Education and Research (ICAER) and Institute for Biomedical Sciences (IBS), Interdisciplinary Cluster for Cutting Edge Research (ICCER).

August 20th (Thursday), 2015 13 : 00~17 : 00
Room 30, Faculty of Agriculture, Shinshu University & SUNS-relay to Main Conference Room, Asahi Hall 3F, Matsumoto Campus

13 : 00 Opening address: Dr. Naoto Saito (Director, IBS-ICCER)
 13 : 05 Dr. Hidefumi Makabe (Fac. Agr.)
 Synthesis of proanthocyanidins and their antitumor activity
 13 : 30 Dr. Jeong-Yong Suh (Seoul National Univ., IBS-ICCER)
 Structural mechanism of auxin-response transcriptional regulation in plant
 13 : 55 Dr. Hiroshi Kagami (Fac. Agr., IBS-ICCER)
 Stem cell applications for poultry breeding
 14 : 20 Dr. Jae Yong Han (Seoul National Univ., IBS-ICCER)
 Avian genome editing and modulation using primordial germ cells
 14 : 45 Coffee break
 15 : 10 Dr. Kousaku Ohkawa (Fac. Textile Sci. & Tech., IFES-ICCER)
 Novel silk proteins from aquatic insects and possible applications
 15 : 35 Dr. Hee-bal Kim (Seoul National Univ.)
 Evolutionary analysis for animal genome and development of genomic selection model
 16 : 00 Dr. Ikuo Tomioka (Fac. Agr., IBS-ICCER)
 Production of common marmoset (*Callithrix jacchus*) models for neurodegenerative disease using transgenic technology
 16 : 25 Dr. Soon-Mi Shim (Sejong Univ.)
 Characterization of transport mechanism of vitamin U (S-methyl-L-methionine) from cruciferous vegetables
 16 : 50 Closing address: Dr. Soichiro Nakamura (Vice President, Shinshu Univ.)
 17 : 15 Cultural/Academic exchange (Imonta on-campus Restaurant)

Host: International Center for Agricultural Education and Research (ICAER), Faculty of Agriculture, and Institute for Biomedical Sciences, Interdisciplinary Cluster for Cutting Edge Research (IBS-ICCER), Shinshu University
 More info: Email to <icaer@shinshu-u.ac.jp>
 HP: <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/institutes/icaer.php>

(出典：農学部作成)

4 社会や地域への教育提供

本研究科で実施している一般者向けの教育プログラム（講演会）は以下のとおりである（資料農院50）。

資料農院 50 一般者向け教育プログラム（講演会）の開講状況

開講年度	開講日	タイトル	担当教員
平成23年度	8月27日（土）	知って食べればさらにおいしい！果実・野菜の食品化学	藤田 智之
平成27年度	9月26日（土）	体験しよう！ノーベル化学賞「クロスカップリング反応」の実験	真壁 秀文

(出典：農学部作成)

5 学生の主体的な学習を促すための取組

① 施設・設備の充実

農学部図書館では、毎年シラバス図書（教科書・参考書）の選定・購入を行い、閲覧室の整備を継続的に進めている。さらに、講義棟及び研究棟にラウンジやコミュニティールームを設置し、学生の主体的な学習、教員と学生及び学生間のコミュニケーションを促すための環境整備を行っている（資料農院51）。

資料農院51 講義棟のラウンジ等

〔ラウンジ〕



〔コミュニティールーム〕



(出典：農学部作成)

② 学生への学会参加に伴う支援

学生の研究活動の活発化を図るため、国内外の学会参加に伴う経費を学系長経費の活用により支援している（資料農院 52）。

資料農院 52 学会参加に伴う経費支援状況（延べ人数）（農学研究科）

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
学生の 学会参加人数	53名	29名	36名	55名	58名	52名	54名
支援額（合計）	61万円	106万円	36万円	32万円	69万円	55万円	69万円

(出典：農学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ディプロマ・ポリシーに基づいた教育課程を編成し、カリキュラムマップ、論文評価基準の公表等によって、修学内容と意義、到達点を明示し、在学生、受験生、保護者、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院 29～31）。
- AFC は、教育関係共同利用拠点に認定され、学内外の教育面における交流の活発化を図るとともに、多様な自然環境条件を活かした多くの演習・実習を実施し、院生の応用力・実践力を向上させる教育を提供し、在学生、受験生、保護者、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院 33、34）。
- AFC 手良沢山ステーション及び西駒ステーション・桂小場試験地は、平成 28 年 2 月 26 日に SGEC の認証規格による森林認証を取得した（資料農院 35）。これにより一層環境面に配慮した教育・研究フィールドの管理・運営体制が整い、在学生、受験生、保護者、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている。
- 通常の教育課程に加え、優秀な学生に対し俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍できるリーダーへ導くための修士課程―博士課程―貫教育のプログラムを平成 26 年度に編成するとともに、実施のための履修コースを新設し、在学生、受験生、保護者、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院 37～39）。
- 国外の大学との国際交流協定締結を積極的に行い、さらには国際的視野での科目開講、国際シンポジウムの開催による社会の更なるグローバル化への対応を進めるとともに、学会出席等における経費支援による学生の国際的なスケールでの研究活動を促し、在学生、受験生、保護者等の、国際的視野と技術力を備えた高度専門技術者の養成という期待に応えている（資料農院 44、45、47～49、52）。
- 平成 26 年 6 月に設置した国際農学教育研究センターを中心に、学生の海外実習等の交流の活性化を推進するとともに、特にメイファーラン大学（タイ）との間において、学部間交流協定に基づくダブルディグリー協定を平成 28 年 2 月 29 日付けで締結し、在学生、受験生、保護者等の国際的視野と技術力を備えた高度専門技術者の養成という期待に応えている（資料農院 44～46）。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

① 修了、休学、退学等

本研究科の標準修了年限内の修了率は、平成21から27年度の期間において81.1～95.2%であり、平均86.3%であった。

修了、休学、退学等の状況は以下のとおりである(資料農院53)。

資料農院53 修了、休学、退学等の状況(農学研究科)

○ 修了状況

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
標準修業年限	89.9%	81.9%	81.1%	87.0%	90.6%	78.4%	95.2%

○ 休学、退学の状況

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
退学・除籍率	3.6%	7.6%	5.7%	3.9%	6.1%	6.6%	1.8%
休学率	1.5%	1.4%	2.2%	3.2%	4.9%	4.4%	2.6%
留年率	2.2%	1.4%	2.2%	2.6%	3.7%	5.2%	5.3%

(出典：農学部作成)

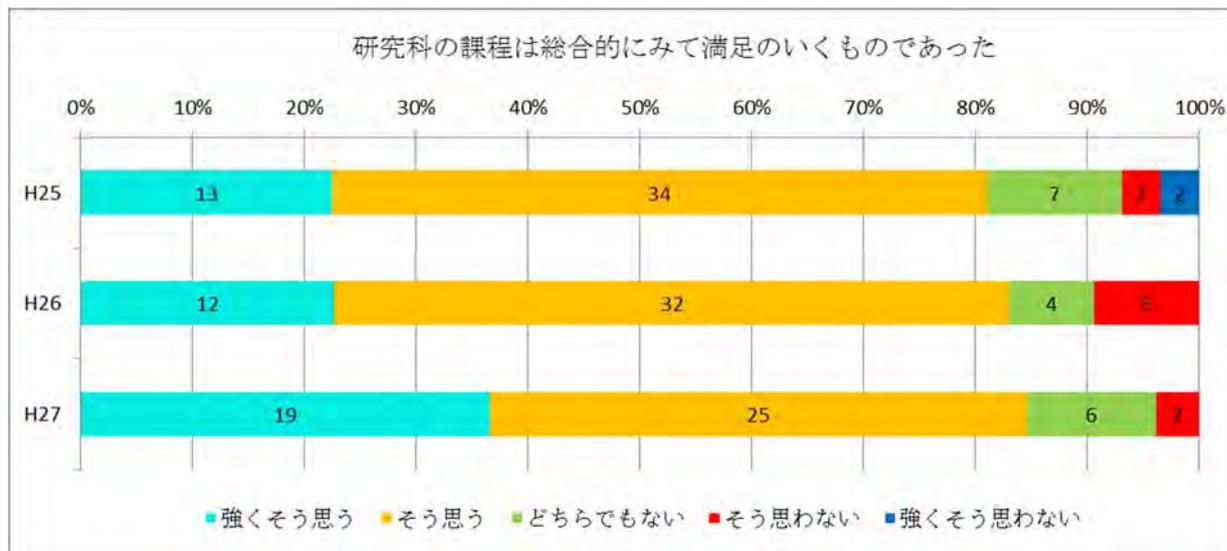
② 修了生アンケート

学務委員会が主体となり、平成25年度から修了生を対象とした「農学研究科の教育に関する調査」を修了時に実施し、授業内容を始め、教育効果や学習環境に至る項目に関する意見等を聴取している。質問項目「研究科の課程は総合的にみて満足 of いくものであった」における「強くそう思う」、「そう思う」の回答割合は、平成25年度の約81%から増加傾向にあり、平成27年度には約84%に達した。また、質問項目「専門的な知識が身につく教育がなされていた」における同様の回答割合は、平成25年度を含む3年度において78%以上を維持した(資料農院54)。

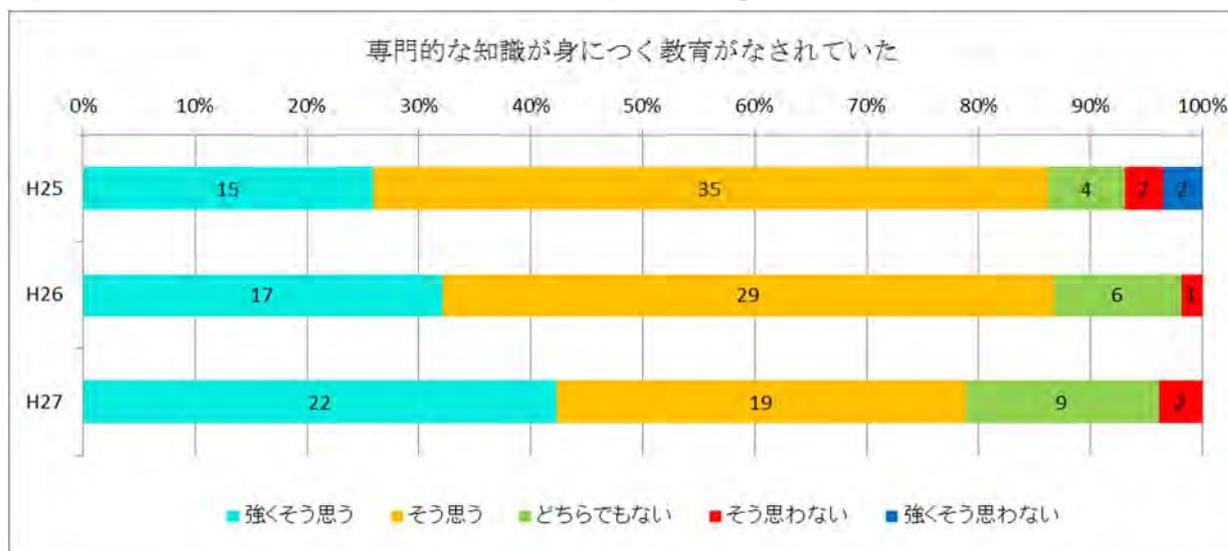
資料農院54 修了生アンケート

〔年度別質問項目比較〕

質問項目「研究科の課程は総合的にみて満足のいくものであった」



質問項目「専門的な知識が身につく教育がなされていた」



(出典：農学部作成)

2 学生の受賞状況等から判断される学習成果の状況

① 各種賞の受賞状況

本研究科の学生の主な受賞状況は以下のとおりである（資料農院55）。

資料農院 55 院生の受賞状況（農学研究科）

年度	賞の名称	受賞者	受賞等の概要
H22	日本農芸化学会中部支部企業奨励賞	1名	アンズ由来カロテノイドに期待されるアルツハイマー型認知症予防効果
	日本造園学会中部支部大会最優秀学生発表賞	1名	小学校における児童の野外活動と校庭デザインの関係性に関する基礎的考察
	第21回ヤンマー学生懸賞論文・作文コンクール大賞	1名	

H23	Protein Island Matsuyama (PIM) International Symposium 2011PIMポスターアワード	1名	Analysis of T cell epitopes of a major buckwheat allergen, Fag e 2, by using cell-free protein synthesis system
	日本造園学会支部大会最優秀学生発表賞	1名	震災時における身近なオープンスペースへの地域住民の要望と小規模公園の整備状況との関係性－新潟県中越大震災被災地、長岡市を事例地として－
	日本造園学会支部大会優秀学生発表賞	2名	長野県上伊那地方の水田地域における水生昆虫群集の構造と基盤整備との関係 長野県上伊那地方における水田雑草の指標性を利用した環境評価に関する研究
H24	日本農芸化学会中部支部企業奨励賞	1名	「Tホームページ-1由来樹状細胞を用いたアレルギー性評価法の開発」
	第24回日本環境動物昆虫学会年次大会優秀講演発表賞(口頭発表部門)	1名	「絶滅危惧種ミヤマシジミの休眠卵・非休眠卵の産み分けに関する研究」
	2012年日本造園学会中部支部大会最優秀学生発表賞	1名	「諏訪市湖畔公園の利用実態と近隣住民の意識・評価の基礎的考察」
	2012年日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞	2名	「長野県上伊那地方の新山川流域におけるトンボ群集構造と立地環境との関係」 「野辺山高原における外来植物とアサマフウロ等の絶滅危惧種群落との競合関係の可能性」
	2012 ISNFF (International Society for Nutraceuticals and Functional Foods) Conference and Exhibition Student Poster Awards	1名	「Upregulation of heat shock protein HSP70 in senescence-accelerated mice SAMP8 by long-term intake of kale」
	第20回育種学会中部地区談話会優秀発表賞	1名	「トウガラシ属近縁種・野生種と栽培種 <i>Capsicum annum</i> の交雑親和性に関する研究」
	第124回日本森林学会大会日本森林学会学生ポスター賞	1名	大型製材工場が地域の林産業にあたる影響
H25	日本森林技術協会第23回学生森林技術研究論文コンテスト日本森林技術協会理事長賞	1名	胸高直径と立木配置データを用いた根系の崩壊防止力二次元分布の作成
	国際応用動物学会第47回国際会議最優秀ポスター賞(コミュニケーション)	1名	Use of automatic and stationary cow brushes by dairy cows (K. Miwa and K. Takeda)
	日本造園学会平成25年度全国大会ベストペーパー賞	1名	水田景観における植物相の種分布パターンからみた景観要素の種多様性保全の検討
	日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞	1名	新興住宅地における景観育成住民協定に関する住民意識や締結地域の実態と継続の課題
	森林利用学会第20回学術研究発表会学生優秀論文発表賞	1名	択伐林経営が可能となる作業条件に関する研究－択伐林経営における最適路網密度の検討－
H26	第29回日本放線菌学会大会優秀ポスター賞	1名	放線菌の潜在的二次代謝能活性化に向けた集団培養法の考案と有効性の検証
	第29回老化促進モデルマウス(SAM)研究協議会研究発表会若手研究奨励賞	1名	老化促進マウス SAMP8 における転写因子 CREB を介した大豆ペプチドの神経栄養因子発現増強効果
	日本農芸化学会中部支部第171回例会中部支部学術奨励賞	1名	自己縮合法を用いた epicatechin 二量体の選択的合成と procyanidin C1 の合成への応用
	日本造園学会中部支部大会最優秀学生発表賞	1名	飯山市小菅集落における景観の特徴に関する研究
	日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞	1名	霧ヶ峰の山稜頂部における群落と風衝条件との関係

H27	COC 学術シンポジウム優秀発表賞	2名	長野県特有の食材による抗アルツハイマー病の効果 Effect of Additional Phosphorylation on Anti-FCV Activity of Milk-Casein Phosphopeptide (CPPⅢ)
	日本山岳アカデミア研究発表会（兼山岳科学共同学位プログラム第1回学術集会）最優秀ポスター賞	1名	高山に生育するスギの年輪構造と気候要素との関係
	第27回日本環境動物昆虫学会年次大会優秀講演発表賞	1名	絶滅危惧種ミヤマシジミのミチゲーション手法の開発
	森林利用学会第22回学術研究発表会学生優秀論文発表賞	1名	車両系作業システムによる漸伐主伐時の労働生産性

（出典：農学部作成）

② 教員免許取得状況

本研究科では、高校理科及び農業、中学理科の教員免許（専修）を修得できる教職課程を設定している。取得状況は以下のとおりである（資料農院56）。

資料農院56 教員免許取得状況

農学部	免許・資格	中学理科 取得者数	高校理科 取得者数	高校農業 取得者数
	年度			
農学部	平成22年度	0	0	0
	平成23年度	0	0	0
	平成24年度	2	3	0
	平成25年度	2	2	0
	平成26年度	0	0	0
	平成27年度	0	0	0

（出典：農学部作成）

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

- ・ 修士修了生を対象としたアンケートにおける本研究科の課程に関する総合的な満足度を問う項目において、80%以上が満足している状態を維持するとともに、「強く思う」と回答した学生の割合が増加し、在学生、受験生、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院54）。
- ・ 学生による研究成果として、学会発表での各種賞において、国際学会における3件の受賞を始め毎年度受賞者が出ており、在学生、受験生、保護者等の、国際的視野と技術力を備えた高度専門技術者の養成という期待に応えている（資料農院55）。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 進路・就職状況

① 修了生の進路状況

過去7年間における、全国の大学の農学系研究科及び本学の農学系研究科の進路状況は以下のとおりである(資料農院57)。

資料農院57 進路状況一覧

修了年度	区分	修了者	進学者		就職者		外国人の学校・専修学校・短期大学に時的な仕事	左記以外の者		死亡詳細の者		
		A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)		人(D)	率(D/A)			
H21	全体	4,078	592	14.52%	3,009	86.32%	26	17	333	8.17%	101	
	国立	3,451	526	15.24%	2,551	87.21%	20	7	254	7.36%	93	
	大学	計	62	9	14.52%	50	94.34%	2	0	1	1.61%	0
		男	48	8	16.67%	38	95.00%	2	0	0	0.00%	0
	女	14	1	7.14%	12	92.31%	0	0	1	7.14%	0	
H22	全体	4,179	566	13.54%	3,116	86.24%	20	29	403	9.64%	45	
	国立	3,446	495	14.36%	2,579	87.39%	10	15	311	9.02%	36	
	本学	計	62	4	6.45%	50	86.21%	0	0	8	12.90%	0
		男	41	2	4.88%	34	87.18%	0	0	5	12.20%	0
	女	21	2	9.52%	16	84.21%	0	0	3	14.29%	0	
H23	全体	4,444	519	11.68%	3,346	85.25%	24	33	500	11.25%	22	
	国立	3,607	448	12.42%	2,722	86.17%	16	13	387	10.73%	21	
	本学	計	62	6	9.68%	46	82.14%	0	0	10	16.13%	0
		男	48	4	8.33%	37	84.09%	0	0	7	14.58%	0
	女	14	2	14.29%	9	75.00%	0	0	3	21.43%	0	
H24	全体	4,200	486	11.57%	3,151	84.84%	15	32	483	11.50%	33	
	国立	3,405	416	12.22%	2,566	85.85%	11	11	374	10.98%	27	
	本学	計	62	3	4.84%	49	83.05%	0	0	10	16.13%	0
		男	49	3	6.12%	39	84.78%	0	0	7	14.29%	0
	女	13	0	0.00%	10	76.92%	0	0	3	23.08%	0	
H25	全体	4,086	470	11.50%	3,131	86.59%	20	22	415	10.16%	28	
	国立	3,388	421	12.43%	2,587	87.19%	13	7	334	9.86%	26	
	本学	計	79	8	10.13%	68	95.77%	0	0	3	3.80%	0
		男	47	5	10.64%	40	95.24%	0	0	2	4.26%	0
	女	32	3	9.38%	28	96.55%	0	0	1	3.13%	0	
H26	全体	3,897	453	11.62%	3,064	88.97%	10	17	300	7.70%	53	
	国立	3,276	404	12.33%	2,562	89.21%	5	11	244	7.45%	50	
	本学	計	61	6	9.84%	47	85.45%	0	0	8	13.11%	0
		男	46	4	8.70%	34	80.95%	0	0	8	17.39%	0
	女	15	2	13.33%	13	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
H27	全体											
	国立											
	本学	計	62	6	9.68%	49	87.50%	0	0	7	11.29%	0
		男	42	4	9.52%	32	84.21%	0	0	6	14.29%	0
	女	20	2	10.00%	17	94.44%	0	0	1	5.00%	0	

※ 「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、各年度>高等教育機関<報告書掲載集計>>卒業後の状況調査>大学院修士課程の状況別 卒業生数より、区分「農学」を抜粋
 なお、平成27年度「全体」「国立」については、平成28年6月末現在未公開

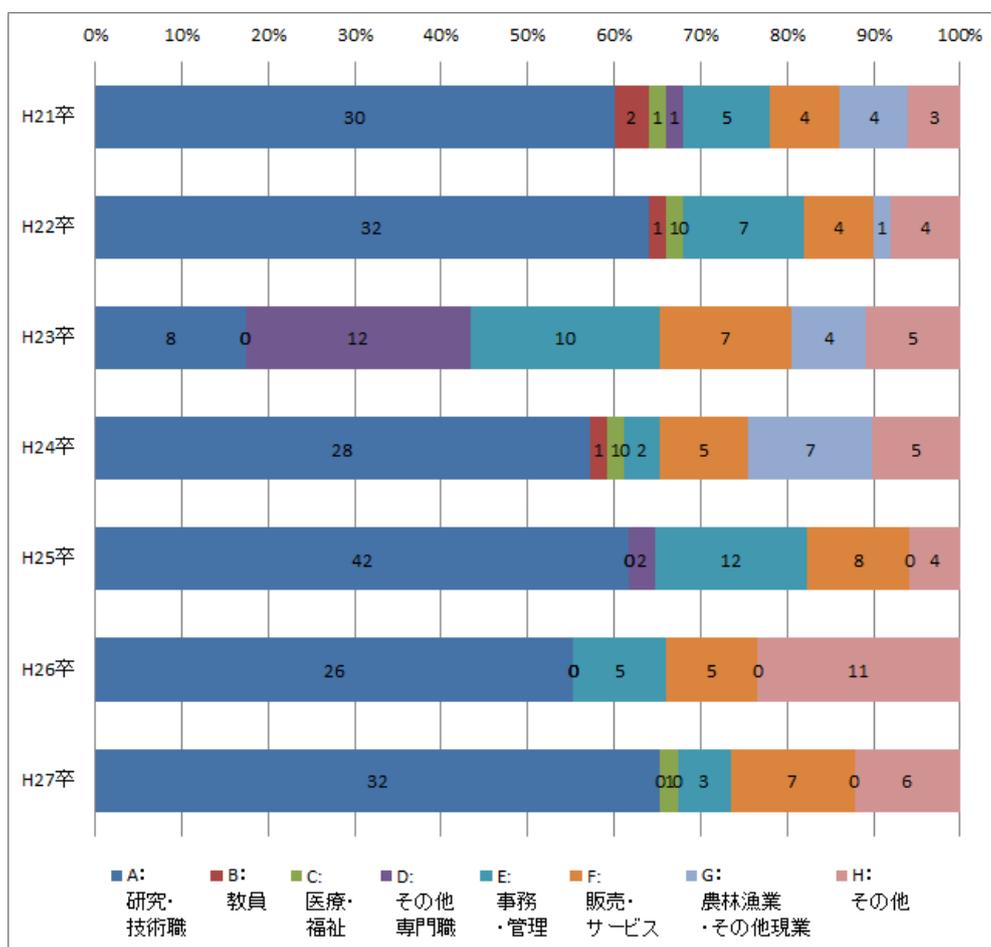
(出典：経営企画課作成)

② 修了生の職業別・産業別就職状況

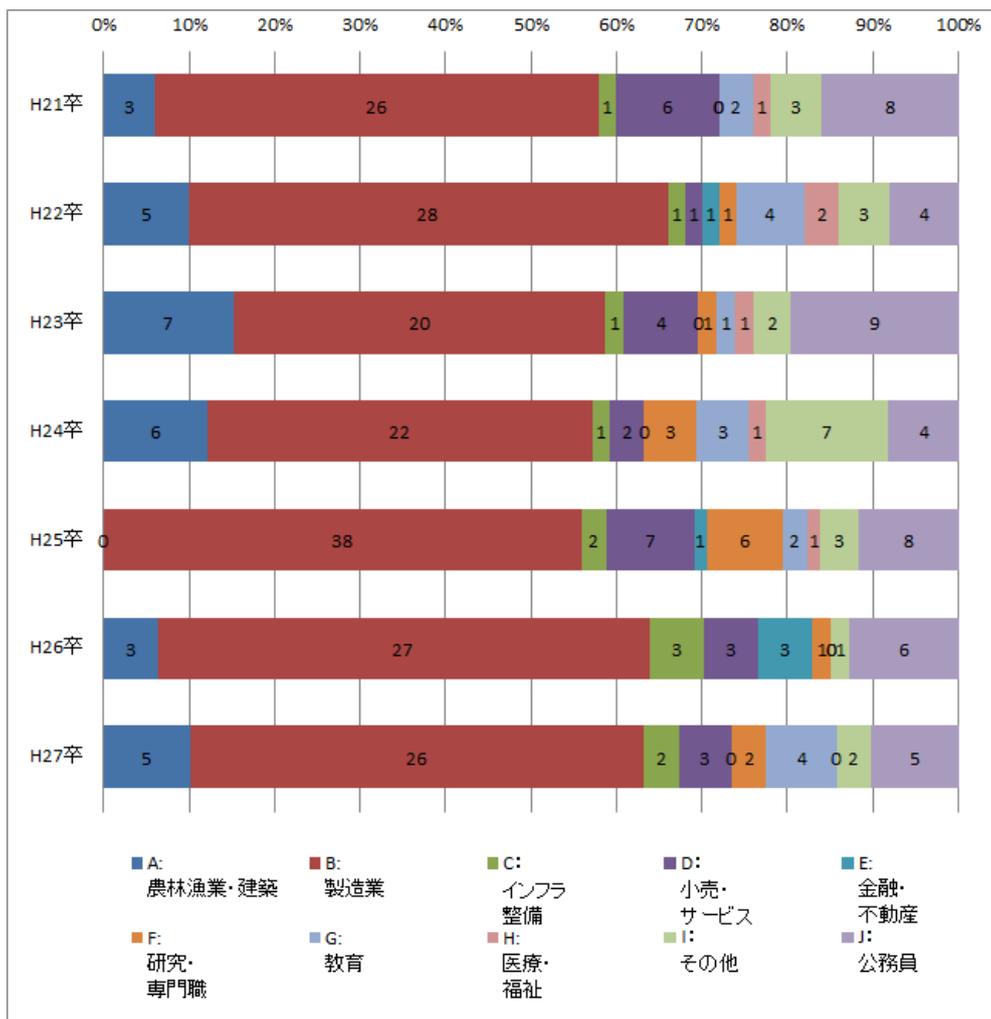
修了生の職業別・産業別就職状況は以下のとおりである（資料農院58）。

資料農院58 修了生の職業別・産業別就職状況

職業別就職者数									
	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービ ス	G: 農林漁業 ・その他 現業	H: その他	合計
H21卒	30	2	1	1	5	4	4	3	50
H22卒	32	1	1	0	7	4	1	4	50
H23卒	8	0	0	12	10	7	4	5	46
H24卒	28	1	1	0	2	5	7	5	49
H25卒	42	0	0	2	12	8	0	4	68
H26卒	26	0	0	0	5	5	0	11	47
H27卒	32	0	1	0	3	7	0	6	49



産業別就職者数											
	A: 農林漁業・建築	B: 製造業	C: インフラ整備	D: 小売・サービス	E: 金融・不動産	F: 研究・専門職	G: 教育	H: 医療・福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21卒	3	26	1	6	0	0	2	1	3	8	50
H22卒	5	28	1	1	1	1	4	2	3	4	50
H23卒	7	20	1	4	0	1	1	1	2	9	46
H24卒	6	22	1	2	0	3	3	1	7	4	49
H25卒	0	38	2	7	1	6	2	1	3	8	68
H26卒	3	27	3	3	3	1	0	0	1	6	47
H27卒	5	26	2	3	0	2	4	0	2	5	49



(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

2 就職支援の充実

インターンシップ関係科目の導入（前掲資料農院40、p34）に加え、伊那キャンパスに通う学生向けに各種就職支援活動を行っている（資料農院59、60）。

資料農院59 就職支援活動

【就職支援】

全学の就職支援組織であるキャリアサポートセンターや民間の就職支援企業の協力を得て、就職(進学)指導のための就職ガイダンスを実施しています。また、農学部独自の企業(宮公庁)説明会や合同企業説明会、就職資料室での情報提供、個別相談(週2回)等で就職活動をサポートしています。このような実践的な指導に加えて、卒業後の職業観などの形成を図る「キャリアデザイン」(主に2年生対象の講義)や企業での就業体験実習を含む「インターンシップⅡ」(主に3年生対象の講義及び実習)などの教育プログラムを通じた多面的な指導で皆さんの自己実現とキャリア形成を支援しています。



キャリア情報の宝庫 就職資料室

年間スケジュール

平成27年度卒業・修了予定者(現3年生・大学院(修士)1年生)向けガイダンスの例

☆農学部主催
◇キャリアサポートセンター主催

日 程	内 容
平成26年5月	◇第1回就職ガイダンス 就職活動スタートアップ講座
7月	☆夏休み対策講座
8月	◇ビジネスマナー講座
10月	◇第2回就職ガイダンス 実界・職種研究
11月	◇第3回就職ガイダンス 【就活を成功させるために】エントリーシート対策講座 ☆服装身だしなみ講座 ◇メイク講座
12月	◇ビジネスマナー講座
平成27年2月	☆面接対策講座 ☆合同企業説明会の事前ガイダンス
3月	☆第1回合同企業説明会(3年生・大学院1年生対象)

(出典：「大学案内2014」)

資料農院60 ガイダンス等の実施状況

【平成22年度】 回数 24回

開催日	事 項	参加者数
H22. 4. 15	自衛官募集説明会	7名
H22. 4. 15	長野県警察本部採用説明会	9名
H22. 4. 26	(株)ユニオン会社説明会	4名
H22. 4. 26	第1回農学部就職ガイダンス①	86名
H22. 4. 26	第1回農学部就職ガイダンス②	57名
H22. 5. 17	群馬県(総合土木職)採用説明会	5名
H22. 5. 21	兵庫県職員採用ガイダンス	5名
H22. 5. 3	長野県警察本部採用説明会	2名
H22. 6. 28	第2回農学部就職ガイダンス①	48名
H22. 6. 28	第2回農学部就職ガイダンス②	43名
H22. 7. 12	SEQ(自己診断)解説会	51名
H22. 10. 18	第3回農学部就職ガイダンス	44名
H22. 11. 15	長野県警業務説明会	2名
H22. 11. 15	家畜改良センター就職説明会	5名
H22. 11. 29	第4回農学部就職ガイダンス	42名
H22. 12. 6	第5回農学部就職ガイダンス(服装)	33名
H22. 12. 6	第5回農学部就職ガイダンス(メイクアップ)	22名
H22. 12. 6	長野県就農ガイダンス	3名
H22. 12. 8	山崎製パン企業ガイダンス	30名
H22. 12. 13	農学部合同企業説明会事前ガイダンス	41名
H22. 12. 13	やすま(株)研究開発センター	14名
H23. 1. 8	農学部合同企業説明会	102名
H23. 1. 17	農林水産省動物検疫所	6名
H23. 1. 19	小野薬品工業(株)製薬業界セミナー	10名

【平成23年度】 回数 36回

開催日	事 項	参加者数
H23. 4. 11	長野県警察本部採用説明会	5名
H23. 4. 11	自衛官募集説明会	7名
H23. 4. 15	山梨県(総合土木職)採用説明会	3名
H23. 4. 15	天龍造園建設(株)企業説明会	4名

H23. 5. 9	第1回就職ガイダンス(キャリア)	99名
H23. 5. 19	静岡県(林業職)説明会	4名
H23. 5. 19	群馬県(総合土木職)説明会	5名
H23. 5. 19	西垣林業(株)企業説明会	5名
H23. 5. 16	株ユニオン企業説明会	4名
H23. 5. 25	兵庫県(林業職)説明会	7名
H23. 5. 30	第1回就職ガイダンス(農学部)	101名
H23. 6. 27	第2回就職ガイダンス(キャリア)	63名
H23. 7. 13	ビジネスマナー講座(キャリア)	34名
H23. 8. 4	ライフスクール(マイナビ)	17名
H23. 10. 3	第2回就職ガイダンス(農学部)	75名
H23. 10. 17	第3回就職ガイダンス(キャリア)	87名
H23. 10. 31	第3回就職ガイダンス(農学部)	47名
H23. 11. 7	筆記試験対策講座(キャリア)	57名
H23. 11. 14	第4回就職ガイダンス(農学部)	56名
H23. 11. 14	S E Q(自己診断)解説会	57名
H23. 11. 21	身だしなみ講座	26名
H23. 11. 21	メイク講座	21名
H23. 11. 28	第4回就職ガイダンス(キャリア)	85名
H23. 12. 5	マナー・面接対策講座(キャリア)	71名
H23. 12. 7	山崎製パン(株)企業説明会	28名
H23. 12. 9	山梨県(林業職)説明会	7名
H23. 12. 12	長野県警説明会	1名
H23. 12. 12	防衛省自衛隊説明会	3名
H23. 12. 12	山梨県(農業技術職)説明会	2名
H23. 12. 12	越井木材(株)企業説明会	6名
H23. 12. 12	就活「日経テレコン21」利用説明会	11名
H23. 12. 17	就活「横浜パシフィコ」バスツアー	40名
H23. 12. 19	第5回就職ガイダンス(農学部)	43名
H23. 12. 19	ライフスクール自己分析&面接対策講座(マイナビ)	22名
H24. 1. 7	<農学部主催>合同企業説明会	81名
H24. 1. 27	小野製薬工業(株)製薬業界セミナー	11名

【平成24年度】 回数 26回

開催日	事項	参加者数
H24. 4. 11	防衛省自衛隊説明会	6名
H24. 4. 11	長野県警説明会	4名
H24. 4. 23	静岡県(林業職)職員採用説明会	6名
H24. 5. 8	群馬県(土木職)職員採用説明会	1名
H24. 5. 26	第2回農学部合同企業説明会	13名
H24. 6. 4	第1回就職ガイダンス(農学部主催)	136名
H24. 7. 2	第2回就職ガイダンス(農学部主催)	61名
	2013年卒学生内定者報告会	
H24. 8. 6	夏季コミュニケーション集中講座	5名
H24. 10. 1	第3回就職ガイダンス(農学部主催)	116名
	理系学生のための自己分析講座	
H24. 10. 29	S P I筆記試験対策講座	79名
H24. 11. 5	第4回就職ガイダンス(農学部主催)	60名
	農学部出身者によるパネルディスカッション	
H24. 11. 12	外部講師によるS E Q解説会	41名
H24. 11. 21	就農支援ガイダンス	7名
H24. 11. 27	山梨県職員採用説明会(林業職)	18名
H24. 11. 28	服装・身だしなみ講座(生協・洋服の青山)	46名
H24. 12. 10	山梨県職員採用説明会(農業技術)	4名
H24. 12. 10	山梨県職員採用説明会(土木職)	2名
H24. 12. 10	自衛隊採用説明会	2名
H24. 12. 10	長野県警職員採用説明会	2名
H24. 12. 13	ブルボン個別説明会	28名
H24. 12. 17	第5回就職ガイダンス(農学部主催)	66名
	合同企業説明会事前ガイダンス	

H24.12.19	山崎製パン個別説明会	36名
H25.1.9	第6回就職ガイダンス(農学部主催) 合同企業説明会事前ガイダンス(2回目)	18名
H25.1.12	農学部合同企業説明会	134名
H25.1.15	農林水産省業務説明会	7名
H25.1.21	J Aしみず個別説明会	2名

【平成25年度】 回数 24回

開催日	事項	参加者数
H25.5.8	合同企業説明会事前説明会	2名
H25.5.11	第1回農学部主催合同企業説明会(4年・M2向け)	8名
H25.5.14	岐阜県職員(森林科学分野)採用試験説明会	4名
H25.5.27	兵庫県農政環境部就職ガイダンス	4名
H25.6.3	第1回農学部主催就職ガイダンス 「学部就職と大学院進学講座」 「大学院生の就職活動について」	156名
H25.6.10	海外農業研修説明会	1名
H25.7.8	第2回農学部主催就職ガイダンス 「就職内定者による報告会及びパネルディスカッション」	20名
H25.10.7	第3回農学部主催就職ガイダンス 「理系学生の就職環境と今後の就職スケジュールについて」 「理系学生に求められるもの」	108名
H25.10.30	就農ガイダンス・白鳥市長との懇談会	46名
H25.11.1	タキイ種苗株式会社ガイダンス	15名
H25.11.6	第4回農学部主催就職ガイダンス 「農学部出身者によるパネルディスカッション」	30名
H25.11.11	SEQ解説会	15名
H25.11.25	身だしなみ講座	29名
H25.12.2	京都府林業職説明会	3名
H25.12.9	京都府農業土木職説明会	3名
H25.12.18	合同企業説明会事前講習会	11名
H25.12.25	合同企業説明会事前講習会	14名
H25.12.26	就職活動支援バスツアー	13名
H26.1.8	合同企業説明会事前講習会	24名
H26.1.11	合同企業説明会	110名
H26.1.20	長野県警察就職説明会	1名
H26.1.20	山崎製パン(株)会社説明会	6名
H26.2.6	山梨県農業土木職説明会	2名
H26.2.21	Oh!庭 ya! 会社説明会	1名

【平成26年度】 回数 23回

開催日	事項	参加者数
H26.4.14	長野県警就職ガイダンス	2名
H26.4.14	自衛隊ガイダンス	2名
H26.4.30	三重県ガイダンス	2名
H26.5.12	埼玉県職員ガイダンス	2名
H26.5.14	群馬県職員ガイダンス	4名
H26.5.28	海外農業研修説明会	2名
H26.6.18	ユーストリー(株)説明会	7名
H26.7.14	農学部主催第1回就職ガイダンス	24名
H26.10.21	タキイ種苗業界セミナー	31名
H26.11.26	身だしなみ講座	17名
H26.12.3	山梨県林業職ガイダンス	5名
H26.12.10	ネクストエナジーアンドリソース(株) 業界セミナー及び会社説明会	7名
H26.12.10	就活ラボ	11名
H26.12.15	年末までの進路・就活準備と年始移行動きの動き方について (マイナビ)	92名
H26.12.17	合同企業説明会事前説明会(1回目)	6名
H26.12.22	山崎製パン企業ガイダンス	22名
H27.1.13	長野県警説明会	1名

H27. 1. 14	合同企業説明会事前説明会（2回目）	35名
H27. 1. 14	就活ラボ	16名
H27. 2. 3	農学部主催第2回就職ガイダンス	59名
H27. 2. 4	S E Q 解説会	12名
H27. 3. 17	合同企業説明会事前説明会（3回目）	8名
H27. 3. 20	合同企業説明会	103名
【平成27年度】回数 32回		
開催日	事項	参加者数
H27. 4. 13	長野県警就職ガイダンス	3名
H27. 4. 13	自衛隊ガイダンス	12名
H27. 4. 20	面接対策講座 講師：ライト・ハウス・キーパーズ ：キャリアサポートセンターコーディネータ	40名
H27. 4. 27	静岡県ガイダンス	1名
H27. 5. 13	三重県ガイダンス	4名
H27. 5. 13	協和木材株式会社	4名
H27. 5. 13	群馬県森林組合連合会	4名
H27. 5. 13	群馬県職員ガイダンス	2名
H27. 5. 18	第1回就職ガイダンス 就職活動オリエンテーション 講師：(株) マイナビ	105名
H27. 5. 18	長野県警察科学捜査研究所	5名
H27. 6. 1	インターンシップ準備講座 講師：(株) マイナビ	86名
H27. 6. 22	ビジネスマナー基礎講座 講師：キャリアサポートセンターコーディネータ	32名
H27. 6. 29	進路・就職講座 理系の進路就職と自己分析について 講師：(株) マイナビ	37名
H27. 7. 13	就活講座夏 ver. これからの就活について、採用者の目線から考える 講師：ライト・ハウス・キーパーズ	5名
H27. 10. 5	理系の就活準備講座 講師：(株) リクルートキャリア	62名
H27. 10. 19	第2回就職ガイダンス 自己PRの作り方と業界研究の仕方 講師：(株) ディスコ	62名
H27. 11. 9	就活メイク講座 協力：ロードアンドスカイ（株）	9名
H27. 11. 16	業界・職種研究講座 参加企業 ・伊那食品工業（株） ・（株）フォレストコーポレーション ・ホクト（株） ・（株）マルイチ産商	35名
H27. 12. 7	第3回就職ガイダンス 準備に差がつく！エントリーシート対策講座 講師：(株) リクルートキャリア	65名
H27. 12. 9	山梨県ガイダンス	2名
H27. 12. 14	山崎製パン企業研究セミナー	15名
H27. 12. 16	合同企業説明会事前セミナー 「就活」から「就職活動」へ 講師：(株) カシヨキャリア開発センター	15名
H27. 12. 21	農学部の学生のための就活準備講座 講師：(株) マイナビ	21名
H27. 12. 22	長野県警就職ガイダンス	2名
H28. 1. 6	就活ラボ in 信州大学農学部 (株)カシヨキャリア開発センター 参加企業	14名

H28. 1. 13	・長野県連合青果(株)、(株)トライネット 合同企業説明会事前セミナー 経済的視点からの就職活動 講師：(株)カシヨキャリア開発センター	12名
H28. 2. 12	就職活動準備直前総まとめ講座 講師：(株)マイナビ	66名
H28. 2. 15	筆記試験対策講座 講師：(株)ディスコ就職アドバイザー	63名
H28. 2. 16	静岡県庁採用試験説明会	5名
H28. 2. 18	採用選考総合対策講座～実践編～ ①履歴書・エントリーシート対策 講師：(株)リクルートキャリア	48名
H28. 3. 16	②面接対策 講師：(株)マイナビ 合同企業説明会事前セミナー 講師：(株)カシヨキャリア開発センター	6名
H28. 3. 24	農学部合同企業説明会	70名

(出典：農学部作成)

3 在学中の学業の成果に関する修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果

平成26年度に、農学部及び本研究科出身の学生が就職した企業の中から555社に対しアンケートを実施し、143社からの回答を得た。

本研究科出身の学生が就職した企業へのアンケート結果は、以下のとおりである(資料農院61)。企業としての重要度が高い項目については、本研究科出身者の達成度も高い結果である。

資料農61 企業へのアンケート結果（農学研究科修了生関連）（平成26年度実施）

設問	素養・能力	企業としての重要度 卒業生の達成度	高ポイント域			普通		低ポイント域			未記入	回答 企業数	平均(企業としての重要度) 平均(卒業生の達成度)
			5ポイント	4ポイント	全体に占める割合(%)	3ポイント	全体に占める割合(%)	2ポイント	1ポイント	全体に占める割合(%)			
常識・教養・知識に関する質問	A. 幅広い教養	重要度	16	49	69.1	29	30.9	1	0	1.1	49	94	3.88
		達成度	8	25	60.0	22	40.0	0	0	0.0	88	55	3.75
	B. 農学基礎知識	重要度	11	30	44.1	32	34.4	13	7	21.5	50	93	3.27
		達成度	9	22	57.4	21	38.9	2	0	3.7	89	54	3.70
	C. 生命科学基礎知識	重要度	5	23	30.1	39	41.9	16	10	28.0	50	93	2.97
		達成度	8	16	44.4	28	51.9	2	0	3.7	89	54	3.56
	D. IT・情報 知識やスキル	重要度	9	32	43.2	47	49.5	7	0	7.4	48	95	3.45
		達成度	4	17	37.5	33	58.9	2	0	3.6	87	56	3.41
D. 貴社専門知識	重要度	36	33	72.6	21	22.1	5	0	5.3	48	95	4.05	
	達成度	9	23	57.1	19	33.9	5	0	8.9	87	56	3.64	
職務遂行能力に関する質問	E. 問題発見、課題解決能力	重要度	47	40	92.6	7	7.4	0	0	0.0	49	94	4.43
		達成度	8	30	69.1	13	23.6	4	0	7.3	88	55	3.76
	F. 発想力	重要度	41	41	87.2	11	11.7	1	0	1.1	49	94	4.30
		達成度	8	23	56.4	20	36.4	4	0	7.3	88	55	3.64
	G. 主体性・実行力・倫理観	重要度	48	38	90.5	9	9.5	0	0	0.0	48	95	4.41
		達成度	8	33	73.2	12	21.4	3	0	5.4	87	56	3.82
	H. 柔軟性・適応力	重要度	46	44	94.7	5	5.3	0	0	0.0	48	95	4.43
		達成度	14	28	75.0	12	21.4	2	0	3.6	87	56	3.96
対人力に関する質問	I. チームワーク人間関係能力	重要度	53	39	96.8	3	3.2	0	0	0.0	48	95	4.53
		達成度	16	29	81.8	9	16.4	1	0	1.8	88	55	4.09
	J. コミュニケーション能力	重要度	56	33	93.7	6	6.3	0	0	0.0	48	95	4.53
		達成度	17	21	67.9	16	28.6	2	0	3.6	87	56	3.95
国際性に関する質問	K. 国際感覚	重要度	5	27	34.4	39	41.9	16	6	23.7	50	93	3.10
		達成度	3	8	20.0	39	70.9	4	1	9.1	88	55	3.15
	L. 外国語(英語)語学力	重要度	4	16	21.7	44	47.8	17	11	30.4	51	92	2.84
		達成度	3	9	22.2	34	63.0	6	2	14.8	89	54	3.09

(出典：農学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- 全修了者に占める就職者の割合が8割以上であり、在学生、受験生、保護者、業界関係、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に込めている(資料農院 57、58)。
- 就職に関するガイダンスやセミナー等を毎年度23回以上開催し、積極的な就職支援活動を行っており、在学生、受験生、保護者、業界関係、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に込めている(資料農院60)。
- 企業アンケートにおいて、企業としての重要度が高い項目については、本研究科出身者の達成度も高い結果であることから、本研究科を修了した学生が企業のニーズに応え得る能力を修めていると判断され、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に込めている(資料農院61)。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

○指導体制の柔軟化と複数指導教員による指導

教員の流動性を確保し、これまで以上に学部横断的な全学的な教育、研究マネジメントを可能とするための教員組織として、「学術研究院」を平成26年度に設置した（資料農院14）。

このことによって、学生の教育・研究に対する指導体制に柔軟性を生んだ。また、2年次に実施する中間発表会において、複数の副指導教員体制を整備（平成27年度）した（資料農院30）。

○サポート体制の充実

学生相談室を平成24年度に設置し、カウンセラーを常駐するなど学習・教育環境を支えるサポート体制を強化した（資料農院25）。

○AFCの「教育関係共同利用拠点」認定

AFCの野辺山農場と演習林は、それぞれ平成25年度、平成26年度に文部科学大臣から「教育関係共同利用拠点」として認可を受け、各拠点にユニークな教育プログラムが設定された。これにより各拠点の利用実績は順調に増加している（資料農院33、34）。

○グローバル化に対応した教育課程の充実

優秀な学生に対し俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍できるリーダーへ導くための修士課程―博士課程―貫教育のプログラムを平成26年度に編成した（資料農院37～39）。

また、メイファーラン大学（タイ）との間において、学部間交流協定に基づくダブルディグリー協定を平成28年2月29日付けで締結した（資料農院44、45）。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

（該当なし）

13. 繊維学部

- I 繊維学部の教育目的と特徴・・・・・・・・・・ 13-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・ 13-18
 - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・ 13-18
 - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・ 13-72
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・ 13-90

I 繊維学部の教育目的と特徴

1 教育目的

本学部の教育の目的・目標は、以下のとおりである。(資料織1、織2)

資料織1 繊維学部の理念

理念

豊かな自然に抱かれた本学部・大学院は、衣・食・住の要である“繊維”に根ざした伝統的な科学技術を背景として、学際的前端科学技術のさらなる展開を図り、21世紀における文化創造科学技術を開拓します。さらに、優れた人格と国際性を有し、未来を創造しうる、広い視野と高い能力を持つ技術者、高度専門職業人、研究者を養成します。そして、地球環境と共生し、人類社会の発展と平和、福祉の向上に資することを理念とします。

(出典：信州大学繊維学部ホームページ「理念と目標」)

資料織2 繊維学部の教育の目標

優れた人格の形成

- ・豊かな人間性
- ・社会に対する貢献と責任意識
- ・高い倫理観

進展する科学技術と社会の変化に対応しうる能力、未来創造能力

- ・普遍的基礎学力
- ・課題設定・探求能力
- ・学際・業際領域を開く創造的能力
- ・自己啓発能力
- ・チャレンジ精神・起業家精神（ベンチャー精神）

基礎学力に裏付けされた専門性

- ・専門的能力
- ・実践的能力
- ・経営・企画等能力（マネジメント能力）

国際性

- ・自国文化・異文化理解力
- ・外国語能力と個性豊かな表現力

情報処理能力

以上を涵養し、技術者、将来の研究者として十分な基礎的素養を身につけ、総合的視野と高い能力を備えた人材を養成します。

(出典：信州大学繊維学部ホームページ「理念と目標」)

また、本学部は、学位授与の方針（以下「DP」、資料織3）、教育課程編成・実施の方針（以下「CP」、資料織4、織5）、入学者受入の方針（以下「AP」、資料織6、織7）を定めている。

資料織3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

繊維学部は、衣・食・住の要である「繊維」に根ざした伝統的な科学技術を背景として、学際的前端科学技術のさらなる展開を図り、21世紀における文化創造科学技術を開拓します。また、優れた人格と国際性を有し、未来を創造しうる、広い視野と高い能力を持つ技術者、高度専門職業人、研究者を養成します。この理念に基づいて、全学共通の学士学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のうち、科学的・学問的思考【専門知識と応用力】に関する学部・課程のディプロマ・ポリシーを以下の通り定めます。

- ・繊維科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力が身に付いている【普遍的基礎学力】
- ・繊維科学に関連する学際・業際領域を切り拓く創造的能力が身に付いている【創造的能力】
- ・専門分野において企画・管理等を行えるマネジメント能力が身に付いている【マネジメント能力】

各課程のDP

先進繊維工学課程	モノづくりの基本である「工学的アプローチ」能力	【工学的アプローチ能力】
	斬新な繊維関連製品群を提起できる発想・構想力	【新繊維関連製品群の発想・構想力】
	マーケティング情報の収集能力や情報を分析できる能力	【マーケティング情報収集・分析能力】
	繊維関連製品群の基礎となる新繊維集合体を開発・製造できる能力	【新繊維集合体の開発能力】
	繊維関連製品群を設計し品質管理できる能力	【繊維関連製品の設計・品質管理能力】

	繊維関連製品群の性能を計測し評価できる能力	【計測・評価能力】
	自己学習能力	【自己学習能力】
	専門知識に基づく問題分析、解決能力	【専門知識による問題分析・解決能力】
機能機械学課程	地球的視野から自然と調和する人類の平和と幸福の実現に貢献できる高い倫理観が身についている	【現代社会問題、グローバル化、技術者倫理】
	工学的活動の役割を理解するのに必要な人文・社会・自然科学の基礎が身についている	【技術者教養】
	コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の開発と情報収集・発信能力が身についている	【コミュニケーション能力、情報収集・発信能力】
	①材料、②エネルギー・流体、③メカトロニクス・情報・制御を三つの柱とした機械工学の基礎が身についている	【機械工学全般】
	「限りなく人に近い機能と人を超越する性能をもつ機械の創造」を目指し、機械工学と電子工学・ファイバー工学・生物科学・生体工学との融合など学際分野に対応できる能力が身についている	【課程・学部の特色、学際分野への対応】
	ものづくりを基本とし、課題解決に向けて自主的・継続的に学習し、計画を主導的に実行できる能力と総合的にデザインできる能力が身についている	【ものづくり・デザイン能力・自主的／継続的実行力】
感性工学課程	感性が涵養されていて、感性工学を学習するための基礎学力が身についている	【感性の涵養と理解】
	学際的な感性工学の様々な側面における感性表現の手法と、感性に関わる素材の開発に関する基礎的な事項が身についている	【感性表現の手法と素材開発】
	感性工学の各分野において、発見、発明、飛躍して世の中に無いものを見つけ提案する力が養われており、感性価値を有する製品を創造するための基礎となる技術が身についている	【感性製品創造技術】
応用化学課程	自然、社会、および人間を多面的にとらえ、科学技術との関わりを理解する学力	【科学技術理解力】
	自立した研究者・技術者として行動する能力	【行動力】
	コミュニケーションをはかり協同作業をする能力	【コミュニケーション能力】
	化学・材料に関わる学術分野の基礎知識を理解する能力	【専門基礎学力】
	化学・材料に関わる工学問題を解決する能力	【専門的課題解決力】
	化学及び化学関連分野の専門技術を修得し、関連する諸問題を解決する能力	【専門的創造力】
	現代の社会問題を工学的に解決する能力	【問題解決能力】
材料化学工学課程	自然や社会を多面的に捉え、それに技術が及ぼす影響を理解する能力	【多面的理解と技術者倫理】
	自立した研究者・技術者として行動する能力	【自立した行動力】
	コミュニケーションをはかり協同作業をする能力	【コミュニケーションと協同作業】
	科学・工学の基礎知識を理解する能力	【科学・工学基礎】
	化学・材料に関する工学的問題を解決する能力	【化学・材料】
	工学システムやプロセスを設計する能力	【工学システム・プロセス設計】
	現在の社会問題を工学的に解決する能力	【工学的問題解決】
機能高分子学課程	自然、社会、および人間を多面的にとらえ、科学技術との関わりを理解する学力	【科学技術理解力】
	自立した研究者・技術者として行動する能力	【行動力】
	コミュニケーションをはかり協同作業をする能力	【コミュニケーション能力】
	化学・材料に関わる学術分野の基礎知識を理解する能力	【専門基礎学力】
	化学・材料に関わる工学問題を解決する能力	【専門的課題解決力】
	新時代の高分子化学・高分子工業を拓く創造力	【専門的創造力】
バイオエンジニアリング課程	現代の社会問題を工学的に解決する能力	【問題解決能力】
	バイオエンジニアリングに関する知識を獲得し、客観的かつ論理的に考える思考能力が身に付いている	【バイオエンジニアリングの理解】
	実験や実習を通してバイオエンジニアリング分野の現象を体得し、結果をわかりやすく説明・発信する能力が身に付いている	【実験・実習・発信能力】
	バイオエンジニアリングに関する知識を応用する能力を身に付け、新しいバイオデザインが創出できる	【バイオデザイン能力】
生物機能科学課程	生物の詳細な構造や機能についての知識を理解するとともに、事実に基づいて客観的・論理的に考えることができる	【生物機能科学の理解力】
	バイオテクノロジーに関わる種々の技術を理解するとともにその手法を身につけ、人間の暮らしを豊かにする新たなシステムの創出を行う能力をもっている	【バイオテクノロジー活用能力】
	専門的な事象を他者にわかるように説明・発信できる	【科学分野の情報発信能力】
生物資源・環境科学課	自然科学の基礎知識を修得し活用することができる	【科学的基礎学力】
	生命現象を理解・考察し、正確かつ安全な生物資源・環境科学分野の実験を計画・実施し、解析することができる	【創造的実験・解析能力】

程	生物資源・環境・生命科学の問題をグループ討論、ディベート、発表会などを通じてこれらの分野の研究者または技術者として不可欠な科学的で幅広い物事の見方を養い、総合的な問題解決能力をもつことができる	【総合的問題解決能力】
	生物資源・環境・生命科学の問題をグループ討論、ディベート、発表会などを通じてこれらの分野の研究者または技術者として不可欠な科学的で幅広い物事の見方を養い、国際的な表現力・対話力をもつことができる	【表現力・対話力】
	生物資源学分野の課題を理解し、発展させる能力を持つことができる	【生物資源学応用発展力】
	環境科学分野の課題を理解し、発展させる能力を持つことができる	【環境科学応用発展力】
	フィールドでの研究・教育を通し、地球環境問題を実感し、地球環境との調和・共生のために、積極的に行動することができる	【環境基礎力・実践力】

(出典：信州大学ホームページ「繊維学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

資料織4 信州大学教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

・学士課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学は、学部及び学科又は課程の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学は、教育課程の編成に当たっては、学部の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮します。

・学士課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学「学位授与の方針」に定めた、卒業時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮します。
2. 信州大学は、学生個人個人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、予習・復習等、授業時間外のさまざまな機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複次的・複層的な積み上げによる成績評価を行います。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」)

資料織5 繊維学部カリキュラムポリシー

1. 共通教育においては、人文・社会科学、自然科学など、幅広い分野の「教養科目」を履修し、豊かな人間性、高い倫理観、社会に対する貢献と責任意識を養う。専門教育の導入科目としての「基礎科目」を履修し、進展する科学技術と社会の変化に対応しうる普遍的基礎学力を養う。また、国際的なコミュニケーション能力（外国語能力と個性豊かな表現力）や、自国文化・異文化理解力を高めるために、外国語科目を履修する。
2. 専門基礎教育では、応用物理、応用化学、応用生物学などの分野についてバランスよく学び、自然科学の幅広い知識を身につけるとともに、課題設定、探求能力などを養うために、基礎的な実験、実習を履修する。
3. 専門教育では、総合科学としての繊維科学をより深く学ぶための感性工学、材料化学、機械ロボット科学、繊維化学、繊維生物学などの専門的な知識を習得する。技術者倫理、ビジネスマネジメント、情報処理演習などの学部共通科目を履修することにより、経営・企画に関わるマネジメント能力、情報解析力、情報処理能力などの実践的能力を養う。また、学際的視野を広げるために、卒業論文作成や卒業研究ゼミナールなどを通して、先端的な繊維研究ならびに境界領域の研究に触れ、研究の方法を学ぶとともに、自由な発想と柔軟な創造的能力を身につける。

(出典：信州大学繊維学部ホームページ「カリキュラムポリシー」)

資料織6 信州大学アドミッション・ポリシー

(1) 求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学は、真理への探究心とチャレンジ精神を培い、高度な専門知識と深い思索力を基にして、課題を探求し解決する能力を備えた人材を育成します。

また、豊かな人間性と広い視野をもち、身につけた知識や技術を人類文化と社会の持続的発展に役立て、世界の平和と自然環境の保全のために活かすことのできる、意欲あふれる若者を育てます。

信州大学は、このような教育の理念・目標を実現するために、以下のような資質を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- ・人間と自然を愛し、人との出会いを通じて学び合おうとする人

- ・知的好奇心が旺盛で、課題に向かって主体的に行動できる人
- ・多様性を理解し受け入れ、独自性を大切にすること
- ・社会・環境・国際問題に関心をもち、世界に貢献したいと考える人

(2) 入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各学部の特性に応じた適切な方法で多様な入試を実施し、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜します。

(出典：信州大学ホームページ「信州大学アドミッション・ポリシー」)

資料織 7 繊維学部アドミッション・ポリシー

求める学生像

繊維学部では次のような学生を求めます。

- (1) 高い志を持ち、現代の多様な学問分野を融合した学際領域的な科学技術を学ぶことに強い関心を持つ学生
- (2) 明確な目的意識と強い勉学意欲を持ち、進化する科学技術に対応するように、より高い専門的・実践的能力を得ることを目指していく学生
- (3) 地域社会や国際社会に貢献するために必要な、豊かな教養と人間性を高めようとする意欲を持った学生

大学入学までに身につけておくべき教科・科目

各高等学校が定める教育課程表に従い、国語、外国語、数学、理科、地理歴史、公民等、すべての教科・科目について、大学入学後の勉学に支障をきたさない程度に履修していることが望まれます。特に、繊維学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学及び理科に関しては、下記の科目の内容を理解していることが望まれます。

・普通科の場合

数学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学A，数学B

理科：繊維・感性工学系 … 物理基礎，物理，化学基礎，化学

機械・ロボット学系 … 物理基礎，物理

化学・材料系 … 物理基礎，物理，化学基礎，化学

応用生物科学系 … 生物基礎，生物，化学基礎，化学

・普通科以外の場合

各高等学校の教育課程表に従い、履修可能な数学及び理科に関するできるだけ多くの科目

(出典：信州大学ホームページ「繊維学部アドミッション・ポリシー」)

2 組織の特徴や特色

(1) 全学教育機構と学部

本学は8学部で構成され県内5キャンパスに分散している。本学部は上田キャンパスにあり、大学本部、全学の共通教育を行う全学教育機構（以下「機構」）は松本キャンパスにある。(資料織8、織9、織10)

資料織 8 キャンパス配置図



(出典:信州大学ホームページ「交通・キャンパス案内」)

資料織 9 : 全学教育機構の概要

全学教育機構とは

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

1年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。

全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。

(出典:信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」)

資料織10 信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学

部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

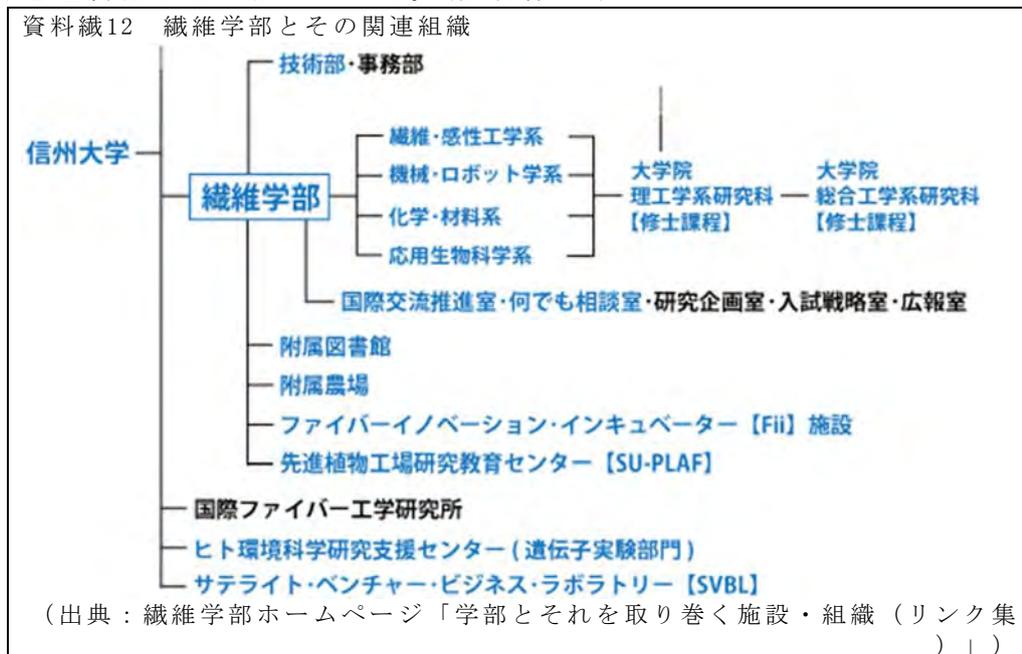
(出典:信州大学規程集)

(2) 学部の特徴

本学部の沿革を以下に示した。(資料織 11) 伝統的な繊維工学に先端技術科学を融合させたファイバー工学分野の高等教育研究機関を構築している。

資料織11	組織の沿革・設置目的等		
	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>【沿革】</p> <p>明治43年 上田蚕糸専門学校設置</p> <p>昭和19年 上田蚕糸専門学校を上田繊維専門学校に改称</p> <p>昭和24年 繊維学部を設置</p> <p>昭和39年 大学院繊維学研究科を設置</p> <p>平成3年 大学院繊維学研究科を改組し、大学院工学系研究科を設置</p> <p>平成17年 大学院総合工学系研究科を設置</p> <p>平成24年 大学院工学系研究科を、大学院理工学系研究科に改称</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>【設置目的等】</p> <p>明治43年、上田蚕糸専門学校は、高等なる学理の研究と、必要な技術の実習とによって、優秀な蚕糸業者を育成し、蚕糸業の発達発展をはかることを目的に設立され、昭和19年、上田繊維専門学校に改称された。</p> <p>昭和24年、学制改革により、信州大学繊維学部が設置された。</p> </td> </tr> </table>	<p>【沿革】</p> <p>明治43年 上田蚕糸専門学校設置</p> <p>昭和19年 上田蚕糸専門学校を上田繊維専門学校に改称</p> <p>昭和24年 繊維学部を設置</p> <p>昭和39年 大学院繊維学研究科を設置</p> <p>平成3年 大学院繊維学研究科を改組し、大学院工学系研究科を設置</p> <p>平成17年 大学院総合工学系研究科を設置</p> <p>平成24年 大学院工学系研究科を、大学院理工学系研究科に改称</p>	<p>【設置目的等】</p> <p>明治43年、上田蚕糸専門学校は、高等なる学理の研究と、必要な技術の実習とによって、優秀な蚕糸業者を育成し、蚕糸業の発達発展をはかることを目的に設立され、昭和19年、上田繊維専門学校に改称された。</p> <p>昭和24年、学制改革により、信州大学繊維学部が設置された。</p>
<p>【沿革】</p> <p>明治43年 上田蚕糸専門学校設置</p> <p>昭和19年 上田蚕糸専門学校を上田繊維専門学校に改称</p> <p>昭和24年 繊維学部を設置</p> <p>昭和39年 大学院繊維学研究科を設置</p> <p>平成3年 大学院繊維学研究科を改組し、大学院工学系研究科を設置</p> <p>平成17年 大学院総合工学系研究科を設置</p> <p>平成24年 大学院工学系研究科を、大学院理工学系研究科に改称</p>	<p>【設置目的等】</p> <p>明治43年、上田蚕糸専門学校は、高等なる学理の研究と、必要な技術の実習とによって、優秀な蚕糸業者を育成し、蚕糸業の発達発展をはかることを目的に設立され、昭和19年、上田繊維専門学校に改称された。</p> <p>昭和24年、学制改革により、信州大学繊維学部が設置された。</p>		
	(出典：冊子「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」から抜粋)		

本学部は附属施設を有し教育に活用している。(資料織 12、織 13) また、国内外の大学等と連携協定を締結している。(資料織 14)



資料織 13 繊維学部の教育に活用する附属施設一覧	
施設名称	所在地（市町村） ※すべて長野県
（繊維学部附属施設）	
繊維学部附属大室農場	東御市
ファイバーイノベーション・インキュベーター施設（F i i）	上田キャンパス内
先進植物工場研究教育センター（S U - P L A F）	上田キャンパス内
（大学の附属施設）	
先鋭領域融合研究群 国際ファイバー工学研究所	上田キャンパス内
ヒト環境科学研究支援センター（遺伝子実験部門）	
サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（S V B L）	
（学外の産学官連携施設）	
浅間リサーチエクステンションセンター（A R E C）	上田キャンパス内

（出典：「大学概要 2015」より抜粋）

資料織 14 繊維学部の教育に関する連携協定一覧		
（国内大学との協定）		
連携大学	締結主体	
福井大学・京都工芸繊維大学	繊維学部	
（海外大学との協定）		
国	連携大学等	締結主体
中国	香港理工大学繊維被服研究所	繊維学部
中国	浙江大学動物科学学院	繊維学部
中国	武漢紡織大学紡織工学院	繊維学部
インド	インド工科大学デリー校	繊維学部
韓国	全北大学校工科大学	繊維学部
韓国	慶北大学校工科大学・農業生命科学大学	繊維学部
韓国	ソウル大学校農業生命科学大学	農学部・繊維学部
韓国	成均館大学校工科大学	繊維学部
タイ	泰日工業大学	繊維学部
台湾	中国文化大学工学部	繊維学部
バングラデシュ	サウスイースト大学理工学部	繊維学部
パキスタン	メヘラン工科大学繊維学部	繊維学部
アメリカ	ノースカロライナ州立大学繊維学部	繊維学部
アメリカ	フィラデルフィア大学デザインビジネス工科学部	繊維学部
アメリカ	コーネル大学人類生態学部繊維科学・アパレルデザイン学科	繊維学部
オーストリア	ウィーン天然資源大学	繊維学部
チェコ	リベッツ工科大学繊維学部	繊維学部
フランス	オート・アルザス大学南アルザス国立高等理工学院	繊維学部

フランス	リヨン繊維化学技術院	繊維学部
イギリス	リーズ大学デザイン学科	繊維学部
イギリス	マンチェスター大学素材学部	繊維学部
ドイツ	マンハイム工科大学	繊維学部
ドイツ	ドレスデン工科大学	繊維学部
ドイツ	アーヘン工科大学機械工学部	繊維学部
イタリア	ミラノ工科大学化学工学部	繊維学部
スロベニア	マリボル大学機械工学部	繊維学部
スロベニア	リュブリャナ大学自然科学部	繊維学部
ベルギー	アントワープ大学工学部	繊維学部
スウェーデン	ボロース大学繊維学部	繊維学部
モロッコ	モロッコ繊維衣料工業高等学院	繊維学部
オーストラリア	ディーキン大学テクノロジー研究イノベーション研究所	繊維学部
アメリカ 中国 イギリス	【4機関協力協定】 ノースカロライナ州立大学繊維学部 香港理工大学繊維被服研究所 マンチェスター大学材料科学部	繊維学部
欧州	欧州繊維系大学連合（AUTEX）準加盟	繊維学部

（自治体，研究機関，その他）

連携機関	締結主体
上田市	大学
坂城町	繊維学部
新潟県上越市	工学部・繊維学部
小諸市	工学部・繊維学部
京都府京丹後市	繊維学部
上越信用金庫	繊維学部
上田信用金庫	繊維学部
特定非営利活動法人「ものづくり支援機構」	繊維学部
韓国繊維開発研究院	繊維学部
韓国染色技術研究所	繊維学部
タイ国農業研究開発庁	繊維学部
台湾紡織産業総合研究所	繊維学部
CTTグループ：繊維技術センター（カナダ）	繊維学部
デンケンドルフ繊維研究所（ドイツ）	繊維学部
【韓国，中国6機関協力協定】 韓国生産技術研究所東華大学現代紡績研 ほか	繊維学部

（出典：「大学概要 2015」より抜粋）

(3) カリキュラムの概要・特色

① 専門教育

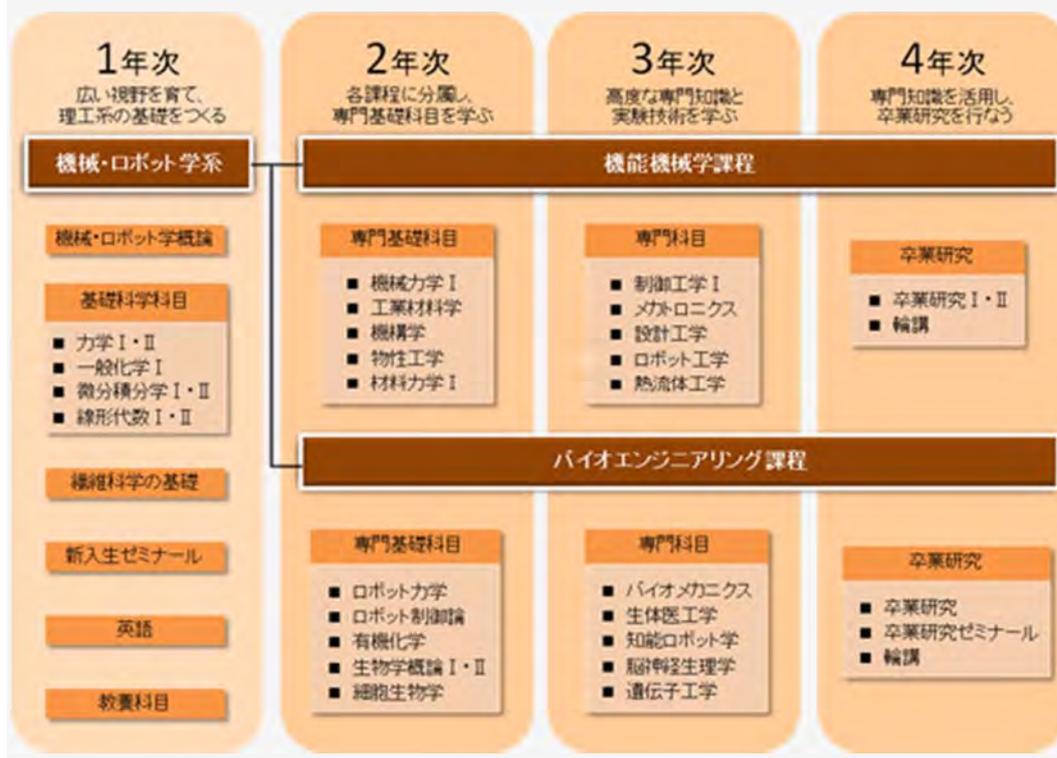
平成 24 年度、3 系 9 課程から 4 系に組換えを行い、入学時から体系的に教育を行っている。(資料織 15、織 16)



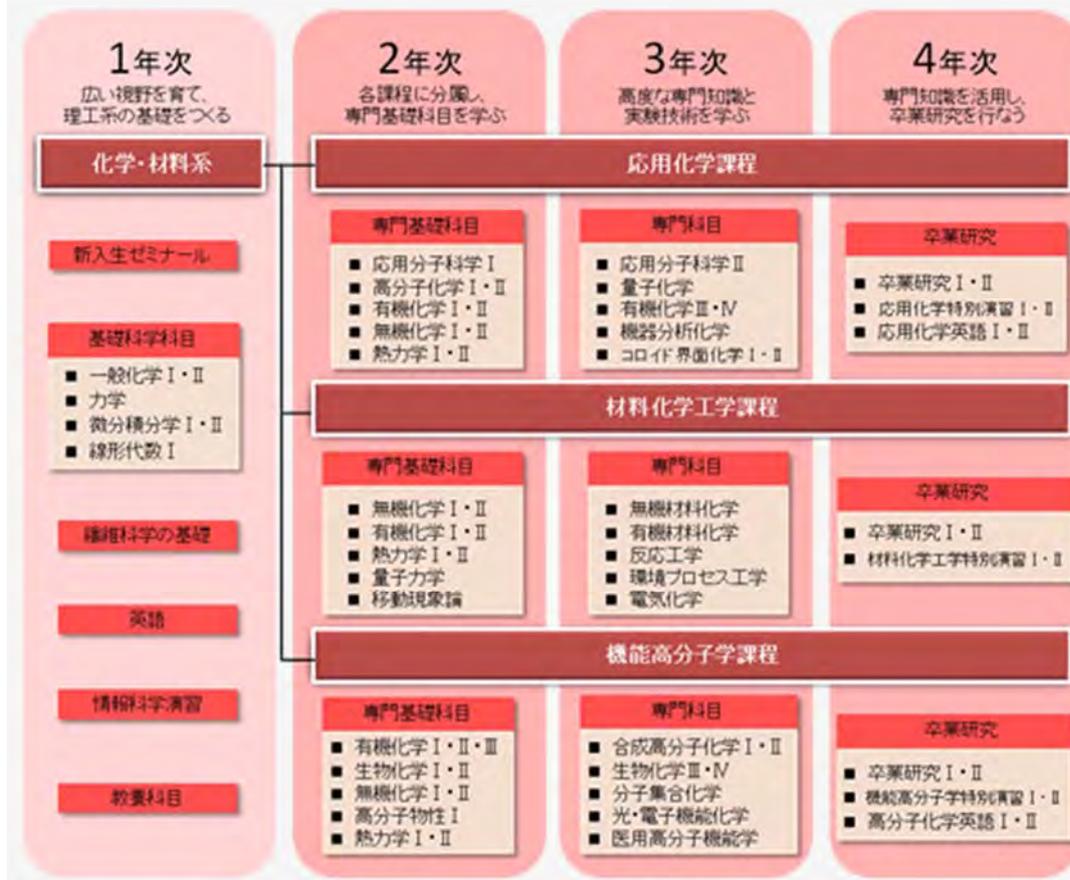
資料織16 各課程のカリキュラムの構成
繊維・感性工学系

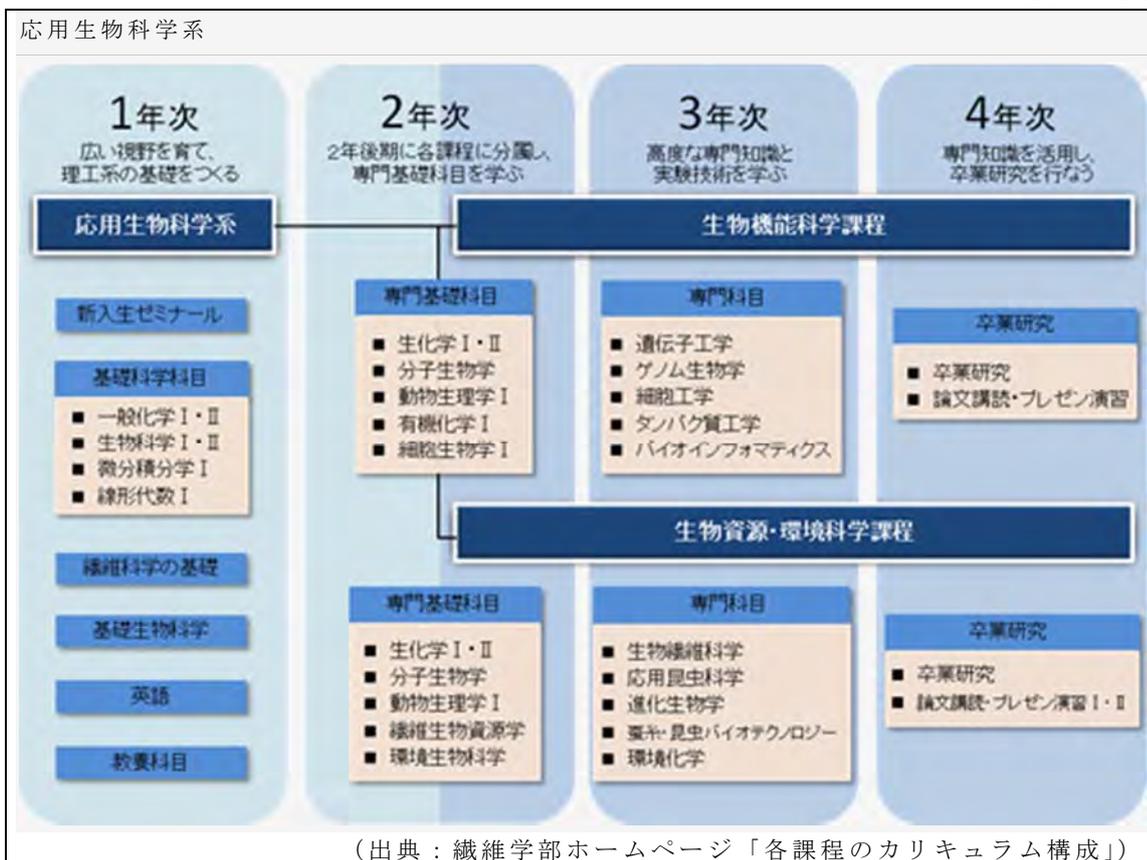


機械・ロボット学系



化学・材料系





② 共通教育

本学は、共通教育科目と専門科目で教育課程を編成している。(資料織 17)

資料織17 信州大学学則

(教育課程の編成方針)

第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目の区分)

第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。

(出典：信州大学規程集)

1年次に受講する共通教育科目は、学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、様々な学問領域に関する授業が開講されている。(資料織 18、織 19)

資料織 18 共通教育の概要

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。

特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立って自ら課題を探求し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動していくことができる能力を育成する。



(出典：冊子「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」)

資料織 19 共通教育科目区分一覧

教養科目：学部・学科(課程)を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育(学部一貫教育)の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新入生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

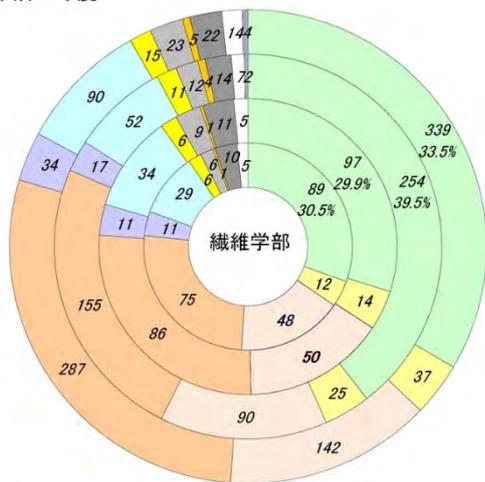
(出典：経営企画課作成)

(4) 入学者の状況

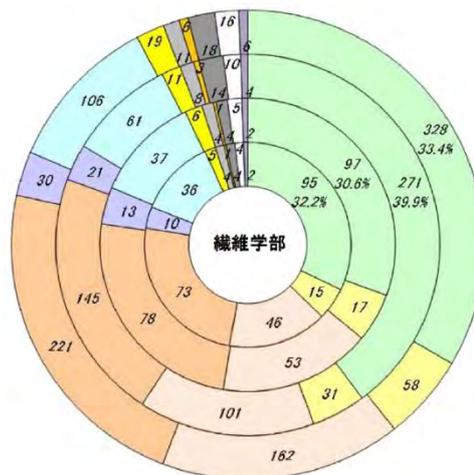
本学部の出身地域別の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数は以下のとおりである。(資料織 20) 県内からの入学者は現在 20%程度であり、県外からの入学生が多い。

資料織 20 繊維学部出身地域別の志願者数，受験者数，合格者数，入学者数

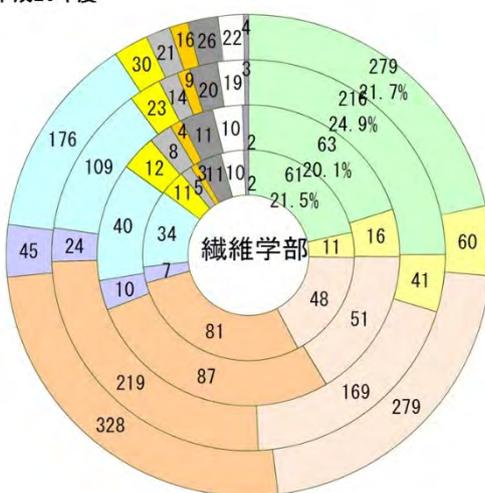
平成21年度



平成23年度



平成26年度



凡例

- | | |
|---------|-------|
| 最外周：志願者 | 長野 |
| 第2周：受験者 | 甲越 |
| 第3周：合格者 | 関東 |
| 最内周：入学者 | 東海 |
| | 北陸 |
| | 近畿 |
| | 東北 |
| | 中国 |
| | 四国 |
| | 九州・沖縄 |
| | 北海道 |
| | その他 |

(出典：経営企画課作成)

また、本学部の志願倍率（一般入試）は以下のとおりである。（資料織 21）

資料織 21 志願倍率（一般入試）

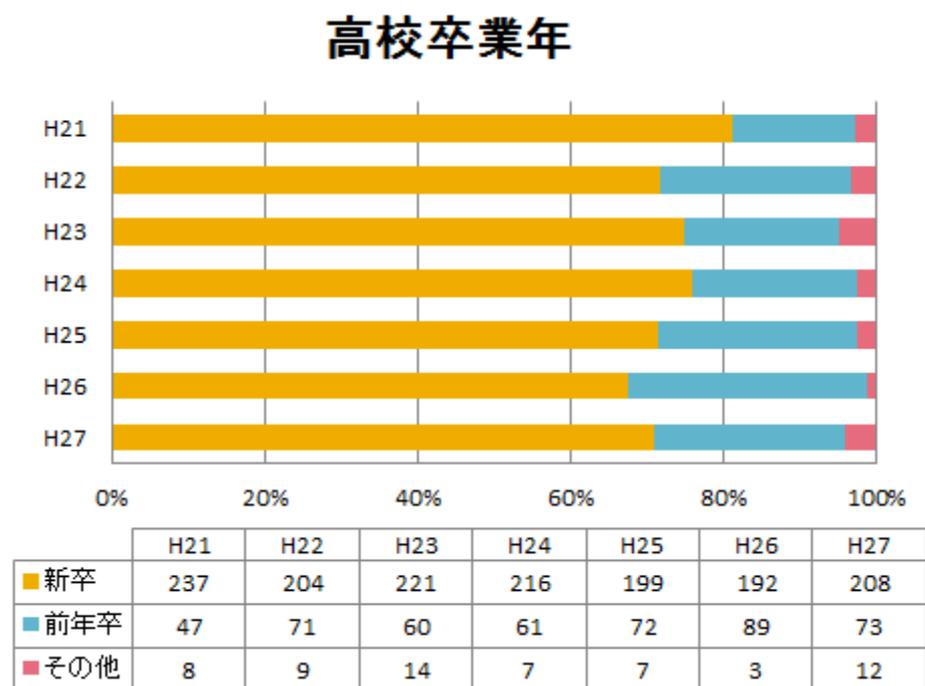
志願倍率



(出典：経営企画課作成)

本学部の入学者に占める新卒者・既卒者の割合は以下の通りである。(資料織 22)

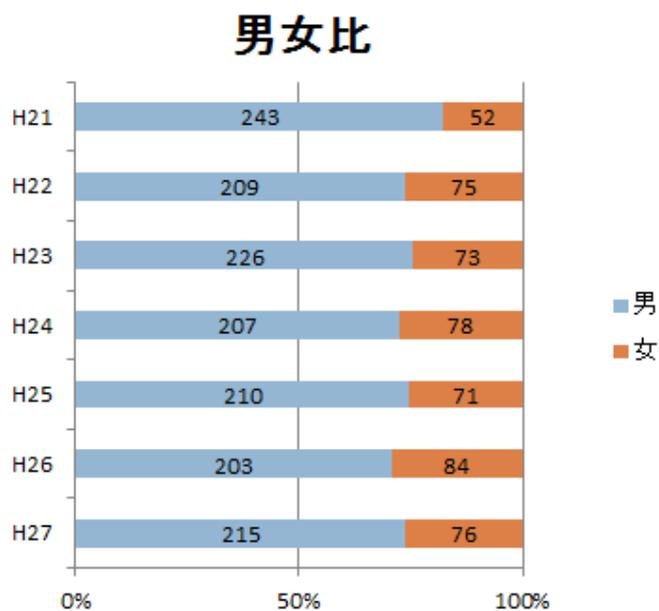
資料織 22 繊維学部の入学者に占める新卒者・既卒者の割合



(出典：経営企画課作成)

本学部の入学者に占める男女比の割合は以下のとおりである。(資料織 23)

資料織 23 入学者に占める男女比の割合



(出典：経営企画課作成)

本学部は、推薦入試、一般入試（前期・後期日程）、留学生特別選抜、3年次編入学試験を行っている。各定員は以下のとおりである。(資料織 24)

資料織 24 募集人員

系・課程	推薦	一般		私費 外国人	帰国 子女	計	
		前期	後期				
繊維・感性 工学系	先進繊維工学課程	10 ※1	10	10	若干	若干	30
	感性工学課程	10 ※1	10	10	若干	若干	30
機械・ロボット学系		5	27	23	若干	若干	55
化学・材料系		18 ※2	60	32	若干	若干	110
応用生物科学系		10	20	20	若干	若干	50
小計		53	127	95			275

職業高校卒（※1）、工業高校卒（※2）の各1名を含みます。
（資料 経営企画課作成）

入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに基づき、下記の教科を課している。

（資料織 25）

資料織 25 平成 27 年度繊維学部 入試科目一覧

（一般入試）

系・課程	日程	教科・科目等	
繊維・感性 工学系	前期	理科（「物理基礎・物理」，「化学基礎・化学」，「生物基礎・生物」から1科目選択）	
			先進繊維工学課程
			感性工学課程
			機械・ロボット学系
			応用生物科学系
化学・材料系		理科（「化学基礎・化学」）	
繊維・感性 工学系	後期	理科（「物理基礎・物理」，「化学基礎・化学」，「生物基礎・生物」から1科目選択） 数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B）	
			先進繊維工学課程
			感性工学課程
			機械・ロボット学系
			応用生物科学系
化学・材料系			

（推薦，その他）

系・課程	日程	教科・科目等	
繊維・感性 工学系	推薦	小論文：科学・技術に関する課題 面接（大学における勉学に必要な基礎学力（数学・理科（物理又は化学を選択））についての口頭試問を含む。）	
			先進繊維工学課程
			感性工学課程
			機械・ロボット学系
			応用生物科学系
化学・材料系		面接の参考にするための基礎学力テスト：化学・物理の基礎的内容 面接（口頭試問を含む。）	
繊維・感性 工学系	帰国子女	小論文：科学・技術に関する課題 面接（大学における勉学に必要な基礎学力（数学・理科（物理又は化学を選択））についての口頭試問を含む。）	
			先進繊維工学課程
			感性工学課程
			機械・ロボット学系
			応用生物科学系
化学・材料系		面接の参考にするための基礎学力テスト：化学・生物・英語の基礎的内容 面接（口頭試問を含む。）	
繊維・感性 工学系	帰国子女	小論文：科学・技術に関する課題 面接（大学における勉学に必要な基礎学力（数学・理科（物理又は化学を選択））についての口頭試問を含む。）	
			先進繊維工学課程
			感性工学課程
			機械・ロボット学系
			応用生物科学系
化学・材料系		面接の参考にするための基礎学力テスト：化学・物理・数学・英語の基礎的内容 面接（口頭試問を含む。）	

全系・課程	私費外国人留学生	面接（基礎学力テストを含む。）
全系・課程	3年次編入学試験	面接（口頭試問を含む。）

（出典：経営企画課作成）

[想定する関係者とその期待]

○受験生・在学生

ファイバー工学の知識と技術を身につけたグローバルな技術者として、関連産業分野で能力を発揮することを期待している。

○卒業生の雇用者

繊維産業においては、素材から製品まで一連の過程を知った人材の育成を期待している。また、関連産業分野では、ファイバー工学の知識を有し、新しいものづくりに活かせる人材の育成を期待している。

○国内の繊維産業関連業界・団体

わが国唯一の繊維学部に対して、ファイバー工学分野における教育研究体制を充実させ、関連産業の展開に呼応した技術者の育成を期待している。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1) 教員組織および教育体制の刷新とその効果

① 学術研究院、機構と学部との関係

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。また、学士課程の共通教育科目を担当する教育組織として機構を設置している。(資料織 26)

資料織 26 学術研究院と学部との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、

職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

② 繊維学部の教育組織

平成 23 年度までは 3 系 9 課程で、平成 24 年度からは高校の自然科学基礎科目である物理、化学、生物および繊維学部特有な繊維・感性工学に対応した 4 系に括って入学試験を行っている。繊維・感性工学系を除き、各系で共通の基礎教育を行った後に、高年次に学生の希望と適性を考慮して課程への分属を行う柔軟な教育体制をとっている。

(資料織 27)

資料織27 繊維学部の教育組織
各課程への分属時期と大学院への接続を示した。

系	課程	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	大学院 修士課程	大学院 博士課程
繊維・ 感性 工学系	先進繊維工学課程					繊維・ 感性工学 専攻	総合工学系 研究科 生命機能・ ファイバー 工学専攻 他
	感性工学課程						
機械・ ロボット 工学系	機能機械学課程	系と して 教育				機械・ ロボット学 専攻	
	バイオエンジニアリング課程						
化学・ 材料系	応用化学課程	系と して 教育				化学・ 材料 専攻	
	材料化学工学課程						
	機能高分子学課程						
応用生 物科学 系	生物機能科学課程	系と して 教育				応用生物 科学 専攻	
	生物資源・環境科学課程						

(出典：繊維学部作成)

各課程には必要な専任教員数を配置しており、各課程の教員1人あたりの学生数は2.8人となっている。(資料織 28)

資料織28 各課程の専任教員数 (平成27年5月1日現在)

課程 (学生定員)	教授	准教授	講師	助教	計	教員1名当たり の学生数	設置審上の基準数	
							教授数	全教員数
先進繊維工学課程 (30)	5	2	0	1	8	3.8	4	8
感性工学課程 (30)	5	5	1	1	12	2.5	4	8
機能機械学課程 (30)	4	6	0	0	10	3.0	4	8
バイオエンジニアリング課程 (25)	4	3	0	1	8	3.1	4	8
応用化学課程 (37)	4	10	0	0	14	2.6	4	8
材料化学工学課程 (37)	5	4	0	3	12	3.1	4	8
機能高分子学課程 (36)	6	5	0	1	12	3.0	4	8
生物機能科学課程 (25)	5	2	0	2	9	2.8	4	8
生物資源・環境科学課程 (25)	6	5	0	2	13	1.9	6	12
計 (275)	44	42	1	11	98	2.8		

(出典：繊維学部事務部作成)

③ 共通教育

共通教育は、機構を中心に全学協力体制のもと、学長が最終責任を負う体制により実施している。(資料織 29、織 30、織 31)

資料織29 信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究

開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(共通教育企画実施部)

第10条 機構に、共通教育企画実施部を置く。

2 共通教育企画実施部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育に係る教育課程の企画及び立案に関すること。
- (2) 共通教育の授業担当者の選任に関すること。
- (3) 共通教育の授業の実施に関すること。
- (4) 専門科目と共通教育との実施上の調整に関すること。
- (5) 高年次共通教育及び日本語・日本事情に係る留学生教育の企画及び調整に関すること。

(共通教育修学支援部)

第11条 機構に、共通教育修学支援部を置き、学生の学習支援その他の修学支援に関する業務を行う。

2 共通教育修学支援部に、修学支援部門を置く。

3 共通教育修学支援部に責任者を置き、副機構長(修学支援担当)をもって充てる。

(クラス副担任)

第16条 修学支援部門に、各学部のクラス担任を補佐するため、クラス副担任を置く。

2 クラス副担任は、機構の専任教員が担当し、当該学部のクラス担任との密接な連携を図るものとする。

(教授会)

第17条 機構に、信州大学学則(平成16年信州大学学則第1号)第25条第2項の定めるところにより、信州大学全学教育機構教授会(以下「教授会」という。)を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営会議)

第18条 機構に、機構の運営に関する具体的事項を審議するため、信州大学全学教育機構運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 基幹教育センター長及び言語教育センター長
- 四 共通教育企画実施部の各教育部門長及び修学支援部門長並びに教職教育部副責任者
- 五 その他機構長が必要と認める者

3 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

4 議長は、運営会議を主宰する。

5 学長は、必要又は機構長の要請に応じて、運営会議に出席し、審議に参加するとともに、共通教育及び機構の組織の運営に関する事項を、運営会議に提示し、審議を求めることができる。

6 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 共通教育の企画及び実施並びに修学支援に関する事項
- 二 機構の運営組織に関する事項
- 三 基幹教育センター及び言語教育センターの人事方針(採用人事方針を含む。)に関する事項
- 四 教職教育部の業務に関する事項

7 運営会議は、必要に応じて、その審議結果を教授会に報告するものとする。

(学長及び共通教育推進会議)

第19条 共通教育の実施に係る最終責任は、学長が負う。

3 国立大学法人信州大学共通教育推進会議(以下「共通教育推進会議」という。)は、必要に応じて、又は教授会の要請に応じて、機構の組織、運営に係る重要事項を審議する。

4 学長及び共通教育推進会議は、共通教育に関する基本的事項について、教授会に提案することができる。この場合において、教授会は、これを尊重するものとする。

(出典：信州大学規程集)

資料織30 国立大学法人信州大学共通教育推進会議規程
(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人信州大学組織に関する規則（平成17年国立大学法人信州大学規則第5号）第16条の2第2項の規定に基づき国立大学法人信州大学（以下「本法人」という。）に設置する国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(職務)

第2条 共通教育推進会議は、本法人が設置する信州大学（以下「本学」という。）の次の各号に掲げる重要な事項について審議するほか、全学教育機構と各学部との連携協力及び連絡調整を円滑に行うことを職務とする。

- (1) 共通教育の企画及び実施並びに修学支援の実施に関する事
- (2) 共通教育カリキュラムの策定及び改定に関する事
- (3) 共通教育の実施における全学的な支援に関する事
- (4) 全学教育機構の運営に関する事
- (5) その他共通教育の実施に関する事

(組織)

第3条 共通教育推進会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 教務担当の理事
- (3) 全学教育機構長
- (4) 高等教育研究センター長
- (5) 学部長又は副学部長のうちのいずれか1名
- (6) その他学長が必要と認める者

(議長)

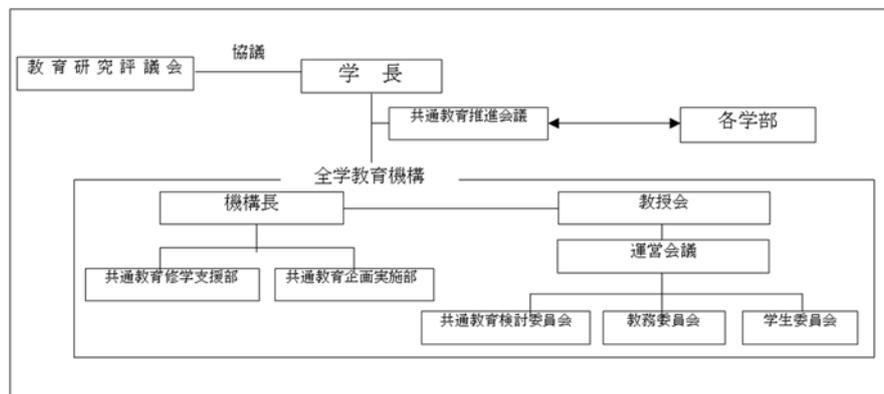
第4条 共通教育推進会議に議長を置き、学長をもって充てる。

2 議長は、共通教育推進会議を主宰する。

3 議長に事故があるときは、第3条第2号に規定する理事が、その職務を代行する。

(出典：信州大学規程集)

資料織31 共通教育科目の教育体制



(出典：経営企画課作成)

(2) 入学者選抜のための方法の工夫とその効果

平成24年度入試より、一般入試（前期日程）において、上田キャンパス試験場に加えて名古屋試験場を設けている。（資料織32、織33）

資料織32 名古屋試験場について

資料織33 名古屋試験場受験者数の推移

前期日程合計	名古屋検査場			上田検査場		
	志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
平成 24 年度	128	128	41	274	266	85
平成 25 年度	138	137	65	255	248	67
平成 26 年度	137	132	61	208	199	72
平成 27 年度	115	112	61	162	159	74

(出典：繊維学部 事務部作成)

学部広報室を設け、受験生用ホームページの充実、入試説明会、オープンキャンパス、県内外の高校訪問を組織的に行っている。(資料織 34)

資料織 34 繊維学部広報室

■広報室員構成

教員G

室員(室長)	上條正義	感性工学課程
室員(副室長)	小山俊樹	機能高分子学課程(入試戦略室長)
室員(副室長)	保地眞一	生物機能科学課程
入試・広報コーディネーター	木村建	
室員	金井博幸	先進繊維工学課程
室員	堀場洋輔	感性工学課程
室員	和田功	感性工学課程(デザイン)
室員	河村隆	機能機械学課程
室員	小関道彦	バイオエンジニアリング課程
室員	鈴木大介	応用化学課程
室員	杉本渉	材料化学工学課程
室員	堀江智明	生物資源・環境科学課程

事務G

室員	藤澤みどり	総務
室員	増田成徳	総務
室員	原澤和子	研究支援
室員	矢口諒	会計
室員	武居総子	図書館
室員	中村美保	技術部
室員	麻和浩一	学務
室員	中島歩	学務

信州大学繊維学部広報室内規

(目的)

第1条 信州大学繊維学部(信州大学大学院総合工学系研究科の繊維学部関係専攻教員を含む。以下「本学部」という。)に本学部の広報を戦略的に企画し、広報活動の推進に必要な事項を迅速かつ円滑に処理するため、広報室を置く。

(職務)

第2条 広報室は、広報の実施にかかわる次の業務を担当する。

- 一 本学部の広報に関する中期計画の立案・進捗評価等に関すること。
- 二 教育研究活動の広報に関すること。
- 三 学生募集に係る広報に関すること。
- 四 報道機関に対する広報に関すること。
- 五 広報誌等の発行に関すること。
- 六 ホームページの運営に関すること。
- 七 公開講座等地域貢献に関すること。
- 八 その他広報に関すること。

(組織)

第3条 広報室は、次の各号に掲げる室員をもつて組織する。

- 一 広報担当の学部長室会議メンバー
- 二 学部長が指名した者
- 三 広報担当事務部職員

(任期)

第4条 前条第2号に規定する室員の任期は、学部長の任期内とする。

(室長等)

第5条 広報室に室長及び副室長を置く。

- 2 室長は、第3条第1号に規定する室員をもつて充てる。
- 3 副室長は、第3条第2号に規定する室員のうちから、室長が指名する。
- 4 室長は、広報室会議を招集し、その議長となる。副室長は、室長に事故があるときは、その職務を代行する。

(広報活動協力者)

第6条 広報室運営のため、必要に応じて広報活動協力者を委嘱することができる。

2 広報活動協力者は、室長の推薦に基づき、学部長が委嘱する。
 (プロジェクトチーム)

第7条 広報室に、必要に応じてプロジェクトチームを置くことができる。

2 プロジェクトチームのメンバーは、室長の推薦に基づき、学部長が委嘱する。
 (室員以外の者の出席)

第8条 広報室が必要と認めたときは、広報室に室員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。
 (運営会議又は教員会議への報告)

第9条 広報室において審議された重要な事項は、運営会議又は教員会議へ報告するものとする。
 (雑則)

第10条 この内規に定めるもののほか、広報室の運営に関し必要な事項は、広報室が別に定める。

(出典：繊維学部事務部作成)

学部に入試戦略室を設け、高等学校や進学産業と定期的に意見交換を行い、在学生に対してアンケート調査を行うことにより、戦略的に情報収集と分析を行っている。

(資料織 35)

資料織 35 繊維学部入試戦略室

■入試戦略室員構成

室員(室長)	小山 俊樹	機能高分子学課程
室員	上條正義	感性工学課程
室員	小林俊一	バイオエンジニアリング課程
室員	志田敏夫	生物機能科学課程
室員	木村 建	特任教授
室員	麻和浩一	学務係

(活動内容)

- ・ 入試広報計画の策定
- ・ 入試結果説明会の実施 (県内4カ所)
- ・ 入試実施方法案の策定
- ・ 募集要項案の策定
- ・ 新入生アンケートの実施と集計
- ・ 卒業前アンケートの実施と集計
- ・ 志願者と合格者の分布などに関する調査・分析
- ・ 入試問題の適正な出題に関する調査 (試験実施後の検討)
- ・ 入学後の初年度の成績の調査分析 (入試方法との関連)
- ・ 受験産業との接触 (来訪者への対応と情報収集)
- ・ 受験産業が主催する大学広報関連のセミナーなどへの出席
- ・ 全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会への参加

(出典：繊維学部事務部作成)

このような活動を続けてきた結果、過去3年間、一般選抜では、3.5～4.7倍の志願倍率を維持し、大学における学習活動に適応可能な学生を選抜できている。

(前掲資料織 21、14頁)

(3) 学生サポート体制

① 学生相談室の設置

平成23年度に学部内に学生相談室を設置し、学生が抱える問題を把握し、早期に解決する体制を構築した。(資料織 36、織 37、織 38)

資料織36 繊維学部学生相談室の活動内容



“何でも”相談できます

何でも相談室って…本当に「なんでも」なの？そんな声が聞こえてきそうですが、本当に「なんでも」です！
学生生活のちょっとした悩みでも結構です。お気軽にご相談ください。

学業や進路の悩み

「このままでは卒業できない…!」
「学習意欲が湧かないなあ」といった、学業、進級・卒業、就職に関する悩みも気軽にご相談ください。

経済面の問題

授業料の免除、奨学金などの制度関することなど経済面での相談。

学校生活や人間関係の悩み

「友人関係が上手くいかない」
「家庭でトラブルを抱えている」
「先生からハラスメントを受けている」
等対人関係に関する相談。

※特にハラスメントに関しては、専門職員を設置し、相談に応じています。いち早くご相談ください。

その他の精神的な不安

「自分に自信が持てない」
「なんだかイライラすることが多い」
など漠然とした不安でも、気軽にご相談ください。

“専門職員”への橋渡しをします

学生何でも相談室では、「カウンセラー」、「ハラスメント相談員」等、専門職員への橋渡しも行っています。以下、専門職員を紹介します。プライバシーは固く守られますので、いち早くご相談ください。

カウンセラーによるカウンセリング

心理的な悩みなどに関しては、カウンセラーによるカウンセリングを受けることができます。希望により、橋渡しをさせていただきますので、気軽にご相談ください。
また、カウンセリングについては、保健室、学務係窓口で直接申し込むこともできます。

ハラスメント相談員への相談

アカデミックハラスメント（アカハラ）、パワーハラスメント（パワハラ）、セクシャルハラスメント（セクハラ）などハラスメント全般の相談は、専門の研修を受けたハラスメント相談員が担当します。

内容に応じて、教職員が対応します

その他、質問の内容に応じて、教員、保健師、学務係職員等が対応いたします。

学部長 春・秋の大相談会

繊維学部では、学生の皆さんによりよい学生生活をお送りいただくため濱田学部長との懇談会を年に数回開催しています。学生のみなさんの思わないご意見をお寄せいただければと思います。
なお、申し込みはホームページ、メール及び学務係窓口で行うことができます。

チューター面談

繊維学部では、学生一人一人にチューター教員を設定し、定期的な面談を行うことで、よりきめ細やかな対応ができるようにしています。

毎年2回面談の機会を設けていますので、面談を行っていただき、どんな些細な悩みでも結構です。チューター教員にお話し下さい。特に悩みを抱えていない方も、実際にチューター教員と顔を合わせて、元気でやっていると伝えるようにしてください。

(出典：繊維学部事務部作成)

資料織37 教員によるチューター面談の実施要領

教員 各位

学部学生相談室長 伊藤 恵啓

H27年度前期チューター面談のお願い

学生相談室の活動、とりわけチューター面談につきましては日頃より御協力、御尽力をいただき心より感謝申し上げます。前期が始まりましたので、チューター面談の実施をお願いしたいと存じます。今年度も昨年度と同様、上田キャンパスに常時在籍している全ての学生

(社会人学生を除く)に対して面談を実施していただくことになっております。学期初めのご多忙中のところ申し訳ありませんが、何卒よろしく願いいたします。

記

対象学生：学部2～4年生、院生(M1～D3)

日程及び実施内容：4月13日(月)～5月1日(金)

学生がチューター教員に連絡して面談する

面談結果(表：後日配付されます)を学生相談委員に提出

5月15日(金)まで

面談未実施の学生にチューター教員が連絡して面談

面談結果(表)を学生相談委員に提出する

面談できない学生については安否確認だけでもお願いします

5月22日(金)まで

学生相談委員は学務Gに結果を報告

5月28日(木)

学生相談委員長が教員会議で集計結果を報告

*面談結果の記入する表(面談リスト)は後日、各課程の学生相談委員から配付されます。

*面談の実施及び結果の取りまとめについては、面談を通じて問題を抱えている学生の早期発見と問題の早期解決につなげると共に、学部全体で面談結果を共有することで問題解決を推し進め、上田キャンパスの多くの学生が健全な学生生活を送ることができるようにするためです。

面談内容について：

学生の「ゲートキーパー」として学生が困っていることがあれば話を聞き、状況によって適当な窓口(学生相談室、学務係、各課程の委員等)を紹介したり、窓口につなげて下さい。具体的には、以下に示す項目を参考にして質問して下さい。面談後の所見については、所見欄は、該当する選択肢の番号を記入し、該当する選択肢がない場合は、具体的な内容を記入の上、各課程の学生相談委員に報告下さい。特に、問題のありそうな学生には詳しい記述と共に担当者にご相談下さい。

【面談時の主な質問項目(質問の例)】

- ・学業に関する事(授業は理解できますか? 単位は取れていますか? 研究は進んでいますか?)
- ・生活面、経済面に関する事(上田の生活に慣れましたか? 経済的に問題ありませんか。日常で困ったことや気になることはありますか?)
- ・身体的・精神的健康に関する事(体調は良いですか? 食事、睡眠はきちんと取れていますか?)
- ・修学上の対人関係(教員や先輩など)に関する事(授業担当の先生、指導教員、研究室の先輩や後輩、同級生のことで相談したいこと、悩んでいることはありますか?)
- ・進路や将来に関する事(進路は決まっていますか? そのための準備はしていますか?)

以上

(出典：繊維学部事務部作成)

資料織38 チューター教員の担当割り例および面談結果の報告書式

(複数の記載可)

1. 問題なし	2. 学業上の問題あり	3. メンタル上の問題あり
4. 健康上の問題あり	5. 生活上の問題あり	6. 進路上的問題あり
7. 経済上の問題あり	8. ハラスメントに関する問題あり	9. その他の問題あり

特記事項の記入について

面談ができない場合、その理由を記載してください。
また、所見欄に補足がある場合も記載をお願いします。

学籍番号	氏名	カナ氏名	課程/学科	指導教員	チューター	面談日	所見	特記事項
1			先進繊維工学課程	金 慶孝	石澤 広明			
2			先進繊維工学課程	森川 英明	石澤 広明			
3			先進繊維工学課程	坂口 明男	西松 豊典			
4			先進繊維工学課程	森島 美佳	西松 豊典			
5			先進繊維工学課程	金 慶孝	大越 豊			
6			先進繊維工学課程	坂口 明男	金 慶孝			
7			先進繊維工学課程	金井 博幸	木村 裕和			
8			先進繊維工学課程	森川 英明	石澤 広明			
9			先進繊維工学課程	大越 豊	西松 豊典			
10			先進繊維工学課程	木村 裕和	森川 英明			
11			先進繊維工学課程	木村 裕和	金 慶孝			
12			先進繊維工学課程	西松 豊典	木村 裕和			
13			先進繊維工学課程	森川 英明	坂口 明男			
14			先進繊維工学課程	森島 美佳	大越 豊			
15			先進繊維工学課程	金井 博幸	大越 豊			
16			先進繊維工学課程	大越 豊	石澤 広明			
17			先進繊維工学課程	西松 豊典	石澤 広明			
18			先進繊維工学課程	石澤 広明	森川 英明			
19			先進繊維工学課程	石澤 広明	金 慶孝			
20			先進繊維工学課程	金井 博幸	森島 美佳			
21			先進繊維工学課程	石澤 広明	大越 豊			
22			先進繊維工学課程	森川 英明	金井 博幸			
23			先進繊維工学課程	森川 英明	石澤 広明			
24			先進繊維工学課程	大越 豊	西松 豊典			
25			先進繊維工学課程	木村 裕和	森川 英明			
26			先進繊維工学課程	金 慶孝	大越 豊			
27			先進繊維工学課程	木村 裕和	金井 博幸			
28			先進繊維工学課程	金井 博幸	坂口 明男			
29			先進繊維工学課程	大越 豊	金井 博幸			
30			先進繊維工学課程	石澤 広明	金井 博幸			
31			先進繊維工学課程	木村 裕和	石澤 広明			
32			先進繊維工学課程	木村 裕和	西松 豊典			
33			先進繊維工学課程	森川 英明	金 慶孝			
34			先進繊維工学課程	大越 豊	木村 裕和			
35			先進繊維工学課程	西松 豊典	森島 美佳			
36			先進繊維工学課程	西松 豊典	大越 豊			
37			先進繊維工学課程	石澤 広明	金井 博幸			
38			繊維システム工学科	金 慶孝	大越 豊			
39								
40								

(出典：繊維学部事務部作成)

②全学的な学生サポート体制

学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育活動に関する業務を行っている。(資料織 39、織 40) 附属図書館等の全学の教育関係組織に専門職員を配置し(資料織 41)、学部には教育支援に必要な職員を配置している。(資料織 42)

資料織 39 国立大学法人信州大学業務執行組織規程(抜粋)

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター(教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。)及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
- (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
- (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。))を除く。)の教務に関すること。
- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
- (7) 学位の授与に関すること。
- (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
- (10) 全学の学務情報システムに関すること。
- (11) 出前講座に関すること。
- (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号)第 6 条に定める大学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。))及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
- (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
- (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新

- 支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
 - (2) 共通教育の教務に関すること。
 - (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
 - (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
 - (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
 - (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 (省略)
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
 - (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
 - (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
 - (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
 - (3) 学生募集に関すること。
 - (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
 - (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
 - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
 - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。
- (出典：信州大学規程集)

資料織 40 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在
(出典：経営企画課作成資料)

資料織 41 附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センター職員数

区分	附属図書館 ^{注3}	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learning センター
上田キャンパス	6	2	-	-

平成 28 年 2 月 1 日現在
(出典：経営企画課作成資料)

資料織 42 学部・研究科の学務担当窓口の職員数

繊維学部
理工学系研究科(上田キャンパス)
15

平成28年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

また、教育補助者として、大学院生を TA として雇用し、演習・実験・実習科目で積極的に活用している。(資料織 43、織 44)

資料織 43 信州大学ティーチング・アシスタント実施要項（抜粋）

（目的）
 第2 TAは、本学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、当該学生の処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。

（身分）
 第3 TAは、非常勤職員とする。

（職務内容）
 第4 TAは、学部学生、修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験、実習及び演習等の教育補助業務に従事する。

（出典：信州大学ティーチング・アシスタント実施要項）

資料織 44 各学部等における TA の業務内容

部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
繊維学部	○	○		○		○	○			○	○		○	

授業時間内の業務内容
 A. 資料の配付 B. 機器の操作 C. 出欠の管理 D. 試験監督補助 E. 討論への参加
 F. 学生の質問への対応 G. 実験・実習などの実演 H. 発声・会話の指導

授業時間外の業務内容
 a. 資料のコピー、保存 b. 教室のメンテナンス(空調,照明,施錠等)
 c. レポート課題の作成・採点補助 d. 教材の作成補助 e. 実験・実習の準備

（出典：各学部等のデータを基に経営企画課にて作成）

機構教員は、学部のクラス副担任として学部のクラス担任とともに1年次の修学指導を行っている。（資料織 45）

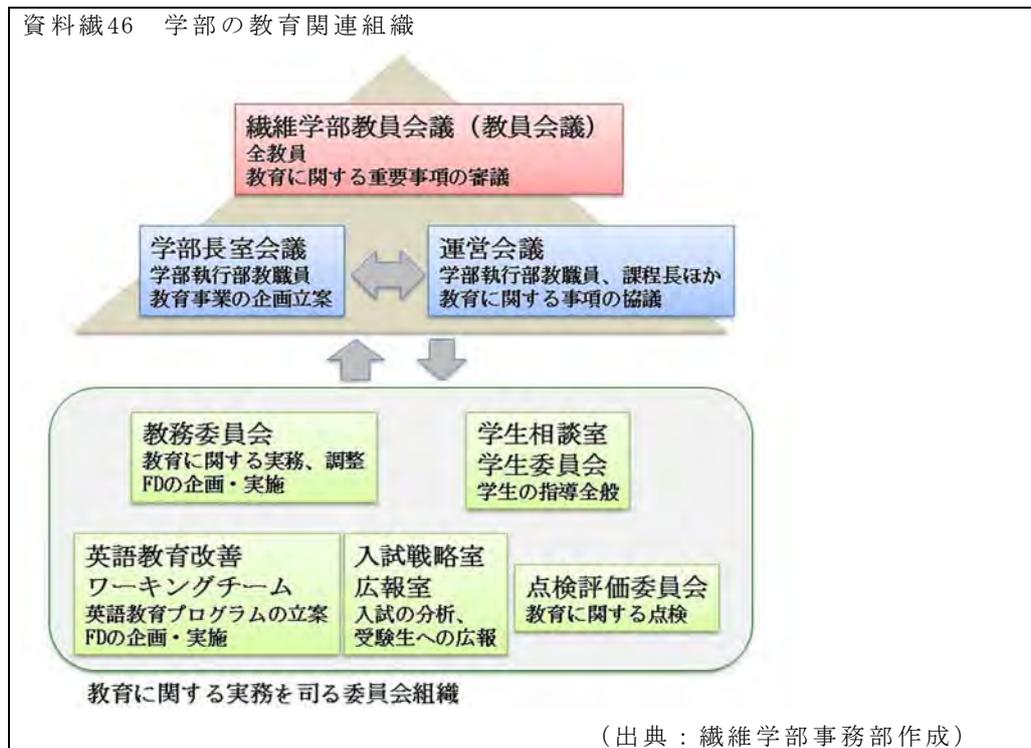
資料織45 平成27年度1年次生クラス副担任の配置状況

学部・学科等		クラス担任数	
		正	副
繊維学部	繊維・感性工学系	系教員2	1
	機械・ロボット学系	系教員1	1
	化学・材料系	系教員3	2
	応用生物科学系	系教員2	1

（出典：平成27年度クラス(ゼミ)担任・副担任 教員名簿をもとに経営企画課にて作成）

（4）教員の教育力向上のための体制整備

学部教育に関する企画、実施、点検評価を行うため、学部執行部組織、委員会組織、教員会議が設置され、定常的な点検を行いながら改善に努める PDCA サイクルが動いている。（資料織 46）



①FD の実施

学部教授会に合わせて、定期的に FD を実施している。(資料織 47)

資料織47 繊維学部独自企画FD講習会

年度	企画名
平成 22 年度	繊維学部 FD 講習会～英語教育の改善について～
	第 1 回 GPA 勉強会 上田会場
平成 23 年度	繊維学部 FD 講演会「材料化学工学課程における成績評価の公表とその利用について」
平成 24 年度	繊維学部 FD 講演会「悩みを抱える学生への相談対応」
	繊維学部 FD 講演会「GPA 制度導入に際してのポイントや課題について」
	繊維学部 FD 研修会「『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』(中央教育審議会答申)について」
平成 25 年度	繊維学部 FD 講演会「ゲートキーパーとして学生にかかわる」
	繊維学部教務委員会 FD「信大方式 GPA はどう機能するか」
	専門英語の学習・教育支援サイトの開設について
平成 26 年度	信州大学の学生像：日本と中国の学生像
	繊維学部 FD「カリキュラム改革に際して注意しておきたいこと」
	繊維学部材料化学工学課程 FD「eALPS 研修会」
平成 27 年度	繊維学部 FD「学生のつまずきへの理解と対応」
	広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムにおける Learning e-portfolio の活用
	繊維学部 FD「障害のある学生の理解と対応」
	高大接続システム会議(中間まとめ)に関する FD
	成績評価に学生の努力が反映される授業デザイン

(出典：繊維学部事務部作成)

② 授業改善アンケート、卒業時アンケート結果の活用

毎年度、学生への授業改善アンケートを実施し、教員の授業改善に活用している。平成23年度より卒業時アンケートを実施し、教育体制の点検評価に用いている。(資料織 48、織 49)

資料織48 授業改善アンケート

実施時期 毎年度の前期および後期の授業終了後
 対象者 学部1-4年生全員
 実施方法 キャンパス情報システムを利用したWebによる調査
 質問用紙見本

「授業改善アンケート」設問一覧

対象学部： 繊維学部
 開講年度： 平26 開講期間： 前期 授業種別： 実験・実習

番号	設 問	回答種別
1	全体的に見て、授業の内容は、授業によって達成しようとしている目標に、ふさわしいものであったと思いますか 授業内容は、達成しようとしている目標にふさわしかったか	評定（5段階）
2	この授業では、この学部・系・課程のカリキュラム全体の教育目標やシラバスに沿った授業内容が提供されていたと思いますか 教育目標やシラバスに沿った授業内容が提供されましたか	評定（5段階）
3	参考書の提示など、この授業のための授業時間外学習の情報提供・指示が、シラバスや授業中の説明等で与えられていたと思いますか 授業時間外学習の情報提供・指示が十分与えられましたか	評定（5段階）
4	この授業の達成目標である、探求の仕方・姿勢、知識や技術などを、あなた自身は獲得できたと思いますか 探求の仕方・姿勢、知識や技術などを、獲得できましたか	評定（5段階）
5	この授業について、改善すべきと思うことがありましたら書いてください 改善すべきと思うことがありましたら書いてください	自由記述
6	この授業について、教員が良い工夫をしていると感じられるものを書いてください この授業について、教員が良い工夫をしていると感じられるものを書いてください	自由記述
7	板書、プリント、画像等の補助教材は授業の理解に十分役立ちましたか 補助教材は授業の理解に十分役立ちましたか	評定（5段階）
8	講義科目（受動的学習）との比較で実験・実習科目（体得学習）独特の効果を感じましたか 実験・実習科目（体得学習）独特の効果を感じましたか	評定（5段階）
9	この実験・実習に対するあなたの取り組みから考えて、あなたはこの実験・実習の方法や内容について評価する資格があると思いますか この実験・実習を評価する資格があると思いますか	評定（5段階）
10	この授業について、あなたは授業時間外に予習や復習、関連学習などを積極的に行いましたか 授業時間外に予習、復習、関連学習を積極的に行いましたか	評定（5段階）
11	この授業を受けることで、自分自身の満足度を得ることができましたか この授業で、自分自身の満足度を得ることができましたか	評定（5段階）

授業改善アンケート回答率（%）

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
前期	後期								
61.4%	52.4%	38.3%	34.3%	55.3%	44.2%	59.8%	48.2%	68.1%	54.9%

1年生から4年生までの全専門科目開講授業ののべ受講者人数のうち、回答したのべ人数の割合を示した。

(出典：繊維学部事務局作成)

資料織49 卒業時アンケート調査

各年度の卒業生全員に対して、卒業前の1～2月にeALPSを用いてアンケート調査を行った。

アンケート内容（一部抜粋）

繊維学部を卒業する皆さんへのアンケート調査票(平成23年度卒業生)

このアンケートは繊維学部を卒業しようとしている4年生の皆さんを対象にして実施します。

このアンケートは、皆さんのご意見やご感想を今後の学部運営に前向きに活かすためのものです。

繊維学部の教育や環境などに関して、皆さんが在学中に感じたことを率直にお聞かせ下さい。

調査結果は統計的に処理しますので、皆さんにご迷惑をおかけすることはありません。ご協力をお願いします。

設問	選択肢
3. あなたは何年に信州大学に入学しましたか	1. 2009年 2. 2011年 3. その他
4. あなたはこの春に卒業する予定ですか	1. 卒業する 2. 卒業しない 3. 決めていない
5. あなたはどの入試に合格して入学しましたか	1. 推薦入試 2. 前期日程 3. 後期日程 4. 編入学 5. その他
6. あなたは入学の際に所属を希望する課程を決めていましたか	1. 決めていた 2. 決めていなかった
7. 所属課程の決定は希望通りでしたか	1. 希望通り 2. ほぼ希望通り 3. 希望通りでなかった
8. あなたは所属した課程に満足していますか	1. 満足 2. 少し満足 3. 普通 4. 少し不満 5. 不満 6. その他
9. 繊維学部の系入試(系単位で募集して課程に所属するシステム)についてあなたはどのように考えていますか	1. 特に考えていることはない 2. 現行のままでよい 3. 課程 別に入試を実施した方がよい 4. もう少し多くの課程から選べた方がよい
10. 所属する課程を決定する方法についてあなたは満足していますか	1. 満足 2. 少し満足 3. どちらとも言えない 4. 少し不満 5. 不満
11. 所属する課程を決定する時期についてどう思いますか	1. 早すぎる 2. 少し早すぎる 3. 現状でよい 4. 少し遅すぎる 5. 遅すぎる
12. 課程決定方法についてどのように考えていますか	1. 特に考えていることはない 2. 現行のままでよい 3. 点数以外の基準を加えた方がよい 4. 課程の定員が決っていない方がよい

【教育目標の達成度について】

16. 繊維学部に入學する前にあなたが大学生活に求めている物は何でしたか。次の中から最も適したものを1つ選んで下さい。	1. 真理を探究する 2. 専門的な知識や技術を習得する 3. 豊かな教養を身につける 4. 資格を取る 5. 学歴を得る 6. 課外活動をする 7. 友人を作る 8. 青春を謳歌する 9. その他
17. 繊維学部に入學して、あなたが大学生活に求めている物が満たされましたか。最も適していると思われるものを1つ選んで下さい。	1. 満たされた 2. ある程度満たされた 3. どちらとも言えない 4. あまり満たされなかった 5. 満たされなかった

以下、質問設定項目

【講義等について】 【在学中の取り組みについて】 【卒業研究について】 【英語教育について】
【繊維学部の施設等について】 【在学中の悩みについて】 【卒業後の進路について】 【就職について】 【繊維学部で身につけた能力や財産】 【大学院について】

(出典：繊維学部入試戦略室作成)

③ 共通教育の授業改善

機構では教育の質の改善・向上を図るため、授業改善アンケート、共通教育グッドプラクティスに取り組んでいる。(資料織 50、織 51)

資料織50：学生による授業改善アンケート

2015年(平成27年)10月8日

平成27年度前期全学教育機構「学生による授業改善アンケート」の結果

評価分析室全学教育機構分室

全学教育機構では、平成27年度前期に中間アンケートを行い、学生の要望を確認し、後半の授業が行われた。本結果は、期末に実施されたものによる。

平成27年度前期期末「学生による授業改善アンケート」は、以下の2とおりの方法により実施された。

- a. 総合人間科学系所属の各教員が担当する授業について授業中に用紙に記入する。
- b. 全授業題目を対象としてウェブ上で記入する。

アンケートの質問項目は、用紙・ウェブともに以下のとおりである。

<アンケート質問項目>

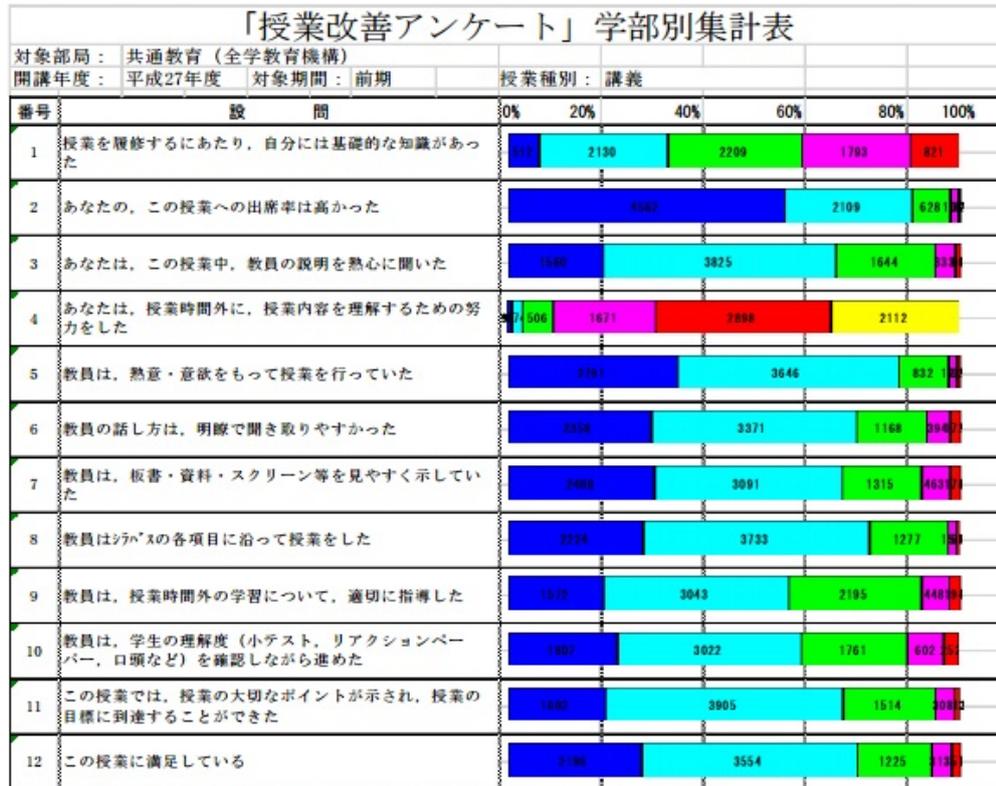
1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識があった(5択)
2. あなたの、この授業への出席率は高かった(5択)
3. あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた(5択)
4. あなたは、この授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした(予習・復習等)(6択)
※4. の選択肢(週4時間以上、週3~4時間、週2~3時間、週1~2時間、週1時間未満、全くしない)
5. 教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた(5択)
6. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった(5択)
7. 教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた(5択)
8. 教員は、シラバスの各項目に沿って授業をした(5択)
9. 教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した(シラバスでの参考文献の提示等)(5択)
10. 教員は、学生の理解度(小テスト、リアクションペーパー、口頭など)を確認しながら進めた(5択)
11. この授業では、授業の大切なポイントが示され、授業の目標に到達することができた(5択)
12. この授業に満足している(5択)
13. この授業について、改善すべきと思う事、教員が工夫をしていると思う事、その他、意見、要望等がありましたら、書いてください(自由記述)

アンケートの結果は、部門長および評価分析室機構分室員が内容について検討・解析した。以下に回答について、科目群ごとにその結果を報告する。(用紙を使ったアンケートの結果についても、ウェブに取込して集計されている。)

1. 全体に関する結果

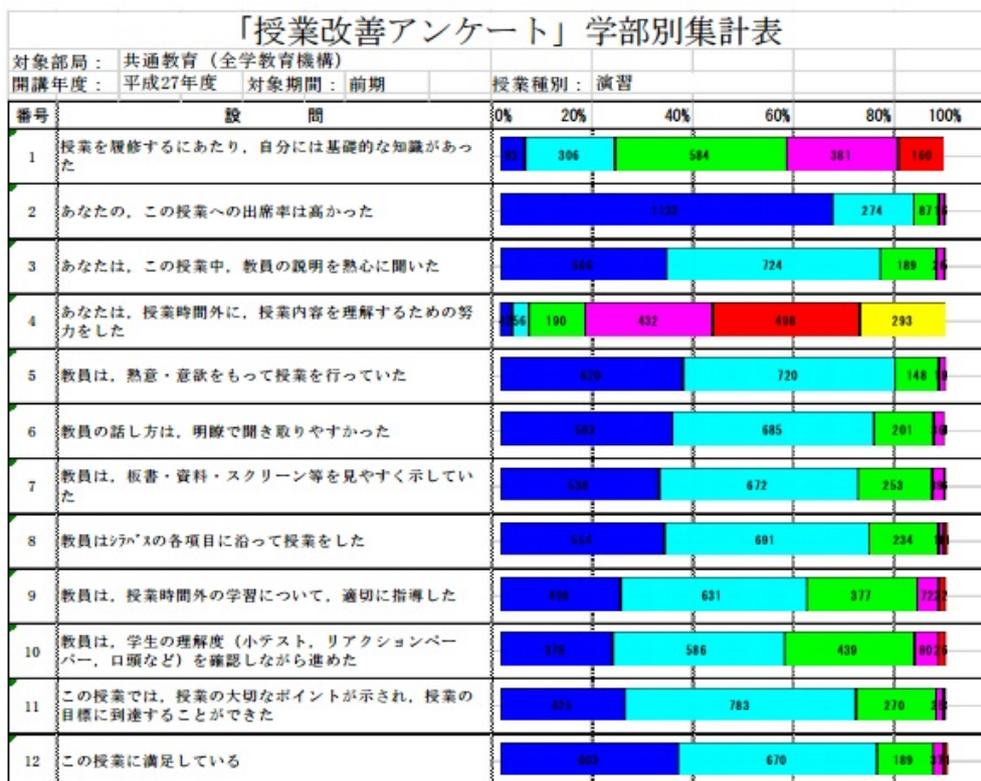
紙媒体によるアンケート実施クラス数を増やしたので、今年度(2015年度)前期の機構授業に対する授業改善期末アンケートの回答率は、2014年度前期の数字と対照させる(2014年、2015年の回答率の順序)と、講義全体：50%, 54%, 演習全体：41%, 49%, 外国語全体：46%, 79%, 実験・実習全体：56%, 76%へと、全ての科目群で増加した。期末アンケートの講義科目、演習科目、外国語科目の集計結果は、図1~3の通り。

図1【講義科目】



青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらともいえない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない
 ※4.の選択肢のみ 青：週4時間以上、水色：週3～4時間、緑：週2～3時間、ピンク：週1～2時間、赤：週1時間未満、黄色：全くしない

図2【演習科目】



(出典：平成27年度前期 共通教育「学生による授業改善アンケート」の結果)

資料織51 共通教育グッドプラクティス

全学教育機構では、企画実施する信州大学の共通教育の教育改善に資するため、すべての共通教育開講科目の中から、優れた実践を「共通教育グッドプラクティス」として毎年選定することとしています。これは、共通教育科目における、優れた取組を表彰し、内容およびその成果をあらゆる機会を捉えて全学に広め、もって共通教育さらに本学教育全体の改善への一助とするものです。

選定の流れ

1. **テーマ決定**
「効果ある授業方法」を中心として、当該年度の募集テーマを決定します。
2. **公募**
テーマに沿って、共通教育で開講する全科目あるいは科目群（複数科目の連携の場合）を対象に、自薦・他薦を問わず募集します。
3. **応募授業のピアレビュー**
応募された取り組みについては、全学教育機構ホームページに掲載し、全学の教員に一定期間ピアレビューを推奨します。
4. **審査**
全学教育機構教務委員会において行います。
5. **選定授業担当者による取組発表**
取組発表会を実施し、選定授業担当者により、取組の概要と要点を発表していただきます。また、表彰式も行われます。

年度	テーマ
H22	信州大学の DP を実現するための共通教育における授業の実践的取組（1つの学位授与の方針（DP）を取り上げ、その実現に向けた、特に効果的な教育実践）
H23	人間力向上に向けた取組（コミュニケーション力・言語力・論理構成力の向上に向けた取組）

H24	男女共同参画の推進に向けての取り組み
H25	授業外学修時間を増やす取り組み
H26	地域課題実践授業の試み
H27	テーマ① 大学における教育内容・方法の改善等について テーマ② アクティブ・ラーニングについて

(出典：全学教育機構提供資料もとに経営企画課にて作成)

(5) 関係者からのニーズを把握する仕組み

平成 26 年に全学で卒業生に対するアンケート調査を実施した。(資料織 52)

資料織 52 卒業生アンケート

平成 26 年 12 月に、信州大学全学部において、卒業後 30 年、卒業後 10 年の卒業生を対象にアンケート調査を行った。繊維学部の調査対象者は 219 名で回収率は 21%であった。

(出典：繊維学部事務作成)

本学部では、オープンキャンパス、高校訪問、ホームカミングデーを実施し、アンケート等を通じて関係者からの学部に対する意見要望を把握している。(資料織 53、織 54、織 55)

データを学部広報室で分析し、教育課程の改善につなげている。(前掲資料織 46、30 頁)

資料織 53 高校生・受験生等からの意見の集約
 オープンキャンパス実施概要(平成 26 年 7 月 27 日開催)

Time Table

		9:00 ~9:45	10:00 ~10:45	11:00 ~11:45	12:00 ~12:45	13:00 ~13:45	14:00 ~14:45	15:00 ~15:45	集合場所	
受付		8:20~14:00								講堂
学部共通	受験生対象 ガイダンス								総合研究棟 7F	
	1、2年生対象 ガイダンス								講義棟2F 28講義室	
	保護者対象 ガイダンス								午前：生協1F 午後：11講義室	
	キャンパスツアー								生協2F	
	相談コーナー								講義棟2F	
	展 示	TEXPO								総合研究棟 1F
疾走するファイバー展									総合研究棟 2F	
資料館									資料館	
繊維・感性工学系	ガイダンス								講義棟3F 32講義室	
	研究室公開								D3棟 H棟	
機械・ロボット学系	ガイダンス								講義棟1F 11講義室	
	研究室ツアー								A棟 H棟	
化学・材料系	ガイダンス								講義棟3F 34講義室	
	応用化学課程 材料化学工学課程 研究室公開								F棟	
	機能高分子学課程 研究紹介								講義棟3F 33講義室	
	材料化学工学課程 ポスター展示								講義棟3F 物理学実験室2	
応用生物科学系	ガイダンス								講義棟2F 28講義室	
	研究室ツアー								I棟 P棟	
昼食・休憩		8:00~休憩所として開放 (9:00~9:45除く) 11:00~13:00 ランチ営業 ~16:00まで休憩所として開放								生協1F
体験実習									H棟610	

体験実習

事前に体験実習に申し込まれた方は、開始時間までに以下の場所に集合してください。

実習テーマ：「感性計測：座りごちってどう測る？」
 担当教員：繊維・感性工学系 吉田宏昭 准教授
 時間：第1回 13:00~14:00 第2回 15:00~16:00
 集合場所：感性工学・バイオエンジニアリング棟（H棟） 6F 610

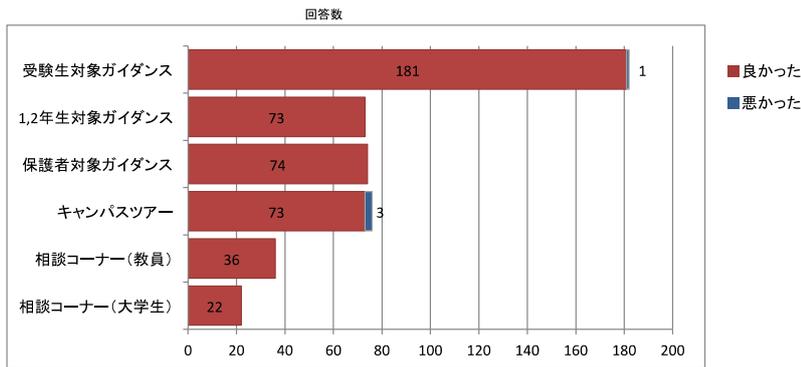


各年度オープンキャンパス参加者数の推移

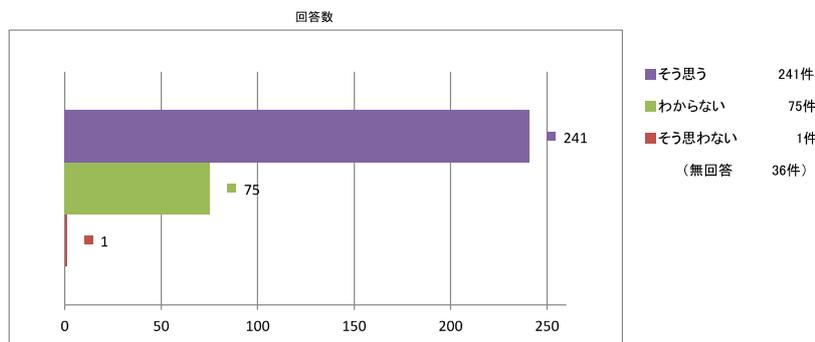
	H22	H23	H24	H25	H26	H27
体験実習	113	147	なし	なし	なし	なし
事前申込者	107	111	491	406	424	490
当日申込者	210	178	40	31	48	63
保護者等	250	244	366	307	383	476
計	680	680	897	744	855	1029

アンケート実施結果(平成 27 年度)

Q9-1 参加したイベントについて、ご回答ください



Q10 オープンキャンパスに参加して、繊維学部を受験しようとする様になりましたか。(回答者が保護者の場合には、「オープンキャンパスに参加してみても子供に受験を勧めたいかどうか」をご回答ください。)



主な感想・意見

- ・ガイダンスが細かく聞くことができ、進学への気持ちが高まった。
- ・繊維・感性工学系の上條研究室で実際に心臓の動きなど計測していただきました。その時は学生の皆様が優しく丁寧に教えてくださり、人間の生理活動+動きの仕組みが良く分かりました。
- ・ガイダンスの発表はどの方も説明がとても上手でわかりやすかったです。面白いところもあり、飽きのこない話でした。
- ・具体的な入試情報や授業内容について詳しい説明が聞けて良かった。
- ・体験実習がとても楽しかったです。学生さんたちの普段の生活や研究室のお話が聞けて良かったです。
- ・相談コーナーがあるのがとてもよかったです。普通ほかの人がいたりして聞きづらいことなく気兼ねなく相談できました。
- ・いたるところで案内をしていただいたり、質問に答えてくださる先生が立っていらしたので、良い印象と、進学しようという意欲を高めることができました。今日はオープンキャンパスをしていただき、ありがとうございました。
- ・信州大学だけにしかない繊維学部ということで、ここでしか学べないようなことをたくさん教えていただきました。今回のオープンキャンパスを通してますます信州大学繊維学部を私の進学先にしたいという思いが湧きました。

(出典:繊維学部広報室作成資料)

資料織 54 長野県外の高校訪問状況

活動実績		
平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
13 県 144 校	111 校訪問 (12 行程 23 名) 愛知 34 校、静岡 20 校、岐阜 12 校、三重 9 校、大阪 6 校、兵庫 6 校、群馬 15 校、新潟 9 校 ※京都 7 校は台風のため訪問中止 ※訪問校は訪問実績、繊維学部在学学生数、過去 5 年間の志願者数、高校偏差値等を参考にして選定。	93 校訪問 (10 行程 20 名) 愛知 30 校、静岡 20 校、岐阜 3 校、三重 9 校、山梨 12 校、群馬 9 校、新潟 9 校、京都 1 校 ※新規で山梨を実施 ※訪問校は訪問実績、繊維学部在学学生数、過去 5 年間の志願者数、高校偏差値等を参考にして選定。

活動実績		
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
115 校訪問 (13 行程 12 名) 愛知 30 校、静岡 20 校、岐阜 3 校、三重 10 校、山梨 11 校、群馬 9 校、新潟 10 校、石川 7 校、富山 7 校、福井 5 校、京都 2 校、滋賀 1 校 ※石川、富山、福井を 3 年ぶりに実施。 ※訪問校は訪問実績、繊維学部在学学生数、過去 5 年間の志願者数、高校偏差値等を参考にして選定。	77 校訪問 (8 行程 9 名) 愛知：6 校 (信大特別見学会意見収集)、静岡：21 校、山梨：10 校、群馬：9 校、富山：8 校、石川：8 校、福井：5 校、新潟：10 校 ※愛知 (見学会の意見収集以外で)、岐阜、三重は信州大学特別見学会に招待したため、訪問しなかった。	97 校訪問 (10 行程 6 名) 愛知：21 校、静岡：12、三重：7、岐阜：10、山梨：8、群馬：10、富山：7、石川：8、福井：5、新潟：9 ※愛知、静岡、三重、岐阜は信州大学特別見学会に招待したが来なかった高校かつ、繊維学部が重視する高校を訪問。 ※訪問校は訪問実績、繊維学部在学学生数、過去 5 年間の志願者数、高校偏差値等を参考にして選定。改組について、H27 年度入試結果、就職状況等の説明を行った。

(出典：繊維学部広報室作成資料)

資料織 55 ホームカミングデー



2014年10月11日(土)開催

信州大学繊維学部 第7回ホームカミングデー Homecoming Day 2014

お帰りなさい。そして、ようこそ、信州大学繊維学部へ！
～ 研究成果講演会 TEXPO 2014 ・ 研究紹介 ・ 卒業生講演会 ～

卒業生と繊維学部、学生の保護者と繊維学部とのつながりを維持・強化していくためのイベントです。
卒業生や保護者の皆様に学部の現状を知っていただき、繊維学部での教育と研究にご支援をお願いします。

日時 2014年10月11日(土) 11:00～17:30 (受付10:00～)
会場 信州大学 繊維学部 **共催** 繊維学部同窓会「千曲会」 **協賛** 信州大学 校友会
申込先 E-mail senshomu@shinshu-u.ac.jp TEL 0268-21-5303 FAX 0268-21-5318
申込バ切 2014年9月26日(金)

マルベリーホール / M棟	講堂 / E棟	キャンパス全域
<p>◆ 歓迎挨拶 11:00～11:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング 「信州真田六文銭太鼓」演奏 ・ 学部長挨拶 「繊維学部の現状」 ・ 同窓会理事長挨拶 「千曲会の学部支援について」  <p>◆ ウェルカムパーティー 11:30～12:15 参加費 無料</p> <p>「展示コーナー」(10:00～17:30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部紹介 ・ 同窓会「千曲会」の紹介 ・ 「千曲会コレクション」 <p>◆ 懇親会 16:00～17:30 参加費 3,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受賞者、受章者の紹介 ・ 経営薬部OB会「Fibers」の演奏 ・ 素歌 	<p>◆ 研究成果講演 13:00～13:30 TEXPO 2014 【58th FRP CON-EX2013論文賞】 「炭素繊維複合材料の開発」(仮題) 鮑 力氏 教授 繊維学部 機能機械工学課程</p> <p>◆ 卒業生講演 13:35～14:10 【富岡製糸場 世界文化遺産登録記念】 「日本の絹文化遺産」(仮題) 藤枝 貴和 氏 (学歴15卒) 群馬県立日本絹の里 館長 宮内庁紅葉山御養蚕所 主任</p> <p>◆ 学生ミニ講演 14:10～14:30 【学生ベンチャービジネスコンテスト】 【受賞研究紹介】</p>  <p>◆ 課程(学科)別ミーティング 14:35～15:50</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究紹介 ・ 研究室見学ツアー ・ 課程説明(修学状況、進路状況など) ・ 研究室OB会 など 	<p>◆ 学部資料展示 10:00～16:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Texpo「研究成果展」(N棟1F) ・ 疾走するファイバー展 (N棟2F) ・ 繊維学部 資料館 (旧貯籾庫) <p>◆ キャンパスツアー 12:15～13:00 集合場所: マルベリーホール前広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 繊維学部資料館 ・ Texpo「研究成果展」 ・ Fii「産学連携研究施設」 <p>特別企画</p> <p>◆ 「真田の郷」見学ツアー 10月12日(日) 9:00～12:30 (予定)</p> <p>2016年NHK大河ドラマ「真田丸」放送決定を記念して見学ツアーを企画しました。 「真田氏歴史館」、「長谷寺」、「信綱寺」など真田幸村ゆかりの史跡をガイドと一緒に廻ります。</p> <p>募集人数 先着20名 参加費 入館料300円(予定)</p> 

(出典:第7回ホームカミングデーポスター)

(水準) 期待される水準を上回る
(判断理由)

繊維・ファイバー工学の学問分野の発展に呼応した学際領域の教育分野を充実させるため、平成24年度に3系9課程からなる教育実施体制を4系に組換えた。(資料織15、織27) 4系という入試の入り口は、高校の自然科学基礎科目である物理、化学、生物、および繊維学部特有な繊維・感性工学に対応しており、受験生にとって自分が志望する系を選択しやすいメリットがあり、受験生の志願倍率は3.5-4.7倍と安定している。(資料織21) 教育の内容と成果を絶えず検証し(資料織48、織49)、改善していく仕組みを学部内に構築しており(資料織46)、学生相談室の体制も整備した。(資料織36)

以上の点より、繊維学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育活動の状況は、繊維学部が想定している関係者が期待する水準を上回ると判断する。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

(1) 体系的な教育課程の編成

① 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に基づく教育課程の編成

本学部では、学科ごとに DP に基づき、CP に沿った教育課程を編成している。各授業の DP への対応状況を、カリキュラム・マップ、シラバスにより学生に明示している。(資料 繊維 56、繊維 57)

資料 繊維 56 学位授与の方針マップ(カリキュラム・マップ)抜粋

授業名	① 自己啓発能力の向上	② 社会貢献能力の向上	③ 国際化能力の向上	④ 環境問題への関心と行動力	⑤ 専門知識・技能の習得	⑥ 問題発見・解決能力	⑦ 情報活用能力	⑧ 協働能力	⑨ 表現能力	⑩ 生涯学習能力	⑪ 健康・安全意識	⑫ 倫理観	⑬ 創造力	⑭ 総合的な能力
理科指導法特論														
介護等体験の意義と実際														
インターンシップ(織)														
インターンシップ(機)														
インターンシップ(化)														
インターンシップ(生)														
環境内部監査実習														
環境マネジメント														
ビジネスアドミニストレーション														
基礎化学(生・織)														

(出典: 繊維学部教務委員会作成)

資料 繊維 57 シラバス

「(1) 授業のねらい」において、授業で得られる学位授与の方針の要素を明らかにしている。

登録コード	F2030
授業科目	機器分析 (応化)
英文授業名	Instrumental Analysis
単位数	2
講義期間	通年
曜日・時限	集中・不定期
担当教員	本吉谷 二郎
副担当	渡邊 真志・西井 良典
対象学生	化学・材料系4年 (応用化学課程)
講義室	授業形態
講義	講義
備考	
(1) 授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎: 全学共通・化学及び化学関連分野の専門技術を修得し、関連する諸問題を解決する能力 【授業の達成目標】 ・研究を遂行する上で必要な各種測定手法を理解しそれを研究に活かすことが出来る。 【授業のねらい】 機器分析の学習を通じ、学習・教育目標E「物質・材料に関する基礎実験技術と結果の取扱い、および実験結果を考察する方法の修得」を目指す。	分光機器についてデータ解析のレポートを課し、適切な解析がどの程度できているかを判断のポイントとして評価する。 (5) 履修上の注意 研究遂行上に必要となるデータ解析のノウハウを得るために重要な授業なので、真剣に取り組む事。 (6) 質問、相談への対応 その場での質問が最も望ましい。 (7) 学生へのメッセージ 機器分析は分光学の原理に基づいているので、3年前期で開講された「分光学」の内容と関係づけられれば、理解は深まる。 (8) その他
(2) 授業の概要 現代化学においては、原子・分子の同定や性質の解明のため、様々な分光学的手法が用いられている。そのような分光学的データを適切に解析するためには、それらの手法がどのような原理に基づいているかを理解することはもちろんであるが、データ解析に必要なノウハウの獲得も重要である。 そこで、現代化学において用いられている様々な分光機器により得られる実際のデータを題材とし、データ解析の具体的な手法について説明する。	
(3) 授業計画 以下の分光機器についてデータ解析の手法を学ぶ (順不同)。 ・質量分析 (2回) ・X線回折 (2回) ・電子顕微鏡 (1回) ・赤外線吸収 (1回) ・ラマン散乱 (1回) ・可視・紫外吸収 (2回) ・けい光・りん光 (1回) ・NMR (4回) ・ESR (1回)	【教科書】 【参考書】 P. W. Atkins 著 千原秀昭・中村亘男 訳「アトキンス物理化学(上・下) 第8版」(東京化学同人)
(4) 成績評価の方法	

(出典: 繊維学部シラバス)

専門科目のシラバスは、各教員がシラバスガイドラインに従って作成し、教務委員会で点検している。(資料織 58、織 59)

資料織58 シラバスガイドライン

このガイドラインは、信州大学で開講されるすべての授業のシラバスが備えるべき必須条件である。ただし、下記に記載する事柄をシラバスにおいて具体的にどのように表記するかについては、各学部学科の専門教育課程及び共通教育課程（以下、各学部）によって異なってくるため、より具体的な「シラバス作成の手引き」のようなものは、必要に応じて各学部において作成するものとする。

大学並びに各学部・学科等の定める『学位授与の方針』は、それぞれの教育課程の卒業生が卒業時に確実に身に付けていることが求められる能力・知識のリストであり、個々の授業は、学生が、大学並びに各学部・学科の『学位授与の方針』の能力・知識を身に付けるために配置されている。したがって、個々の授業が『学位授与の方針』のどの部分をどういう形で担っているのかをシラバスで明らかにするものとする。

『学位授与の方針』で定める能力・知識は、授業等を通して、学生が自分の努力によって手に入れるべきものである。シラバスでは、課題や小試験の内容と回数等、当該授業が担う『学位授与の方針』に至るまでに学生がしなければならないことを、学生が明確に理解できるように記述するものとする。特に、事前・事後学習のしかたについては、「受講生には、1単位当たり「45時間から授業時間を引いた時間量（下記の例参照）」の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、授業目標到達に向けて学生が何をしなければならないかを明確にする。その上で、それらが成績評価においてどのように扱われるのか、配点等を明らかにするものとする。

以上の考え方に立ち、以下の6項目を信州大学の授業のシラバスの必須記述項目とする。なお、シラバス作成に先立つ授業設計に当たっては、当該授業のカリキュラムの中での位置づけ・他の授業との関連を意識するものとする。

① 授業の基本的な情報

授業名、担当者氏名、教室、開講日時（何曜日何時限目）、単位数、教科書、参考書。その他、各学部の必要に応じて記載する。

② 授業が担う大学並びに学部・学科等の『学位授与の方針』の項目と、授業の達成目標

授業の達成目標は、この授業が担う『学位授与の方針』の項目をこの授業の言葉で言い換えたものとし、(知識面、スキル面、態度面の組み合わせで、またはいずれかの面で)「○○ができるようになる」という形を標準とする。

③ 成績評価の方法

受講者が②の達成目標に到達するために通っていく過程（課題や小試験等）と、到達したことを示すエビデンス（最終レポートや期末試験等）のそれぞれの内容と配点を記述する。

④ 成績評価の基準

この項では、「何ができていれば、授業の達成目標の水準から見て『卓越している』／『かなり上にある』／『やや上にある』／『その水準にある』』と言えるのかを記述する。

筆記試験の場合の例：

授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」

レポートの場合の例：

(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。

⑤ 事前・事後学習に関する情報

「受講生には、1単位当たり『45時間から授業時間を引いた時間量』の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、15回の授業に対して受講生がしなければならない予習・復習も授業の一部であるものとして、その授業での事前・事後の自主学習に関する計画を記述する。

⑥ 授業計画

15回の授業のおよその内容と順番、課される課題や小試験等のスケジュールを記述する。課題については、提出締切も示す。評価のための最終試験を行う場合は、15回の授業とは別に

行う。

⑦履修上の注意

当該の授業での教科書や参考書の利用方法，注意事項など

⑧オフィスアワー及び授業担当者の連絡先

(出典：信州大学事務部作成)

資料織59 教務委員会によるシラバス点検

平成27年3月27日
新旧教務委員 各位
教務委員長
平林 公男

平成27年度学部専門科目のシラバス点検について(依頼)

平成27年3月13日付で学部係から授業担当教員宛に依頼のありましたシラバス入力について、このほど入力期間が終了しましたので、現時点におけるシラバスデータを送付いたします。については各系・課程別専門科目につきまして、「信州大学シラバスガイドライン」に沿った記述がなされているか点検していただきますようお願いいたします。学部共通科目については当職と副委員長が行います。なお、各授業担当教員へは点検期間として3月31日まで入力可能な状態に設定してありますのでご承知置きくださいますようお願いいたします。

○点検期間：3月27日(金)～3月31日(火)

○シラバスWeb公開：4月1日(水)～

(出典：繊維学部事務部作成)

②専門科目

本学授業は、学則により共通教育科目と専門科目に区分している。(前掲資料織 17、12頁)

共通教育と自然科学基礎科目を1年次に修得し、2年次以降の専門教育へと段階的に履修するように構成されている。(資料織 60)

資料織60 繊維学部規程

(教育課程)

第4条 本学部における教育課程は、共通教育科目及び専門科目をもって編成する。

(教育課程の履修)

第5条 授業科目を、必修科目、選択科目及び自由科目に分ける。

2 共通教育科目を除く授業科目及びその単位数は、別表第1のとおりとする。

[別表第1-省略]

3 卒業に必要な単位数は、別表第2のとおりとする。

[別表第2-省略]

4 履修の方法については、別に定める。

5 第1年次において、前項により定めた所定の単位を修得しない者は、第2年次以降の授業科目を履修させない。ただし、審査の上、第2年次以降の授業科目の履修を認められた者は、この限りではない。

(単位の計算方法)

第6条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、その授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によるものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。

2 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前項各号に規定する基準により算定した時間の授業をもって1単位とする。

3 前2項の規定にかかわらず、卒業研究については、これに必要な学修等の成果を考慮して、単位数を定める。

(履修の手続)

第7条 学生は、学期の始めに履修しようとする授業科目及び単位数を担当教員に届け出なければならない。

(他大学等又は外国の大学等における履修等)

第8条 学則第50条第1項の規定により他の大学若しくは短期大学(以下「他大学等」という。)の授業科目を履修しようとする者又は学則第61条第1項の規定により外国の大学若しくは短期大学(以下

「外国の大学等」という。)に留学しようとする者は、所定の様式により、学部長に願い出なければならない。

[学則第50条第1項-省略] [学則第61条第1項-省略]

2 前項の規定により願い出があったときは、学部長は、当該履修又は留学を教育研究上有益と認め、かつ、当該大学等と事前に協議の上、受入れが許可された場合に限り、教授会の議を経て、学長にその許可を申請するものとする。

(出典：信州大学規程集)

本学部の専門科目は、自然科学の基盤の上に、繊維・ファイバーの知識と技術及びそれらの応用を習得させる内容となっている。各系では、系共通の教育から課程分属後の教育への流れの中で、専門教育課程を構築している。また、全学部生に必要な知識を身につけさせるため、学部共通科目を設けている。(資料織 61)

資料織 61 学部共通科目

科目名	開講年次	ねらい
繊維科学の基礎	1年次	繊維の世界とその広がりを教え、繊維学部生としてのアイデンティティを持つ。
安全教育	2年次	実験・実習における事故・災害を防ぐため、必要な最小限知っておくべき初歩的な知識を学習する。
技術者倫理	3年次	自然や社会を多面的に捉え、それに技術がおよぼす影響を理解する能力を習得する。
技術経営論	3年次	企業の生産活動の概要とものづくり事業の枠組みについて理解する。
ビジネスマネジメント	3年次	企業の生産技術に視点を置いて、会社経営の基本的な問題を理解する。

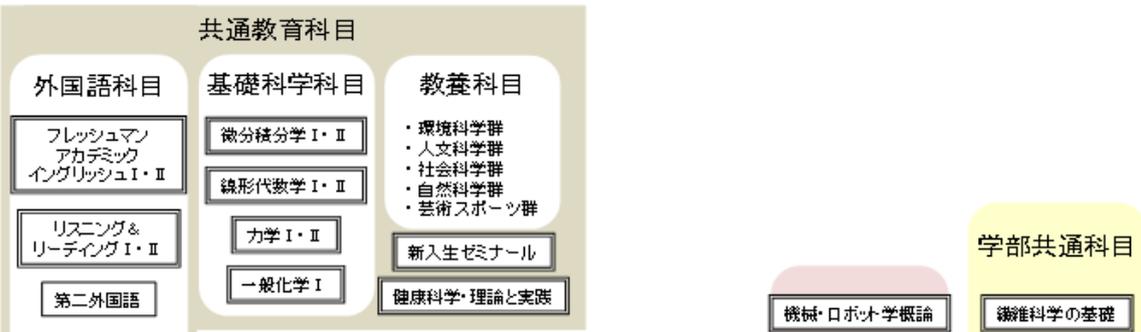
(出典：繊維学部シラバスより抜粋)

各課程は DP と CP を定め、それに基づいてカリキュラムを編成し、さらに授業科目体系を学生にわかりやすく示すため履修マップを作成している。(資料織 62)

資料織62 履修マップの例
 ○バイオエンジニアリング課程

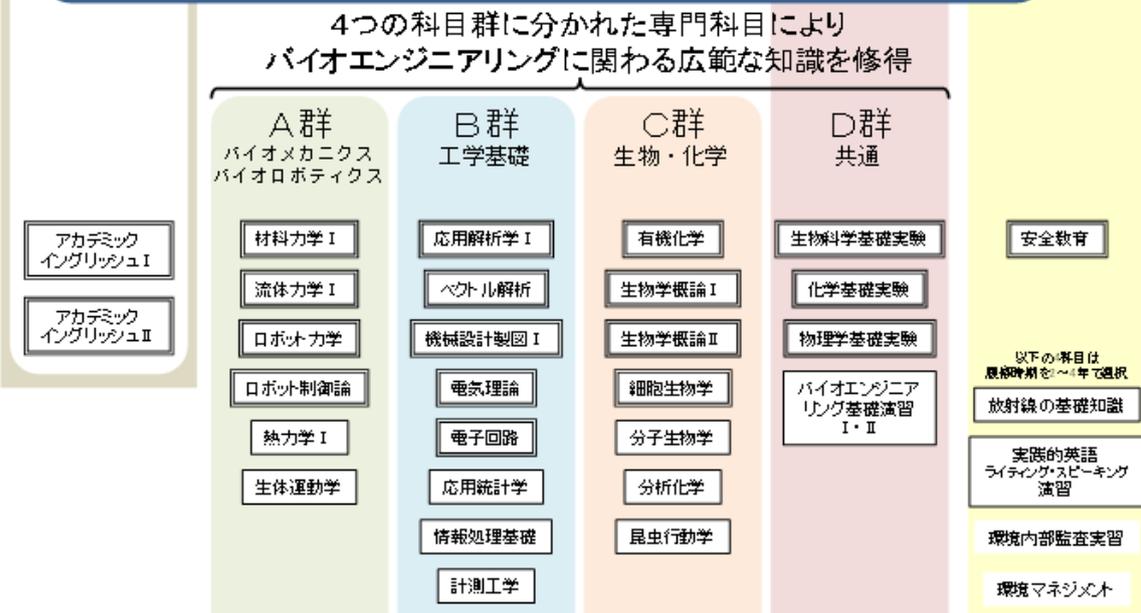
バイオエンジニアリング課程 カリキュラム

1
年次

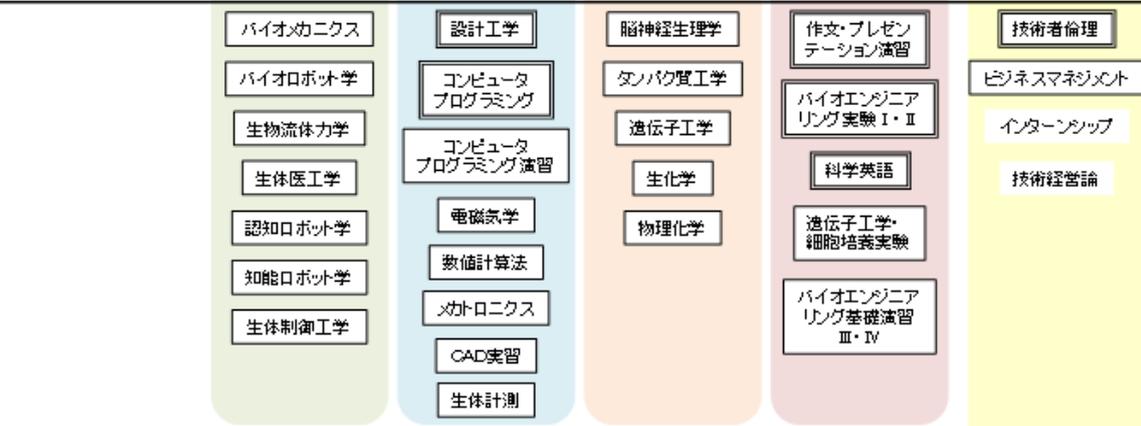


課程分属

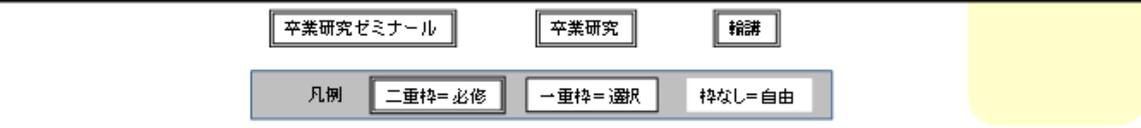
2
年次



3
年次



4
年次



○機能高分子学課程

機能高分子学課程 教育プログラム (平成26年度入学生)

	1年次	2年次	3年次	4年次
機能高分子学総合	新入生ゼミナール (生活の中の高分子)		インターンシップ 機能高分子学特別講義	卒業研究 I 卒業研究 II
英語	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II リスニング & リーディング I リスニング & リーディング II	アカデミック・イングリッシュ I アカデミック・イングリッシュ II 実践的英語ライティング・スピーキング演習	専門英語 実践的英語ライティング・スピーキング演習	高分子化学英語 実践的英語ライティング・スピーキング演習
一般教育	繊維科学の基礎 (材料の科学と技術 I) (材料の科学と技術 II) (応用化学 千夜一夜) (問題解決入門ゼミナール)			
数学基礎	微分積分学 I 微分積分学 II 線形代数学 I	工学基礎 安全教育 技術者基礎概論 放射線の基礎知識	技術者倫理 ビジネスマネジメント 環境プロセス工学 化学工学 技術経営論 放射線の基礎知識	放射線の基礎知識
物理基礎	力学	電磁気学	物性 電気化学 量子力学 量子化学 反応速度論 群論とスペクトル 高分子機器分析 統計熱力学	
化学基礎	一般化学 I 一般化学 II	無機化学 I 無機化学 II 有機化学 I 有機化学 II 有機化学 III 生物化学 I 生物化学 II 高分子物性 I	高分子材料・分子集合体 合成高分子化学 I 合成高分子化学 II 高分子物性 II 生物化学 III 生物化学 IV 高分子工業化学 分子集合化学 光・電子機能化学 有機化学 IV 医用高分子機能学 ファイバー機能工学 コロイド化学 膜機能化学	
工業数学 情報技術	情報科学演習	物理化学数学	専門基礎 熱力学 I 熱力学 II 分析化学 移動現象論	
		演習・実験 化学演習 I 化学演習 II 基礎化学実験 I 基礎化学実験 II	機能高分子学実験 I 機能高分子学実験 II	機能高分子学特別演習 I 機能高分子学特別演習 II

(出典：繊維学部事務部作成)

③ 共通教育科目

共通教育科目は、学士課程共通の学位授与の方針に基づき開講し、カリキュラム・マップ、シラバスにより学生に明示している。(資料織 63、織 64、織 65)

資料織 63 信州大学学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性的な人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育(教養教育、基礎教育)、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を定めます。

豊かな人間性

- ・みずからを他者や社会との関わりの中かで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- ・理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

人類知の継承

- ・人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】
- ・世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- ・科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

社会人としての基礎力

- ・日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
 - ・対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
- ・多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】
- ・みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】

科学的・学問的思考

- ・自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
- ・専門学問分野における知識・技能を備え、それらを活用できる【専門知識と応用力】
- ・専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】

環境マインド

- ・信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】
- ・自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
 - ・地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】

(出典：信州大学ホームページ「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」)

資料織64 学位授与の方針マップ（共通教育）

「学位授与の方針」マップ

検索条件を指定して「検索」をクリックしてください。

開講部局	共通教育(全学教育機構)	
開講年度	2014	年度(西暦)
開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	
学位授与の方針の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 全学士課程共通	

201～300件 (全1260件中)

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マイ	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用能力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力
03000	脳の不思議を探る(認知神経科学入門)															
03004	臨床心理学															
03007	体と心のリハビリテーションを考えるゼミ															
03089	「考える」ゼミ															
03100	食と植物の文化論															
03101	動物と私たちの暮らし															
03102	応用生物学への招待															
03103	応用生物学への招待															
03197	土壌学ゼミ															
03198	自然誌・博物学ゼミ															
03199	植物生態学ゼミ															
03200	教養としての物理学															
03201	宇宙から原子への旅															
03203	物理学の世界[SUNS]															
03205	身近な化学															
03207	応用化学～千夜一夜～															
03212	物理への誘い															
03292	化学ゼミ															
03293	量子化学入門ゼミ															
03296	化学計算入門ゼミ															
03300	「物質と学の世界」ゼミ															

(出典：信州大学シラバス検索システム)

資料織65 共通教育シラバス

時間割コード	01088		担当教員	松岡 幸司	
授業科目	グローバルに生きるゼミ		英文授業名	Global Awareness Seminar	
	単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限
					木曜・4時限
	講義室	共通教育211演習室	授業形態	演習	備考
精神と思想	<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通 ・◎みずから他者や社会との関わりをなかで捉え、自己啓発に努めることができる。【自己認識・自己啓発マインド】</p> <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか、という問いに対して、自分の生き方としてとらえ、説明できるようになる。 <p>【授業のねらい】</p> <p>名前のとおり「グローバルに生きる」ということを「自分の問題として考える」ゼミです。</p> <p>社会のグローバル化が当然のこととされ、グローバルな人材として社会で活躍することが求められている時代になっていますが、イメージが先行してあいまいな部分が多いように思えます。そのイメージだけで漠然とした活動をしていても結果として「グローバル化」は成りませんし、「グローバルな人材」にもなりません。例えば、英語ができてグローバルな人材ではありませんし、逆に、英語がそれほどできなくてもグローバルな人材として活躍できます。</p> <p>そこでこのゼミでは：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか？ ・現実的な問題として、自分にとっては具体的にどのようなものなのか？ <p>この二点について、「自分としての答え」を見つけ、自分の生き方を考え、これからの学生生活の目標や目的を明確にすることがこのゼミのねらいです。また、実際に海外に行く（留学、出張）ということはどういうことなのか、ということを実践的に考えることを通して、異文化理解・受容を促進し、社会的な行動規範についても理解を深めます。</p> <p>最終的には、単なる情報ではなく、自分の生き方としてグローバル化というものをとらえ、説明できるようになってもらいます。</p> <p>(2)授業の概要</p> <p>「授業のねらい」に書いたような性格上、この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心になります。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求します。（その意味では、受け身的な態度では受講することはできません。）</p> <p>毎回の授業の大まかな流れは、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。 2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。 3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。 4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらい、（コメントをつけて返却し、それを次の授業から活かしてもらう。） <p>(3)授業のキーワード</p>		<p>グローバル、異文化理解、自己認識</p> <p>(4)授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」 2-4. グローバルな人材とは？（自分の問題として考える） 5-6. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1) 7-8. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)（担当：Ruzieika） 9. グループ発表 10-15. 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。 <p>☆ 個人発表（試験期間終了直後に行います）</p> <p>(5)成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業終了後の提出物：30% ・グループ発表（相互評価+教員による評価）：30% ・個人発表（相互評価+教員による評価）：20% ・個人発表の報告書：20% <p>(6)履修上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる「受講」ではなく「積極的参加」が求められます。最初は難しいと思いますが、自分で考え、ディスカッションをし、自分で、自分の答えを見つけることが求められます。 ・グローバルに生きたい、という意識の有無に関係なく、真剣に取り組む意志のある学生の参加は歓迎です。 ・毎回の授業は密度が高くなりますし、毎回の課題もありますので、「適当に済ます」ということでは参加できません。それでも、困難な点については、教員がサポートしますので、積極的に質問や相談をしてください。 <p>(7)質問、相談への対応</p> <p>オフィスアワーについては、初回の授業で伝えます。</p> <p>研究室は、共通教育南棟3階にありますので、質問や相談は、気軽に訪ねてください。ただ、事前にメール連絡をしておいた方が確実です。</p> <p>松岡：maulwurf@shinshu-u.ac.jp ルジチカ：david2@shinshu-u.ac.jp</p> <p>【教科書】 特に指定のものはありません。授業は主にプリントを用いて進めます。</p> <p>【参考書】 授業時にその都度紹介していきます。</p>		

(出典：シラバス)

(2) 教育方法・学生支援の工夫

① グローバル化に対応した英語教育

学部内に英語教育改善ワーキングチームを常設し、TOEIC テストを指標に用いた独自の英語教育プログラムを実施している。(資料織 66、織 67)

資料織66 英語教育改善ワーキングチーム

ワーキングチーム員

- 平林公男教授 (評議員)
- 山口昌樹教授
- マイケル・ハニウッド准教授

業務内容

- TOEIC(LR,SW)試験の計画実施
- TOEIC試験スコアの分析および学生/教職員への広報
- 英語教育に関する講演会・FDの企画運営
- 英語教育に関する学生相談
- 情報収集(英語教育に関するセミナー参加など)

(出典：繊維学部事務局作成資料)

資料織67 繊維学部の英語教育プログラム

- ・ 新入生に対してTOEIC-Bridgeテスト(基礎的な英語コミュニケーション能力を評価する簡易テスト)を受検させ、そのスコアに合った英語授業のクラス分けを行い、学力に見合った学習環境を提供している。
- ・ 1, 2年生に対しては、年に2回、TOEIC-IPテストの受験を義務化。
- ・ 課外の自主学習用にe-learning教材を用意(英語学習用は民間企業より導入、科学英語用教材は自主開発)
- ・ 2年生の英語クラスでは、e-learningを利用した課外学習を課し毎回授業の中で小テストを実施。
- ・ 平成23年度より高年次用特別クラスを設置しTOEICスコア500点以上の者に受講資格を付与、平成25年度よりTOEICスコア優秀者に対して学部長表彰の実施、などのインセンティブを用意
- ・ 学生のTOEICスコアを多面的に解析し、個々の学生への指導助言を行うとともに、英語授業担当教員に対して受講者の成績データを提供し、次年度の授業改善に役立てている。この様に英語教育において学部独自のPDCAサイクルを確立している。また、英語教育に関する取組とその成果は、FDの一貫として毎年度繊維学部教授会で報告している。

学部英語カリキュラムの構成

大学院 英語課目			
4年	専門英語Ⅱ	Writing	書
3年	専門英語Ⅰ	Debate/Negotiation	話
2年	アカデミック英語Ⅱ(中、上)		聴・読
1年	アカデミック英語Ⅰ(初、中、上)		聴・読

授業(1h): 自学(2h)

TOEICで達成度を測る

1, 2年: 自学(e-learning)を利用した自学の習慣付け

プログラムの運営・支援体制
 特任プログラムディレクター
 アシスタント英語インストラクター
 e-Learning学習支援システムコーディネータ

「学生にもとめる英語の能力」
(目標値)

- ・ 卒業時TOEIC550点以上を求めたい。
- 目標は600点達成(就職の際、大変有利)
- 650点を超えると、海外の大学、大学院への留学の道が開ける。

計画(半年で25点レベルup)

入学時(400点: 大学生の全国平均: 理系)	
1年生 前期425点 後期450点	
2年生 前期475点 後期500点	
3年生 前期525点 後期550点	
卒業時 575~600点	

- ・ 学習支援体制が整備され次第、卒業要件として450点を設定したい。

(出典：平成26年度新入生保護者説明会資料)

上級者用英語演習の年度別受講者数とシラバス

「実践的英語ライティング・スピーキング演習」年度別受講者数

開講年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27*
受講者数(人)	未開講	16	13	19	17	25

*実践的英語ライティング・スピーキング演習 A (前期開講科目のみ)

登録コード	FZ080		担当教員	HONWOOD MICHAEL ANDREW JAMES		
授業科目	実践的英語ライティング・スピーキング演習			副担当		
英文授業名	Practical English Writing and Speaking			対象学生	学部3～4年	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・5時限	
講義室	繊維25番講義室	授業形態	演習	備考		
<p>(1) 授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通 【授業の達成目標】 【授業のねらい】 The purpose of this class is to familiarize participants with the structure and test of TOEIC SW TEST, and empower them to respond to each problem to the best of their ability in a way that maximizes their score. Participants must have sufficient reading and listening skill at least of TOEIC score 500 level. The level demonstrates a functional level of competence.</p> <p>(2) 授業の概要 With business globalization accelerating so fast, in great demand are engineers with practical English communication skill. This course will focus on English production skill, namely, speaking and writing, in business environment. You will learn how to grasp contents of English contents such as e-mails, reports and memoranda fast and accurately and respond verbally and in writing quickly. You will learn how to propose solutions to various problems typically occurring in business situation.</p> <p>(3) 授業計画 1. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 1 QUESTION Read a text aloud fluently. TOEIC WRITING TEST: TYPE 1 QUESTION Write a sentence based on a picture. 2. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 2 QUESTION Describe a picture - Giving information about a scene and speculating with details. TOEIC WRITING TEST: TYPE 2 QUESTION Respond to a written request. 3. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 3 QUESTION Respond to questions - Saying as much as you can in the time allowed. TOEIC WRITING TEST: TYPE 3 QUESTION Write an opinion essay A of at least 300 words</p>				<p>4. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 4 QUESTION Respond to questions using information provided TOEIC WRITING TEST: TYPE 3 QUESTION Write an opinion essay B- Planning, writing and revising the essay within the allotted 30 minutes. 5. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 5 QUESTION Propose an appropriate solution in an intelligible and coherent manner. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 6 QUESTION Express an opinion supported by appropriate reasons, arguments and detail.</p> <p>(4) 成績評価の方法 TOEIC SW Test or equivalent test will be used to for course evaluation.</p> <p>(5) 履修上の注意 ・TOEIC score over 500 is required. ・Notebook PC will be used in class.</p> <p>(6) 質問,相談への対応 I will be available to meet with students on Wednesday from 12:15-13:00 on weeks when lectures are held. My office is Room 409 in Building H. I can meet at another time by appointment. Please contact me by e-mail at mike@hishu-u.ac.jp to arrange such an appointment.</p> <p>(7) 学生へのメッセージ</p> <p>(8) その他</p> <p>【教科書】 （一覽参照） 【参考書】</p>		

(出典：繊維学部授業シラバス)

TOEIC-SW試験の受験料補助実施要項

TOEICスピーキング・ライティングテスト

急速にニーズが高まっている**英語の発信スキル**を評価する

TOEIC-SWテストを次の通り実施します。

TOEIC-IPテスト500点をクリアしている人は是非チャレンジして下さい。新しい未来が開きます。

受験料の一部を学部が負担します。

受験者を対象に「TOEIC-SW受験特訓」を1月に行います。

- 1. テスト実施日時・会場 1月15日(木) 16:30 総研棟ミーティングルーム1
- 2. **申し込み期間**: 12月8日(月)～12月15日(月)
- 3. 受験申し込み: 学務係カウンター。TOEICスコア票のコピーが必要です。
- 4. **受験料と受験料補助**
 受験料: 8800円 (12月19日までに生協で支払い)
受験料補助 4400円を補助します(実践的英語SW演習科目受講者を優先)。
 補助金は受験の確認後、口座に振り込まれます。
 受験者が20名を超えた場合は、TOEICスコアにより対象者を決めます。
 過去に、SWの補助を受けたことのある学生は、補助の対象にはなりません。
 補助の対象にならなかった場合、申し込みをキャンセルできます。

年度ごとTOEIC-SW受験料補助者数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
補助対象者数 (人)	11	10	13	18	12	18

(出典：英語教育改善ワーキングチーム作成資料)

② 海外大学との連携強化による学生の海外留学支援

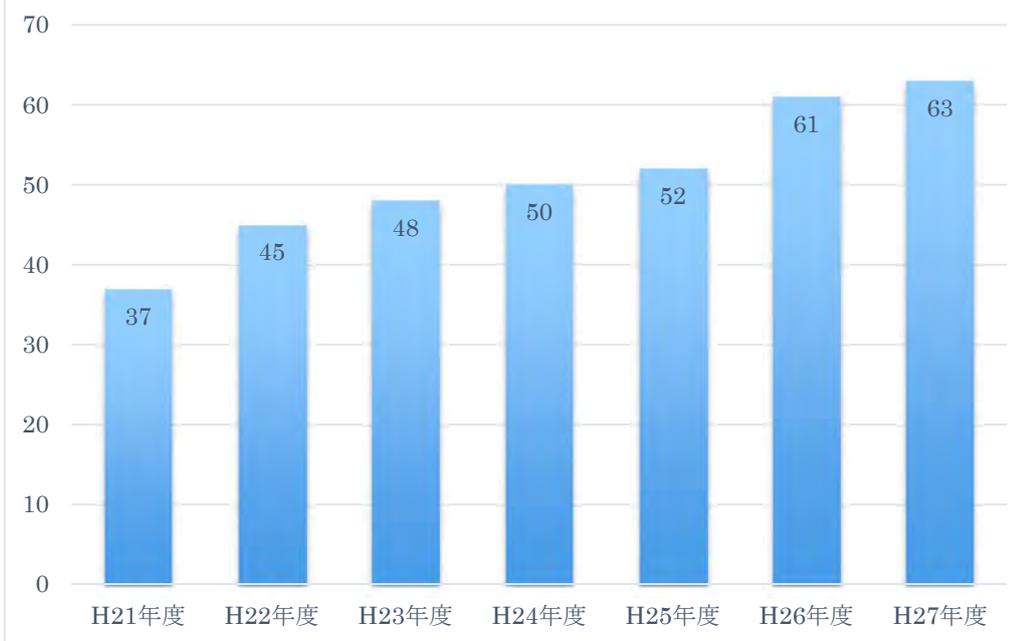
海外のファイバー工学分野の大学と交流協定を結び、学生の留学機会の拡大に努めてきた。協定校数は第1期最終年度の37から63に増加した。(資料織68)

資料織68 繊維学部の学術交流大学(ファイバー工学国際ネットワーク)

信州大学繊維学部 学術交流協定校・機関一覧「ファイバー工学国際ネットワーク」



海外の連携協定校数の推移



(出典: 繊維学部国際交流推進室作成資料)

国際交流推進室では以下のような支援活動を行っている。(資料織 69、織 70)

資料織69 繊維学部国際交流推進室

■国際交流推進室員構成

室員(室長)	下坂 誠	生物機能科学課程
室員(副室長)	平林公男	生物資源・環境科学課程
室員(副室長)	金 翼水	機能機械学課程
室員	鮑 力民	機能機械学課程
室員	ハニウツド マイケル	感性工学課程
室員	平田雄一	応用化学課程
室員	金井博幸	先進繊維工学課程
室員	福長 博	材料化学工学課程
室員	マクナミー キャシー	応用化学課程
室員	トッド パタキ	バイオエンジニアリング課程
室員	北澤 ふくみ	国際交流グローバルデスク
室員	竹鼻 円	学務係

(活動内容)

- ・年2回の留学説明会(留学体験者の報告会を兼ねる)(資料75)
- ・週2回のフランス語講座の開講(フランスへの留学希望者支援)(資料75)
- ・週2回の英会話サロン開催(学生に英語を使う機会を与える)
- ・グローバルデスク(海外連携支援業務者)による留学相談(随時受付)
- ・海外大学、研究機関との交流協定の締結、更新
- ・国際交流活動のデータベース作成
- ・学部案内英語版パンフレット作成
- ・学部ホームページを通じた国際交流活動状況の広報
- ・交換留学生の派遣、受入れの交渉
- ・留学生ガイダンスの実施
- ・留学生研修旅行の企画運営
- ・留学生に対する奨学金の案内、申請支援
- ・国際交流ニュースの発行

(出典：繊維学部国際交流推進室作成資料)

資料織70 海外留学説明会とフランス語講座の案内

平成23年度 第2回
海外留学説明会
(上田キャンパス)
10月21日(金) 14:40-17:50
繊維学部 講義棟
10番講義室にて
予約不要
入退室自由

<前半: 14:40-16:10>
留学全般についての説明のほか、交換留学、長期派遣留学制度、繊維学部独自の留学制度について重点的に説明します。また、奨学金情報や、就職活動との関連についても資料配布します。質問歓迎。

<後半: 16:20-17:50>
留学経験者による体験談、アドバイスが聞けます。質問歓迎。留学への理解、関心をさらに深めるチャンスです。
○交換留学(ENSAIT/フランス、マツ(工科大)イ、予定)
○長期派遣(オーストラリア大学マ、イ、ア、リカ)
※信州大学繊維学部を卒業後、奨学金を得て、修士・博士号を海外で取得した原幸宏さんにお話しいただけます。

【詳細・お問い合わせ】
信州大学国際交流センター(SUIC)
Tel: 0263-37-3365 / Email: suic@shinshu-u.ac.jp
http://www.shinshu-u.ac.jp/ins0tu0on/suic/

国際交流推進室主催
フランス語講座
~フランスに留学して繊維を学ぼう~
第1回 2011年9月25日 16:20~17:50
日時: 毎週 **木曜日、金曜日 16:20~17:50**
場所: 講義棟1階国際交流室
開講回数: 後期 02回(予定)、終了時期(12月)
対象者: 学部生・大学院生・教職員で9: ンス5 興味6 あ7方

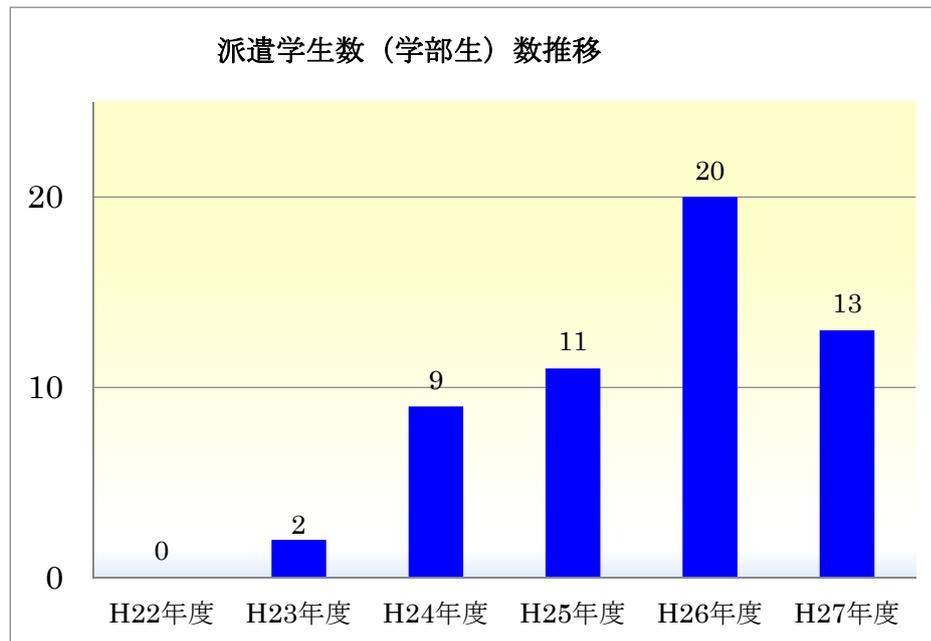
2009年後期に開講したフランス語講座の内容をさらに充実し、坂本聖子講師による[入門・少し進んだコース]週2回のフランス語講座として再開いたします。
学務係で受講登録をお願いします。
講座定員20名(先着順)。

問い合わせ先: 学務G(国際交流担当まで)

(出典：繊維学部国際交流推進室作成資料)

その結果、学部生の海外派遣件数は、第1期中期目標期間には数件程度であったのに比べて、第2期では55件と大幅に増加している。(資料織71)

資料織71 繊維学部生の海外派遣件数



注) 交換留学、語学研修、インターンシップ、ボランティアを含む

(出典：繊維学部国際交流推進室作成)

③ 繊維・ファイバー工学教育のための教科書作成

本学部の1年次必修科目「繊維科学の基礎」に用いる教科書「はじめて学ぶ繊維」を出版し教育に用いている。(資料織72)

資料織72 繊維学教育のための教科書出版「はじめて学ぶ繊維」

本学部共通の1年次必修科目「繊維科学の基礎」に用いている



第1章 世界は繊維でできている
1 長くて細いと何が良い?
2 繊維と人間

第2章 いろいろな繊維
1 天然繊維
2 バイオフィバー
3 化学繊維
4 高性能繊維
5 繊維強化複合材料
6 光ファイバー

第3章 繊維製品を作る
1 繊維にする
2 糸を作る
3 布にする
4 糸を染める

第4章 繊維製品を使う
1 衣服
2 感覚を測る

(出典:「はじめて学ぶ繊維」信州大学繊維学部編集、工業調査会2011年刊、ISBN 978-4-526-06631-3)

「繊維科学の基礎」のシラバス

登録コード	FZ010			担当教員	大越 豊 他
授業科目	繊維科学の基礎(織)			副担当	
英文授業名	Basics of textile science			対象学生	学部1年(繊維・感性工学系)
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時間	金曜・3時限
講義室	共通教育43講義室	授業形態	講義	備考	
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素◎：全学共通 ・繊維科学に関連する総合的な自然科学分野の基礎学力が身に付いている 【授業の達成目標】 【授業のねらい】 「繊維」とは何なのか？ 「繊維」は現代社会でどのように役に立ち、どのように未来社会とつながっているのか？ この授業は、日本全国でただ一つの「繊維学部」に入学してきた学生諸君に、繊維に関する基礎的知識を知ってもらうことをとおして、繊維学部生としての自意識（アイデンティティ）を持ってもらうことを目的としています。</p> <p>(2)授業の概要 「授業のねらい」で示したように、本授業では、「繊維とは何なのか？」に関して、「繊維」の基礎知識に拘りつつも、未来への発展も織り交ぜた授業を行います。このため、まず最初に身近な繊維と繊維学部の概要を知ることから始め、次にオーソドックスな繊維製品製造プロセスについて説明します。すなわち、現在主に使われている繊維材料（天然繊維、化学繊維）、繊維製品を製造する際の代表的な製造工程（紡績、製布、染色）、および繊維製品製造のための機械と繊維製品の評価法、さらに代表的な繊維製品としての衣服を取り上げます。この基礎を踏まえ、現在急成長しつつある新しい「繊維」として、繊維強化複合材料、光ファイバー、高性能繊維（高強度繊維、極細繊維等）、生物繊維（バイオファイバー、バイオベースファイバー）についても紹介します。</p> <p>(3)授業計画 1. 繊維とは何か？ 2. 生活の中の繊維と繊維学部 3. 天然繊維 4. 化学繊維 5. 紡績 — 糸を紡ぐ — 6. 製布 — 糸を布にする — 7. 染色と後加工 — 糸を染める — 8. 衣服を作る 9. 繊維工学の歴史と繊維機械 10. 感覚・感性評価と繊維製品設計 11. 繊維強化複合材料 12. 光ファイバー 13. 高性能繊維 14. 生物と繊維 15. まとめ</p>			<p>(4)成績評価の方法 各回の授業ごとに小テスト、レポート等を行い、その総和によって評価します。すなわち、各回の成績の総和を100点満点に換算し、90-100点が「秀」、80-89点が「優」、70-79点が「良」、60-69点が「可」、60点未満は「不可」です。 毎回の授業で試験を行う形式のため、期末試験および再試験は行いません。 また、出席が2/3に満たない場合は「不受講」になります。</p> <p>(5)履修上の注意 小テストにはE-Alps2.0システムを利用しますので、利用法に習熟しておいてください。 また、上記の様に、成績は各回ごとの小テストもしくはレポートの総和で決まりますので、特に授業前の予習はしっかりと。毎回必ず予習し、授業内に行われる（このあとの）小テストに備えると共に、授業後に行われる（このあとの）E-Alpsでの小テストに先立ってしっかり復習してください。</p> <p>(6)質問、相談への対応 できるだけ授業内および授業後に聞いてください。</p> <p>(7)学生へのメッセージ この授業をとおして、身の回りの繊維に興味を持ってください。また、未来の社会と繊維との関わりについての知識を得るのみならず、是非自分の問題として考えてください。これらの経験の中から、繊維学部の学生、および将来の繊維学部卒業生としてのアイデンティティを確立していただきたいと思います。</p> <p>(8)その他</p> <p>【教科書】 「はじめて学ぶ繊維」信州大学繊維学部編、日刊工業新聞社、¥1,900</p> <p>【参考書】</p>		

(出典：繊維学部シラバス)

また、繊維技術全般を学ばせる教科書として「最新テキスタイル工学Ⅰ,Ⅱ」を刊行し、専門教育に用いている。(資料織 73)

資料織73 繊維技術の教科書「最新テキスタイル工学Ⅰ,Ⅱ」と使用授業科目
繊維技術全般を学ばせる教科書として、下記の専門科目で用いている。



- 最新テキスタイル工学Ⅰ
「ヤーンテクノロジー」先進繊維課程（2年必修）
「スポーツウェア設計工学」先進繊維課程（3年必修）
- 最新テキスタイル工学Ⅱ
「製品快適性評価法」先進繊維課程（2年必修）
「快適性評価法」感性工学課程（3年必修）
「インテリア工学」先進繊維課程（3年選択）
「染色機能加工学」先進繊維課程（3年選択）
感性工学課程（3年選択）
「色染化学」応用化学課程（3年選択）

(出典：「最新テキスタイル工学Ⅰ,Ⅱ」西松豊典編、繊維社2014年刊、ISBN 978-4-9902580-7-8)

④ 学生のベンチャーマインド育成

サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（資料織 74）では、起業家育成セミナーの開催、ベンチャー関連授業の開講を通じて、起業家精神に富む創造的な人材育成に貢献している。(資料織 75、織 76)

資料織74 サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (SVBL)

○理念

信州大学SVBLは、ベンチャービジネスの萌芽となるべき独創的な技術シーズを開発・研究すると共に、高度な専門職業能力と起業家精神に富む創造的な人材の育成を目的として、目的達成のために、以下のような事業に取り組んでいます。

- 1) 将来の我が国の産業を支える基盤技術についての研究開発プロジェクトの実施。
- 2) 研究開発を推進するための動向調査に関する研究者の海外派遣、および外国人研究者の招聘。
- 3) 大学院生および若手研究者の自由な発想、創造性を育成する教育研究の実施。
- 4) 国内外の先駆的研究者および産業界との情報交換、ならびに交流事業の実施。
- 5) その他本ラボラトリーの目的を達成するために必要な業務。

特に、大学院生を主とする若手研究者に対して、起業家精神の涵養を促す環境を提供することに注力しており、起業家育成セミナー等の講演会およびワークショップを開催しています。

さらに本ラボラトリーは、当地域のベンチャー産業の再活性化を図るための中心機能をも担っています。

○概要

国立大学法人信州大学のサテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（信州大学SVBL）は、本学の大学院における、ベンチャー・ビジネスの萌芽的研究開発の推進、および高度な専門職業能力を持つ創造的な人材の育成を目的として、平成16年4月に発足しました。本ラボラトリーは、常田キャンパス（上田市）内にラボラトリー棟を置き、株式会社 信州TLOもその一郭にあり、また上田市産学官連携支援施設（浅間リサーチエクステンションセンター:AREC）棟と各階渡り廊下で直結しています。ARECは上田市が信州大学繊維学部構内に設置した産学官の連携を支援する施設で、17室のレンタルラボが用意されており、企業の技術研究者が利用しています。

また、約170社が参加するARECプラザも組織されています。地域企業との連携や研究者間の交流が図れるよう工夫された建物配置になっています。本ラボラトリー棟は、教育研究に必要とされる施設・設備に弾力的に対応するため、流動的な空間・設備環境を整備している。

プロジェクト研究スペースは、タイムリーな共同研究や競争的資金による研究の展開に応じて確保できる体制になっている。ラボラトリー棟4階のリフレッシュコーナーは、必然的に研究者間の交流とモチベーションを促し、また、1階のオープンスペースは、研究成果の展示やラボラトリーの広報の場となります。

○運営委員会

氏名	所属	役職
小西 哉	総合工学系研究科（繊維学部）	教授、SVBL長、運営委員長
中山 淳	医学系研究科（医学部）	教授
三宅 康幸	総合工学系研究科（理学部）	教授
天野 良彦	総合工学系研究科（工学部）	教授
市川 結	総合工学系研究科（繊維学部）	教授
南 峰夫	総合工学系研究科（農学部）	教授
千田 有一	地域共同研究センター（CRC）	工学部教授、CRC長
岡田 基幸	浅間リサーチエクステンションセンター（AREC）	ARECセンター長・専務理事、信州大学特任教授
大澤 住夫	（株）信州 TLO	（株）信州 TLO 代表取締役社長
内川 俊行	繊維学部 事務部	副学部長（事務担当）

○専門部会

森脇 洋	繊維学部 応用生物科学系 生物資源・環境科学課程	教授、SVBL 専門部会長
和田 功	繊維学部 繊維・感性工学系 感性工学課程	教授
平田 雄一	繊維学部 化学・材料系 応用化学課程	准教授
小山 俊樹	繊維学部 化学・材料系 機能高分子学課程	准教授
田口 悟朗	繊維学部 応用生物科学系 生物機能科学課程	准教授
松村 嘉之	繊維学部 繊維・感性工学系 感性工学課程	准教授
金井 博幸	繊維学部 繊維・感性工学系 先進繊維工学課程	准教授
鮑 力民	繊維学部 機械・ロボット学系 機能機械学課程	教授
中西 弘充	SVBL	助教

資料織76 「ベンチャービジネス概論」「ひと・ものづくりプロジェクト」のシラバス

時間割コード	13101101	県内大学開放授業	市民開放授業
授業科目	ベンチャービジネス概論	担当教員	中西 弘充 他
英文授業名	Introduction to Venture Business		小西 哉
単位数	2	講義期間	前期 曜日・時限 水曜・5時限
講義室	共通教育56講義室	授業形態	講義
		備考	【地域】
ベンチャービジネス概論	<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素◎：全学共通 ◎対話を通じて他者と協し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】 ◎みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】</p> <p>【授業の達成目標】 グループの必要事項をつくることで、チームで働く力を身につけることができるようになる。 ・ブレインストーミング、SWOT分析などの手法を活用することで、目的や課題を明らかにすることができるようになる。 【授業のねらい】 現代社会において会社の仕組みを知ることは社会の一員にとって大切な事である。会社を起こす(つくる)という行為は、その仕組みを良く理解することにつながる。会社の基礎となるプロジェクト(事業計画)を実行するためには、企画・立案・運営などの総合的な能力が必要である。また、成功させるためにはプロジェクトをまとめるリーダーシップの育成やチームワークの向上が必要である。長期的に高度な専門知識を学ぶだけでは不十分であり、思考や行動を変え実践的知識が今の社会に必要とされる。本授業では得た知識を実践的に使う能力を、グループワークを取り入れながら学ぶことを目的とする。</p> <p>(2)授業の概要 本授業では自ら会社をつくる(ベンチャーを起業する)ことに限定せず、研究室や就職後に企業の組織に入って活躍する場面においても必要である。実践的なプロジェクト遂行に関する知識と能力を、グループワークで学ぶ。身近なところにある課題や、どのようにしたら解決できるかを考え、どのように実行に移せるようになるかを計画する。課題解決型学習；HL (Project Based Learning) を実践する。</p> <p>(3)授業のキーワード 地域産業活性化、課題解決型授業、アントレプレナーシップ(起業家精神)、事業計画、ビジネスプラン、グループワーク、コミュニケーション</p> <p>(4)授業計画 (1) 4/8「オリエンテーション」担当：中西、小西 (2) 4/15「プロジェクトマネージャー講座(株式会社松山産 大月会長)」担当：中西、小西 (3) 4/22「信州大学で活躍している学生団体の紹介・研究事例の紹介」担当：中西 (4) 5/1「プロジェクトマネジメントとは、プロジェクトの設定、協力企業の紹介」担当：中西 (5) 5/13「大学における知的財産とは、知的創造サイクルを考える(信州UO 榎坂氏)」担当：中西 (6) 5/20「社会に必要な能力を知る。【社会人基礎力】とは、外部アイデアコンテストの紹介」担当：中西 (7) 5/27「グループでの事業計画を作る：課題の発見【ブレインストーミング】」他；担当：中西 (8) 6/3「グループでの事業計画を作る：アイデアの整理【KJ法】」他；担当：中西 (9) 6/10「グループでの事業計画を作る：戦略計画【SWOT分析】」他；担当：中西 (10) 6/17「グループでの事業計画を作る：管理会計【損益分岐点】」他；担当：中西 (11) 6/24「プレゼンテーション演習1【プレゼンの構成】」担当：中西 (12) 7/1「プレゼンテーション演習2【情報の可視化】」担当：中西 (13) 7/8「プレゼンテーション演習 前半グループ」担当：中西、小西、梶井、林 (14) 7/15「プレゼンテーション演習 後半グループ」担当：中西、小西、梶井、林 (15) 7/22「授業の総括」担当：中西 なお、授業の進行状況により内容は変更することがある。</p> <p>毎回の授業の冒頭で前回の授業の振り返りを行い、終了前に授業の理解度を確認するための課題を実施する。 1回目から6回目の授業で知識を得ることを中心に実施し、7回目から12回目の授業ではグループワークを中心にプロジェクトの企画・立案・運営を実施する。プロジェクトのテーマは下記の3つから選択する。 1. 文化芸術振興の商店企画(仮称店舗経営) 2. 観光産業の商店企画(シタカ地の活性化) 3. 信州が抱える課題の解決策提案(信州ベンチャーコンテストへの応募)</p> <p>13回目と14回目の授業では各グループで企画したプロジェクトについて発表し、プレゼンテーションの評価(図表の使いやすさ、説明の簡潔さ、印象)および、プロジェクトの実現性(具体的内容、市場性、優位性、総合評価)について評価する。</p>		

登録コード	FB637	担当教員	中西 弘充 他
授業科目	ひと・ものづくりプロジェクト I	副担当	河村 隆
英文授業名	Objective Project I		河村 隆
単位数	1	講義期間	通年(集中)
講義室		授業形態	集中・不定期
		備考	【地域】
ひと・ものづくりプロジェクト I	<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素◎：全学共通 【授業の達成目標】 【授業のねらい】 学生が主体的に学習課題を発見し、解決策を探る授業科目です。信州大学の中期・中期計画である「教室内外における学生の自主的な学習意欲を促進する多面的な環境の整備」に対応します。教職員が学生に知識や技術を一方的に伝える従来の授業で「教わる」のではなく、学生が自ら「学びとる」学習活動を行います。学生が自ら発見 (Find)、行動 (Do)、フィードバック (Check and Action) することによって、学習成果を創ります。自ら発見し、自ら探求し、自ら解決策を見出すことで、創造性溢れる個性豊かな自律型人材として成長します。学生同士や教職員との意思疎通を図りながら協働作業をすることにより、計画力/実行力/チャレンジ精神/コミュニケーション能力/リーダーシップなどの、社会が要求する総合能力を実践的に獲得できます。また、コンテストやレースなどに参加して、学習成果を定量的かつ客観的に確認できます。</p> <p>(2)授業の概要 教職員から複数のプロジェクトが提供されます。また、学生が自分の希望するプロジェクトを提案し、教員の審査を受けた上で実施することも可能です。プロジェクトを提案し、採用されるためには、次のような条件を満たす必要があります。 ①機械工学課程の学習・教育目標に合致する内容であること。 ②10時間以上の学習活動を行うものであること。 ③定期的に(1週間1回を原則とする)ミーティングを行うこと。 ④ミーティングの記録を指導教員に毎回提出すること。 ⑤最終報告書を指導教員に提出すること。 ⑥コンテストやレースなど、第三者の立ち会いのもとで客観的な評価を受ける場に参加できることが望ましい。 現在、繊維学部機械工学課程では次のような「ひと・ものづくりプロジェクト」が活動中です(年度によっては、実施されないプロジェクトもあります)。 ①信州大学ソーラーカープロジェクト(新エネルギー自動車) ②からくり工房プロジェクト(ロボットコンテスト) ③学生フォーミュラープロジェクト(ガソリンエンジン自動車) ④信州大学SMLのR-DX活動 ⑤その他(学生提案型) 学生は自ら提案したプロジェクトあるいは既存のプロジェクトに参加し、企画/設計/製作/運営/発表/総括などを経験します。また、問題点や課題を発見し、解決を図る経験をし、</p> <p>(3)授業計画 ①1年間を通じて、授業時間外に実施されない学習活動を行います。学習計画パターンはプロジェクトによりさまざまあり、場合によっては夜間や休日に学習活動を行うこともあります。 ②プロジェクト実施期間中は定期的に(1週間1回を原則とする)ミーティングを行います。 ③ミーティングの記録を指導教員に毎回提出します。 ④最終報告書を指導教員に提出します。</p> <p>(4)成績評価の方法 ①プロジェクト活動への出席：30点 ②プロジェクト活動への貢献：30点(自己評価15点+他者のスタッフによる相互評価15点) ③コンテスト等への参加と成績：10点 ④レポート：20点(指導教員による評価) ⑤学習目標達成度：10点(自己評価)</p> <p>【教科書】 指定しません。 【参考書】 大学1、2年生の間にやっておくこと 学習BOOK【改訂第3版】 日常生活と高度脳 編著 自由社 発行 ISBN78-8212-1942-9 900円/枚</p>		

(出典：信州大学学部授業シラバス)

⑤ 共通教育科目における教育内容・方法の工夫

⑤-1 新入生ゼミナール

高等学校までの勉学から、大学での学びへと橋渡しをするため、各学部・学科等で1クラス 20人程度により必修2単位として開講している。各ゼミでは、入学時に配布の「新入生ハンドブック」を参考資料としている。(資料織 77)

資料織77 新入生ゼミナールの概要及び新入生ハンドブック

共通教育の目標の「⑥ 大学教育における基礎的な能力の育成」の内の「大学教育を受けるための基礎能力の育成」を目的とします。

受験勉強中心の高等学校までの勉学から、自ら学ぶ態度を培い、学問の面白さ、自身の専門への動機付けにより、大学での学びへと橋渡しをするためのゼミナールを前期、又は前期及び後期(学部・学科(課程・系)によって指定)に開講します。

基礎的な情報通信技術、情報の集め方の確認や、授業の受け方、大学の諸施設の使い方などの基本から始まり、口頭・文書によるコミュニケーションの基礎を含む大学での学びへの導入教育など、大学における学習の一般的スタイルの獲得を目指します。また、共通教育を中心に自らの学習の目標とそのための方針の立案を行います(ポートフォリオ作成)。

教員と学生の人格的な交流を活かしつつ、基本的には、大学に入ったばかりのみなさんが、大学生として主体的に勉学に取り組む姿勢をつくる場として開設されます。

レポート作成、発表を通じて日本語の作文力や話し方について訓練し、専門教育の内容や施設に直接触れることを通じて、大学生としてのみなさんの意識形成を図ります。

このゼミナールは学部・学科(課程・系)の方針に従い、学部・学科(課程・系)の教員によって実施されます。

なお、参考資料として、入学時に配付する「新入生ハンドブック」があります。

(出典：2015共通教育履修案内，信州大学新入生ハンドブック2015)



信州大学

新入生ハンドブック 2015



信州大学 全学教育機構

新入生ハンドブック-目次

前書き i

序章 信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 1

第1章 何のために学ぶのか - 10年後の世界を想像しよう- 7

1.1. 卒業後の世界を知ろう 7

1.2. 情報伝達技術の革新とその影響 14

1.2.1. コミュニケーション（情報伝達）技術の進化14

1.2.2. 技術革新の光と影 17

1.3. 急速に変化する社会で活躍するために：
 知の訓練場「大学」 22

1.3.1. 自分で問題を発見する 22

1.3.2. 森の中に木を見る 23

1.3.3. 真の知識を身につける 24

1.3.4. 目標がすべて 26

第2章 大学での学習スキル 31

2.1. 大学の授業とは 31

2.2. 学ぶ意義は自分で考えなければならない 33

2.3. 授業は学びの一部でしかない：自主学習が大事 34

2.4. 自主学習の例 35

2.4.1. 内容を理解するために、話してみよう 36

2.4.2. 専門のある何でも屋に 37

2.5. 学習観を再考しましょう 39

2.6. 能動的な学びを 41

第3章 探す・集める・探す 47

3.1. 調べるとは 48

3.2. 資料を探す 51

3.2.1. 辞典を使う 51

3.2.2. 検索術語 53

3.2.3. 図書館で探す 56

3.2.4. インターネット検索を使う 61

3.3. 問いを作り上げる 64

第4章 レポートの書き方 69

4.1. レポートとは？ 69

4.2. レポートの構想とメモ 70

4.3. 問題の見つけ方 72

4.3.1. 文献はうたがってかかる 72

4.3.2. 常識はうたがってかかる 73

4.3.3. 自分でデータを集めてみる 73

4.4. レポートの構成と文章 74

4.4.1. ねらいを短い文章に 74

4.4.2. ミニ目次のすすめ 74

4.4.3. 分かりやすい構成を 77

4.4.4. 文体はどうするか 77

4.4.5. 受け身の表現は避ける 77

4.5. レポートの落とし穴 78

4.5.1. 一次資料って何だろう 78

4.5.2. 意見の流用 79

4.5.3. 専門用語の罠 79

4.6. 形をととのえる 80

4.6.1. まずは表紙から 80

4.6.2. 一般的なかたち 81

4.6.3. 見やすい体裁に 81

4.6.4. 引用と脚注 82

4.6.5. 推敲はかならず 83

4.7. レポートから論文へ 83

4.8. 口頭発表にむけて 84

4.8.1. 発表原稿の棒読みはなぜわかりにくい 84

4.8.2. 口頭発表のメリットを最大限生かすには 85

4.8.3. 質疑への対応 86

第5章 学生生活を設計しよう 勉強も遊びも 93

II

5.1. 信州大学学生相談センターおよび
 全学教育機構相談室について 93

5.2. 学習の科学 94

5.2.1. 時間の前借りはしない 95

5.2.2. とにかく始めたほうがよい 95

5.2.3. 休まないと能率が落ちる 96

5.2.4. すぐ復習しないと忘れる 96

5.2.5. 暗記物は就寝前が良い？ 96

5.2.6. 五感を使う 98

5.3. タスクを管理する 98

5.3.1. 忘れ防止対策 99

5.3.2. 未完了の対策を大別する 99

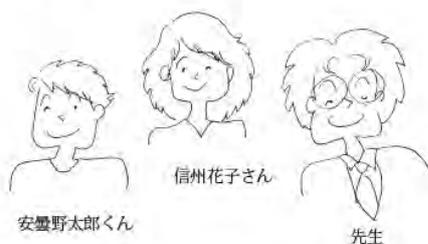
5.3.3. 自分の処理時間を把握する 100

5.3.4. 学生の自由時間はたっぷりある？ 101

5.3.5. 課題の作業時間を見積もる 102

5.3.6. 手帳かスマートフォンか 103

登場人物



IV

（出典：「信州大学新入生ハンドブック2015」）

⑤-2 教養ゼミ・大学生基礎力ゼミ

上述のほか、学部混合で行われる1クラス20名程度のゼミナールが開講されている。
(資料織 78)

資料織 78 教養ゼミナール及び大学生基礎力ゼミ

【教養ゼミナール】
 本学は種々の専門性を持つ8学部からなる総合大学であり、1年次に全学部生が松本キャンパスで学びます。ゼミナールは学部混合で行われますので、多様な物の見方を知る機会を得ることができます。また、個々の教員の専門が活かされています。また原則として25名を超えた場合の受講制限は、数の多い学部生から行うなど同一学部生に偏らないような処置をしています。教養ゼミナールでは、多くの事例的な研究を行い、学生が自分の知識や人生を社会との関係の中で位置付ける機会を提供します。討論やプレゼンテーション等も積極的に取り入れながら、物事の多面的な理解と深い洞察力を養います。

【大学生基礎力ゼミ】

「大学生基礎力ゼミ」について

信州大学で、一人前の大学生として有意義な学生生活を送りたい方のために、「大学生基礎力ゼミ」(社会科学群)を7コマ開講します。興味のある方は是非受講してください(詳しくはシラバスで確認してください)。

一人前の大学生のあるべき考え方を教えてもらった。

この授業のおかげで、グループの話し合いなどで意見が出せるようになり、楽しかったです。

大学に入学して、今までとの違いや、これからどのように勉強していったらよいか分からない状態だったが、毎週の授業の中で少しずつ形作ることができた。

ふりかえりレポートを毎週書くことで、自分についてよく知ることができ、本当に良い生活が送れた。

昨年受講した学生の声

平成 27 年度開講数

	前期	後期
教養ゼミナール	53	36
大学生基礎力ゼミ	11	0

(出典：「2015 共通教育履修案内」)

⑤-3 ICT 活用教育

松本キャンパス以外の高年次学生が共通教育科目を受講するため、ICTを活用した授業を実施している。(資料織 79, 織 80)

資料織 79 平成 27 年度 信州ユビキタスネットシステム (SUNS) 利用授業の開講状況

前 期		後 期	
授 業 名	担 当 教 員	授 業 名	担 当 教 員
ネイチャーライティングのすすめ (環境文学 I) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ (環境文学 II) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司
キャリア形成論 I -本当の自分を理解するステップ- 【SUNS】	小池 健一	キャリア形成論 II -自分の将来像を探るステップ- 【SUNS】	小池 健一
物理学の世界 【SUNS】	矢部 正之	新聞と私たちの社会 【SUNS】 (信濃毎日新聞社寄附講義)	分藤 大翼
検索の科学 【SUNS】	鈴木 治郎	現代医療における物理学 【SUNS】	矢部 正之
現代ドイツの言語と日常ゼミ 【SUNS】	松岡 幸司	現代ドイツ事情ゼミ 【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語初級 (総合) I 【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語初級 (総合) II 【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語中級 (読解) I 【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語中級 (読解) II 【SUNS】	松岡 幸司
線形代数学 I 【SUNS】	高野嘉寿彦	一般化学 II 【SUNS】	村上 好成

一般化学 I 【SUNS】	村上 好成	
(出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)		

資料織 80 平成 27 年度 共通教育『EA』科目(e-Learning のみで行う授業)の開講状況			
前 期		後 期	
授 業 名	担当教員	授 業 名	担当教員
ネイチャーライティングのすすめ (環境文学 I) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ (環境文学 II) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司
ジェンダー論 【EA】	加藤 善子	ジェンダー論 【EA】	加藤 善子
日本人のための英作文練習ゼミ 【EA】	加藤 敏三	検索の科学 【EA】	鈴木 治郎
ドイツ語初級 (総合) I 【EA】	松岡 幸司	ドイツ語初級 (総合) II 【EA】	松岡 幸司
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I 【EA】	田口 茂樹	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II 【EA】	有路 憲一
リスニング&リーディング I 【EA】	近藤 富英	リスニング&リーディング II 【EA】	近藤 富英
ドイツ語中級 (読解) I 【EA】	松岡 幸司	ドイツ語中級 (読解) II 【EA】	松岡 幸司
ロシア語中級 I 【EA】	佐々木 寛	ロシア語中級 II 【EA】	佐々木 寛
ハングル中級 I 【EA】	延 鎮淑	ハングル中級 II 【EA】	延 鎮淑
キャンパスライフと健康 【EA】	川 茂幸		
(出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)			

⑤-4 教育方法・学習支援

上記のほか、履修登録上限単位、習熟度別クラス編成、リメディアル教育、各種英語資格試験による単位認定、放送大学との単位互換、県内他大学との単位互換を行っている。(資料織 81)

資料織81 共通教育科目における教育方法や学習支援
<p>【履修登録上限単位】 共通教育科目では、1学期に履修登録できる単位の上限*が学部ごとに定められています。 ※ 履修登録単位数の上限は共通教育科目のみで、専門科目、教職に関する科目は含みません。 大学での勉学は授業での学習に加えて、出席する授業の予習、復習を含む十分な自主的学習時間の確保が前提となっています。こうした趣旨から、履修登録単位数の上限制度が設けられています。 1年次に必修となる単位数より30%程度多くなっていますので、興味を持った授業を十分に履修できると思います。 なお履修登録単位数の上限を超えて履修することはできません。 また、前期の成績が優秀な学生で学部長の許可がある場合には、後期に個々の学生ごとに履修登録単位数の上限を設定することが認められます。</p>
<p>【習熟度別クラス】 英語 トップレベル・イングリッシュを除きすべて学部別であり、また習熟度別クラス編成になっています。(上級) (中級) (初級) の3レベルです。習熟度別クラスが編成され、授業がはじまる前までに掲示されます。指定されたクラス以外のクラスを履修することは原則としてできません。 微分積分学 I, 力学, 生物科学 I 基礎科学科目の履修方法は学部・学科(課程・系)により異なりますので、各学部・学科(課程・系)の履修指導に従ってください。学部・学科(課程・系)でクラスが指定されますので、指定のクラスで受講してください。なお、微分積分学 I, 力学及び生物科学 I については、高校における履修状況等を考慮し、一部の学生についてクラスの指定があります。以下の①～③に示した授業については、対象学生となる学生が学部・学科(系)から掲示等で指定されますので、指示に従って受講してください。</p>
<p>【リメディアル教育】 大学での学習にスムーズに取り組んで行けるように、基礎を学ぶための授業です。積極的に活用しましょう。各科目のリメディアル教育授業については、以下の通り実施します。掲示により受講を指定された学生は、以下を確認の上、授業に臨んでください。 次の①～④の対象学生は、授業開始日までに、全学教育機構公用掲示板にて周知します。なお、指定を受けない場合でも、受講人数に余裕がある場合は、授業担当教員に申し出て、受講することができます。 ① 英語基礎</p>

講師：特任教員(火5)，特任教員(木5)

授業内容：基礎的な英文法事項を中心に学習する。

実施期間：平成26年4月22日～平成26年7月8日(ただし、5月2日・5月8日を除く。)

講義室：火5<34番>・木5<34番>

その他：原則として指定された曜日・時限のクラスで受講してください。

英語基礎の対象学生については、FAE I (初級)の初回クラスにおいてテストを行い決定します。対象者は、4月18日(金)までに公用掲示板にて周知します。

② 基礎数学

講師：特任教員(月4・水5(各10回))，特任教員(水4・木4(各10回))

授業内容：高校の数学Ⅰ及びⅡを中心に数学Ⅲまで

実施期間：平成26年4月16日～平成26年6月30日(ただし、5月8日を除く。)

講義室：月4<51番>・水5<64番>・水4<42番>・木4<51番>

その他：学部・学科(課程・系)から指定を受けた対象学生は、原則として指定された曜日・時限のクラスで受講してください。

③ 基礎物理

講師：特任教員(火5・金5)，特任教員(水5・木5)，特任教員(木5)

授業内容：力学の基礎

実施期間：前期 第2,3週 第5,6週 第8,9週 第11,12週 第14,15週

※授業の週(回)は、表紙裏の学年暦を参照してください。

講義室：火5<53番>・水5<53番>・木5<53番>・木5<55番>・金5<53番>

その他：学部・学科(課程・系)から指定を受けた対象学生は、原則として指定されたクラスで受講してください。

④ 基礎化学

講師：特任教員

授業内容：高校の化学Ⅰを中心に化学Ⅱまで

実施期間：前期 火曜日の4時限・5時限

平成26年4月22日～7月8日(ただし、5月2日を除く)

講義室：火4・火5<52番>

その他：学部からの指定事項等の詳細は、4月に公用掲示板で確認してください。

【各種英語資格試験による単位認定について】

TOEIC, TOEFL, IELTS, 実用英語技能検定(英検)等によって英語科目(1年次の4単位分)の単位認定ができます。

【放送大学との単位互換】

本学に在籍する学生が放送大学との単位互換(本学の授業の代わりに放送大学の授業を受講して単位を修得すれば、本学で修得すべき単位とみなす制度)を希望する場合は、「特別聴講学生」として受講することができます。ただし、受講の対象は教育学部、医学部、工学部、農学部及び繊維学部の学生に限ります。

【県内他大学との単位互換】

信州大学の学生は、この協定により長野県内他大学が開講する授業を受講することができ、その受講により取得した単位は、信州大学の単位として認定されます。単位互換の授業は、みなさんが他大学に通学して授業を受けるタイプと、遠隔講義システム(SUNS)*を利用して信州大学の教室で他大学の授業を受けるタイプの2種類があります。

《遠隔講義システム(SUNS)*による受講》

平成22年度からは、長野県内他大学の授業を遠隔講義システム(SUNS)*を通じて信州大学で受講できるようになりました。(他大学の特別聴講学生として受け入れられます。)この遠隔講義システムを利用した授業を受講すれば、他大学に通学しなくても信州大学の教室で、他大学の授業を受講できます。遠隔講義システム(SUNS)*を利用した他大学の開講題目は、共通教育科目のうち「教養科目」として認定され、卒業に必要な単位に算入されます。

(出典：2015共通教育履修案内を基に経営企画課にて作成)

(3) 社会や地域へ向けた教育提供

社会人や地域住民の方に大学の授業を提供する方途として科目等履修生を募っている。
 (資料織 82) また、市民開放授業は以下のとおり実施している。(資料織 83) 出前講座にも積極的に取り組んでいる。(資料織 84)

資料織82 科目等履修生の受入実績

(単位：人)

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1	3	3	4	2	1

(出典：繊維学部事務部作成)

資料織83 市民開放授業の実績

正規の学生のために開講している通常の授業を、「市民開放授業」として一般市民にも開放している。生涯学習に対する社会的な要請に応え、本学と地域社会の連携をより一層深めることを目的としている。

(単位：件，人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
開放授業数	79	93	92	78	71	69
実施数	2	3	2	2	5	6
受講者数	2	3	2	2	6	6

(出典：繊維学部事務部作成)

資料織84 出前講座の実績

出前講座は、長野県内の公民館、生涯学習センター、図書館及び博物館等の生涯学習機関、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教育機関並びに保育園及び公的な性格を持つ機関及び団体からの申込みを受けて、本学の教員が各地に赴いて講座を行うもの。

(単位：件，人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
登録講座数	22	23	23	22	19	17
実施数	11	13	6	10	7	4
受講者数	1366	2236	434	559	879	947

(出典：繊維学部事務部作成)

(4) 国際的に通用する技術者育成の取組

材料化学工学課程では、平成 14 年に化学関連のエンジニアリング分野で日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けて以来、授業や演習の改善に継続的に取り組んできており、国際通用性が確保された教育プログラムを学生に提供している。(資料織 85)

資料織85 JABEEプログラム

【材料化学工学課程】

1 教育方針・目的・目標

1) はじめに

材料化学工学課程は、資源・エネルギー・環境問題の解決に役立ち、持続性のある社会を目指した材料およびその製造プロセスや利用システムに関する学問を教育・研究する課程である。繊維学部において充実している材料化学分野に広い工学的視点を養う化学工学を取り入れて特色のある教育を行っている。当課程の教育プログラムは日本技術者教育認定機構(JABEE)から認定を受けており、プログラムを修了した本課程の卒業生は、質の高い研究者・技術者基礎教育を受けたことが客観的に証明されると同時に、国家資格である「技術士」の第1次試験が免除される。卒業生は、化学、繊維、電気機器、機械と幅広い業種へ就職し、材料化学研究者・技術者として活躍している。

材料化学工学課程ホームページ <http://seimitsu.shinshu-u.ac.jp/>

JABEEホームページ <http://www.jabee.org/>

2) 教育と研究

教育面では、経済性、安全性、信頼性、社会および環境への影響などを考慮しながら工学的に問題を解決できる能力を身につけるために必要な講義や実験・演習を行っている。研究面においては、(1)先端装置、数理的解析を用いた物性解明、(2)原子・分子レベルの相互作用を考慮したいろいろな機能を持つ微粒子・薄膜・繊維材料などの創出、(3)エネルギー貯蔵材料、燃料電池、太陽電池、半導体・光学材料などの開発、ならびに(4)エネルギーと環境を総合的に考えたプロセス・システム設計、シミュレーション、LCA(ライフサイクルアセスメント)などに注目している。このような教育と研究を通して、総合的な見地から、(a)材料とその製造プロセスの開発、(b)システムの評価と設計、(c)コンピュータを用いた複雑な現象の体系化のできる柔軟でかつ国際的な視野をもった研究者・技術者を養成することを課程の目的としている。

3) 学習・教育目標

本課程における学習および教育の目標は、国際的な視野を持った化学、材料系の研究者・技術者として必要な能力と技術を身につけることであり、以下のAからGで示される。

目標A 自然や社会を多面的に捉え、それに技術がおよぼす影響を理解する能力

- (1)【教養】種々の歴史、文化、習慣、価値観、風土、経済などに関する知識を通して、幸福・福祉や豊かさなどの概念が多岐にわたることを認識する能力
- (2)【本質把握】多面的に総合的にものごとを捉え本質を把握する能力
- (3)【協調性】自分自身や自国など自分たちの文化や価値観、利益だけでなく、他者・他国の立場から物事を考えることができる能力
- (4)【異文化交流】地域人、企業人、他大学の教員・学生など背景の異なる人と積極的に交流する機会をもつ能力
- (5)【技術者倫理】技術と自然や社会などとの係わり合いと技術者の社会的な責任を理解できる能力

目標B 自立した研究者・技術者として行動する能力

- (1)【自己責任】自立した研究者・技術者として適切な判断と責任ある行動をする能力
- (2)【自己把握】自分自身の幸福や人生の目的について考え、自分の特徴を把握する能力
- (3)【環境適応】環境に適応して自らのモチベーションを高める能力
- (4)【変化志向】自ら新しいことに挑戦しチャンスをつかんでいく積極的行動力
- (5)【達成】自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる能力

目標C コミュニケーションをはかり協同作業をする能力

- (1)【発信】日本語による記述、口頭発表を通して発信する能力
- (2)【意見交換】日本語による討議を通して双方向の意見交換がはかれる能力
- (3)【英語基礎】英語によるコミュニケーション基礎能力
- (4)【英語文献講読】英語で書かれた学術論文、技術文書を読み正確に内容を把握する能力
- (5)【リーダーシップ】自ら積極的に行動することで周囲を牽引する能力
- (6)【チームワーク】チームのメンバーと協力して目的を達成する能力
- (7)【傾聴】教員、先輩、友人に自ら進んで指導や助言を受けられる能力
- (8)【育成】後輩を育成・指導できる能力

目標D 科学・工学の基礎知識を理解する能力

- (1)【数学基礎】数学に関する基礎知識、およびそれらを応用できる能力
- (2)【科学基礎】物理、化学、生物に関する基礎知識、およびそれらを応用できる能力
- (3)【情報基礎】情報技術に関する基礎知識、およびそれらを応用できる能力
- (4)【工学基礎】工学に関する基礎知識、およびそれらを応用できる能力

目標 E 化学、材料に関する工学的問題を解決する能力

- (1) 【専門基礎】化学工学理論、熱力学、移動現象論に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (2) 【無機有機】無機化学、有機化学に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (3) 【物性】材料の物性に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (4) 【材料】材料に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (5) 【基礎実験】物性や材料に関する基礎実験技術、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (6) 【総合】物性や材料に関する専門知識を経済性・安全性・信頼性・社会および環境への影響を考慮しながら問題解決に利用できる应用能力、デザイン能力、マネージメント能力

目標 F 工学システムやプロセスを設計する能力

- (1) 【プロセス】反応や分離に関する工学専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (2) 【システム】プロセス・システム工学に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (3) 【応用実験】プロセスやシステムを含めた応用実験技術、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (4) 【総合】工学システムやプロセスに関する専門知識を経済性・安全性・信頼性・社会および環境への影響を考慮しながら問題解決に利用できる应用能力、デザイン能力・マネージメント能力

目標 G 現代の社会問題を工学的に解決する能力

- (1) 【目標・課題設定】社会の要求と自らの強みの両面を考えて目標や課題を設定する能力
- (2) 【問題解決】必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見つけ出していく能力
- (3) 【情報収集】新たな知識や適切な情報を獲得する能力
- (4) 【実験】本質を明らかにするために実験を計画し迅速に実行して新しい知見を得ることができる能力
- (5) 【分析的思考】先入観にとらわれずに観察し新しい事象を見逃さない能力
- (6) 【イノベーション】独創的な提案ができる創造的思考能力

4) 材料化学工学課程教育プログラム

本課程の教育内容は15項目に分類されており、次表は分類と教育目標の主な関係を示したものである。またそれぞれの分類に含まれる講義・演習・実験科目を後ページに示す。

分類	目標A	目標B	目標C	目標D	目標E	目標F	目標G
材料化学工学総合	◎	◎	◎				◎
一般教育	◎	○					
工学基礎				◎			
英語			◎				
数学基礎				◎			
物理基礎				◎			
化学基礎					◎		
専門基礎					◎		
工業数学・情報技術				◎			○
物性					◎		
材料					◎		
プロセス						◎	
システム						◎	
演習					◎	◎	◎
実験					◎	◎	◎

(出典：繊維学部事務部作成)

(5) 専門教育を基にしたキャリア教育

学生の職業意識の涵養を図るため、インターンシップ（1～2単位）を実施しており、例年1名程度の参加者がいる。(資料織 86)

資料織 86 インターンシップ参加者数

(単位：件)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
参加者数	0	0	1	1	1	5

(主な受け入れ企業)

株式会社地元カンパニー、富山県環境科学センター、広島県庁

(出典：繊維学部事務部作成)

(6) 学生の主体的な学習を促すための取組

① 講義室等の環境整備

以下のとおり基本的な環境を整備している。(資料織 87)

資料織87 学生の主体的な学習を促すための環境の整備状況

講義棟講義室の学習室としての使用について

みなさんの自学自習のために、次のとおり講義棟講義室を開放しています。

- 講義室：19 室
- 演習室：3 室
- 実験実習室：4 室
- ・授業使用時間帯を除いて自由に使用できます。
- (時間は、平日の前項建物開館時間中。ただし、長期休業期間中は使用できません。)
- ・学内 LAN への接続もできます。(ACSU にアクセスし、ID とパスワードによりログイン)

《禁止事項》

- ・AV 機器の使用，室内での飲食，周囲の迷惑となるおしゃべり，ゴミの放置

◇学内 LAN 接続によるネットワーク利用ができる場所

PC 持参	講義室全室 (有線・無線 LAN)，生協 2 階ラウンジ，図書館 (無線)
PC 備付	図書館 (PC 数台)

- ・ウイルス対策をしたパソコンを用い，ネットワークの使用に当ってはルールを守って使用の上，セキュリティには十分注意して下さい。
- ・ネットワーク接続等に関する不明な点は，各課程情報システム支援室員へお問い合わせ下さい。

◇講義棟無線 LAN 整備状況

- ・平成 18 年度設置：(10,11,12,13,20,21,22,24,25,26,27,28,30,31,32 番講義室)
- ・平成 22 年度設置：(33,34,共通ゼミ室 1,CAD 実習室)

◇研究室・演習室・実験室・特別教室等の使用について

各課程等の定めるところにより，指導教員等の許可のもと安全に使用して下さい。

(出典：平成 27 年度「上田キャンパス履修案内」p64)

図書館整備状況

【平成 22 年度】

- 開館時間を 9 時→8 時 45 分に変更

【平成 23 年度】

- グループ学習室(2 室)・演習室(1 室)設置
- エレベータ・全館空調設置

【平成 24 年度】

- 図書館内全館で無線 LAN 接続可能に

【平成 26 年度】

- グループ学習室 2 室の壁面に、ホワイトボード設置
- 図書館 1 階に総合情報センターの教育用端末 6 台設置

グループ学習室・演習室の貸出体制

前日までの予約優先。予約の入っていない時間帯は、空いていれば自由に利用可能。教員が講義で使用したり、データベース等利用オリエンテーションで使用する場合もあり。

平成 27 年度は、英会話サロンを演習室で行なっている。

データベース等利用オリエンテーション開催回数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
開催回数(回)	16	24	16	19	23	25
参加人数(人)	164	225	159	217	284	243

(出典：繊維学部事務部作成)

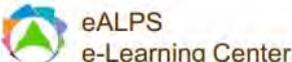
② e-Learning (eALPS システム) の活用

学生の学ぶ意欲を維持するため、e-Learning (eALPS システム、資料織 88) により宿題や事前学習を促している。平成 26 年度には、本学部の全授業科目のうち約 42% の科目が eALPS を活用している。1 日のアクセス数は 80 件/日以上であり、学生の学習に活用されている。(資料織 89)

資料織 88 eALPSシステムについて

eALPSでは主に、以下のような9つの機能を提供しています。教材を活用して自習し、学生や教員と意見交換し、課題を提出したりテストに挑戦するといった能動的な学習を支援します。

お知らせの掲載	教員は、コース(授業科目)のトップページに連絡事項などを記載することにより、eALPSを学生への通知の手段として利用することができます。
資料の配布	教員は、eALPS上にPDFなどのファイルを置き、学生は、それをダウンロードして予復習に利用することができます。
課題の提示と提出	eALPS上に課題ファイルを提出させることができます。提出状況を一覧にして表示したり、評点やコメントをつけることも可能です。
掲示板で情報交換	eALPS上に掲示板を作り、教員と学生、または学生同士が意見交換することができます。投稿した意見に評点をつけることも可能です。
アンケート調査	eALPS上でアンケート調査を行い、理解度を測ったり要望をまとめることが可能です。回答内容を分析したり、Excelファイルに保存することも可能です。
オンラインテスト	eALPS上でテストを行うことができます。自動採点して結果をExcelファイルに保存したり、評点ごとの学生数をグラフ表示できます。
成績の管理	eALPS上での活動に評点をつけ、それを集計して成績評価に利用することができます。ペーパーテストの結果と合わせて管理することもできます。
受講生にメール送信	その科目を履修している学生全員または選択的にメールを送ることができます。
受講生のアクセス状況の把握	受講生がいつeALPSのコースにアクセスしたか、eALPS上でどのような活動を行ったかを表示できます。

 3

(出典：e-LearningセンターICT活用支援部門作成eALPS入門)

資料織 89 eALPSシステムの活用実績 (単位：件)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
利用講義数 /開講科目数		107/380	94/367	134/392	164/395	74/397
1日当たり アクセス数		87	92	80	114	145

(出典：繊維学部事務部作成)

③ 機器エキスパート養成事業 (P-DEX)

SVBLにおいて学部学生が主体となって企画運営する研究機器の技能研究会の活動を行っている。(資料織 90)

資料織 90 機器エキスパート養成事業 (P-DEX) の活動

機器エキスパート (P-DEX) 養成事業

P-DEXは「学生による機器分析プロ集団養成機関」です。
 SVBLは分析機器・加工機のエキスパートを養成する目的で、P-DEX (Project-Device Expert) なる組織を立ち上げ、その支援を行っています。P-DEXは学部学生が主体となり、SVBLに設置されている機器の技能研究会の企画・運営を行っています。
 1年間かけて学生指導員が実技講習を行います。

最新鋭の分析・加工装置を使いこなす技能（初級、中級、上級）を身につけることができます。

使用機器

- 微小部蛍光X線測定装置
- 走査電子顕微鏡
- ワイヤークット放電加工機
- 表面プラズモン共鳴測定装置
- 液体クロマトグラフ質量分析装置

（出典：SVBLホームページ P-DEX事業の紹介）

④ 他学部授業科目の履修、他大学との単位互換

多様な履修形態を保証するしくみとして、他学部の科目履修（資料織 91）、県内大学連携による科目履修（資料織 92）について、取得単位の一定数を卒業に必要な要件として認めている。

資料織91 繊維学部から他学部への授業聴講実績数

（単位：件）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
人文学部						1
教育学部						
経済学部						
医学部						
工学部						
農学部		7	5	7	2	3
合計		7	5	7	2	4

（出典：繊維学部事務部作成）

資料織92 県内大学連携による科目履修の実績

1. 繊維学部から表中の大学へ授業を受けに行っている件数

（単位：件）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
長野県看護大学						
佐久大学						
清泉女学院大学			1	5	3	3
諏訪東京理科大学		3				
長野大学	1			1		
松本歯科大学						
松本大学			2			
合計	1	3	3	6	3	3

2. 繊維学部で表中の大学からの学生を受け入れている件数

（単位：件）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
長野県看護大学						
佐久大学						
清泉女学院大学						
諏訪東京理科大学						
長野大学			1			
松本歯科大学						
松本大学						
合計			1			

（出典：繊維学部事務部作成）

⑤ 各種セミナーや講演会、シンポジウムの開催

学生の見聞を広め、自主的な学習を刺激するため、各種セミナー、講演、シンポジウムを設けている。(資料織 93)

資料織93 各種セミナー、講演、シンポジウム等の開催実績

開催年度	講演等名称	講演者等(所属)
平成22年度	環境講演会「21世紀のPCB? PFOS・PFOAを巡る環境化学」	森脇 洋 氏(繊維学部応用生物学系准教授)
平成22年度	環境講演会「中空糸膜コンタクターによるCO2の分離回収」	高橋伸英 氏(繊維学部化学・材料系准教授)
平成22年度	環境講演会「環境に配慮した高分子材料の開発と解析」	田中稔久 氏(繊維学部創造工学系准教授)
平成22年度	招聘事業講演会「Utilization of Cellulose as Renewable Resources」	Thomas Rosenau 氏(ウィーン天然資源大学 教授)
平成22年度	繊維学部 100 周年記念講演会「日焼けは危険～化粧品から地球環境問題まで」	村上 泰 氏(信州大学繊維学部化学・材料系教授)
平成23年度	環境講演会「ライフサイクルアセスメント(LCA)を使ってCO2ダイエット」	田原聖隆 氏(産業技術総合研究所)
平成23年度	ビジネスマナー講演会(初級編)	高沢貴子氏(企業組合C&Cハーモニックス)
平成23年度	ビジネスマナー講演会(応用編)	高沢貴子氏(企業組合C&Cハーモニックス)
平成23年度	招聘事業講演会「地域資源活用セミナー～自然は宝の山～」	熊原勝 氏(日本レクシー株式会社) 竹内嘉江 氏(長野県林業総合センター) 出雲充 氏(株式会社ユーグレナ)
平成24年度	環境講演会「明るい日本の低炭素社会」	山田興一 氏(科学技術振興機構 低炭素社会戦略センター)
平成24年度	招聘事業講演会「アメリカのベンチャー企業で仕事をするとは」	森里 敦 氏(Cameron International Corporation)
平成25年度	SVBL企画力実践講座特別講演会「ディベート日本一の社会起業家が伝授する“伝える力”と“カタチにする力”」	秋元祥治 氏(NPO法人G-net代表理事)
平成25年度	環境講演会「信州大学におけるグリーン・イノベーション研究・長野型バイオリファイナリー技術開発を例として」	天野良彦 氏(信州大学工学部教授)
平成25年度	SVBL チャレンジセミナー特別講演会「ホンダ・イノベーションの神髄 ～独創的な製品はこうつくる～」	小林三郎 氏(元 ホンダ経営企画部長)
平成25年度	招聘事業講演会 「学生のみなさんへ ～「シゴトは学生の 100 倍楽しいヨ！」」	中島 健 氏(株式会社インフォマート)
平成25年度	TOEIC スピーキングテスト/ライティングテスト講演会「使える英語の効果的学習法～TOEICLR テストとSWテストで4技能を身につけよう」	千田潤一 氏 (株式会社アイ・シー・シー代表取締役)
平成25年度	SVBL10 周年記念シンポジウム講演会 「元気な創業者たちの想いを聴いてみよう」	池森賢二氏(株式会社ファンケル) 青木擴憲氏(株式会社 AOKI ホールディングス) 鳥羽博道氏(株式会社ドトールコーヒー)

平成26年度	環境講演会「エコ、健康のため都市交通に自転車を活かせ」	疋田智 氏(NPO 自転車活用推進研究会 理事)
平成26年度	環境講演会「適正な樹木の維持管理について」	椎名 豊勝氏(日本樹木医会会長)
平成26年度	TOEICライティングテスト講演会	千田潤一 氏 (株式会社アイ・シー・シー代表取締役)

(出典：繊維学部事務部作成)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

各系・課程において、繊維・ファイバー工学関連分野の技術者として必要な知識と技術を身につけさせるカリキュラムを作成し、DP および履修マップの形で内容を公開している。(資料織 3、織 62) これにより、学生にとっては自分が身につけるべき能力を、企業の採用担当者にとっては学生が身につけた能力を理解しやすくしている。

理系技術者に求められる実践的な英語教育プログラムを学部独自に設計し、TOEIC テストを用いて客観的に学業成果を評価するしくみを構築した。(資料織 67) 学生は自己の成績を客観的に把握し、以後の学習計画に活かすことができ、成績優秀者は就職活動時にアピールすることができるようになった。英語教育における PDCA サイクルが確立し、学部全体で英語教育に取り組む体制ができたことにより、海外派遣件数も大幅に増加した。

(資料織 71)

繊維学の専門知識を体系的に身につけさせるため、独自に教科書を作成し教育に用いている。(資料織 72、織 73)

以上の点より、繊維学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育活動の状況は、繊維学部が想定している関係者が期待する水準を上回ると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

(1) 学業の成果の点検、把握の体制

授業改善アンケートの結果を各課程で共有し、教員が自分の授業の改善に取り組み、その成果を確認する体制を構築している。(前掲資料織 46、30 頁)

学生相談室では、学生一人一人に対してチューター教員を配置し、年 2 回の定期面談を行った結果を教員会議で報告し、全教員が学生の就学状況を把握する体制を構築している。

(前掲資料織 36、織 37、織 38、25-27 頁)

(2) 進級、卒業、休学、退学、留年の状況

2 年次と 4 年次進級時に、一定数以上の単位修得を必要とする進級関門を設けている。

(資料織 94)

資料織94 進級，卒業要件

平成27年度入学生（15F）

★各区分指定科目等詳細については，学修便覧の各系(課程)履修要件・科目一覧を参照

繊維・感性工学系

		共通科目					専門科目							合計
		教養科目	基礎科目				必修			選択			自由	
			外国語	健康	新ゼミ	基礎科学	学部共通	系共通	課程別	学部共通	系共通	課程別		
2課程共通	1→2年進級関門	14	4	1	2	12	2	—	2	—	—	—	—	*37
先進繊維工学課程	3→4年進級関門	14	8	1	2	12	4	8	30	25(自由科目:8単位まで)			104	
	卒業所要単位	14	8	1	2	12	4	8	46	29(自由科目:8単位まで)			124	
感性工学課程	3→4年進級関門	14	8	1	2	12	6	8	29	30(自由科目:8単位まで)			110	
	卒業所要単位	14	8	1	2	12	6	8	37	36(自由科目:8単位まで)			124	

*1年次に修得を要する37単位のうち31単位以上修得で進級を認める。

機械・ロボット学系

		共通科目					専門科目							合計
		教養科目	基礎科目				必修			選択			自由	
			外国語	健康	新ゼミ	基礎科学	学部共通	系共通	課程別	学部共通	系共通	課程別		
2課程共通	1→2年進級関門	12	4	1	2	14	2	2	—	—	—	—	—	*37
機能機械学課程	3→4年進級関門	12	8	1	2	14	4	27	21	17(自由科目:8単位まで)			106	
	卒業所要単位	12	8	1	2	14	4	27	29	27(自由科目:8単位まで)			124	
ハイエンジニアリング課程	3→4年進級関門	12	8	1	2	14	4	21	20	24(A・B・C群の選択科目から各群6単位以上自由科目:5単位まで)			106	
	卒業所要単位	12	8	1	2	14	4	21	30	32(A・B・C群の選択科目から各群6単位以上自由科目:8単位まで)			124	

*1年次に修得を要する37単位のうち31単位以上修得で進級を認める。

化学・材料系

		共通科目					専門科目							合計
		教養科目	基礎科目				必修			選択			自由	
			外国語	健康	新ゼミ	基礎科学	学部共通	系共通	課程別	学部共通	系共通	課程別		
3課程共通	1→2年進級関門	14	4	1	2	12	2	2	—	—	—	—	—	*37
応用化学課程	3→4年進級関門	14	8	1	2	12	4	32	16	20			—	**109
	卒業所要単位	14	8	1	2	12	4	32	30	24			—	127
材料化学工学課程	3→4年進級関門	14	8	1	2	12	4	32	36	6			—	***115
	卒業所要単位	14	8	1	2	12	4	32	48	6			—	127
機能高分子学課程	3→4年進級関門	14	8	1	2	12	4	32	20	18			—	****111
	卒業所要単位	14	8	1	2	12	4	32	34	20			—	127

*1年次に修得を要する37単位のうち29単位以上修得で進級を認める。

**1～3年次に修得を要する必修専門科目のうち実験科目を除く2単位以下の不足は進級を認める。

***1～3年次に修得を要する専門科目のうち1年次専門科目及び実験科目を除く4単位以下の不足は進級を認める。

****1～3年次に修得を要する専門科目のうち実験科目を除く2単位以下の不足は進級を認める。

応用生物科学系

		共通科目					専門科目							合計
		教養科目	基礎科目				必修			選択			自由	
			外国語	健康	新ゼミ	基礎科学	学部共通	系共通	課程別	学部共通	系共通	課程別		
2課程共通	1→2年進級関門	16	4	1	2	8	2	2	—	—	—	—	—	*35
生物機能科学課程	3→4年進級関門	16	8	1	2	8	4	31	13	22(自由科目8単位まで) [課程選択10単位含む]			**105	
	卒業所要単位	16	8	1	2	8	4	31	23	32(自由科目8単位まで) [課程選択10単位含む]			125	
生物資源・環境科学課程	3→4年進級関門	16	8	1	2	8	4	33	10	23(自由科目6単位まで) [課程選択12単位含む]			**105	
	卒業所要単位	16	8	1	2	8	4	33	20	33(自由科目6単位まで) [課程選択12単位含む]			125	

*1年次に修得を要する35単位のうち31単位以上修得で進級を認める。

** 専門科目70単位以上修得者で，必修科目の1or2単位のみ不足の場合は進級を認める。

(出典：平成27年度「上田キャンパス履修案内」)

平成 22 年度以降の卒業率は 84～89% である。(資料織 95)

年度	1年次から2年次への進級率		3年次から4年次への進級率		卒業率	
22	284 人中	278 人 : 98%	316 人中	282 人 : 89%	298 人中	260 人 : 87%
23	299 人中	290 人 : 97%	295 人中	259 人 : 88%	316 人中	272 人 : 86%
24	285 人中	282 人 : 99%	284 人中	255 人 : 90%	295 人中	249 人 : 84%
25	280 人中	273 人 : 98%	299 人中	265 人 : 89%	284 人中	248 人 : 87%
26	287 人中	278 人 : 97%	285 人中	263 人 : 92%	299 人中	255 人 : 85%
27	291 人中	284 人 : 98%	280 人中	247 人 : 88%	285 人中	255 人 : 89%

(備考)
 進級率の算出方法 : 2年次への進級者数 / 入学者数、および3年次への進級者数 / 入学者数
 卒業率の算出方法 : 規定年数(4年)で卒業した学生数 / 入学者数
 (出典 : 繊維学部事務部作成)

学生相談室による様々な取組(前掲資料織 36、織 37、織 38、25-27 頁)の結果、繊維学部生の年度あたり退学学生数は 19.3 名(第 1 期中期目標期間)から 12.7 名(第 2 期)へと減少した。(資料織 96)

年度	第 1 期平均	22	23	24	25	26	27	第 2 期平均
休学者数	データなし	25	14	26	36	21	21	23.8
退学者数	19.3	12	6	19	16	11	12	12.7

(出典 : 繊維学部事務部作成)

(3) 免許取得の状況

教職免許取得に関する科目を開設している。(資料織 97)

資料織 97 教職に関する科目

施行規則66条の6に定められた科目

全免許種 共通

66条の6に定められた科目・単位数		左記に対応する本学部授業科目・単位数・対象学年				
科目	単位数	科目名		単位数	対象学年	備考
日本国憲法	2	共通(教養)	日本国憲法	2	1年	※①
体育	2	共通(健康)	健康科学・理論と実践	1	1年	※②
		共通(教養)	バレーボール,テニス,ソフトボール,ゴルフ,コンディショニングバレー,バドミントン,サッカー,弓道,コーディネーションエクササイズ,トレッキング,サバイバル活動,スクーバダイビング,スポーツフィッシング,バスケットボール,スポーツボウリング,氷上スキー(スケート&カーリング),ネイチャースキー,レジャースポーツ,アウトドアの達人,スノー・スポーツ,ニュースポーツ,信大マラソン,マリンスポーツ,アスレティックトレーニング,剣道形の世界,アダプテッドスポーツ	1	1年	体育・スポーツ群から左記科目の単位を修得する
外国語 コミュニケーション	2	共通(外国語)	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ	1	1年	※③
			フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ	1		
情報機器の操作 ※④	2	専門科目	電子計算機実習	2	2年	先進繊維工学課程
			計算機実習Ⅰ	2	2年	感性工学課程
			コンピュータプログラミング	2	2年	機能機械学課程
					3年	ハイエンジニアリング課程
			情報科学演習	2	1年	<化学・材料系> 応用化学課程 材料化学工学課程 機能高分子学課程
情報科学・統計学演習	2	2年	<応用生物科学系> 生物機能科学課程 生物資源・環境科学課程			
最低修得単位数計				8		

※① 日本国憲法2単位を修得するためには、社会科学群の「日本国憲法」2単位を修得する。

※② 「体育」2単位分のうち「健康科学・理論と実践」(1単位)は、教職に拘わらず必修である。

※③ 「英語」(2単位分)は、教職に拘わらず必修である。

※④ 情報機器の操作に対応する本学部科目は、全課程において教職に拘わらず必修である。

教科又は教職に関する科目

全免許種 共通

科目名	単位数		対象学年	備考
	必修	選択		
現代社会と子どもの学習		2	1年	
介護等体験の意義と実際		1	2・3年	
ノーマライゼーションとバリアフリー		2	1年	
障害児早期療育論		2	1年	

※ 教科又は教職に関する科目については、「所要資格 (教免法ほか)」の※2を参照

教職に関する科目

全免許種 共通（一部科目除く）

教免法施行規則で定める科目・単位数				左記に対応する本学部の授業科目・単位数・対象学年等							
区分	科目	単位数	記号	左記科目に含めることが必要な事項	科目名	単位数※①		記号	対象免許種	対象学年	備考
						必修	選択				
第2欄	教職の意義等に関する科目	2	2① 2② 2③	教職の意義及び教員の役割 教職の職務内容 留職停職及び免状取得等を含む 選択選択に関する各種の観点の提供等	教職論	2		2①2③	中高	1年	
第3欄	教育の基礎理論に関する科目	8	3① 3② 3③	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育学概論	2		3①	中高	1年	※①
					発達と教育	2		3②	中高	1年	
					発達障害の理解と支援	1		3②	中高	1年	
					特別支援教育の理論	1		3②	中高	1年	
					発達心理学概論	1		3②	中高	1年	
					学校教育の歴史と現状	1		3①	中高	1年	
					教育の思想と歴史	2		3①	中高	1年	
					教育社会学概論	2		3③	中高	1年	
					★教育行政学概論	2		3③	中高	1年	
					★教育経営学概論	2		3③	中高	1年	
				★教育法学概論	2		3③	中高	1年		
第4欄	教育課程及び指導法に関する科目	中学13・高校7	41① 41② 41③ 41④ 41⑤	教育課程の意義及び編成の方法 各教科の指導法 道徳の指導法【中学のみ】 特別活動の指導法 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法論	1		41⑤	中高	2~4年	理科のみ※②
					特別活動の理論と実践	1		41④	中高	2~4年	
					道徳教育の理論と実践	2		41③	中	2~4年	
					教育課程の編成法	1		41①	中高	1年	
					メディアリテラシー概論（メディアと教育）	2		41⑤	中高	1年	
					教育方法特論	1		41⑤	中高	2~4年	
					理科指導法基礎Ⅰ	2		41②	中高	2年	
					理科指導法基礎Ⅱ	2		41②	中高	3年	
					理科指導法特論	4		41②	中高	3年	
					工業科指導法Ⅰ	(2)		41②	高	2・3年	
	工業科指導法Ⅱ	(2)		41②	高	2・3年					
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	42① 42② 42③	生徒指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリング)に関する基礎的な知識を含むの理論及び方法 進路指導の理論及び方法	生徒指導の理論と実践	2		42①③	中高	2~4年	工業のみ※②
					教育相談の理論と実践	2		42②	中高	1年	
					カウンセリング概論	2		42②	中高	1年	
キャリア教育の理論と実践					2		42③	中高	1年		
第5欄	教育実習	中学5・高校3		教育実習事前・事後指導	1			中高	3・4年	※③	
				中等基礎教育実習	4			中高	4年		
				高等学校教育実習	2			高	4年		
第6欄	教職実践演習	2			教職実践演習（中・高）	2			中高	4年	
最低修得単位数計						3 4		中学校理科			
（工業については特例あり [所要資格欄★参照]）						2 6 [0]		高校理科 [高校工業]			

※① ★印の付いた科目を1科目含めて、2単位選択必修。

※② 各教科の指導法は、取得希望教科の指導法について修得すること。他教科の科目は算入されない。
また、高校（理科）のみ取得希望の場合は、理科指導法3科目のうち、最低4単位分修得すること。

※③ 「中等基礎教育実習」を修得すれば、「高等学校教育実習」を修得しなくても高免の所要資格に算入できる。
（教免法施行規則第6条表備考8,12項）

（出典：平成27年度「上田キャンパス履修案内」）

中学校一種、高等学校一種の教職免許取得者数及び技術士補の習得に必要な JABEE コース修了者数は、定常的に出ている。(資料織 98)

資料織98 教職免許（中学校一種、高等学校一種）取得者数及びJABEEコース修了者数

年度	中学校一種免許状 (理科)	高等学校一種免許状 (理科)	高等学校一種免許状 (工業)	JABEEコース 修了者
平成22年度	3名	5名	6名	87名
平成23年度	16名	18名	3名	82名
平成24年度	10名	16名	1名	72名
平成25年度	20名	21名	0名	60名
平成26年度	19名	19名	0名	35名
平成27年度	16名	17名	2名	37名

注1 各免許種の専修免許の取得者数は計上していない。

(出典：繊維学部事務部作成資料)

(4) 学業の成果に対する学生の評価

① 授業改善アンケート

授業改善アンケート（前掲資料織 48、31 頁）によれば、授業内容に関する 3 項目において 8 割以上の学生が肯定的に回答しており、教員がシラバスを重視しながら授業を実施していることを示している。(資料織 99)

資料織99 授業評価アンケートの結果

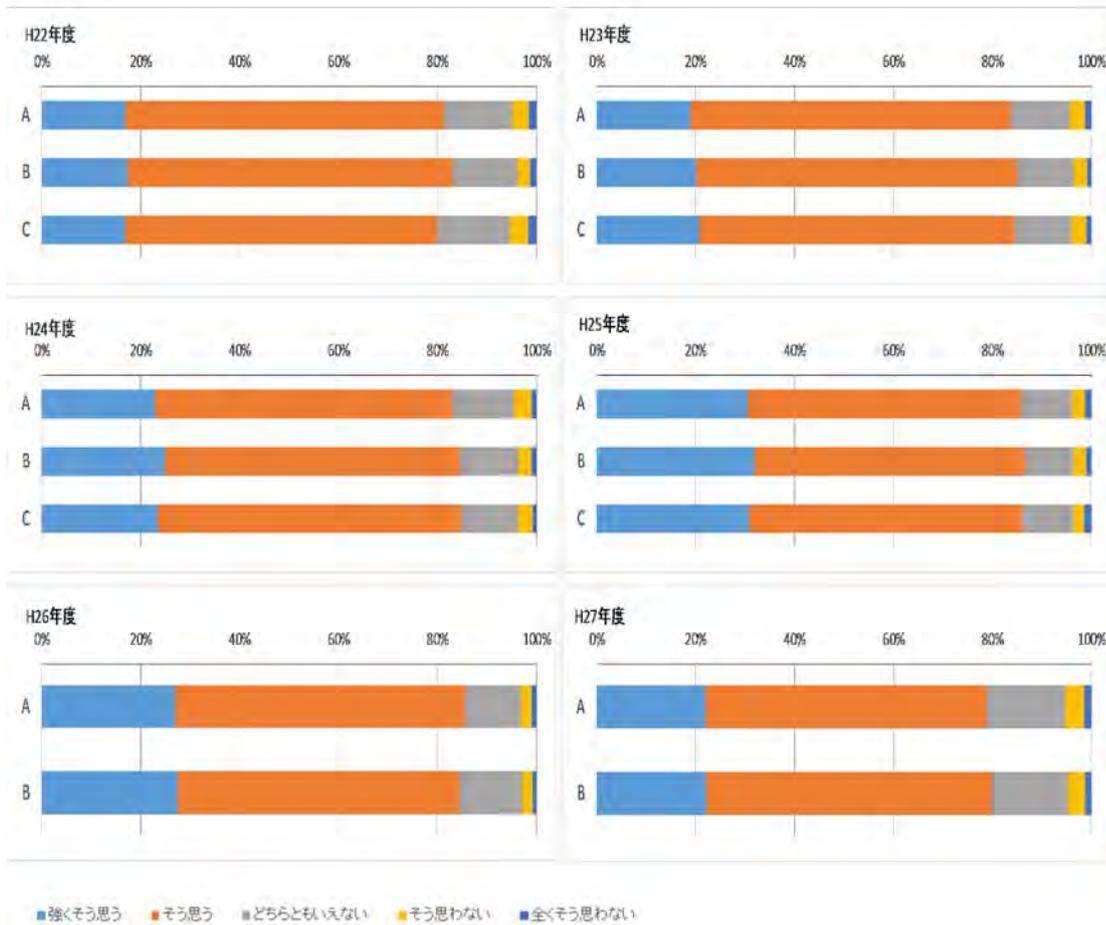
各年度において、学部1年次から4年次まで前後期で開講している全課程の専門講義科目（実験実習と演習科目は除く）を合算して集計した。

質問内容

A：授業内容は、達成しようとしている目標にふさわしかったですか。

B：シラバスから大幅に逸脱せずに実施されましたか。

C：教育内容に沿った授業内容が提供されましたか。

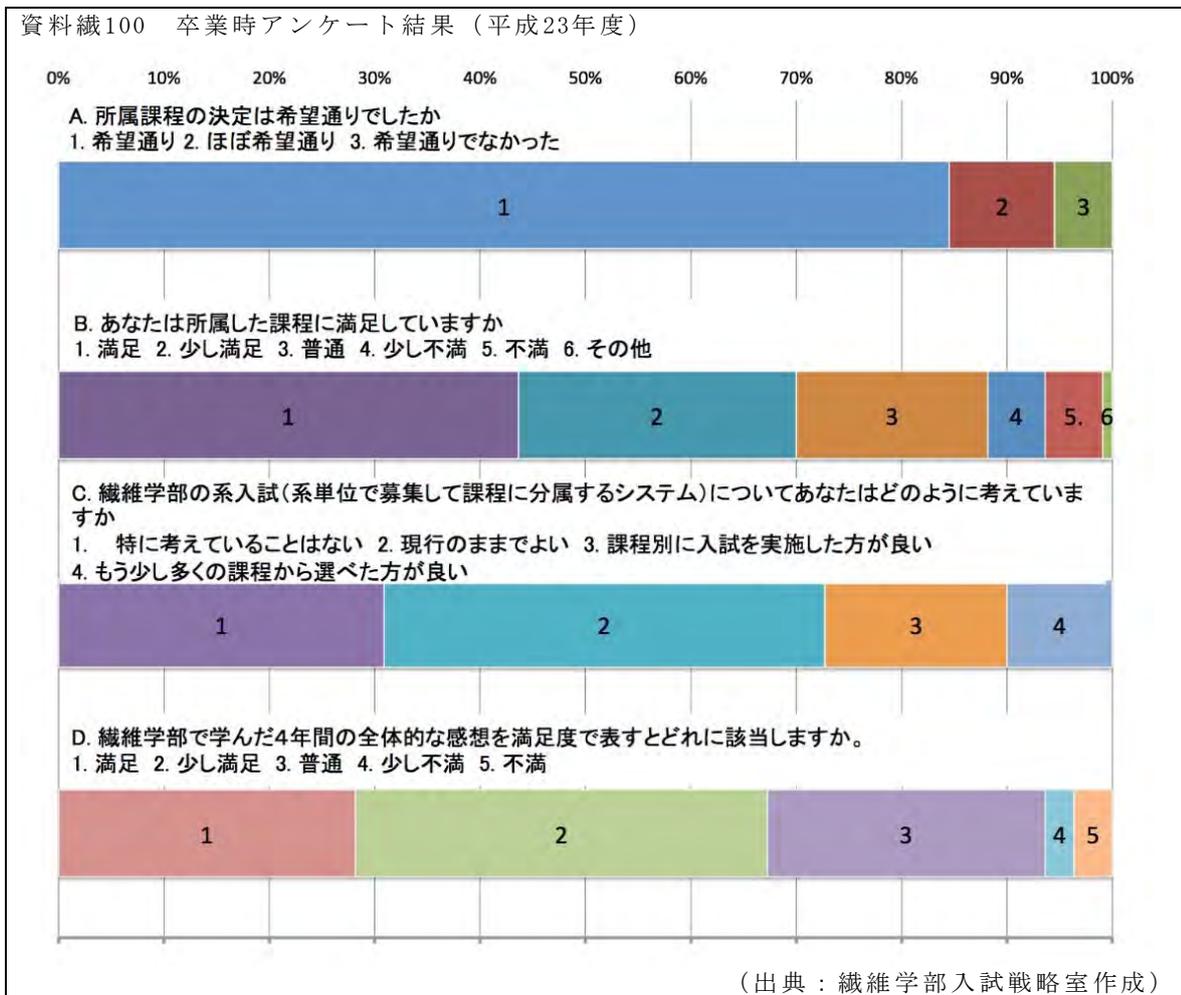


(出典：繊維学部事務部作成)

②教育体制に対する評価と分析

平成23年度より、毎年卒業時にアンケート調査を行い（前掲資料織49、32頁）、学部の教育体制に対する意見を徴収した。系単位の入試と高年次での課程分属に対しては概ね肯定的であり、7割程度の学生は4年間の学習に満足あるいはやや満足の回答を示した。

（資料織100）



(5) 学生の受賞状況

①学会における受賞

学生の受賞実績は以下のとおりである。(資料織 101)

資料織101 学生の受賞状況

年度	課程等	氏名	受賞等の概要
H22	なし		
H23	なし		
H24	先進繊維工学課程	富井省吾	計測自動制御学会中部支部シンポジウム計測賞
H25	先進繊維工学課程	工藤数基	計測自動制御学会中部支部シンポジウム計測賞受賞
	感性工学課程	Hiromi Tokoro	第15回日本感性工学会大会優秀発表賞
	先進繊維工学課程	大島知洋	第33回日本生体医工学会甲信越支部大会優秀賞
H26	先進繊維工学課程	安達亮平	計測自動制御学会中部支部シンポジウム計測賞
	生物機能科学課程	古杉隼人	日本生物高分子学会2014年度大会学会賞

H27	生物機能科学課程	八木瑞貴	第108回 日本繁殖生物学会優秀発表賞
	応用化学課程	佐塚友茄	第27回高分子ゲル研究討論会優秀ポスター賞

(出典：繊維学部事務部作成)

②ベンチャーコンテストの受賞状況

SVBLにおける学生生活動の中から、平成22年度以降9件の受賞実績がある。(資料織102)

資料織102 繊維学部生の学外ベンチャーコンテスト等受賞状況

年度	受賞名	受賞内容	受賞者・受賞団体
平成23年度	テクノルネサスジャパン住友化学 優秀賞	「匂いライブラリー～匂いで挑む環境デザイン～」	生物資源・環境科学課程3年生
	OIST英文懸賞論文入賞		材料化学工学課程2年生
平成24年度	テクノ愛 奨励賞	「燃料いらすの携帯給湯器～安全・安心・湯をお届け～」	生物機能科学課程3年生
	社会人基礎力育成グランプリ 準優秀賞	「桑の有効活用を目指して」	桑まるごと活用塾
平成26年度	信州ベンチャーコンテスト2014大学生部門 準グランプリ	「ヒト毛髪を用いた医用材料の開発と応用」	バイオエンジニアリング課程4年生
	信州ベンチャーコンテスト2014大学生部門 チャレンジ賞	「信州の自然で遊ぼう!!1クリックアウトドアパッケージ」	繊維学部1年生
	第4回サイエンス・インカレ(文部科学省主催)ポスター発表ファイナリスト	「表面プラズモンを利用したハウスダストの簡易評価方法の開発」	SVBL P-DEX SPR班
平成27年度	信州ベンチャーコンテスト2015アイデア部門 奨励賞	蚕の飼育キット	繊維学部1年生
	社会人基礎力育成グランプリ 2016関東地区予選大会奨励賞	くわでくろみました！～ゼロからの社会人基礎力～	繊維学部1年生

(出典：繊維学部事務部作成)

本学部学生の課外活動の中から、「桑まるごと活用塾」による菓子「くわりんとう」の商品化、カラフルな軍手の製造販売を企画した「ハナサカ軍手プロジェクト」がベンチャービジネスの成果として認められ、マスコミに大きく採り上げられた。(資料織103、別添資料1、2)

資料織103 学生のベンチャービジネス活動

○ハナサカ軍手プロジェクトの活動

「冬の街華やかに」…信州大生が児童にプレゼント

軍手のデザインについて話し合う藤井さん(右端)ら(11月上旬、長野県上田市で)明治から大正時代にかけて、全国の蚕糸さんし業を支える蚕都として栄えた長野県上田市。

袖つむぎ工房の一角に、信州大学繊維学部(同市)の学生たちによる活動「ハナサカ軍手プロジェクト」の拠点がある。

赤やピンク、青、黄など色とりどりのチェックや花柄などの軍手が並ぶ。「納品書を作るのをサボらず、しっかり販売店に渡すように」「商品管理を逐一報告して」。11月上旬、夜の会議で、先輩たちの厳しい指示が飛び、後輩たちの表情が引き締まった。

「寒い冬の街を華やかにし、上田市から日本中に明るく元気な笑顔の花を咲かせよう」と、同学部の学生が2009年、軍手に様々なデザインのプリントを施した「軍手ィ」を発案。学生ら26人がデザインや、製造会社への発注などをし、県内の約30店舗などで1組500円で販売し、収益の一部で「ちび軍手ィ」を製作している。当初は市内の小学1年生にプレゼントし、今年から県内の全小1約1万8000人に贈る予定だ。

バンクーバー五輪の「日本公式手袋」

1970年代に始まった石油ショックで繊維産業は傾き、全国の大学は次々と繊維学部の看板を下ろした。しかし、同大は学部名を守り、今では繊維学部を持つ全国唯一の大学だ。

「繊維の素材開発から流通・販売までを幅広く扱う学部。理学、工学、農学、医学などを横断的に融合して学ぶ」と、同学部の上條正義教授(50)。

上條教授の専門は感性工学で、着心地など数値化しづらい感性をいかに測り、価値あるモノを創造し

ていくかを研究している。「相手とコミュニケーションを取りながら、要望に沿った軍手を作り上げていく体験は、感性価値を創造する取り組みそのもの」と、学生たちの活動を評価する。

2010年のバンクーバー・パラリンピックで日本選手団の公式手袋に採用されたり、軍手をPRするポスターに女優の足立梨花さんを起用したりして、県外にも知られるようになった。今年9月には英国ロンドンで開かれた見本市にも出展した。

民間と信州大、上田市でつくる産学官連携支援施設「浅間リサーチエクステンションセンター」の岡田基幸専務理事（43）が活動の顧問を務める。「学生の熱意が周囲の大人を動かす。注文や納品などをめぐるトラブルを自分たちで解決する経験を重ね、たくましく成長している」と見守る。

子どもの「これ、かわいい！」が学生の自信に

会議では、今冬の子どもたちへのプレゼントに向け、試作品をチェック。柄や色の打ち合わせをした。

デザイン担当の同学部3年目黒水海（みなみ）さん（20）は「仲間から何度もダメ出しされるが、子どもらから『これ、かわいい！』と言われると、自信につながる」。プロジェクト代表で同学部4年の藤井知奈美さん（22）は「冬でも外で遊べるよう、多くの子どもに贈りたい」。

活動は今年で6年目。市内の小学生全員に軍手を贈ることになる。子どもたちが華やかな両手を振りながら笑顔で走り回る街にしたい――。学生たちの願いがかなう日は近そうだ。（保井隆之）

（出典：YOMIURI ON LINE H26.11.28より抜粋）

③機器エキスパート養成事業（P-DEX）

SVBLにおける学部学生の活動から（前掲資料織90、68頁）、学術論文誌へ論文が掲載される成果が生まれた。（資料織104）

資料織104 機器エキスパート養成事業（P-DEX）成果の論文

英国王立化学会（Royal Society of Chemistry）が刊行する学術論文誌「Analyst, 138巻、2013年」へ掲載された。

Analyst

RSC Publishing

PAPER

Development of a novel evaluation method for air particles using surface plasmon resonance spectroscopy analysis

Cite this: *Analyst*, 2013, **138**, 5437

Ryoya Tanaka,^a Ryusaku Gomi,^a Kunihiro Funasaka,^b Daichi Asakawa,^b Hiromitsu Nakanishi^c and Hiroshi Moriwaki^{*a}

The aim of this study was to develop a novel evaluation method for air particles using surface plasmon resonance spectroscopy (SPR) analysis. An L1 sensor chip modified with immobilized liposome was used as a model of the membrane of epithelial cells in organs of respiration. A test suspension of dispersed air particles was flowed onto the sensor chip. The interaction between the surface of the sensor chip and particulates in the sample solution was detected by SPR. It is deduced that the SPR measurement provides information about the adsorption/desorption behavior of the particles on the membrane. Environmentally certified reference materials, diesel particulate matter, vehicle exhaust particulates, urban particulate matter, coal fly ash, and rocks, were used as air particulate samples. Filtrates of suspensions of these samples were analyzed by SPR. Each sample revealed characteristic SPR sensor-gram patterns. For example, diesel particulate matter strongly interacted with the lipid bilayer, and was hardly dissociated. On the other hand, coal fly ash and rock particles interacted poorly with the membrane. The presented method could be used to evaluate or characterize air particles.

Received 9th April 2013
Accepted 23rd June 2013

DOI: 10.1039/c3an00704a

www.rsc.org/analyst

（出典：RSC Publishingホームページより引用）

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

卒業率は85%程度を維持している。(資料織95) 教職免許等の資格取得者数も毎年定常的に出ている。(資料織98)

平成20年度改組後、初めての卒業生は4年間の学部教育に対して約7割の学生が満足と回答している。(資料織100)

学生のベンチャーマインド育成の取組の中から、コンテスト受賞者が生まれ(資料織102)、2件のベンチャービジネス活動がマスコミで採り上げられた。(資料織103、別添資料1、2)

以上の点より、繊維学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果の状況は、繊維学部が想定している関係者が期待する水準を上回ると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

(1)卒業後の進路の状況

本学の卒業生の進路を以下に示した。大学院進学率は70%程度、就職率は80~90%で推移しており、ともに全国平均と比較して高い状態にある。(資料織105)

資料織105 卒業後の進路の状況

卒業年度	区分		卒業生		進学者		就職者		専修学校・外国 の学校等入学者	一時的な仕事に 就いた者	左記以外の者		不詳・死亡 の者
			A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)	人(D)			率(D/A)		
H21	全体		89,623	35,841	39.99%	42,328	78.70%	1,853	930	7,974	8.90%	697	
	国立		31,511	20,955	66.50%	8,778	83.16%	266	31	1,288	4.09%	193	
	本学	計	296	207	69.93%	87	97.75%	0	0	2	0.68%	0	
		男	245	177	72.24%	66	97.06%	0	0	2	0.82%	0	
	女	51	30	58.82%	21	100.00%	0	0	0	0.00%	0		
H22	全体		90,049	34,467	38.28%	43,292	77.89%	1,558	1,230	8,738	9.70%	764	
	国立		31,702	20,642	65.11%	9,212	83.29%	221	49	1,449	4.57%	129	
	本学	計	301	199	66.11%	85	83.33%	0	0	17	5.65%	0	
		男	247	170	68.83%	61	79.22%	0	0	16	6.48%	0	
	女	54	29	53.70%	24	96.00%	0	0	1	1.85%	0		
H23	全体		87,544	31,999	36.55%	43,903	79.04%	1,273	1,217	8,588	9.81%	564	
	国立		31,952	19,987	62.55%	9,817	82.05%	254	57	1,601	5.01%	236	
	本学	計	315	210	66.67%	88	83.81%	2	0	15	4.76%	0	
		男	239	178	74.48%	47	77.05%	2	0	12	5.02%	0	
	女	76	32	42.11%	41	93.18%	0	0	3	3.95%	0		
H24	全体		86,313	31,156	36.10%	45,714	82.88%	991	894	7,100	8.23%	458	
	国立		31,480	19,729	62.67%	9,939	84.58%	204	42	1,421	4.51%	145	
	本学	計	289	199	68.86%	83	92.22%	0	0	7	2.42%	0	
		男	237	176	74.26%	56	91.80%	0	0	5	2.11%	0	
	女	52	23	44.23%	27	93.10%	0	0	2	3.85%	0		
H25	全体		86,684	31,375	36.19%	47,355	85.62%	801	768	6,010	6.93%	375	
	国立		31,056	19,759	63.62%	9,643	85.36%	176	52	1,259	4.05%	167	
	本学	計	279	188	67.38%	83	91.21%	0	0	8	2.87%	0	
		男	204	146	71.57%	52	89.66%	0	0	6	2.94%	0	
	女	75	42	56.00%	31	93.94%	0	0	2	2.67%	0		
H26	全体		85,976	31,177	36.26%	49,001	89.42%	534	513	4,419	5.14%	332	
	国立		31,170	19,757	63.38%	9,968	87.34%	127	47	1,154	3.70%	117	
	本学	計	298	193	64.77%	91	86.67%	1	0	13	4.36%	0	
		男	220	149	67.73%	61	85.92%	0	0	10	4.55%	0	
	女	78	44	56.41%	30	88.24%	1	0	3	3.85%	0		
H27	全体												
	国立												
	本学	計	297	206	69.36%	85	93.41%	0	0	6	2.02%	0	
		男	217	163	75.12%	50	92.59%	0	0	4	1.84%	0	
	女	80	43	53.75%	35	94.59%	0	0	2	2.50%	0		

※「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学卒業後状況調査(関係学科別)より、区分「工学」を抜粋(「繊維学」は対象が極端に少ないため、「繊維学」を含む「工学」を選択)なお、平成27年度「全体」「国立」については、平成28年6月末現在未公開

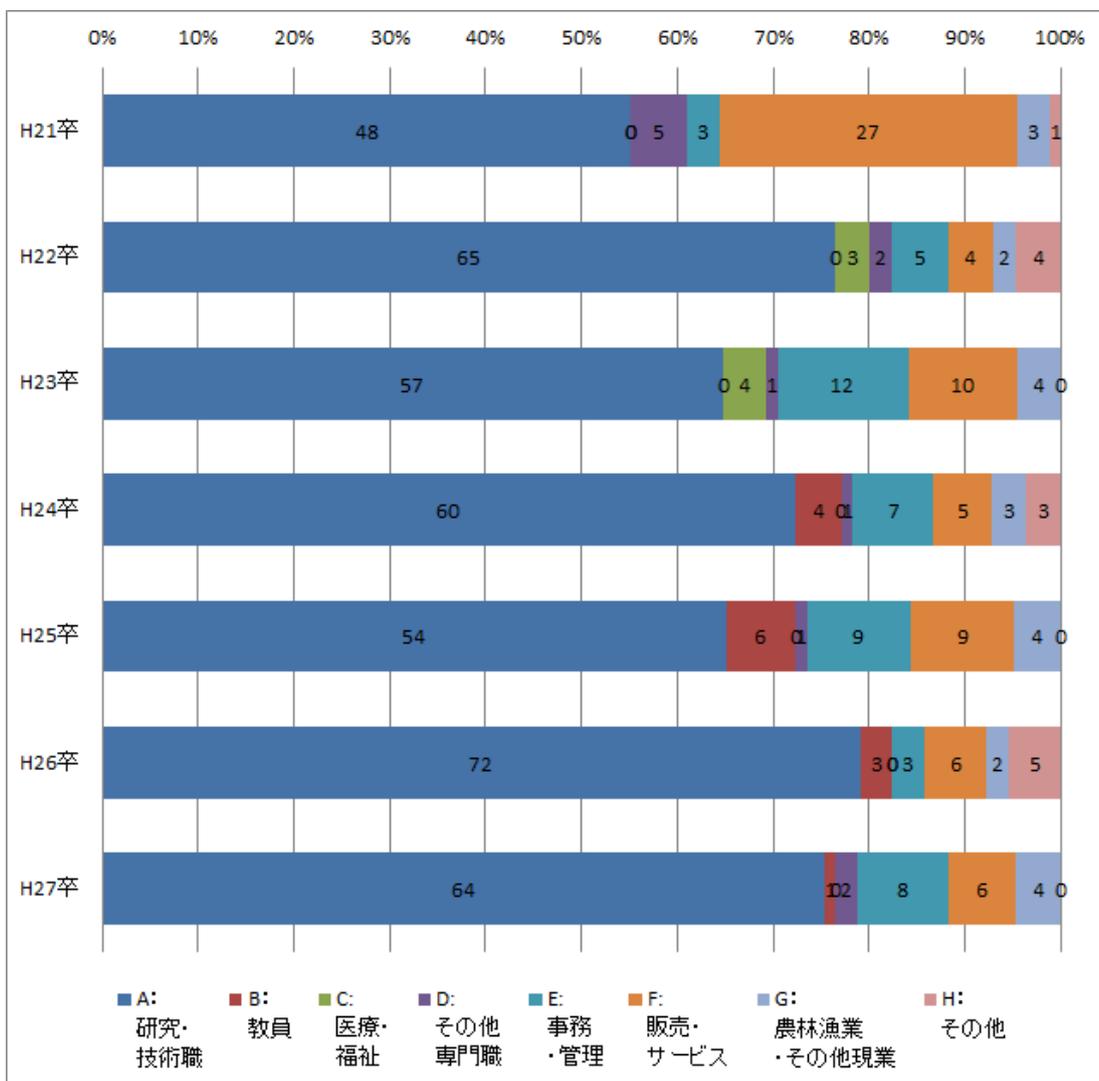
(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

卒業生の職業・産業別就職状況は以下のとおりである。(資料織 106)

資料織106 職業・産業別就職の状況

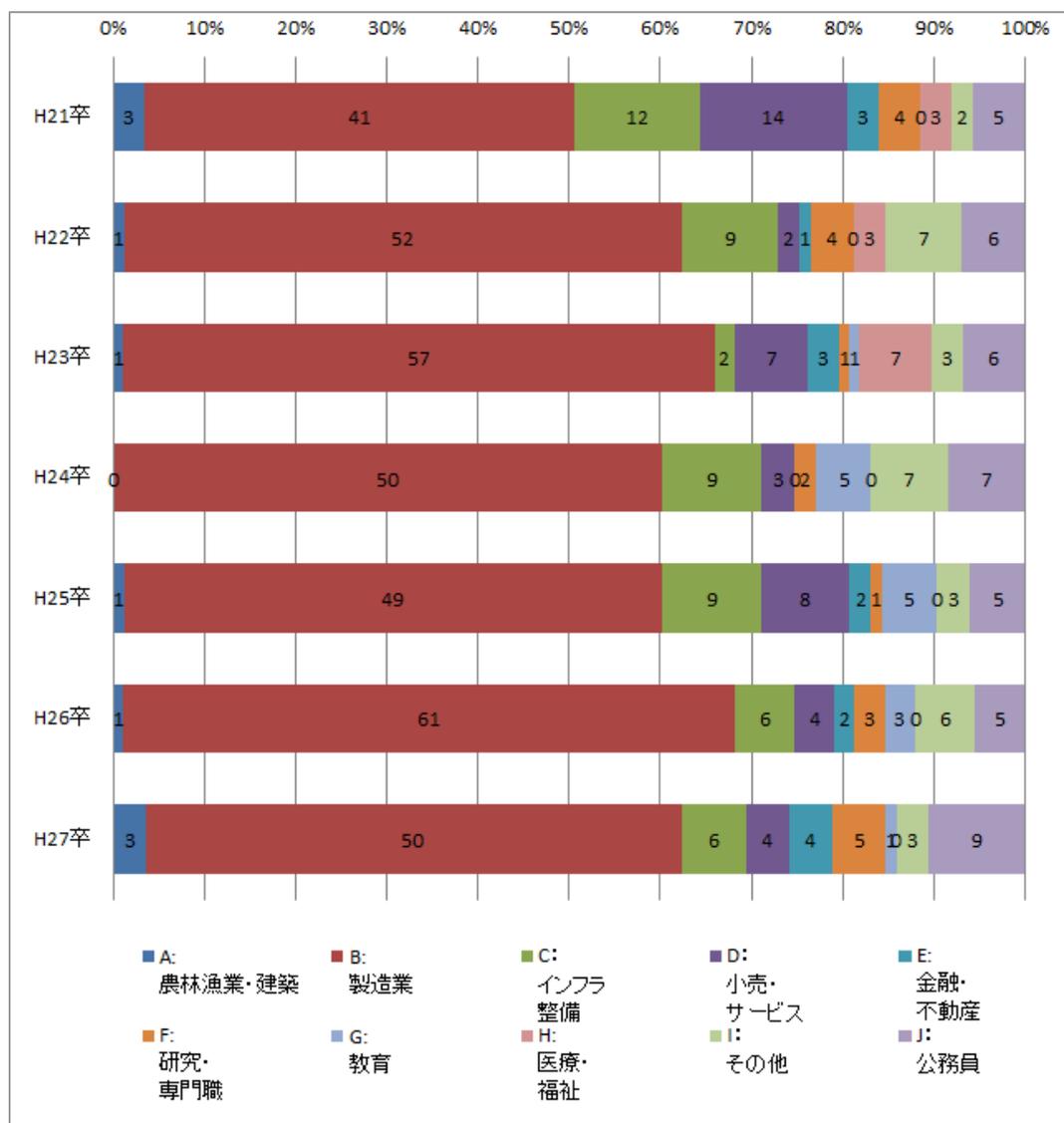
職業別就職者数

	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービ ス	G: 農林漁業 ・その他 現業	H: その他	合計
H21卒	48	0	0	5	3	27	3	1	87
H22卒	65	0	3	2	5	4	2	4	85
H23卒	57	0	4	1	12	10	4	0	88
H24卒	60	4	0	1	7	5	3	3	83
H25卒	54	6	0	1	9	9	4	0	83
H26卒	72	3	0	0	3	6	2	5	91
H27卒	64	1	0	2	8	6	4	0	85



産業別就職者数

	A: 農林漁業・建築	B: 製造業	C: インフラ整備	D: 小売・サービス	E: 金融・不動産	F: 研究・専門職	G: 教育	H: 医療・福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21卒	3	41	12	14	3	4	0	3	2	5	87
H22卒	1	52	9	2	1	4	0	3	7	6	85
H23卒	1	57	2	7	3	1	1	7	3	6	88
H24卒	0	50	9	3	0	2	5	0	7	7	83
H25卒	1	49	9	8	2	1	5	0	3	5	83
H26卒	1	61	6	4	2	3	3	0	6	5	91
H27卒	3	50	6	4	4	5	1	0	3	9	85



(出典：学校基本調査をもとに経営企画課で作成)

学部就職委員会（資料織 107）では、就職説明会の開催（資料織 108）などを通じて学生の就職指導を行ってきた結果、平成 22 年度以降、就職希望者のほぼ 100% の就職率を維持している。（資料織 109）

また、本学部卒業生の 6 ～ 7 割は本学大学院理工学系研究科に進学しており（資料織 109）、繊維・ファイバー工学分野の高度な専門技術を身につけるため、学部と修士課程を併せた 6 年間一貫の教育が指向されている。

資料織107 繊維学部就職委員会

■就職委員会委員構成

委員長	太田和親	機能高分子学課程
委員	西松豊典	先進繊維工学課程
委員	細谷 聡	感性工学課程
委員	倪 慶清	機能機械学課程
委員	山口昌樹	バイオエンジニアリング課程
委員	本吉谷 二郎	応用化学課程
委員	村上 泰	材料化学工学課程
委員	野末雅之	生物機能科学課程
委員	海老沼 宏安	生物資源・環境科学課程

(活動内容)

- ・就職先企業等の情報収集及び開拓に関すること
- ・合同企業説明会及び企業セミナーに関すること
- ・「現代職業概論」のコーディネートに関すること

繊維学部が所在する上田キャンパスの産学官連携組織である「浅間リサーチエクステンションセンター (AREC)」および「ファイバーイノベーション・インキュベーター (Fii) 施設」とも連携して、学生の就職指導を行っている。

(出典：繊維学部事務部作成)

資料織108 就職説明会の開催状況

開催日	名称	参加者数
H22.11/13・12/11・H23.1/8	繊維学部合同企業説明会	540名
H23.12/10・H24.1/7・1/21	繊維学部合同企業説明会	549名
H24.12/8・12/22・H25.1/12	繊維学部合同企業説明会	676名
H25.12/7・12/21・H26.1/11	繊維学部合同企業説明会	620名
H27.3/7・3/8・3/14・3/15	繊維学部合同企業説明会	599名
H28.3/5・3/6・3/19・3/20・3/21	繊維学部合同企業説明会	589名

(出典：繊維学部就職委員会作成)

資料織109 繊維学部卒業生就職希望者の進路状況

	卒業生数	進学者数	就職希望者数	就職者数	その他	就職率
平成22年度	301	199	87	85	17	97.7%
平成23年度	315	210	88	88	17	100%
平成24年度	289	199	83	83	7	100%
平成25年度	279	188	83	83	8	100%
平成26年度	298	193	91	91	14	100%
平成27年度	297	206	85	85	6	100%

その他は研究生、家事手伝い、就職を希望しない人数を示す

第1期（平成16～21年度）の就職率の平均は96.1%であった。

(出典：繊維学部就職委員会作成)

(2) 卒業生からの意見聴取

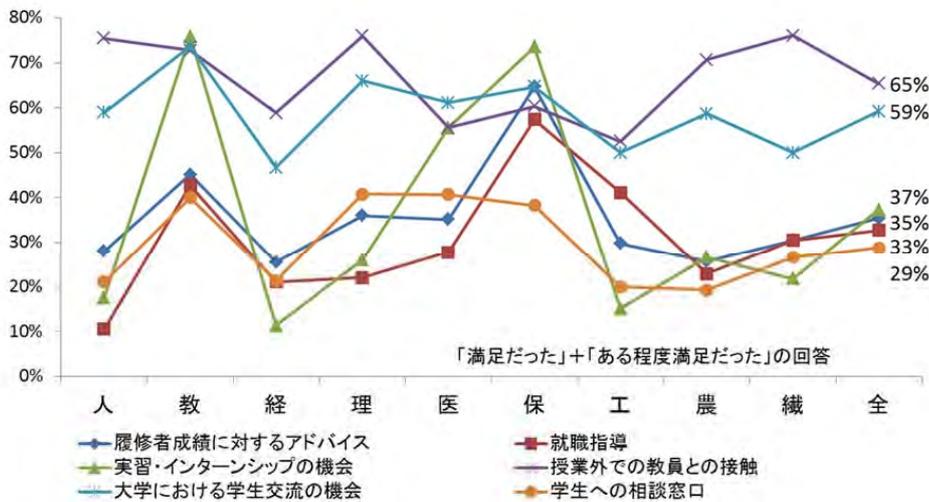
平成26年に全学で卒業生に対するアンケート調査を実施した。(前掲資料織52、36頁、

織 110)

資料織 110 卒業生アンケート

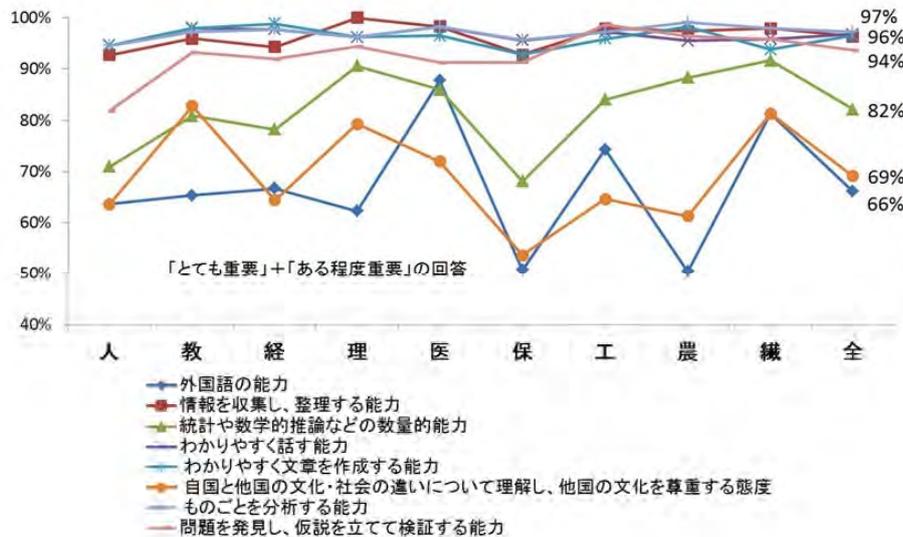
○調査項目「大学生活に対する評価」

「授業外での教員との接触」に満足、ある程度満足と回答した卒業生数の割合が高く 70%を越えた。(大学平均 65%)



○調査項目「専門教育と教養教育を通して培われた能力」

「外国語能力」「情報を収集し、整理する能力」「わかりやすく文章を作成する能力」「問題を発見し、仮説を立てて検証する能力」については 90%以上の卒業生がとても重要、またはある程度重要と回答した。特に、「統計や数学的推論などの数力的能力」を重視する卒業生が 90%ほど存在した。(大学平均 82%)



○「あなたが信州大学で学んでよかったと思うこと」に対して、以下の様な自由記述があった。

- ・研究室において教員、職員、先輩、後輩と家族的な関係が構築され、単に学問を学ぶ場所を越え人生を学ぶ事ができた。また、何か知識を得るために学ぶだけでなく、個性あふれる教授陣に恵まれ、学ぶ事そのものの楽しさを教わる事ができ、その後の職業生活、社会生活に大いに役立っている。
- ・卒論研究時等、教授、准教授との距離が近く、多くを学べた。少人数の講座制だったので、落ち着いた研究ができた。環境が良かった。
- ・近隣の企業と産学官共同研究ができたこと。大学と企業の求める内容の違い、スピード感の違いを学生の間で体験できました。1年生の学生寮で他学部のメンバーとも交流できたこと。専門とは違う交友関係が、たまに役に立っています。都会の喧騒は得意ではないので、自然の多い長野県で学べたこと。繊維学部という日本にほとんどない特殊な学部で勉強できました。

平成25年に学部卒業生との座談会を実施し、本学部の教育が社会に出てどのように活かされているか意見を聴く場を設けた。(資料織111)

資料織111 卒業生との座談会

日時：平成25年6月29日(土)13時30分~15時30分

場所：繊維学部大会議室(上田キャンパス事務棟2階)

出席者(敬称略 専攻順)

山本 幸生 マルコメ株式会社(応用生物学専攻 H13年度修了)
 梶沢 幸絵 株式会社メディックメディア(応用生物学専攻 H17年度修了)
 長坂 美才絵 株式会社桜井製作所(応用生物学専攻 H22年度修了)
 児山 祥平 国立大学法人信州大学(システム開発工学専攻 H24年度修了)
 朱 豊強 富士電機株式会社(材料工学専攻 H18年度修了)
 牧内 一浩 山洋電気株式会社(機能機械学専攻 H9年度修了)
 岡 直人 KOA株式会社(精密素材工学専攻 H13年度修了)
 金子 洋平 新光電気工業株式会社(精密素材工学専攻 H21年度修了)

司会・進行

平林 公男 副学部長
 下坂 誠 点検・評価委員長
 本吉谷 二郎 教務委員長
 他に在校生が数名参加した。

座談会のテーマと主な意見

1.繊維学部を受験しようと思ったきっかけ

- ・中学・高校時代の理科の教員や授業に影響を受けて
- ・長野県は自然が多くて環境が良さそうなイメージがあった
- ・親戚に繊維学部出身者がいる影響で繊維学部を身近に感じるようになった
- ・繊維学部のパンフレットを見て、夢がありそうな所に魅力を感じた

2.繊維学部の授業について「身に付いたこと」「今の自分に役立っている」と感じる印象に残った授業

- ・工学から生物まで幅広い学問分野を扱う学部にお蔭でいろいろな知識を身に付けることができた
- ・プレゼンテーションの授業。まとめ方から発表の仕方まで周りから指導や助言を受けながらやり抜いたことには自信にもなった
- ・研究室でのゼミや実験。外国語の文献を和訳して発表したこと、今の仕事でも同じようなことをする機会が多く、その時の経験が役に立っている

3.卒論・修論・博士論文作成について、自主的に頑張ったことや研究を通して身に付いたこと

- ・研究分野の最先端を作っているというモチベーションを高く持てる経験ができたこと
- ・実験のマニュアルを作る経験は今の仕事で手順書を作る際に役立っている
- ・データの収集や論文の執筆が、今の仕事で特許を申請するときに重なる部分もあり、役に立っていると感じる
- ・数々の失敗をしたが、その失敗から別の解決法やアプローチを考える機会を多く持てたこと

4.現在の皆さんから見て信大の良さはどのようなところだと思うか

- ・自然が多く落ち着いた雰囲気、学業に専念できる
- ・健康的な遊びが人格形成や、就職で会社を選ぶ際にも良い影響を与えている
- ・全国から集まってくる学生と出会えたこと
- ・地域性の強い教育や研究

5.卒業してからの大学との結びつき(教員、研究室、サークル、友人、先輩、後輩など)

- ・研究室の合宿に招いてもらい、現役の学生や同期と交流を図っている
 - ・会社内外に信大のOB・OGが多い、良きライバルとしてお互い切磋琢磨できる
 - ・人生を豊かにしてくれる付き合いが今でも続いている
 - ・会社が近いため共同で講習会や工場見学会など企画することがある
6. 繊維学部として残してほしいもの、充実させてほしいもの、期待したいこと
- ・英語の学習、TOEICは英語学習のきっかけになるので続けてほしい、メールのやり取りを頻繁に行うので読む力の育成、数か国語を話せる留学生を増やすことで刺激を与えてはどうか
 - ・繊維という学部の名前は残してほしい
 - ・繊維のことが全般的に学べる教養的な授業があれば良い
 - ・英語だけでなく国語力も必要.説明の仕方をきちんと身に付ける力を養う授業
7. 学生時代にやっておけば良かったこと、やっておいて良かったこと
- ・時間のあるうちに海外に行くこと、視野も広がる
 - ・今、課されていることに一生懸命に取り組む習慣をつける
 - ・専門分野以外の知識も広げておくと役に立つ
 - ・本をたくさん読んでほしい、体系立った知識が身に付く
 - ・課外活動で大学以外での交流を持つことも大事、違った視点からアドバイスをもらえたりする

(出典：繊維学部事務部作成)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

学部卒業者の7割近い学生が、さらに高度な専門知識と技術を得るため大学院修士課程に進学し、就職希望者の就職率は100%で安定している。(資料繊維109) 安定した就職率を維持している状態は、受験生、在学生の期待を満たすものである。

以上の点より、繊維学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果の状況は、繊維学部が想定している関係者が期待する水準を上回ると判断する。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

事例1 繊維・ファイバー工学の教育体制の改革

○平成24年度に3系9課程の教育システムを、4つの系に組換えた。4系という入試の入りは、繊維学部特有な繊維・感性工学に加えて、高校の自然科学基礎科目である物理、化学、生物に対応しており、受験生にとって志望系を選択しやすいメリットがある。第2期中期目標期間の一般入試志願倍率は3.5-4.7倍と安定している。(資料織21) この教育体制に学生は肯定的な見方をしており、卒業時の満足度も高い。(資料織100)

○不断に教育の成果を検証分析し、新たな計画に反映させるしくみが動いている。(資料織46) 平成23年度に学生相談室を設置し効果的な学生指導体制を構築した。(資料織36、織37、織38) その結果、退学者数(12.7名/年度)は第1期(19.3名/年度)に比べて減少した。(資料織96)

以上より、学部の教育活動において質の向上があったと判断する。

事例2 グローバル化に向けた英語教育の充実

○理系技術者に必要な実践的英語を身につけさせるため、TOEICスコアを指標とした学部独自の英語教育プログラムを構築し、平成23年度より学生の英語力とその向上度を客観的に評価し、英語授業の改善に活かすPDCAサイクルを確立した。(資料織67)

○平成23年度よりTOEICスコアの高い学生にインセンティブを与え、さらに能力を高めるしくみ(特別クラスの設置、学部長表彰)を導入した。(資料織67)

以上より、学生がグローバル社会に適応するため、英語の重要性を認識させ学習に取り組ませる教育体制を構築したことから質の向上があったと判断する。

事例3 海外交流協定校の開拓と学生の海外派遣支援提携校数

○海外の繊維・ファイバー工学分野の有力大学と交流協定を結び、提携校数は第1期最終年度の37から63に増加した。(資料織68)

○留学希望の学生を支援する体制を整備したことにより、海外派遣学生数が第1期期間の数名から第2期は55名と大幅に増加した。(資料織71)

以上より、学生の海外派遣機会を拡大し、派遣者数を増加させたことから質の向上があったと判断する。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

事例1 安定した高い就職率

○就職委員会を中心とした就職支援活動により、就職希望者の就職率は96%(第1期)から100%(第2期)と増大した。(資料織109)

以上より、在学生の就職に対する期待に応えたことから質の向上があったと判断する。